

落合Ⅱ遺跡2・平塚遺跡2 三本木Ⅱ遺跡2・三本木Ⅲ遺跡2

—鷺宮物流団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2016

群馬県安中市教育委員会



三本木II遺跡 全景（南西より）



三本木II遺跡 古代道路（東より）

図解 2



三本木Ⅱ遺跡 繩文時代前期前半の集落と古代道路



三本木Ⅲ遺跡 古代集落（竪穴住居址群と大形掘立柱建物群）

序

安中市の南部に位置する鷺宮地区は、群馬県の名産であるコンニャクを中心とした畑地が広がり、妙義山を正面に望む景観豊かな農業地帯にあります。本地区のある横野台地の中には、これまでの土地改良事業、工業団地造成、道路建設といった大規模開発に伴う発掘調査によって、旧石器時代から平安時代に至るまでの遺跡が多数眠っていることが分かりました。

今回の発掘調査は、安中市土地開発公社によって群馬県養蚕試験場跡地を工業団地とする計画に伴うもので、落合Ⅱ遺跡、三本木Ⅱ遺跡、三本木Ⅲ遺跡、平塚遺跡の4遺跡が対象となりました。同一区域は平成6年度に安中市教育委員会による本調査が実施され、縄文時代前期・奈良・平安時代の遺構、遺物を多数確認し、集落の存在が明らかとなりました。また、古墳等が発見され、露出したものを含め古墳群が形成されていたことも明らかとなりました。

平成25年度の発掘調査では、前回の開発区域の10ha全てが対象となり、これまでもない大規模な調査面積となりました。発掘調査では、縄文時代前期前半・奈良・平安時代のムラの姿とともに新たな直線道路が発見され、西横野地区に引き続き、この地域にも道路が通過していた可能性が明らかとなりました。

本書は、これらの発掘調査の成果をまとめた報告書です。本報告が、学術分野に寄与するだけではなく、地域を学ぶ郷土資料として活用されることを願ってやみません。

最後に、調査にご協力いただいた方々、過酷な気象条件の下で発掘調査に従事していただいた方々をはじめとする各関係機関の皆様には感謝申し上げる次第です。

平成28年3月

安中市教育委員会
教育長 桑原 幸正

例　　言

- 1 本書は、安中市土地開発公社が計画した鷦宮物流団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。また、平成24年度に実施した市道拡幅工事に伴う確認調査の成果を掲載した。
なお、報告書名は、平成7年度に刊行された報告書と区別するため、遺跡名にそれぞれ「2」を付した。
- 2 本書は、本編（遺構・遺物本文編）とデータ編（添付DVD、付図・遺物観察表・写真図版）で構成される。
- 3 調査した遺跡の略称と所在地は下記のとおりである。

落合Ⅱ遺跡（遺跡略称G－23A）	安中市鷦宮字三本木・落合　地内
三本木Ⅱ遺跡D・E区（遺跡略称G－23G）	安中市鷦宮字三本木　地内
三本木Ⅲ遺跡（遺跡略称G－23H）	安中市鷦宮字三本木　地内
平塚遺跡（遺跡略称G－23I）	安中市鷦宮字平塚　地内
- 4 発掘調査並びに資料整理・報告書作成は、安中市土地開発公社からの委託金により実施した。
- 5 確認調査は平成24年度（平成25年3月11日～3月29日）に実施した。また、市道拡幅に伴う確認調査は平成25年2月14・20日に実施した。発掘調査は、平成25年度（平成25年4月1日～9月27日）に実施した。
- 6 資料整理は、平成25年度（発掘調査終了後平成25年10月1日～平成26年3月31日）、平成26年度（平成26年4月1日～平成27年3月31日）に実施した。報告書作成は平成27年度（平成27年4月1日～平成28年3月31日）に実施した。
- 7 確認調査及び発掘調査は、安中市教育委員会が直営で実施し、文化財保護課埋蔵文化財係（平成24年度：学習の森文化財係、平成25年度：学習の森発掘調査係）主査（文化財保護主事）井上慎也が担当し、有限会社毛野考古学研究所との調査管理委託業務に基づき、高橋清文が調査員として従事した。資料整理及び報告書作成については、井上が担当し、報告書作成・編集の一部については有限会社毛野考古学研究所へ委託した。
- 8 資料整理全般の総括は井上が行い、高橋が補佐した。作業分担は以下のとおりである。

図面整理及び版下作成、データ編集：	大月圭子、町田千明、大手啓子
遺物整理：	井上、大手、田川真知、高澤はつ江、多胡茂子、高橋清文（縄文土器）
遺物実測・観察表他：	有限会社毛野考古学研究所（縄文土器）、株式会社甲セオリツ（古代土器）、井上（縄文石器・石製品、鉄製品他）、田川、大手、多胡（縄文土器）
遺物写真撮影：	有限会社毛野考古学研究所（委託分）、井上（土器、石器等の補遺分）
写真整理：	高橋、大手、町田、田川（遺構写真図版、データ編集）
報告書作成：	井上、大月、町田、大手、有限会社毛野考古学研究所
- 9 本書の編集は、井上・高橋が行った。本文執筆は、担当部分の文末に執筆者を記載した。
- 10 遺構写真の撮影は、高橋、井上が行った。遺跡の航空写真撮影は株式会社測研、遺構実測用写真撮影は、株式会社大成測量にそれぞれ委託した。遺物写真は、縄文時代の大形石器（石皿、台石、多孔石）を除き、有限会社毛野考古学研究所に委託して行った。
- 11 基準杭測量、グリッドの設定、調査区平面図作成は、よしだに委託して行った。

- 12 自然科学分析（炭化材樹種及び年代測定、黒曜石産地推定）は、株式会社パレオ・ラボに委託して行った。
- 13 発掘調査の記録、出土遺物は安中市教育委員会が保管している。
- 14 発掘調査及び遺物整理の期間中に次の方々からご指導、ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します（敬称略・順不同）。
- 谷藤保彦 倉石広太 齋藤 準 渡谷昌彦 鈴木徳雄 関根慎二 片野雄介 水田雅美 坂爪久純
木下雅康 高島英之 笹森健一 早田 勉 日沖剛史 長井正欣 有山経世 井上 太 建石 徹
津金澤吉茂 佐野亨介 清水 司

凡　例

- 1 遺構の実測図は、住居址・土坑・他遺構1/80、遺構微細図・断面図の一部1/40、掘立柱建物址1/80、道路状遺構1/200（平面）・1/100（断面）、溝1/200（平面）・1/100（断面）を基本とした。なお、全体図、遺構配置図等の図面については、遺構の大きさにあわせて任意のスケールとした。
- 2 遺構図中の北マークは座標北である。なお、座標は世界測地系を使用した。
本文中で使用した地図は国土地理院発行の地形図「富岡」(1/50000)、安中市都市計画地図(1/5000)、工事用設計図、平成6年度調査図面である。
- 3 遺物実測図の縮尺は次のとおりである。
- 土器：1/3（縄文）、1/4（縄文・古代）、1/6（古代）
土製品：2/3、1/2
縄文石器：1/2・2/3（A・B・F類）、1/4（A～E類）、1/8（C・D類大形）
鉄製品・金銅製品：2/3、1/2
古代石器・石製品：1/2、1/3、1/4
- 4 遺物実測図にあるマークの凡例は次のとおりである。
石器のトーンは、被熱範囲（B類）、使用痕範囲（C類）を示す。破線は使用痕範囲を示す。
縄文土器断面図にある●印は、織維混入を示す。
古代土器の●印は、還元焰の須恵器を示す。
- 5 土層説明中での記号、略称は次のとおりである。
- 土層名称及び量の基準：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）による。
色調＜：より明るい方向を示す（暗く明）
しまり、粘性 ◎：あり ○：ややあり △：あまりない ×：なし
混入物の量 ○：大量（30～50%） ○：多量（15～25%） △：少量（5～10%）
※：若干（1～3%）
- 混入物 R P：ローム粒子（溶け込んだ状態） R B：ロームブロック（固まりの状態）
Y P：板鼻黄色軽石（A s-Y P）
- 6 本文・図面で示す火山灰の名称は、以下の記号を用いた。
浅間A軽石=A s-A 浅間B軽石=A s-B 浅間C軽石=A s-C

7 本事業区域は、平成6年度に群馬県教育委員会及び安中市教育委員会が群馬県人工飼料センター建設に伴って確認調査を実施し、その成果をもとに安中市教育委員会が主体となって発掘調査を行っている。したがって、遺跡名については、平成6年度に調査された遺跡との整合性を図るために同一名称とし、調査区、遺構番号等は、前回の続き番号を付けた。

8 遺構略称

J : 繩文住居 H : 古代住居 D : 土坑 S : 集石・配石 M : 溝 P : ピット T : 竪穴状遺構
HT : 掘立柱建物 K : 古墳 SF : 不明遺構 SU : トンネル状(巣穴状)遺構

9 遺物写真(写真図版及び写真データ画像)の縮尺は任意の大きさである。

10 住居主軸は、住居址の長辺方向を基本としたが、竈、炉の位置によって短辺方向としたものもある。主軸方位は北を基準として方位を示した。

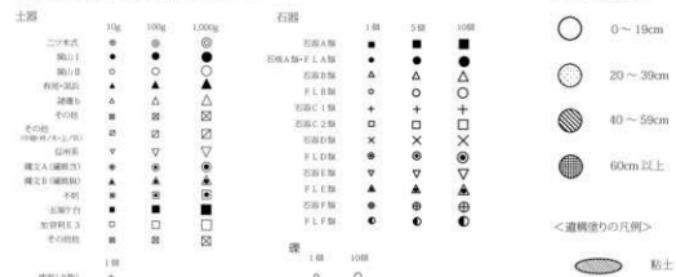
11 時代・時期区分

縄文時代：集落、遺構等の時期として前半・後半に大別し、土器型式では、前葉、中葉、後葉に3細分した。

奈良・平安時代：両時代を括る場合、遺構時期が判然としない場合は、「古代」の用語を使用した。土器の型式年代については、25年(四半世紀)を単位基本とした。

12 遺構実測図のマーク、トーンは次のとおりである。

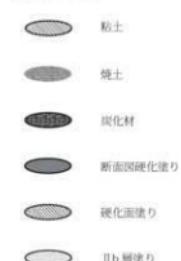
<縄文時代 遺物重量分布図・遺物分布図マーク>



<ピットの深さ>



<遺構塗りの凡例>



<古代 遺物重量分布図・遺物分布図マーク>



目 次

口絵	
序	
例言	
凡例	
目次	
Ⅰ 調査の経緯	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の経過	2
Ⅱ 調査の方法	4
1. 発掘調査の方法	4
2. 資料整理の方法	8
Ⅲ 遺跡の地理的・歴史的環境	12
1. 地理的環境	12
2. 歴史的環境	13
3. 屑序	17
Ⅳ 遺跡群の概要	19
Ⅴ 遺跡各説	21
1. 落合Ⅱ遺跡	21
(1) 平成24年度確認調査	21
(2) 平成25年度調査	21
2. 三本木Ⅱ遺跡	23
(1) 概要	23
(2) 縄文時代の遺構	24
(3) 古代の遺構	124
3. 三本木Ⅲ遺跡	134
(1) 概要	134
(2) 古代の遺構	134
4. 平塚遺跡	175
(1) 概要	175
(2) 古墳時代の遺構	175
遺構観察表	182
VI 出土遺物	188
1. 縄文土器	188
2. 縄文時代の土製品	190
3. 縄文時代の石器	226
4. 土師器・須恵器、その他の土器	293
5. 金銅・鉄製品	294
6. 古代の石器・石製品	294
7. 土器観察表	312
VII 成果と問題点	327
1. 縄文時代前期前葉の住居址について	327
2. 横野台地における関山式期の集落について	332
3. 三本木Ⅲ遺跡の古代土器について	335
4. 古代の集落と道路について	339
VIII 自然科学分析	343
1. 三本木Ⅱ・Ⅲ遺跡出土の炭化材樹種同定	343
2. 三本木Ⅱ遺跡出土の炭化材放射性炭素年代測定	348
3. 三本木Ⅱ遺跡出土の黒曜石産地分析	352
写真図版 1～14	
抄録	
データ編 (添付DVD)	
1. 付図	
2. 遺物観察表	
3. 写真図版	

挿図目次

第 1図 位置図(1/50000国土地理院「富岡」)	1
第 2図 年度別調査区位置図	3
第 3図 調査区・グリッド設定図	6
第 4図 安中市地形図	12
第 5図 周辺道路分布図	14
第 6図 基本上層柱状図	18
第 7図 落合・落合Ⅱ・三本木Ⅱ・三本木Ⅲ・平塚道路 全体図	20
第 8図 落合Ⅱ道路構成測定図	22
第 9図 三本木Ⅱ道路調査区全体図	25
第10図 三本木Ⅱ道路構配図(1)	27
第11図 三本木Ⅱ道路構配図(2)	28
第12図 三本木Ⅱ道路構配図(3)	29
第13図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 6号住居址実測図(1)	32
第14図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 6号住居址実測図(2)	33
第15図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 7号住居址実測図	34
第16図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 8号住居址実測図(1)	35
第17図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 8号住居址実測図(2)	36
第18図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 9号住居址実測図(1)	37
第19図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 9号住居址実測図(2)	38
第20図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 10号住居址実測図(1)	39
第21図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 10号住居址実測図(2)	40
第22図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 11号住居址実測図(1)	41
第23図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 11号住居址実測図(2)	42
第24図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 12・16号住居址 実測図(1)	43
第25図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 12・16号住居址 実測図(2)	44
第26図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 12・16号住居址 実測図(3)	45
第27図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 13号住居址実測図(1)	46
第28図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 13号住居址実測図(2)	47
第29図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 14号住居址実測図(1)	48
第30図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 14号住居址実測図(2)	49
第31図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 15号住居址実測図	50
第32図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 17号住居址実測図(1)	51
第33図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 17号住居址実測団(2)	52
第34図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 18号住居址実測団(1)	53
第35図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 18号住居址実測団(2)	54
第36図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 18号住居址実測団(3)	55
第37図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 19号住居址実測団(1)	56
第38図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 19号住居址実測団(2)	57
第39図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 20号住居址実測団(1)	58
第40図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 20号住居址実測団(2)	59
第41図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 21号住居址実測団	60
第42図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 22号住居址実測団	61
第43図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 23号住居址実測団(1)	62
第44図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 23号住居址実測団(2)	63
第45図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 24号住居址実測団	64
第46図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 25号住居址実測団(1)	65
第47図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 25号住居址実測団(2)	66
第48図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 26号住居址実測団(1)	67
第49図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 26号住居址実測団(2)	68
第50図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 27号住居址実測団(1)	69
第51図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 27号住居址実測団(2)	70
第52図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 28・31・32号住居址 実測図(1)	71
第53図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 28・31・32号住居址 実測図(2)	72
第54図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 28・31・32号住居址 実測図(3)	73
第55図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 29号住居址実測図(1)	74
第56図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 29号住居址実測団(2)	75
第57図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 30号住居址実測団(1)	76
第58図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 30号住居址実測団(2)	77
第59図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 33・34号住居址 実測図(1)	78
第60図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 33・34号住居址 実測図(2)	79
第61図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 35号住居址実測団	80
第62図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 36号住居址実測団(1)	81
第63図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 36号住居址実測団(2)	82
第64図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 37号住居址実測団(1)	83
第65図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 37号住居址実測団(2)	84
第66図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 38号住居址実測団	85
第67図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 39号住居址実測団(1)	86
第68図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 39号住居址実測団(2)	87
第69図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 40号住居址実測団	88
第70図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 41号住居址実測団	89
第71図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 42号住居址実測団	90
第72図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 43号住居址実測団(1)	91
第73図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 43号住居址実測団(2)	92
第74図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 44号住居址実測団(1)	93
第75図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 44号住居址実測団(2)	94
第76図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 45号住居址実測団(1)	95
第77図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 45号住居址実測団(2)	96
第78図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 46号住居址実測団(1)	97
第79図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 46号住居址実測団(2)	98
第80図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 47号住居址実測団(1)	99
第81図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 47号住居址実測団(2)	100
第82図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 48号住居址実測団	101
第83図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 49号住居址実測団	102
第84図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 50号住居址実測団(1)	103
第85図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 50号住居址実測団(2)	104
第86図 三本木Ⅱ道路(縦文)J - 51号住居址実測団	105
第87図 三本木Ⅱ道路(縦文)堅穴道構造・集石 実測図(1)	107
第88図 三本木Ⅱ道路(縦文)集石実測団(2)	108
第89図 三本木Ⅱ道路(縦文)集石実測団(3)	109
第90図 三本木Ⅱ道路(縦文)集石実測団(4)	110
第91図 三本木Ⅱ道路(縦文)U - 1・P - 1・2号道構 実測団	111
第92図 三本木Ⅱ道路(縦文)上坑実測団(1)	113
第93図 三本木Ⅱ道路(縦文)上坑実測団(2)	114
第94図 三本木Ⅱ道路(縦文)上坑実測団(3)	115
第95図 三本木Ⅱ道路(縦文)上坑実測団(4)	116
第96図 三本木Ⅱ道路(縦文)上坑実測団(5)	117
第97図 三本木Ⅱ道路(縦文)上坑実測団(6)	118
第98図 三本木Ⅱ道路(縦文)上坑実測団(7)	119
第99図 三本木Ⅱ道路(縦文)上坑実測団(8)	120
第100図 三本木Ⅱ道路(縦文)S U - 1号道構実測団(1)	122
第101図 三本木Ⅱ道路(縦文)S U - 1号道構実測団(2)	123
第102図 三本木Ⅱ道路古代道構配図(南側調査区)	125
第103図 三本木Ⅱ道路(古代)H - 6号住居址実測団	126
第104図 三本木Ⅱ道路(古代)集石実測団	127
第105図 三本木Ⅱ道路(古代)溝・土坑調査団	128
第106図 三本木Ⅱ道路(古代)道路状構実測団(1)	130
第107図 三本木Ⅱ道路(古代)道路状構実測団(2)	131
第108図 三本木Ⅱ道路(古代)道路状構実測団(3)	132
第109図 三本木Ⅱ道路(古代)道路状構実測団(4)	133
第110図 三本木Ⅱ道路構配図(北側調査区)	135
第111図 三本木Ⅱ道路(古代)H - 7号住居址実測団(1)	138
第112図 三本木Ⅱ道路(古代)H - 7号住居址実測団(2)	139
第113図 三本木Ⅱ道路(古代)H - 8号住居址実測団(1)	140
第114図 三本木Ⅱ道路(古代)H - 8号住居址実測団(2)	141
第115図 三本木Ⅱ道路(古代)H - 9号住居址実測団(1)	142
第116図 三本木Ⅱ道路(古代)H - 8・9号住居址実測団	143
第117図 三本木Ⅱ道路(古代)H - 10号住居址実測団	144

第118回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-11号住居址実測図	145
第119回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-12号住居址実測図	146
第120回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-13号住居址実測図	147
第121回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-14号住居址 実測図(1)----- 実測図(2)-----	148 149
第122回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-14号住居址 実測図(2)-----	149
第123回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-15号住居址実測図	150
第124回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-15・17号住居址 実測図-----	151
第125回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-16号住居址 実測図(1)-----	152
第126回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-16号住居址 実測図(2)-----	153
第127回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-18号住居址実測図	154
第128回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-19号住居址実測図	155
第129回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-20号住居址 実測図(1)-----	156
第130回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-20号住居址 実測図(2)-----	157
第131回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-21号住居址 実測図(1)-----	158
第132回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-21号住居址 実測図(2)-----	159
第133回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-22号住居址 実測図(1)-----	160
第134回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-22号住居址 実測図(2)-----	161
第135回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-22号住居址 実測図(3)-----	162
第136回	三本木Ⅲ遺跡(古代)H-23号住居址実測図	163
第137回	三本木Ⅲ遺跡(古代)擬立柱建物址配置図	164
第138回	三本木Ⅲ遺跡(古代)HT-2・3号擬立柱建物址 実測図-----	165
第139回	三本木Ⅲ遺跡(古代)HT-4・5号擬立柱建物址 実測図-----	166
第140回	三本木Ⅲ遺跡(古代)HT-6・7号擬立柱建物址 実測図-----	167
第141回	三本木Ⅲ遺跡(古代)HT-8・9号擬立柱建物址 実測図-----	168
第142回	三本木Ⅲ遺跡(古代)擬立柱建物址柱穴配置図	169
第143回	三本木Ⅲ遺跡(古代)穴形状遺構・SF-1号遺構 実測図-----	170
第144回	三本木Ⅲ遺跡(古代)上坑実測図-----	171
第145回	三本木Ⅲ遺跡(古代)満塗実測図(1)-----	172
第146回	三本木Ⅲ遺跡(古代)満塗実測図(2)-----	173
第147回	三本木Ⅲ遺跡(古代)満塗実測図(3)-----	174
第148回	平塚遺跡遺構配置図-----	176
第149回	平塚遺跡K-3号古墳実測図-----	177
第150回	平塚遺跡K-4・5号古墳実測図(1)-----	178
第151回	平塚遺跡K-4・5号古墳実測図(2)-----	179
第152回	平塚遺跡K-4・5号古墳実測図(3)-----	180
第153回	平塚遺跡K-4・5号古墳実測図(4)-----	181
第154回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-6・7・8号住居址 出土土器-----	191
第155回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-8・9号住居址 出土土器-----	192
第156回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-9・10号住居址 出土土器-----	193
第157回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-11号住居址 出土土器(1)-----	194
第158回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-11号住居址 出土土器(2)-----	195
第159回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-12・13・16号住居址 出土土器-----	196
第160回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-14・15・17号住居址 出土土器-----	197
第161回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-17・18号住居址 出土土器-----	198
第162回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-18号住居址出土土器-----	199
第163回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-18号住居址出土土器-----	200
第164回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-19号住居址出土土器-----	201
第165回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-20・21・22号住居址 出土土器-----	202
第166回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-22・23号住居址 出土土器-----	203
第167回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-24・25・26号住居址 出土土器-----	204
第168回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-26号住居址出土土器-----	205
第169回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-27号住居址出土土器-----	206
第170回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-27・28号住居址 出土土器-----	207
第171回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-29・30・31・33号住居址 出土土器-----	208
第172回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-33号住居址出土土器-----	209
第173回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-35号住居址出土土器-----	210
第174回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-35・36・37・38号住居址 出土土器-----	211
第175回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-38号住居址出土土器-----	212
第176回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-39・40・41号住居址 出土土器-----	213
第177回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-42・43号住居址 出土土器-----	214
第178回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-43号住居址出土土器-----	215
第179回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-43号住居址出土土器-----	216
第180回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-43号住居址出土土器-----	217
第181回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-43・44号住居址 出土土器-----	218
第182回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-44・45・46・47号住居址 出土土器-----	219
第183回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-48・49号住居址 出土土器-----	220
第184回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)J-50・51号住居址・壁穴状 遺構・土坑出土土器-----	221
第185回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)出土土器-----	222
第186回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)土坑出土土器-----	223
第187回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)集石・他遺構・遺構外 出土土器-----	224
第188回	三本木Ⅲ遺跡(縦文)遺構外・三本木Ⅱ遺跡(縦文) 出土土器・土製品-----	225
第189回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)那羅石石器長幅・重量グラフ 出土土器-----	242
第190回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)打製石斧・石匙・B類長幅グラフ 出土土器-----	243
第191回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)出土石器(1)石器 (黒曜石)-----	244
第192回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)出土石器(2)石器 未成品(黒曜石)-----	245
第193回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)出土石器(3)石器未成品・ 石器(黒曜石)-----	246
第194回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)出土石器(4)楔形石器 (黒曜石)-----	247
第195回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)出土石器(5)石逃A類・ スクレイパー・A類(黒曜石)-----	248
第196回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)出土石器(6)スクレイパー A類・B類(黒曜石)-----	249
第197回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)出土石器(7)石核・原石類1 (黒曜石)-----	250
第198回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)出土石器(8)石核・原石類2 (黒曜石)-----	251
第199回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)出土石器(9)石核・原石類3 (黒曜石)-----	252
第200回	三本木Ⅱ遺跡(縦文)出土石器(10)石核・原石類4 (黒曜石)-----	253

第201回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(11)石核・原石類5 (黒曜石)石鏹・石礫未品.....	254
第202回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(12)石鏹・楔形石器255	
第203回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(13)石匙A類.....	256
第204回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(14)スクレイバー A類1.....	257
第205回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(15)スクレイバー A類2.....	258
第206回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(16)スクレイバー A類3.....	259
第207回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(17)石匙B類1.....	260
第208回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(18)石匙B類2.....	261
第209回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(19)石匙B類3.....	262
第210回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(20)石匙B類4.....	263
第211回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(21)石匙B類5.....	264
第212回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(22)石匙B類6.....	265
第213回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(23)打製石斧1.....	266
第214回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(24)打製石斧2.....	267
第215回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(25)打製石斧3.....	268
第216回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(26)打製石斧4.....	269
第217回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(27)打製石斧5.....	270
第218回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(28)打製石斧6.....	271
第219回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(29)打製石斧7.....	272
第220回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(30)打製石斧8.....	273
第221回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(31)スクレイバー B類1.....	274
第222回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(32)スクレイバー B類2.....	275
第223回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(33)スクレイバー B類3.....	276
第224回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(34)スクレイバー B類4.....	277
第225回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(35)スクレイバー B類5.....	278
第226回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(36)スクレイバー B類6.....	279
第227回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(37)石核.....	280
第228回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(38)磨石類1.....	281
第229回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(39)磨石類2.....	282
第230回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(40)磨石類3・門石B	
第231回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(41)門石1.....	283
第232回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(42)門石2.....	285
第233回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(43)石皿1.....	286
第234回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(44)石皿2.....	287
第235回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(45)石皿3.....	288
第236回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(46)敲石・台石.....	289
第237回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(47)砥石.....	290
第238回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(48)棒状鉋・多孔石・ 磨製石斧.....	291
第239回	三本木II遺跡(縄文)出土石器(49)石製品.....	292
第240回	三本木II遺跡(古代)出土土器・平塚遺跡(古代)古墳 出土土器1.....	295
第241回	平塚遺跡(古代)古墳出土土器2.....	296
第242回	三本木III遺跡(古代)H-7・8号住居址出土土器297	
第243回	三本木III遺跡(古代)H-8・9号住居址出土土器298	
第244回	三本木III遺跡(古代)H-10・11・12・13号住居址 出土土器.....	299
第245回	三本木III遺跡(古代)H-14・15号住居址出土土器300	
第246回	三本木III遺跡(古代)H-15・16号住居址出土土器301	
第247回	三本木III遺跡(古代)H-16号住居址出土土器.....	302
第248回	三本木III遺跡(古代)H-16・17・18・19・20号住 居址出土土器.....	303
第249回	三本木III遺跡(古代)H-20号住居址出土土器.....	304
第250回	三本木III遺跡(古代)H-20・21・22号住居址 出土土器.....	305
第251回	三本木III遺跡(古代)H-22・23号住居址・他遺構 出土土器.....	306
第252回	三本木II遺跡・三本木III遺跡・平塚遺跡(古代) 出土鐵製品.....	307
第253回	三本木III遺跡(古代)出土銅製品.....	308
第254回	三本木III遺跡(古代)出土土器・石製品(1).....	309
第255回	三本木III遺跡(古代)出土土器・石製品(2).....	310
第256回	三本木III遺跡(古代)出土土器・石製品(3).....	311
第257回	三本木II遺跡・縄文時代の遺構変遷図.....	328
第258回	三本木II遺跡・縄文時代前期前葉～中葉の 住居址変遷図.....	330
第259回	三本木II遺跡・縄文時代前期前葉～中葉の 住居址炉窯遺跡.....	331
第260回	横野台地とその周辺の開山式期集落分布.....	332
第261回	三本木II遺跡周辺の開山式期集落.....	334
第262回	三本木III遺跡・古代土器編年図(1).....	336
第263回	三本木III遺跡・古代土器編年図(2).....	337
第264回	横野台地西部(舞宮・中野谷・人見地区周辺)の 古代集落と道路.....	341

表 目 次

第1表	縄文時代・石器・石材分類表.....	11
第2表	縄文時代・石器器種分類表.....	11
第3表	周辺遺跡一覧表.....	14
第4表	基本土層説明.....	17
第5表	三本木II遺跡・縄文時代住居址観察表.....	182
第6表	三本木II遺跡・古代住居址観察表.....	184
第7表	三本木II遺跡・古代住居址観察表.....	184
第8表	三本木II遺跡・他遺構観察表.....	185
第9表	三本木III遺跡・他遺構観察表.....	185
第10表	三本木II遺跡・土坑観察表.....	186
第11表	三本木II遺跡・土坑横構造表.....	187
第12表	平塚遺跡・土坑観察表.....	187
第13表	三本木II遺跡・縄文時代石器器種組成表.....	229
第14表	三本木II遺跡・縄文時代石器・石材組成表.....	231
第15表	三本木II遺跡・住居址時期別器種組成表.....	236
第16表	三本木II遺跡・土坑時期別器種組成表.....	236
第17表	三本木II遺跡・住居址時期別石材組成表.....	237
第18表	三本木II遺跡・土坑時期別石材組成表.....	238
第19表	縄文土器・土製品組成表.....	312
第20表	古代土器観察表.....	322

写真図版目次

P L 1	三本木II道路 全景写真(合成)	三本木II道路 無講断面(M-4号溝12区)
P L 2	三本木II道路 開山I・II式期の住居址跡(J-10・11・17号住居址)	P L 7 三本木III道路 S-12号配石
	三本木II道路 J-9号住居址(開山I式期)	三本木III道路 H-7~9号住居址
	三本木II道路 J-9号住居址炉	三本木III道路 H-8号住居址竈
	三本木II道路 J-11号住居址炉	三本木III道路 H-13・14号住居址
	三本木II道路 J-13号住居址炉	三本木III道路 H-14号住居址竈
P L 3	三本木II道路 J-14号住居址(開山II式期)	三本木III道路 H-15・16号住居址
	三本木II道路 J-43号住居址炉	三本木III道路 H-16号住居址竈
	三本木II道路 J-43号住居址炉	三本木III道路 H-21・22号住居址
	三本木II道路 J-43号住居址出入り口施設	三本木III道路 H-23号住居址竈
	三本木II道路 J-23号住居址炉	P L 8 三本木III道路 H T-6・7号掘立柱建物
	三本木II道路 J-27号住居址炉	三本木III道路 S F-1号遺構
P L 4	三本木II道路 J-44号住居址(諸磯b式期)	平塚道路 K-3号古墳
	三本木II道路 J-46号住居址埋設土器	平塚道路 K-3号古墳土体部 D-83号土坑
	三本木II道路 D-56土坑(開山式期)	平塚道路 K-4・5号古墳
	三本木II道路 D-37土坑(諸磯b式期)	P L 9 三本木II道路 始文時代の遺物(1)
	三本木II道路 S U-1号東穴状遺構(諸磯B式期)	P L 10 三本木II道路 始文時代の遺物(2)
P L 5	三本木II道路 古代道路状遺構(西側)	P L 11 三本木II道路 始文時代の遺物(3)
	三本木II道路 古代道路状遺構(東側)	P L 12 三本木II道路 始文時代の遺物(4)
P L 6	三本木II道路 古代道路状遺構確認状況(東側)	P L 13 三本木III道路 古代の遺物
	三本木III道路 古代道路状遺構M-4号溝	P L 14 三本木III道路・平塚道路 古代の遺物
	三本木II道路 側溝断面(M-4号溝1区)	

データ編 (DVD収録データ)

1. 付図

- 付図 1 落合・落合II道路、三本木II・III道路、平塚道路
道路全体図
- 付図 2 落合・落合II道路、三本木II・III道路、平塚道路
遺構配置図
- 付図 3 三本木II道路 始文時代遺構配置図
- 付図 4 三本木II道路 古代道路全体図
- 付図 5 三本木III道路 古代遺構配置図
- 付図 6 三本木III道路 古代遺構時期別配置図
- 付図 7 平塚道路 遺構配置図
- 付図 8 落合・落合II道路、三本木II・III道路、平塚道路
始文時代時期別遺構配置図
- 付図 9 落合・落合II道路、三本木II・III道路、平塚道路
古代遺構配置図

2. 遺物観察表

- 1 始文時代土器重量集計表
- 2 始文時代石器觀察表
- 3 古代銅・鉄製品觀察表
- 4 古代石器・石製品觀察表
- 5 古代土器重量集計表
- 6 始文時代・古代器觀察表
- 7 始文土器属性別分類表

3. 写真図版

- 1 遺構写真図版
- 2 遺物写真図版

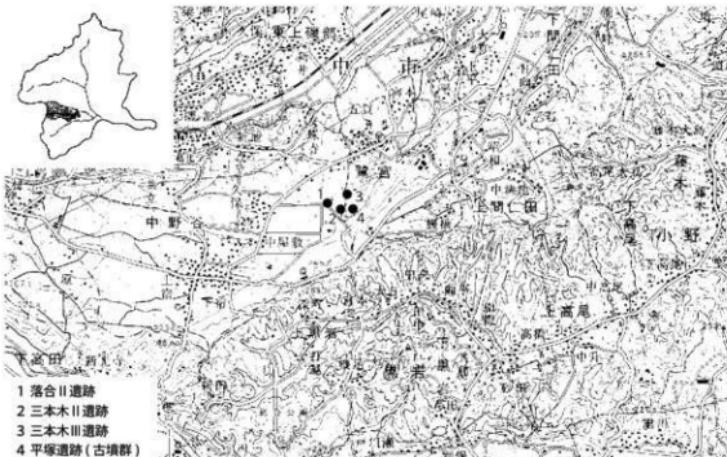
*Excelは米Microsoft社の登録商標。PDFは米Adobe社の登録商標。

I 調査の経緯

1 調査に至る経緯

平成25年2月25日、安中市土地開発公社（以下市公社）が工業団地を予定している安中市鷲宮地区に所在する群馬県人工飼料センター跡地の埋蔵文化財の状況について安中市教育委員会（以下市教委）へ照会があった。また、同日付で必要書類（文化財保護法第94条通知、必要書類）が提出され、同年2月26日、市教委から市公社へ、その取り扱いについて意見書を提出了。該当地は、平成6年度に建物部分の確認調査と道路部分の発掘調査による記録保存を実施し、工事によって影響を被る部分以外は、現状保存の措置が講じられていた。しかし、今回計画された工業団地は、協議を重ねた結果、計画を変更することは現実的には困難な状況であり、工事方法の見直し等によっても、これまで保存された遺構への影響が避けられないことになった。そのため、工事区域内の埋蔵文化財の取り扱いについては、敷地全体の埋蔵文化財の状況を把握する目的とした遺跡の範囲確認調査を実施し、その状況に応じて発掘調査による記録保存の措置を講じることで市公社と調整を進めることになった。同年3月1日、群馬県教育委員会から、法94条に対する「発掘調査」の勧告があり、市公社へ通知した。同日付で、市公社から市教委へ発掘調査の依頼が提出された。同年25年3月4日、市教委から市公社へ発掘調査計画書を提出し、3月11日から29日の間に敷地全体を対象とした確認調査を実施して、平成25年度に本調査、平成26・27年度に資料整理、報告書作成の計画で実施することになった。そして、4月1日付けで市公社と市教委の間で発掘調査委託契約を締結し、市教委の直管で9月27日まで発掘調査を実施した。

（井上）



第1図 位置図 (1/50000 国土地理院「富岡」)

2 調査の経過

本事業に伴う発掘調査は、平成24年度予備調査（確認調査）、平成25年発掘調査及び資料整理、平成26年度資料整理、平成27年度報告作成の4ヶ年計画で実施した。

なお、確認調査・発掘調査では、民間発掘調査会社から調査員の派遣を受けて二人体制で担当し、資料整理・報告書作成の一部については、業務を委託して実施した。

平成24年度の確認調査（予備調査：平成25年3月11日～29日、市道調査：2月14・20日）

確認調査は、約10haの開発面積に対して、平成6年度の確認調査並びに発掘調査の結果をもとに、調査が実施されていない範囲と切り土が中心となる範囲（南側半分）を対象に遺跡の有無とその範囲を把握するためのトレンチ調査を実施した。確認調査の結果、前回調査した範囲よりさらに敷地南東側で新たに縄文時代前期の遺構、遺物が濃密に分布する範囲を確認した。敷地西側の道路に接する斜面部では、現道路下に存在する古墳（落合II遺跡の一部、K-1号墳）等の遺構の続きは確認されなかったが、敷地内で新たに竈をもつ古代の住居址が1軒確認された。この遺構以外には、遺構、遺物が確認されなかったため、確認された住居址を三本木II遺跡の遺構として含めることにした。

三本木II遺跡では、トレンチ調査による調査区の設定後、確認調査と並行して本調査区の一部の表土除去を実施し、作業員による遺構確認を行った。三本木III遺跡については、前回の調査で古代集落が存在することが予想されていたため、開発区域内における遺構、遺物の広がりを把握するためのトレンチ調査を実施し、本調査の範囲を設定した。平塚遺跡については、古墳の存在を予想した範囲を調査対象としたが、調査期間の関係で、平成25年度に確認調査と古墳の本調査を行ふことにした。3月に行つた予備調査の段階では、落合II遺跡、三本木II遺跡、三本木III遺跡、平塚遺跡を対象とした調査予定面積は当初約13,000m²であった（平成25年度本調査で変更）。

なお、予備調査に先行して2月には、市道の拡幅に伴う確認調査を実施した。その結果、平成6年度の落合II遺跡で発見されたK-1号古墳の一部を確認したが、古墳以外の遺構と遺物は検出されなかつた。

平成25年度の本調査（発掘調査：平成25年4月1日～9月27日）

発掘調査は、三本木II遺跡、三本木III遺跡、平塚遺跡の順で進める計画とした。

三本木II遺跡の発掘調査は、建物部分及びその西側部分をD区、東側部分をE区とし、D区の一部から発掘調査を開始したが、工事計画との関係から、途中、東側の調査区（E区）から西側の調査区（D区）へと進めることになった。本調査は、4月1日から表土掘削と遺構精査を開始し、8月末日まで行つた。D区では縄文時代中期の遺構、遺物を中心とした分布であったが、E区では縄文時代前期の遺構、遺物及び古代道路状遺構等を確認した。両区とも確認調査を並行して行い、新たな遺構が発見された場合、遺跡全体が把握できるために可能な限り調査区を拡大し、その結果、当初予定した調査面積を大幅に上回ることになった。

三本木III遺跡の発掘調査は、当初から古代の集落が予想されていたため、集落範囲を把握するための面的調査とトレンチ調査を併用して行った。本調査は、三本木II遺跡の調査と並行して表土掘削から開始し、遺構精査は7月から9月までの間実施した。

平塚遺跡では、三本木II遺跡と隣接する部分で確認された古墳に対しては同時並行で調査を行つた。

第2図 年度別調査区位置図



遺跡全体を対象とした古墳の有無を調べるためのトレンチ調査は、8月から開始し、露出していた古墳を含め前回確認された2基の古墳以外に、新たな3基の古墳の存在を確認した。三本木Ⅲ遺跡と隣接する部分（敷地北西部と道路に隣接するところ）では、中世の溝が1条確認された。本調査は8月から開始し9月に終了した。

なお、三本木Ⅲ遺跡と平塚遺跡の一部（工事区域の北半分）は、工事による影響は少なく、盛土によって遺構の保護層が保てる見通しとなったため、調査を実施した範囲を除き、現状保存の措置とした。

資料整理は、発掘調査と並行及び発掘調査終了後に行い、遺物注記・選別・台帳作成・土器接合・復元等の遺物整理、図面の整理、写真整理等を3月の間まで実施した。

平成26年度の資料整理（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

資料整理は、報告書作成と並行して2ヶ月の計画で実施した。本年度は平成26年4月1日から平成27年3月31日まで遺構図及び出土遺物の基礎整理作業の継続と、遺構挿図・遺物実測図の作成及び報告書版下作成の一部までを行った。遺構図関係の作業は、直営方式としたが、遺物整理のうち、縄文土器の分類・台帳作成、実測・トレースと縄文・古代の土器実測・トレースは専門業者へ委託して実施した。

平成27年度の資料整理・報告書作成（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

報告書作成は、前年度から継続し、11月までに遺構図修正・版下作成、レイアウト、各データの編集、遺物実測・トレースの一部、遺物観察表作成、遺物写真撮影、原稿執筆等を中心に行った。12月以降は、報告書全体の編集を中心に入稿準備を行った。なお、報告書の編集・校正、原稿執筆等の一部については、有限会社毛野考古学研究所に委託して行った。

（井上）

II 調査の方法

1 発掘調査の方法

（1）調査の基本的な流れ

安中市では、発掘調査の効率性を考えた独自の調査方法が確立されており、これによって発掘調査がマニュアル化されている。詳細は、市内で刊行した発掘調査報告書を参照されたい。

発掘調査は、調査対象区域に2m幅のトレンチを設定し、遺跡の有無と遺跡の広がりの確認を行った。その結果をもとに調査区を確定した後、本調査区域に対してバックホー（0.6m³及び0.7m³）で遺構確認面（Ⅲ層下部からⅣ層上面）まで掘削し、人力でジョレンを用いて遺構確認を行った。発見した遺構は、遺構毎に遺構略称と前回調査の続きから各遺跡で遺構毎に通し番号を付けた。構造については、それぞれの精査の手順で進め、「ビニール転写法」を用いて土層堆積図及び微細図作成を行った。土層断面状況及び完掘した遺構は、リバーサルフィルム及び白黒フィルム（各35mm）で写真撮影を行い、記録用にはデジタルカメラによる撮影を行った。遺構の測量は、隨時、デジタル機器によって図化し、図面の出力・校正をして完成させた。各遺跡精査終了後、無線操縦ヘリコプターで全景写真、俯瞰写真撮影を行った。

グリッドについては、事業区域全域に対して100m×100mの大グリッドと4m×4m小グリッドを併用して設定した。小グリッドは、2m×2mの4分割（a、b、c、d）とした。グリッドの呼称は、北西隅を起点とし、北から南へアルファベットでA、B、C…Y、西から東へ算用数字で1、2、3…と4m進法で呼ぶことにした。また、このグリッドの座標値には、国家座標（世界測地系）を取り付けた。

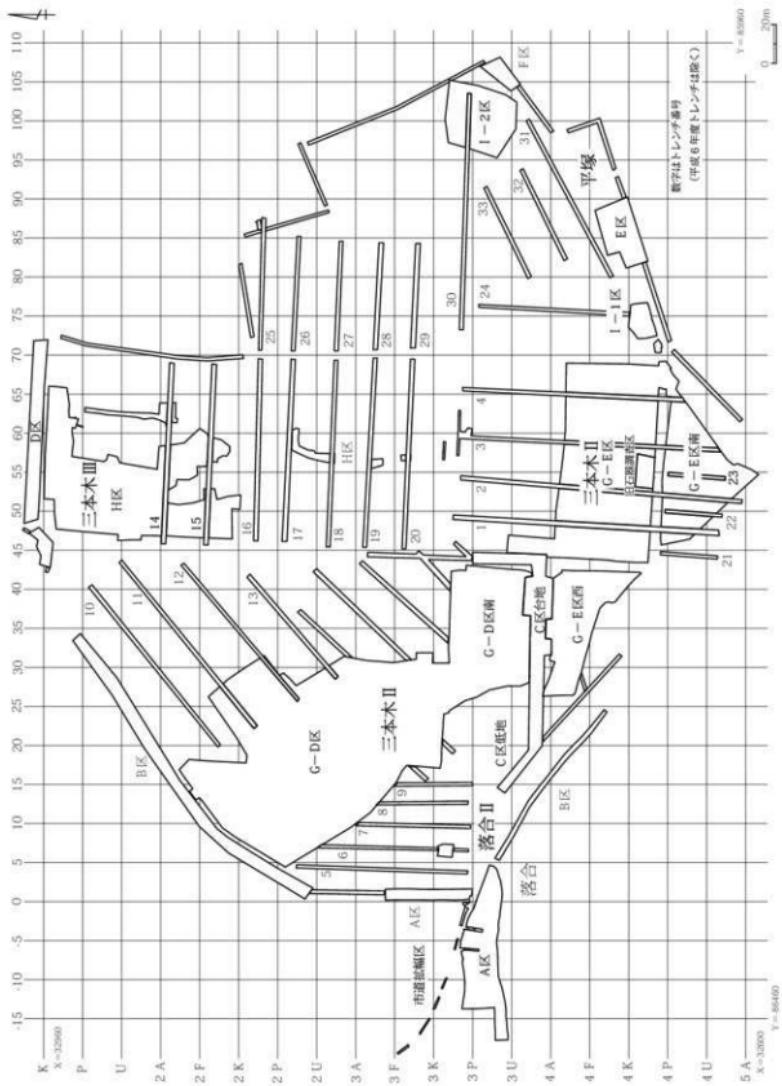
（2）遺構調査の方法

住居址の調査

住居址の調査は、安中市で採用している「分層16分割法」を採用した。住居の時期に關係なく、範囲確認後、住居の南北方向に幅50cmのサブレンチを設定し、土層の堆積状況及び深さを確認しながら床面、壁面の検出を行った。サブレンチ調査によって範囲が確定した後、東西南北の幅20cmのベルト、16分割ポイントの設定を行った。セクションポイントは「赤」、分割ポイントは「黄」の各標識ポイントを使用した。土層断面は、常に陰となるように北面、西日が当たらないよう東面とした。住居址の掘削は、土層の厚さを基準（概ね1～3層に分層）にして、上層から全体を下層及び床面付近の遺物は残して床面まで掘り下げた。上層遺物については、層と区を記録して取り上げ、下層遺物とは區別した。下層の遺物及びベルトとして残した土層堆積（セクション）状況については、写真撮影後、区毎に記録して遺物の取り上げた。土層については、農業用ビニールを使用して原寸大で記録する「ビニール転写法」を行った。その後、層毎にベルトを崩し、床面を精査し、柱穴、貯蔵穴等のピット及び土坑、周溝、炉といった住居付帯遺構の確認作業を行った。検出された遺構（炉、竈、貯蔵穴等）については、半裁（半分にして東側あるいは北側を掘削）により土層堆積を確認し、遺物を残しての精査、写真撮影を基本とした。遺物は層毎に16分割で記録して取り上げ、遺構と関連のある遺物（埋設土器、土坑内、台石・礫等）または重要遺物等については、平面図に位置を記録して取り上げた。柱穴については、底面まで完掘した。竈については、残存部まで掘り下げ、半裁して精査した。各遺構の土層断面及び遺構・遺物微細図については、その都度、デジタルカメラで垂直撮影あるいは「ビニール転写法」を用いて記録した。床面精査、完掘後、全体写真及び各遺構の写真撮影を行った。遺構表記については、縄文時代の住居址は「J」、古墳時代～古代の住居址は「H」等の遺構略称を使用した。遺構と判断したものには、遺構略称と通し番号を付けて遺構の登録・管理を行った。なお、ピットの番号は、遺物が出土した場合に限って番号を付けた。

道路状遺構の調査

三本木II遺跡E区の調査では、調査区全域で確認された2本の平行する古代の溝（北側M-4号溝、南側M-5号溝）について道路状遺構として認識した。すでに確認作業によって調査区内に存在することが予想されたため、北東隅から、約10mの間隔で調査区を設定した（1～17区）。各調査区では、土層断面図を作成した。また、各溝の底面状況及び縦断図作成のため必要に応じてレベルを記録した。遺構の状況は前回の造成工事によりIV層まで削平されていたため、道路面は確認できず、2本の溝も検出できた範囲は限られていた。



第3図 調査区・グリッド設定図

竪穴状遺構、土坑、集石、溝、埋設土器、その他遺構の調査

竪穴状遺構は、大形の土坑で炉のない遺構とした。竪穴住居址との区別が判然としない遺構も含めた。調査は、2分割あるいは4分割し、土層観察用のベルトを残しながら掘り下げた。土坑は、掘り込みのある遺構で、大きさ50cmを目安とした（50cm以下はピット）。名称は、特定の機能を示さないで用いる「土坑」の用語で統一した。土坑は、半裁して北側もしくは東側を精査し、土層断面図を作成した後、残りを完掘した。遺物は出土状況によって覆土一括で取り上げた遺物とそのままの状態にして残す遺物に分けた。集石は、礫の出土状況と掘り込み（掘方）の有無を確認しながら精査した。集石は、「ビニール転写法」によって微細図を作成し、構成される礫については、礫番号を付すものと一括して取り上げるものと分け、石材、重量、破損、被熱等の属性を台帳に記録した。溝は、任意（小規模）または調査区単位で土層観察表のベルトを設定し、精査した。埋設土器は、地面に土器が埋め込まれた遺構とし、縄文時代の「埋甕」を含む。半裁して土器の内側を精査し、外側の堀方、土坑の有無を確認した。平面・断面図ともに「ビニール転写法」を用いた。

その他、性格不明の遺構が検出された場合、範囲確認後、半裁して遺構の状況を精査して、完掘する方法を探った。ピットの番号は、遺物が出土した場合に限って番号を付けた。

古墳の調査

対象区域内の古墳については、前回の調査で落合II遺跡で1基、平塚遺跡で2基確認されている。また、周知の古墳として2基（№1174・1175）が登録されていたが、トレンチ調査では存在を確認できなかつた。平塚遺跡では、前回調査のK-2号古墳の西側に位置して現況で墳丘と確認できる未登録の古墳（後のK-4号古墳）が存在し、トレンチ調査では、この古墳と新たに2基（K-3、5号古墳）の古墳を確認した。しかし、事業区域内では確認した古墳以外の存在は認められなかつた。落合II遺跡で確認された古墳（K-1号古墳）の周溝が、一部、接すると予想される部分について遺構は確認されなかつた。なお、市道の拡幅工事に伴う確認調査では、古墳東側部分の一部を確認した。平塚遺跡で確認されたK-3号古墳は、外周道路に接しているが、前回の調査では確認できていないため未調査である。また、未登録の古墳（K-4号古墳）については、範囲確認調査を実施したところ、周溝に接してさらには1基（K-5号古墳）が存在することを確認した。3基の古墳は、表土を除去したところ、調査以前で墳丘の大部分が削平され、壊れた石室が露出した状態を確認した。K-4号古墳の周溝部分には浅間B軽石の堆積による筋状の範囲を確認できたが、他の2基は削平により確認できなかつた。調査は、まず、古墳の主軸を石室方向から設定し、古墳を4分割した。周溝に対してはベルトを設定し、土層堆積状況を記録した。周溝については、堀方上面と堀方面の二段階で調査し、周溝内の遺物は石室の転石を含めて出土状況を記録した。また、K-4号古墳の周溝内出土の遺物は、微細図を作成し、番号を付けて記録した。撲乱などにより現位置ではないものは、遺物の種類に関係なくその場で記録して取り上げた。石室の調査は、遺構として原位置にあるもの以外は全て除去し、遺存状態を記録した。

旧石器時代の確認調査

対象区域内では、黒曜石製のナイフ形石器（三本木II遺跡）や荒屋型彫器（落合遺跡）等の旧石器が発掘調査で出土していたため、旧石器の存在を意識しながら、ローム層を掘り込む遺構を注意していた。三本木II遺跡では、縄文時代の住居址床面がⅦ層まで達するものが多く確認され、一部でピット内から風化した石器が数点出土した。当初、旧石器の可能性を考え、出土した遺構を中心に旧石器時代の確認調査をB P層上部（Ⅷ層上面）まで行ったが、遺物の出土はみられなかつた。発掘調査終了後、出土し

た石器を再度鑑定した結果、縄文時代の可能性もあると判断し、旧石器の存在を明らかにするまでに至らなかった。なお、旧石器の確認調査では、ローム層内で堆積が乱れる落ち込み状の範囲を断面で確認したが、人為的あるいは自然によるものかは判断がつかず、今後の検討材料としてセクション図と写真で記録した。

遺構測量、遺物記録の方法

遺構平面図：現地での遺構平面図は、デジタル測量によって作成した。各遺構の縮尺は1/40を基本とした。平面図には、レベル値を記録し、ベンチマークとレベルの眼高から遺構の標高を算出できるようにした。遺構の断面図を作成するために必要に応じてレベルを記録し、数値から断面図が復元できるようにした。集石、土坑、埋設土器、竈等の複雑で遺物を伴う遺構については、通常の遺構測量とは別に、デジタルカメラによる垂直（真上）写真撮影で補足測量し、詳細な図面あるいは微細図を作成した。

全体図：デジタル遺構測量をもとに各遺構図をグリッドで貼り合わせて、全体図を作成した。

土層断面図・遺構微細図・遺物分布図：幅2mの農業用ビニールを遺構の断面及び平面にあて、マジックで原寸大に転写する方法で行った（「ビニール転写法」）。転写した図面は、図面台帳を作成し、遺構単位でデジタルカメラによる写真撮影を行い、画像をパソコンに取り込み1/40を基本とした図面データに変換した。

遺物の出土記録：遺構出土の遺物は、遺構単位、層別、分割区毎に取り上げた。遺構外の遺物は、4mグリッドを4再分割（a～d）して取り上げた。また、小規模な遺構の遺物は「覆土一括」として取り上げた。遺物出土量は、収納袋の大きさで相対的量（大量：○、多量：○、少量：△、若干：※）に置き換え、遺物分布状況カードに記録した。

自然科学分析：本遺跡群周辺では、台地上でテフラ・ローム層分析、低地部でプラントオパール分析が多く行われており、周辺の環境復元の参考となっている。また、平成6年度の調査では、平塚遺跡における畠遺構を覆う土層のテフラ分析、三本木II遺跡の縄文時代住居構築材に利用されたイネ科植物の検討及び平塚遺跡の畠遺構のイネ科栽培植物の検討を目的としたプラントオパール分析が行われているため、分析は行わなかった。今回の調査では、縄文時代の住居構築材の同定、土器年代を把握するための炭化物放射性炭素年代測定、黒曜石の産地分析を行った。

（井上）

2 資料整理の方法

（1）整理全体の流れ

今回調査した範囲では、縄文時代前期と古代を主体とする集落、古墳群が確認された。各遺跡は、遺跡毎に主体となる時期、遺構・遺物が分かれていることから、整理作業では、遺構関係は遺跡単位、遺物関係は、時代を単位としてそれぞれの作業を分担して行うこととした。

（2）遺構図面整理の方法

各遺跡の遺構配置全体図を作成し、複合遺跡の場合は時代別遺構配置全体図（付図）を作成した。遺

跡単位で、縄文時代・弥生時代（住居址、集石、竪穴状遺構、土坑、埋設土器）、古墳時代（住居址、竪穴状遺構、古墳、土坑）、古代以降（住居址、土坑、溝）、道路状遺構に分けて遺構挿図、各遺構観察表を作成した。

遺構図：縄文時代以降は各遺構の平面図（住居址の場合、柱穴等ピットの深さをトーンで表現）、土層断面図、遺構断面図（土層断面図が無いものを含む）、遺物分布図（廃棄・遺棄の状況、層位毎の遺物質量を把握するため）、遺構付帯施設（炉、竈、埋設土器等）平面微細図、土層説明表、遺構観察表を作成した。特徴ある遺構（炉・竈内、埋設土器等）については、出土状況の参考に遺物実測を付けた。

住居址：時期は、覆土下層遺物または床面遺構（炉・竈内土器、埋設土器、土坑内等）の遺物によって決定した。覆土遺物の分布図は、層位毎（堆積の変わり目を基準、層厚は目安）に16分割したもので、重量分布（土器）、点数分布（石器、礫、その他遺物）、床面または炉・竈、貯蔵穴等の遺構内遺物出土状況（微細・ドット）のそれぞれを作成した。各遺跡同一基準で縄文時代中期後半、古墳時代の住居分類を行った。

土坑：各遺跡同一基準で平面、断面、覆土から形態分類を行った。上人見遺跡の土坑は、出土遺物の平面・垂直分布図を作成した。

集石：遺構図の他に疊集計を行い、重量グラフを作成した。一部、検出状況と堀方の図面を付けた。

埋設土器：検出状況（平面微細図）と埋設状況（堀方図、土器実測図）を示した。

道路状遺構：2本の溝（M-4・5号溝）で構成される遺構で、3つの挿図に分割した。道路に直交する断面図と各溝の縦断図を作成し、各溝の底面凹凸またはピットが集中する範囲を示した。

（3）遺物整理の方法

出土遺物の整理は、洗浄、選別した後、インクジェットプリンター（ただし、黒曜石及び追加遺物は手書き）を使用して出土位置を注記し、器種分類及び計測・計量を行い、各種遺物観察表及び台帳を作成した。その後、遺物の実測・トレース、遺物写真撮影を行った。土器の復元は、完形個体を優先して行い、樹脂系の材料で修復した。

土器：土器は縄文土器と土師器・須恵器（古墳時代、古代）に大別し、器種毎に分類した。土器は「量」を把握するために重量を区、層毎に記録し、16分割を基本とした分布図のデータとした。

遺構出土のものは、覆土中（1、2層出土遺物）と時期の決め手となる床面直上・下層に区分して、それぞれの一括性のある土器群として捉え、組成を検討した。土器の分類は、破片と復元できる個体に分け、破片については器種毎に重量を記録した。復元できる個体については重量を記録した後、復元率によってランク付け（A～D）を行い、個体台帳を作成し、器種・接合状態、重量を記録した。これによつて遺物の出土量を記録することで、破片の情報も活用でき、遺構全体での遺物の出土傾向が把握できる点で有効性をもつと判断した。土器の実測は、遺構を優先し、遺構の時期が判断でき、一括性のある型式を中心に選別した。遺構外出土の遺物については、遺構出土重複が少ない土器、時期に限定した。実測した土器は、観察表を作成し、本文では、土器群特徴について所見を掲載した。なお、縄文時代前期、古代の土器群については、専門家による考察を掲載した。

石器：縄文時代の石器は、安中市の分類基準に準じ、石器系列、器種系列、石材系列に分けて分類した（第1・2表）。器種が特定できないもの、転用石器等は、別の器種名を備考に並記した。

石材分類は、肉眼観察によって、石材の特徴、石器と石材の関係によって考古学分類を行い、岩石学的細分は行わなかった。なお、本来、学術用語として呼称されるべき「黒曜岩」については、これまでの慣例に従って「黒曜石」とした。

その他遺物：鉄製品は、農具と工具、その他器種に大別した。クリーニングしても錆が除去できず、原型、形態が判別できないものは、器種を特定せずに「鉄製品」として一括した。

（4）写真整理の方法

現地で撮影した写真については、リバーサル（カラー）、白黒、ネガ（カラー）別にフィルムをファイルし、アルバムを作成した。また、デジタルカメラで撮影した遺構写真画像（現地調査及び航空写真）データは、再編集して遺構毎のフォルダを作成した。写真図版は全て画像データとし、保管（保存）・活用を目的として、使用カットは遺構全景、遺構土層堆積状況（セクション）、遺物出土状況のそれぞれのカットを選別して保存した。デジタル画像は全てカラーとした。遺物写真は、全てデジタルカメラによって撮影（委託）し、遺構写真と同様、画像をデジタル化した。遺物写真図版は、単体及び集合写真とし、土器については実測した個体は全て単体で撮影し、一括遺物は集合写真とした。石器については器種別の集合写真とした。

（5）報告の方法

報告書の体裁は、4遺跡を一括しての報告であるため、報告遺構については、各遺跡における発掘調査での確認状況を中心に掲載し、各遺構の属性は表にまとめた。報告遺物については、各時代、遺物の種類毎に遺跡全体を一括して、遺物の特徴を掲載し、土器については本文中に遺物観察表を付けた。

なお、各遺跡及び遺跡全体図、遺構配置図等については付図として、また、データの情報量と活用性的観点から、土器以外の遺物観察表及び各種台帳、遺構・遺物の写真図版については、データ編としてDVDに収録した。（井上）

第1表 銅文時代 石器・石材分類表

名称	固形系別	固形	技術的特徴	石材系別	石材	既報	石材の特徴
打 製 系 列	非圧縮系別 (A類)	石墨 石墨 石墨 石墨 石墨A類 スクレーパーA類(ScA) リタッヂ・フレイクA類(FA) 埋型石墨 剥片A類	調塑に非圧縮を用いる リタッヂ・フレイクA類(FA) 埋型石墨 剥片A類 石墨A類・原石A類	1類 剝離最適系列	黒曜石 チャート 硬質玉岩 珪質玉岩 黒色玉岩 メルカ、碧玉 霞母英、碧玉 碧玉	Ob Cb HSh Kah Ban	硬質で粘度が少ない 割れ難くにも適する 剥離面は施して平滑で、エッジは鋭利
	直接打撃系別 (B類)	石墨 石墨B類 スクレーパーB類(ScB) リタッヂ・フレイクB類(FB)	調塑に直接打撃を用いる スクレーパーB類(ScB) リタッヂ・フレイクB類(FB)	2類 剝離適合系列	貝殻質 黒色貝殻質	Sb BuH	多少軟質でやや粘度がある 割れに適する 剥離面はやや平滑で、エッジはやや鋭利
	剥片A類	剥片B類 石墨B類・原石B類		3a類 剝離不適系列	安山岩類 透灰岩(類) ヒマ、輝石	An Ryn	やや軟質で粘度がある 割れに不適である 割れ面は粗粒でエッジは鋭利でない 耐久性に富む
	形状剥離系列別 (C 1類)	石墨 磨石 石墨 球石	研磨面、研磨面により 石墨と認識できるもの	3b類 剝離不適系列	砂岩(牛乳砂岩) 尾灰岩	SS Tuf	軟質で粘度がない 割れは極めて不適である
	形状非剥離 (C 2類)	石墨 磨石 台石 球石	磨き石(部分研磨石墨)・様石	4類 磨削系別	結晶片岩類	Sc	堅質、軟質の部分があり、堅質はややある 割れで割面に方向性があり、やや不適である 割れ面の粗粒は力方に左右され一貫しない
	井掘式系列 (D類)	石墨 埋型 采石孔石・丸石	直面打撃・敲打・研磨 を複合的に用いる	5類 緻密系別	綠色岩類 蛇紋岩	GGr	緻密質では約的硬質で、粘度もある 割離にあまり適さない
	構築系別 (E類)	石墨 剥片A類	脱脂石墨 剥片A類 石墨A類・原石A類	6類 既報	滑石 蛭石 石墨 等	Sh Rhy Ob	脱脂面は堅柔で、エッジはやや鋭利 比較的稀少な多種多様な石材
	基身系列 (F類)	石墨 透明白 玉類(状況対應等) 外輪石墨					
	剥片A類	剥片A類					

第2表 繩文時代 石器器種分類表

種別	器種	用途	分類基準・特徴		
A類	石墻 石戸	I	凹面積等(細部の違いによりa~g形態に分類)		
		II	平面積等(細部の違いによりa~b形態に分類)		
		III	凸面積等		
		IV	横面積		
		V	縦面積		
	石塀・人塀	I	a: 小形 b: 大形		
		II	彫形		
		III	楕形		
		IV	a: 拝庄別體による精緻な調整 b: 拝庄別體・直接打撃用の調整 c: 織み底ののみを調整		
		V	a: 拝庄別體による精緻な調整 b: 拝庄別體と直接打撃による調整		
スクリエーバーA類	石塀・人塀	I	直接打撃による粗雑な調整		
		II	直接打撃による粗雑な調整		
		III	縁付細部(一辺の1/2以上)		
		IV	縁付細部(一辺の1/2以下)		
		V	内側仕方に取り扱われたもの		
	リタッヂフレイクス類	I	彫形・急曲面		
		II	a: 拝庄別體によるa~c形態に区分		
		III	彫形・加細工・両面磨削・断面レンズ状・両刃		
		IV	a: 拝庄別體を主体とした精緻な調整 b: 拝庄別體主導か、直接打撃による調整		
		V	直接打撃による調整		
B類	打製石斧	I	直接打撃による粗雑な調整		
		II	直接打撃による粗雑な調整		
		III	縁付細部(一辺の1/2以上)		
		IV	縁付細部(一辺の1/2以下)		
		V	内側仕方に取り扱われたもの		
	スクリエーバーB類	I	彫形		
		II	楕形		
		III	a: 拝庄別體による精緻な調整 b: 拝庄別體・直接打撃による調整 c: 織み底のみを調整		
		IV	縁付細部(一辺の1/2以下)		
		V	内側仕方に取り扱われたもの		
石塀・人塀	石塀	I	彫形		
		II	彫門形		
		III	棒状		
		IV	四角形		
		V	不規則		
	リタッヂフレイクス類	I	彫形		
		II	彫門形		
		III	棒状		
		IV	四角形		
		V	不規則		
C類	凹石	I	円形・切り合い・関係は四→四		
		II	円形・四の外		
		III	橢円形・切り合い・関係は四→四		
		IV	橢円形・切り合い・関係は四→四		
		V	橢円形・切り合い・関係は四→四		
	凹石B	I	棒状・四角形		
		II	棒状・四角形		
		III	棒状・四角形		
		IV	棒状・四角形		
		V	棒状・四角形		
C'類	台石 板石	I	円形		
		II	橢円形		
		III	棒状		
		IV	四角形		
		V	不規則		
	風石	I	円形		
		II	橢円形		
		III	棒状		
		IV	四角形		
		V	不規則		
D類	石移	I	加工後有り		
		II	加工後無し		
		III	凹有り		
		IV	凹無し		
		V	内側仕方		
	砂岩	I	小形		
		II	中形		
		III	大型		
		IV	a: 断面圓形		
		V	b: 宮島式		
E類	磨削石斧	I	小形		
		II	中形		
		III	大型		
		IV	a: 断面圓形		
		V	b: 宮島式		
	石頭	I	彫形		
		II	棒状		
		III	四角形		
		IV	不規則		
		V	内側仕方		
F類	石頭	I	彫形・作業面は凹面		
		II	円形・作業面は平凸		
		III	椭円形・作業面は凹面		
		IV	椭円形・作業面は平凸		
		V	不規則・作業面は平凸		
	石頭	I	彫形・作業面は凹面		
		II	円形・作業面は平凸		
		III	椭円形・作業面は凹面		
		IV	椭円形・作業面は平凸		
		V	不規則・作業面は平凸		

III 遺跡の地理的・歴史的環境

1 地理的環境

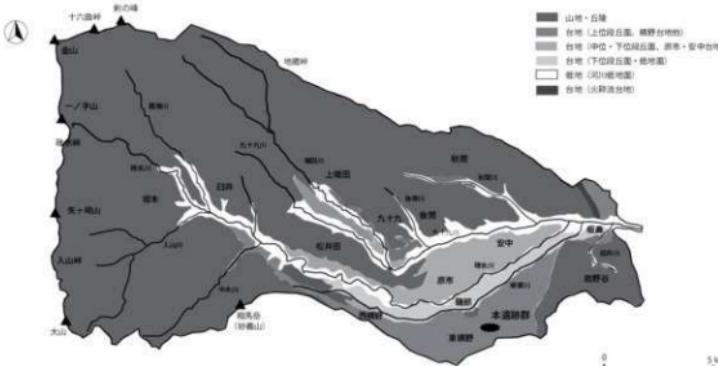
本遺跡群（落合遺跡、落合Ⅱ遺跡、三本木II遺跡、三本木III遺跡、平塚遺跡で構成される）は、碓氷川南岸の上位段丘に立地し、猫沢川と砂押川が合流する地点の沖積地を望む台地に存在する。この台地は、妙義山から東西に細長く延びる起伏が緩い地形で「横野台地」とも呼ばれている。また、横野台地を中心とした地域では、東西で地区が分かれており、西側は西横野地区（旧松井田町）、東側は東横野地区（旧安中市）となっている。平成25年度の発掘調査は、平成6年度に対象とした範囲と同一地点であるため、各遺跡の地理的環境についての詳細は、平成7年度に刊行した発掘調査報告書を参照されたい（市教委1996）。ここでは、報告書の記載に一部加筆して各遺跡について述べることにする。

落合Ⅱ遺跡は、猫沢川沿いに形成された沖積地部分と、南東に隣接する台地にかけての部分にあたる。標高は223～225mであり、沖積地との比高は1～3mである。落合遺跡（昭和63年度調査）は、本遺跡の西側に隣接する。

三本木II遺跡は、落合II遺跡の東側に存在する南北に延びる「馬の背」状の台地の稜線上に位置する。本遺跡群では最高所にあたり、標高は229~232mである。沖積地との比高は7~10mである。三本木II遺跡（総和63年度調査）は、本遺跡の北西約200~300mである。

三本木Ⅲ遺跡は三本木遺跡の北東約100~150mの場所に位置する。微地形をみると、台地の中央に存在する小支谷の北西に位置する。この小支谷は、現在埋没谷となっているが、遺跡が形成された事典では、湧水点が存在していたとみられる。標高は225~228mである。

平塚遺跡台地の南縁部に位置し、標高は228~229mである。遺跡の南側には猫沢川により形成された沖積地が存在し、比高は16mである。(井上)



第4図 安中市地形図

2 歴史的環境

本遺跡群が所在する鷺宮地区の「鷺宮」の地名の由来は、白鳳年間に創建したと伝えられる咲前神社の旧名「先宮明神」と言われている。神社周辺では古代の遺物が多数採集されることから、遺跡が濃密に分布する可能性のある地域として知られている。また、鷺宮地区に隣接する中野谷地区では、これまでの土地改良事業、工業団地造成等による大規模発掘調査によって多数の遺跡が発見されている。

今回の発掘調査では、前回の調査に引き続き、縄文時代前期前葉～中葉の集落、平安時代の集落、古墳時代終末の古墳群の一部を確認し、新たに縄文時代前期後葉・中期初頭・中期後半の集落、奈良時代の集落、律令期～奈良時代の道路跡等が発見された。ここでは、本遺跡群周辺の遺跡について概観する。

旧石器時代の遺跡

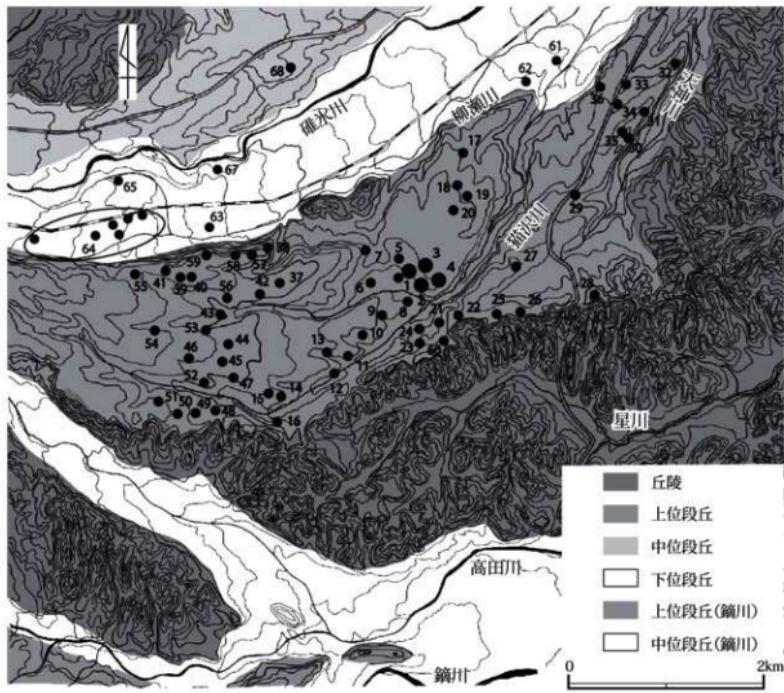
三本木II遺跡（黒曜石製ナイフ形石器）、注連引原II遺跡（黒曜石製槍先形尖頭器）、落合遺跡（荒屋型影器）、中野谷松原遺跡（A T下部のナイフ形石器等）では、単独で石器が出土している。

縄文時代の遺跡

横野台地の東部では、前期の遺跡が多数分布する特徴をもつ地域である。三本木II遺跡と同時期である前期前半の関山式期は、下塚田遺跡、東畠遺跡、谷を挟んで中原遺跡、北下原遺跡、落合原遺跡、さらに南側台地に位置する注連引原II遺跡、吉田原遺跡で小規模集落が確認され、一つの遺跡群を形成している。有尾・黒浜式期から諸磯式期にかけての遺跡は、本台地で最も多く、本地域における拠点的集落の性格をもつ中野谷松原遺跡をはじめとして、大下原遺跡、西向原遺跡、細田遺跡、長谷津遺跡、道前久保遺跡等の大小規模の集落が広範囲で多数分布する。中期では、中期初頭（五領ヶ台式期）で大下原遺跡、加賀塚遺跡等で構造が確認されている。中期後半（加曾利E式期）では、大下原遺跡、西原遺跡、大道南II遺跡、中野谷松原遺跡等が存在する。中期前半の阿玉台・勝坂式期から後半の加曾利E式期まで継続する砂押遺跡、西原遺跡では、拠点的な環状集落の一部が確認されている。中期後半では、加曾利E式期で大下原遺跡、中野谷松原遺跡等で小規模集落、砂押遺跡に隣接する大道南II遺跡では同規模の集落が存在する。中期末から後期初頭、前半にかけてでは、中島遺跡を中心として天神原遺跡、道前久保II遺跡、中野谷松原遺跡、下宿東遺跡等で柄鏡形住居址をもつ集落あるいは列石等の配石遺構が存在する。後期後半以降になると遺跡数は減少し、天神原遺跡で環状列石、配石墓等で構成された墓域が存在する。

弥生時代の遺跡

本遺跡群では確認されなかったが、本遺跡群の南側台地縁辺部では、前期末から中期前半にかけての遺跡が多数存在し、注連引原遺跡群を形成している。注連引原・同II遺跡、大上遺跡では、この時期では数少ない住居址が確認されている。また、落合遺跡、中原遺跡、下原遺跡等では、遺物が出土している。注連引原遺跡群の西方には、前半を主体とする集落が確認された原遺跡、遺物が出土した長谷津遺跡等が存在する。中期後半以降は、低地を望む高台あるいは台地縁辺部に立地する傾向が認められ、長谷津遺跡、加賀塚遺跡で小規模集落が存在するが、台地奥部には遺跡が形成されていない。後期では、中野谷地区では、遺跡が減少するものの、鷺宮・間仁田地区を中心に遺跡数は増加し、上北原遺跡、長谷津遺跡、荒神平・吹上遺跡、諏訪ノ木遺跡等が存在する。



第5図 周辺遺跡分布図

第3表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	田	縄文			弥生			古墳			余良	平安	中世	近世	備考/文献
			草	旱	前	中	後	彌	中	後	前					
1	落合・落合Ⅱ	*			*	*	*		*	*		△	○	○	○	古代遺跡遺構／市教委 1990-1996
2	三本木II	*	△	○	△							○	○			△ 鋼文前期集落、古代道路／市教委 1996
3	三本木Ⅲ					*						○	○	△		△ 古代集落／市教委 1996
4	平塚			*								○				△ 平塚古墳群（貧乏期）／市教委 1996
5	三本木		*	*	*											市教委 1990
6	下塙田		△	*								△	△	△		古墳・古代道路遺構／市教委 1990
7	北東・堤下		○	△								○	○			古墳後期集落／市教委 1991-1993
8	落合原		○													鋼文前期集落／市教委 1990
9	北下原		○									○	○			鋼文前期集落、古代牧区画溝／市教委 1990
10	中原		△	○					*	△		○	○			鋼文前期集落、古代牧区画溝／市教委 1991-1994
11	金井谷II		○	○												鋼文押型文系土器群／市教委 1991-1994
12	下宿東	*		○	△	○			○			○	○			古墳前中期集落、古代牧区画溝／市教委 1991-1993
13	東畠			○	△											鋼文前期集落／市教委 1991-1994
14	細田		○	△						△	○	○	○	○		鋼文前期集落、古代牧区画溝／市教委 1993
15	和久田		*	*						△		○	○			古代牧区画溝、古代集落／市教委 1993
16	東向原		*	*								○	○			市教委 1993
17	荒神平・吹上		△	○	○				○	○	○	○	○			古墳・古代集落／市教委 1995

番号	遺跡名	目	縄文				弥生		古墳				奈良	平安	中世	近世	備考／文献
			草	早	前	中	後	晚	中	後	統	奈良					
18	上ノ久保				○	○			○		○	○	○	○	○	○	古墳～古代集落、世紀遺址・和闌出土／市教委 1998
19	五ヶ												○	△			古代集落／市教委 1998
20	桜林・桜林Ⅱ						△	○				○	○				古代集落／市教委 1998
21	注連引原			○													弥生前～中期集落・市教委 1987
22	注連引原Ⅱ	*		○	*	△	△	○	△	○		○	○	△			弥生前～中期集落・古代牧区画溝／市教委 1988-2003
23	大下原			○	△				○				△				縄文前期集落／市教委 1993
24	古田原			○													市教委 1993
25	大上			○				○	△				△				弥生中期集落／市教委 2003
26	日影			△									△				市教委 2003
27	西原			△	○								△				縄文中期集落／市教委 2010
28	新塚古墳									○							円頂・盤穴式石室。石製模造品／市史 2001
29	道前久保・同Ⅱ		○	○	○							○	○				市史 2001- 市教委 2009
30	日向後原							○				○					古墳前期古墳周壁／市教委 1998
31	野毛良					*			○	○	○	○					古墳集落／市教委 1998
32	山峰			△													市教委 1998
33	下原・資神							○	○	○	○					弥生～古代集落／市教委 2005-2011	
34	祇畠									○	○						古墳集落。石製模造品／市教委 2005
35	祇畠Ⅱ												○				古代集落。石製帶金貝、墨書き土器（「奉」）／市教委 2006
36	諏訪ノ木							○		○	○						弥生・古墳集落／市教委 2005
37	松原	△	*		○	○	○					○	△	△			縄文前期集落／市教委 1996-1998
38	長谷津	*	*	○	*	*		○	○	○	○						弥生中期集落。方形周溝型、弥生軒轅、鐵斧出土／市理文 2012
39	加賀塚			○	○	*	*			○	○		△				古墳集落。石製模造品（桓柱形他）／市教委 2007-2011
40	加賀塚古墳																円墳（東側の6号墳）／市教委 2007
41	原				△												弥生中期集落。古代牧区各溝／市教委 2001-2004
42	天神原			○	○	○	○					○	○				縄文後晩期配石・古代鍛冶工房。ノイロ遺物／市教委 1992-1992-2000-2004
43	中島Ⅰ・Ⅱ			○	○	○			○		○						縄文中期状況集落。古代牧区画溝／市教委 1999-2000-2004
44	砂押Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ					○	○										縄文中期・後期状況。配石。大形石棒採集／市教委 2001-2004
45	大道南・大道南Ⅱ					○	○										古代牧区画溝／市教委 2001-2004
46	上原																古代牧区画溝／市教委 2001-2004
47	上原南																古代牧区画溝／市教委 2000-2004
48	向原Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ					○				○	○	○	○	○			古代集落・牧区画溝／市教委 2002-2004-2007
49	真光寺原																古代牧区画溝／市教委 2002-2002-2004
50	西向原																縄文前中期集落。古代牧区画溝／市教委 2002-2004
51	人見大谷津	*		○	○				○			△	△				古墳前中期集落。古代通路／旧町教委 2002
52	南中島													△			古墳窓／市教委 2002-2004
53	砂押原					○					△						縄文弧張列石・古墳石溝／市教委 2002-2004
54	西砂押																市教委 2004
55	上北原																弥生磨製石器、古代牧区画溝／市教委 2002-2004
56	天神林				□	*											市教委 2004
57	向山																古代牧区画溝／市教委 2012
58	礫部3号墳									○							前方後円墳／市史 2001
59	礫部2号墳									○							円墳・石製模造品／市史 2001
60	注連引原南						*										市史 2001
61	座光寺古墳																方形船・土居・二重堤残存・「尾崎氏」
62	尾崎船跡																方形船・土居・二重堤残存、「尾崎氏」
63	田中田・久保田								○								古墳方形埴輪模造。平安水田／市教委 1998
64	大王寺地区遺跡群				○		○			○	○	○	○	○			(松井田工業用地遺跡、新井寺地区遺跡等、人見北原跡跡地、吉代遺跡等) 中心集落、近世妙義道／市教委 1990-2001-2005、市教委 1991-2005
65	塚原古墳群																十数基の小円墳群／住居跡 1980- 市教委 2011
66	塚ノ久保																円墳・円錐形輪／市教委 1991
67	銀瀬二子塚古墳		*														縄文有孔尖頭器、後期切妻の前方後円墳、盛立式石室、石製模造品（ガラス玉、黒目他）／市教委 2001-2003

<遺跡凡例> ○：大規模な遺跡（集落跡・古墳等） ○：中規模な遺跡（住居址・牧場等） △：小規模な遺跡（土坑・溝等） *：遺物が出土した遺跡

＊文献は発掘調査報告書、市史等の刊行年。市教委は佐佐木由田町。

古墳時代の遺跡

弥生時代終末～古墳時代初頭及び前期では、S字口縁台付甕が出土した荒神平・吹上遺跡、下宿東遺跡が存在する。中期では滑石製模造品の工房址を含む本地域の拠点的集落の性格をもつ加賀塚遺跡が存在する。後期では、原遺跡、長谷津遺跡、北東・堤下遺跡等が存在するが、遺跡数は減少し、規模も小さい。終末期では、今回調査対象となった平塚遺跡に古墳群が分布する（平塚古墳群）。同時期の古墳は、中野谷松原遺跡、加賀塚遺跡で発掘調査により確認されている。東向原遺跡周辺では、現在消滅した古墳を含め少數の古墳が存在する。

奈良・平安時代の遺跡

横野台地には、大溝による「牧」の放牧施設が広範囲に存在するため、集落占地に適した場所であっても、放牧施設内に相当する範囲内には、集落の分布は非常に少ない。集落は放牧施設の外側にまとまって点在する傾向がある。牧に関連する施設（遺構）は、台地を区画する大溝が特徴で、注連引原Ⅱ遺跡、中原遺跡、下塚田遺跡、下宿東遺跡、上宿南遺跡、砂押遺跡、向原Ⅲ遺跡、原遺跡等で確認されている。また、区画内あるいはその周辺には、北東・堤下遺跡（7～8世紀代）、下塚田遺跡（7世紀後半代）、向原Ⅱ・Ⅲ遺跡（8世紀代）、天神原遺跡（8～9世紀代）の鍛冶工房を含む小規模集落が点在する。台地南側にある区画溝の外側では、富岡市下高田上原遺跡、上高田熊野上遺跡等で牧に携わったと考えられる大規模集落（7～9世紀代）が存在する。咲前神社周辺では、7～10世紀代の集落が確認された鷺宮地区遺跡群（上ノ久保遺跡、荒神平・吹上遺跡、桜林・五ヶ遺跡等）が存在する。また、和久田遺跡（9世紀代）、上原遺跡（9～10世紀代）等では、小規模集落が存在する。荒神平・吹上遺跡では、咲前神社との関係をもつ5間以上の大形掘立柱建物址、礎石と考えられる礎列が確認されている。三本木Ⅱ遺跡で確認された道路状遺構は、周辺遺跡では今のところ確認されていない。中野谷・鷺宮地区的低地部分については、広範囲でプランツオパール分析が行われており、中原遺跡等において水田跡の存在が確認されている。また、落合遺跡では、農業用水の貯水を目的とする溜井と推定される遺構が存在する。

中世の遺跡

鷺宮地区には、咲前神社やこの地域を支配した人物との関係が深い上ノ久保館址（上ノ久保遺跡）、尾崎館址、座光寺館址が存在する。上ノ久保館址は、堀で囲まれた1町歩四方（約100mの方形区画）の規模で、堀の法面からは、突き刺さった状態で松鶴鏡（鎌倉時代）が出土した。また、本遺跡周辺では、板碑や五輪塔等が分布する。中原遺跡では、掘立柱建物址、沼地の縁に埋葬された馬の墓坑等が確認されている。

近世の遺跡

三本木Ⅲ遺跡と平塚遺跡では、浅間A軽石に覆われた稻作とムギ類の栽培の可能性がある畠址が遺構として確認されている。また、本地区では、浅間A軽石を埋めた溝状の土坑、あるいはマウンド状の灰掻き山といった天明3年の浅間山噴火による復旧関係の遺構が分布する。

（井上）

3 層序

本遺跡群の基本層序については、平成6年度の調査段階のものを使用した。本遺跡群の立地場所は、天神川に面した南に張り出した台地にあり、南東部が急峻な崖、南西部が緩く傾斜する地形となっている。また、三本木Ⅲ遺跡と平塚遺跡との間には、三本木Ⅱ遺跡で立ち上がる埋没谷が存在する。三本木Ⅱ遺跡が最も標高（約232m）が高く、全体が北東部へ向かって傾斜している。

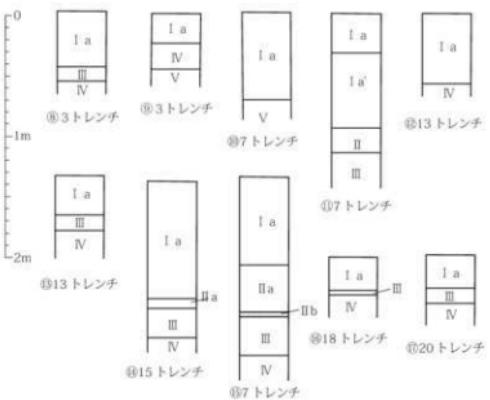
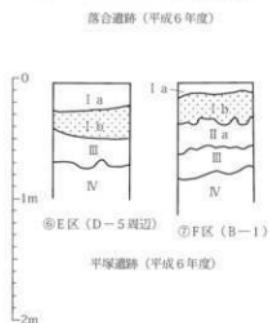
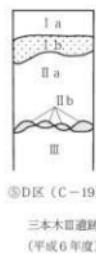
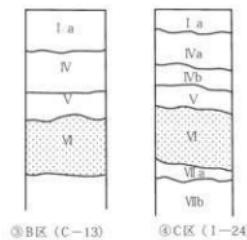
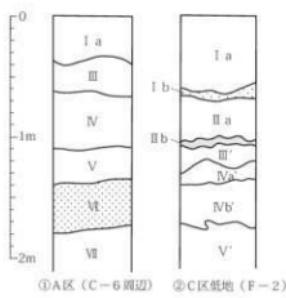
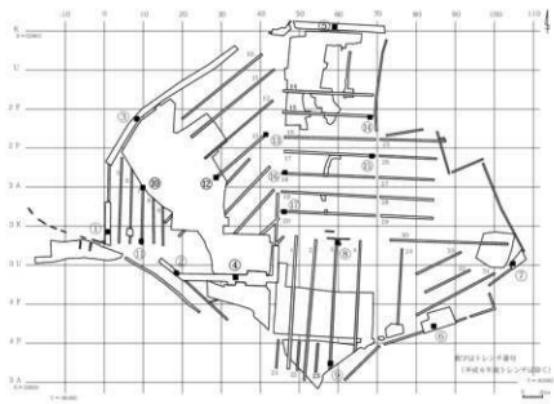
工事対象区域の土層の堆積状況は、三本木Ⅱ遺跡付近では、前回の工事の影響によって、南側斜面部及びその縁辺部はIV～V層までが広範囲で削平されており、黒色土（Ⅲ層）の自然堆積は一部のみの確認であった。三本木Ⅲ遺跡及び平塚遺跡付近では、表土層の搅乱、工事の影響も認められたが、谷地部分を中心に浅間B軽石（Ⅱb層）の堆積を確認し、遺構が確認できるⅢ層以下の堆積は良好であった。

なお、市道拡幅部分では、黒色土が厚く堆積する埋没谷を確認し、落合Ⅱ遺跡の古墳西側では、砂質の土層の堆積を確認した。

遺構確認面は、浅間B軽石に覆われたⅢ層上面を古代の確認面とし、縄文時代の確認面は、遺物包含層の時期により、IV層下部を中期以降、V層を前期とした。平塚遺跡では、古墳を覆うIa層を除去した面を古墳確認面とした。
(井上)

第4表 基本土層説明

層名	色調	湿入物						備考
		しまり	粘性	RP	RB	YP	As-A	
Ia層	黒褐色土層	△	△				○	
Ib層	灰白色軽石層	Ia < Ib	×	×			○	
IIa層	黒色土層	Ib > IIa	△	△			○	As-A純層
IIb層	灰褐色土層	IIa < IIb	×	×			○	As-B純層
III層	暗褐色土層	IIa < III	△	○				
III'層	暗褐色土層	III < IIb	○	○				低地堆積
IVa層	暗褐色土層	Vla < VI	△	○	※	※		
IV層	暗褐色土層	III < IV	○	○	※	※		
IV'a層	暗褐色土層	Vla < III'	○	○				低地堆積
IV'b層	暗褐色土層	Vlb < IV'a	○	○				低地堆積
V層	黄褐色粘質土層	VI < V	○	○	○	○	○	※
V'層	灰黃褐色土層	V' > IV'b	○	○				低地堆積
VI層	黄色軽石層	V < VI	×	×			○	YP純層
VIIa層	明褐色粘質土層	VI < VIIa	○	○				
VIIb層	明褐色粘質土層	VIIa < VIIb	○	○				As-OP I



第6図 基本土層柱状図

IV 遺跡群の概要

昭和63年度の発掘調査

市道建設工事に伴う発掘調査で、道路部分が対象となった。三本木遺跡（G-7）では、時期不明のピットを少数確認し、縄文時代前期前半から後期にかけての遺物が出土した。落合遺跡（G-6B）では、台地の縁辺部で2か所の沼地を中心とするA区で、古墳1基（市No.1174）、古墳時代から平安時代にかけての溜井（湧水坑）7基を確認し、旧石器・縄文・弥生時代の遺物（土器、石器）が出土した。この溜井からは土師器片、須恵器片が出土した。低地部のB区では、平安時代以前の溝が2条確認された（市教委1990）。

平成6年度の発掘調査

群馬県人工飼料センター建設に伴う発掘調査で、敷地内の建物部分と敷地外周道路が対象となった。昭和63年度に調査した落合遺跡に隣接した落合II遺跡（G-23A・C低地）では、縄文時代の陥穴2基、土坑3基、古墳1基（市No.1367）平安時代以前の溝2条を確認し、縄文時代前中期の遺物が出土した。三本木II遺跡（G-23B・C台地）では、B区で竪穴状造構2基、陥穴1基、集石土坑1基、土坑16基、C区で縄文時代前期前半の住居址5軒、土坑2基、集石土坑1基、平安時代の住居址1軒、掘立柱建物址1棟、柱穴群、溝2条を確認し、縄文時代前期前半（関山式期、有尾・黒浜式期）の土器・石器、平安時代の土師器・須恵器が出土した。三本木III遺跡（G-23D）では、平安時代の住居址4軒、柱穴群1か所、中世の溝1条、近世の畠址を確認し、9世紀代の土器・鉄滓が出土した。平塚遺跡（G-23E・F）では、E・F区で古墳各1基（市No.1440・1441）、近世の畠址を確認し、縄文時代前期前半から後半（関山式期、諸磯b式期）の土器・石器、8世紀前半の土師器・須恵器・鉄釘、時期不明の砥石が出土した。なお、両古墳は近世までに削平されていたため『上毛古墳総覧』には記載がない（市教委1997）。

平成24年度の発掘調査

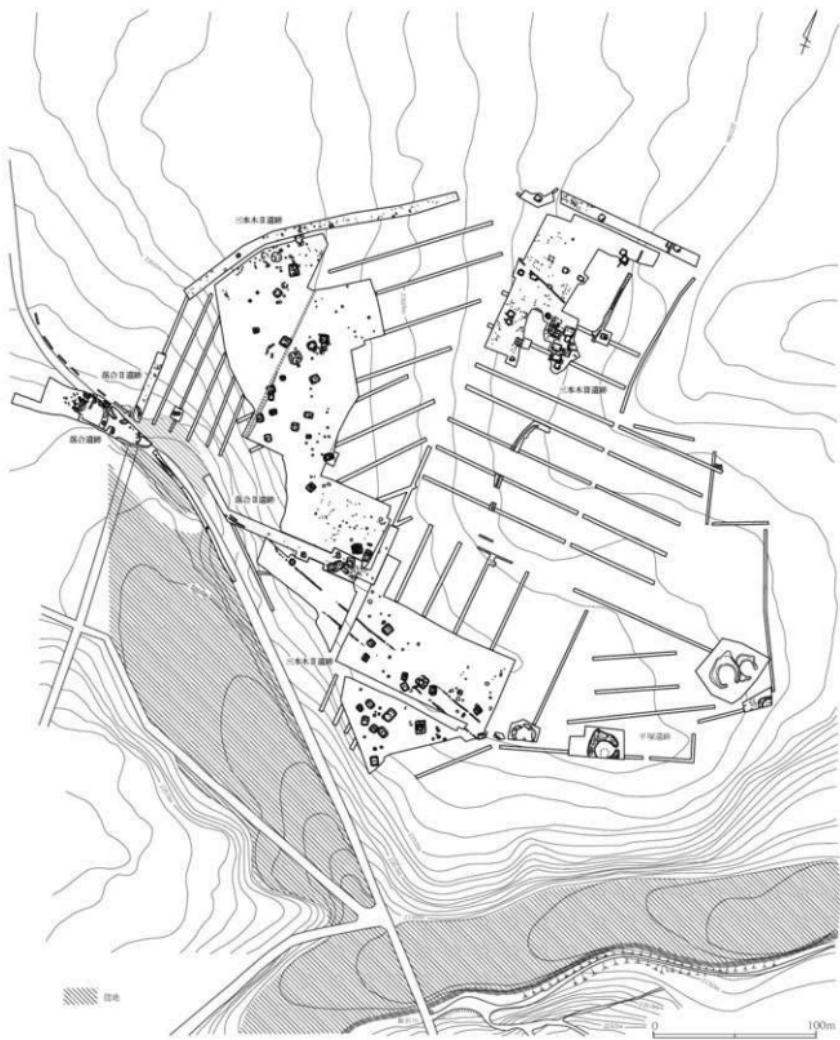
市道拡幅工事に伴う範囲確認調査で、市道片側部分の畠地が対象となった。三本木遺跡内では、遺構、遺物は確認されなかった。落合遺跡内では、落合II遺跡K-1号古墳の一部を確認した。また、黒色土が厚く堆積する埋没谷を確認した。落合遺跡K-1号古墳の遺構については、両古墳は図面上では重複するものの、関連する遺構は確認されなかった。

平成25年度の発掘調査

鷦宮物流団地造成工事に伴う発掘調査で、平成7年度の事業区域が再度対象となった。今回の発掘調査で、敷地内のほぼ全域の遺跡群の様子が明らかとなった。

落合II遺跡の対象範囲は僅かであったため、遺構、遺物は確認されなかった。三本木II遺跡では、縄文時代前期から中期（関山式期、有尾・黒浜式期、諸磯b式期、五領ヶ台式期、加曾利E式期）かけての集落、律令期から奈良時代の直線道路等を確認した。三本木III遺跡では、平安時代（8～9世紀）主体とする大形掘立柱建物群を含む集落を確認した。平塚遺跡では、敷地内で新たに3基の古墳を確認し、古墳群の範囲が明らかとなった。

（井上）



第7図 落合遺跡・落合II遺跡・三本木I遺跡・三本木II遺跡・三本木III遺跡・平塚遺跡全体図

V 遺跡各説

1 落合Ⅱ遺跡

(1) 平成24年度確認調査

物流団地区域の西側で外周道路の取り付け部分及び市道拡幅部分を対象とした確認調査を実施した。調査の結果、平成6年度に発見されたK-1号古墳の西側部分を検出した。本調査区（6トレンチ）では、墳丘は確認されず、古墳に相当する範囲が、砂質層（浅間B軽石か）で覆われた状態であった。周溝と推定される範囲では、明確な落ち込みは確認できず、石室の蝶が散乱する状態であった。土層の堆積状態から、12世紀以前には、古墳は削平された可能性が考えられる。

確認された古墳は、市№1367古墳（落合Ⅱ遺跡K-1号墳）として市の遺跡台帳に登録されている。また、この古墳の南側に隣接して発掘調査で確認された市№1174古墳（落合遺跡K-1号墳）が存在する。両古墳の位置は、図面上では互いに近接して存在するが、昭和63年度と平成6年度の調査では、それぞれの古墳に関連する遺構は確認されなかった。本年度の調査では、5トレンチが落合遺跡K-1号古墳の推定される周溝部分に相当するが、Ⅲ層が厚く堆積する自然層の堆積であり、遺構は確認されなかった。また、Ⅲ層を覆うようにして砂質層が広範囲に堆積していたことを確認した。平成22年度に作成した市遺跡台帳では、両古墳が近接することから同一古墳として登録したが、今回の発掘調査によって再度位置を図面、写真等で確認したところ、互いの遺構は別々である可能性があると判断したが、落合遺跡K-1号墳で検出された周溝等の遺構は、古墳の遺構ではない可能性が考えられる（低地に沿っているので溜井に関連する掘削途中の遺構の可能性が考えられる）。

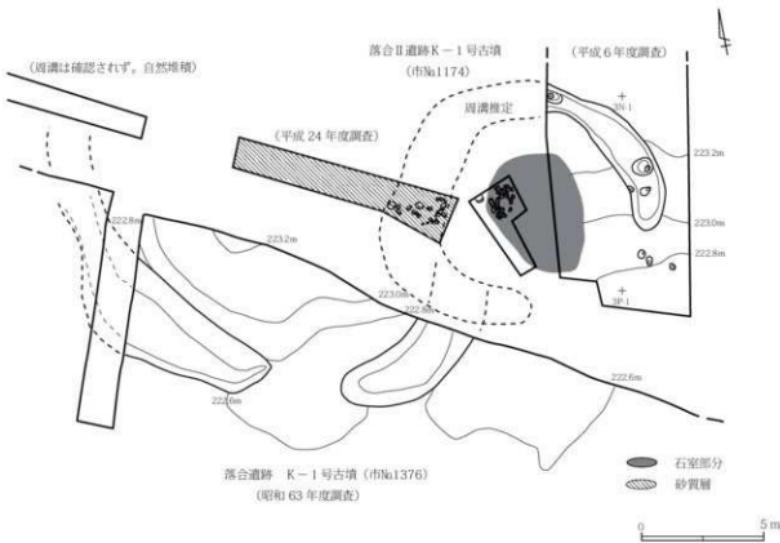
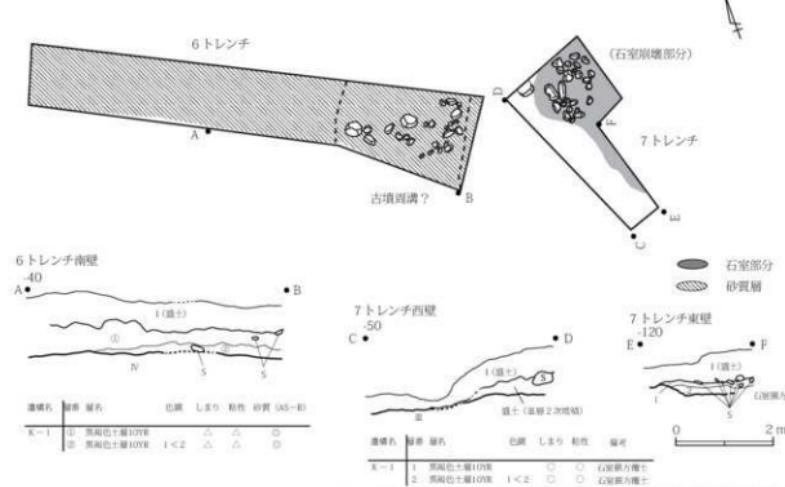
なお、6、7トレンチ以外では、自然地形を確認したのみで、遺構、遺物は確認されなかった。

(2) 平成25年度調査

平成6年度に調査を実施した調査区は、当初、落合Ⅱ遺跡に相当していたが、字境の変更によって三本木Ⅱ遺跡の一部に相当する。この部部の確認調査では、5本のトレンチを設定し、平安時代の住居址1軒を確認した。

なお、落合遺跡B区の調査で確認された東西方向に延びる溝は、三本木Ⅱ遺跡で確認された道路状遺構の側溝と方向が一致しており、同一遺構であった可能性が考えられる。(井上)

落合II遺跡K-1号古墳



第8図 落合II遺跡 遺構実測図

2 三本木Ⅱ遺跡

(1) 概要

前回調査のB区で縄文時代の竪穴状遺構や土坑が、C区で縄文時代前期前葉から中葉および平安時代の住居址が確認されていることから、今回の事業区域内における集落跡の範囲を把握する必要が生じ、トレンチによる確認調査を行った。すでに、平成6年度には10本のトレンチ調査が実施され、台地の平坦面を中心に広く遺構が分布する状況が明らかとなっていた。今回は平成6年度の確認調査がなされていない範囲において16本のトレンチ調査を実施している（1～13・21～23トレンチ）。その結果、1～4トレンチ南側や平成6年度トレンチ南西側からB区に限られる縄文時代前期・中期に帰属する遺構の分布が確かめられ、北西～南東方向に延びる細尾根状台地の頂部から南東側にわたる集落跡の範囲を考慮して調査区の設定を行った。埋没谷に向かって緩く傾斜する北西側斜面地の1～4トレンチ北半分と10～13トレンチでは、少量の縄文土器が見受けられたものの、遺構は確認されなかった。また、急傾斜の西斜面に設けた5～9トレンチも希薄で、5トレンチの北端で遺物が散在する程度であった。ただし、6トレンチの南側で古代の住居址が検出され、その部分は拡幅することによって対応している。調査区名は、前回の調査区から引き継ぎ、C区を境として北側をD区、南側をE区とした。なお、E区の2・3トレンチ間では旧石器時代の調査を実施したが、発見には至らなかった。今回の調査による検出遺構は、縄文時代の住居址47軒・竪穴状遺構1基・集石8基・土坑106基・埋甕1基・巣穴1カ所・遺物包含層、古代の住居址1軒・集石2基・土坑9基・溝2条・中世以降の溝1条である。

縄文時代は前期前葉から後葉・中期初頭・後葉の集落跡が検出された。時期ごとに住居址がまとまり、細尾根上を遷移していく経過が見て取れた。当該期の居住形態を検討していく上で必須の事例となり得よう。また、群馬県域に多いコの字形石敷炉をもつ関山I・II式期や諸磯b式期の住居址例が充実しており、検証を難しくする重複事例が少ないこともあり、西毛地域の様相を示す基礎資料となる。住居址の周囲には貯藏穴・土坑墓・陥穴などに比定される土坑や集石遺構・集石土坑・埋甕が散在する。D区北半の東側には緩やかな傾斜に沿った遺物包含層が広がる。珍しい事例としては、小動物によるSU-1号巣穴跡が縄文時代前期後葉の住居址と重複して見付かり、生態考古学的な近接が可能となっている。

古代では、西側斜面においてH-6号住居址が単独で検出されている。帰属時期などは不明だが、平面の長軸方向が突出して長い独特の形状がC区のH-1号住居址と似ており、その関係性が窺われる。H-1号住居址の時期は奈良時代後半であり、H-6号住居址と同様に単独で検出されている。三本木Ⅱ遺跡で見付かった住居址の形態と分散的な分布状況は、群集した集落が現出した三本木Ⅲ遺跡の様相とは対比的である。その他の成果として、小石郭礎床墓であるS-12号集石があげられる。台地縁辺のD区西端に築かれており、斜面下に龜の落合遺跡の古墳群と関係することが想像される。奈良時代後半のS-3号集石は土坑墓に比定される。E区東端に位置しており、隣接する平塚遺跡の古墳群と係わりをもつことが予想される。出土した上野型短頭壺蓋がK-4号古墳からも検出されていることは示唆的である。同じE区では、古代では稀な大型土坑（D-75号土坑）が注目される。また、10m間隔で併走するM-4・5号溝は古代律令期（7世紀後半から8世紀初頭）の官道に比定され、E区を北西～南東方向に横切る。近年調査が進められてきた西横野東部地区遺跡群の道路遺構などを含め、中野谷地

区における律令社会の浸透を検証する有益な素材となろう。なお、遺構の希薄な分布状況にもかかわらず、道路跡に沿って先述のH-1・6号住居址、S-3号集石、D-75号土坑が並ぶことから、道路跡が奈良時代後半の集落をも規定していた可能性が推し量られる。

遺物は、縄文土器・土製品・石器・土師器・須恵器のほか、焼失住居から炭化材や炭化種子が出土した。特記される遺物は、関山式に伴って出土する多様な甲信地方・東海地方の土器群があげられる。特に、H-18号住居址で出土した中越式は残存状態が良好であった。
(高橋)

(2) 縄文時代の遺構

住居址（第13～86図）

<住居址の帰属時期>

住居址は47軒（建て替え・拡張などを含めて64軒）が検出され、二ツ木式・関山I式・関山II式・有尾式・諸磯b式・五領ヶ台I式・加曾利E III式期に比定される。その帰属時期は以下の通りである。

1 a期（前期初頭～前葉 二ツ木式期～関山I式期）：3軒（J-10・19・25号住居址）

1 b期（前期前葉 関山I式期）：9軒（J-9・11・12・13・16・18・21・33・34号住居址）

2 a期（前期前葉 関山II式期古段階）：3軒（J-15・17・20号住居址）

2 b期（前期前葉 関山II式期新段階）：16軒（J-14・22・23・24・26・27・30・31・35・38・40・41・42・43・45・49号住居址）

2 c期（前期前葉～中葉 関山II式末～有尾式期古段階）：1軒（J-6号住居址）

3期（前期中葉 有尾式期中段階）：3軒（J-28・29・32号住居址）

4期（前期後葉 諸磯b式期）：9軒（J-36・37・39・44・46・47・48・50・51号住居址）

5期（中期初頭 五領ヶ台I式期）：1軒（J-7号住居址）

6期（中期後葉 加曾利E III式期）：1軒（J-8号住居址）

<平成6年度調査で検出された住居址の帰属時期>

2 b期（前期前葉 関山II式期新段階）：4軒（J-1・2・4・5号住居址）

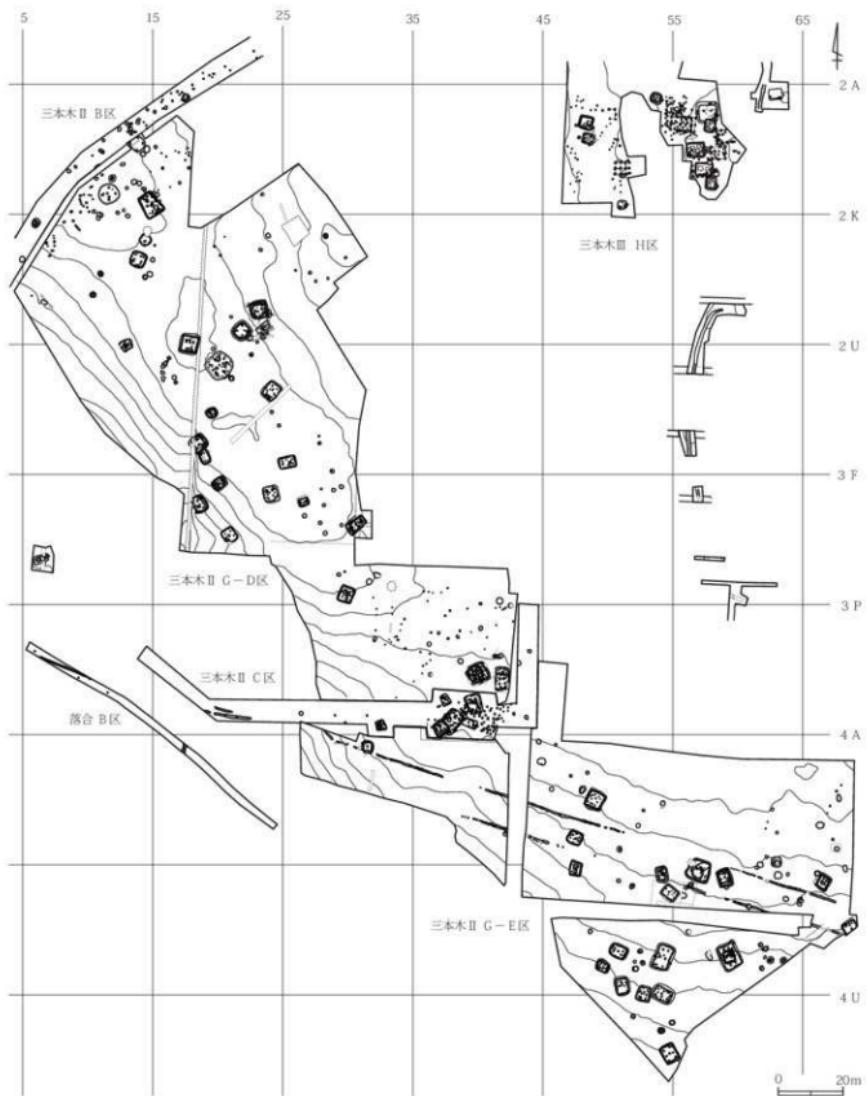
3期（前期中葉 有尾式期中段階）：1軒（J-3号住居址）

<住居址の特徴>

概要：住居址の構造を検討するに当たって、主軸は平面形・主柱穴配置・炉や出入口施設の位置などを考慮して決定した。平面形は炉が住居址の中心より主軸に沿った奥側に設けられ、出入口施設は炉と逆の壁寄りに位置する傾向がある。なお、充実した資料である関山I・II式期の住居址はⅦ章で詳述する。

重複：住居址同士の重複が見受けられ、旧住居を元にして拡張される場合（J-12-16・27A B・29A B・33-34・37A B・40A B・41A B・44A B・46A B号住居址）や埋没した旧住居に重複して新住居が造られる場合（J-11-17・28-31-32号住居址）が想定される。壁周溝・壁周穴列の一部が修正されているもの（J-6・16・28号住居址）や主柱穴の組み合わせを複数もつが竪穴の大幅な拡張が見られないもの（J-7・21・29A・29B・32・48・50号住居址）は上屋などの建て替えと見做した。

規模：面積23m²を平均とし、群を抜く大型（J-6・12・14・31・44A・45号住居址）や小型のもの（J-32・38・41・48）が組成する。関山II式期の大型住居は平面が正方形や台形のものが多い。有尾式期や諸磯b式期は拡張に伴って大型化したもののが見られる（J-29・44号住居址）。小型の住居址は関



第9図 三本木II遺跡 調査区全体図

山Ⅱ式・有尾式期・諸磯b式期に帰属するが、後述する閑山Ⅰ式期のT-3号竪穴状遺構が住居としての機能を担っていた可能性がある。平成6年度調査のT-1・2号竪穴状遺構なども踏まえて、その組成や機能差を検証する必要があろう。

平面形：閑山Ⅰ式期は主軸方向に長い長方形が多く、とくにJ-19号住居址は隅が正確に直角を呈する。閑山Ⅱ式期になると台形や正方形が加わって多様化する。また、隅が丸くなるもの（J-20・35・41・42号住居址）や辺に丸みを帯びるもの（J-14号住居址南壁・43号住居址）が目につく。長方形の1角は直角を呈するが、対角的位置がずれる不整な長方形のもの（J-15・18・21・22・23・49号住居址）は閑山式期に通有である。J-18・23号住居址では長軸の二辺がやや弓なり状を呈している。これらは壁柱穴や壁周溝を見ると建て替えなどの影響ではなく、意図して造営されていたことが窺われる。J-21号住居址ではその歪んだ平面形状に対応するようなピットが支柱穴配置の北東側に認められた。一方、J-41号住居址の場合は拡張に伴って不整な形状に至ったものと思われる。有尾式期は方形が多く、J-29A号住居址は拡張した末に長方形となる。諸磯b式期は閑山式期よりも角が丸い隅丸方形ないし隅丸長方形を呈する。辺に丸みを帯びる傾向もあり（J-39号住居址が例外）、小型のJ-48・51号住居址は円形に近くなる。中期の五領ヶ台Ⅰ式期は円形に近い隅丸方形、加曾利EⅢ式期は円形を呈していた。

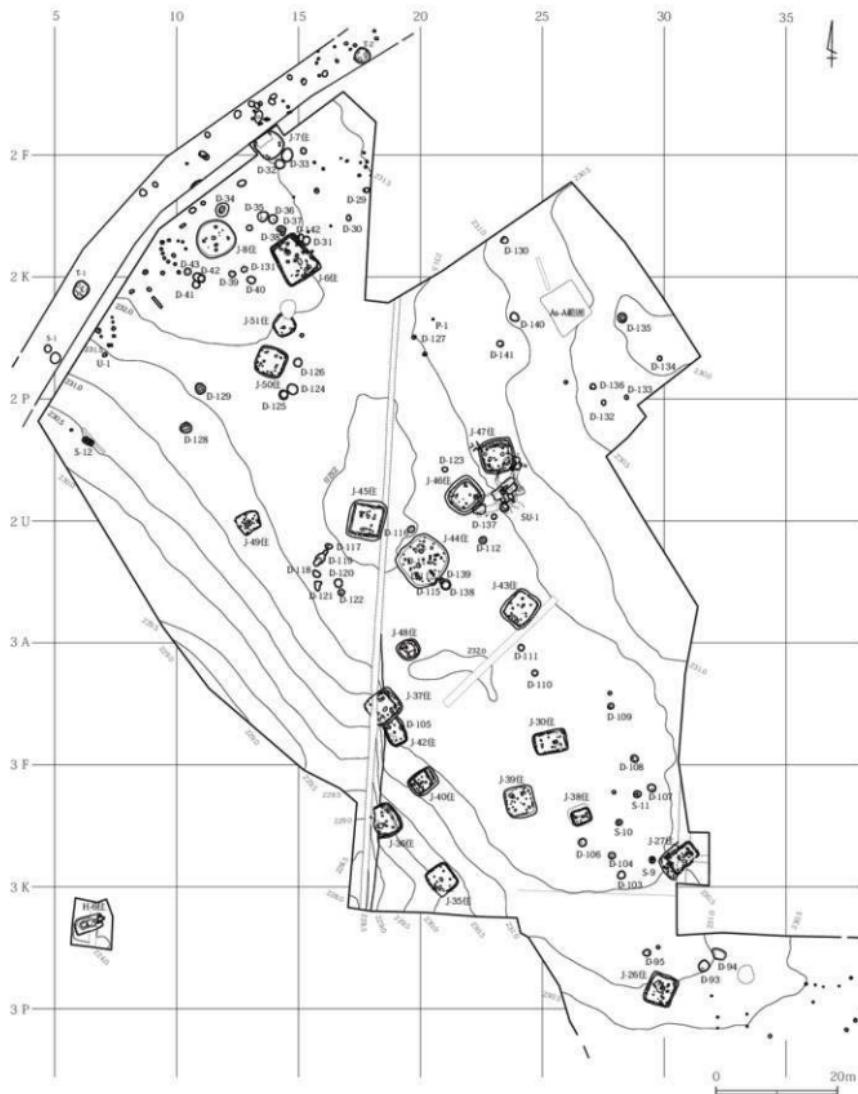
深度：竪穴の深さは土壤の削平によって左右される。そこで、床面の位置と地山の基本層序を目安にして見比べることにした。本調査の遺構確認面は暗褐色土層であるIV層の上～中位で、床が構築される面はV層のハードローム層、VI層の浅間一板鼻黄色輕石（As-YP）一次堆積層、VII層の明褐色粘質土層が認められる。VII層のものになると深さ1mに達することもある。

閑山Ⅰ式期は一概に深く、VII層中ないし上面のものがほとんどを占める。一方、閑山Ⅱ式期はV～VII層など様々で、VII層のものはかえって少ない（25%）。中～大型で平面長方形のもの（J-27・30・43号住居址）や方形のもの（J-45号住居址）がVII層に達していた。J-35号住居址は急斜面地での立地に起因してVII層にまで至るものと思われる。

閑山Ⅱ式期末～有尾式期中段階は一様に浅く、V層上端に留まる。しかし、諸磯b式期になると再びVII層に至るとともに、小型の住居址はV層およびVI層中と浅く造り分けられていた。中期は五領ヶ台Ⅰ式期と加曾利EⅢ式期のいずれもV層上端を床面としている。

断面形：典型的なものは壁面が直線的に立ち上がり、上端の傾斜が緩やかになる。ただし、竪穴の壁際にはIV層土を主体とする覆土が一次堆積化する傾向にあるため、IV層中の壁面は竪穴覆土との区別が判然としない場合がある。V層上端を床面にしている有尾式・五領ヶ台Ⅰ式・加曾利EⅢ式期や小型住居は壁面のすべてがIV層に相当することから遺構プランの把握すら覚束ない。この場合、壁周溝、出土遺物、炭化物粒・焼土粒の混入などによる識別に努めた。なお、一般的な埋蔵文化財発掘調査において遺構確認はローム層上面（本遺跡の場合はV層上面に相当）でなされる趨勢にあるが、これら浅い遺構の検出は非常に難しくなる。とくに、壁周溝や明確な炉跡をあまり持たない五領ヶ台Ⅰ式期の住居址をV層で確認すると遺構そのものが消失しかねないことから、当該期資料の希少性を招く原因となっている可能性がある。

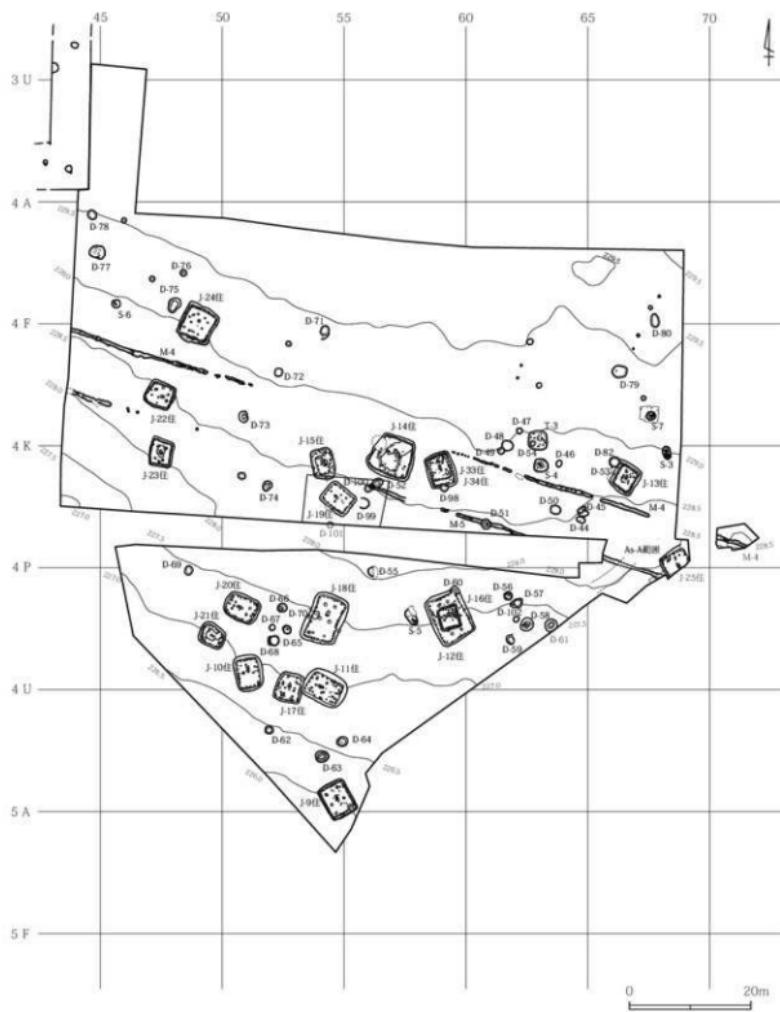
竪穴が深い住居址には壁面の上端にテラス状の掘り込みが見られる。これは地表の削平を免れた周囲の残存部分に相当するとともに、壁面上端は覆土と地山の区別が難しいIV層に相当することから、ここでも形状の把握に支障をきたしている。そこで住居址の形態・規模の把握には構築意図の反映を期し



第10図 三本木II遺跡 遺構配置図(1)



第11図 三本木II遺跡 遺構配置図(2)



第12図 三本木II遺跡 遺構配置図(3)

てテラス部分を除いている。ところで、深い住居址では壁面に露出する浅間一板鼻黄色軽石一次堆積層が崩れてオーバーハングしたものが散見された。J-9号住居址では北壁際に崩れたロームブロックが帯状となって出土している。日が当たり続けた北壁が影響を受けたものと考えられ、上屋が無い状態で竪穴が開口していたことも類推される。対照的に、J-30号住居址の壁面には抉れが少ない。これは、壁面・床面が著しく被熱する焼失住居で、前者よりも早く埋没が進んだことに起因すると思われる。使用時における壁面の崩れはあるものの、大きな抉れには廃絶後の過程が影響しているようである。

床面：前期の床面は、ほぼ平坦なものに加えて、中央部を中心に5~10cmほど窪むものが半数ほどに見られた。関山式期は浅い住居址が窪む傾向にあり（例外、J-9・12・43・45号住居址）、深いもので占められる関山I式古段階の床面はすべて平坦であった。諸磯b式期のJ-50号住居址では壁際側の四方が窪む少数の事例である。中期の住居址はいずれも平坦であった。J-7号住居址の床面はV層上面に設けられるが、台地頂部の立地に起因してV層の発達が弱く、VI層上面に形成される浅間一板鼻黄色軽石硬化ブロック（俗称、スリッコ）が散在していた。

埋没状況：凹状（レンズ状）に堆積し、下層にIV層に由来する暗褐色土、上層に黒褐色土が埋没する傾向にある。掘り込みがVII層に達する深い住居址では、その褐色を呈するVII層土が一次堆積化している場合が散見された。また、V・VI層を掘り抜く住居址では大径のロームブロックや浅間一板鼻黄色軽石が中～下層に多く混入する。J-9号住居址では中層（2層）に互層状のロームブロックが堆積し、硬化していた。J-10・23号住居址ではロームブロックや軽石を大量に含む層が北側の中層で顕著に見とめられた。これは住居址が斜面地に設置されていることから、周堤帯が傾斜に沿って竪穴側に流入したと考えられる。一方、J-18・20・21号住居址では南側からの一次堆積が著しく、上記とは異なる埋没過程が想定される。J-23・26号住居址は上～下層まで黒褐色土で占められていた。J-11号住居址には上～中層（2・3層）にロームブロックを大量に含む層が介在し、西から東へ流入しているような状況が見て取れた。これは西側に接するJ-17号住居址が構築された際に、埋没途中のJ-11号住居址へ廃土が投棄されたことが予想される（5層はJ-10号住居址と同様の周堤帯起源）。廃土下には残存状態の良好な多量の遺物が遺棄されており、埋め戻される前は生活に伴う廃棄場所として機能していたものと思われる。J-27号住居址では住居址の廃絶後に壁面が崩落し、軽石の大塊が北西壁側に見とめられた。諸磯b式期にあたるJ-39・44・46号住居址の床面上ではVII層土が凸状に堆積しており、上屋構造との関連を検証する必要がある。J-50号住居址では、大径のロームブロックを多量に含む層が中～下層にかけて複数認められ、複雑な埋没過程が窺われた。J-47号住居址では竪穴が開口している時期に後述するSU-1号果穴が當まれ、竪穴内に栽培活動によって生じた大径のロームブロックを含む特徴的な黒色土が複雑に堆積していた。なお、J-14・27・36・46号住居址では、重複などの先入観で掘り直しの体裁に準じる埋没過程を想定したが、整理作業時の見直しで凹状に堆積していることを確かめている。

主柱穴：4本主柱穴が多く（58%）、6本主柱穴（35%）を合わせると配置が判明しているものほんんどは両者で占められる。その構造は、4本主柱穴が桁行1間×梁行1間、6本主柱穴が桁行1間×梁行2間で構成される。

関山式期は6本主柱穴・4本主柱穴の両者が用いられるなかで、関山I式期は6本主柱穴を主体とする。関山II式期になると4本主柱穴がやや多くなり、小型住居には梁行1列で構成される2本主柱穴が見られる（J-41A B号住居址）。J-49号住居址では4本主柱穴のほかに、奥・前壁の中央に対にな

る補助ピットをもつ。J-18号住居址ではテラス部分に規模の大きい対のピットが長軸壁の中央に穿たれていた。なお、有尾式期では4本主柱穴のものしか検出されなかった。

諸磯b式期も4本主柱穴が大多数を占める。住居址の平面形に関係なく台形状の主柱穴配置を嗜好する（J-37A B・44 A B・46 B・47号住居址）。大型住居であるJ-44 A号住居址は桁行2間・梁行2間の配置を探る8本主柱穴で、各主柱穴に添うように補助的な柱穴が見受けられる。この8本主柱穴は4本主柱穴をもつJ-44 B号住居址の拡張に伴って形成されたと推測される。小型のJ-51号住居址は、精查を実施したものの、主柱穴が検出されなかった。

中期は五領ヶ台I式期・加曾利E III式期とともに4本主柱穴である。五領ヶ台I式期にあたるJ-7号住居址の主柱穴配置は竪穴の四隅に近づく。また、各主柱穴は深いが、非常に細かった。

壁周施設：関山I式期は壁柱穴列を施すものが大多数を占める。深い竪穴をもつ住居址の床面はⅦ層に設けられるが、壁柱穴の埋没土もⅦ層土を主体とする場合があり、一見すると区別が難しかった。壁柱穴の覆土は色調がやや暗く、わずかに混入するVI層の輕石によってその判別ができる。古相のJ-10・19号住居址では壁柱穴間が比較的広いことから、一様ではないものの、経過とともに密接化していく傾向が窺える。ただし、埋柱穴が非常に密接するもの（J-9・13・16号住居址）は、建て替えが予想されるJ-16号住居址などの事例を鑑みると、長期的な利用も考慮する必要がある。また、J-19号住居址では奥壁・前壁の壁柱穴が少なすぎることから、壁際の壁柱穴列に配される主柱穴が壁柱穴を兼用していた可能性が想起される。深い柱穴が左右の壁柱穴列で対応しているように見える場合もあるが厳密ではない。各壁柱穴列の合間にしっかりとした柱穴を配していくものと推測され、中央の柱穴が深い傾向にある。関山II式期は壁周溝中に壁柱穴列を施すものが隆盛する。J-22・23・38・41号住居址など壁周溝だけのものも散見され（J-23・41号住居址の平面図に見られる壁周溝の小ピット列は工具痕である）、次時期への過渡的な様相が垣間見られる。

有尾式期はすべて壁周溝であった。諸磯b式期は壁柱穴列・壁周溝・壁柱穴列+壁周溝および壁周施設を持たないものに分散する。一概に壁周溝は不明瞭な部分があり、壁柱穴も規則的ではない。中期では五領ヶ台I式期・加曾利E III式期とともに検出されなかった。

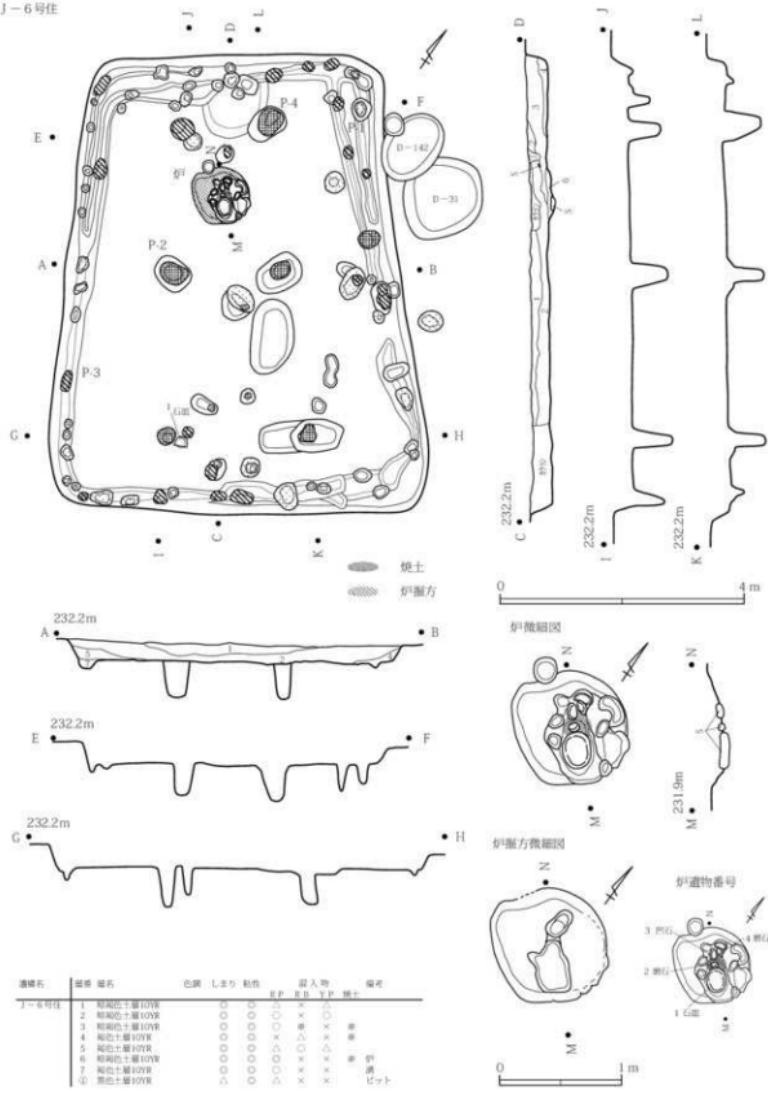
炉の位置：関山式期の炉は竪穴の中央および奥壁側に設けられ、主柱穴を結ぶ範囲より内側に位置する。一方、有尾式期の炉は奥壁側に近づき、主柱穴の範囲より外側に出る。

諸磯b式期は主柱穴を結ぶ線に近接して付設され、異なる主柱穴間に複数見られる場合がある（J-36号住居址）。J-39・46号住居址では炉が認められなかった。これはJ-37号住居址などで被熱痕があり残らない地床炉が見られることから、存在を判別できなかった可能性がある。J-39号住居址の主柱穴間にある皿状の窪みなどが疑わしい。

中期の五領ヶ台I式期に炉は認められなかった。加曾利E III式期のJ-8号住居址には中央からやや奥壁寄りに付設されていた。

炉の形態：群馬県域の縄繩前期初頭から前葉に隆盛するコの字形石敷炉（コの字状石圓炉）の豊富な事例が検出された。下に扁平な礫を敷き、三方を立石で囲む特異な形態で、その派生的な変化から様々な形態が見られる（詳細はⅦ章に後述）。その他に地床炉も組成するが、構築材が抜きとられた可能性もある。関山式期には「Cピット」と呼称される小穴が炉の脇に付随することが多い。Cピットには土器が埋設される趨勢にあるが、本調査では確認されなかった。諸磯b式期は浅い掘り込みをもつ地床炉が使用される。また、埋甕炉（埋設土器）を有するが、相応の被熱痕や焼土が無く、同居する地床炉と構

J-6号住

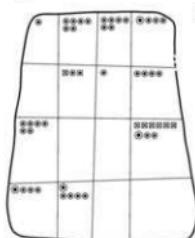


J-6号住



180~300~40cm

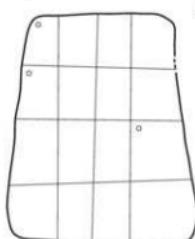
土器分布
1層



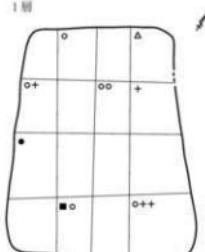
一括 ▲△○○○○○○○○○○○○○○

磚分布

1層



石器分布
1層



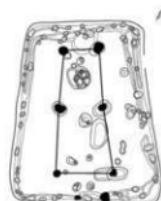
一括 +++++

15区床面No.1

+

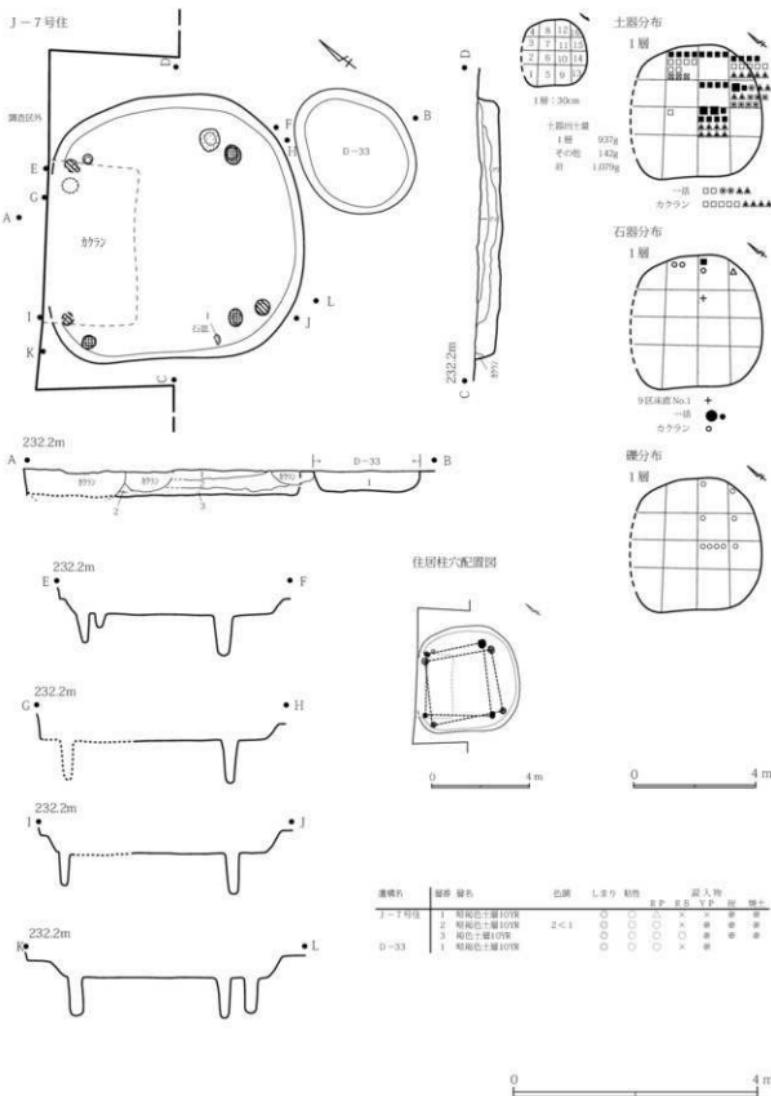
0 4m

住居柱穴配図

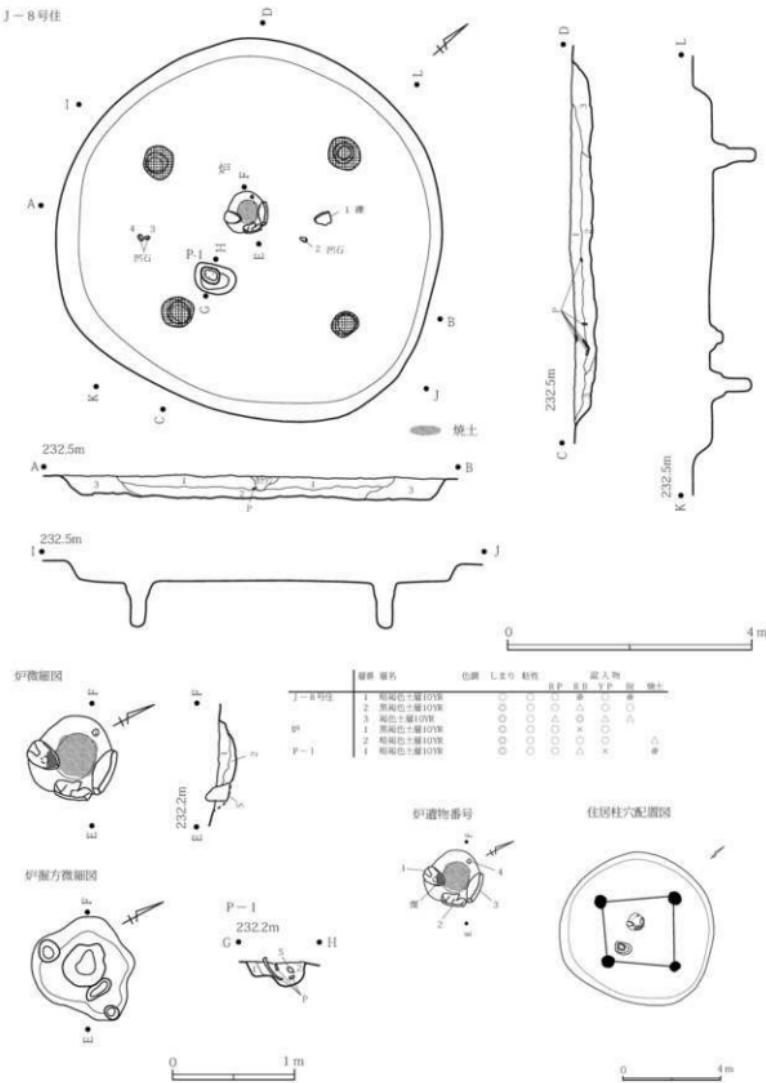


0 4m

第14図 三本木II遺跡(縄文) J-6号住居址実測図(2)

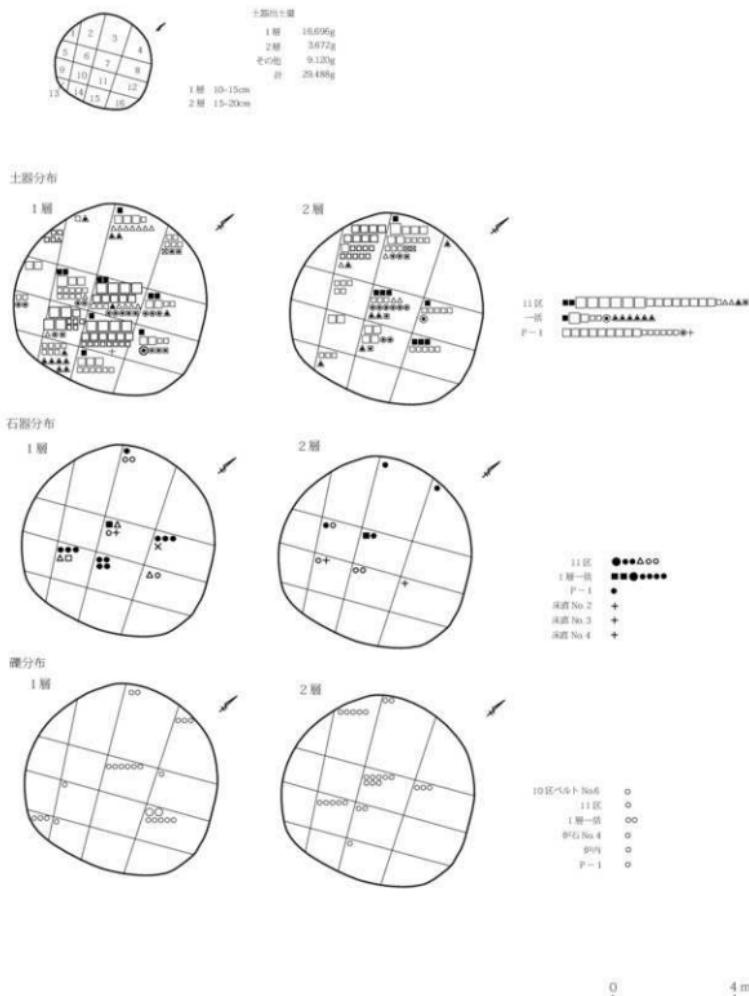


第15図 三本木II遺跡（縄文） J-7号住居址実測図

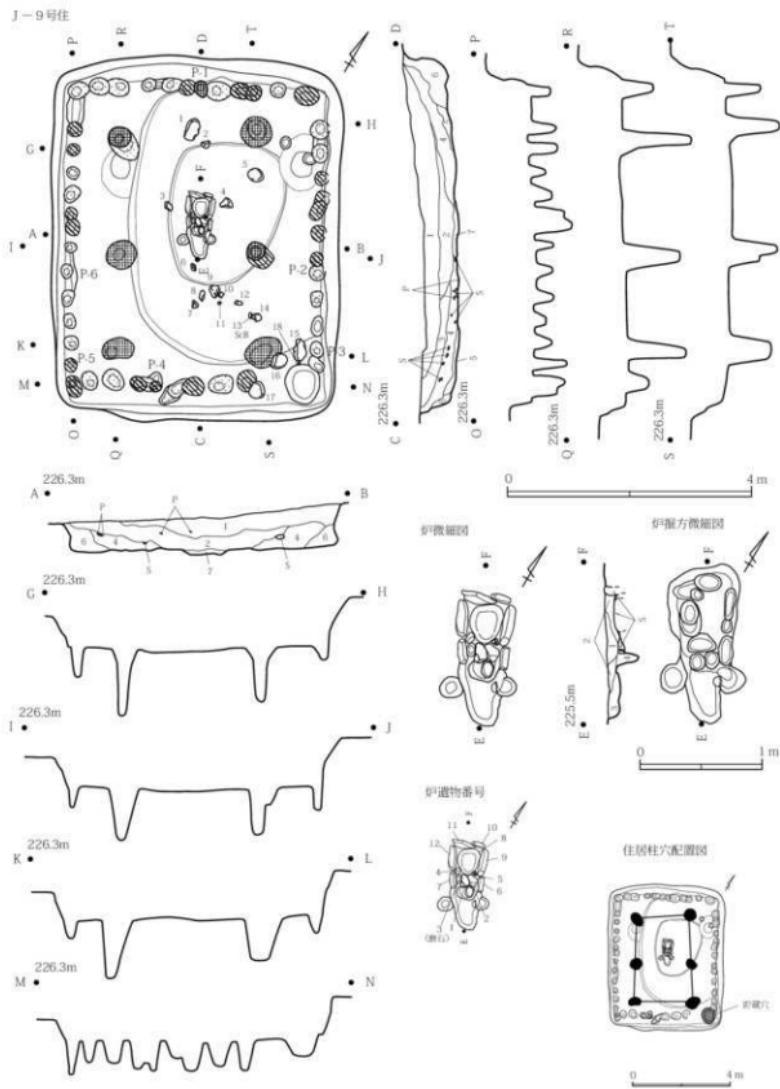


第16図 三本木II遺跡（縄文）J-8号住居址実測図（1）

J-8号住



第17図 三本木II遺跡(縄文) J-8号住居址実測図(2)



第18図 三本木II遺跡（縄文）J-9号住居址実測図（1）

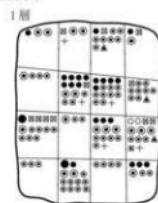
J-9号住

遺物名	留番番号	色調	しまり	粒径	R.P.	R.B.	Y.	器人物 種類	副色+7番付	備考
J-9号住	1	褐色色土層10cm	○	○	○	×	○	●	○	
	2	褐色色土層10cm	2<1	○	○	○	○	●	●	R.B.が一部互層状
	3	褐色土層10cm		○	○	○	○	●	●	
	4	褐色土層10cm		○	○	○	○	●	○	褐色を大量 灰層を含む
	5	褐色土層10cm		○	○	○	○	●	○	
	6	褐色土層10cm		○	○	○	○	●	○	
	7	褐色色土層10cm		○	○	○	○	●	○	
	8	褐色色土層10cm	3<6	○	○	○	○	●	○	R.B.=Y.R.のB
	9	褐色色土層10cm		○	○	○	○	●	○	
	10	褐色色土層10cm		○	○	○	○	●	○	
	11	褐色土層10cm	1<2	○	○	○	○	●	○	
	12	褐色土層10cm		△	○	△	○	●	△	
	13	褐色土層10cm		●	○	△	○	●	●	
	14	褐色土層10cm		●	○	△	○	●	●	
	15	褐色土層10cm		●	○	△	○	●	●	
	16	褐色土層10cm		●	○	△	○	●	●	

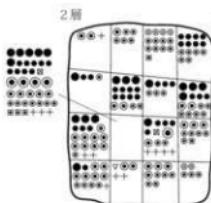
粗カラシか

1層: 10~20cm
2層: 20~40cm土器出土地
1層 3,069g
2層 11,827g
その他 5g
計 14,900g

土器分布

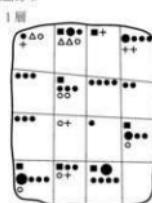


2層

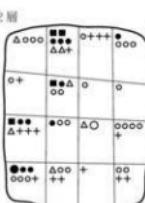


P-4 *

石器分布

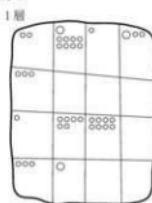


2層

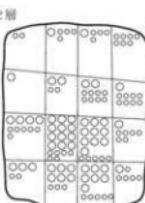


P-1	●+○
P-2	△+
P-3	●△○○
P-4	△○
P-5	○
P-6	■
P-7	○
計	11区

礫分布



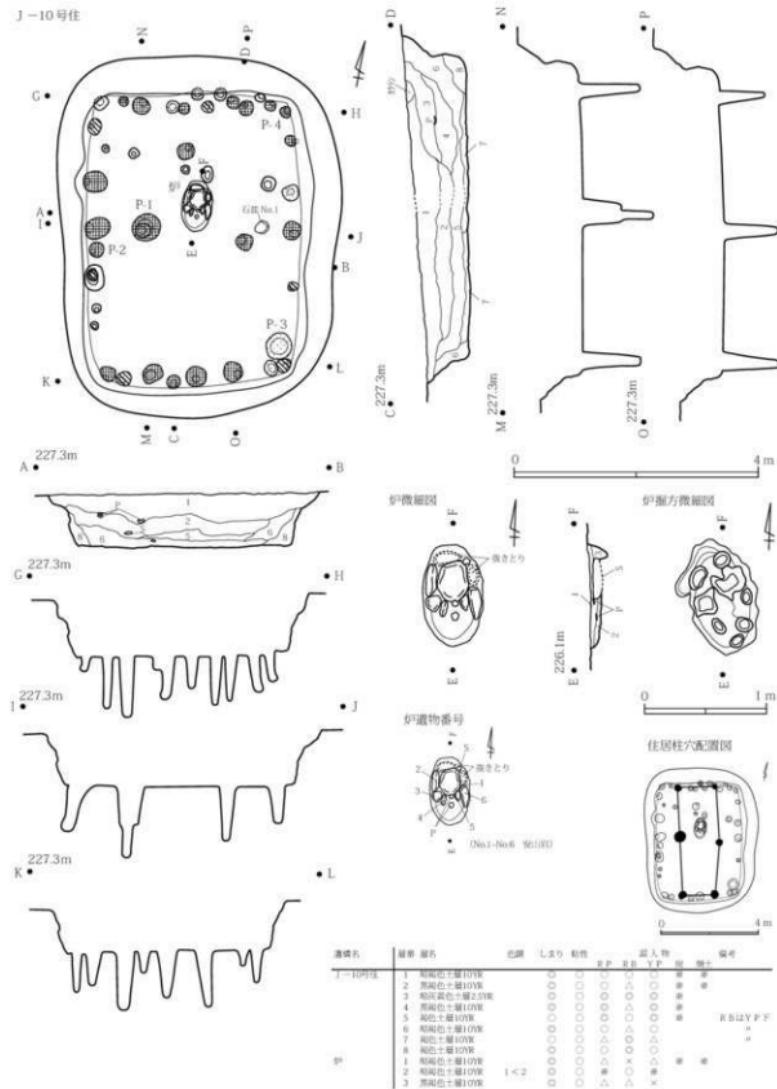
2層



P-1 ○○○○

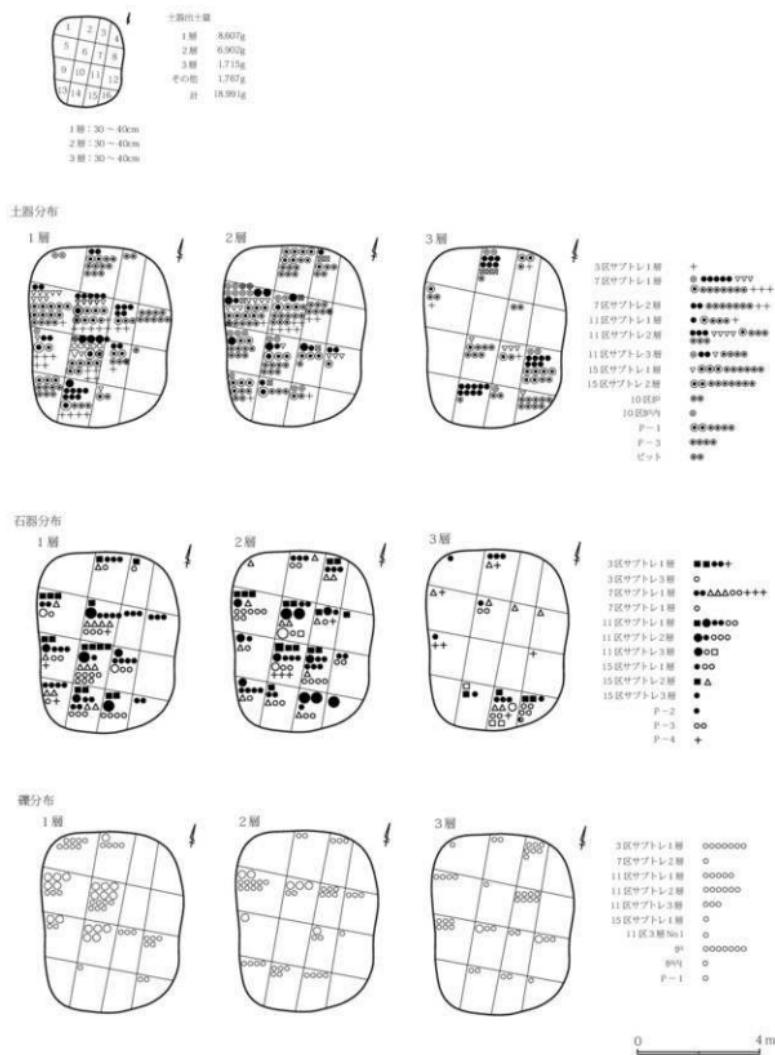
0 4 m

第19図 三本木II遺跡(縄文) J-9号住居址実測図(2)

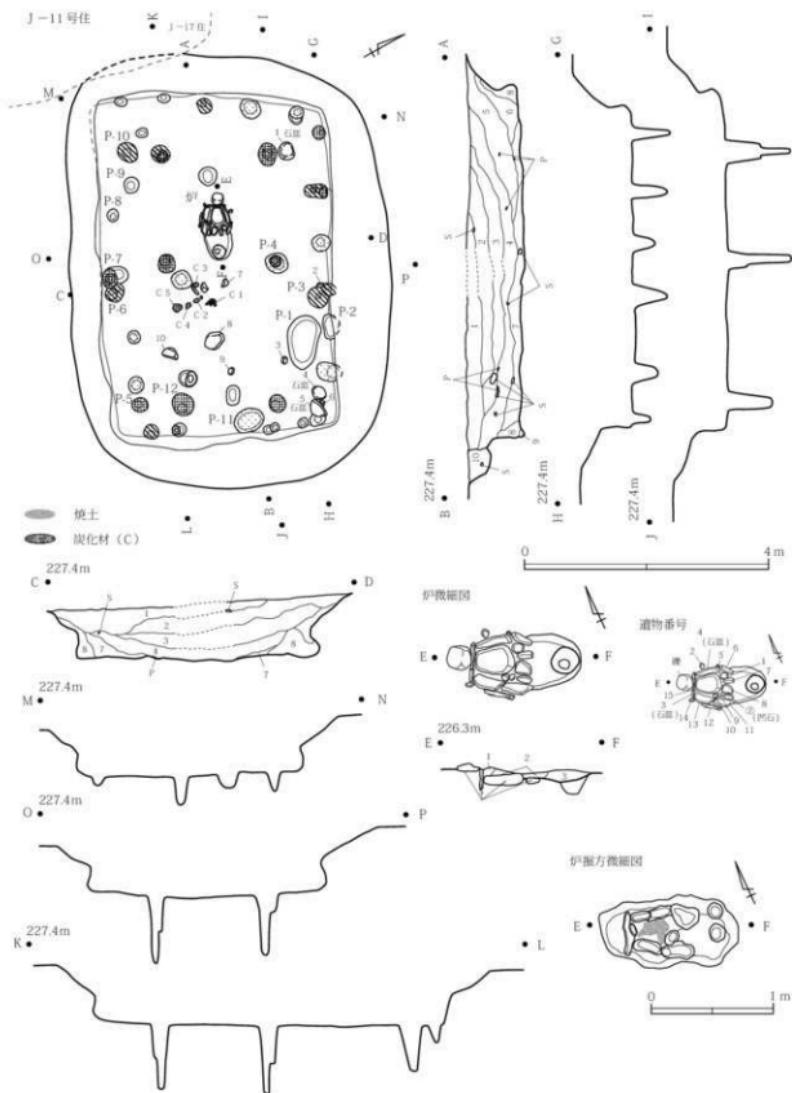


第20図 三本木II遺跡（縄文） J-10号住居址実測図（1）

J-10号住

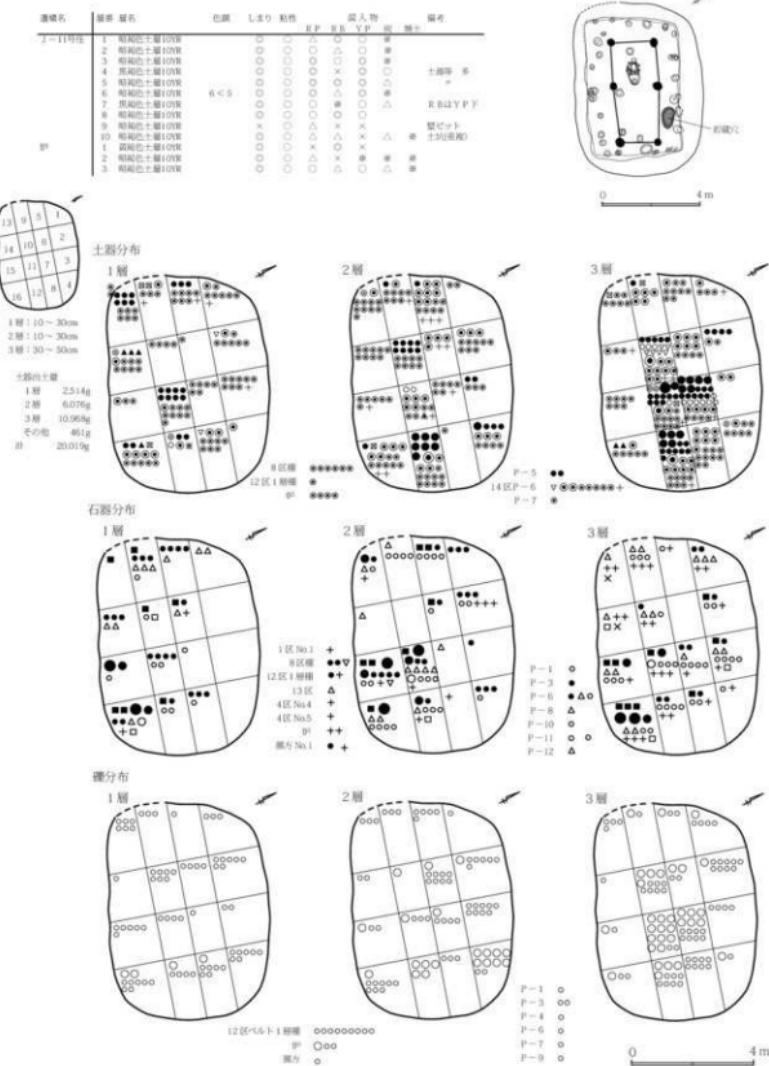


第21図 三本木II遺跡（縄文） J-10号住居址実測図（2）

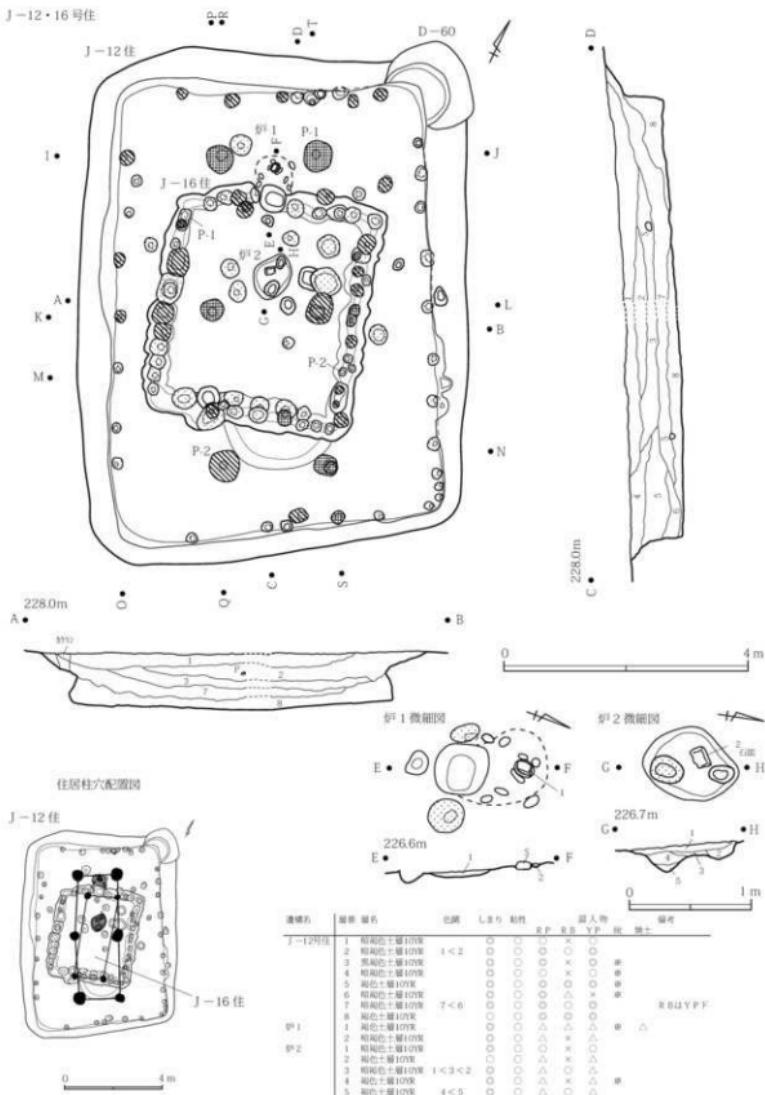


第22図 三本木II遺跡(縄文) J-11号住居址実測図(1)

1-11号住

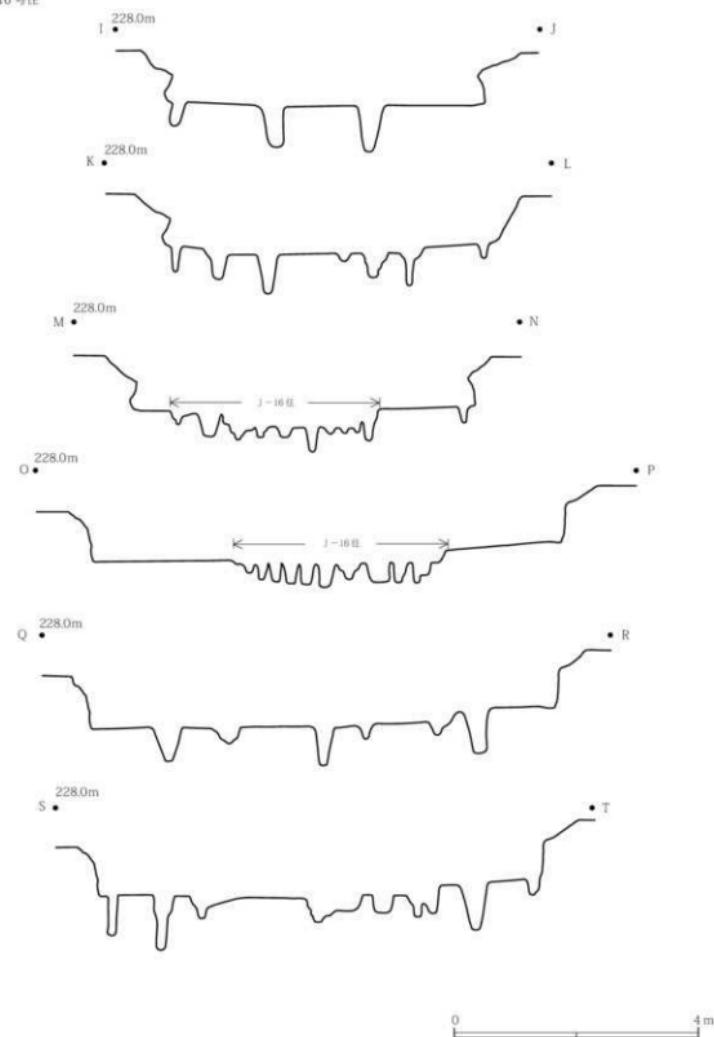


第23図 三本木II遺跡（縄文） J-11号住居址実測図（2）

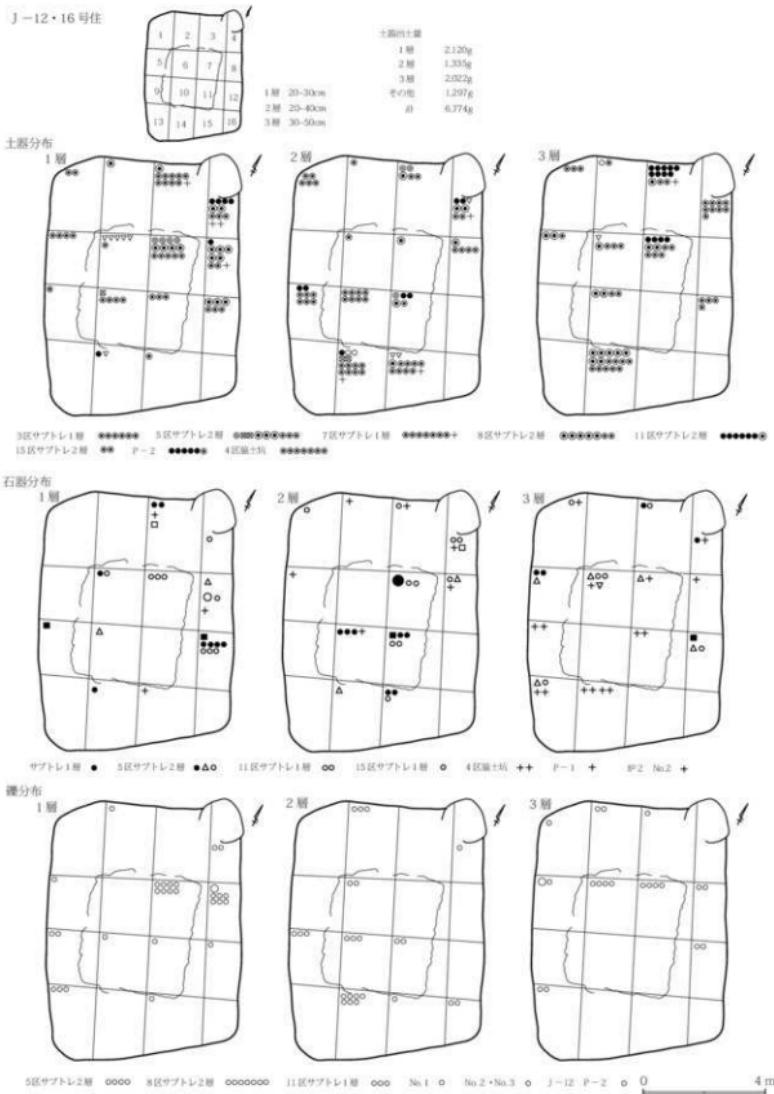


第24図 三本木II遺跡（縄文） J-12・16号住居址実測図（1）

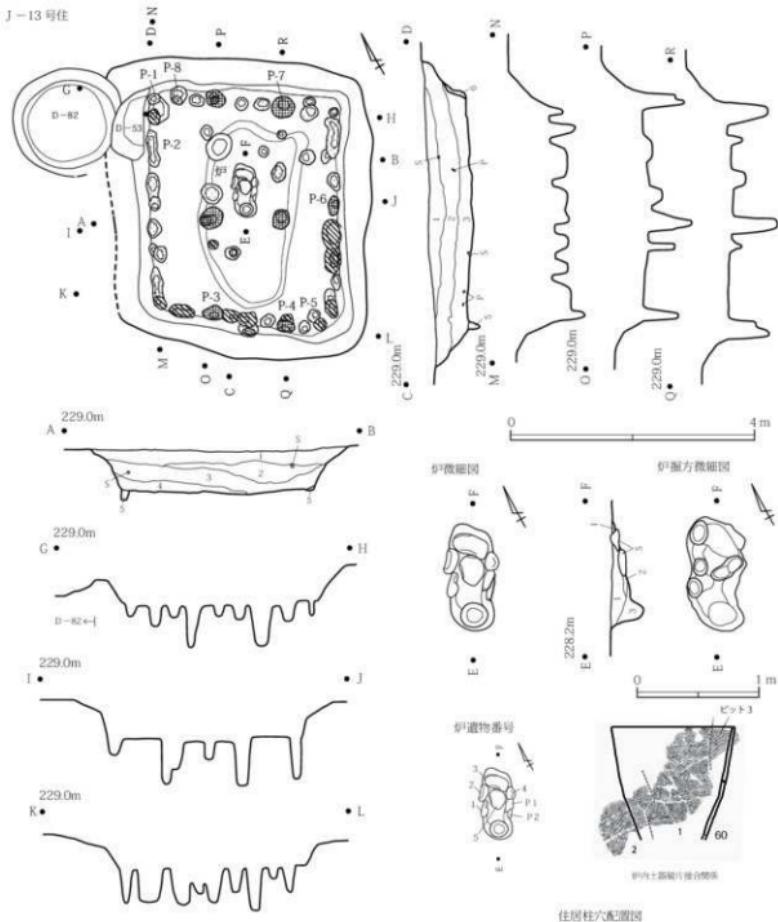
J-12・16号住



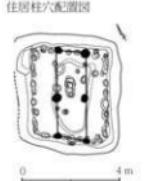
第25図 三本木II遺跡(縄文) J-12・16号住居址実測図(2)



第26図 三本木II遺跡（縄文）J-12・16号住居址実測図（3）

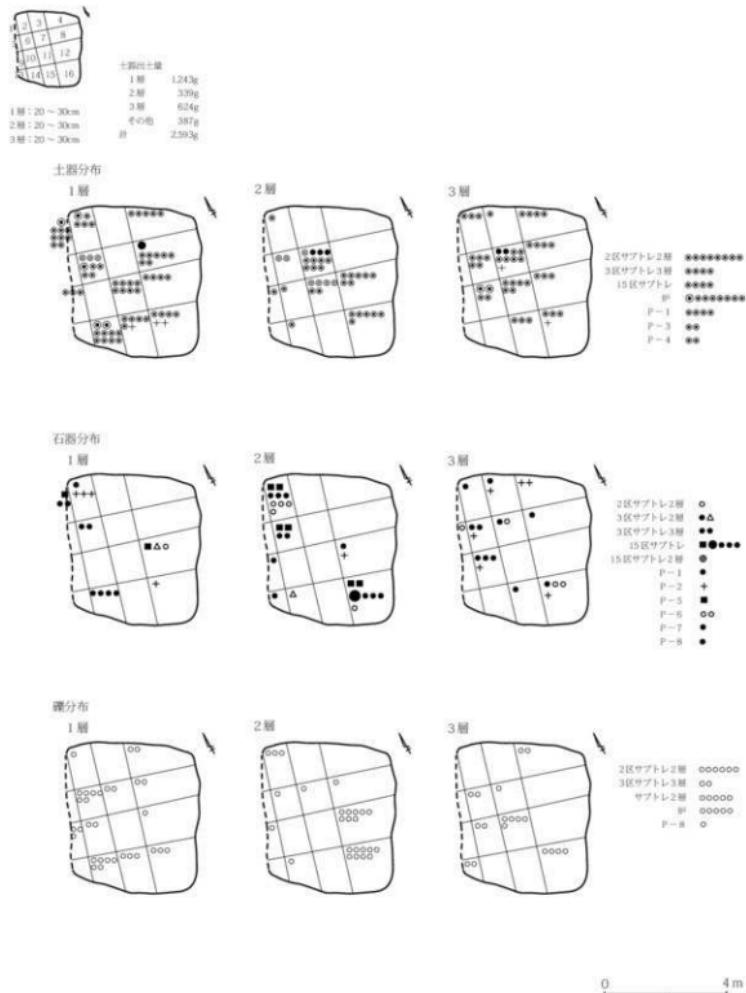


遺物名	被覆 種名	色調	しまり	粒性	X	P	Y	Z	Y'	Z'	説明	備考
J-13号住												
1	白陶土土器10YR	2<3	○	○	○	○	○	○	○	○	●	
2	白陶土土器10YR		△	△	○	○	○	○	○	○	●	
3	白陶土土器10YR		△	△	○	○	○	○	○	○	●	
4	白陶土土器10YR		△	△	○	○	○	○	○	○	●	
5	白陶土土器10YR		△	△	○	○	○	○	○	○	●	
6	白陶土土器10YR		△	△	○	○	○	○	○	○	●	ビット 土器
7	白陶土土器10YR		△	△	○	○	○	○	○	○	●	
8	白陶土土器10YR		△	△	○	○	○	○	○	○	●	



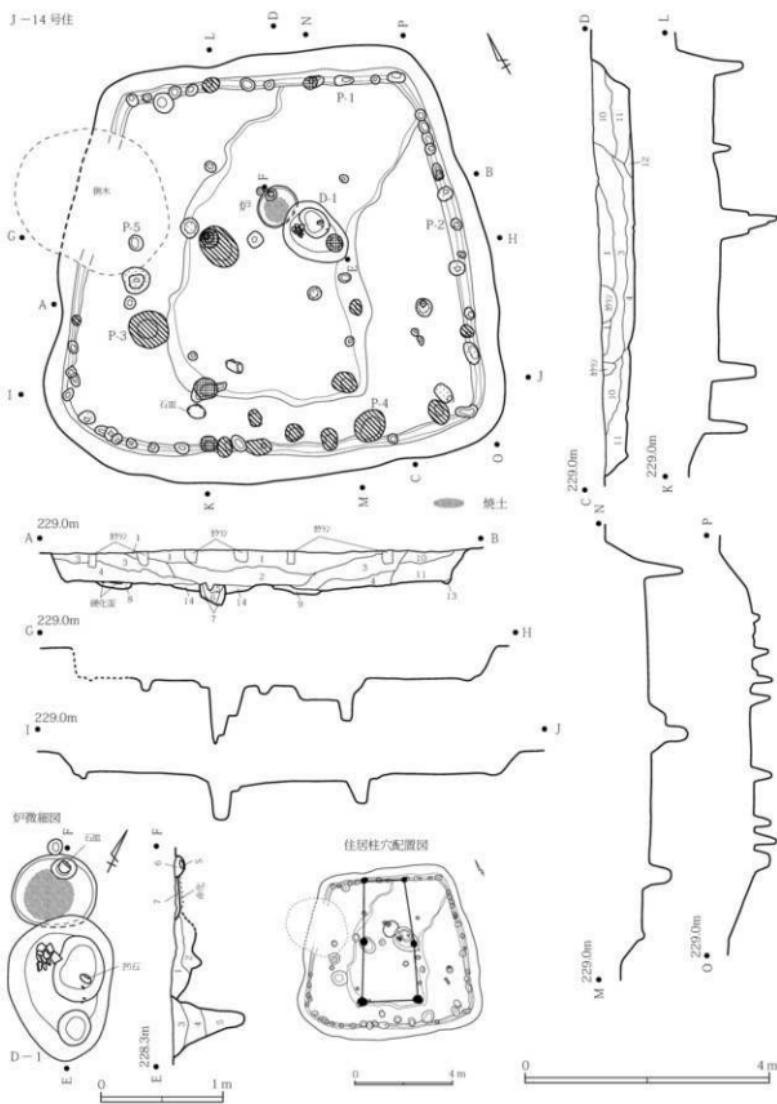
第27図 三本木II遺跡(縄文) J-13号住居址実測図(1)

J-13号住



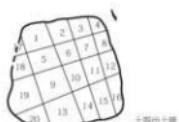
第28図 三本木II遺跡（縄文） J-13号住居址実測図（2）

J-14号住



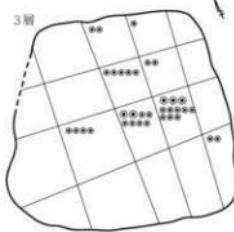
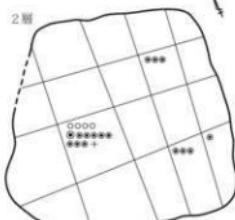
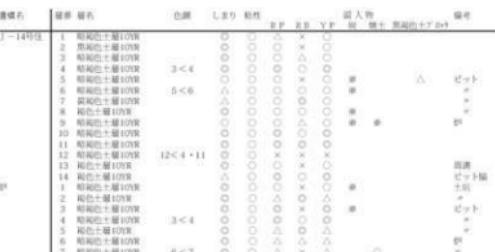
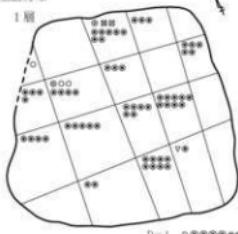
第29図 三本木II遺跡(縄文) J-14号住居址実測図(1)

J-14号住

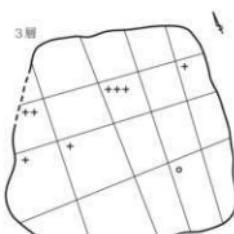
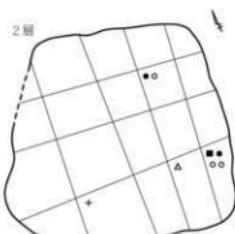
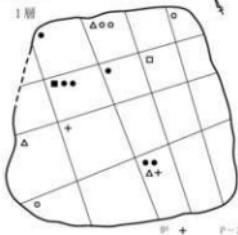


1巻:10~20cm	1巻	652g
2巻:約20cm	2巻	287g
3巻:約20cm	3巻	811g
	その他	499g

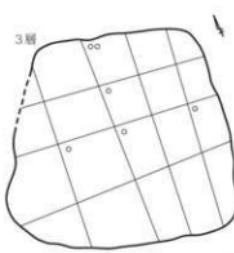
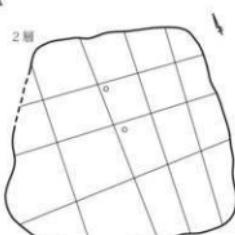
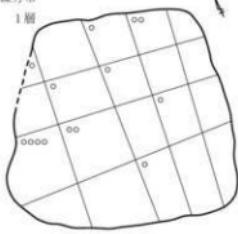
十一 脂肪分布



石器分布

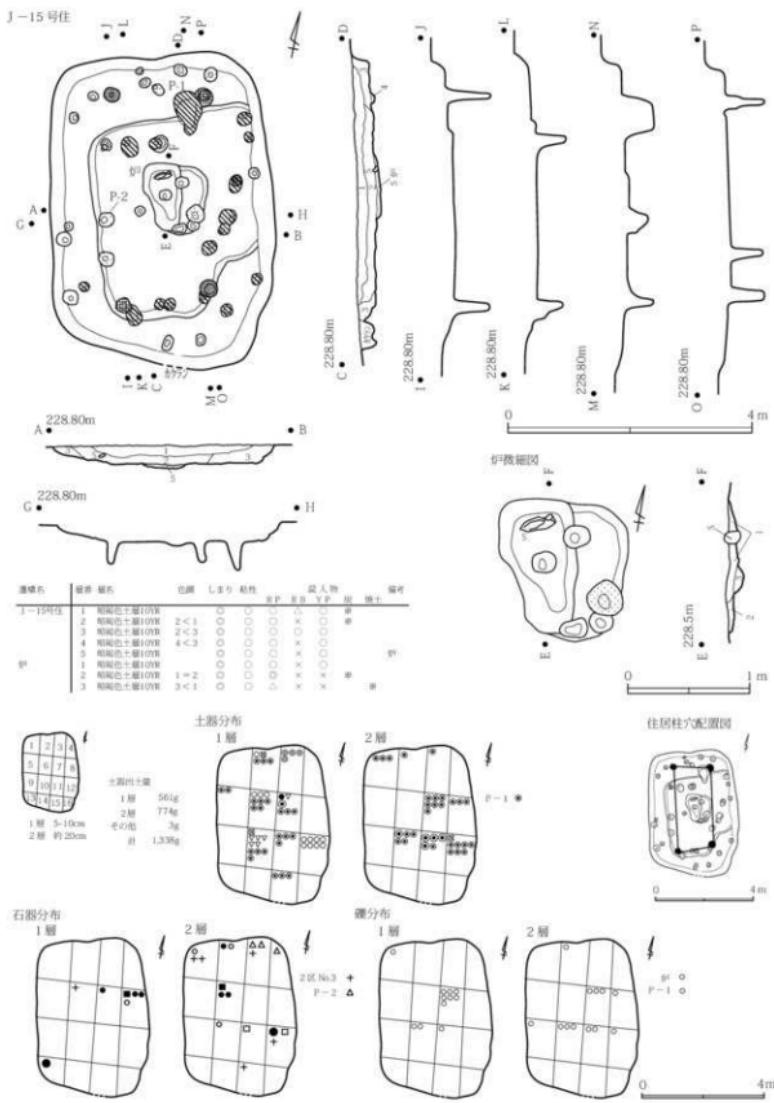


罪名集



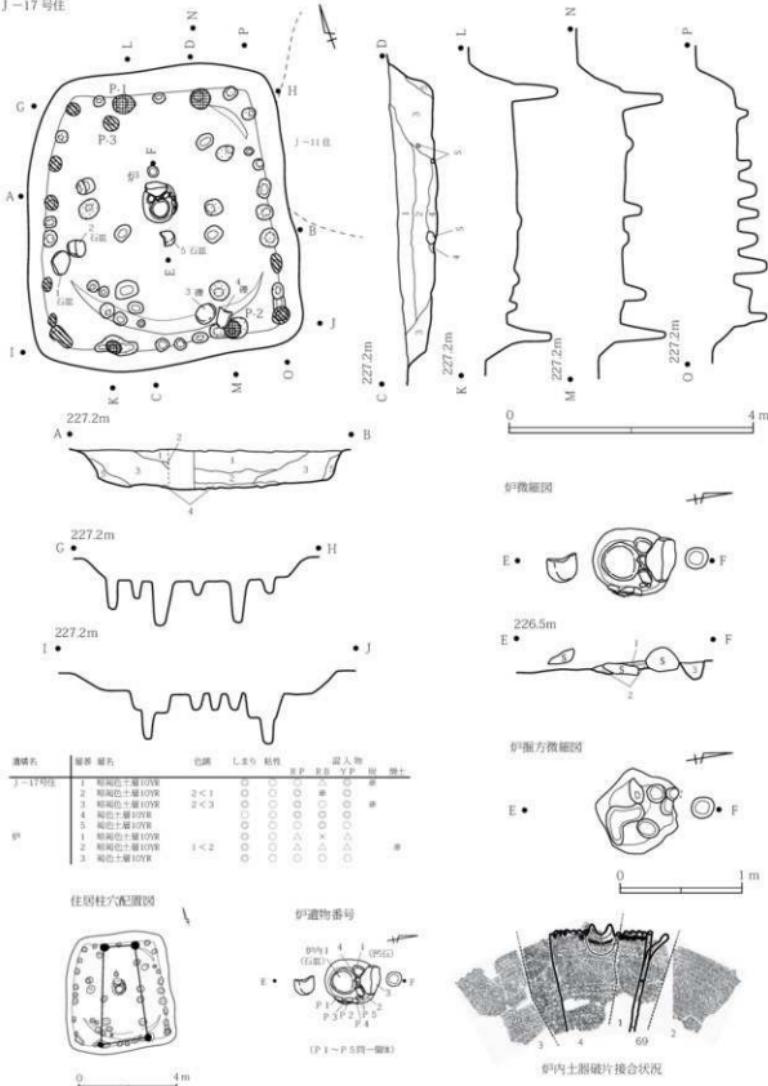
0 4 m

第30図 三本木II遺跡（縄文） J-14号住居址実測図（2）



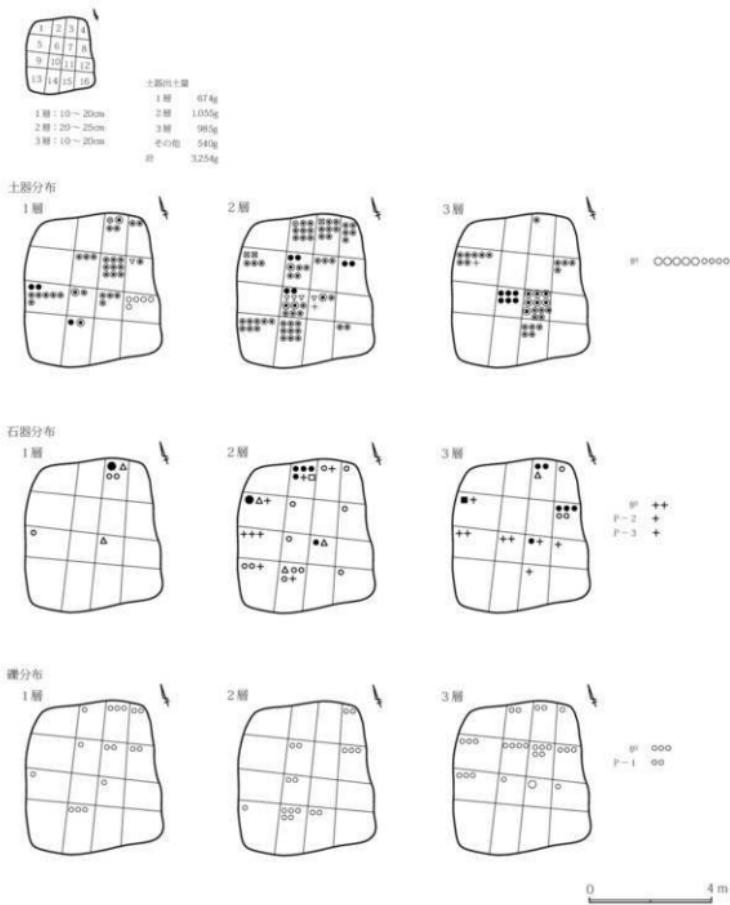
第31図 三本木II遺跡（縄文）J-15号住居址実測図

J-17号住

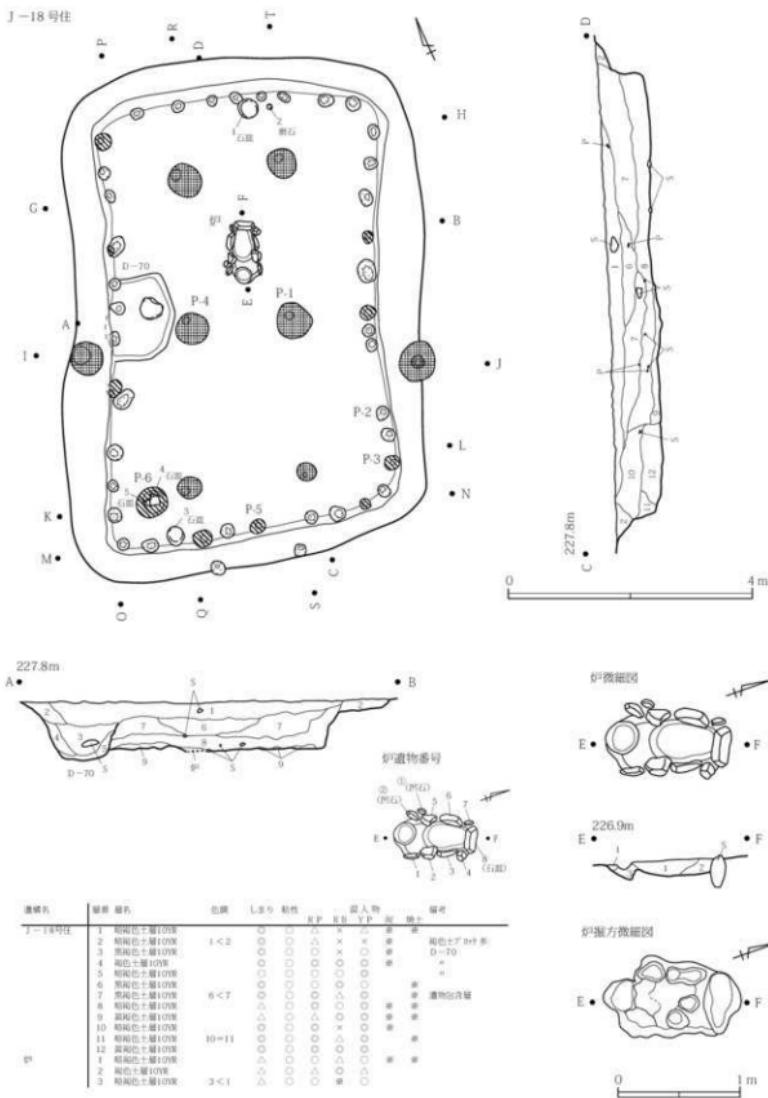


第32図 三本木II遺跡(縄文) J-17号住居址実測図(1)

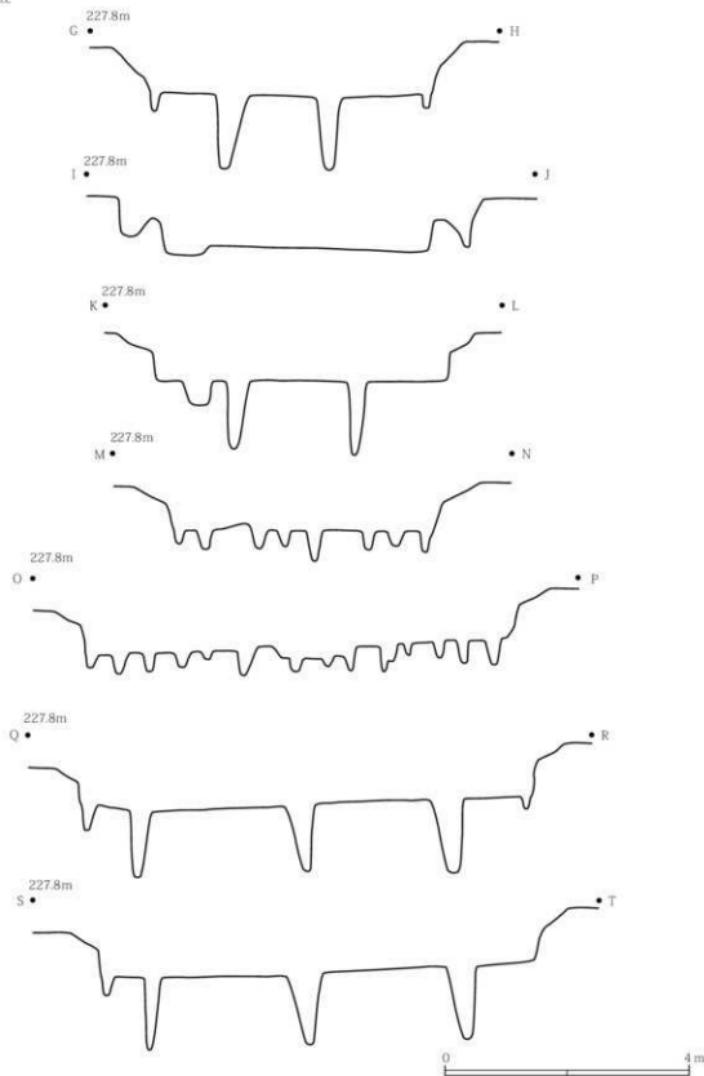
J-17 司徒



第33図 三本木II遺跡（縄文）J-17号住居址実測図（2）

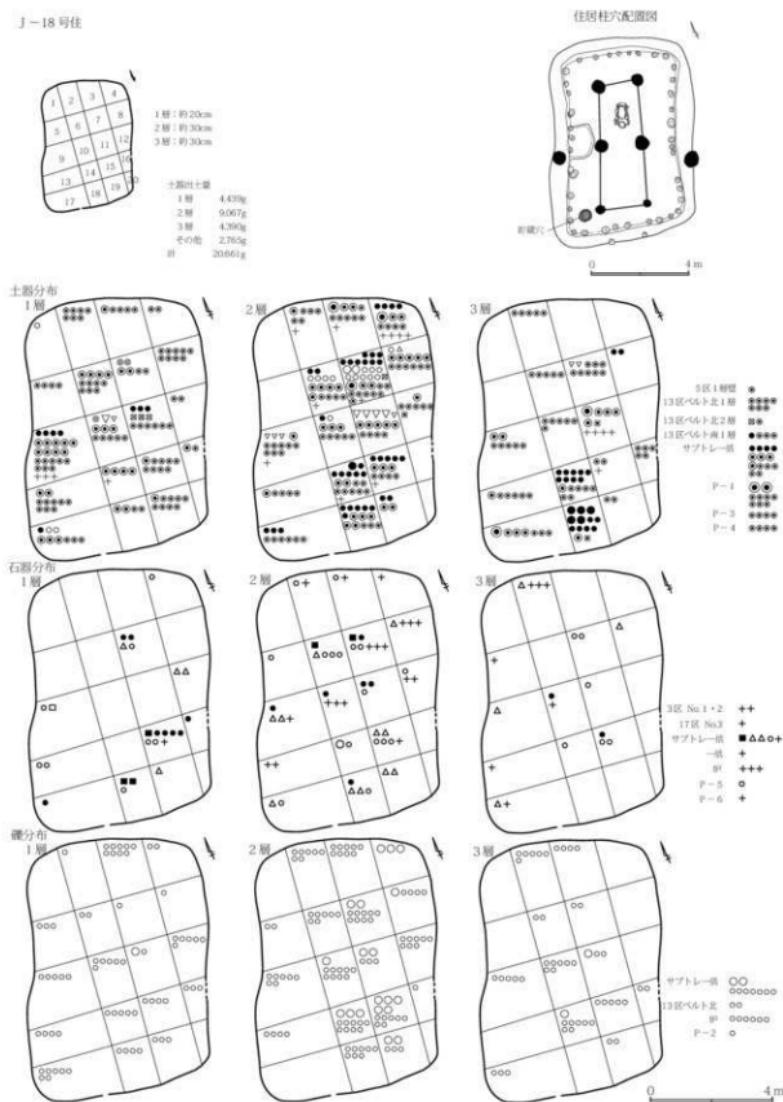


J-18号住

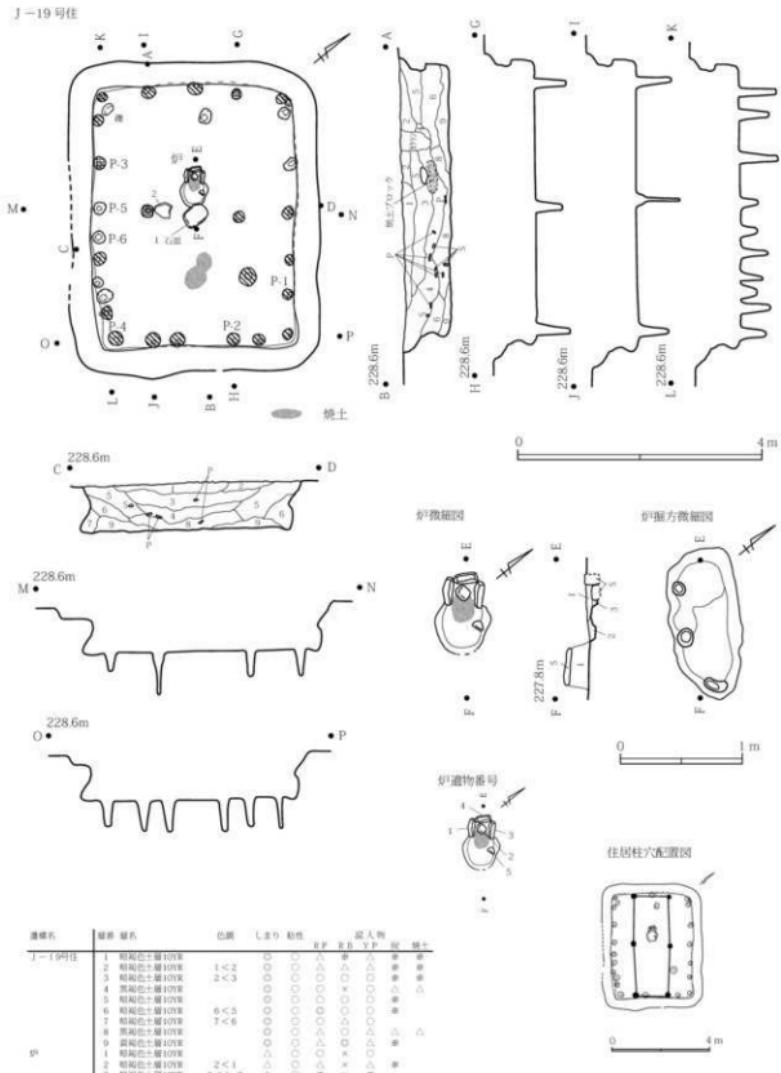


第35図 三本木II遺跡(縄文) J-18号住居址実測図(2)

J-18号住

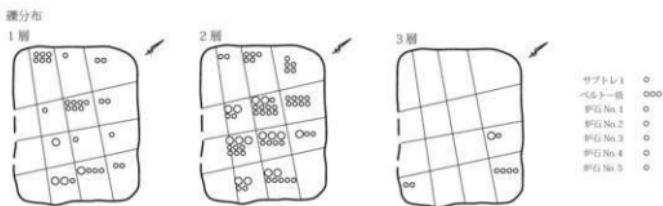
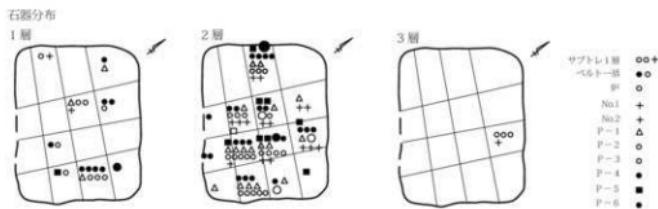
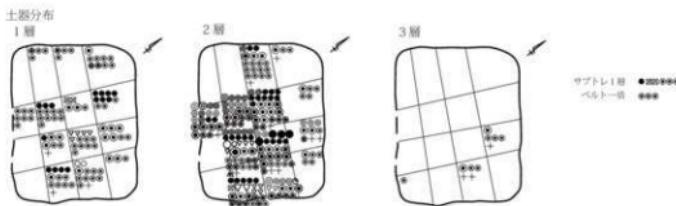


第36図 三本木II遺跡(縄文) J-18号住居址実測図(3)

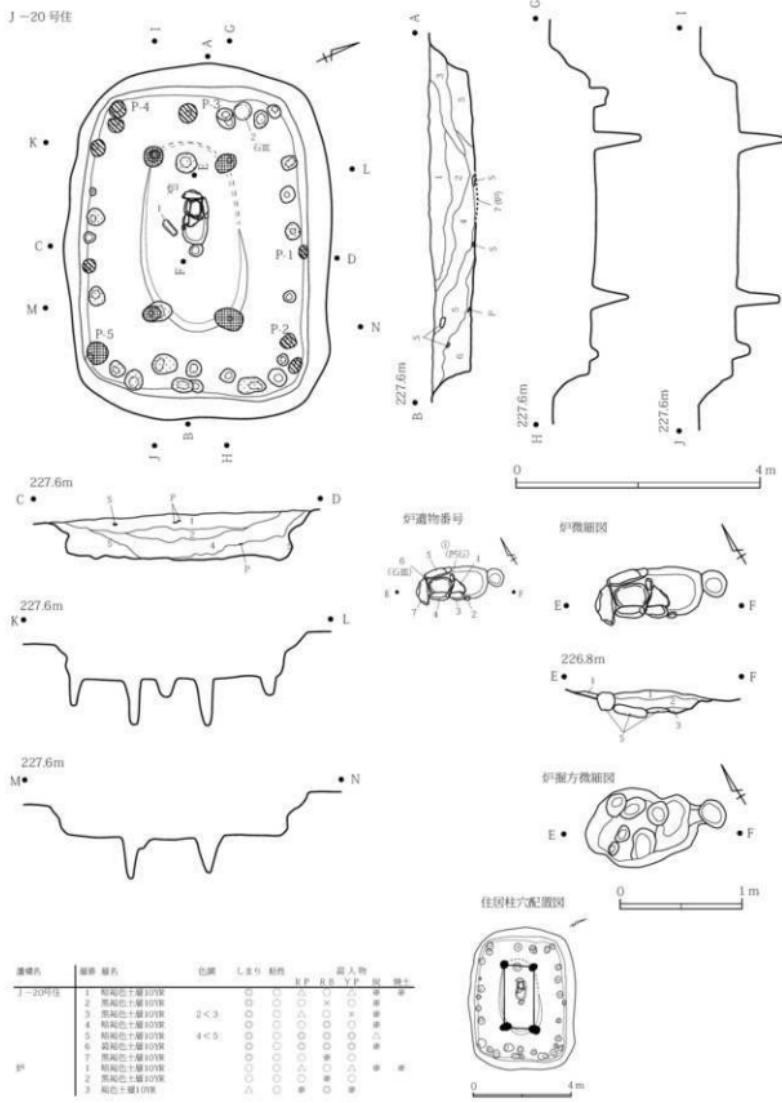


第37図 三本木II遺跡(縄文) J-19号住居址実測図(1)

J-19号住

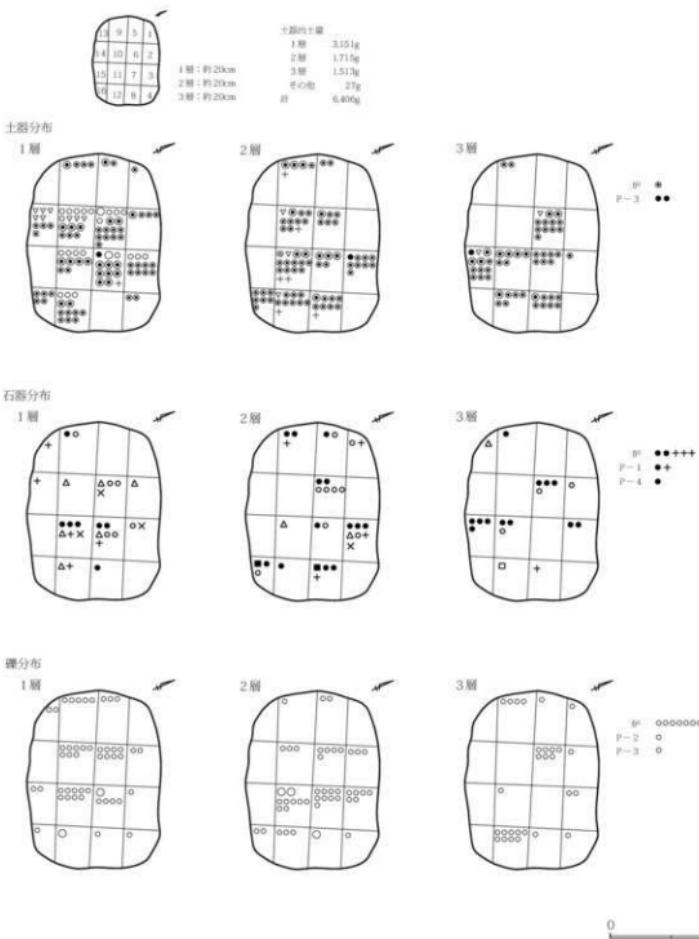


第38図 三本木II遺跡（縄文）J-19号住居址実測図（2）

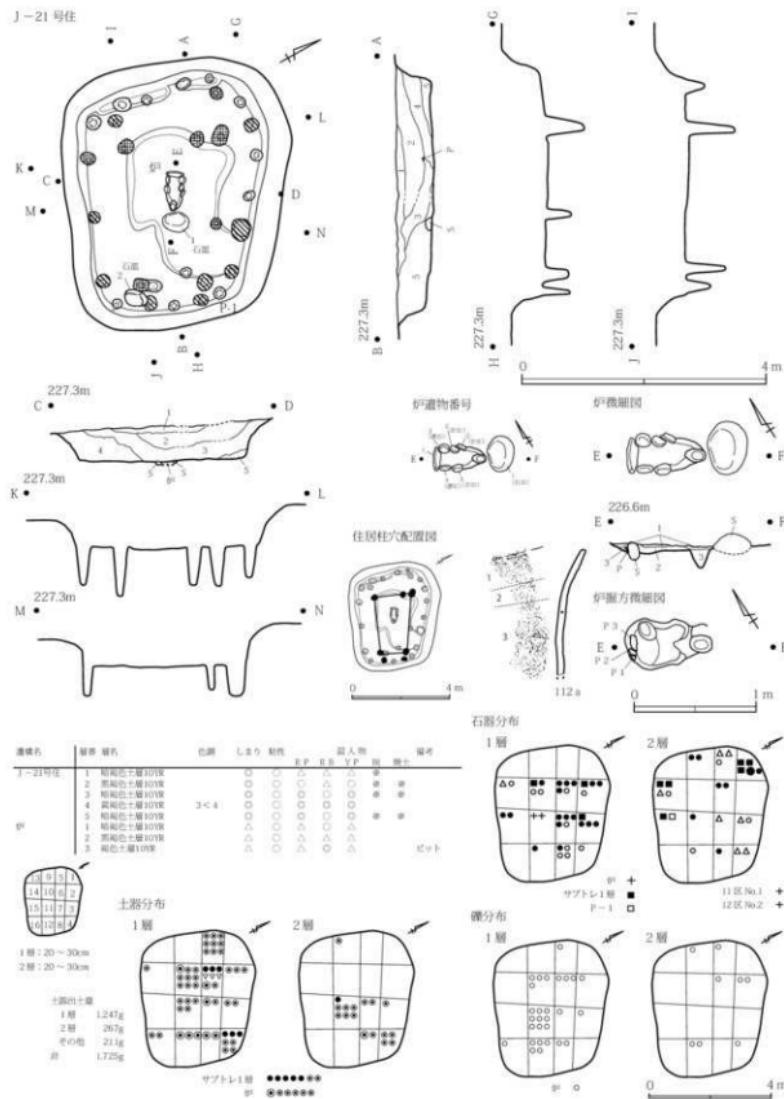


第39図 三本木II遺跡（縄文） J-20号住居址実測図（1）

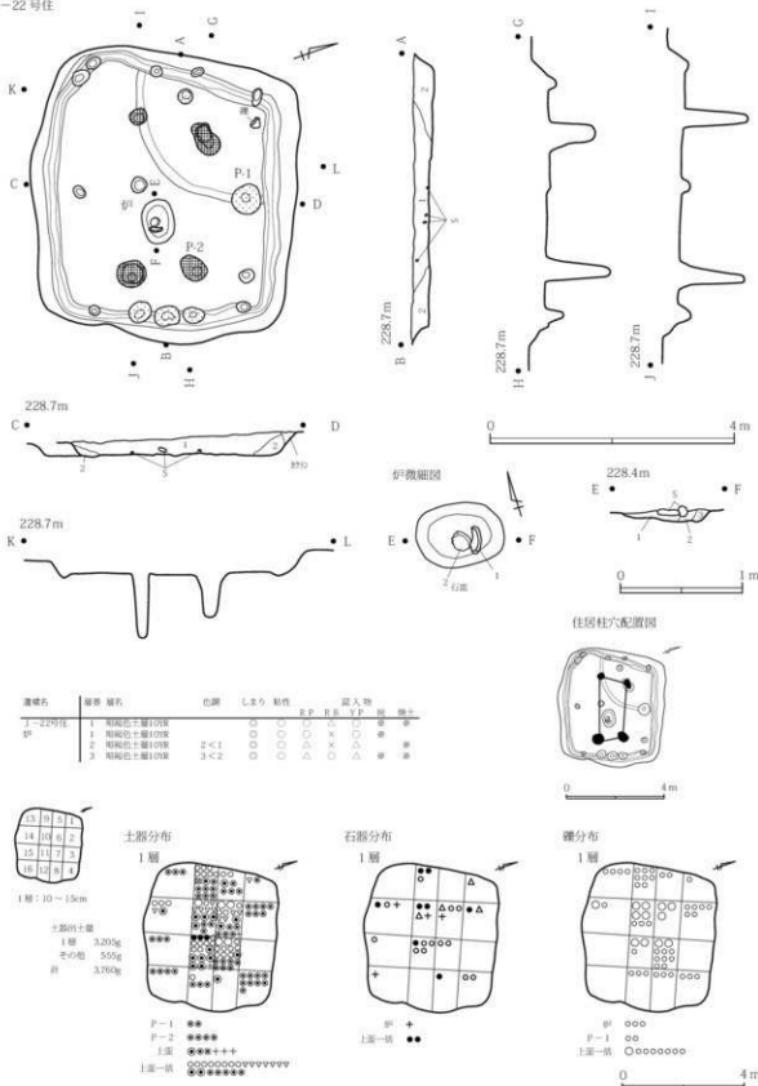
J-20号住



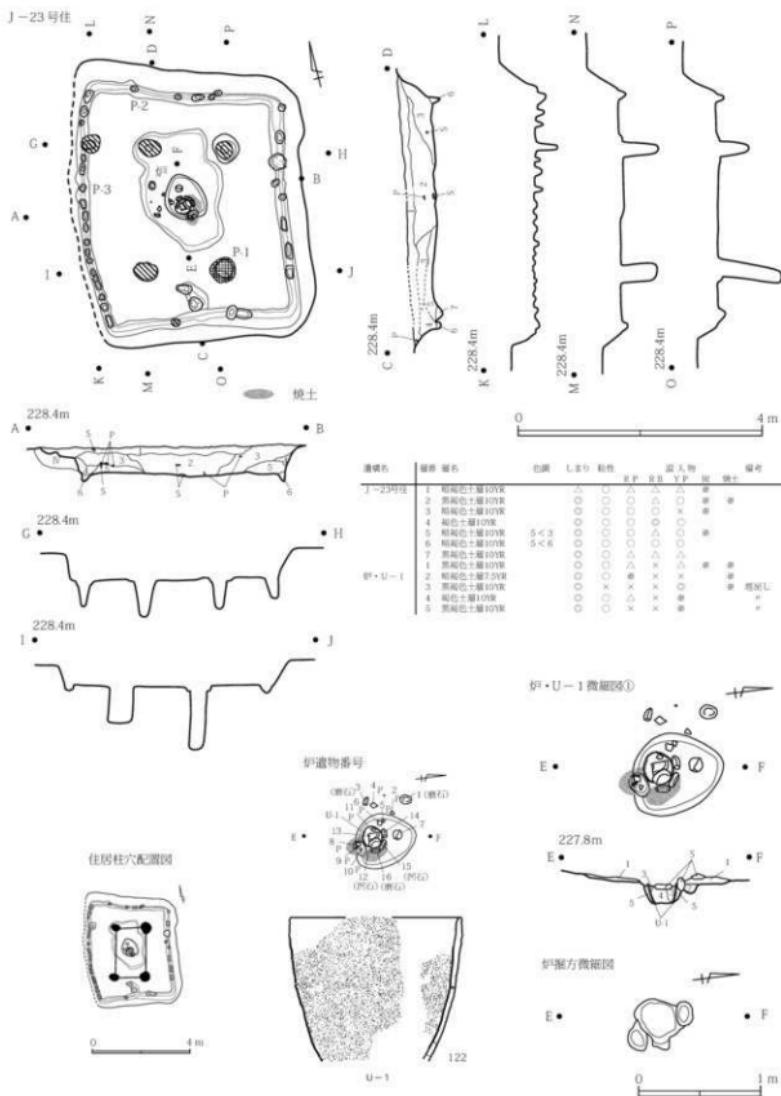
第40図 三本木II遺跡（縄文）J-20号住居址実測図（2）



J-22号住



第42図 三本木II遺跡（縄文） J-22号住居址実測図



第43図 三本木II遺跡(縄文) J-23号住居址実測図(1)

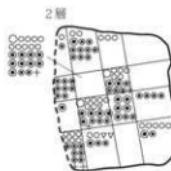
J-23号住



土器出土量
1層 2.201g
2層 3.649g
その他 480g
計 6.330g

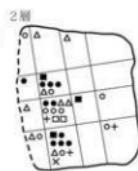
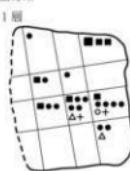
1層: 10~20cm
2層: 20~40cm

土器分布

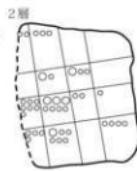
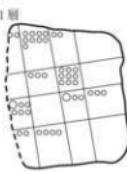


I区周溝 *
P-1 ○○○○○○○○●●
P-2 *
P-3 ■■
上面一階 *****

石器分布



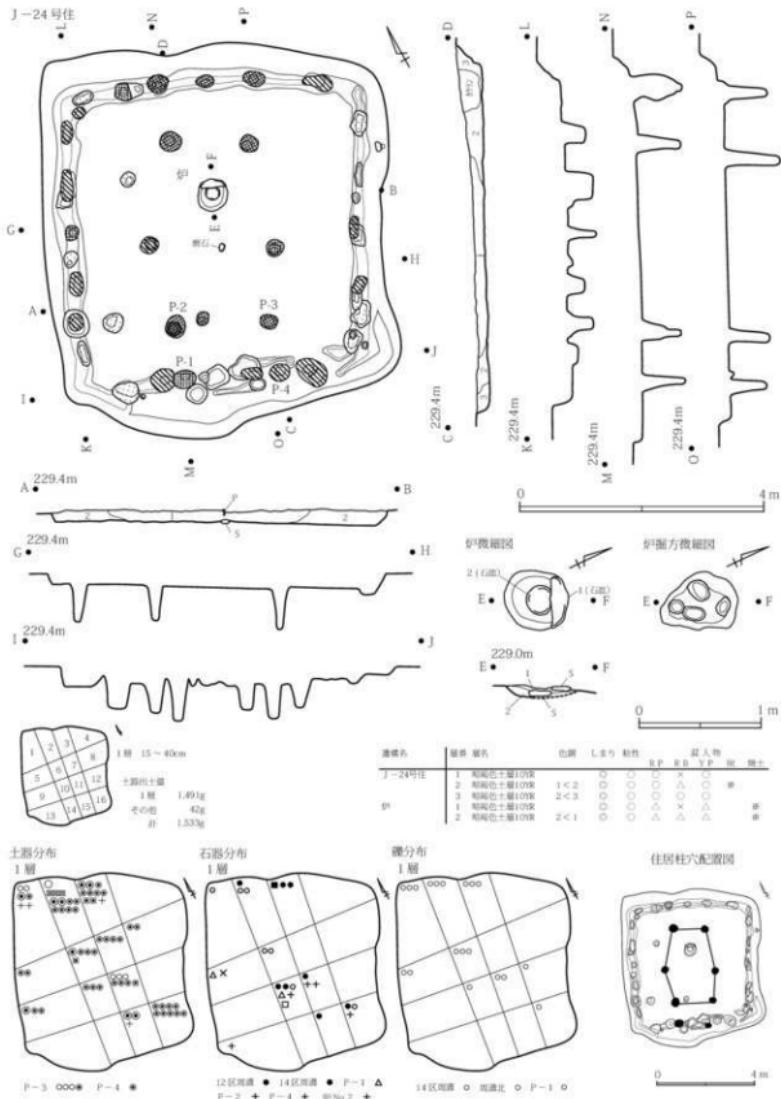
磚分布



ベルト P-1 ○○
上層一階 ○○

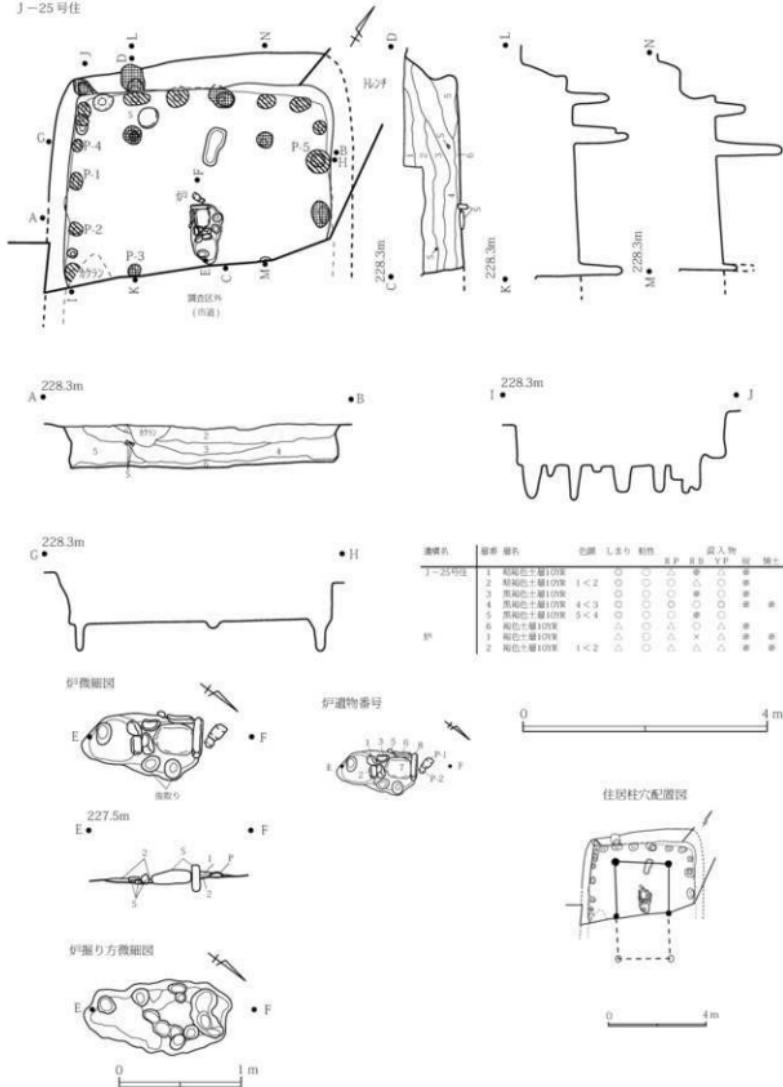
0 4 m

第44図 三本木II遺跡(縄文) J-23号住居址実測図(2)



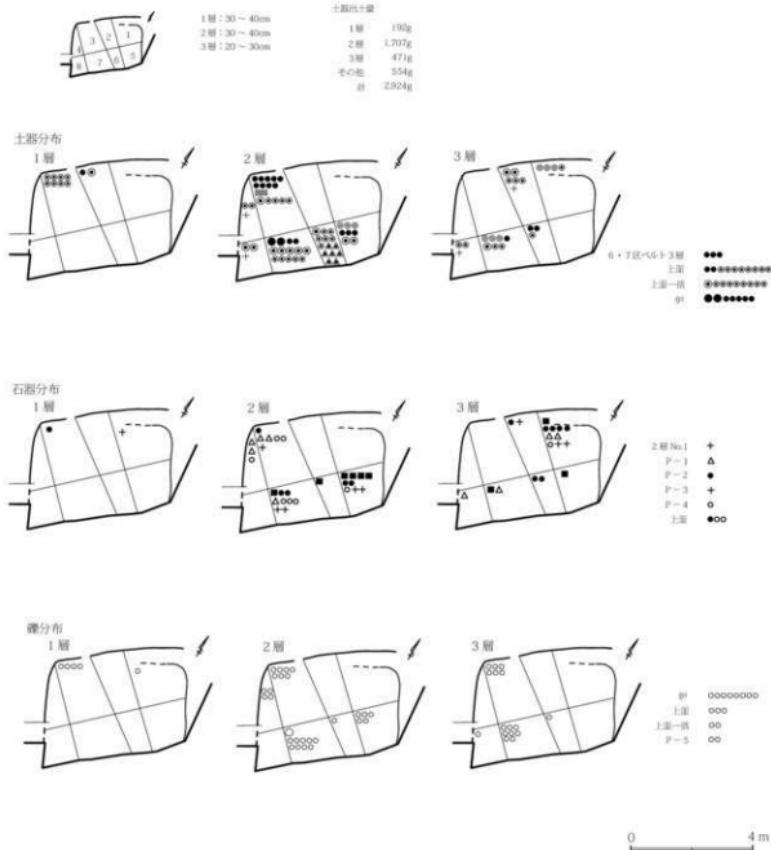
第45図 三本木II遺跡(縄文) J-24号住居址実測図

J-25号住

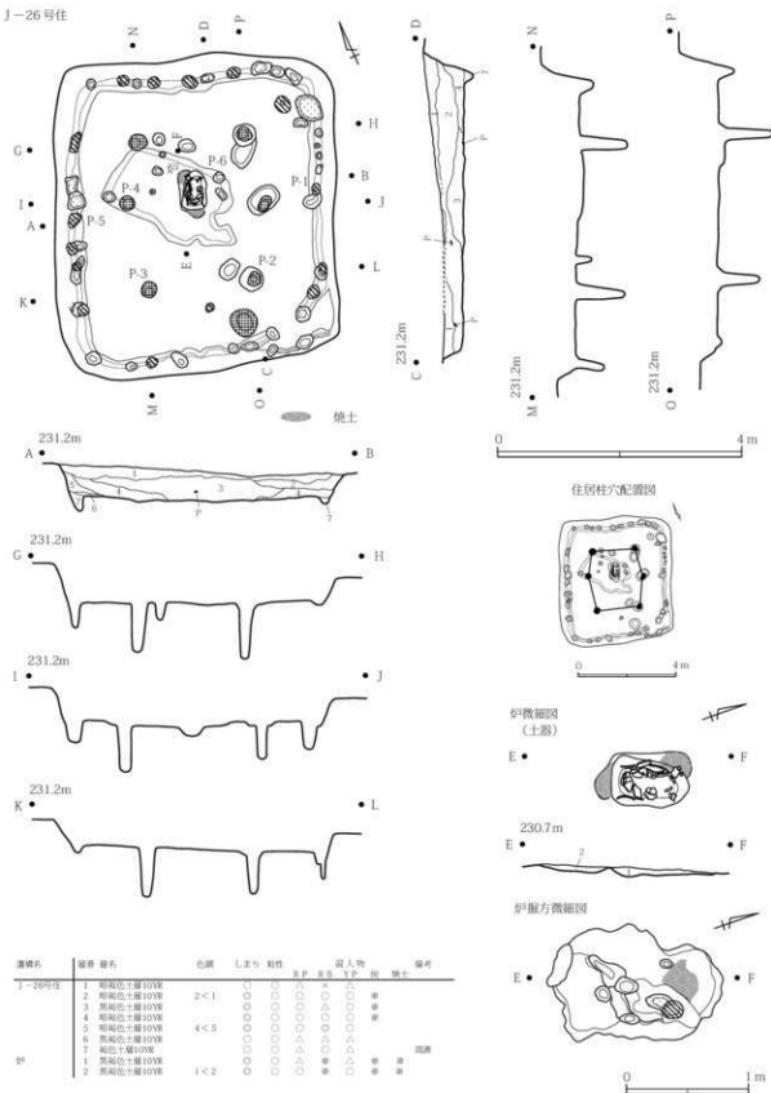


第46図 三本木II遺跡(縄文) J-25号住居址実測図(1)

J-25号住

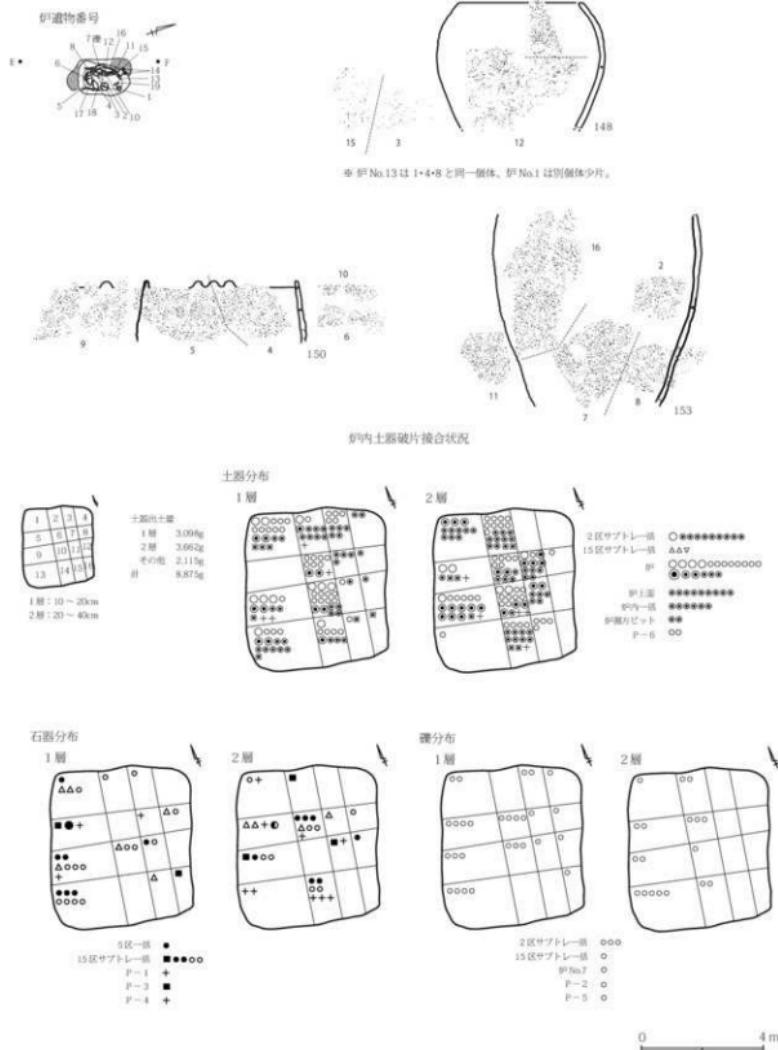


第47図 三本木II遺跡（縄文） J-25号住居址実測図（2）

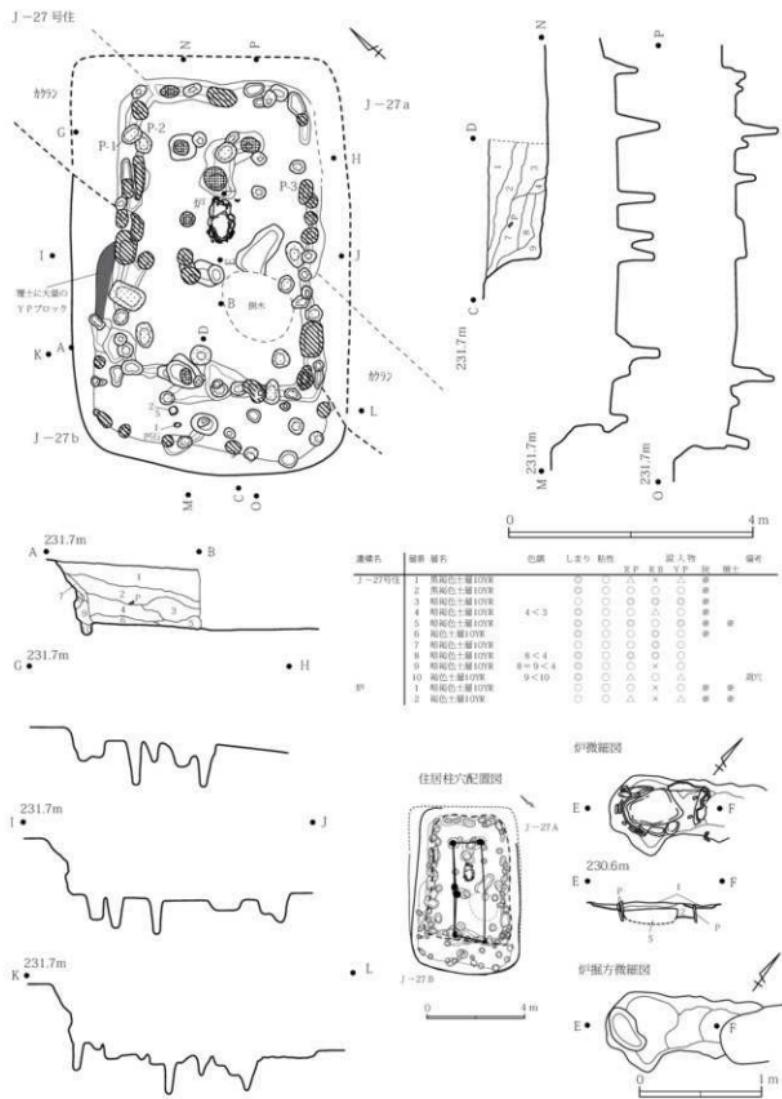


第48図 三本木II遺跡（縄文） J-26号住居址実測図（1）

J-25号住



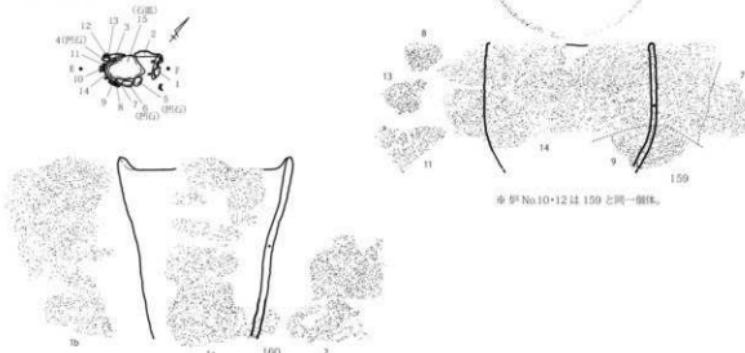
第49図 三本木II遺跡（縄文） J-26号住居址実測図（2）



第50図 三本木II遺跡(縄文) J-27号住居址実測図(1)

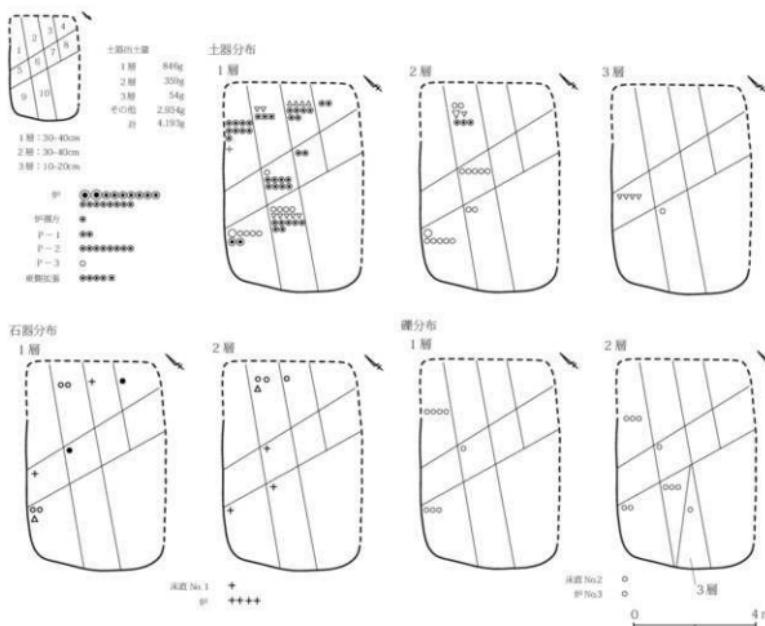
J-27号住

炉遺物番号

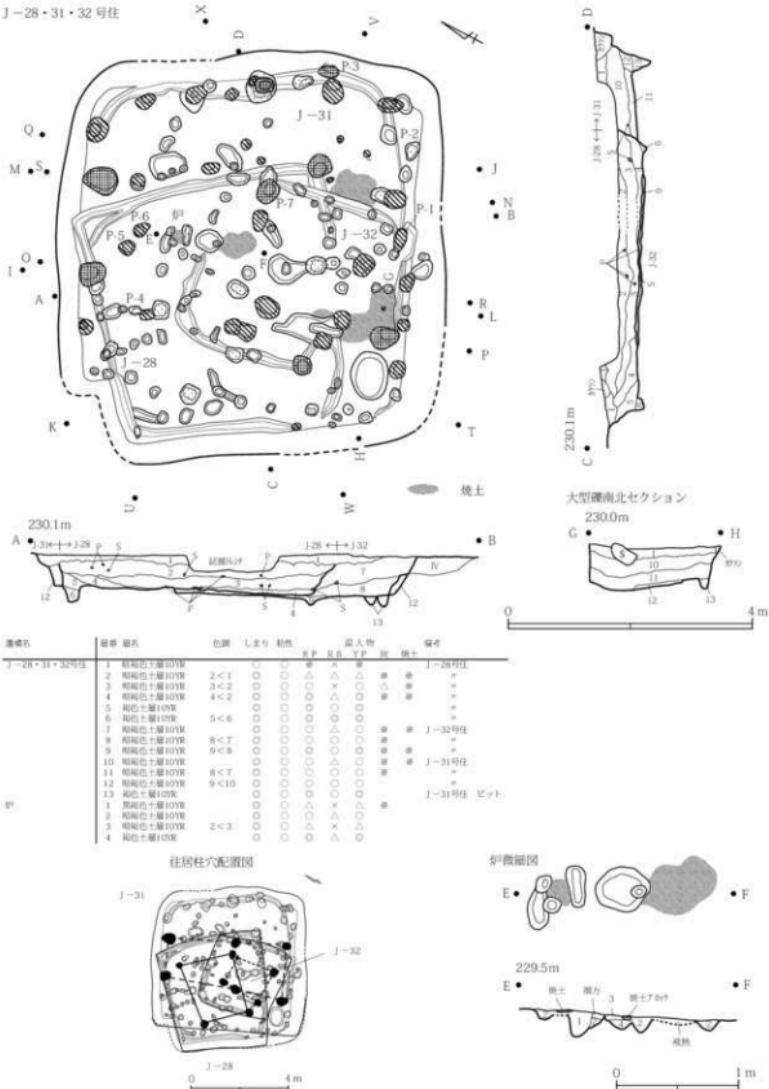


歩炉 No.10・12は159と同じ側壁。

炉内出土土器破片接合関係

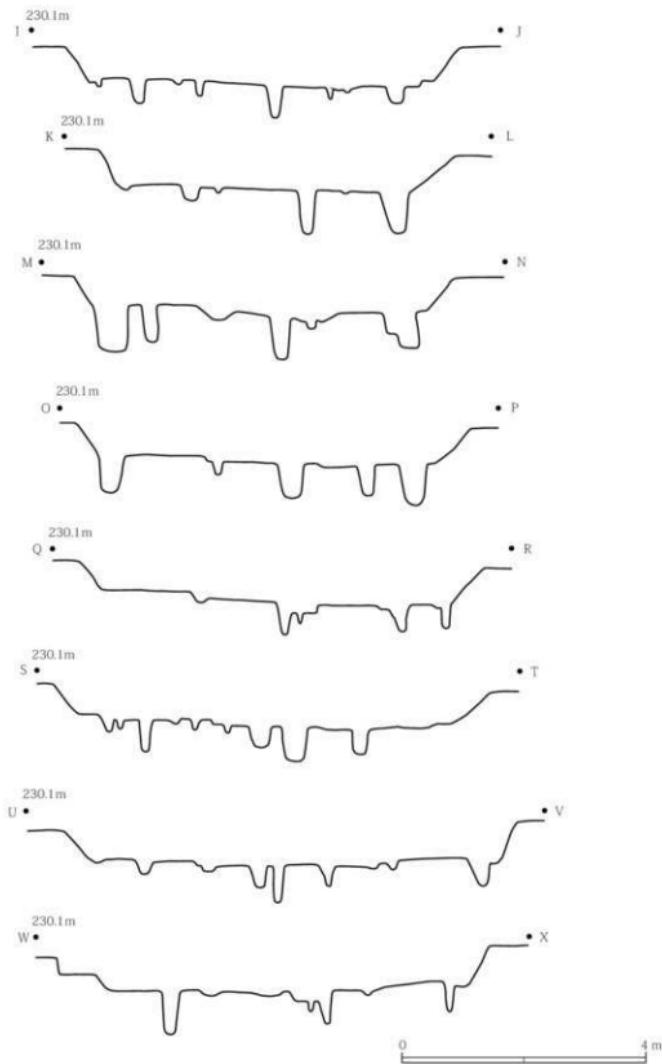


第51図 三本木II遺跡(縄文) J-27号住居址実測図(2)



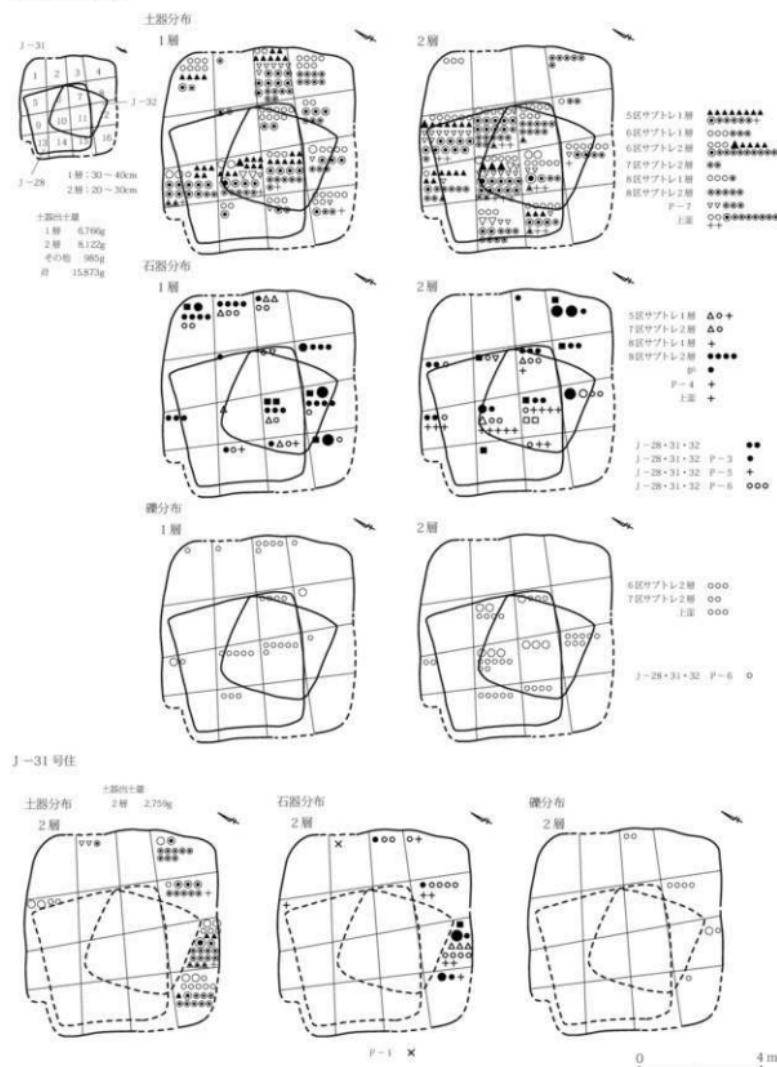
第52図 三本木II遺跡（縄文） J-28・31・32号住居址実測図（1）

J - 28 • 31 • 32 号住



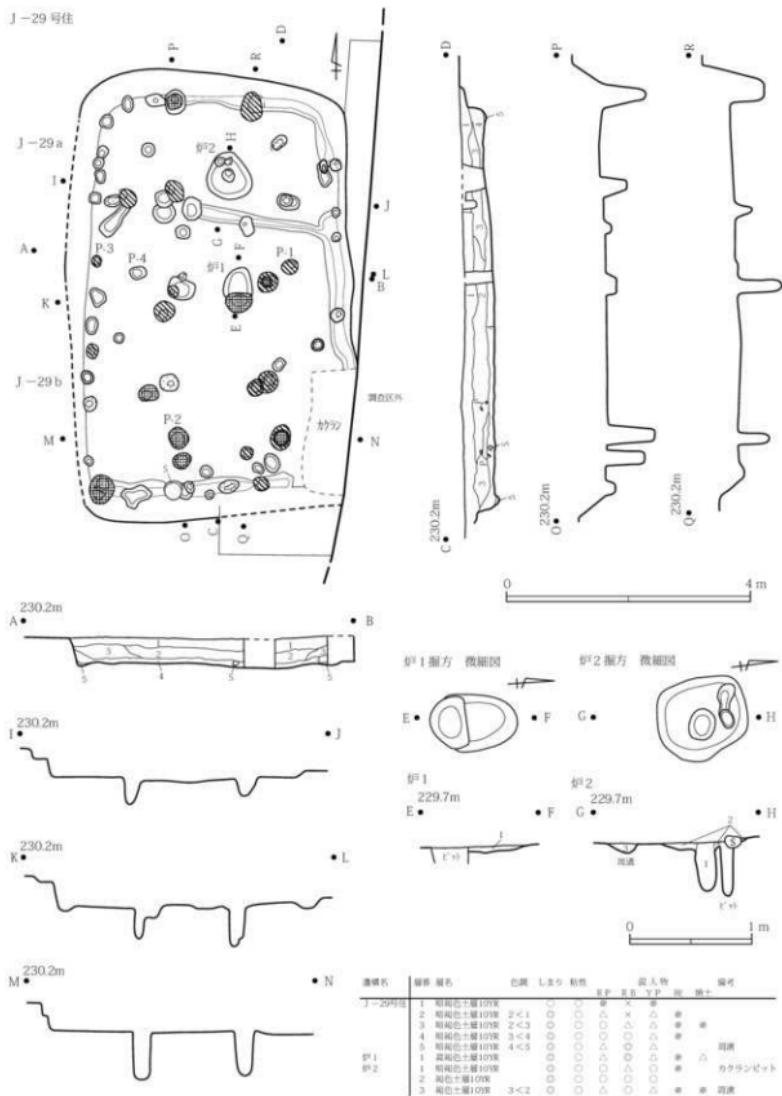
第 53 図 三本木 II 遺跡（縄文） J - 28 • 31 • 32 号住居址実測図（2）

J-28・31・32号住



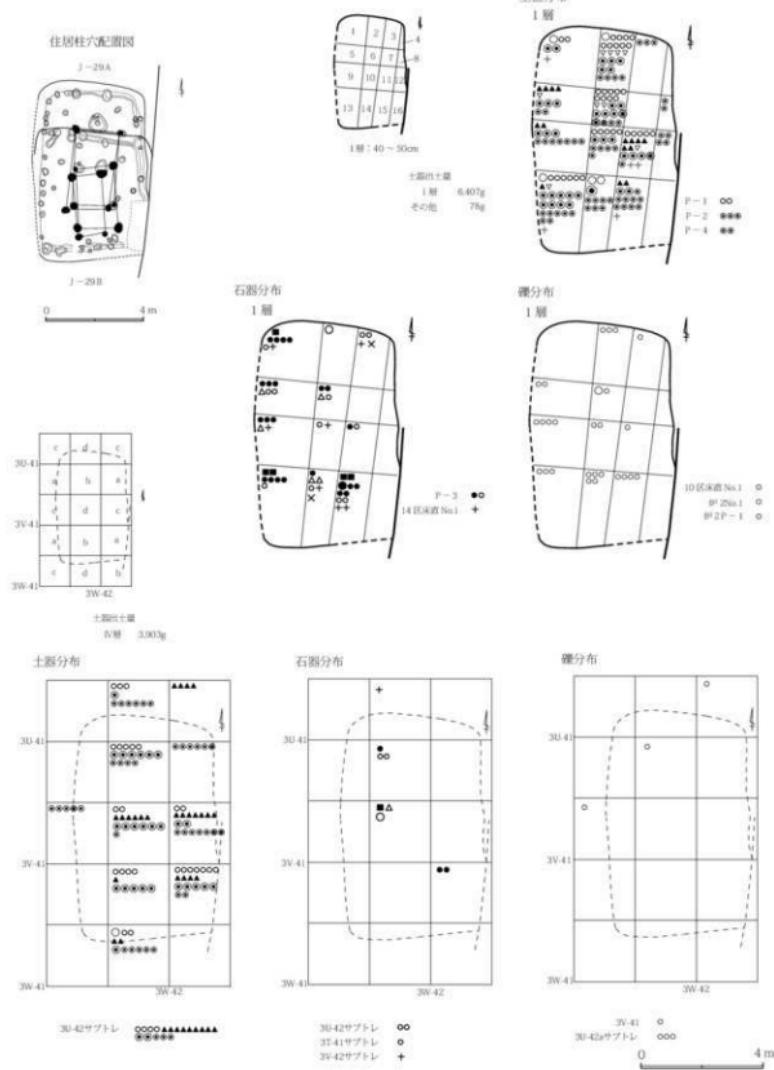
第54図 三本木II遺跡(縄文) J-28・31・32号住居址実測図(3)

J-29号住

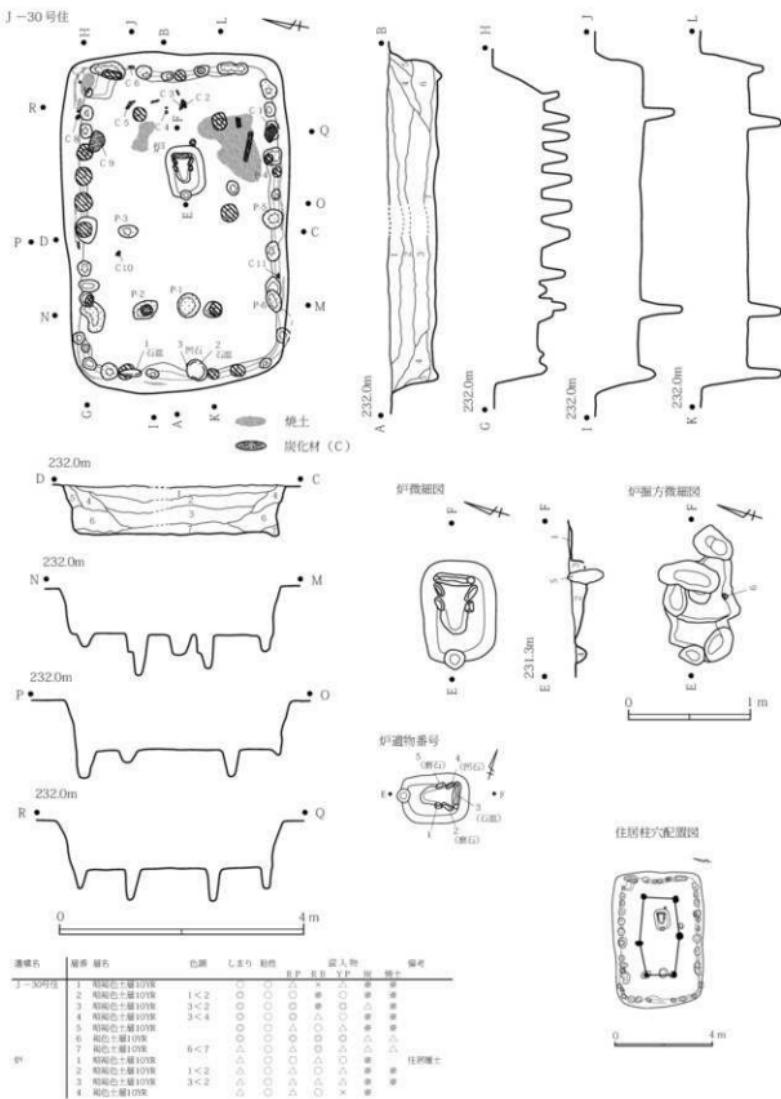


第55図 三本木II遺跡(縄文) J-29号住居址実測図(1)

J-29号住



第56図 三本木II遺跡（縄文） J-29号住居址実測図（2）



第57図 三本木II遺跡(縄文) J-30号住居址実測図(1)

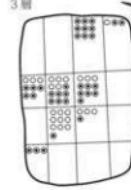
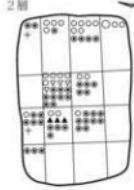
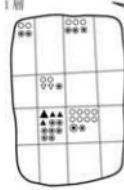
J-30号住



土露出量
1層 5.20kg
2層 7.69kg
3層 5.86kg
その他 3.95kg
計 23.60kg

1層: 20 ~ 30cm
2層: 30 ~ 40cm
3層: 20 ~ 30cm

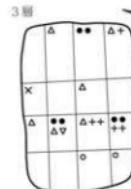
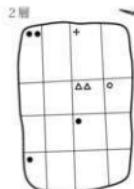
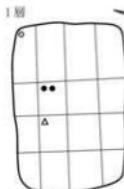
土器分布



7区サブトレ1層 ○○○○○○○
11区サブトレ1層 * * * * +
P-3 *

P-6 ○

石器分布

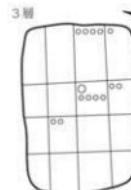
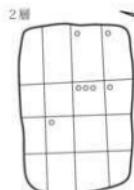
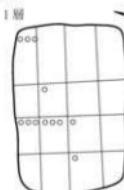


7区サブトレ1層 ●△
11区サブトレ1層 X
ベルト3層 ●

5区灰窓No.1 +
9区灰窓No.2 +
9区灰窓No.3 +

P-1 + + + +
P-4 +
P-5 △

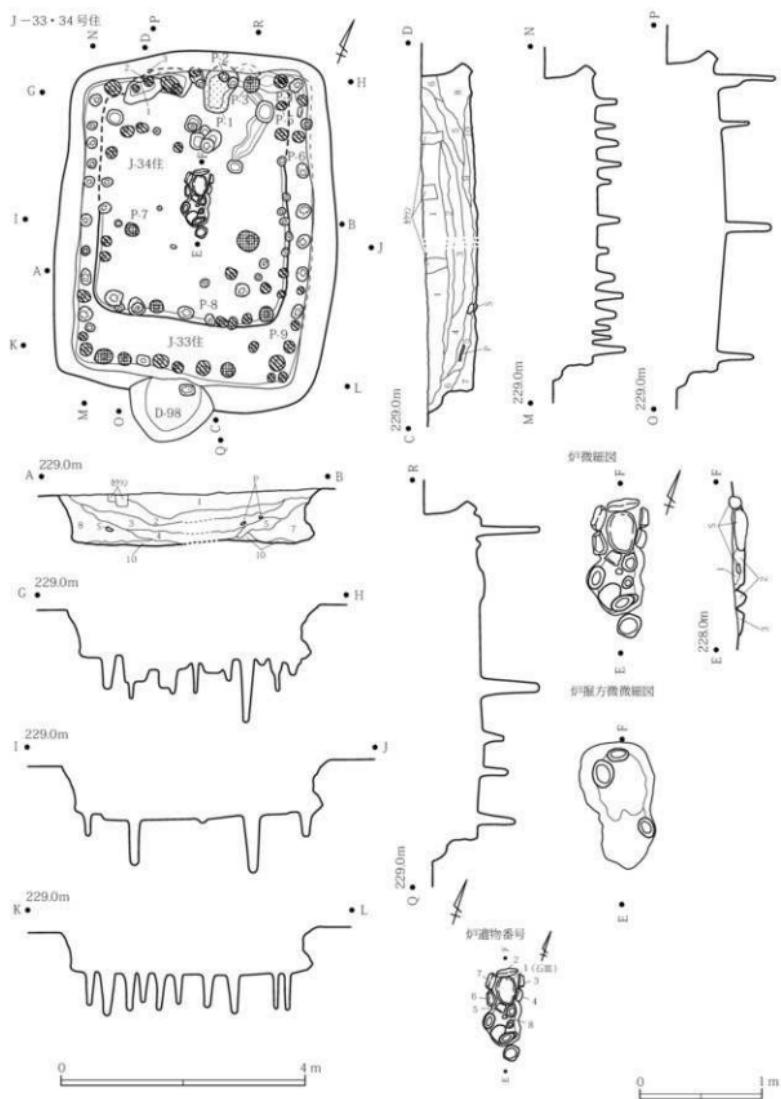
礫分布



11区サブトレ1層 ○
P-1 ○
P-2 ○

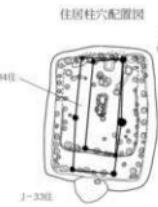
0 4 m

第58図 三本木II遺跡(縄文) J-30号住居址実測図(2)



第59図 三本木II遺跡(縄文) J-33・34号住居址実測図(1)

J-33・34号住



342 T. Saito

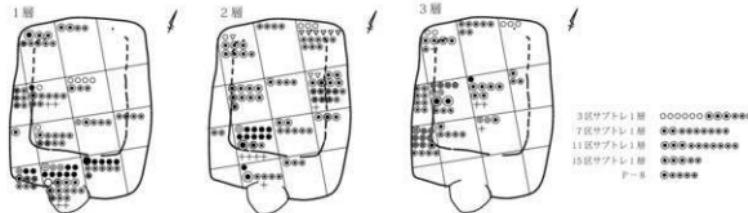
碱化组 黏液



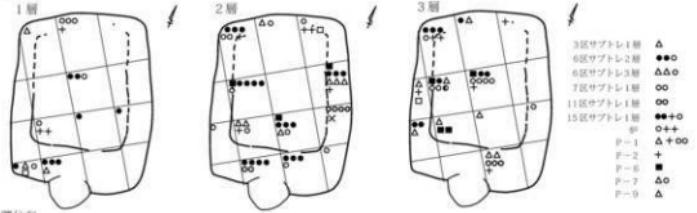
土壤微生物

1組	30-40cm	2組	5.6-45
2組	約20cm	3組	3.908
3組	約20cm	その他	1.494
		計	14.634

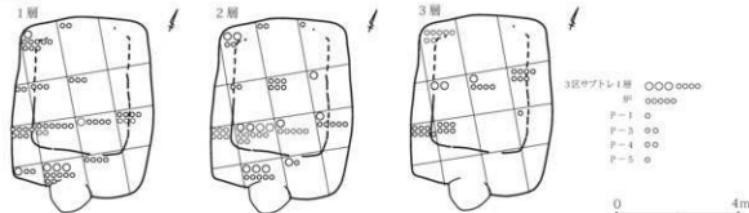
土壤分布



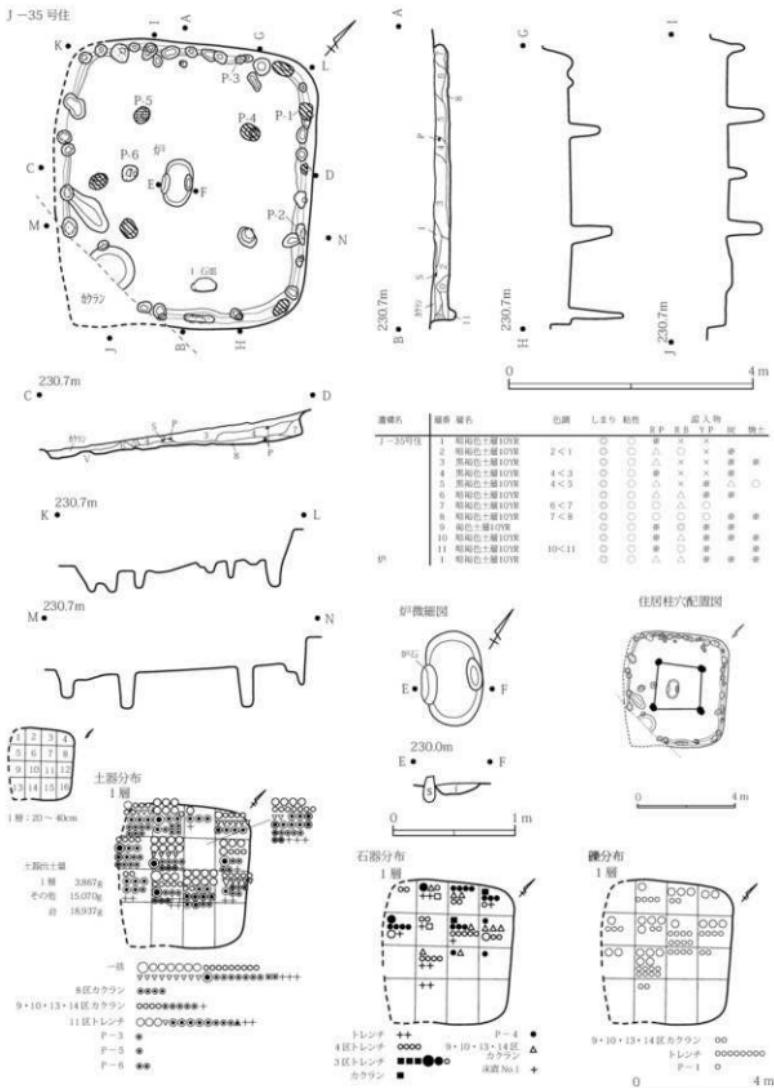
石器分布

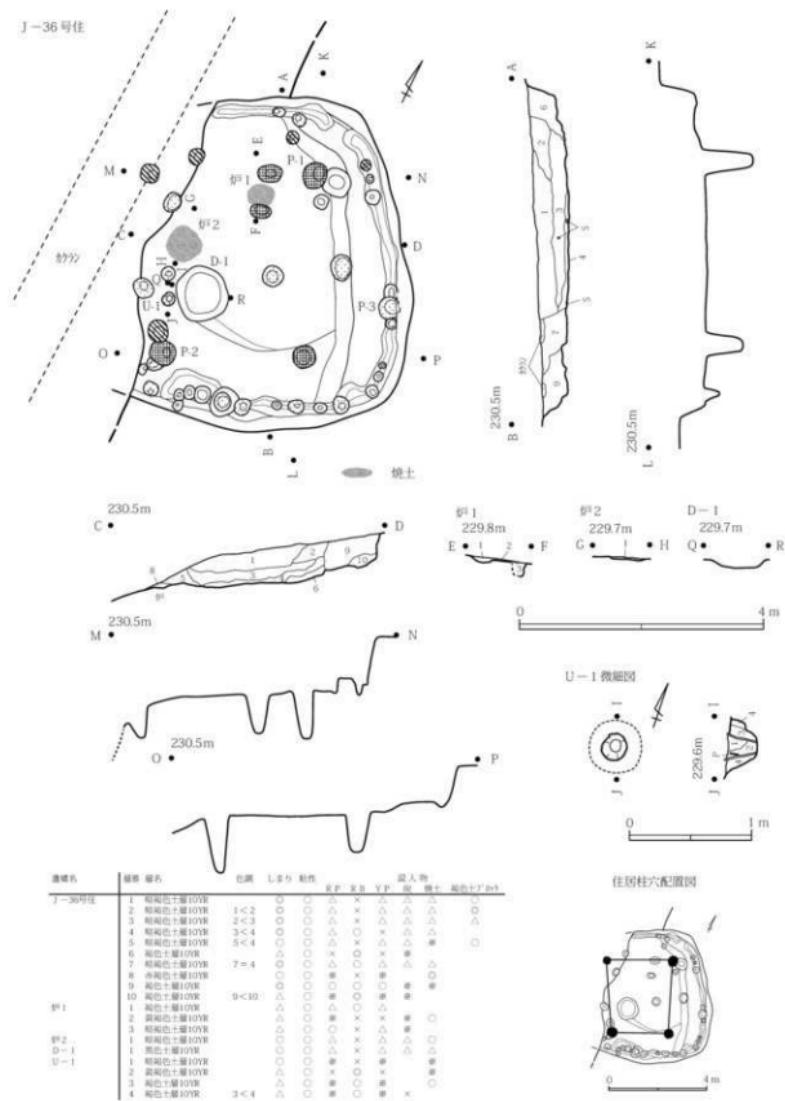


空间分布



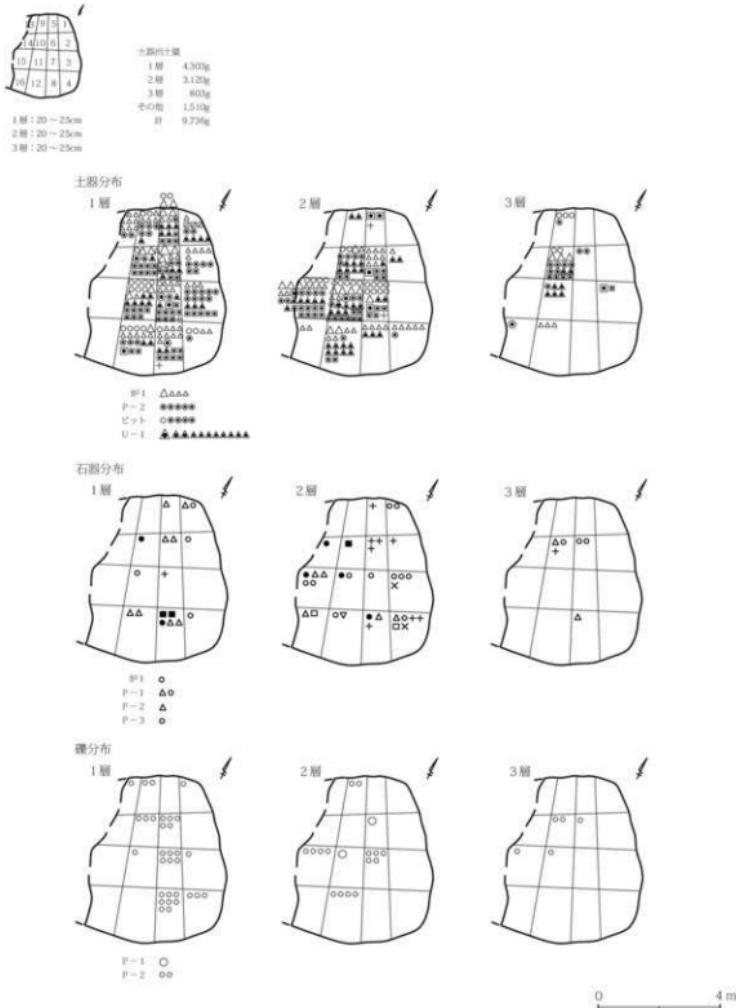
第60図 三本木II遺跡（縄文）J-33・34号住居址実測図（2）





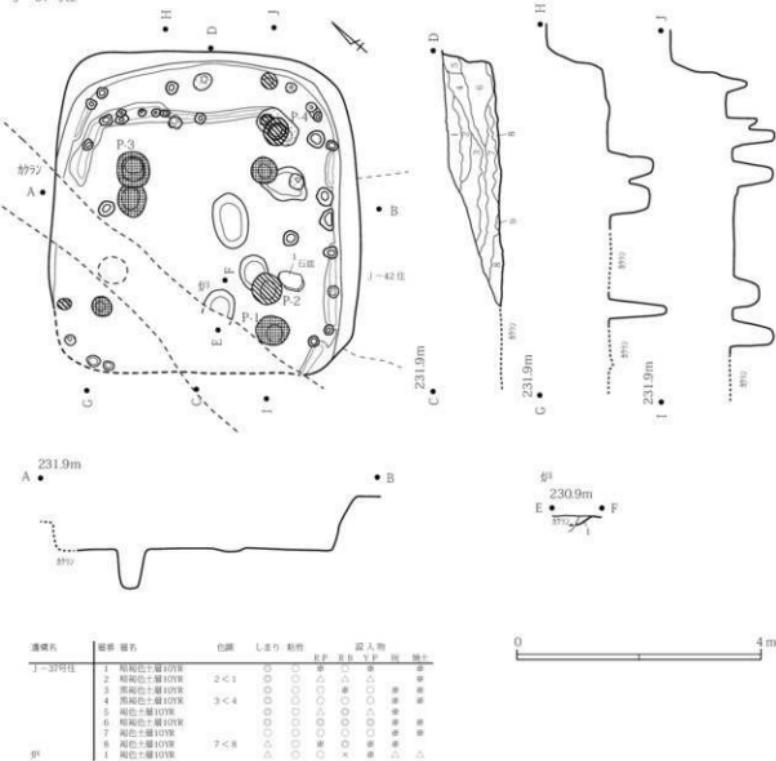
第62図 三本木II遺跡（縄文） J-36号住居址実測図（1）

J-36 号住

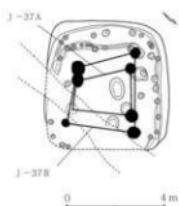


第63図 三本木II遺跡（縄文） J-36号住居址実測図（2）

J-37号住

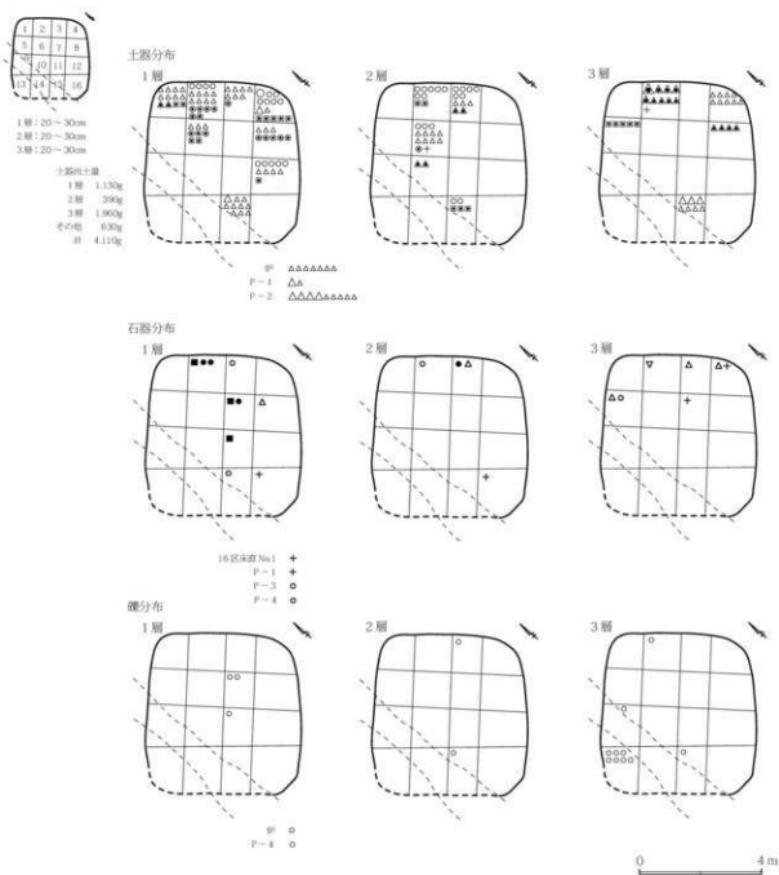


住居柱穴配置図



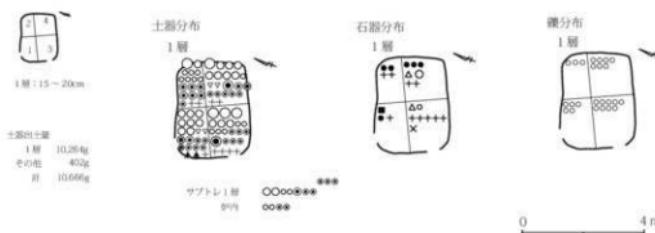
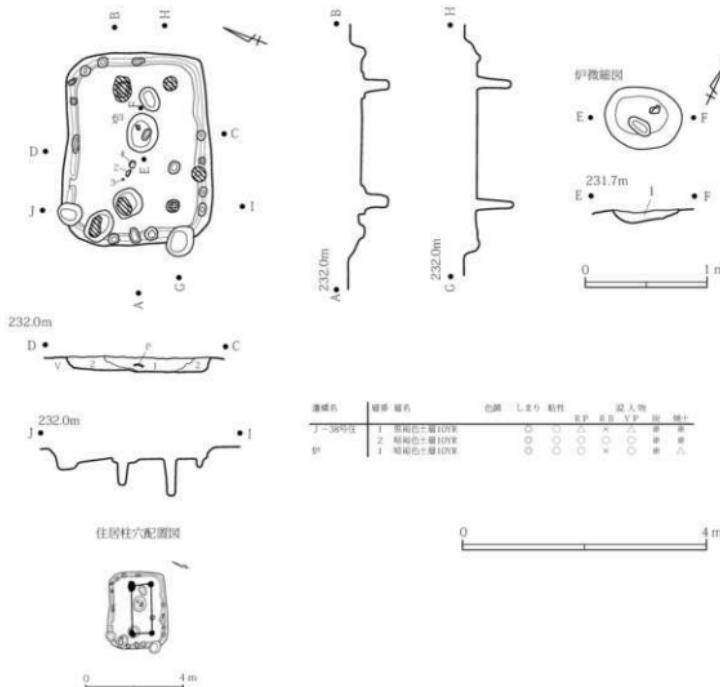
第64図 三本木II遺跡(縄文) J-37号住居址実測図(1)

J-37号住



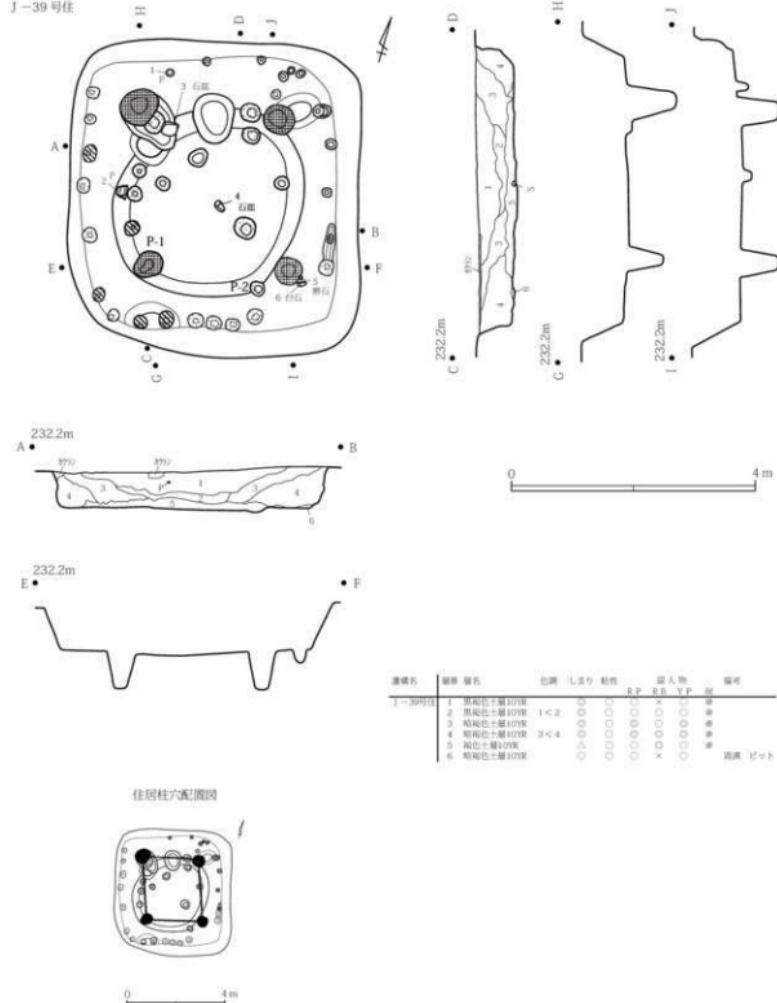
第65図 三本木II遺跡(縄文) J-37号住居址実測図(2)

J-38号住



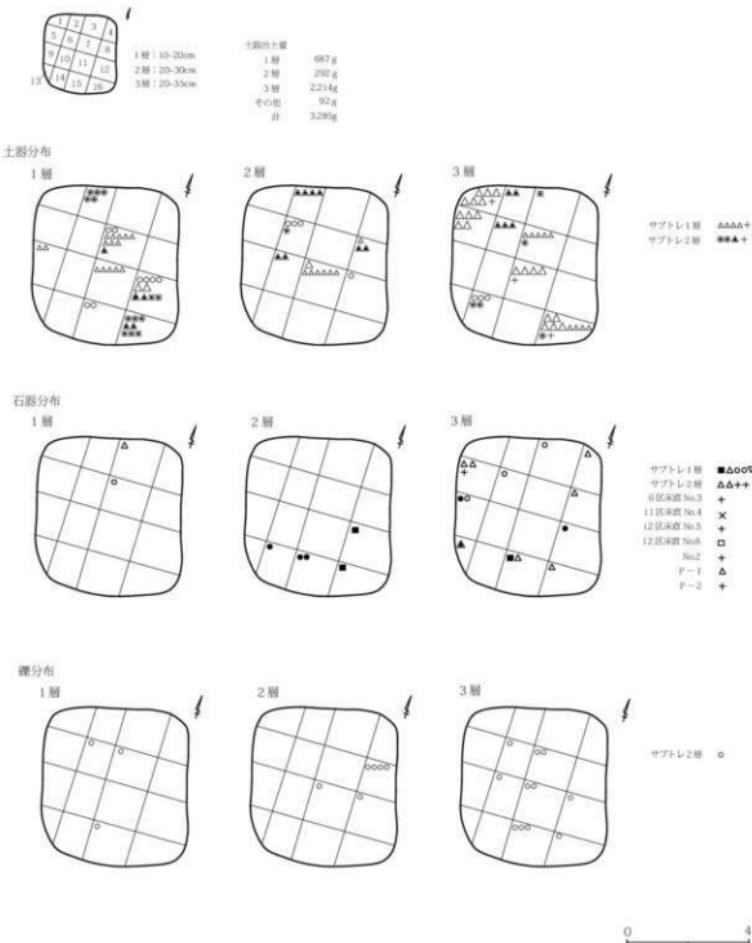
第66図 三本木II遺跡(縦文) J-38号住居址実測図

J-39号住

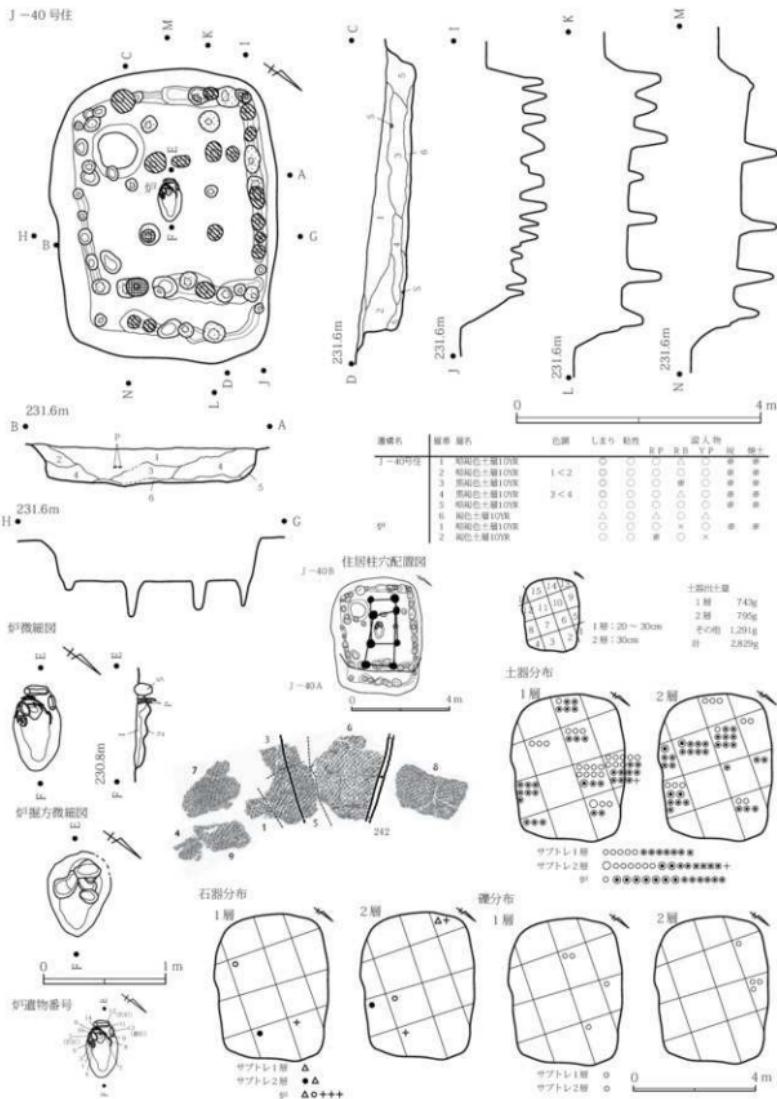


第67図 三本木II遺跡(縄文) J-39号住居址実測図(1)

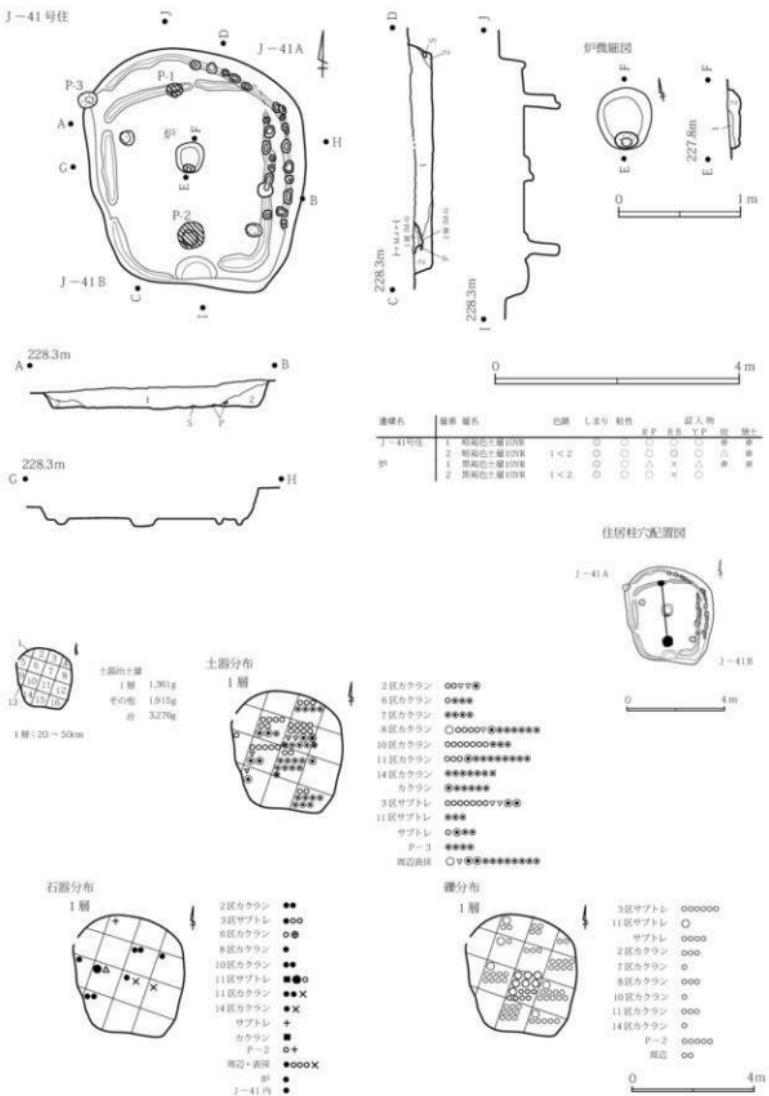
J-39号住



第68図 三本木II遺跡(縄文) J-39号住居址実測図(2)

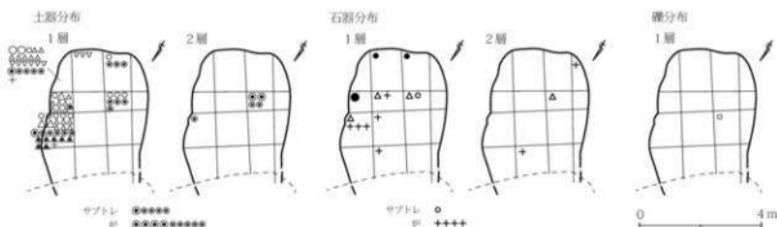
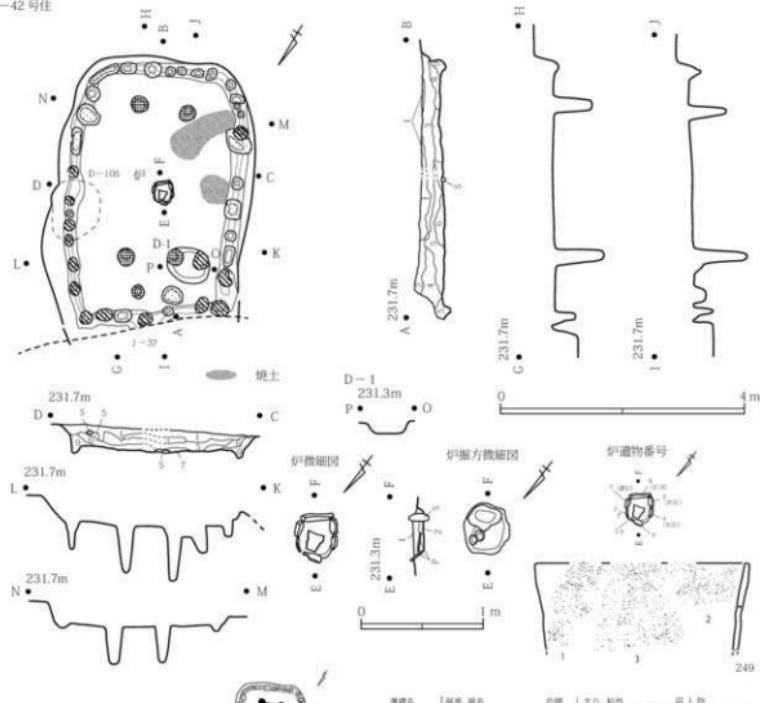


第69図 三本木II遺跡(縄文) J-40号住居址実測図

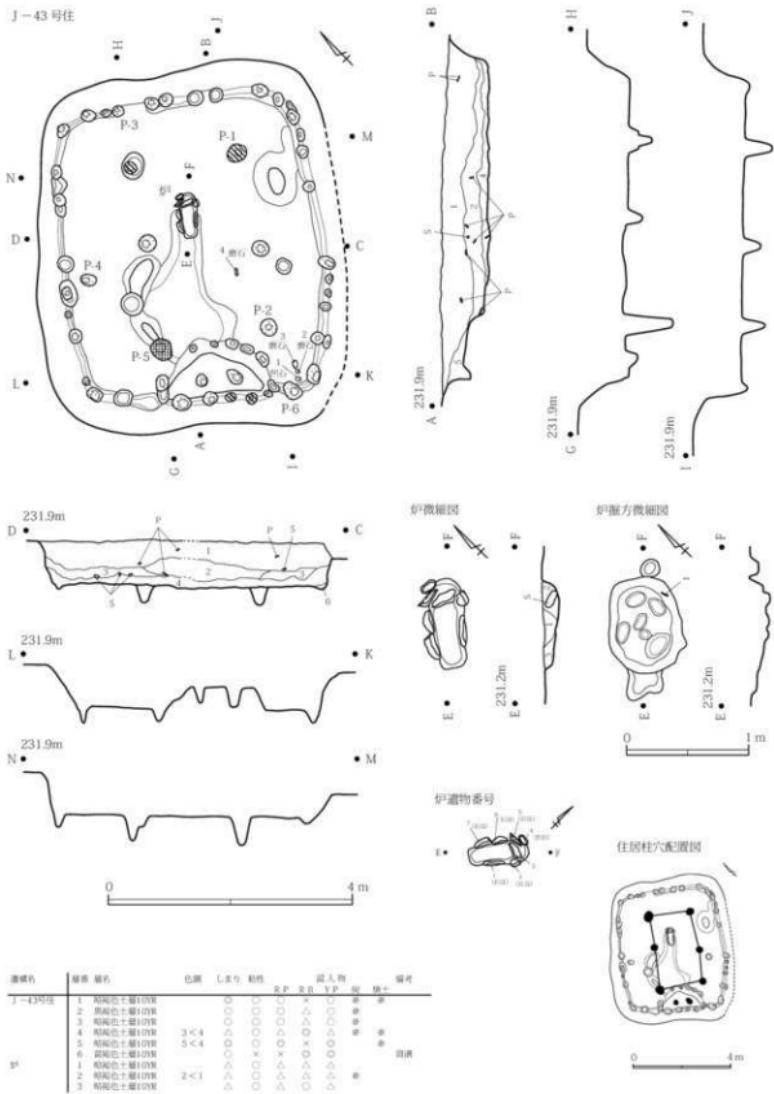


第70図 三本木II遺跡(縄文) J-41号居住址実測図

J-42 号住



第71図 三本木II遺跡（縄文） J-42号住居址実測図



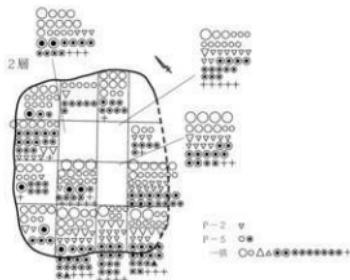
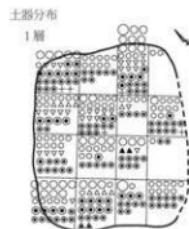
第72図 三本木II遺跡(縄文) J-43号住居址実測図(1)

J-43号住

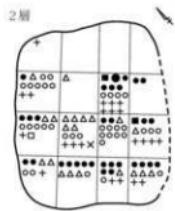
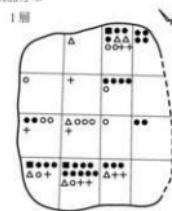


1層: 20~30cm
2層: 0~40cm

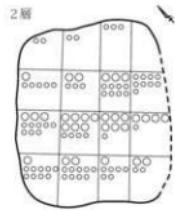
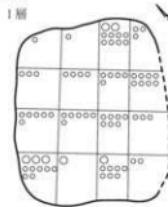
土器の重量
1層 11.22kg
2層 38.00kg
その他 52kg
計 49.76kg



石器分布

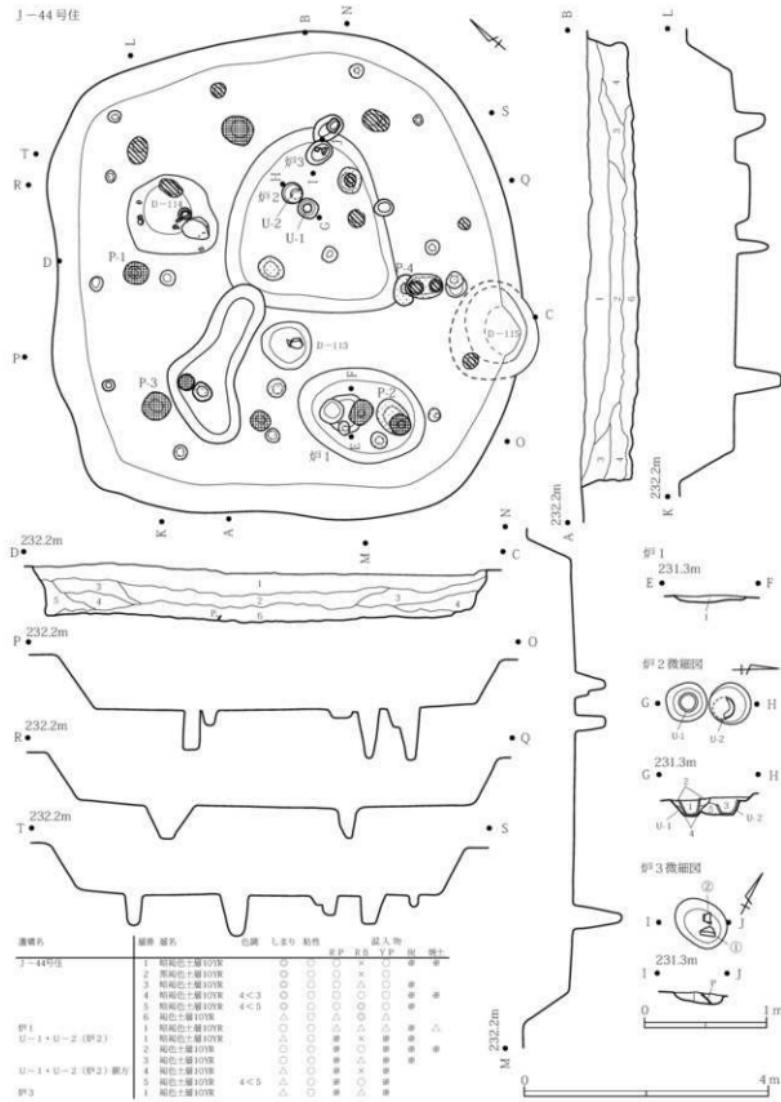


縄分布



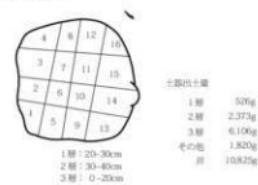
0 4 m

第73図 三本木II遺跡(縄文) J-43号住居址実測図(2)

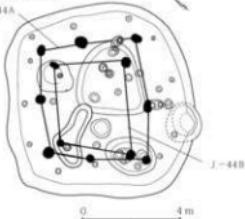


第74図 三本木II遺跡（縄文） J-44号住居址実測図（1）

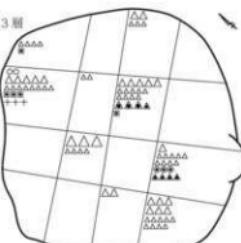
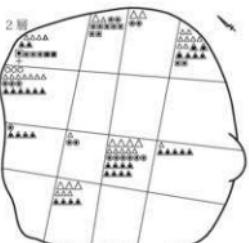
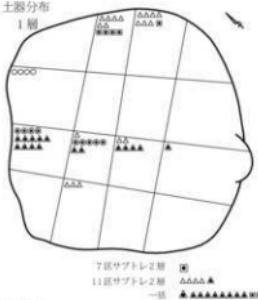
J-44 号住



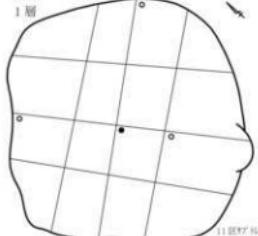
住居柱穴配置因



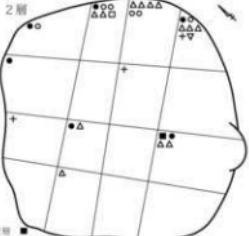
土壤分布



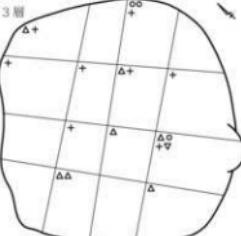
石器分布



2



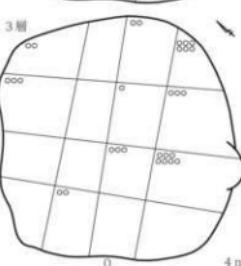
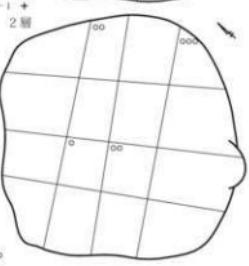
3層



體分布



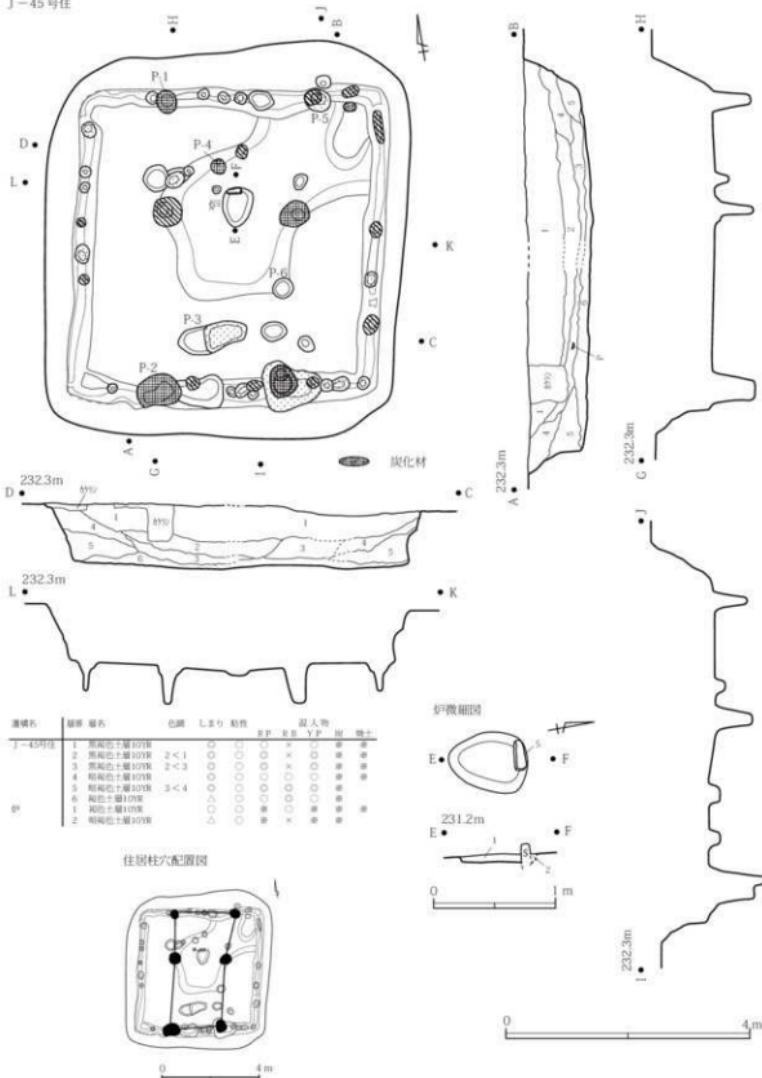
- 1 -



0 4 m

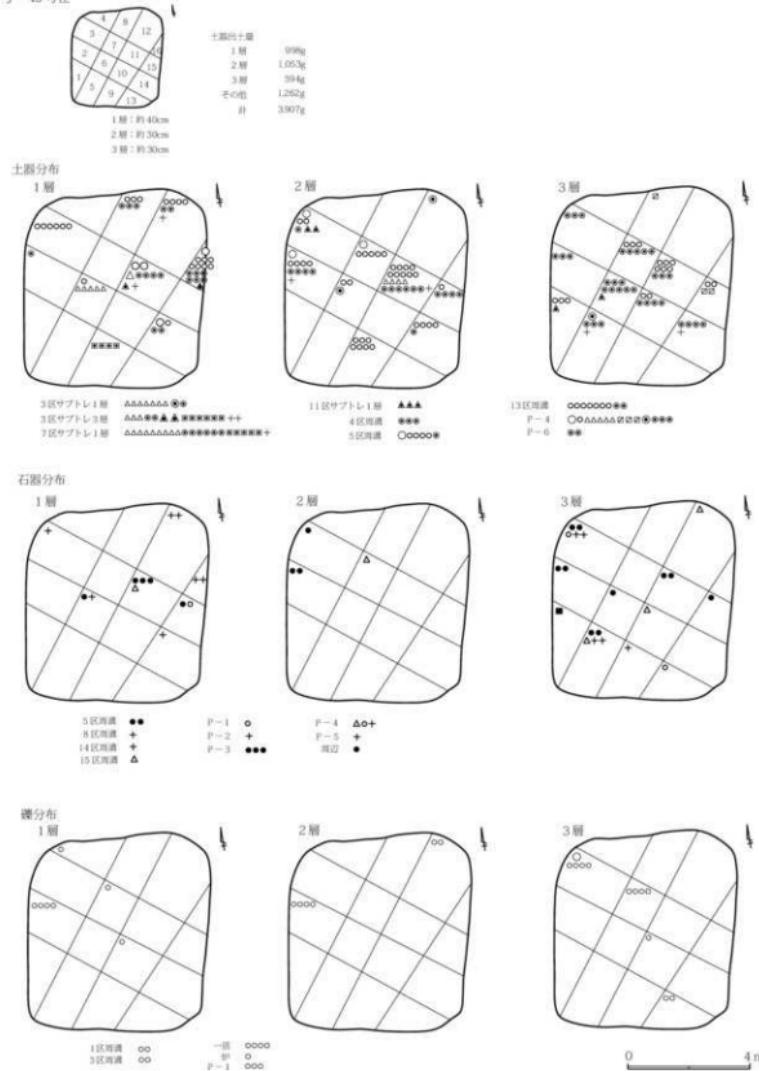
第75図 三本木II遺跡（縄文） J-44号住居址実測図（2）

J-45号住

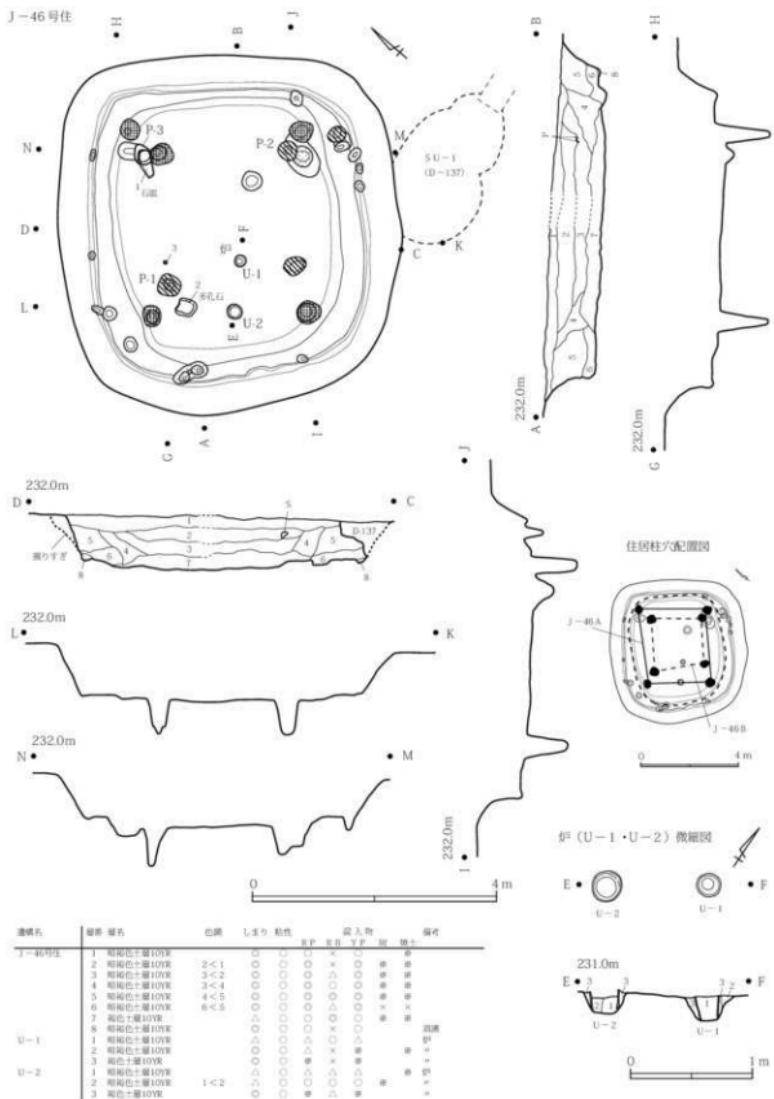


第76図 三本木II遺跡(縄文) J-45号住居址実測図(1)

J-45 号住



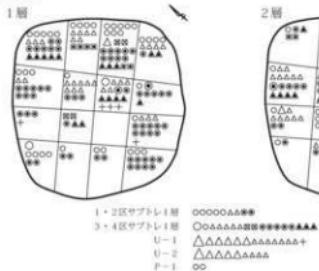
第77図 三本木II遺跡（縄文） J-45号住居址実測図（2）



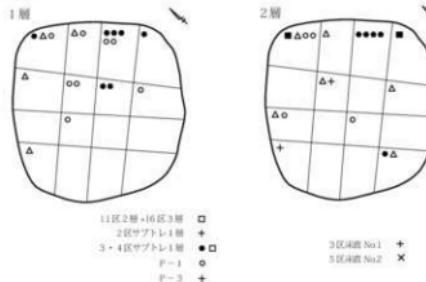
J-46 司佳



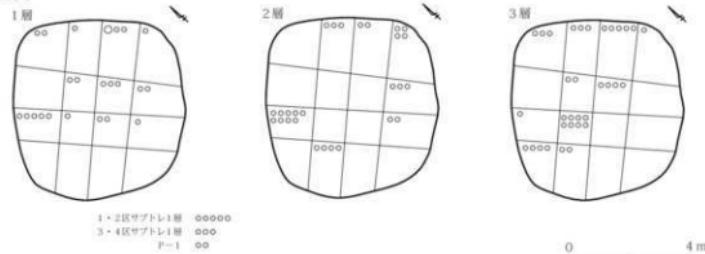
土壤分布



石器分布

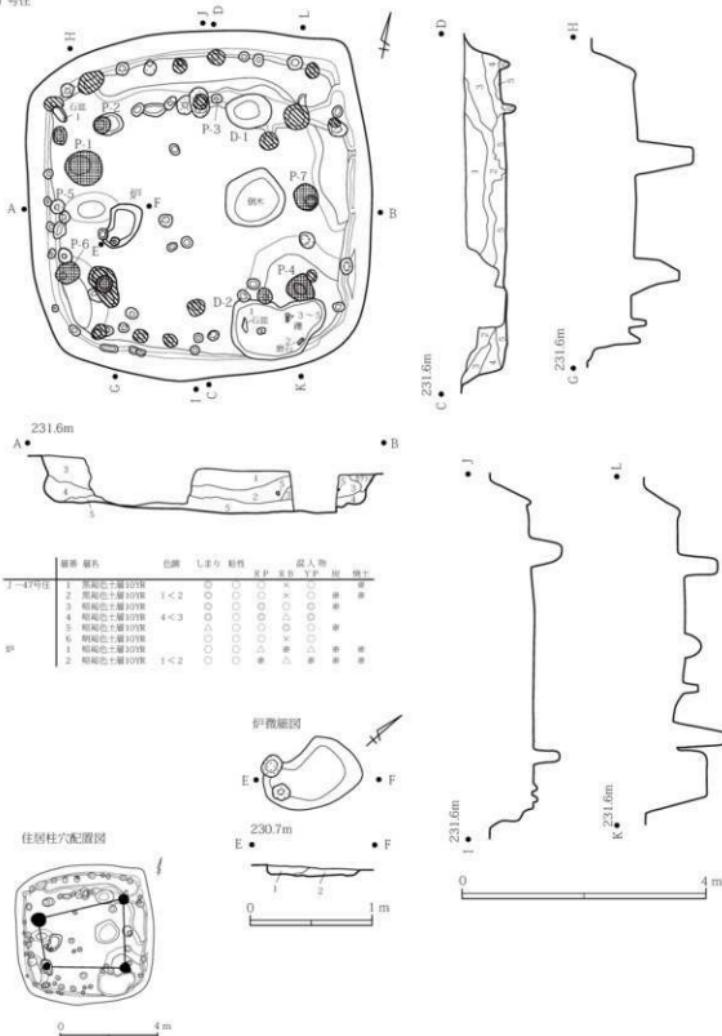


體分布



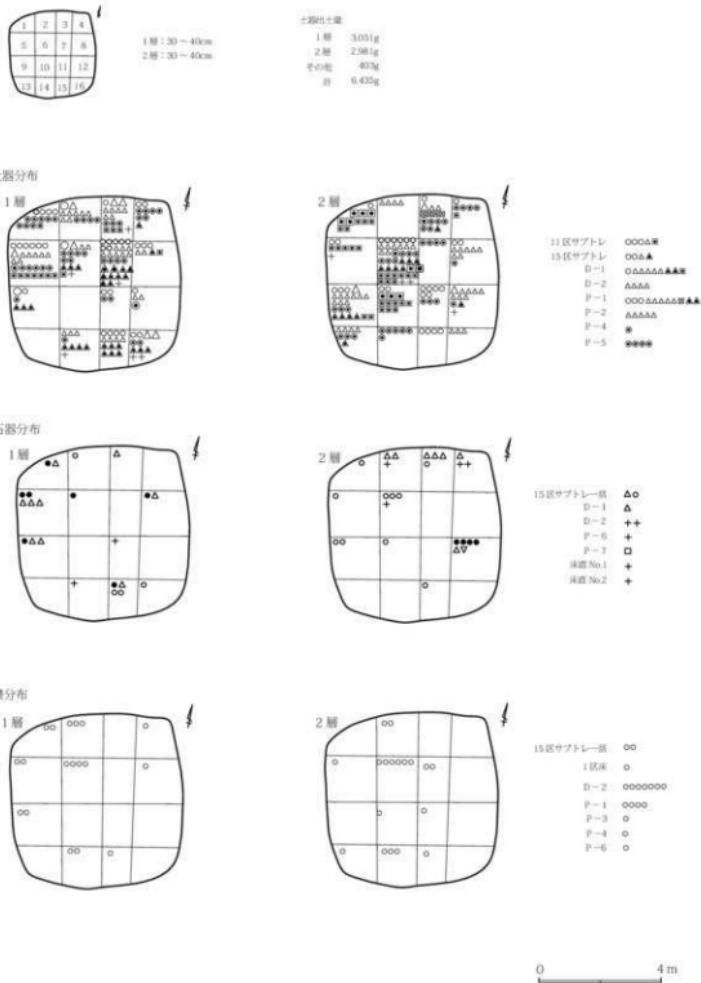
第79図 三本木II遺跡（縄文） J-46号住居址実測図（2）

J-47号住



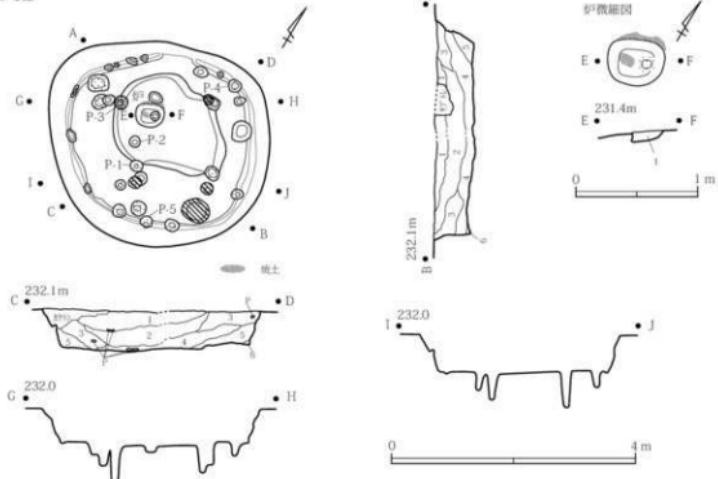
第80図 三本木II遺跡(縄文) J-47号住居址実測図(1)

J-47 号住



第81図 三本木II遺跡（縄文） J-47号住居址実測図（2）

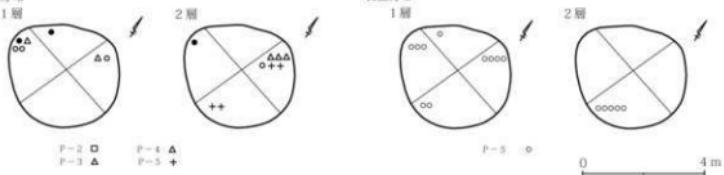
1-48 写住



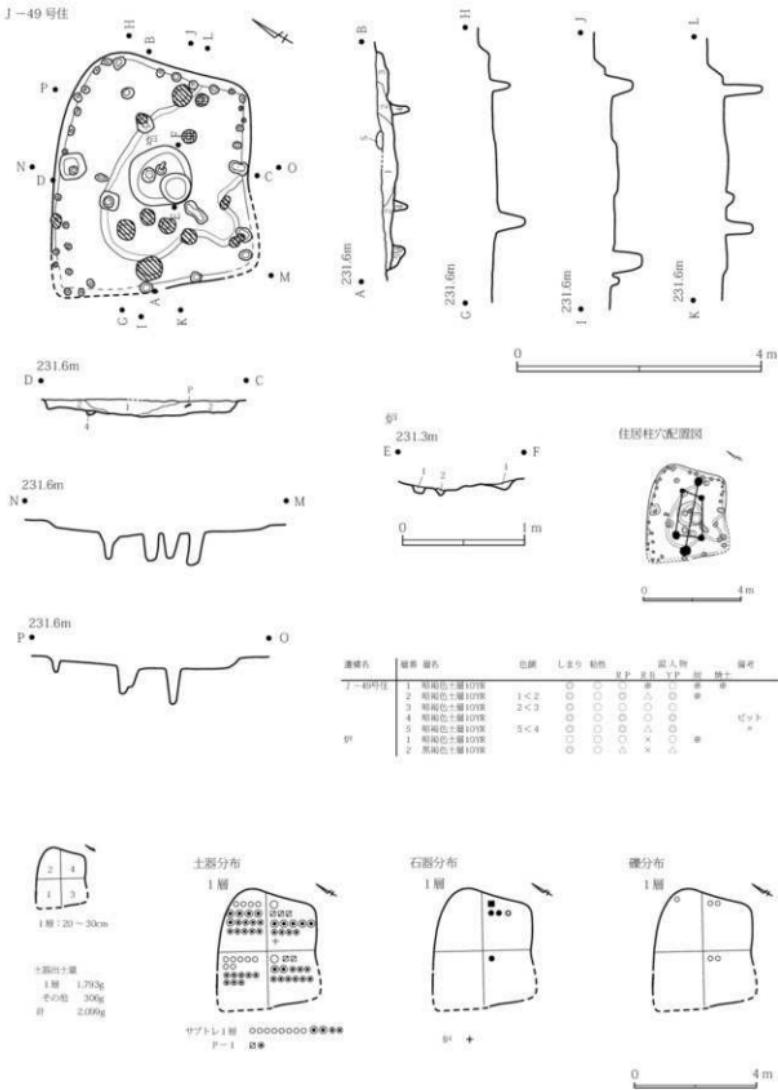
住居住人配置圖



石器分布

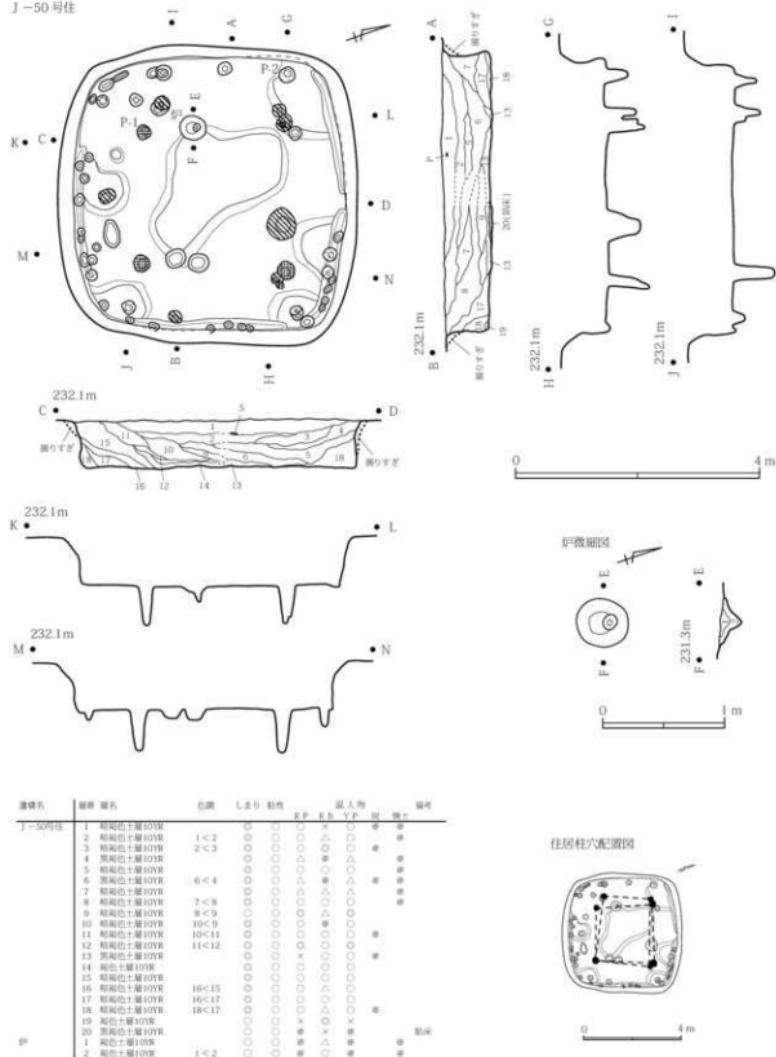


第82図 三本木II遺跡（縄文） J-48号住居址実測図



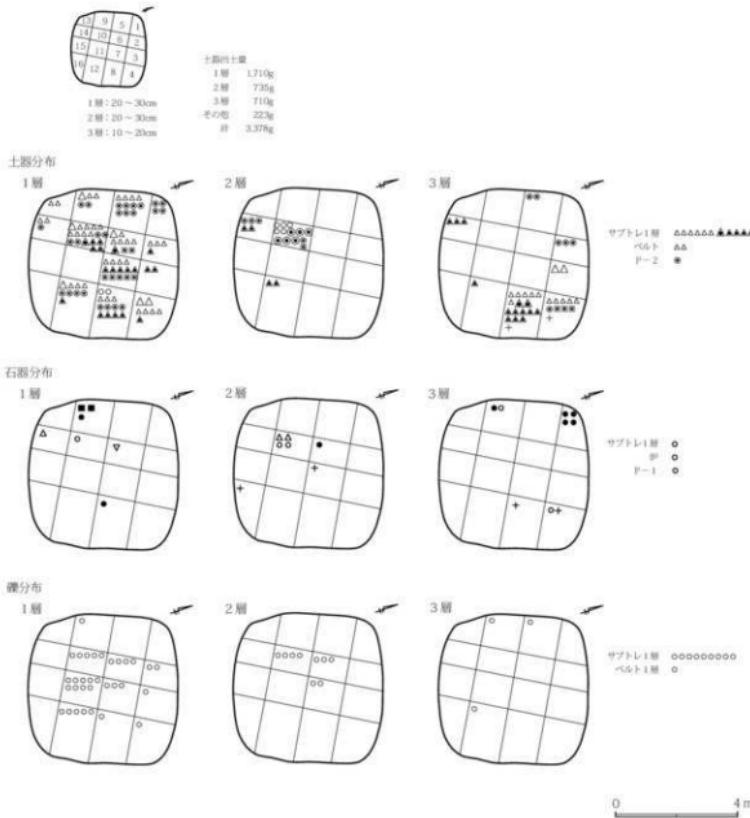
第83図 三本木II遺跡（縄文） J-49号住居址実測図

J-50号住

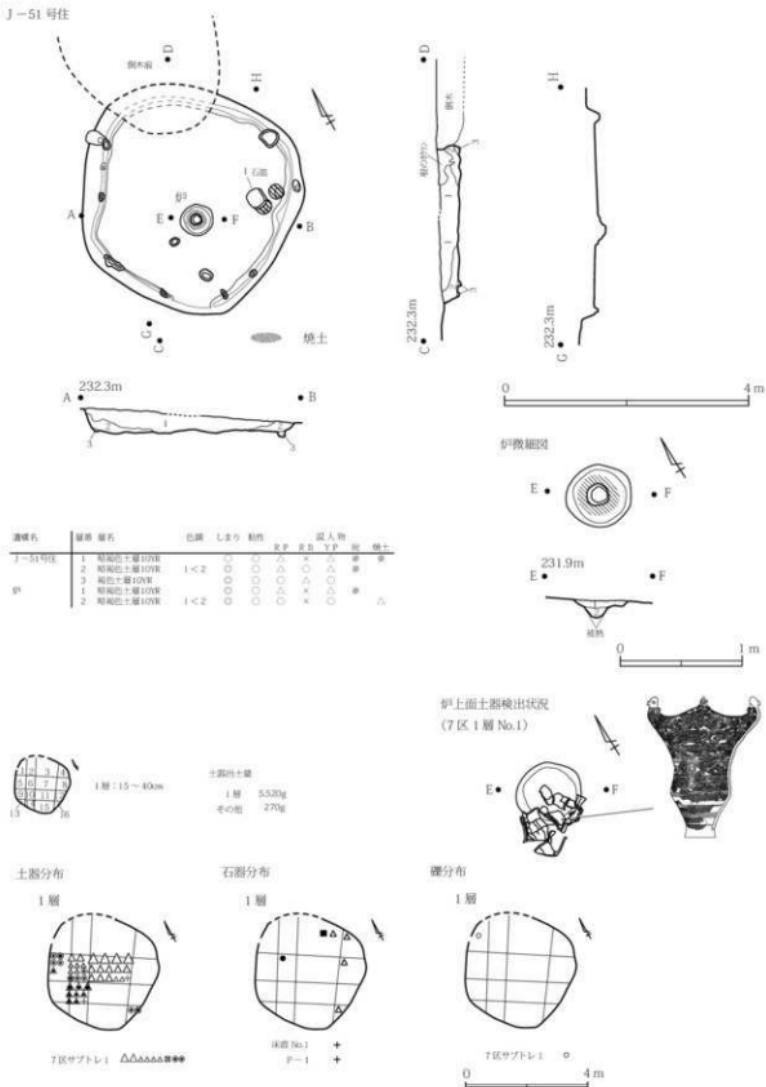


第84図 三本木II遺跡(縄文) J-50号住居址実測図(1)

J-50号住



第85図 三本木II遺跡（縹文）J-50号住居址測図（2）



第86図 三本木II遺跡（縄文） J-51号住居址実測図

造が異なる。埋漬はJ-36・44AB・46AB号住居址で検出され、深鉢が正位の状態でピット状の掘り込みに埋設される。多くは脇部下半から底部を使用しているが、J-46A号住居址は底部を欠いた脇部下半を据えていた。埋設される位置は、当該期の地床炉と同じく、主柱穴を結ぶ線に近接する。

加曾利EⅢ式期のJ-8号住居址では石囲炉が見受けられた。その構築材は2辺しか残っていないかたが、一部が炉の周囲に散在しており、抜き取り行為が予想される。

貯蔵穴：J-9号住居址南東隅の壁柱穴列が途切れた部分に規格の異なる掘り込みが見受けられた。詳細は不明だが、貯蔵穴などの機能が連想される。J-10号住居址南東隅（P-3）・J-11号住居址南東側（P-1）・J-18号住居址南西隅（P-6）でも同様の掘り込みが見受けられた。J-10号住居址では多量の遺物が、J-18号住居址では石皿が遺棄されている。これらの住居址は関山I式期に限定され、近在することも注目される。

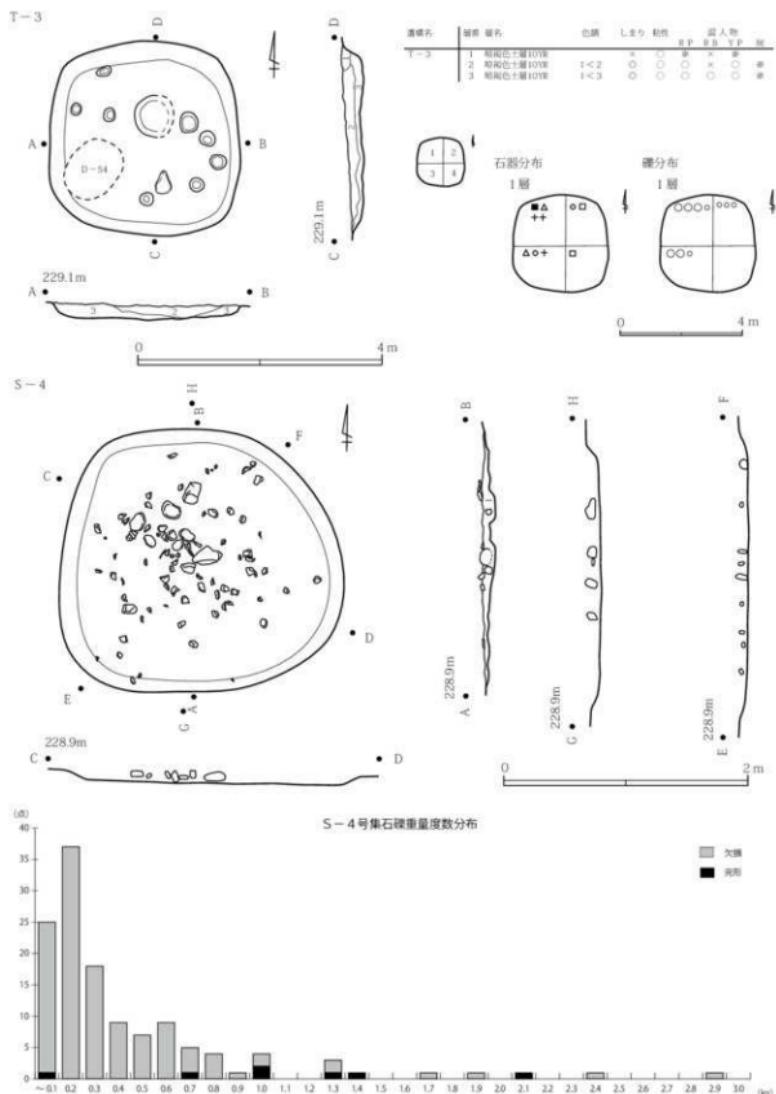
出入り口施設：出入り口施設として壁際にピットを備える事例が知られているものの、壁柱穴中に並ぶと抽出が難しい。関山式・諸磯b式期のJ-11・14・24・35・42・51・50号住居址などで単独の出入り口ピットが見られた。J-11号住居址は浅いピットだが、その周りが少し盛土されていた。J-6・24・43号住居址などでは一対のピットを配している。

注目される事例として、J-43号住居址において出入り口に踏み台状の小塚が設けられていた。小トレンチによる試し掘りを実施したところ、ローム層（V・VI層）を30cmほど掘り残すことによって作り出していた。小塚上には対ピットや壁柱穴が施されており、小塚が無い場合と同じ構造を保つ。ところで、J-40号住居址の南側でも小塚が検出されている。出入り口としての典型的な位置ではなく、壁からも離れている点でJ-43号住居址とは異なる。地山のローム層（V層）が掘り残され、主柱穴も小塚を避けるように配置されていることから、住居の使用時に機能していたものと推測される。

遺物の出土状態：埋没が進行した窪地に次時期の遺物が混入することは往々にして認められた（J-10・11・18・19・20・25・33・45号住居址）。関山I式期に構築されたJ-18号住居址では2層中に関山II式期の大型土器片が混在していた。因みに、関山II式期古段階のJ-17号住居址2層でもJ-18号住居址出土遺物と同一の個体が出土しており、同時期における両住居の埋没状況が復元できる。関山II式期のJ-42号住居址に諸磯b式が多量に混入するのは、区別が難しかった重複する土坑（D-105号土坑）に起因する。加曾利EⅢ式期のJ-8号住居址では大量の遺物が上層に集中していた。

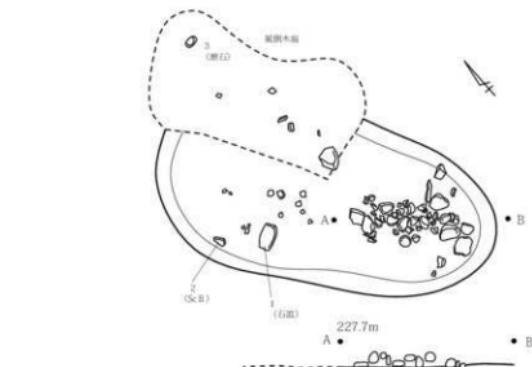
注目される事例として、住居の床面に遺棄される大型礫石器があげられる。この現象は頻出し、全体の4割ほどにおよぶ。時期ごとの検出率は諸磯b式期が多く（67%）、次いで関山I式期（55%）、関山II式期（27%）が続く。ほとんどは石皿で、他に多孔石が見られた。1軒に付き礫石器の数は1～4点を数える。大型礫石器が置かれる位置は、主柱穴の脇・炉辺・壁際ないし壁寄りなど多様で、諸磯b式期は主柱穴の脇、関山式期では奥壁・手前壁際におかれらるものが目付く。J-30号住居址では壁に立てかけられており、当時の収納方法を彷彿させる。J-19号住居址の上層では焼土とともに石皿が出土しており埋没中の窪地利用が予想される。また、関山式期の住居址覆土内に多量の小礫が混入する事例が散見された。J-9・41号住居址の小礫群は中～下層に分布する一方で、J-10号住居址では上層に集中していた。

特異な出土事例として、建て替えが予想されるJ-37号住居址で旧住居の柱穴内に浅鉢の大型破片が遺棄されていた。また、J-10号住居址の床面上から孔をもつ円礫、J-13号住居址の南壁寄り一次堆積土中から玦状耳飾、J-20号住居址の床面上から大型の黒曜石片が出土している。

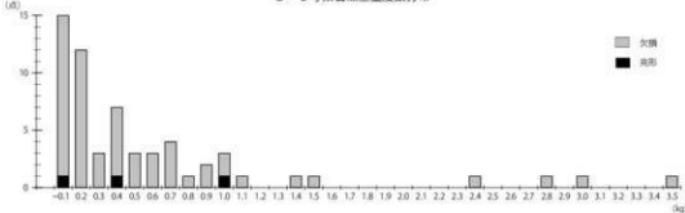


第 87 図 三本木 II 遺跡（縄文） 穴状遺構・集石実測図（1）

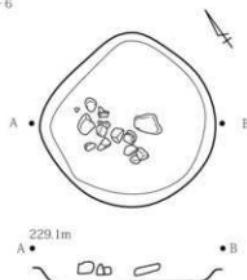
S-5



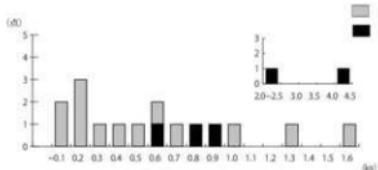
S-5号集石堆重量度数分布



S-6

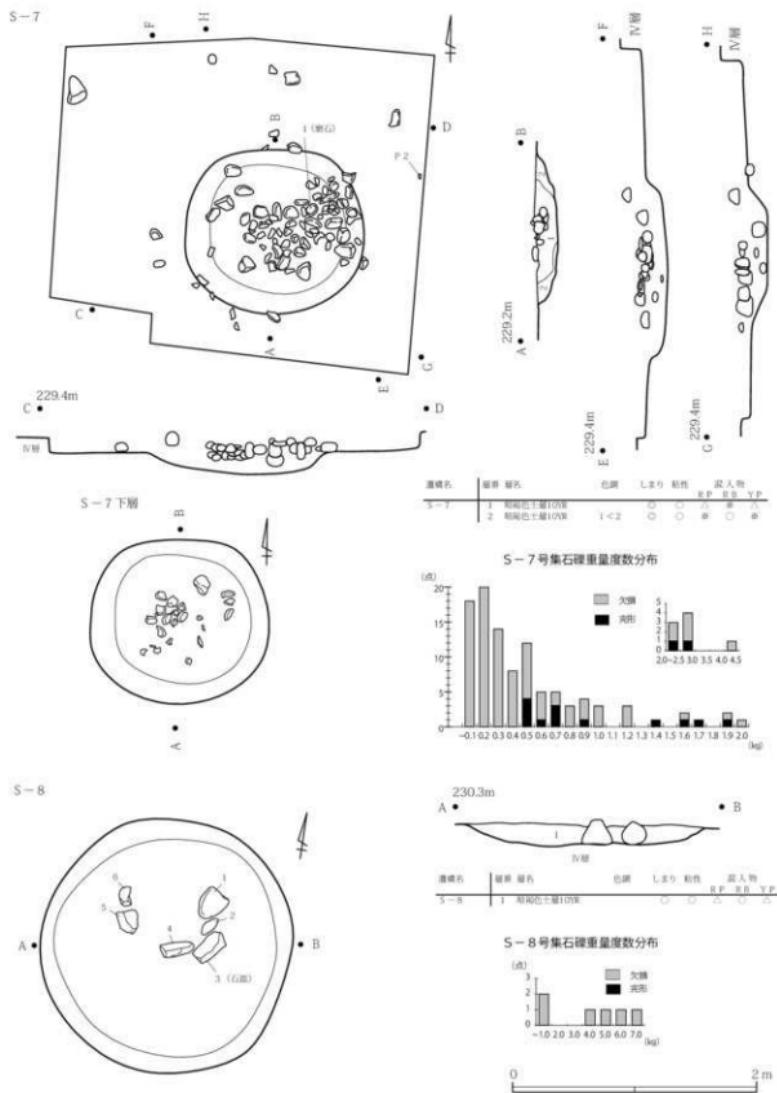


S-6号集石堆重量度数分布



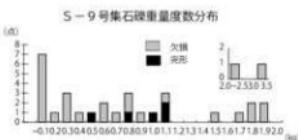
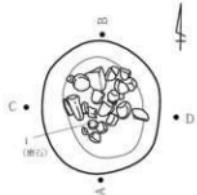
0 2 m

第88図 三本木II遺跡（縄文）集石実測図（2）



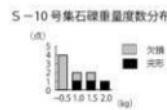
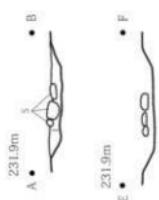
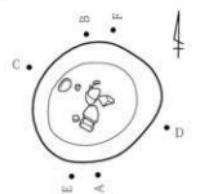
第89図 三本木II遺跡(縦文) 集石実測図(3)

S-9



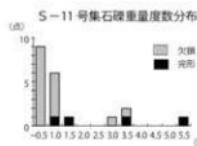
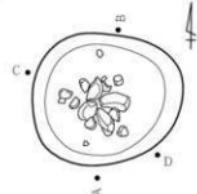
遺構名: I 破面石土層 10cm
S-9 R.P. R.B. Y.P. 備考:

S-10



遺構名: I 破面石土層 10cm
S-10 R.P. R.B. Y.P. 備考:

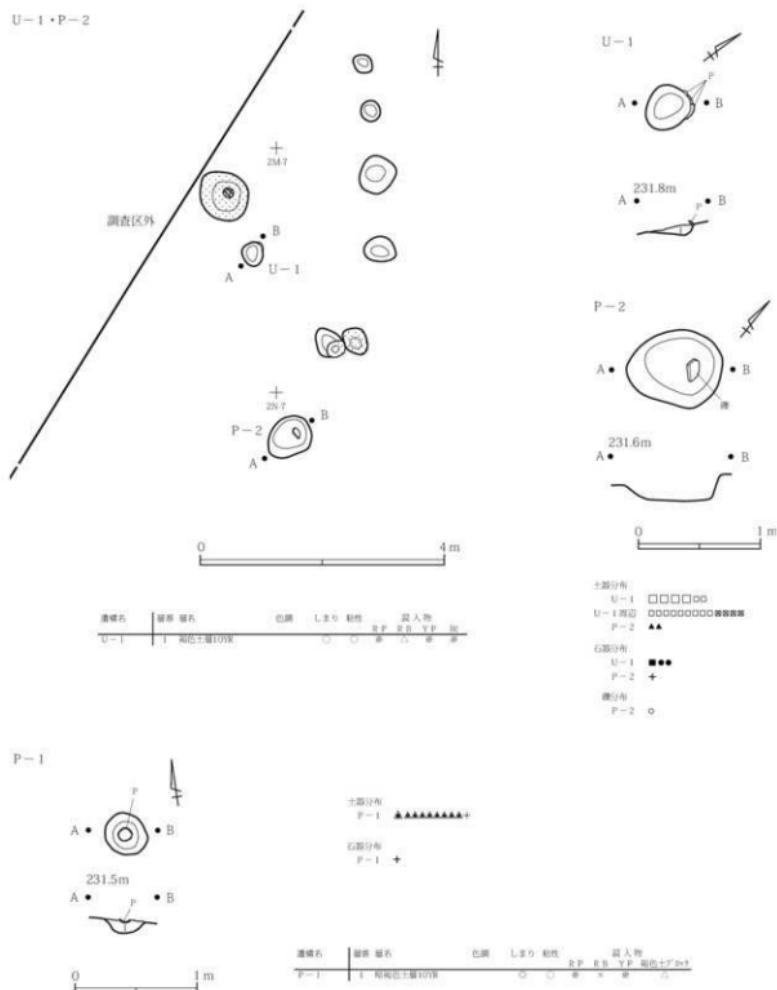
S-11



遺構名: I 破面石土層 10cm
S-11 R.P. R.B. Y.P. 備考:

0 2 m

第90図 三本木II遺跡(縦文) 集石実測図(4)



第91図 三本木II遺跡(縄文) U-1・P-1・P-2号遺構実測図

焼失住居であるJ-30・44号住居址では炭化材などが検出されている。J-30号住居址は床面や壁面の被熱が著しく、炭化材は壁際に立った状態で出土した。J-11号住居址の床面上では炭化材とともに炭化したオニクルミが検出されている。

竪穴状遺構（第87図）

調査区南側のE区で1基が確認された。T-3号竪穴状遺構は関山I式期に比定され、当該期の住居址が分布する範囲の北端に位置する。平面は一片が3m程の隅丸方形で、掘り込みが竪穴住居址に比して浅い。IV層下位を床面とし、IV層土を主体とする暗褐色土が埋没することから、壁面の判別が難しかった。多数のピットが検出されたが、いずれも浅く、規則性も認められない。小型の貯蔵穴に想定されるD-54号土坑が竪穴の南西側に重複するが、本遺構に伴うかは判然としなかった。多数の遺物が上層に分布する。また、南側の下層で大型礫が出土した。

集石（第87～90図）

D区の南東側やE区の北側から中央にかけて8基が確認された。尾根状台地平坦面のやや落ち際に分布する。S-4・5・6・8号集石は掘り込みの不明瞭な集石遺構に該当する（計測は礫の範囲で実施した）。礫は平面的に分布し、S-4号集石では2m程の範囲にわたる。S-7・9・10・11号集石は土坑状の掘り込み内に礫が集中する集石土坑である。近在するS-9・10・11号集石は土坑の規模が近似していた。集石の礫はすべて安山岩で、欠損したものが多い。10gから7kgほどの礫が使用され、1kg以下の小礫が多くを占める。S-8号集石は礫の数が少なく、大型礫の割合が高い。遺物は微量の縄文土器片が出土する程度であり、時期比定は難しい。関山式期から有尾式期の住居址が分布する区域に限られることから、縄文時代前期前葉から中葉に帰属すると予想される。

埋設土器（第91図）

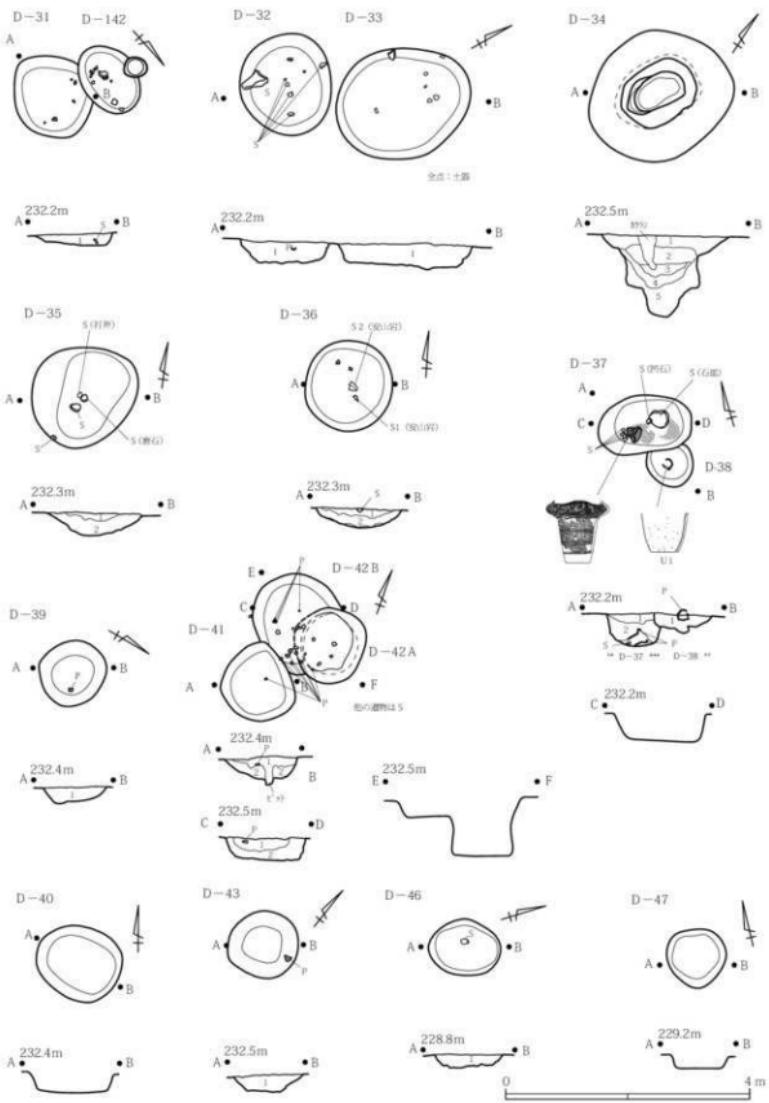
D区北西端斜面地で1基が確認された。U-1号埋設土器は、ピット状の掘り込みに深鉢の口縁部が逆位の状態で埋設されていた。住居址の可能性があるため周囲を精査したが、有意な柱穴配置などは見付からなかった。時期は加曾利EⅢ式の新相に比定され、当該期のJ-8号住居址より新しい。なお、D-38号土坑は加曾利EⅢ式の深鉢底部が正位の状態で検出されており、埋設土器の可能性がある。

ピット（第91図）

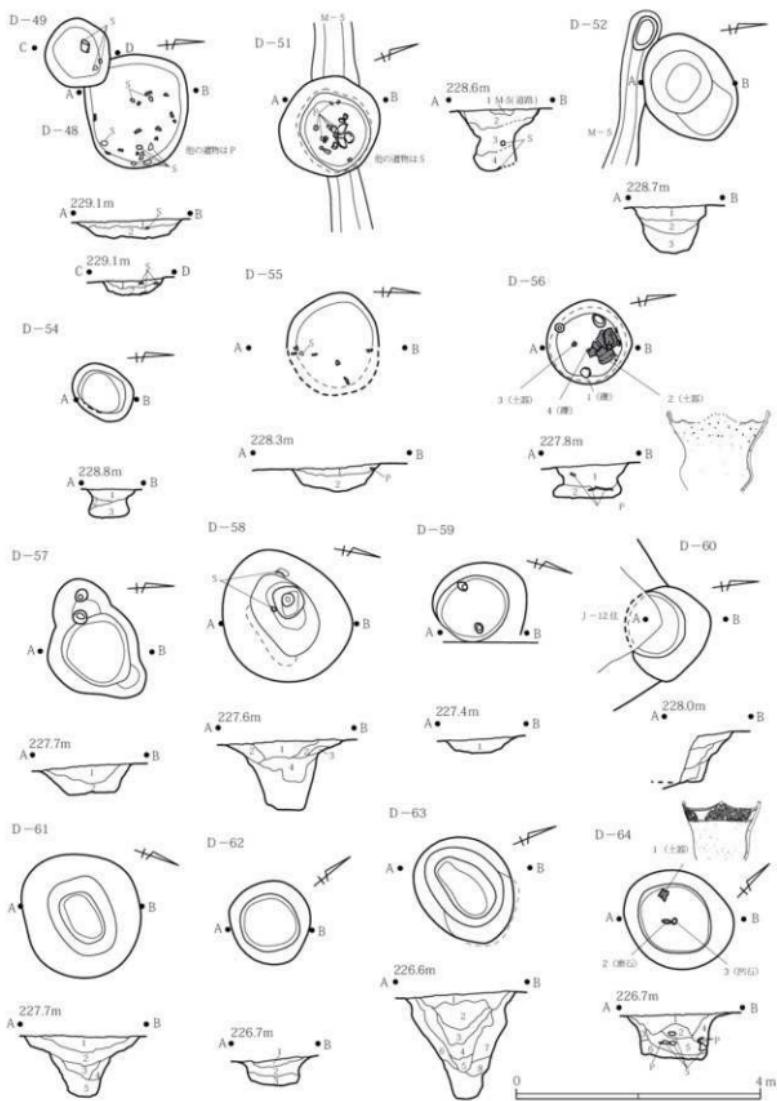
ピットは調査区全体に認められ、とくにD区の北西端と南東側に多い。D区北側に位置するP-1からは前期後葉の深鉢底部が正位の状態で出土した。

遺物包含層（土器重量集計表参照）

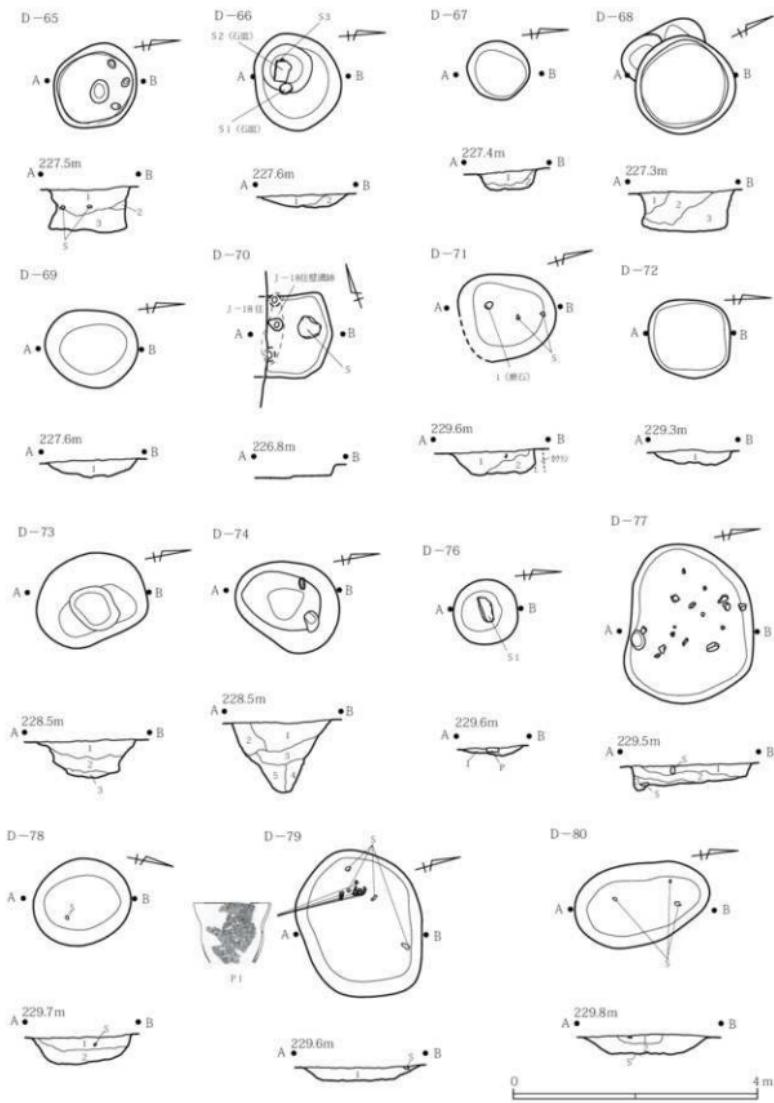
D区の東側に展開する斜面地で多量の遺物が検出された。西側の斜面と異なり、東側は埋没谷に向かう緩やかな傾斜を擁する。このIV層土中に縄文時代早期から前期の遺物が包含されていた。調査は4m四方のグリッドを設け、グリッドごとに遺物を取り上げた。掘削深度は遺物が無くなることを目安としたが、実際は10～20cmほどである。遺物は斜面全体に広がり、とくに2K-22～24・2L-22～24グリッドにまとまっていた。包含層の掘削後に遺構の有無を確認したが、少数の土坑やピットが散見された程



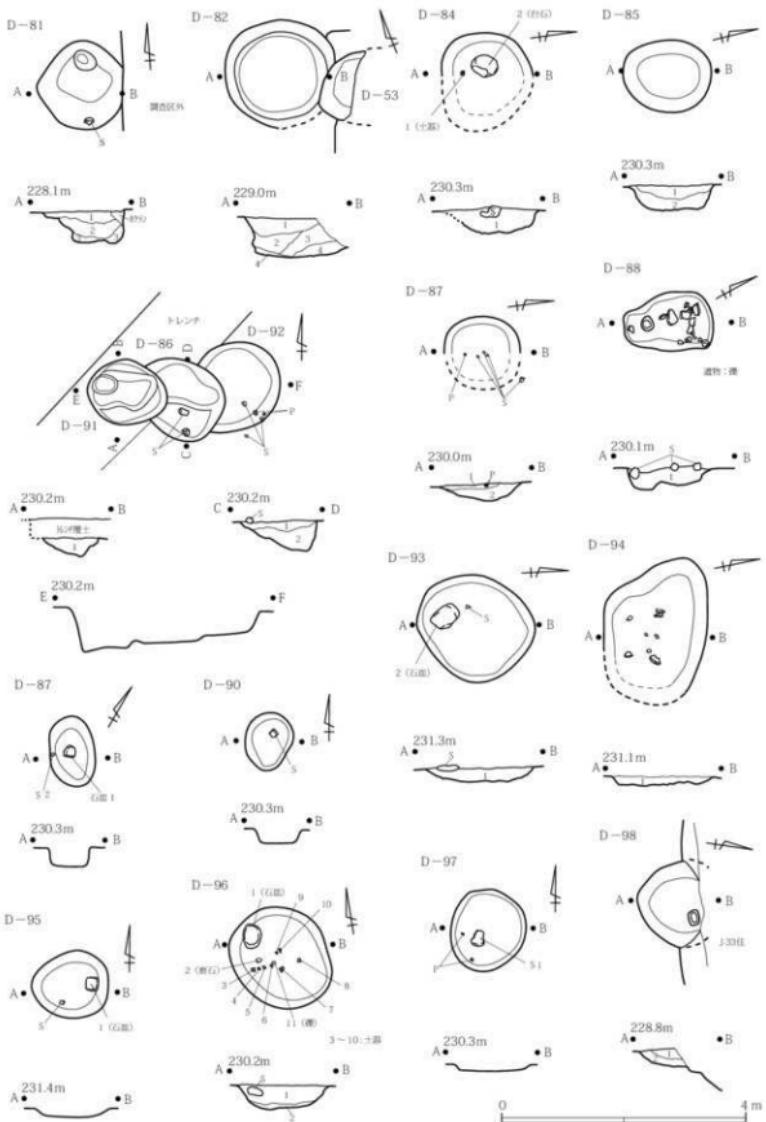
第92図 三本木II遺跡（縄文） 土坑実測図（1）



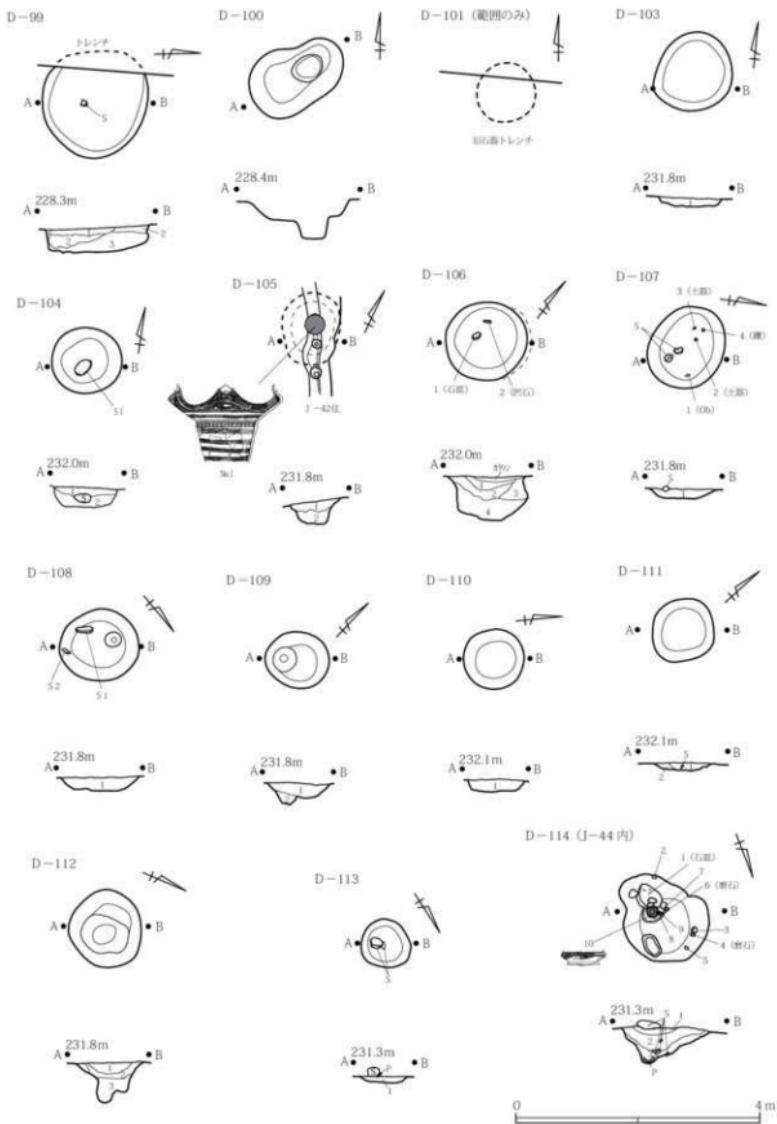
第93図 三本木II遺跡(縦文) 土坑実測図(2)



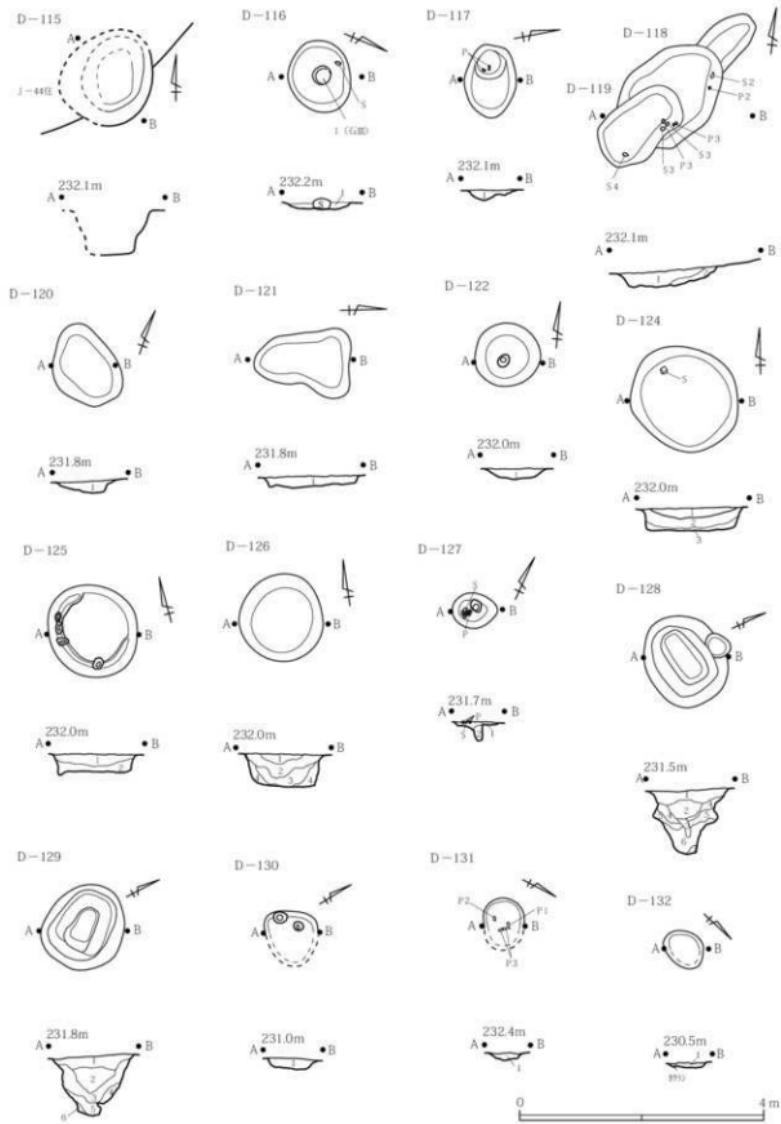
第94図 三本木II遺跡(縦文) 土坑実測図(3)



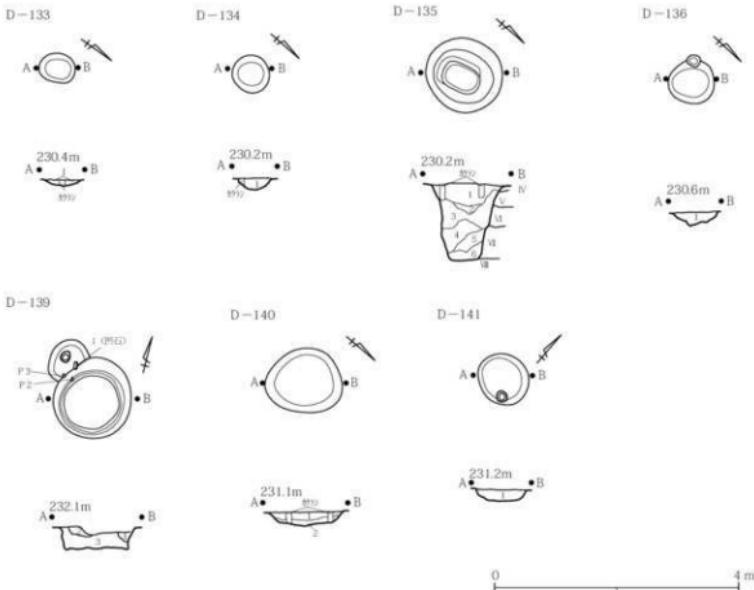
第95図 三本木II遺跡(縦文) 土坑実測図(4)



第 96 図 三本木 II 遺跡 (縦文) 土坑実測図 (5)



第97図 三本木II遺跡(縦文) 土坑実測図(6)



遺構名	番号	色調	しまり	粒性	測人物				遺構名	番号	色調	しまり	粒性	測人物						
					R.P.	H.H.	Y.P.	H.						R.P.	H.H.	Y.P.	H.			
D-30	1	黒褐色土層10YR	○	△	×	×	×	*		D-52	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	
D-32	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		2	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*		
D-33	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		3	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*		
D-34	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		D-54	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*	
	2	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		2	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*		
	3	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		3	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*		
	4	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		D-55	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*	
	5	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		2	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*		
D-35	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		D-56	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*	
	2	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		2	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*		
D-36	2	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		D-57	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*	
	2	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		2	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*		
D-37	1	黒褐色土層10YR	2 < 1	○	○	○	○		D-58	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*	
	2	黒褐色土層10YR	2 < 1	○	○	○	○		2	黒褐色土層10YR	1 < 2	○	○	○	○	○	○	○	*	
D-38	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		D-59	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*	
	2	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		D-60	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*	
D-39	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		2	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*		
D-41	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		3	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*		
D-42	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		4	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*		
D-43	1	黒褐色土層10YR	2 < 1	○	○	○	○		D-61	1	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*	
	2	黒褐色土層10YR	1 < 2	○	○	○	○		2	黒褐色土層10YR	1 < 2	○	○	○	○	○	○	○	*	
	3	黒褐色土層10YR	1 < 2	○	○	○	○		3	黒褐色土層10YR	2 < 3	○	○	○	○	○	○	○	*	
D-51	1	黒褐色土層10YR	△	○	○	○	○		4	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*		
	2	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○		D-62	5	黒褐色土層10YR	○	○	○	○	○	○	○	*	
	3	黒褐色土層10YR	3 < 2	○	○	○	○		2	黒褐色土層10YR	1 < 2	○	○	○	○	○	○	○	*	
	4	黒褐色土層10YR	4 < 3	○	○	○	○		3	黒褐色土層10YR	2 < 3	○	○	○	○	○	○	○	*	

第98図 三本木II遺跡(縦文) 土坑実測図(7)

第99図 三木木川遺跡（縄文）土坑墓測図（8）

度である。包含されていた遺物は遺構に伴うものではなく、平坦面での活動に伴って斜面地に流入してきたものと考えられる。

遺物は縄文土器・石器・礫が出土した。縄文土器は早期の押型紋系型式群・条痕紋系型式群、前期の関山式・有尾式・黒浜式・諸磯b式が検出され、諸磯b式が多くを占める。また、遺構内出土遺物ではあまり見られなかった有尾式古段階の資料がまとまっており、J-6号住居址との関係が予想される。

土坑（第92～99図）

106基が確認された。形態は平面円形ないし梢円形で断面逆台形を呈するものを主体とする。覆土はIV層の暗褐色土であることが多い。III層の黒褐色土を主体とするものは古代に帰属する可能性がある。

深くて、壁面が急傾斜するものは陥穴に想定される。下半で段を持ち、底面が隅丸長方形を呈するものが目に付く。D-34・58・61・63・74・112・128・129・135号土坑が該当し、D区北半やE区南側に散在する。出土遺物は少なく、破片ばかりである。時期が判別できたものは前期前半（D-74号土坑）と諸磯b式期（D-128号土坑）であった。

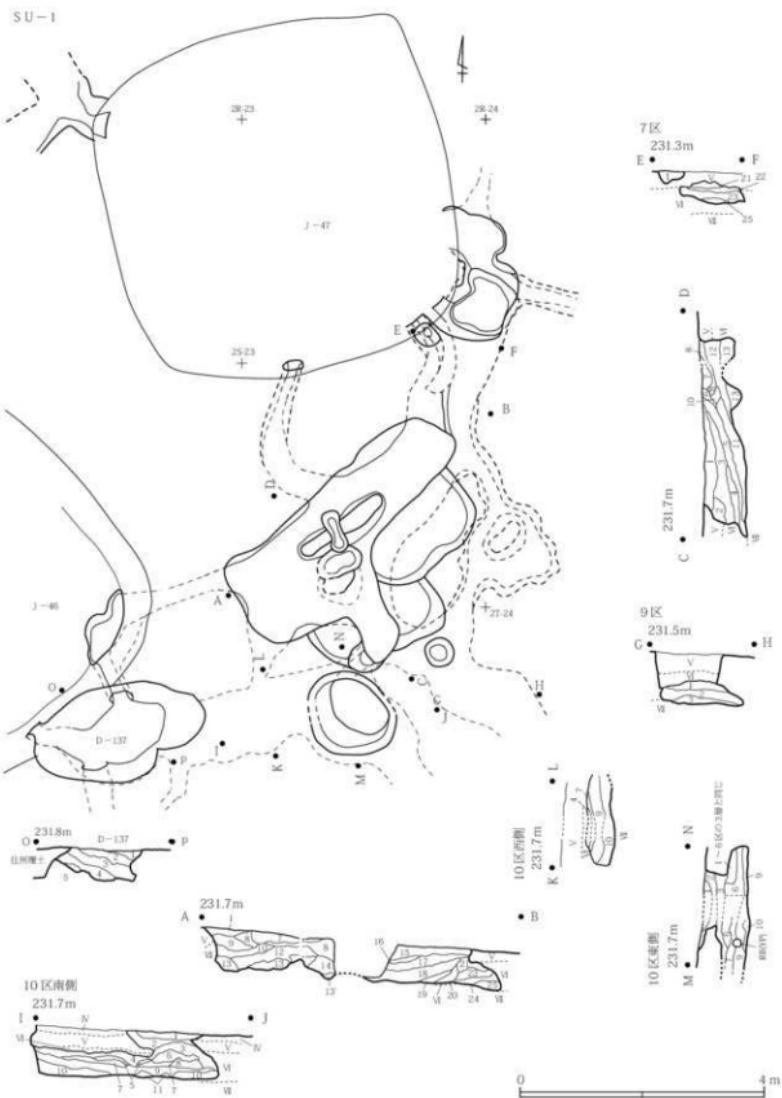
断面が袋状を呈するものなどは貯蔵穴に想定される（D-42A・51・52・54・56・60・62・64・68・99・100・106・115・125・138号土坑）。調査区全体に分布しており、住居址に近在する傾向がある。平面は円形ないし梢円形を呈し、1mに達する深いものも見受けられた（D-42A・51号土坑）。D-125・138号土坑は壁周溝をもつ。D-51号土坑では関山II式期古段階の縄文土器が横位につぶされた状態で出土した。また、D-68号土坑で関山I式期、D-138号土坑で諸磯b式期の遺物がまとまって検出されている。複数の磨石類が出土したD-64号土坑などは墓坑に転用された可能性があろう。

D-37・114号土坑は典型的な土坑墓に想定され、いずれも諸磯b式期に帰属する。D-37号土坑には底面上において底部を欠いた深鉢が横位の状態で出土し、その脇に数点の台石・凹面などが見られた。VII層上面に達する掘り込みをもつが、人為的な埋戻しとして想定される大径のロームブロックが多く混入することはない。ただし、深さ44センチにおよぶわりに分層が難しかったことから一括した堆積が窺われる。114号土坑では底面に穿たれる浅いピット状の掘り込みから浅鉢が出土した。

土坑の時期は関山式期・諸磯b式期・加曾利E III式期が多くを占める。先述のD-37・51・68・114・138号土坑に加え、関山I式期のD-64・65・69・98号土坑、関山II式期のD-53・56・87・88・139・140号土坑、諸磯b式期のD-105・113・127・137号土坑、加曾利E III式期のD-31・32・33・38・131・124・142号土坑などにおいてまとまった土器が出土した。一方、D-71号土坑で井草II式、D-39号土坑で黒浜式、D-84号土坑で阿玉台I b式、D-43号土坑で加曾利E IV式が出土しており、住居址では捉えられなかった活動痕跡を知ることができる。D-107号土坑では大型の黒曜石塊が出土した。D-32・35・66・70・84・89・93・95・96・97・104・113・116号土坑では大型の礫や礫石器が出土しており、埋葬に伴う抱き石の可能性がある。多くの礫が出土したD-48・77・88・94号土坑などは集石土坑の属性を具える。

巣穴（第100・101図）

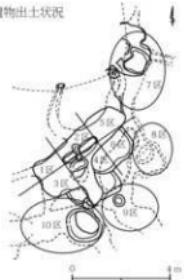
D区中央の北東側で1ヵ所検出された（S U-1号巣穴）。東側の斜面地に形成された遺物包含層に近い。調査当初は倒木痕と思っていたが、D-137号土坑の調査から派生し、隧道（トンネル）状の掘り込みが見受けられたことからアナグマなどの小動物による営巣痕跡であると結論した。複数条の曲線



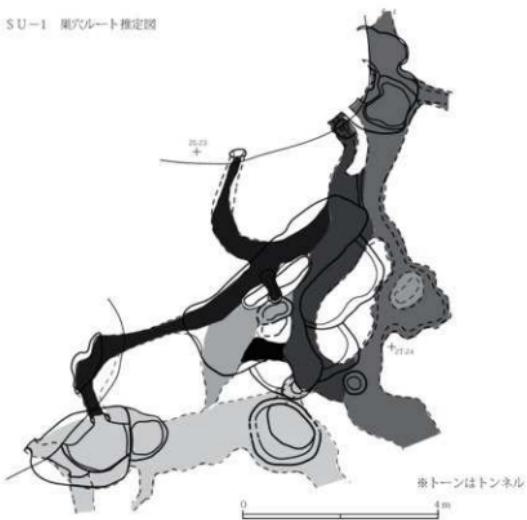
第100図 三本木II遺跡(縹文) SU-1号遺構実測図(1)

遺構名	番号	地質	しまり	粘性	遺人物	RH	YP	層	備考
SU-1	1	黒褐色土層10cm	○	○	△	○	×	●	
	2	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	×	○	
	3	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	×	○	
	4	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	×	○	
	5	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	×	○	
	6	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	×	○	
	7	黒褐色土層10cm	△	○	○	○	×	○	
	8	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	9	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	10	黒褐色土層10cm	○	○	△	○	○	○	
	11	黒褐色土層10cm	△	○	○	○	○	○	
	12	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	13	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	14	黒褐色土層10cm	△	○	○	○	○	○	
	15	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	16	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	17	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	18	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	19	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	20	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	21	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	22	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	23	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	24	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	25	黒褐色土層10cm	△	○	○	○	○	○	
SU-1 断面									YP層の削落 V層の削 V層の崩
D-137	1	黒褐色土層10cm	○	○	△	○	○	○	V層の明
	2	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	3	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	4	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	5	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	6	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	7	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	8	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	9	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	10	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	11	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	12	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	13	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	14	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	15	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	16	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	17	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	18	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	19	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	20	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	21	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	22	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	23	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	24	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	
	25	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	

遺物出土状況



SU-1 窓穴ルート推定図



土器分布

1区窓穴	○○△△△△△△△△
1区窓穴	※※
2区上層	●●△△△△***
3区下層	○○○○
3区上層	○○○○*****
4区上層	*****
6区上層	A
7区下層	○○○***
9区下層	***
10区	△△△

石器分布

1区窓穴	○
2区上層	△
3区上層	○
4区上層	○
7区下層	○
9区	●
1区下層	○
2区下層	○○○○○○○○○○
3区上層	○○○○○○○○○○
7区下層	○○○○○○○○○○
9区	○

第101図 三木本II遺跡（縹文） SU-1号遺構実測図（2）

的な隧道から成り、縱横無人に走向する。調査した範囲よりもさらに北側・南側へ延びる大規模なもので、長期にわたる営巣期間が予想される。主隧道から細い隧道が樹枝状に分かれ、環状をなす場所も見受けられた。部分的に天井が崩落して開口するが、D-137号土坑とその南側の開口部は、傾斜して堆積する覆土の状態から、出入り口であったことが予想される。

SU-1号巣穴は、諸磯b式期新段階に比定されるJ-46・47号住居址と重複する。J-47号住居址の壁面には数か所の隧道が穿たれ、竪穴内にはSU-1号巣穴とおなじ覆土が廃棄されていた。隧道は繊りや粘性の弱い浅間一板鼻黄色軽石層に穿たれるが、その層が露出する深い住居址の壁面が狙われたようである。よって、壁面が巣穴の構築に利用されたのは竪穴が埋没する以前であることが窺われる、巣穴の時期も諸磯b式期新段階に比定することができる。一方、近在（約3m）するJ-46号住居址では、埋没土がSU-1号巣穴によって掘り返されていることから、営巣時には竪穴が埋没していたと考えられる。埋没土の方が浅間一板鼻黄色軽石層より却って強い繊りと粘性をもつて、隧道はJ-46号住居址に接した部分で住居の埋没土を避けて竪穴に沿って進み、再び走行方向を折り返している部分も見受けられた。2軒の住居址は、出土遺物から同時期に比定されるが、巣穴との新旧関係から竪穴が開口しているものと埋没しているものが同時に併存していた状況が読み取れる。縄文土器の細分型式による時期幅内でも複数回にわたりて住居が遷移している状況が目の当りとなる。

アナグマは比較的人のそばでも活動するようだが、捕食の対象であることが貝塚などから出土する獸骨の研究で分かっており、集落は無人の状態となっていたことが予想される。本遺跡では同時期の住居址がまとまって検出されている中で、アナグマなどが近寄るような集落の終焉ないし中断期間における人跡の未踏状況が予想される。なお、同様の事例は、同じ松義台地上に立地する富岡市松義中部地区遺跡群で古代の大溝を利用した巣穴が見付かっている。

（高橋）

（3）古代の遺構

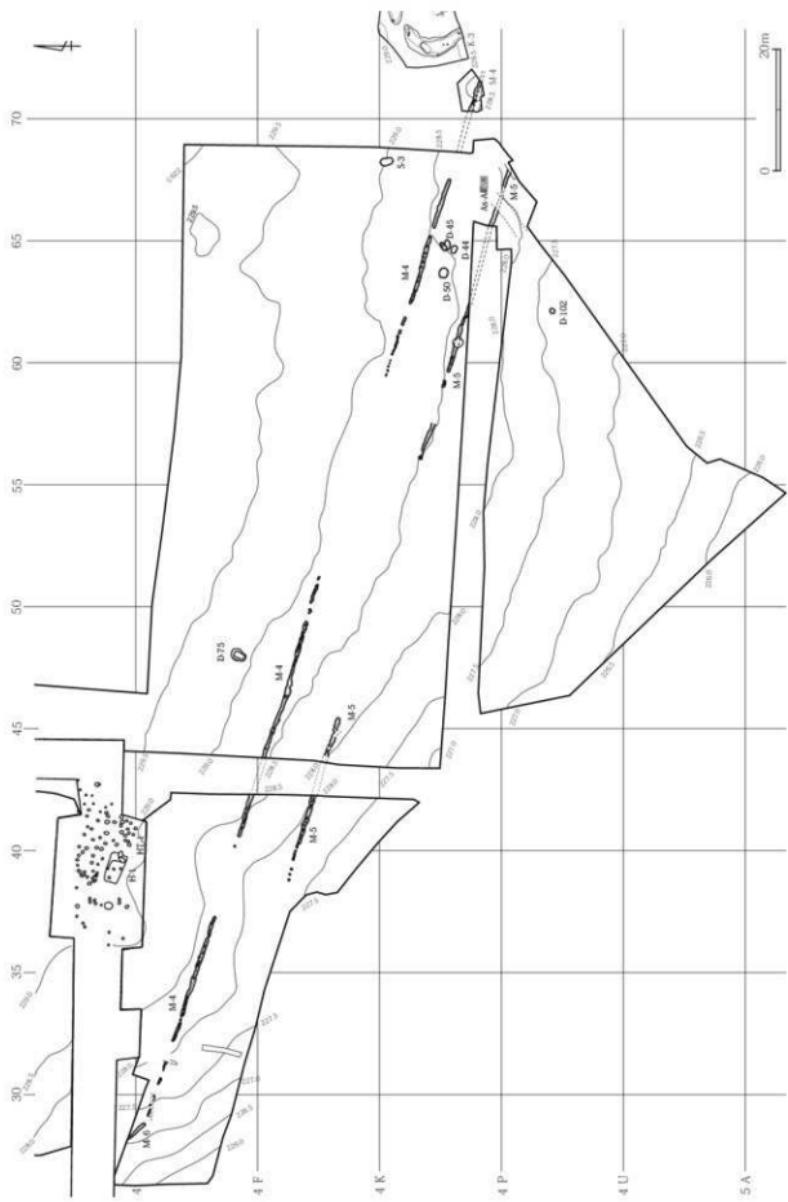
住居址（第103図）

北西部の6トレンチにおいて確認面のⅢ層で竪と考えられる焼土痕が検出された。調査区を拡張して遺構の範囲を確認したところ東西方向を主軸とした住居址プランが見付かった。覆土はⅢ層の自然堆積である。住居構造は、平面長方形で東に竪が付き、柱穴がない形態である。床面には、新旧関係をもつ2基の土坑（D-1号土坑が新しい）が存在し、覆土中に炭化物、焼土、礫が混入する。当初、D-2号土坑は、鍛治あるいは製鉄に関連する「炉」と推定していたが、関連する遺物（鉄、鉄滓等）が検出されず、その構造も異なることから、竪の構築材を投棄した床下土坑と見做した。住居址の覆土下層では炭化物が混入し、竪付近においては焼土も認められた。出土遺物は少数で時期比定は難しい。（高橋）

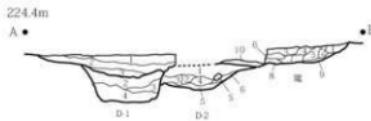
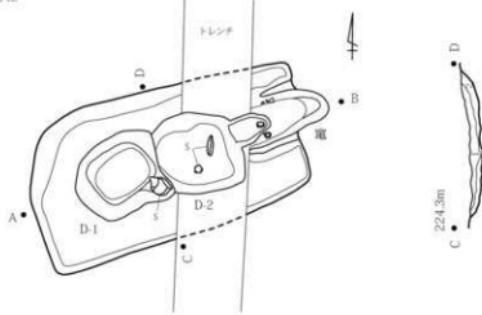
集石（第104図）

2基が確認されている。S-3号集石は土坑墓に推定される。E区東端の台地平坦面に立地する。平面が長楕円形の土坑に多量の礫が混入していた。礫は壁面の積石や木製の枠などを安置する舗石として使用されたことが予想される。出土遺物は上野型有蓋短頸壺蓋や須恵器片が出土しており、時期は奈良時代後半に比定される。（高橋）

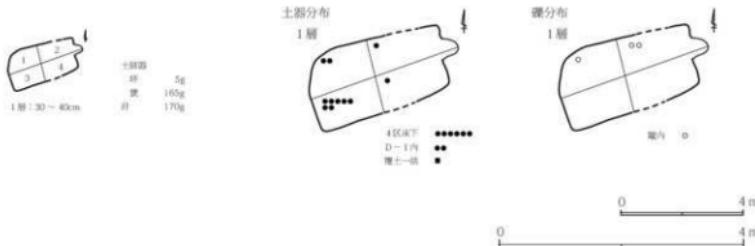
第102図 三木木II遺跡 古代遺構配置図（南側調査区）



H-6号住

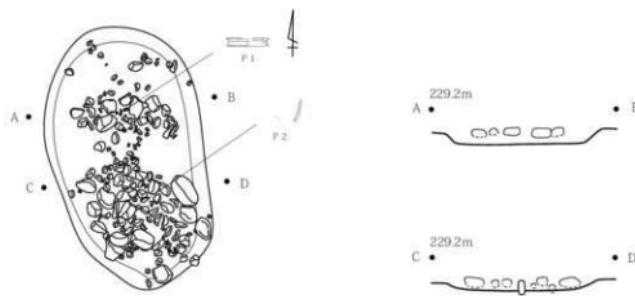


遺構名	番号	色調	しまり	粒性	E.P	R.B	Y.F	III	無土	自然砂土	備考
H-6号住	1	黒褐色土層10cm	○	○	×	×	×	×	△	△	自然堆積
	2	黄褐色土層10cm	1<2	○	○	×	×	×	●	●	お壁がとけ込む 自然堆積
	3	黄褐色土層10cm	2<3	○	○	○	○	○	●	●	3層目は床下土壌 土壁はつづき
	4	黄褐色土層10cm	1<2	△	△	△	△	△	△	△	
	5	灰褐色土層10cm	1<2	△	△	△	△	△	△	△	
	6	白褐色土層10cm	1<2	△	△	△	△	△	△	△	
	7	灰褐色土層10cm	1<2	△	△	△	△	△	△	△	
	8	灰褐色土層10cm	1<2	△	△	△	△	△	△	△	
	9	灰褐色土層10cm	1<2	△	△	△	△	△	△	△	
	10	灰褐色土層10cm	1<2	△	△	△	△	△	△	△	
D-1 (床下土壠)	1	黒褐色土層10cm	○	○	○	○	○	○	△	△	住跡廻り=H-6号住の3層 被め出し
	2	黄褐色土層10cm	1<2	○	○	○	○	○	●	●	"
	3	黄褐色土層10cm	2<3	○	○	○	○	○	●	●	
D-2 (床下土壠)	1	黄褐色土層2.5cm	1<2	△	△	△	△	△	○	○	床面度め出し
	2	黄褐色土層2.5cm	2<3	△	△	△	△	△	○	○	
	3	黄褐色土層2.5cm	2<3	△	△	△	△	△	○	○	
	4	黄褐色土層2.5cm	3<4	△	△	△	△	△	○	○	
	5	黄褐色土層2.5cm	5<6	○	○	○	○	○	○	○	
	6	明赤褐色土層2.5cm	4<6	△	△	△	△	△	○	○	

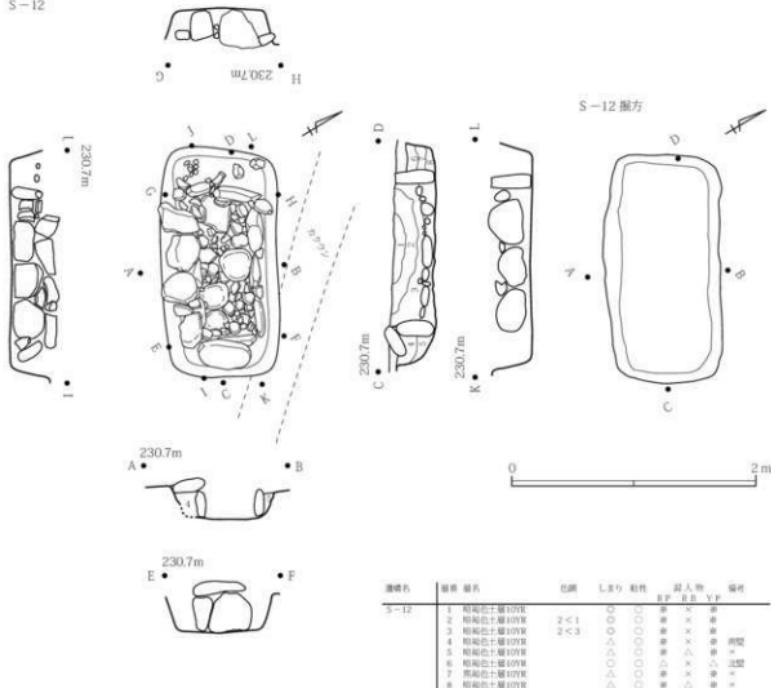


第103図 三本木II遺跡(古代) H-6号住址実測図

S-3

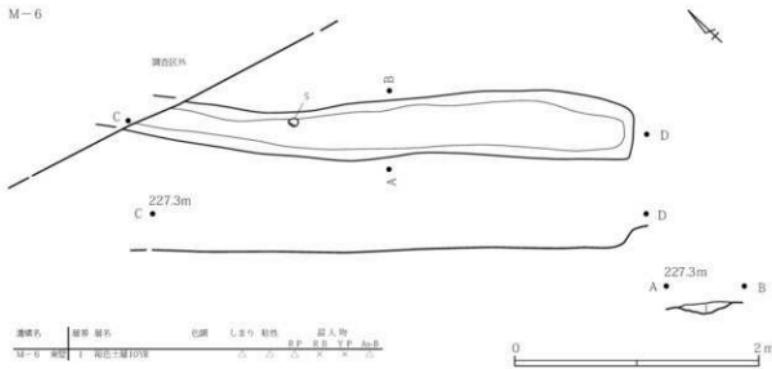


S-12

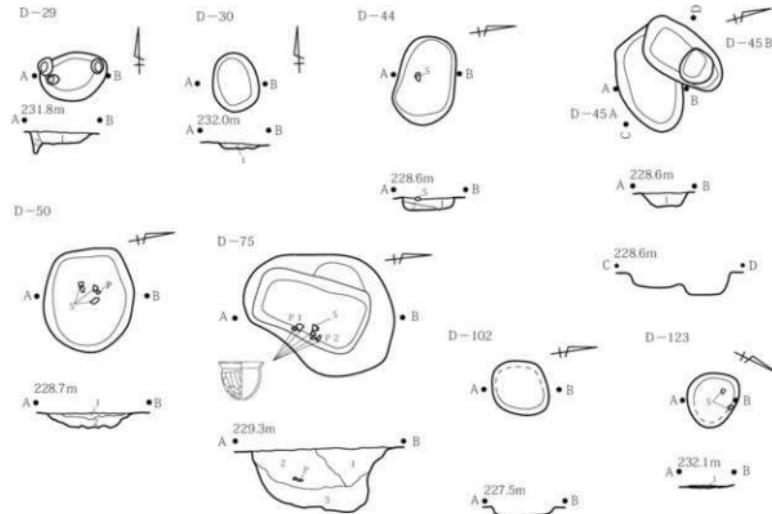


第104図 三本木II遺跡(古代) 集石実測図

M-6



土坑



遺構名	剖面	層名	色調	しまり	粒性	記入物	測定	遺構名	剖面	層名	色調	しまり	粒性	記入物	測定
D-29		1 面白色土壁10cm 2 面白色土壁10cm	○ ○	○ ○	× ×	×	○	D-30		1 面白色土壁10cm 2 面白色土壁10cm	○ ○	△ △	× ×	×	○
D-30		1 面白色土壁10cm 2 面白色土壁10cm	○ ○	○ ○	× ×	○		D-75		1 面白色土壁10cm 2 面白色土壁10cm 3	○ ○	○ ○	○ ○	○	○
D-44		1 面白色土壁10cm 2 面白色土壁10cm	○ ○	○ ○	△ △	×		D-102		1 面白色土壁10cm 2 面白色土壁10cm	○ ○	○ ○	○ ○	○	
D-45		1 面白色土壁10cm 2 面白色土壁10cm	○ ○	○ ○	△ △	×	*	D-123		1 面白色土壁10cm 2 面白色土壁10cm	○ ○	○ ○	○ ○	○	

Legend:

遺構名	剖面	層名	色調	しまり	粒性	記入物	測定
D-44		1 面白色土壁10cm 2 面白色土壁10cm	○ ○	△ △	× ×	○ ○	100.1
D-123		1 面白色土壁10cm 2 面白色土壁10cm	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○

第 105 図 三本木 II 遺跡（古代）溝・土坑実測図

S-12号集石は小石郭礎床墓にあたる。台地縁辺のD区西端において単独で検出された。平面長方形、断面逆台形の掘り込みに、礎が配されている。壁面には扁平な安山岩が向きを違えて2段に積まれていた。扁平礎の隙間に小礎が詰められ、下端では楔の役割を担うものもあった。南東壁の上端には大型礎が載せられている。礎の裏込には暗褐色土が詰められ、部分的に水平な層位が見られた。底面には小礎が一重ないし二重に敷き詰められ、礎の平らな面が表を向くように並べられる。礎下の底面には工具痕が顕著に残されていた。なお、該当する遺物は検出されていない。

(高橋)

土坑（第105図）

9基が確認されている。当該期の土坑はⅢ層に由来する黒褐色土が埋没する傾向にある。D-45A・B・50号土坑はE区東端に位置する。平面が橢円形、断面が逆台形を呈し、土師器片が検出された。D-75号土坑は大型で、平面は長方形、断面は上位が緩やかにたち上がる逆台形を呈する。中層で奈良時代に帰属する土師器の大型片が出土した。E区中央に位置しており、当該期の遺構が希薄であるにもかかわらず、大掛かりな遺構が構築されることは異質である。

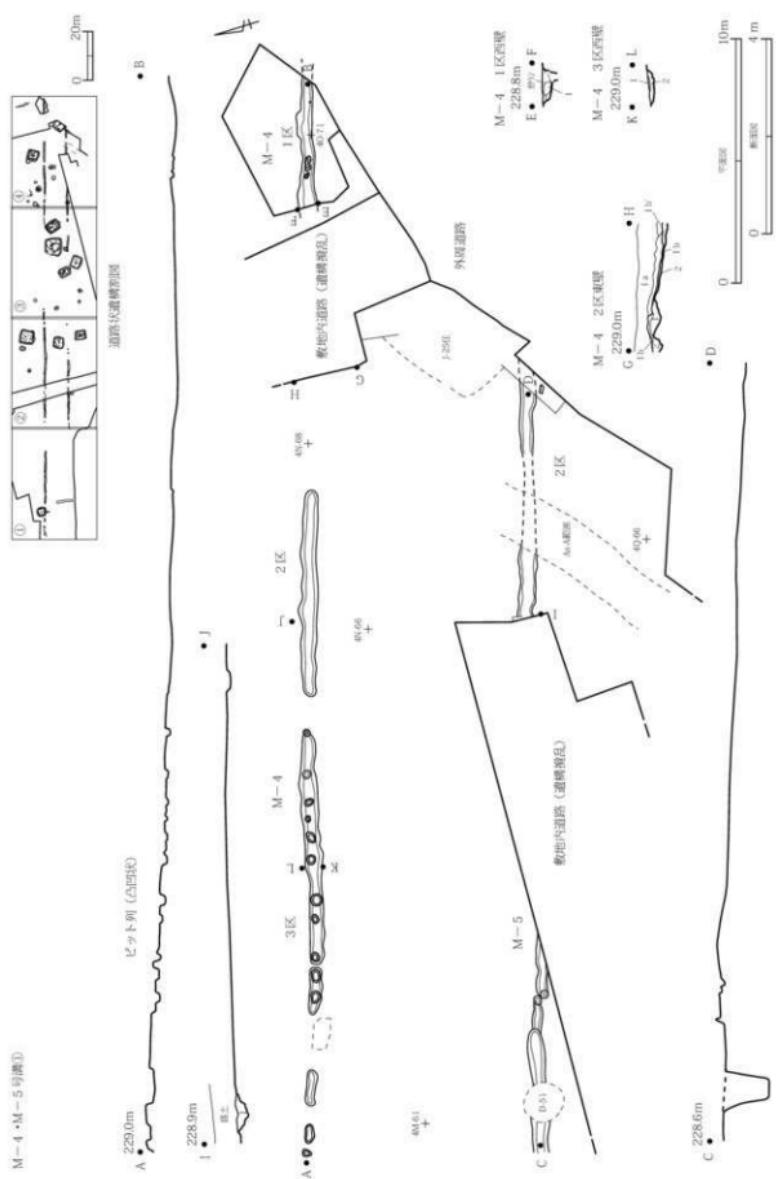
(高橋)

道路状遺構（第106～109図）

E区南東部で台地傾斜に直交して横切る2本の並行する溝（M-4・5号溝）を検出した。2本の溝は、間隔が約9m（溝内側からの距離）で、規模・形態も類似することから、道路の側溝と認識した。確認できた距離は、約180mである。前回の市道調査では、M-4号溝の続きと一致する溝が確認されていたが、並行するもう1本の溝が確認されていたかったため、当時の調査段階では、道路側溝であるとの認識はなされていなかった。今回の調査では、確認できた道路の東側（調査区外）は、約60m先で急峻な崖となっている。道路と崖までの間は緩く傾斜する。地形図をみると、道路の延長線上の脇で谷が小さく抉れる部分が存在し、谷に対する道筋であった可能性が考えられる。道路西側は、自然地形に沿って傾斜地を横切って低地面に差しかかる範囲まで確認できたが、その先については、落合遺跡または周辺の調査では発見されていない。調査区内における道路の状況は、複雑および造成によりV層～VI層まで削平が及んでいる範囲が広いため、溝の底面及びその痕跡のみとするところが多く、遺構の遺存状態は良好ではなかった。したがって、道路面の整地痕、両側溝の形態については、明らかにすることはできなかった。道路の両側溝は、削平以外でも途切れる範囲がみられ、溝が連続的には繋がらない構造であった可能性がある。溝の底面は、深さが一定ではなく、細長い溝が連結して繋がる部分（連結状土坑）あるいは小ピットが一列に並ぶ範囲が隨所で認められた。M-5号溝の西側斜面に相当する範囲では、溝の痕跡が全く確認できず、並行するM-4号溝とは異なり、存在していない可能性がある。道路の走向は、やや南に傾斜する地形に沿って、東西方向からやや北へ20度傾いている。道路は傾斜面を横切るように自然地形に沿って、地形を改良せずに真っ直ぐに延びた構造をもつ。各溝内からは、遺構に伴う時期を判別できる遺物は出土しなかった。

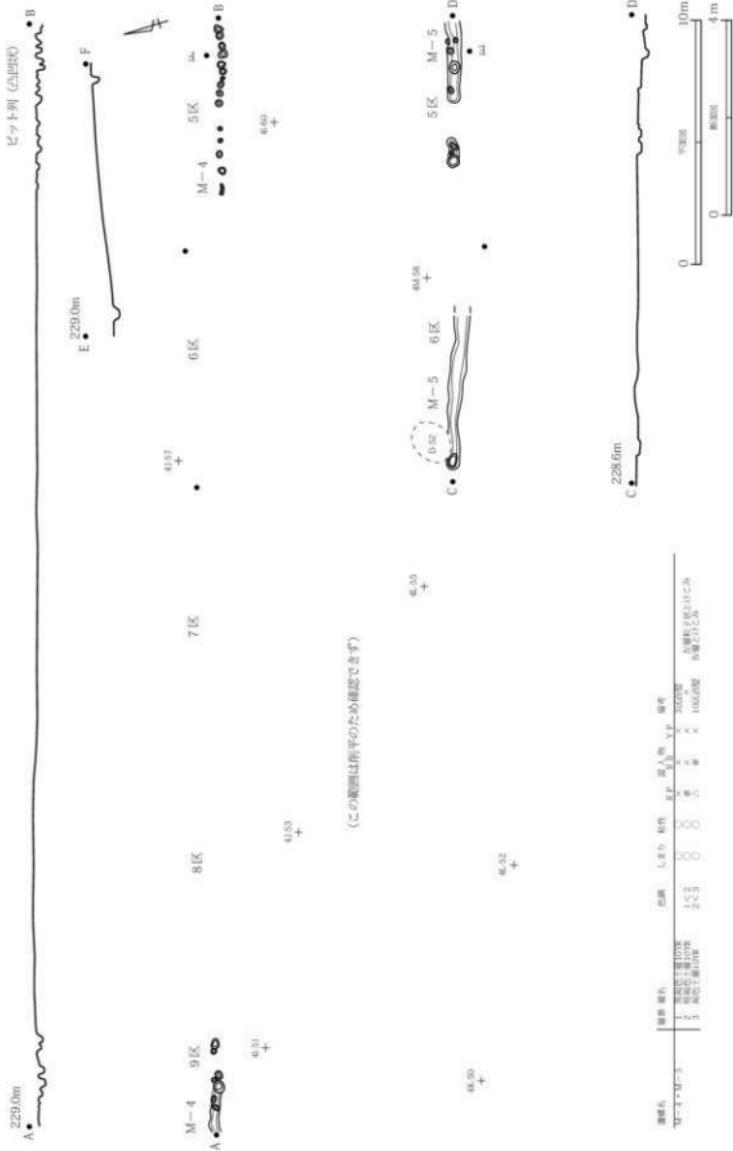
本調査で確認された道路は、規模大・規格において古代官道に匹敵する規模をもつことから、律令期から奈良時代初頭（7世紀後半から8世紀初頭）にかけて建設されたものと推定される。

(井上)

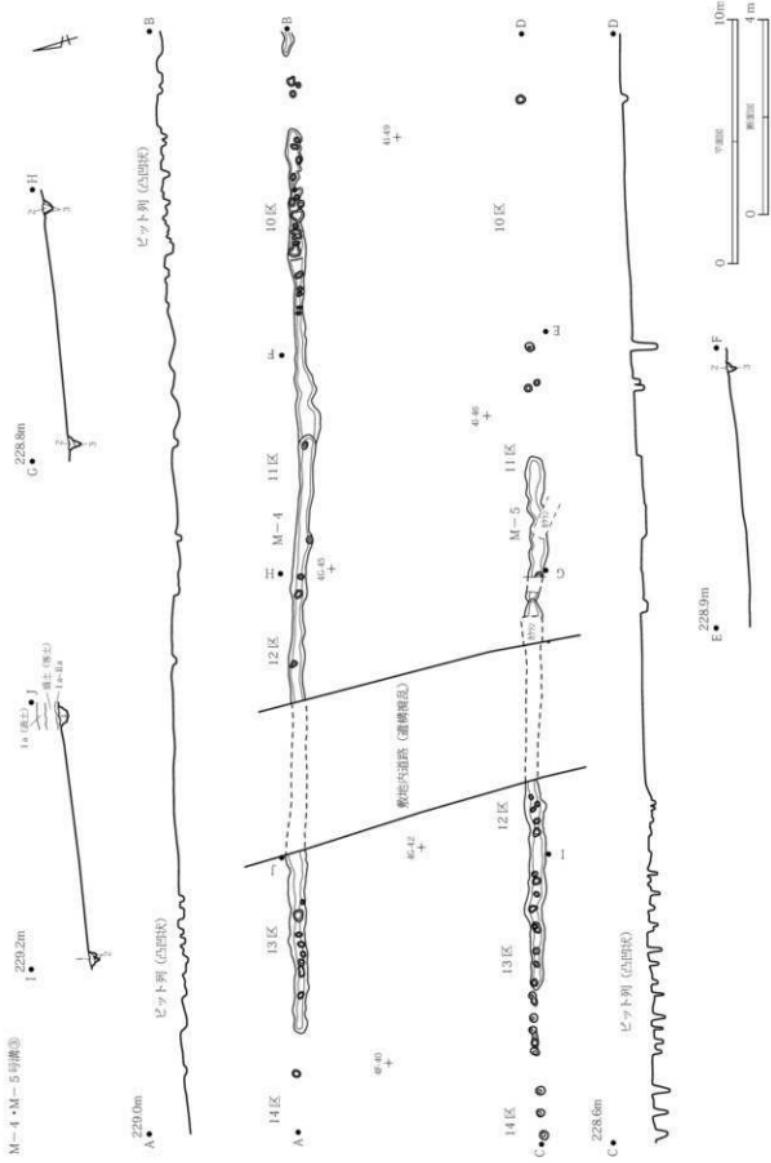


第106図 三本木Ⅱ遺跡(古代) 道路状遺跡実測図(1)

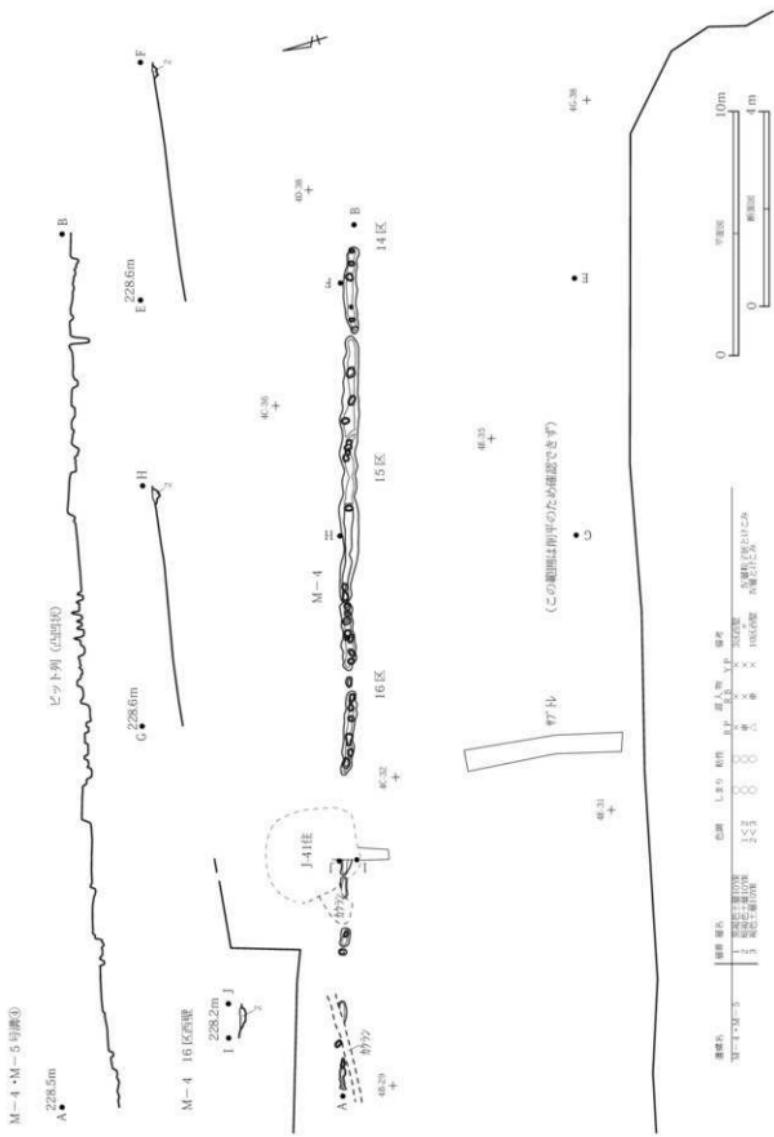
M-4・M-5 号構造



第107図 三本木II道路(古代) 道路状況測定図(2)



第108図 三本木II遺跡（古代）道路状遺構実測図（3）



第109図 三本木II遺跡（古代）道路状遺構実測図（4）

3 三本木Ⅲ遺跡

(1) 概要

本遺跡の調査区は、平成6年度の外周道路部分の調査で確認された古代の集落に隣接する。そのため、外周道路部分から14トレンチの間までは集落が存在すると予想し、その範囲の外側について集落範囲を把握する目的にトレンチ調査を実施した（10～13トレンチの一部、14～20、25～29トレンチ）。その結果、14、15トレンチでは、古代の遺構、遺物等が確認されたが、10～13トレンチ及び16トレンチ以降では溝1条（17～20トレンチの中央部）を確認した。また、25トレンチの東側では、外周道路部分で確認された溝（未調査）の続きが確認された。これにより、事業区域内の集落及び溝の範囲を確定し、それぞれの調査区の設定を行った。

縄文時代では、三本木Ⅱ遺跡で確認された関山式期を中心とした集落等の存在は確認できなかった。また、各トレンチ調査では、遺構は確認されず、遺物もほとんど出土しなかった。M-7号溝の調査では、3区において後期前半（堀之内2式期）の大形破片（同一個体の破片数点）、前期中葉（有尾・黒浜式期）の土器片及び石器類が少數出土し、分布域の狭い遺物包含層を確認した。

三本木Ⅲ遺跡の縄文時代は、遺構、遺物の分布が薄いことから、三本木Ⅱ遺跡の集落の外側に相当し、新たな集落が形成されなかつた場所であったと考えられる。

弥生時代、古墳時代の遺構、遺物は確認されなかつた。

古代では、調査区内で竪穴住居址、掘立柱建物址、竪穴状遺構、竈・炉状遺構（性格不明）、土坑、溝、ピットを確認した。確認された遺構は、前回調査した同一集落に含まれるもので、遺構の分布状況から、集落の南側範囲が確定し、さらに今回の調査区より北側へと展開する可能性が明らかとなった。集落の時期は8～9世紀代に相当し、時期によって空白期が認められた。

遺構は、東側を主体とした竈をもつ竪穴住居址と掘立柱建物址で構成され、時期によって主軸方向が一致する遺構が、規則的に配置される状況がみられた。掘立柱建物址は、方形の大形柱穴、縦柱、大形等の一般的な集落では少ない構造をもつ建物が確認された。

本遺跡の集落は、横野台地一帯で確認されている牧や三本木Ⅱ遺跡で発見された道路との関係をもつものとして注目される。

遺物は、土師器、須恵器等の土器類の他、農具、工具等の鉄製品、紡錘車、砥石等の石器・石製品が住居址から出土した。特筆される遺物は、「中」と墨書された土器、上野型有蓋短頸壺蓋、小形短頸壺、暗文土器、權衡（竿秤の錘）等である。
(井上)

(2) 古代の遺構

本遺跡では、竪穴住居址17軒（拡張は含まない）、掘立柱建物址8棟以上、竪穴状遺構1基、竈・炉状遺構（性格不明遺構）1基、土坑7基（中世を含む、掘立柱建物址の柱穴を除く）、溝4基（中世を含む）、柱穴と推定される土坑・ピット多数が確認された。

各遺構の属性については、遺構観察表を作成した。本稿では、各遺構の特徴をまとめた。



第110図 三本木川遺跡 遺構配置図（北側調査区）

住居址（第111～第136図）

住居址の時期は、出土土器の年代をもとに8、9世紀をそれぞれ四半世紀（25年）で区分して、8期に細分した（8世紀は1～4期、9世紀は5～8期）。そして、集落の時期は、年代に幅をもたせて前半、後半の2区分として一括した（なお、後述する土器編年の時期区分とは異なる）。

＜各住居址の幅属時期＞

- 1期（8世紀第1四半期＝土器編年Ⅰ期）：3軒（H-10、11、22号住居址）
- 2期（8世紀第2四半期）：なし
- 3期（8世紀第3四半期＝土器編年Ⅱ期）：1軒（H-20号住居址）
- 4期（8世紀第4四半期＝土器編年Ⅲ期）：4軒（H-8、9、17、18号住居址）
- 5期（9世紀第1四半期＝土器編年Ⅳ期）：3軒（H-14～16号住居址）
- 6期（9世紀第2四半期）：なし
- 7期（9世紀第3四半期＝土器編年Ⅴ期）：4軒（H-7、12、13、23号住居址）
- 8期（9世紀第4四半期＝土器編年Ⅵ期）：1軒（H-21号住居址）

9世紀前半：1軒（H-19号住居址、住居配置状況により5期の可能性あり）

＜平成6年度調査の住居址の時期＞

- 9世紀第1～2四半期：1軒（H-2号住居址）
- 9世紀第2四半期：1軒（H-3号住居址）
- 9世紀第2～3四半期：1軒（H-4号住居址）
- 9世紀第3～4四半期：1軒（H-5号住居址）

＜集落の時期別住居数（前回調査分を含む）＞

- 8世紀前半：3軒（奈良）、8世紀後半：5軒（奈良～平安初期）の8軒
- 9世紀前半：6軒（平安）、9世紀後半：7軒（平安）の13軒

＜住居址の特徴＞

平面形態：正方形は8世紀代、長方形は9世紀代にそれぞれ多くなる傾向がある。

住居構造：主柱穴は、H-22号住居址（4本と推定、床下土坑と重複）を除いて確認されなかった。床下土坑は、8世紀代に多くの住居でみられ、床面全体に及ぶものや複数重複するものもある。9世紀代まで床下土坑はみられる。床下土坑の性格は、貯蔵を目的としたもの、粘土を探掘するためにできた土坑との両者の見方がある。堀方をもつ住居址には多数の床下土坑が認められることから、住居の掘削を兼ねた粘土探掘の可能性が考えられる。竈脇の貯蔵穴（土坑）は8世紀代からみられ、竈正面右脇に設けられる傾向があるが、H-8、12号住居址では、竈とは反対側（南西隅）に設けられる。壁周溝は、竈部分、または貯蔵穴を加えた部分を除き全周するもの、部分的にあるもの、存在しないものに分けられる。

堀方：8世紀代の住居址に多くみられる傾向があるが、ローム層まで掘削される床面が深い住居址においても認められる。もともと硬質な土層（IV～V層）を床面とする浅い住居址には堀方は認められない。

主軸方向：8、9世紀とも東西方向である。ただし、H-22号住居址のみ南北方向の時期がある。

竈：竈主体部の構築材は粘土、礫を使用し、壁面の一部に礫を並べるもの、焚き口の両袖に礫（凝灰岩、安山岩）を置くもの、煙道に甕を使用するものが存在する。竈は、全て潰されており、主体部内にはそれに伴う土器片、礫が廃棄された状態で検出された。

住居覆土と出土遺物：自然堆積（Ⅲ層の流れ込み）、人為的な埋め戻しの両者が認められた。H-14号住居址では、ロームブロックを多量に含む土層が上層に厚く埋没し、人為的埋め戻しの可能性がある。これは、隣接するH-13号住居址の掘削による堆土によるものと考えられる。遺物は、上層から出土する住居が多くみられ、深さによる出土量の差がない。上層は廃棄された遺物、下層は廃棄遺物に混在する遺棄された遺物（环等の完形土器、紡錘車、台石・砥石等の石器類）が認められる。

掘立柱建物址（第137～142図）

8棟を認識したが、HT-6、7号掘立柱建物址付近では、多数の柱穴（土坑、ピット）が検出されており、複数の時期に重複した建物が多数存在した可能性がある。

建物の時期は、住居址等の配置と遺構との重複関係から、8世紀後半四半期の住居址がHT-2号掘立柱建物址を壊していること、SF-1号遺構が掘立柱建物址の脇に存在することから推測すること、8世紀前半四半期の住居址が掘立柱建物址の脇にあること、柱穴出土遺物が8世紀前半であることから、8世紀以前あるいは8世紀前半（住居址より先行）が建物群の中心時期であったと推測される。建物は、梁行2間が基本であり、建物の大きさによって桁行の方向が長くなる。主軸は住居址と同様、東西方向である。HT-4号掘立柱建物址は、総柱建物で東側に庇が付く倉庫等でみられる構造である。

竈・炉状遺構（性格不明遺構）（第143図）

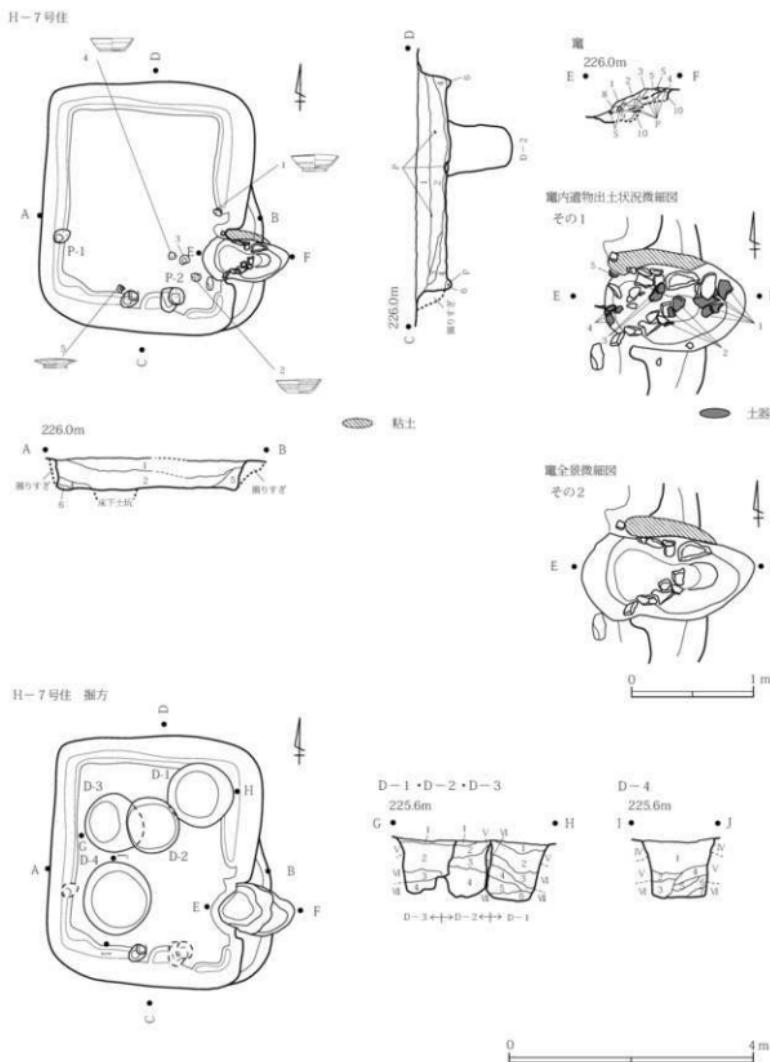
1基検出された。Ⅲ層面において、粘土で固まれた範囲及び炭化材、焼土、土器小破片が分布する範囲とその遺構に重なって2か所の浅い掘り込みを確認した。当初、この遺構を竈のある住居址としたが、掘り込みは確認されなかったため、平地式の別遺構と認識した。しかし、本報告までに類例が確認できなかったため、竈あるいは炉状の遺構をもつ性格不明の遺構として報告する。遺物は、8世紀前半の須恵器壺が1点出土した。

土坑（第144図）

土坑は、7基検出された。古代の土坑としたものは少ない。D-148号土坑は、浅い掘り込みに扁平礫が置かれた状態であることから、建物の礎石の可能性が考えられる。また、D-149号土坑は、覆土上部に浅間B軽石混入土、底面付近では炭化物が大量に検出されたことから、古代末期以降の炭焼土坑と考えられる。

溝（第145～147図）

溝は4条検出された。M-7号溝は、南北方向に延びる溝で40mを確認したが、溝北側は東に曲がったところで、溝南側は1区で削平により擁擠され、20トレンチより先では、確認できず、溝としては途中で途切れる不完全な遺構と考えられる。浅間B軽石の堆積状況から、三本木Ⅲ遺跡の集落と同時期の遺構と考えられる。M-8号溝は、覆土に浅間軽石が混入する古代末期以降の溝である。溝南側は、保存措置のため追跡調査はできなかったが、16トレンチ付近では、確認できなかったため、途中で途切れた遺構と考えられる。調査当初、外周道路部分のM-3号溝と構造が類似していたため、同一遺構としたが、図面を合成した結果、それぞれ別の溝であったことが判明した。ただし、外周道路部分では、M-8号溝は確認されていないため、溝の北側延長部分は不明である。事業区域内のM-3号溝の状態



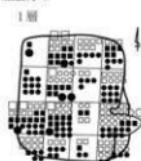
第111図 三本木III遺跡（古代）H-7号住居址実測図（1）

H-7号住

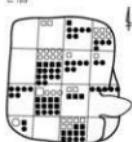
種類	組成	色調	しまり	粒性	質	物	強度	耐久性
H-1型柱	1 鉛鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	●
	2 鉛鉄芯-壁10VR	1 < 2	○	●	●	●	●	N/B ○
	3 鉛鉄芯-壁10VR	2 < 3	○	●	●	●	●	N/B ○
	4 鉛鉄芯-壁10VR	2 < 4 < 3	○	●	●	●	●	N/B ○
	5 鉛鉄芯-壁10VR	○	○	△	△	●	●	N/B ○
	6 鉛鉄芯-壁10VR	○	○	△	△	●	●	N/B ○
	7 鉛鉄芯-壁10VR	○	○	△	△	●	●	表面
	8 鉛鉄芯-壁10VR	○	○	△	△	●	●	
	9 鉛鉄芯-壁10VR	○	○	△	△	●	●	
	10 鉛鉄芯-壁10VR	○	○	△	△	●	●	
D-1	1 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	初期の堅固化
	2 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	3 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	4 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	5 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	6 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	7 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	8 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	9 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	10 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
D-2	1 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	初期化
	2 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	3 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	4 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	5 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	6 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	7 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	8 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	9 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	10 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
D-3	1 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	初期化
	2 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	3 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	4 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	5 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	6 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	7 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	8 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	9 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
	10 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	○
D-4	1 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	黒色土とYH和葉が互換
	2 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	
	3 黒鉄芯-壁10VR	1 < 2	○	○	●	●	●	
	4 黒鉄芯-壁10VR	3 < 2	○	○	●	●	●	
	5 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	
	6 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	
	7 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	
	8 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	
	9 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	
	10 黒鉄芯-壁10VR	○	○	○	●	●	●	



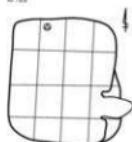
十一、分子



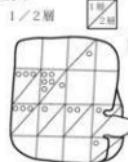
24

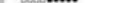
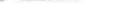
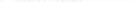
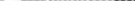
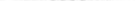
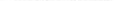


石器分布



卷之六



1区サブトレ-1層	
1区サブトレ-2層	
7区サブトレ-1層	
7区サブトレ-2層	
11区サブトレ-1層	
15区サブトレ-1層	
8区埋	
18区埋	

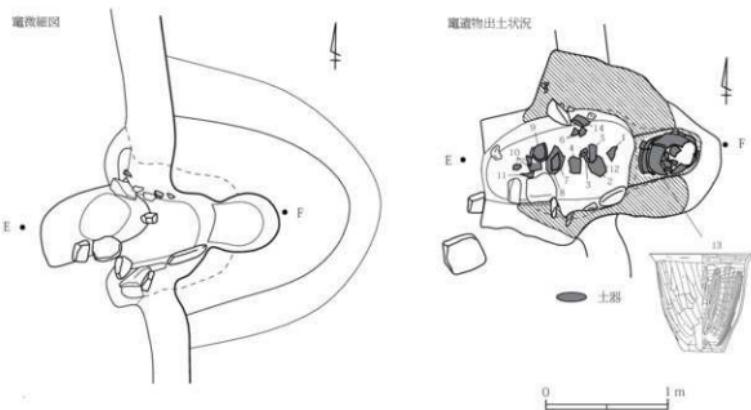
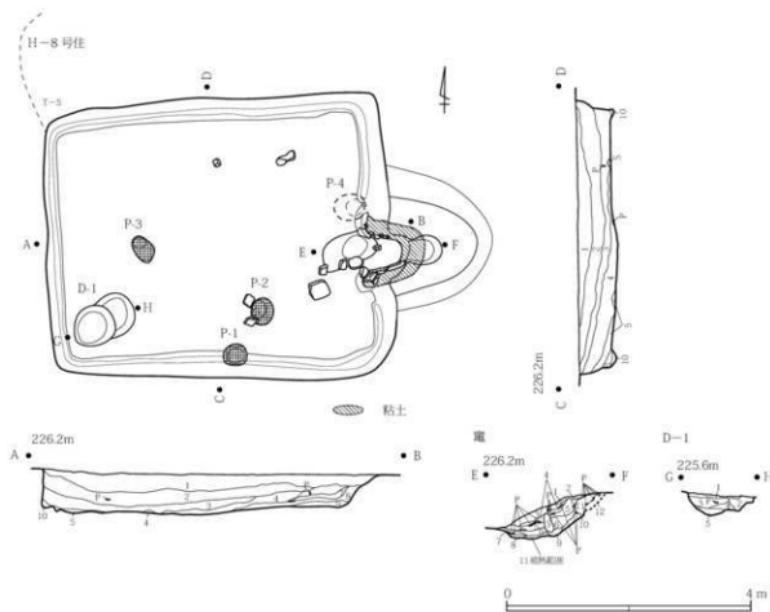
No.1	□□□□□□□
No.2	■■■■■■■■■■
No.3	■■■■■■■■■■
No.4	■■■■■
No.5	□□□□□
電	□□□□□□□○○○○○●
開	□□□□□□■■■■■■■■■■

1話サブトレ2題

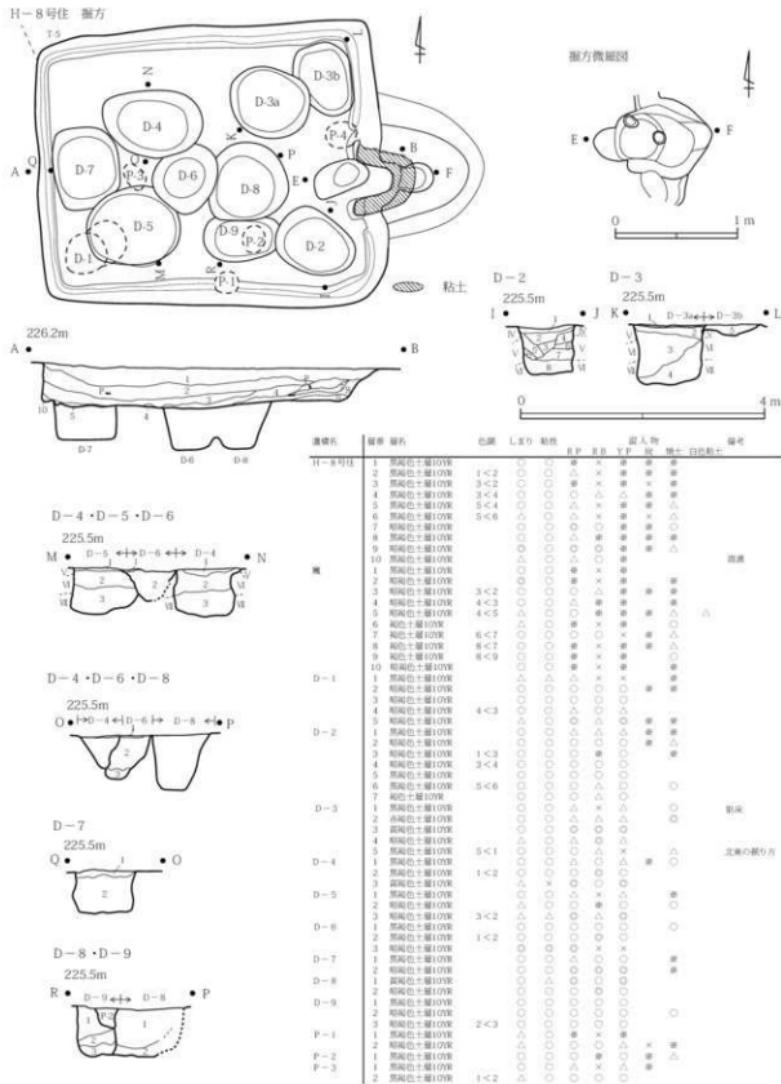
◎ 読書リスト

0 4 m

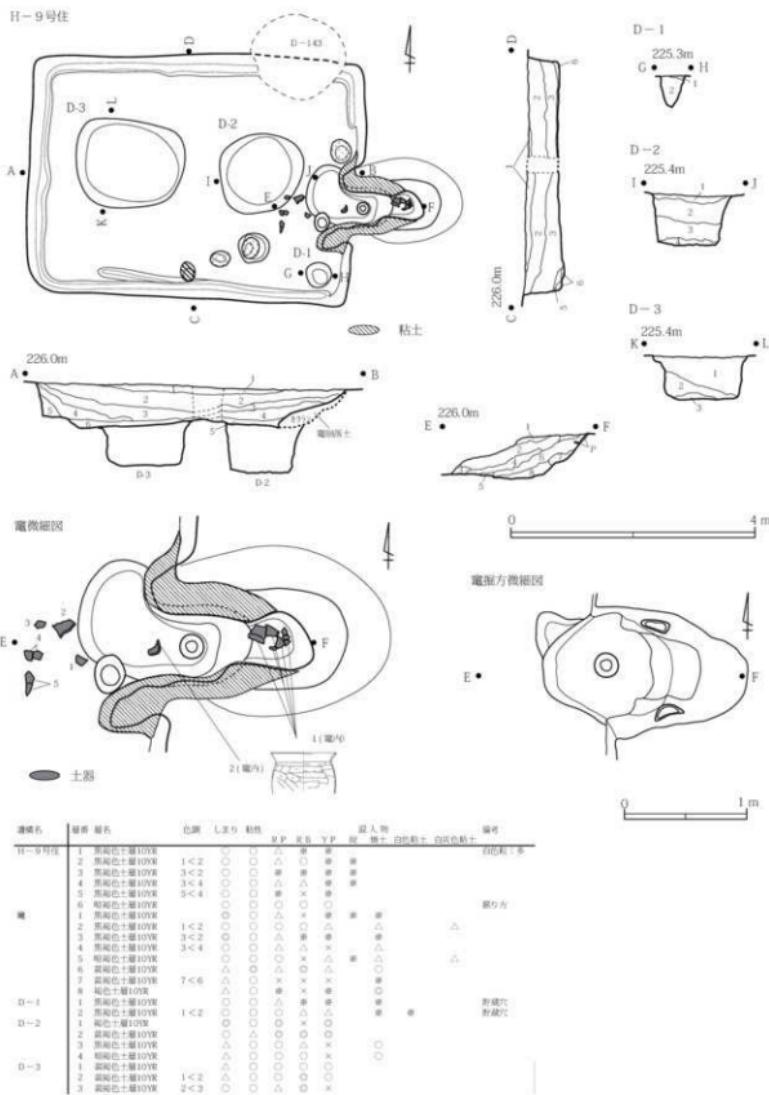
第112図 三本木川遺跡（古代）H-7号住居址測定図（2）



第113図 三本木III遺跡（古代）H-8号住居址実測図（1）

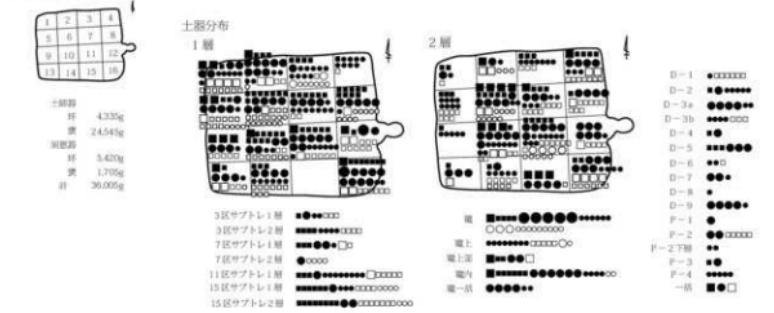


第114図 三本木Ⅲ遺跡（古代）H-8号住居址実測図（2）



第115図 三本木Ⅲ遺跡（古代）H-9号住居址実測図（1）

H-8 号住



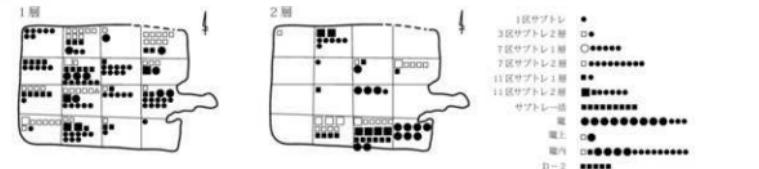
石器分布



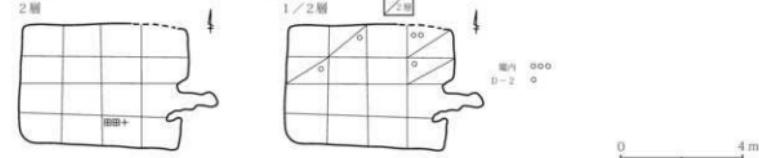
H-9号住



土器分布

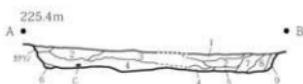
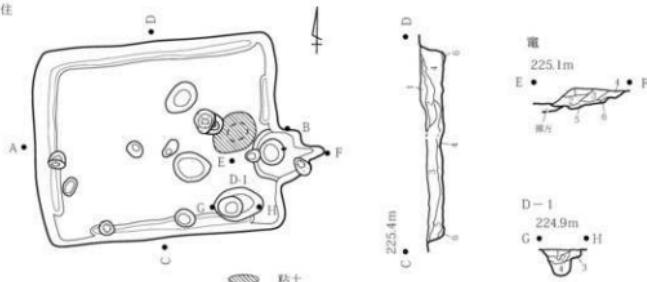


石器分布

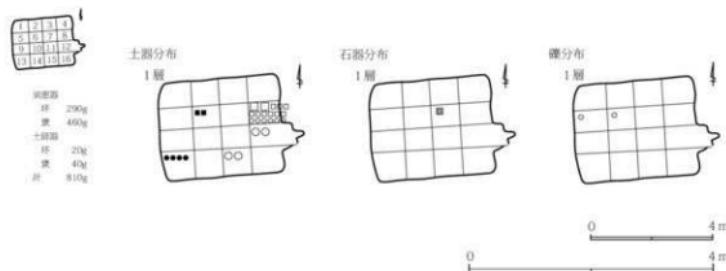


第116図 三本木Ⅲ遺跡（古代）H-8・9号住居址実測図

H-10号住



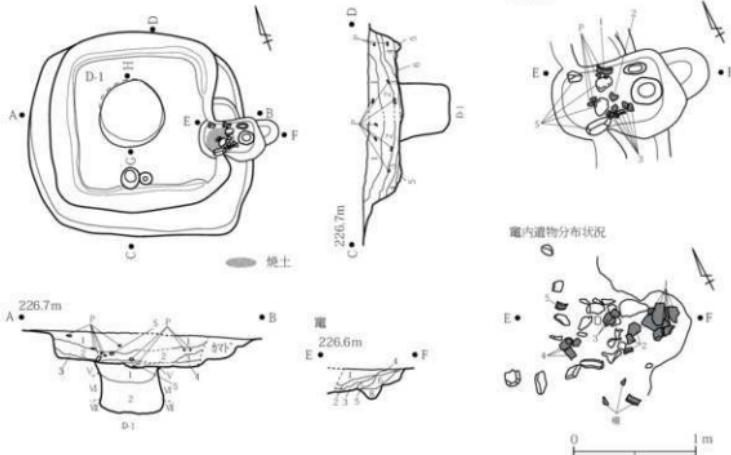
選択名	種類・品種	色調	しまり・粒性	葉	花	莢	果	葉入物	種子	白色粘土	開可
H-10往々	1 黒胡麻白-茎10葉	○	○	○	○	△	●	●	●	●	△
	2 黒胡麻白-茎10葉	○	○	○	△	△	●	●	●	●	×
	3 黒胡麻白-茎10葉	○	○	○	○	△	●	●	●	●	×
	4 黒胡麻白-茎10葉	3<4	○	○	○	△	△	●	●	●	×
	5 黒胡麻白-茎10葉	○	○	○	○	△	△	●	●	●	×
	6 黒胡麻白-茎10葉	○	○	○	○	△	●	●	●	●	×
	7 黒胡麻白-茎10葉	○	○	○	○	△	●	●	●	●	×
	8 黒胡麻白-茎10葉	○	○	○	○	△	●	●	●	●	○
	9 黒胡麻白-茎10葉	○	○	○	○	△	●	●	●	●	○
	10 黒胡麻白-茎10葉	○	○	○	○	△	●	●	●	●	○
H-11	1 黒胡麻白-茎10葉	○	○	○	○	△	●	●	●	●	○
	2 黒胡麻白-茎10葉	○	○	○	○	△	●	●	●	●	○
	3 黒胡麻白-茎10葉	○	○	○	○	△	●	●	●	●	○
	4 黒胡麻白-茎10葉	2<3	○	○	○	△	●	●	●	●	○
	5 黒胡麻白-茎10葉	4<3	○	○	○	△	●	●	●	●	○
D-1	1 黒胡麻白-茎7葉	○	○	○	○	△	●	●	●	●	○
	2 黒胡麻白-茎7葉	○	○	○	○	△	●	●	●	●	○
	3 黒胡麻白-茎7葉	3<2	○	○	○	△	●	●	●	●	○
	4 黒胡麻白-茎7葉	2<3	○	○	○	△	●	●	●	●	○
	5 黒胡麻白-茎7葉	○	○	○	○	△	●	●	●	●	○



第117図 三本木川遺跡（古代） H=10号住居址測量図

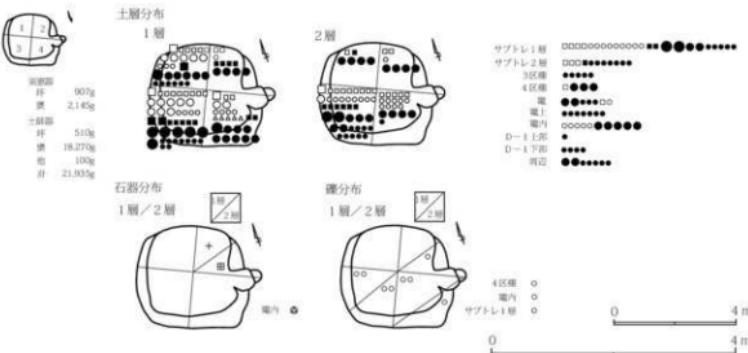
H-11号住

電離線図

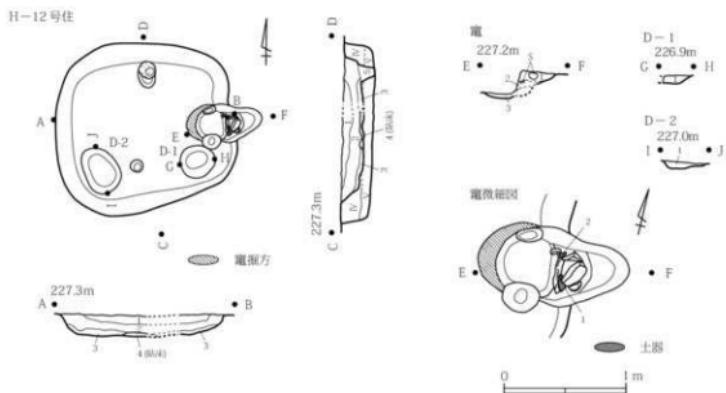


遺構名	遺構番号	色調	しまり	粒度	E.P.	R.R.	Y.F.	布土	無土	自然土	参考
H-11居住											
1	黒褐色土層10cm	○	○	△	×	●	●	●	●	○	
2	黒褐色土層10cm	1<2	○	○	△	●	●	●	●	○	
3	黒褐色土層10cm	3<4	○	○	△	●	●	●	●	○	
4	黒褐色土層10cm	3<4	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	昭和色土層10cm	5<6	○	○	○	○	○	○	○	○	
6	昭和色土層10cm	5<6	○	○	○	○	○	○	○	○	
7	昭和色土層10cm	5<6	○	○	○	○	○	○	○	○	
8	昭和色土層10cm	6<7	○	○	○	○	○	○	○	○	
9	黒褐色土層10cm	6<7	○	○	○	○	○	○	○	○	
10	昭和色土層10cm	6<7	○	○	○	○	○	○	○	○	
壁											
1	黒褐色土層10cm	1<2	○	○	△	●	●	●	●	○	
2	黒褐色土層10cm	3<4	○	○	△	●	●	●	●	○	
3	昭和色土層10cm	3<4	○	○	○	○	○	○	○	○	
4	昭和色土層10cm	3<4	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	昭和色土層10cm	3<4	○	○	○	○	○	○	○	○	
6	昭和色土層10cm	5<6	○	○	○	○	○	○	○	○	
7	昭和色土層10cm	5<6	○	○	○	○	○	○	○	○	
8	昭和色土層10cm	6<7	○	○	○	○	○	○	○	○	
9	黒褐色土層10cm	6<7	○	○	○	○	○	○	○	○	
10	昭和色土層10cm	6<7	○	○	○	○	○	○	○	○	
D-1											

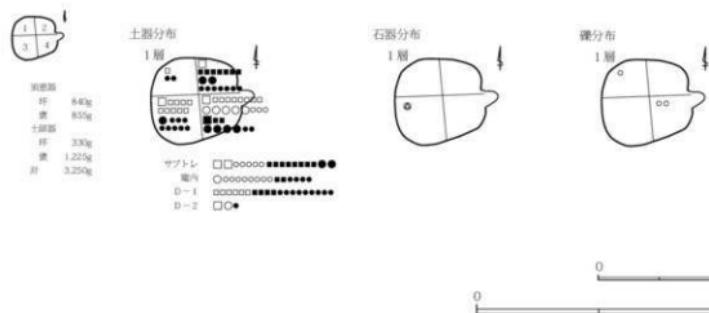
H-11居住と昭和色土層が覆疊となる



第118図 三本木III遺跡（古代）H-11号居住址実測図

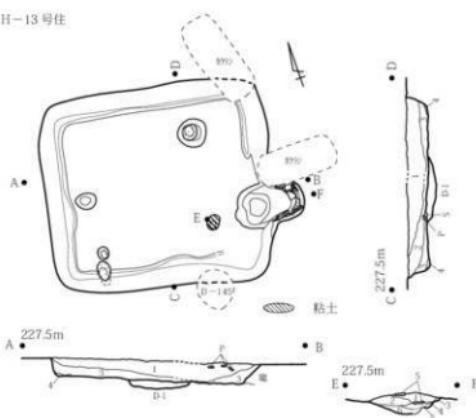


遺構名	層別	種類	色調	しまり	粒性	調査人物					備考
						R.F	R.B	Y.P	SC	地主	
H-12号住	1	黒褐色土層10YR8	2 < 1	○	○	●	●	×	×	●	●
	2	黒褐色土層10YR8	2 < 3	○	○	●	●	×	×	●	N.B. ○
	3	黒褐色土層10YR8	3 < 4	○	○	●	●	△	●	●	船床
	4	黒褐色土層10YR8	3 < 4	○	○	●	●	△	●	●	ビット
	5	黒褐色土層10YR8	5 < 4	△	△	●	●	△	●	●	
	1	黒褐色土層10YR8	2 < 3	○	○	●	●	×	●	●	
	2	黒褐色土層10YR8	2 < 3	○	○	●	●	×	●	●	
	3	黒褐色土層10YR8	2 < 3	○	○	●	●	×	●	●	
	1	黒褐色土層10YR8	2 < 3	○	○	●	●	×	●	●	
D-1		黒褐色土層10YR8									
D-2		黒褐色土層10YR8									

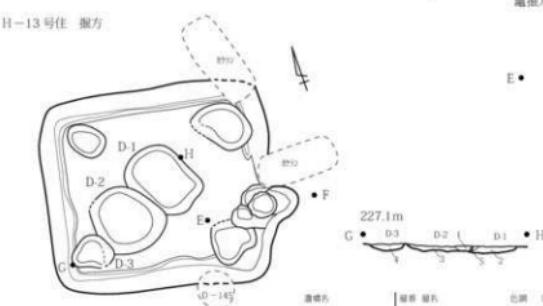


第119図 三本木III遺跡（古代）H-12号居住址実測図

H-13号住

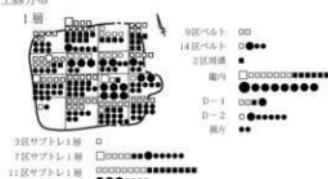


H-13号住 潟方

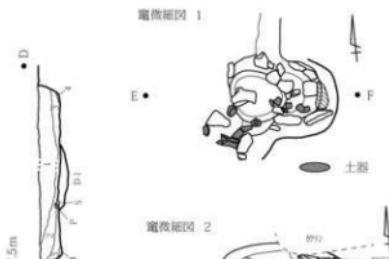


	面積	坪	面積	坪
面積	1.31kg	坪	2.3kg	坪
面積	5.47kg	坪	4.79kg	坪
面積	6.89kg	坪		

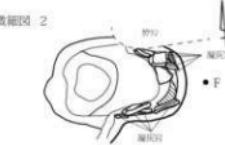
土器分布



電微細図 1



電微細図 2



電拡大微細図



層構造	層番	器種	色調	しまり	粒性	R.P	R.F	Y.P	Y.F	地	備考
H-13号住	1	輪ぬき色土器10個	1 < 2	△	○	△	○	△	×	●	堅穴
	2	輪ぬき色土器10個	1 < 2	△	○	△	○	△	×	●	堅穴
	3	輪ぬき色土器10個	1 < 2	△	○	△	○	△	×	●	堅穴
	4	輪ぬき色土器10個	3 < 4	△	○	△	○	△	×	●	堅穴
	1	輪ぬき色土器10個	1	△	○	△	○	△	×	●	堅穴
	2	輪ぬき色土器10個	2 < 1	○	○	○	○	○	○	●	D-1
	3	輪ぬき色土器10個	2 < 3	○	○	○	○	○	○	●	D-1
	4	輪ぬき色土器10個	2 < 3	○	○	○	○	○	○	●	D-2
	1	輪ぬき色土器10個	1 < 2	△	○	△	○	△	×	●	D-3
	2	輪ぬき色土器10個	1 < 2	○	○	○	○	○	○	●	D-3
	3	輪ぬき色土器10個	1 < 2	○	○	○	○	○	○	●	D-3
	4	輪ぬき色土器10個	1 < 2	○	○	○	○	○	○	●	D-3
	5	輪ぬき色土器10個	1 < 2	○	○	○	○	○	○	●	D-3
	6	輪ぬき色土器10個	6 < 5	○	○	○	○	○	○	●	D-3

石器分布

D-1

▲

礫分布

1層

○

D-1

D-2

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

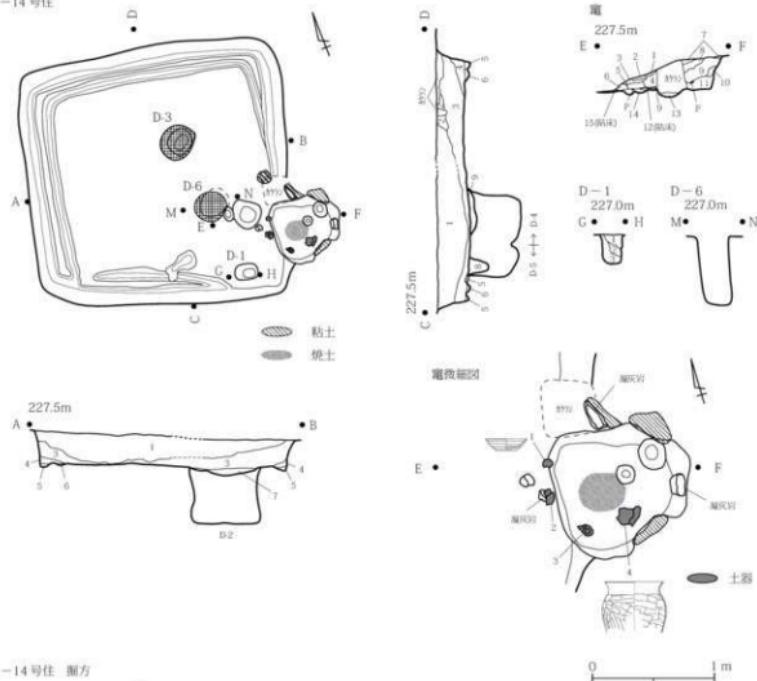
○

○

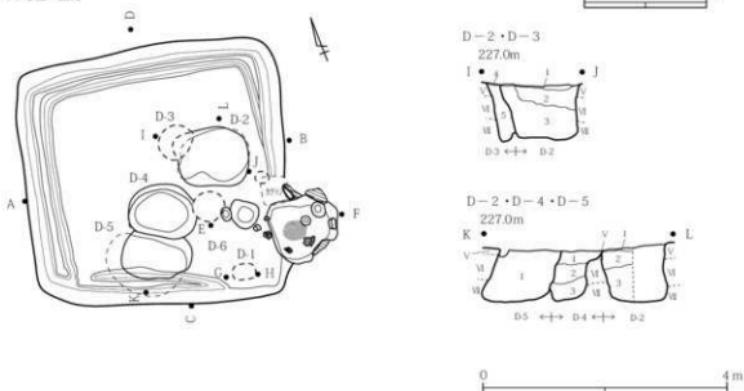
○

○

H-14号住

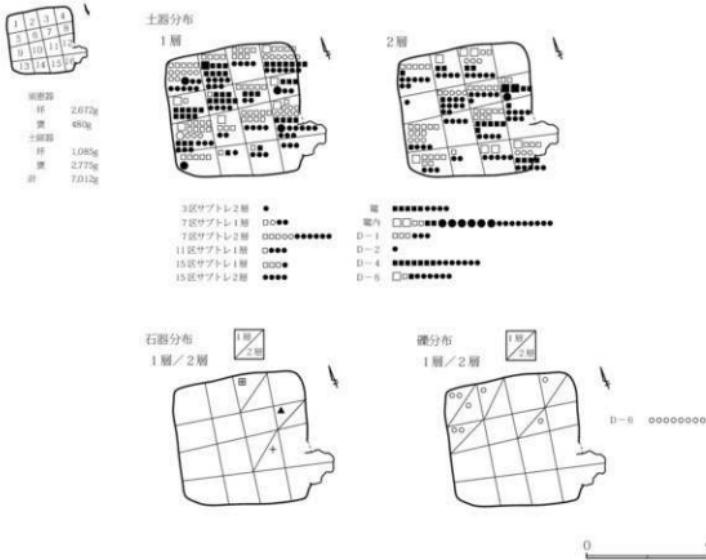


H-14号住 断面

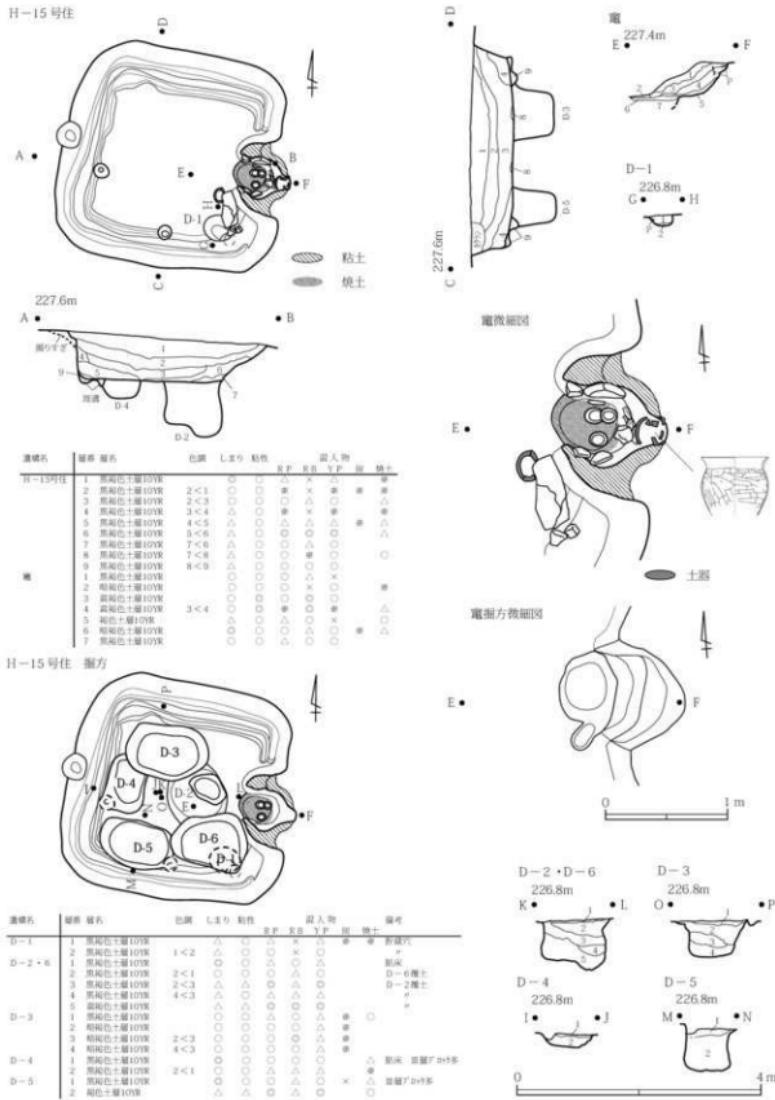


第121図 三木本III遺跡（古代）H-14号住居址実測図（1）

H-14 留住

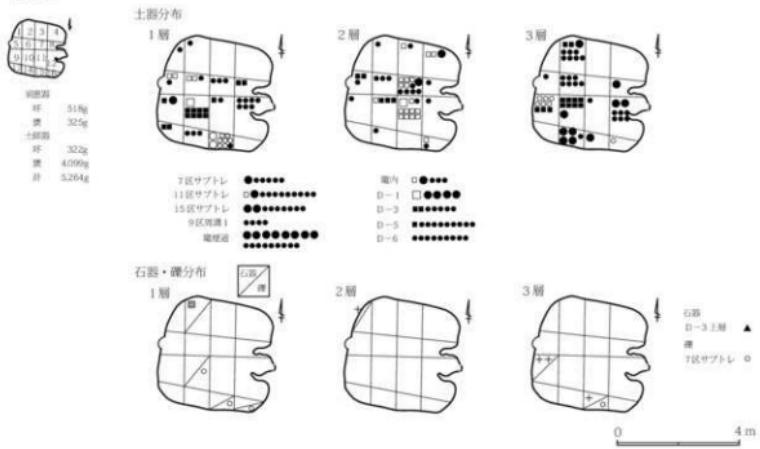


第122図 三本木Ⅲ遺跡（古代）H-14号住居址塞測図（2）

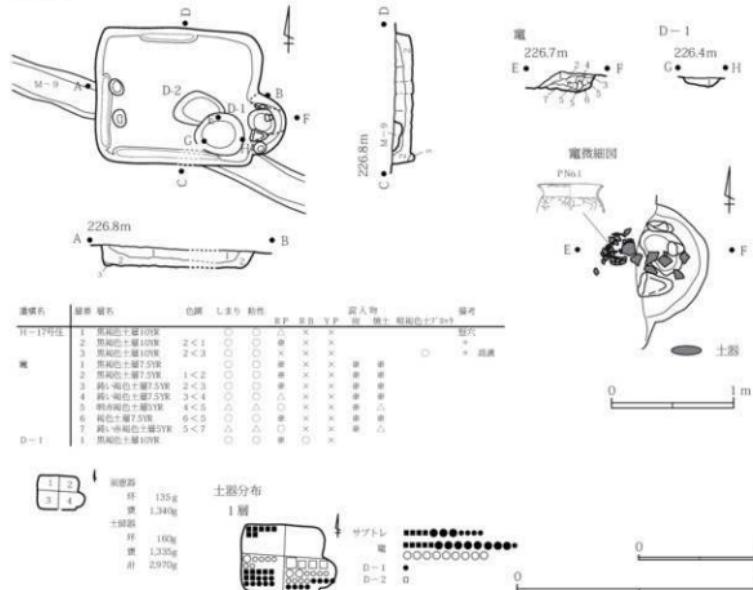


第123図 三本木Ⅲ遺跡（古代）H-15号住居址実測図

H-15号住

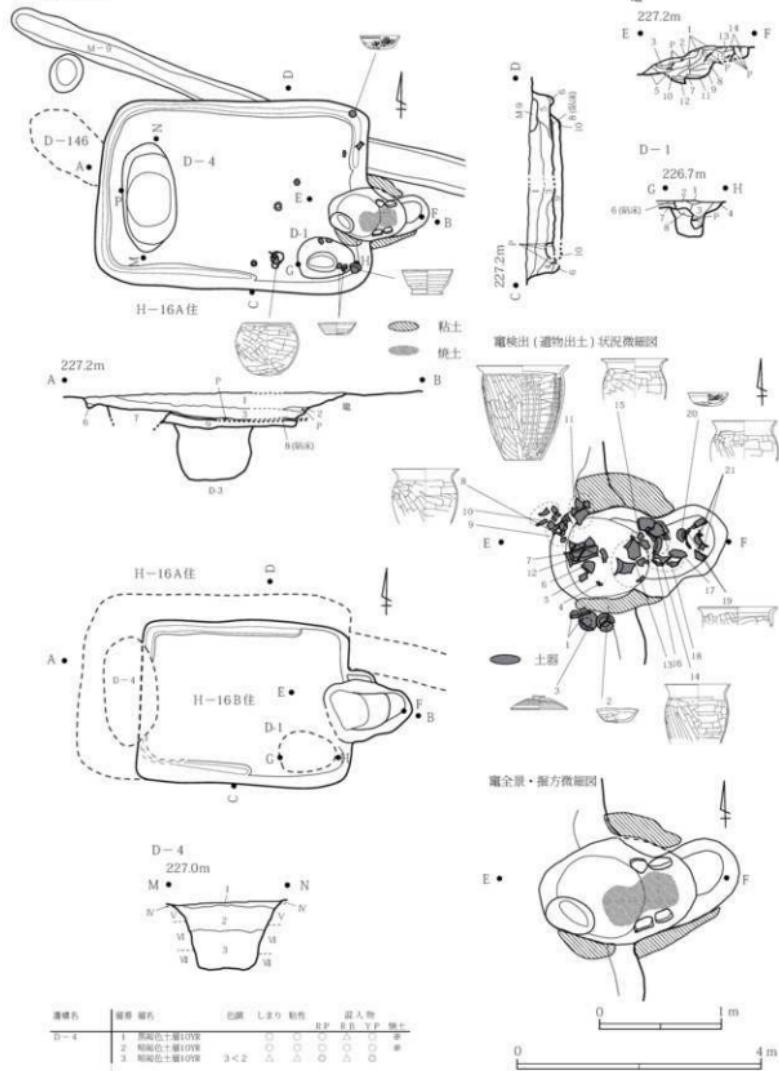


H-17号住

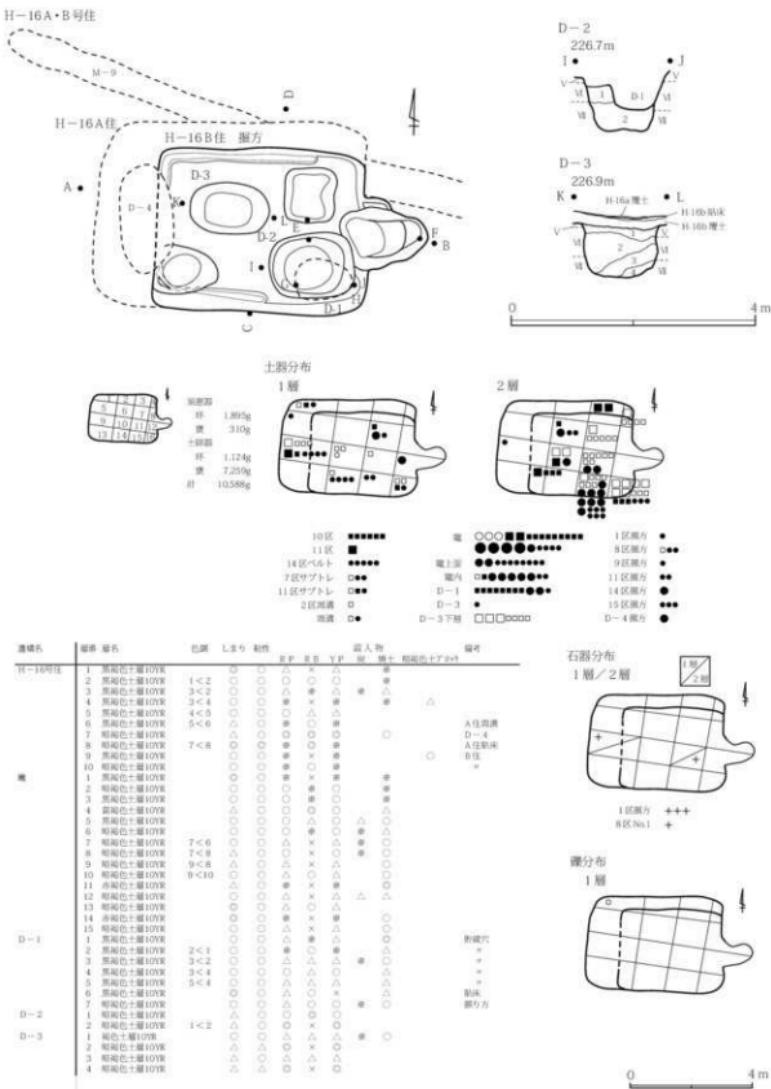


第124図 三本木III遺跡（古代）H-15・17号住居址実測図

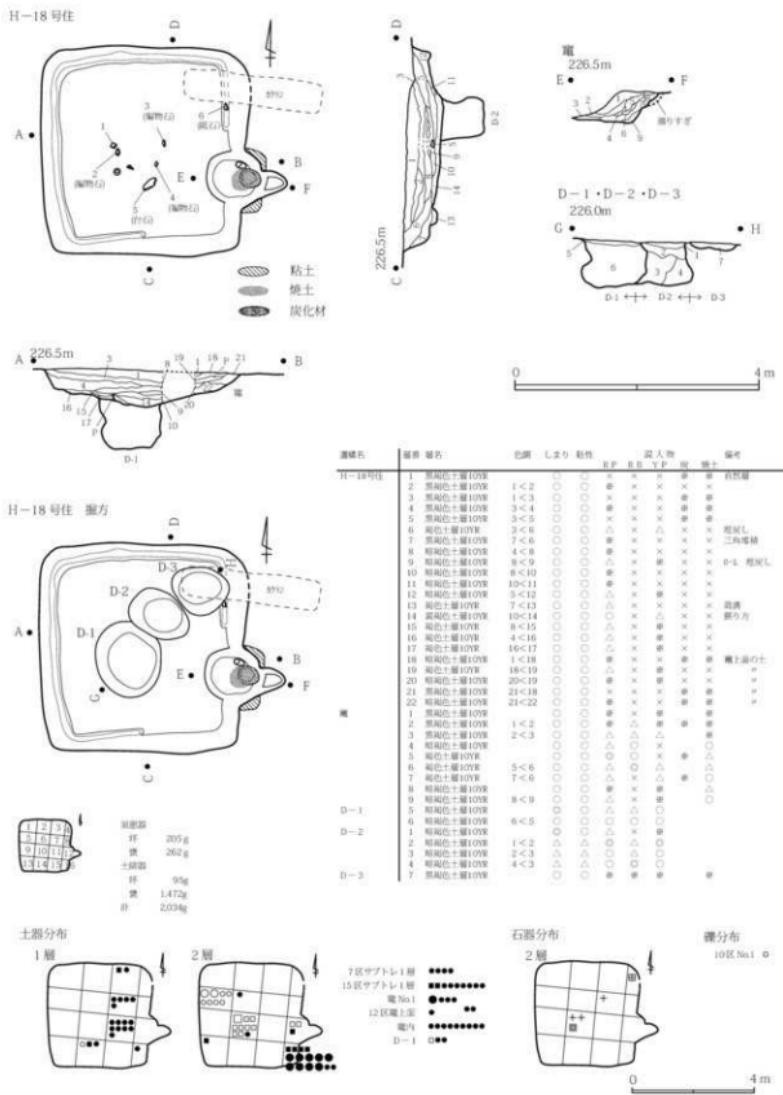
H-16A・B号住



第125図 三本木Ⅲ遺跡（古代）H-16号住居址実測図（1）

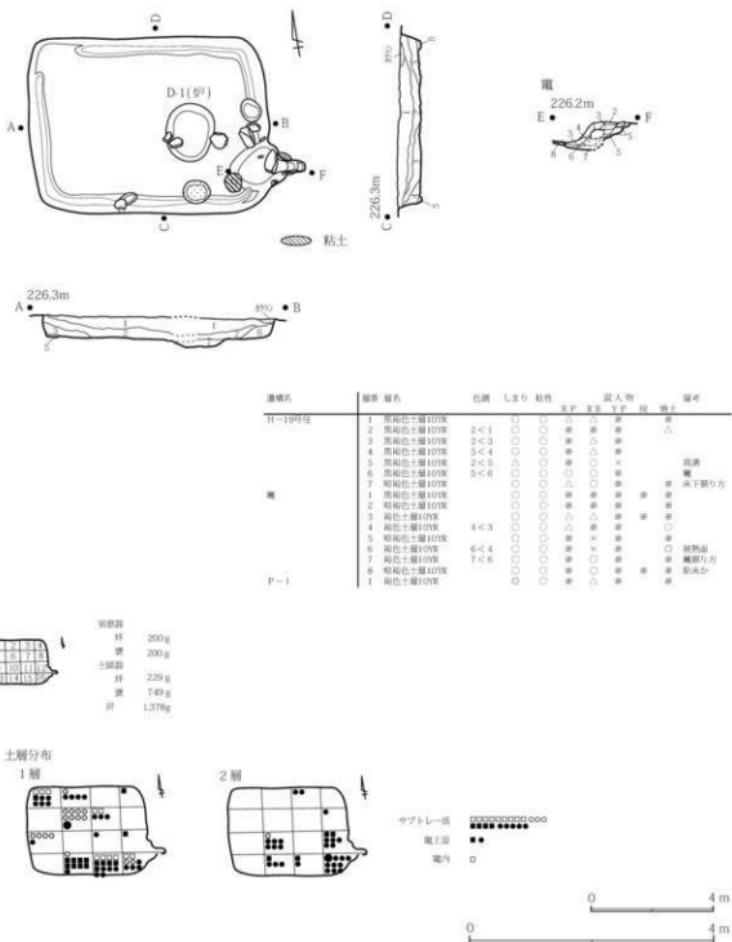


第126図 三本木Ⅲ遺跡（古代）H-16号住居址竪塞測図（2）

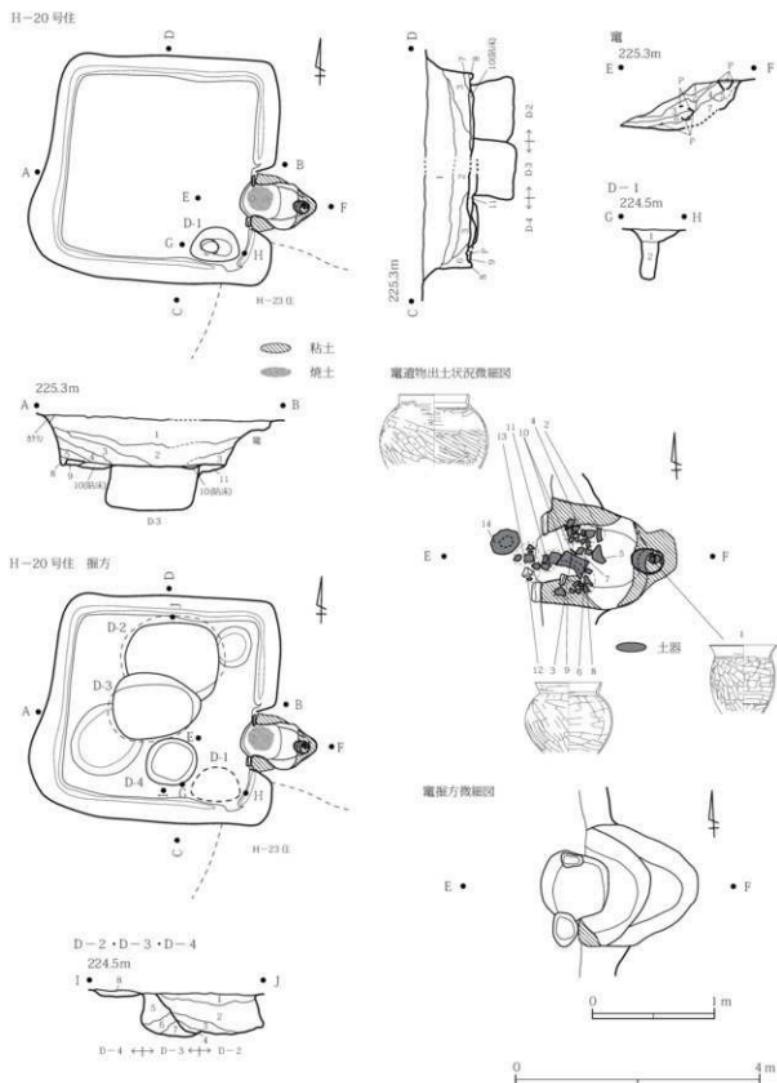


第127図 三本木III遺跡(古代) H-18号住居址実測図

H-19号住



第128図 三本木III遺跡（古代）H-19号居住址実測図

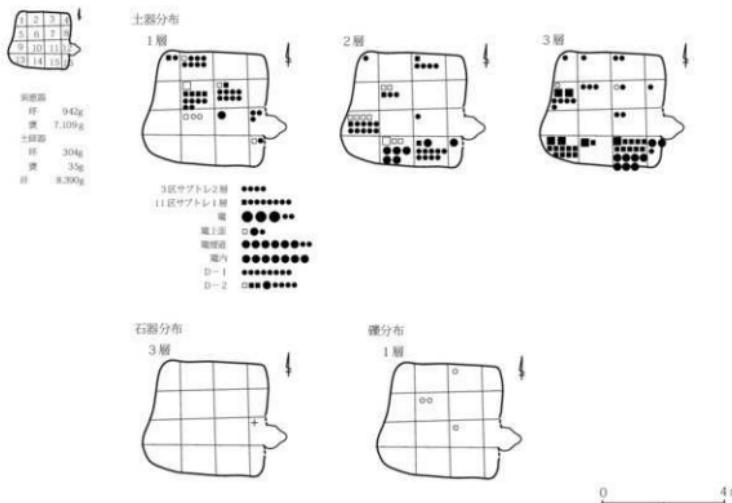


第129図 三本木III遺跡（古代）H-20号住居址実測図（1）

H-20号住

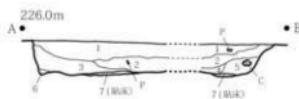
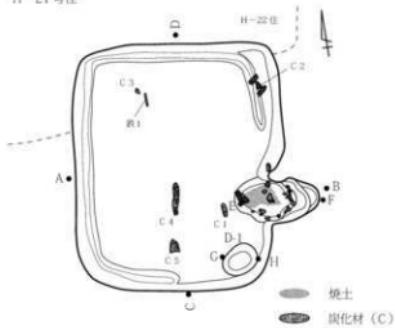
遺構名	遺構番号	色調	しまり	粒性	設入物			備考
					E.P.	X.E.	Y.D.	
<u>H-20号住</u>								
1 黒褐色土層10cm	1 < 2	○	○	○	○	△	×	
2 黒褐色土層10cm	3 < 2	○	○	△	○	△	○	●
3 黒褐色土層10cm	3 < 4	○	○	△	○	△	○	
4 黒褐色土層10cm	3 < 4	○	○	△	○	△	○	
5 黒褐色土層10cm	3 < 4	○	○	△	○	△	○	
6 黒褐色土層10cm	3 < 6	○	○	△	○	△	○	
7 黑褐色土層10cm	△ < 6	△	○	○	△	○	○	
8 黑褐色土層10cm	△ < 6	△	○	○	△	○	○	
9 黑褐色土層10cm	9 < 8	○	○	○	○	○	○	
10 黑褐色土層10cm	10 < 9	○	○	○	○	○	○	
11 黑褐色土層10cm	10 < 11	△	○	○	○	○	○	
1 黒褐色土層10cm	1 < 2	○	○	○	○	○	○	
2 黒褐色土層10cm	1 < 2	○	○	○	○	○	○	
3 黒褐色土層10cm	1 < 2	○	○	○	○	○	○	
4 黑褐色土層10cm	5 < 4	△	○	○	○	○	○	
5 黑褐色土層10cm	5 < 4	△	○	○	○	○	○	
6 黑褐色土層10cm	5 < 4	△	○	○	○	○	○	
7 黑褐色土層10cm	5 < 6	○	○	△	○	○	○	
8 黑褐色土層10cm	5 < 6	○	○	△	○	○	○	
D-1								周溝 瓦 瓦灰 灰土灰
D-2								
D-3								
D-4								

—E.P.・X.E.が発達

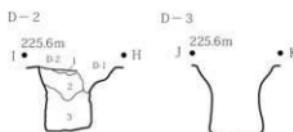
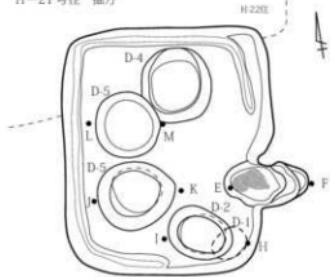


第130図 三本木III遺跡（古代）H-20号住居址実測図（2）

H-21 号住



H-21号住 挖方



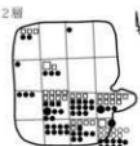
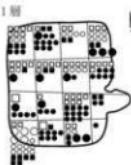
第131図 三本木III遺跡（古代）H-21号住居址実測図（1）

H-21号住



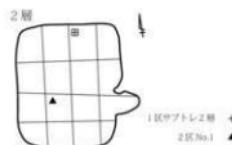
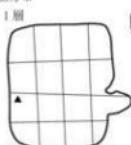
机密器	
环	2.162g
盖	1.550g
土崩器	
环	624g
盖	4.000g
计	8.296g

土壤分布

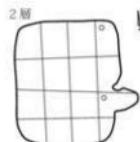
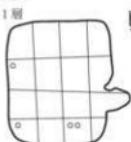


3区サブトレ	□□○●
7区サブトレ	□○oooooooooooo●oooooooooooo
7区サブトレ2層	○●●
11区サブトレ1層	□□□oooooooooooo●
11区サブトレ2層	□□□oooooooooooo
15区サブトレ:横	□oooooooooooo●oooooooooooo
15区サブトレ:斜	□oooooooooooo

石器分布



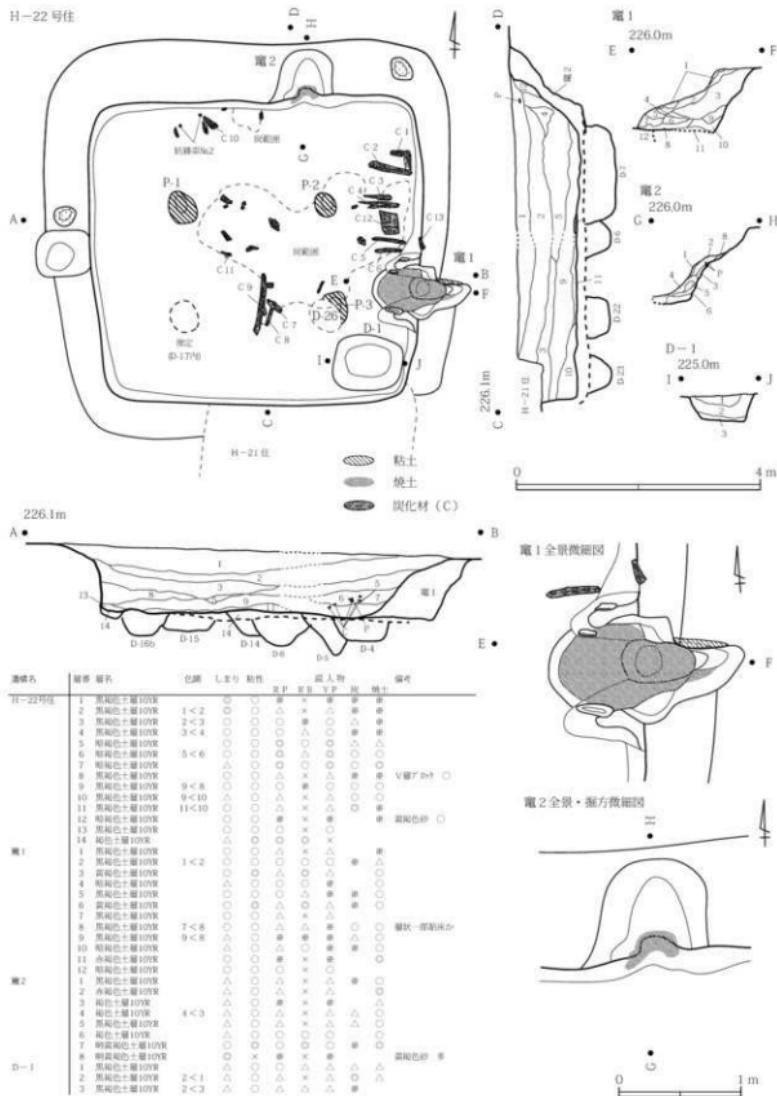
體分布



0-2

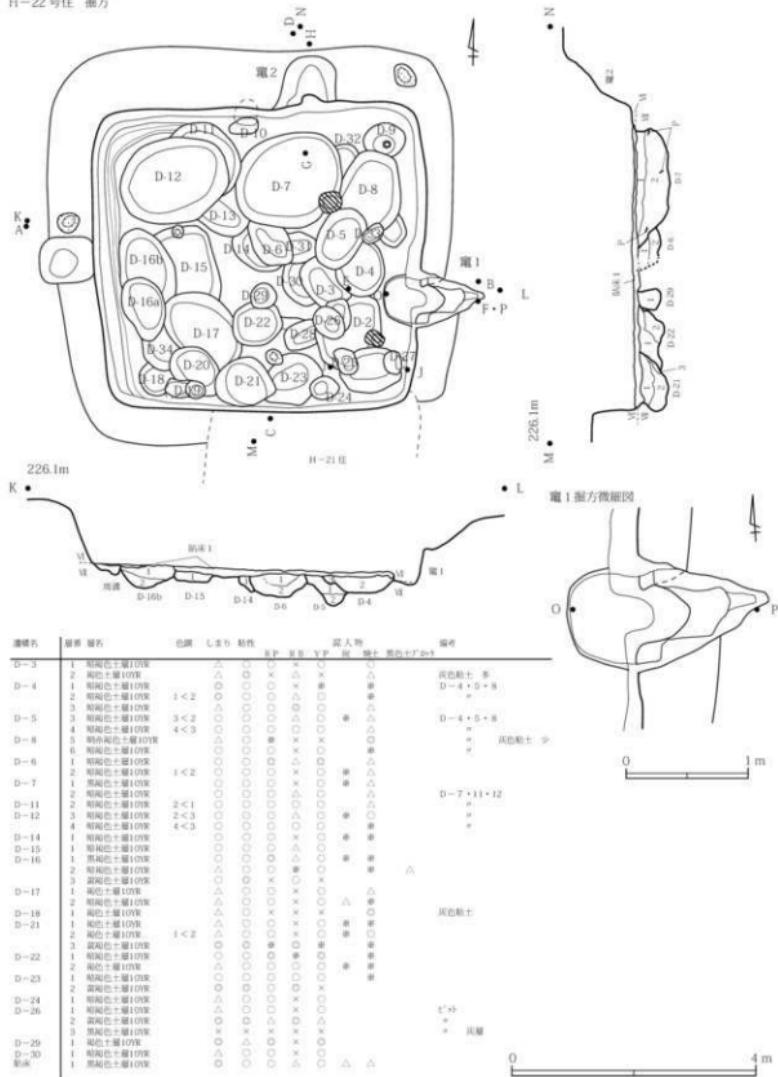
0 4 mm

第132図 三木木川遺跡（古代）H-21号住居址竪窓測図（2）

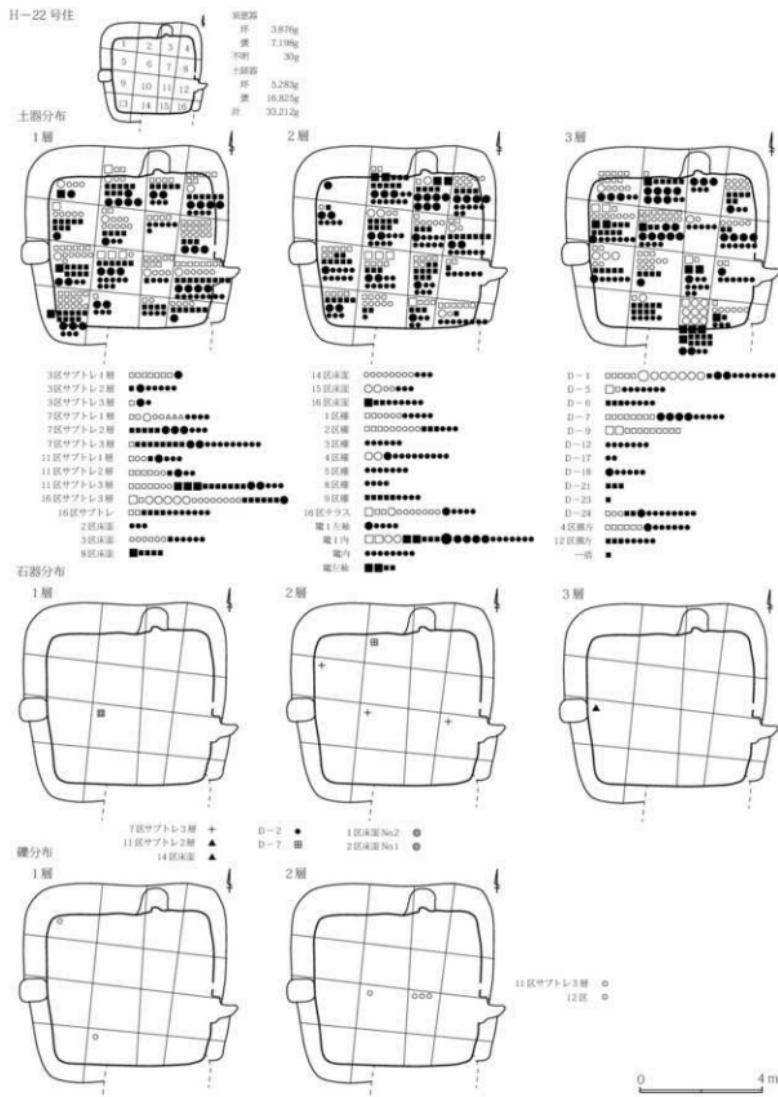


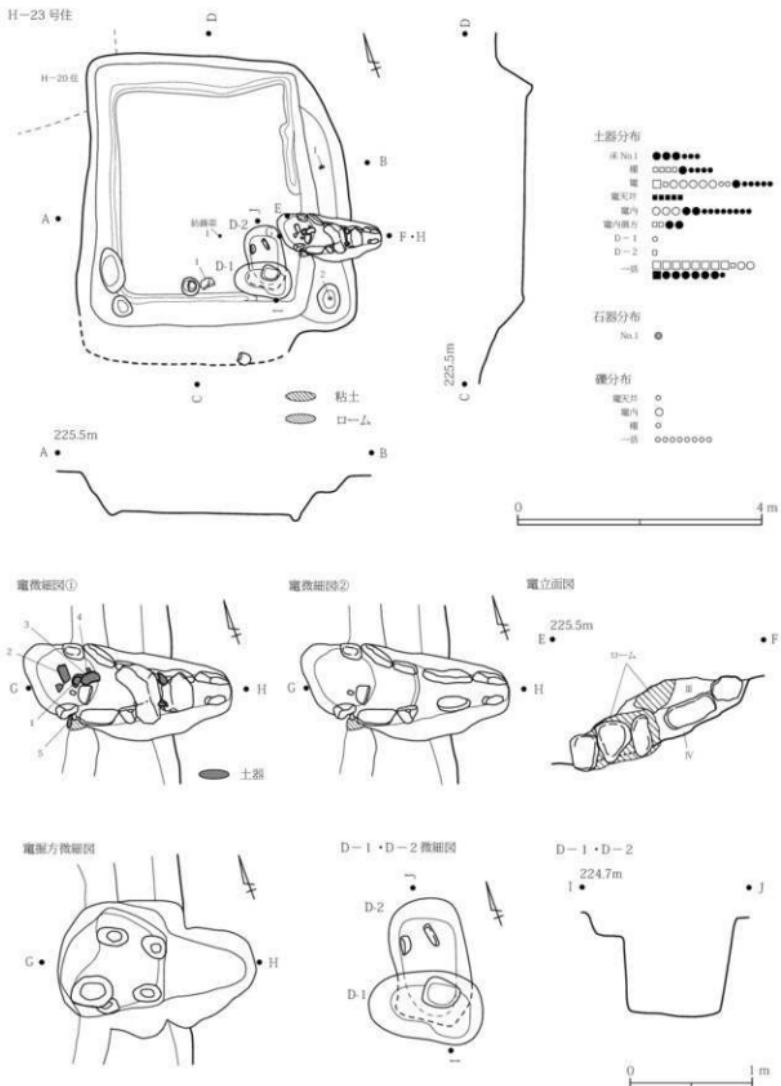
第133図 三本木Ⅲ遺跡（古代）H-22号住居址実測図（1）

H-22号住 創方

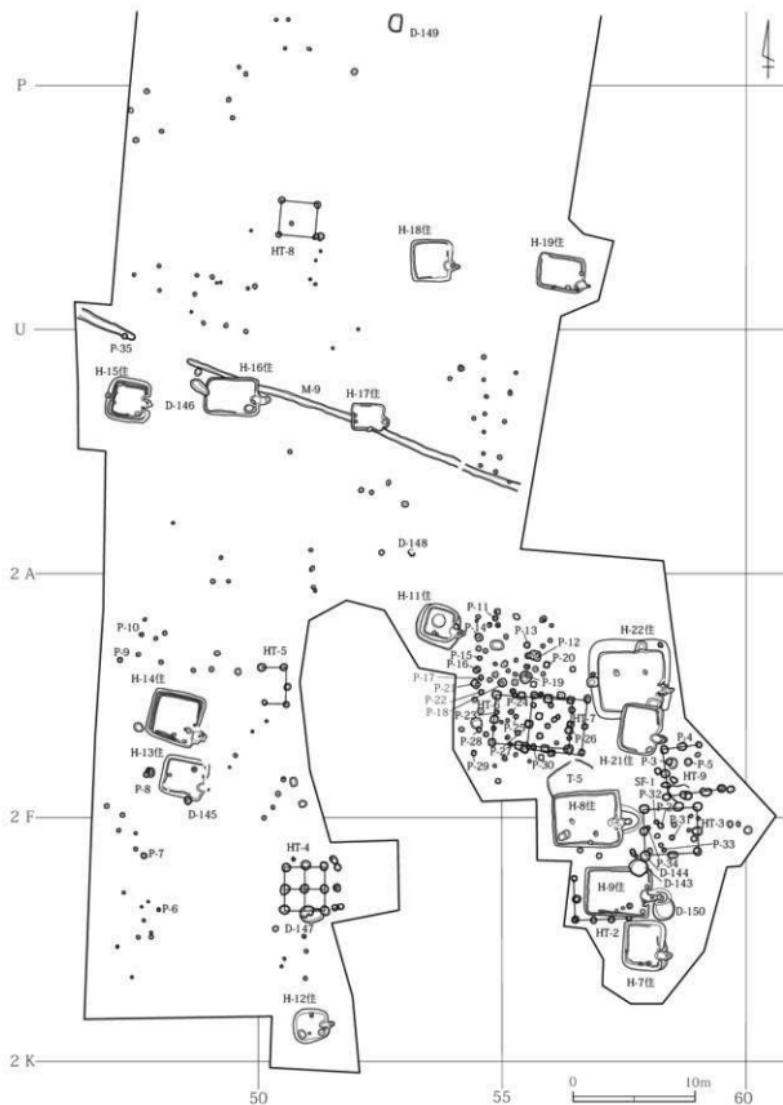


第134図 三本木Ⅲ遺跡（古代）H-22号住居址実測図（2）

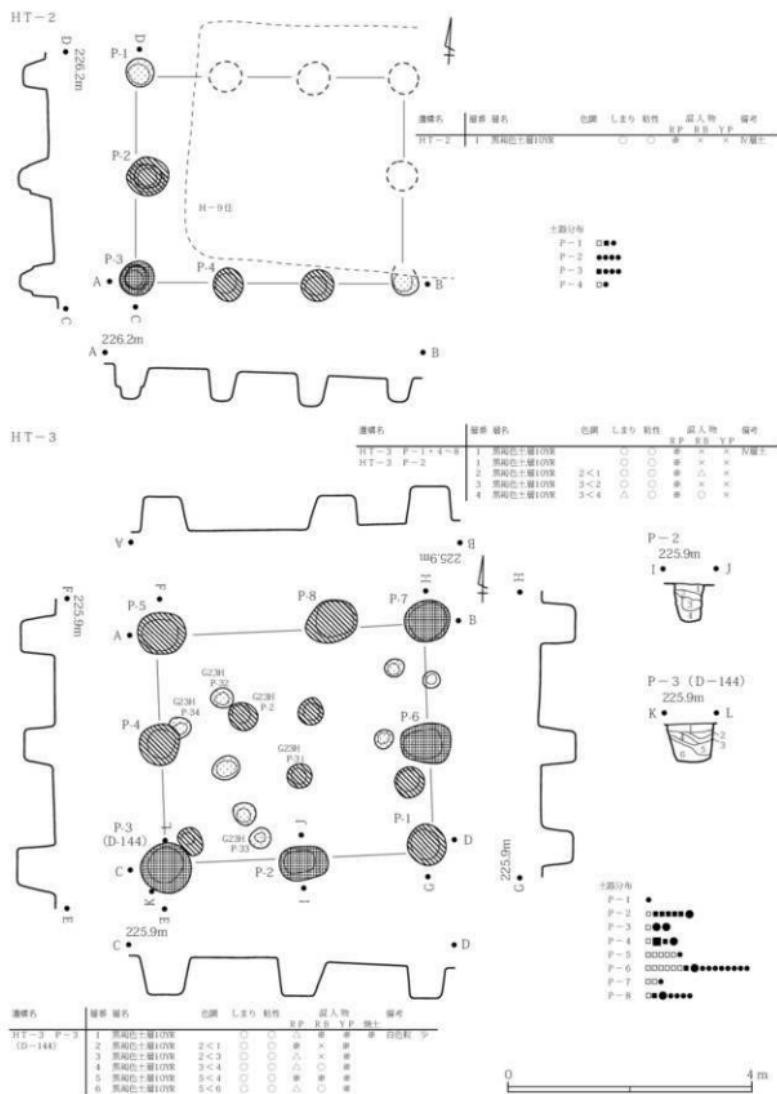




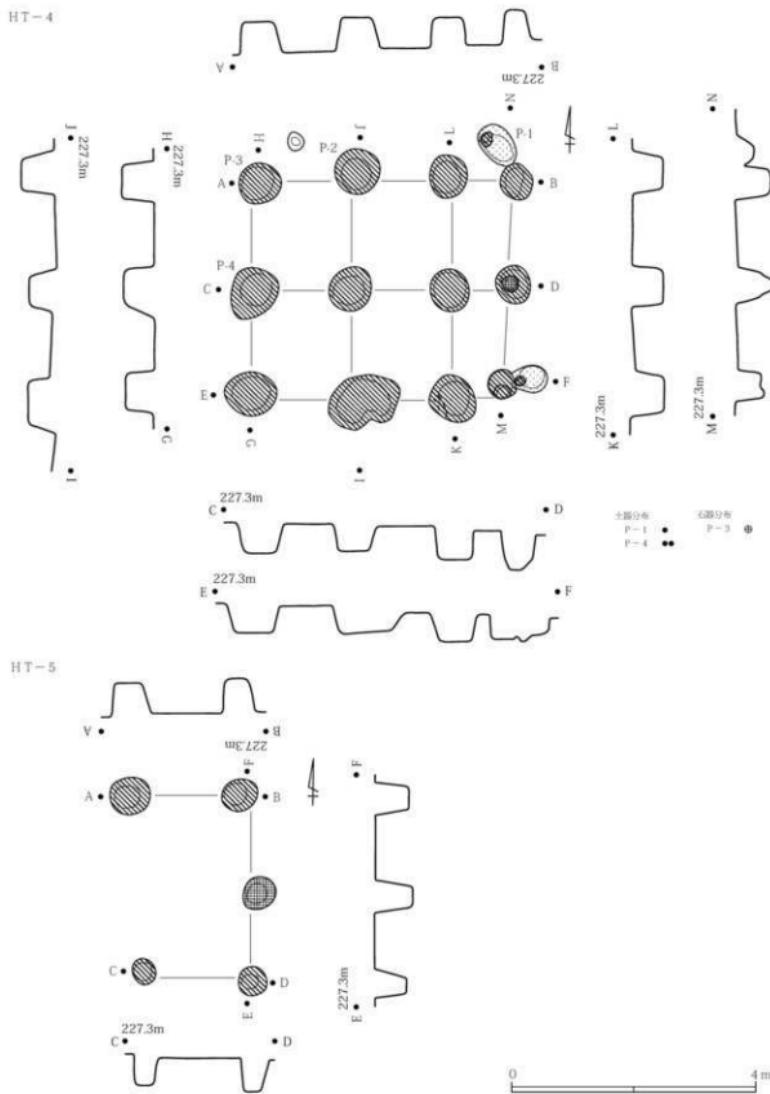
第136図 三木木川遺跡（古代）H-23号住居址竪窓測図



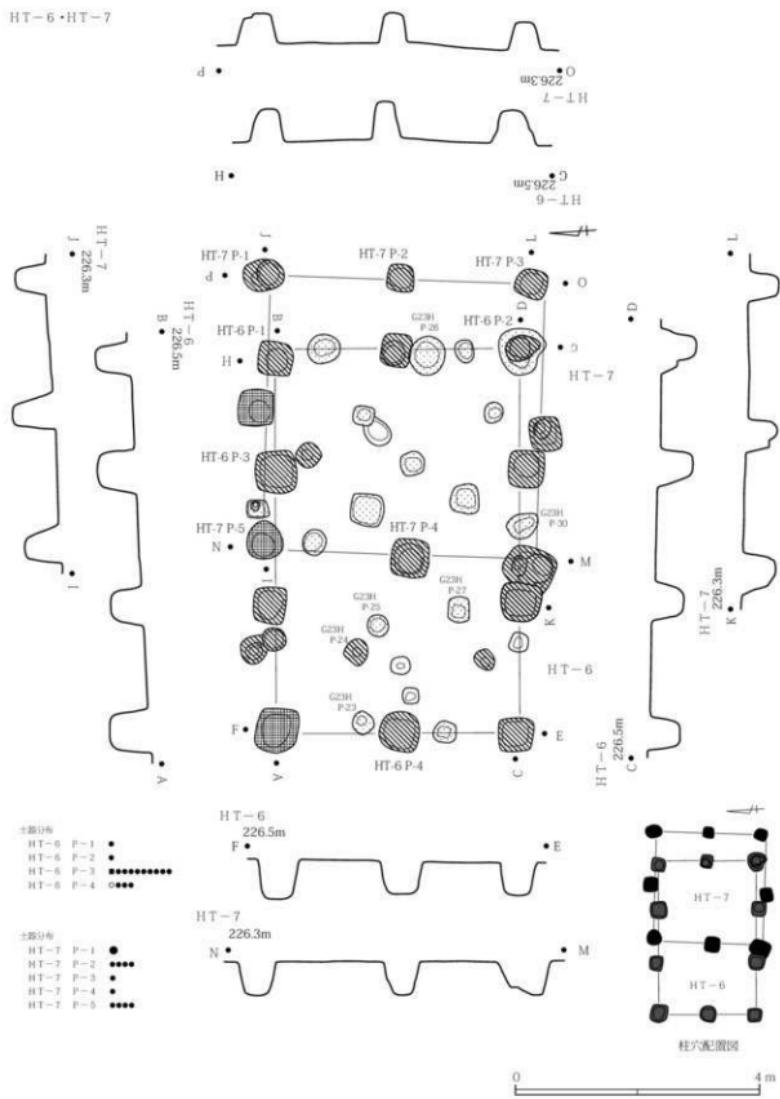
第137図 三本木Ⅲ遺跡（古代） 据立柱建物址配置図



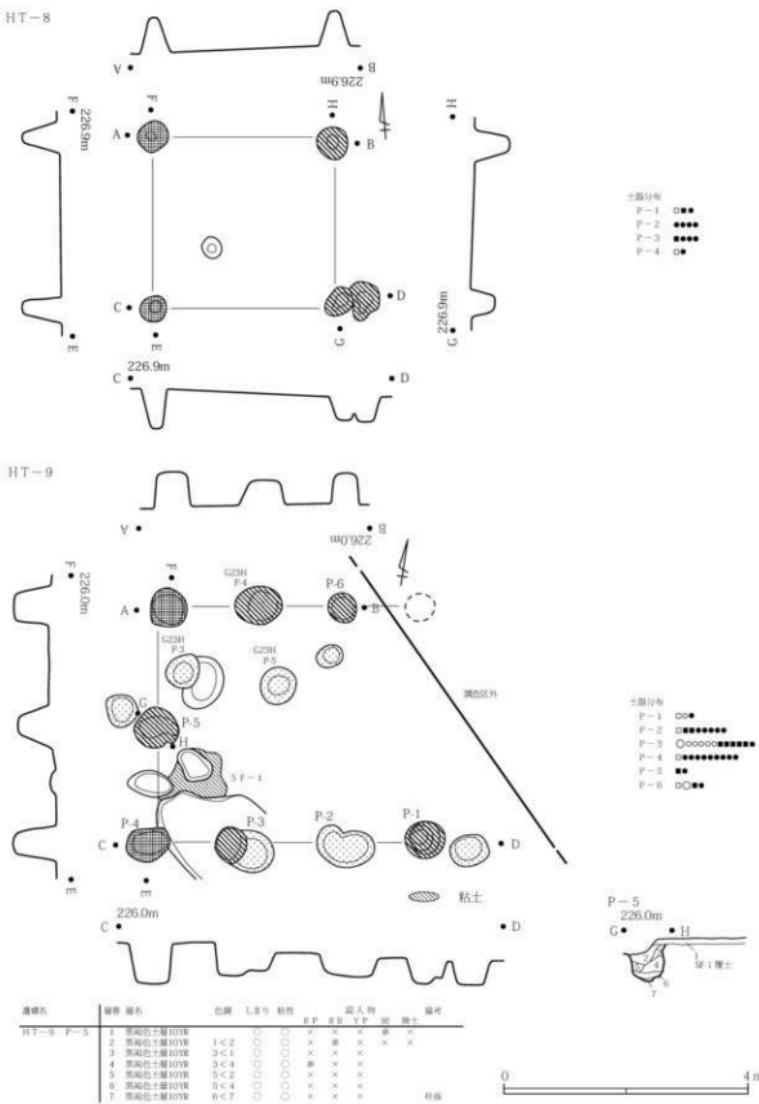
第138図 三本木III遺跡（古代） HT-2・3号掘立柱建物址実測図



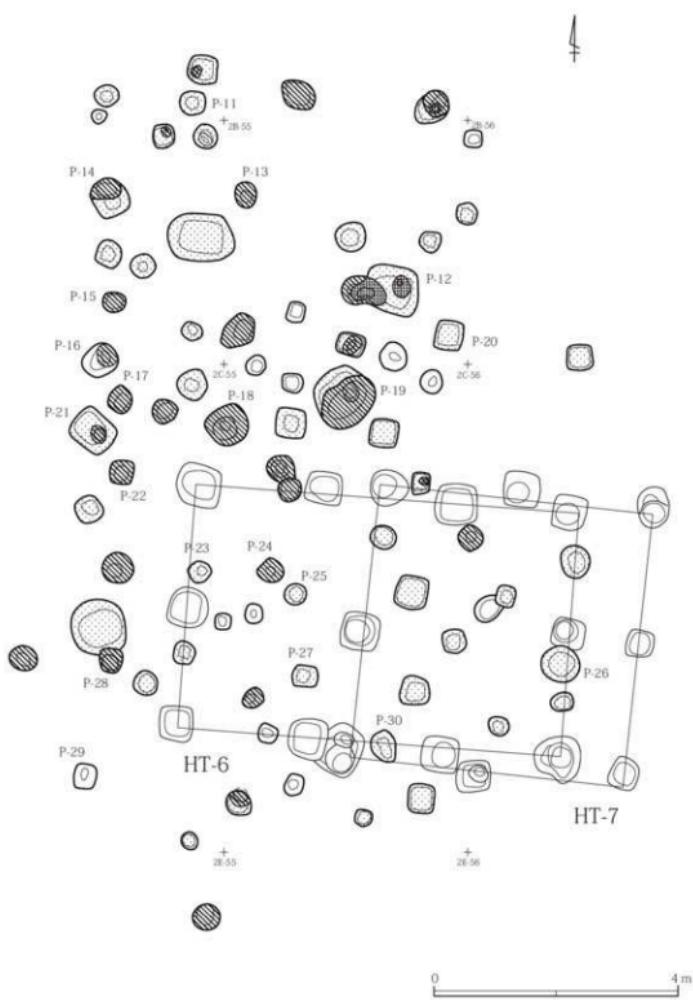
第139図 三本木III遺跡（古代）HT-4・5号掘立柱建物址実測図



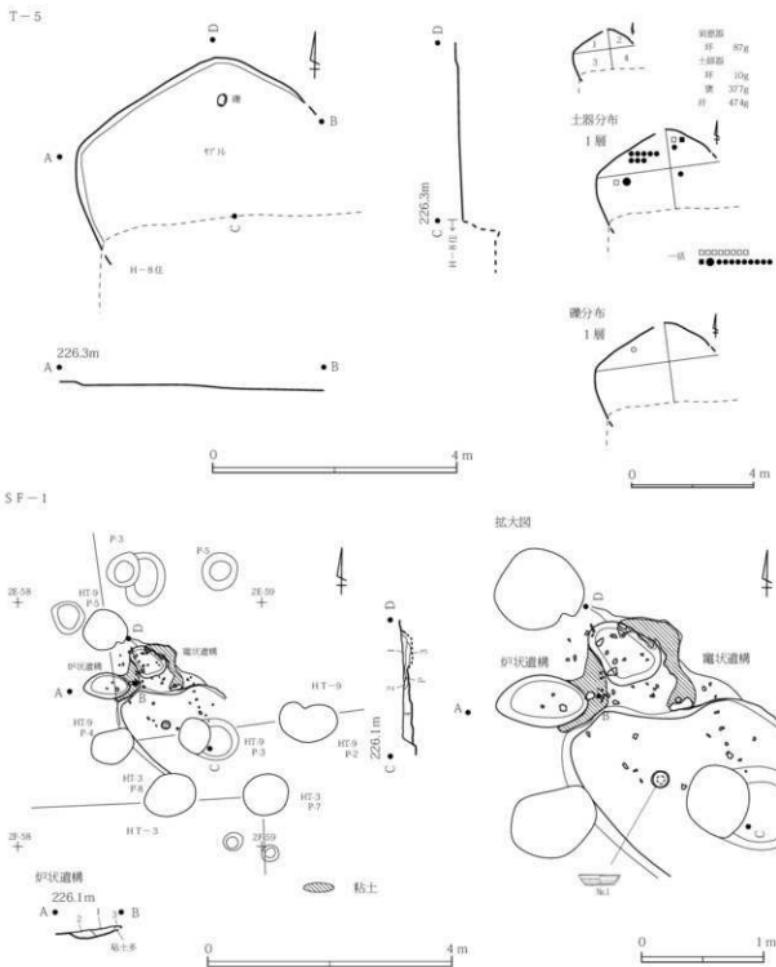
第140図 三本木III遺跡（古代）HT-6・7号掘立柱建物址実測図



第141図 三本木III遺跡（古代）HT-8・9号掘立柱建物址実測図



第 142 図 三本木 III 遺跡（古代）掘立柱建物址柱穴配置図

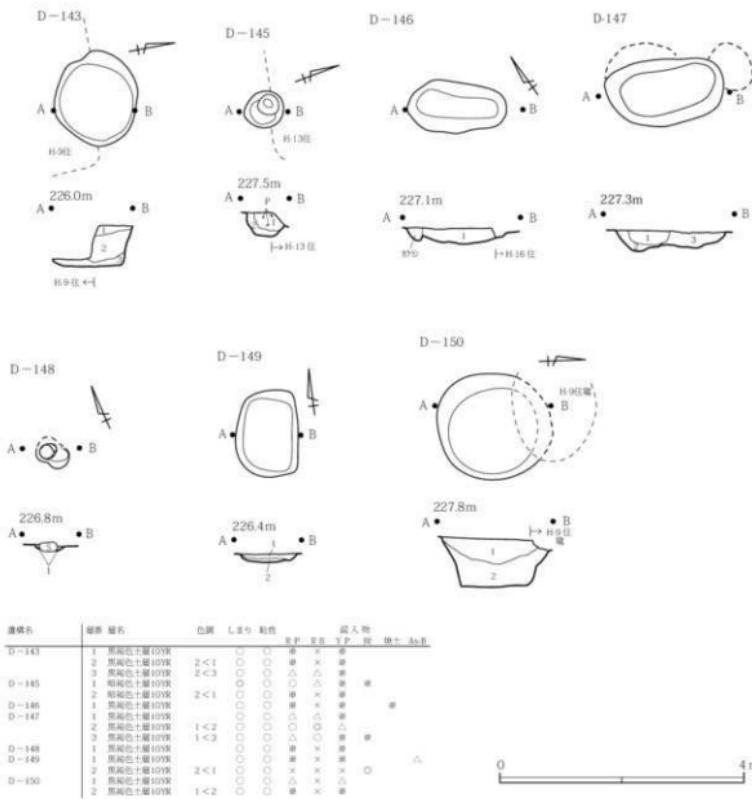


遺構名	縦横	色調	しろり	粒度	E.F	R.B	Y.P	灰	磷+	備考
S F - 1 - 露天部(外)	1 黒褐色土質 10YR 2 黑褐色土質 10YR 3 黑褐色土質 10YR 4 黑褐色土質 10YR	2 < 1	○	○	●	●	●	●	●	露天土粘合
S F - 1 - 露天部(内)	1 黑褐色土質 10YR 2 黑褐色土質 10YR 3 黑褐色土質 10YR 4 黑褐色土質 10YR	1 < 2	○	○	●	●	●	●	●	黒褐色粘土、多
		3 < 2	○	○	●	●	●	●	●	
		3 < 4	○	△	●	●	●	●	●	

土器分布	No.1	露天外	粘土外	粘土内	壁土
	□	■■■■■■■■			
			●●●●●●●●		
			□	■■■■■■■■	
				●●●●●●●●	

第143図 三本木III遺跡（古代）竪穴状遺構・S F - 1号遺構実測図

土坑

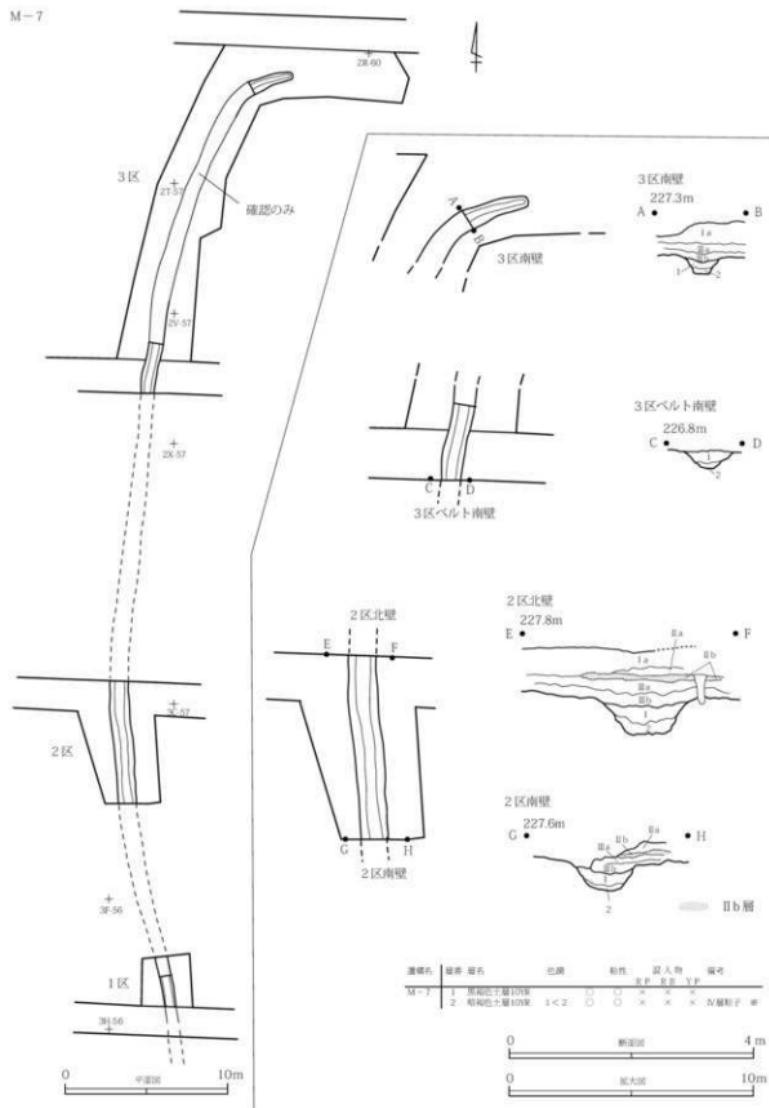


第144図 三本木III遺跡（古代） 土坑実測図

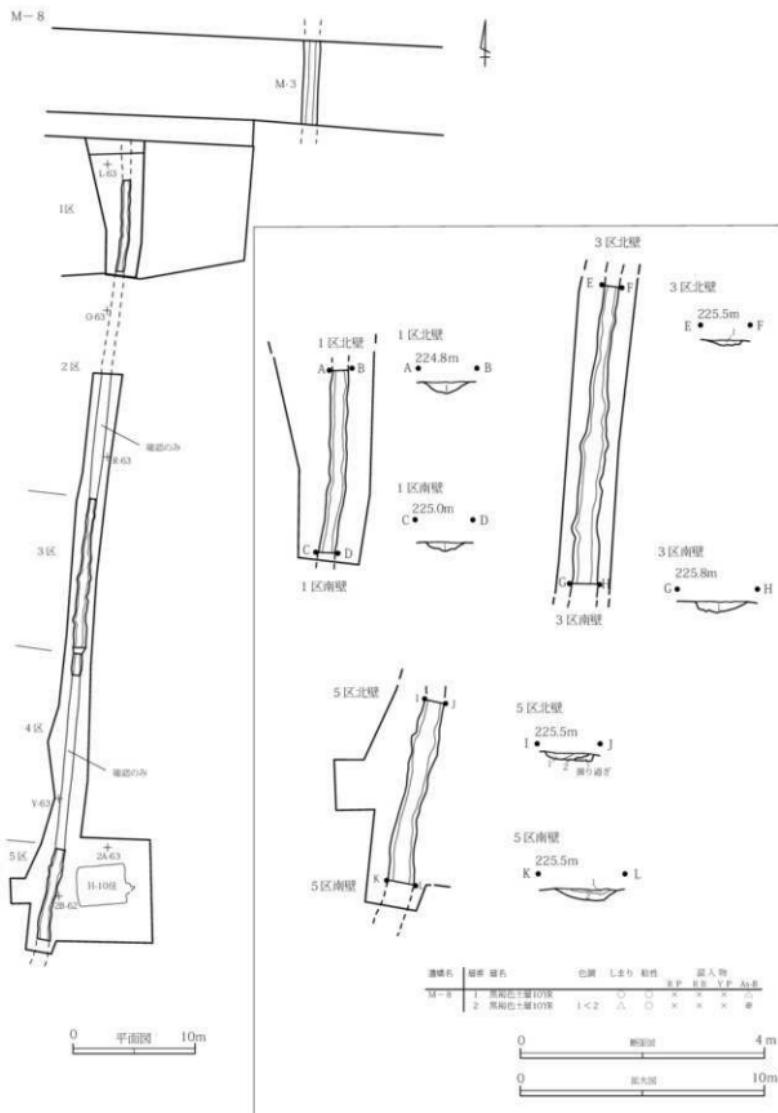
については、現状保存の措置を講じたため、事業区域内に伸びていると判断し、確認調査は実施しなかった。M-9号溝は、調査区内で確認した遺構で、M-8号溝との交差が予想されたが確認できなかった。M-10号溝は、一部のみを確認したが、谷へ向かって東西に延びるものと推定される。M-8～10号溝の時期は、古代末期以降である。

（井上・高橋）

M-7

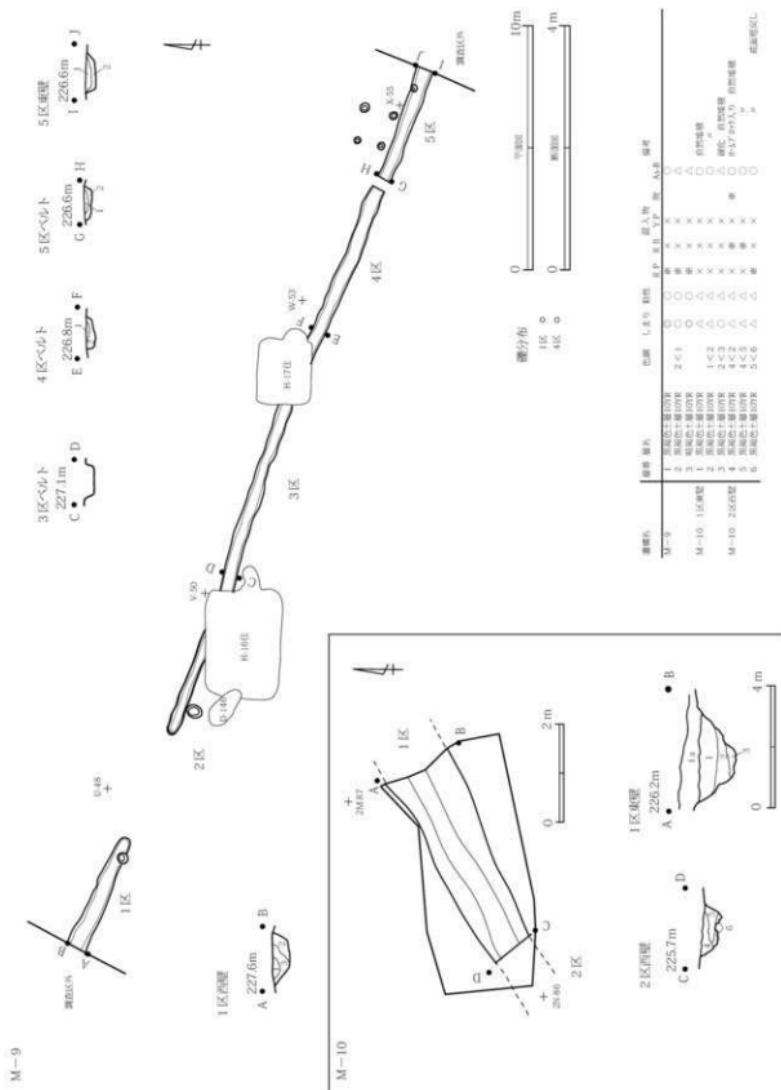


第145図 三本木III遺跡（古代）満実測図（1）



第146図 三本木III遺跡（古代）満実測図（2）

第147図 三木木III遺跡(古代) 清実測図(3)



4 平塚遺跡

(1) 概要

本遺跡では、平成6年度に確認された2基の古墳が分布する台地縁辺近くで3基の古墳（K-3～5号古墳）を確認した。古墳以外の遺構では、浅間A軽石の灰しき溝（土坑）が古墳上面で重複して確認された。なお、縄文時代～古代の遺構については確認されなかった。出土遺物は、表土中から縄文土器（前期関山式期、中期加曾利E式期）、石器が少数出土した。

(2) 古墳時代の遺構

K-3号古墳（第149図）

確認状況：トレント調査で確認した古墳で、墳丘はすでに削平され、石室の残骸と浅間B軽石が環状となる周溝を確認した古墳である。三本木II遺跡調査区東側の道路状遺構に隣接する部分に位置し、トレント調査によって古墳の約2/3を確認した。古墳の南側は既存の道路部分にあたるが、平成6年度の確認調査では、古墳の存在は確認されていない。

形態・規模：東西径14.9m、南北径10.4m以上の円墳と推定される。

墳丘・周溝：墳丘部分は削平され、浅間A軽石が混入する1a層に覆われた状態であったため盛土の状況は確認できなかった。周溝は、北側部分が切れたC字状となる。南側は調査区外であるため不明である。溝の幅は、最小0.8～最大22.0mで一定ではない。周溝確認面では、浅間B軽石が薄く環状に堆積し、周溝覆土は黒色土による自然埋没であった。底面には小ビットが点在する。前庭部脇と推定される東側の周溝内からは、遺物（須恵器、礫）が少数出土した。

主体部：墳丘と同様、削平によって石室は壊され、遺存状態は悪く、地山を掘り込んだ堀方を確認した。床面には中小礫が散在し、その中心に土坑状の遺構覆土内に礫が集積された状態の遺構を確認したが、この検出状況が石室本来のものかは疑わしい（D-83号土坑）。主体部の主軸は、南東方向（S-26°～E）である。

出土遺物：主体部床面から鉄釘3点、周溝内から土器片（須恵器）4点、礫が出土した。

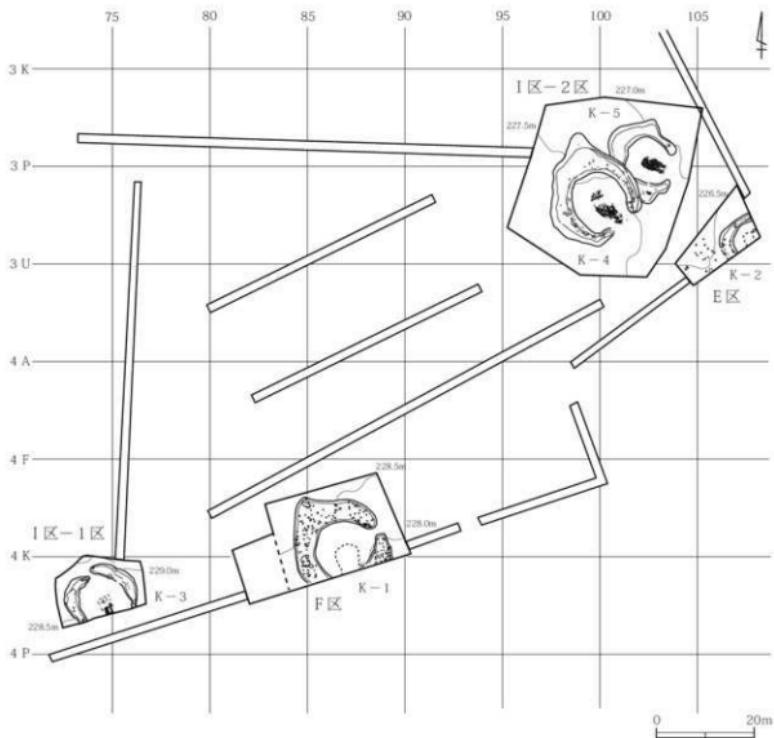
時期：古墳は終末期（7世紀終末～8世紀前半）と推定される。

K-4号古墳（第150～153図）

確認状況：調査前は地表よりやや高くマウンド状となり、礫が集積していたことから露出した石室が予想された。この範囲を対象としてトレントチを入れ、古墳の存在を確認したところ、浅間B軽石で覆われた周溝、壊された石室を確認した。

形態・規模：径19.2mの円墳である。

墳丘・周溝：墳丘は周溝の掘り込み面まで削平されていた。周溝の平面は石室正面（前庭部）で途切れる「C」形である。周溝の幅は3.2～5.2m（突出部分最大4.4m）で一定ではなく、北側が大きく突出する。周溝確認面では環状に堆積する浅間B軽石を確認し、その下位の周溝覆土は黒色土による自然埋



第148図 平塚遺跡 遺構配置図

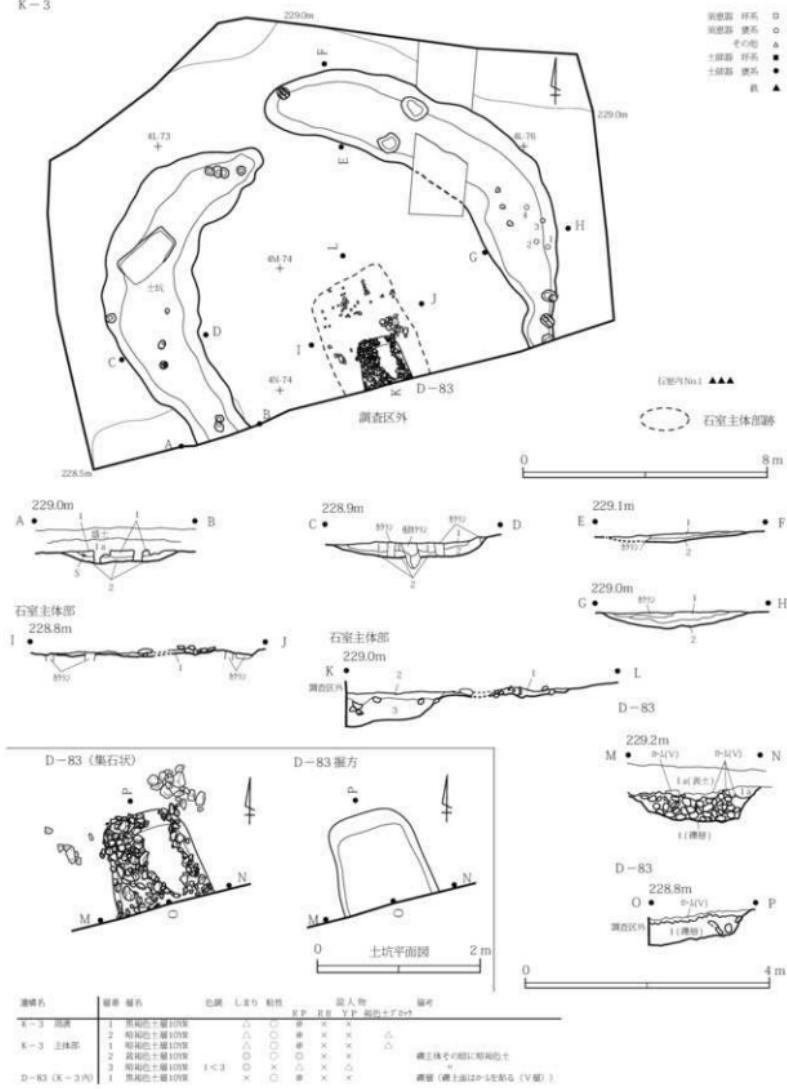
溝であった。周溝の断面は皿状である。周溝内には石室を壊した段階で崩れ落ちた礫あるいは散乱する礫が分布していた。周溝内では、礫を覆う黒色土の上部に浅間B軽石が堆積することから、この古墳が1108年（天仁元年）の噴火以前には、削平されていたと推定される。前庭部付近で途切れる両側の周溝内からは、古墳祭祀に供獻、使用して廃棄された土器が多数出土した。

主体部：横穴式と推定される。後世の削平及び掠乱によって遺存状態は非常に悪く、石室の大部分が壊されており、構造は不明だが、石室床面では、石室の基礎部分に相当する大きな礫（根石）の埋め込みと裏込め用の小礫が集中する範囲を確認した。主体部の主軸は、南東方向（S-43°-E）である。

出土遺物：主体部床面から土器3点（須恵器短頸壺他）、鉄釘が出土した。前庭部付近の左右周溝内からは、8世紀代の土器が多数出土した。長頸壺は完形に復元できるものが4個体出土した。

時期：古墳の形態から7世紀終末と推定される。ただし、出土遺物は8世紀後半までであることから、祭祀行為が律令期まで続いた可能性が考えられる。

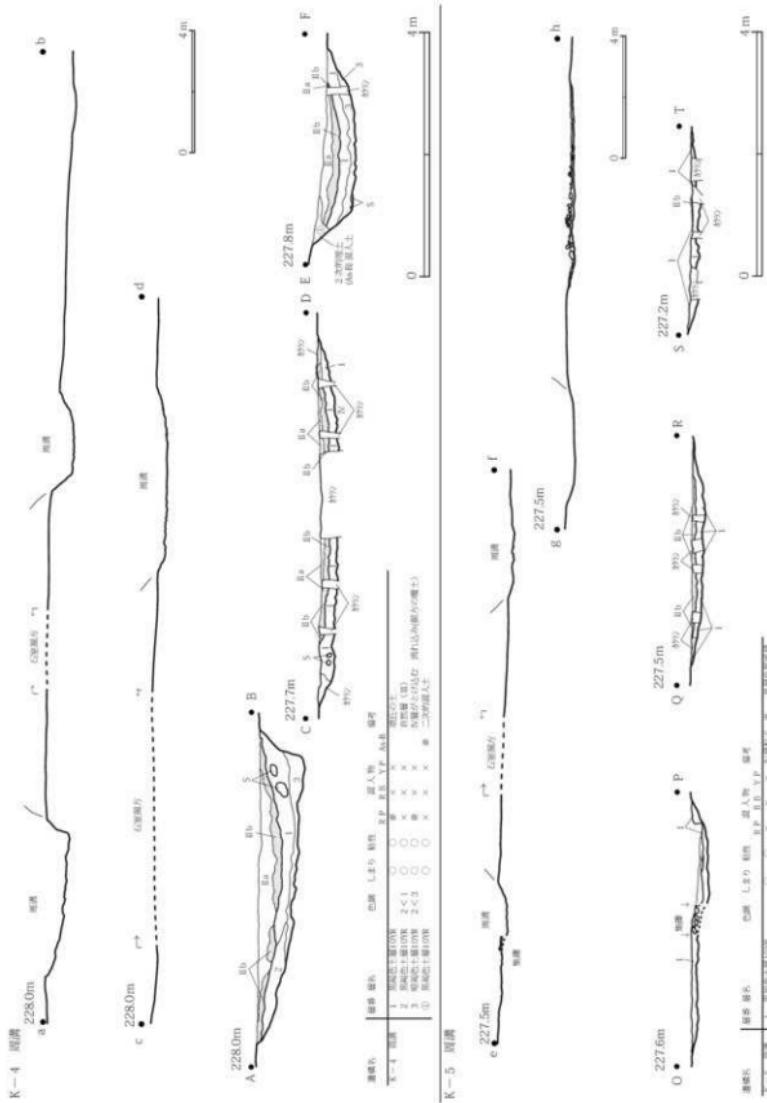
K-3



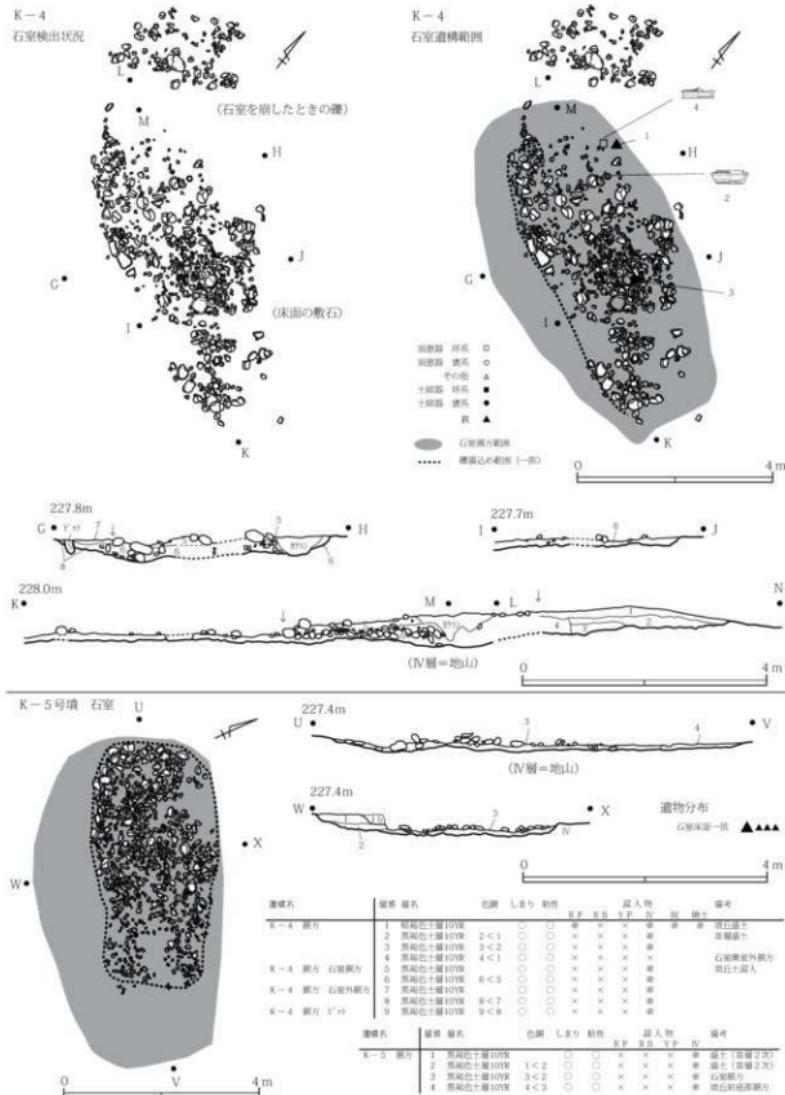
第149図 平塚遺跡 K-3号古墳実測図



第150図 平塚遺跡 K-4・5号古墳実測図(1)

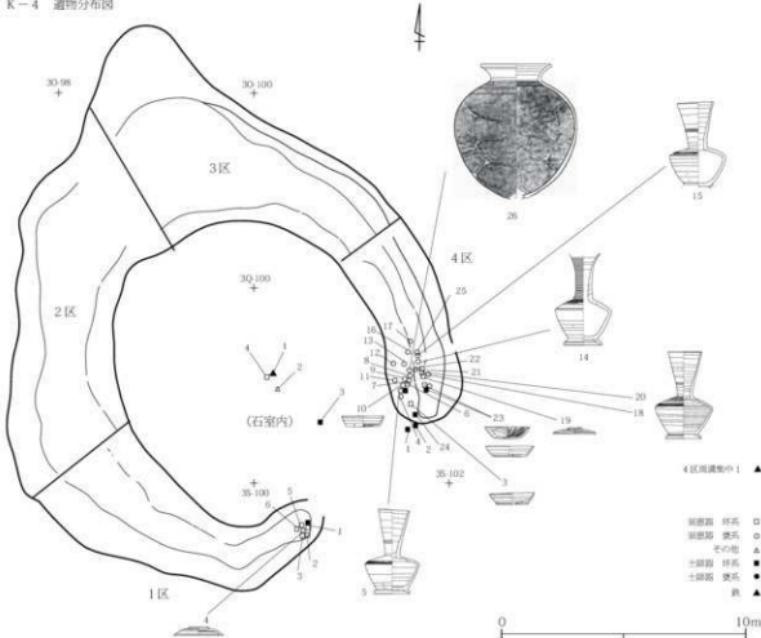


第151圖 平塚遺跡 K-4・5号古墳測量圖(2)



第152図 平塚遺跡 K-4・5号古墳実測図(3)

K-4 遺物分布図



第153図 平塚遺跡 K-4・5号古墳実測図(4)

K-5号古墳（第150～152図）

確認状況：発掘調査で確認された古墳で、K-4号古墳の確認中に発見された。墳丘は削平されており、石室も壊されていた。

形態・規模：径14.8mの円墳である。

墳丘・周溝：墳丘はK-4号古墳より削平されており、全く確認できなかった。Ia層と浅間B軽石に覆われていることから、K-4号古墳と同様、1108年（天仁元年）には、すでに削平されていたと推定される。周溝は石室正面が途切れる「C」形である。本古墳の周溝とK-4号古墳の周溝が重複する。周溝南側の底面には、礫を方形に敷き詰めた「集礫」を確認した。この部分の覆土には浅間B軽石が混入していることから、古墳の礫を再使用した遺構と考えられる。

主体部：石室床面と埴方とその痕跡を確認した。構造は不明だが、横穴式と考えられる。主体部の主軸は、K-4号古墳と同様、南東方向（S-67°-E）である。

出土遺物：石室床面から鉄釘が13点出土した。全て破片である。

時期：古墳の形態から7世紀終末と推定される。K-4号古墳より時期が古い。

(井上)

第5表 三木木II遺跡 繩文時代住居址觀察表

遺構名	平面形態	規模(m)		主軸方向 (Nから)	壁厚	主柱穴 配置	か			時期	備考
		主軸長	副軸長				位置	構造	Cビット		
J-6 台形	7.60	6.20	0.32	34°-W	溝+柱穴列	6本柱 (B)	奥壁寄り 右(底の側)	なし		関山II式末	2名の埋葬溝が廻廊北側で重複。建て替えが予想される。南壁間に出入り口ビット。
J-7 蜂丸方形	4.32	-	0.36	45°-E	なし	4本柱 (B)	なし	-	-	五箇山I式	主柱6本と柱あり、建て替えが予想される。
J-8 円形	6.20	6.32	0.32	48°-W	なし	4本柱 (B)	中央奥壁寄り 右(奥・側・前)	-	加曾利Ⅲ	式期	
J-9 長方形	5.72	4.40	0.72	33°-W	柱穴列(東側)	6本柱 (B)	中央奥壁寄り 右(奥・側・底)	焚口無	関山I式期	南北壁間に廻廊面。2層に廻廊面。	
J-10 長方形	4.06	3.88	1.00	11°-W	柱穴列	6本柱 (A1)	中央奥壁寄り 右(奥・側・底)	奥壁か	二ツ式~	関山I式期	南北壁間に廻廊面(P-3)。
J-11 長方形	5.76	3.88	1.00	65°-W	柱穴列	6本柱 (B)	中央奥壁寄り 右(奥・側・底)	焚口無	関山I式期	南北壁間に廻廊面(P-1)。南壁間に出入り口ビット。中央でケル丸を含む段化材出土。J-17と並置(本道構が古い)。	
J-12 長方形	7.68	5.44	0.88	32°-W	柱穴列	6本柱 (B)	奥壁寄り 地床	焚口無	関山I式期	J-16、D-60と重複(本道構が新しい)。	
J-13 長方形	4.08	3.52	0.64	29°-E	柱穴列(東側)	6本柱 (A1)	中央奥壁寄り 右(奥・側・底), 土器片(側)	焚口無	関山I式期	D-53・82と重複(本道構が新しい)。块状打跡出土。	
J-14 台形	6.96	7.48	0.64	20°-W	溝+柱穴列	6本柱 (A2)	中央奥壁寄り 地床	焚口無	関山II式期	本道よりD-1は古く、P-3は新しい。前壁際中央に出入り口ビット。	
J-15 不整長方形	5.20	3.68	0.36	12°-W	部分的な柱穴列	4本柱 (B)	中央奥壁寄り 右(奥の側)	焚口無	関山I式期	(古段階)	
J-16 長方形	4.08	3.56	0.92	26°-W	柱穴列(東側)	4本柱 (A1)	中央奥壁寄り 地床	焚口無	関山I式期	南壁間に見られる2条の埋葬溝より、建て替えが予想される。J-12と並置(本道構が古い)。	
J-17 台形	4.88	4.48	0.68	14°-E	柱穴列	4本柱 (A1)	中央奥壁寄り 右(奥・底), 土器片(右側)	奥壁	関山II式期	J-11と重複(本道構が新しい)。	
J-18 不整長方形	7.52	4.80	0.88	21°-E	柱穴列	6本柱 (B)	中央奥壁寄り 右(奥・側)	焚口無	関山I式期	D-70と重複(本道構が古い)。テラス部分に1対の大木ビット。南壁間に廻廊面。	
J-19 長方形	4.32	3.36	0.80	52°-W	柱穴列	6本柱 (A1)	中央奥壁寄り 右(奥・側・底)	なし	二ツ式~	関山I式期	中央や南側の床面に被熱層。中間に柱架中央部(右底)。
J-20 蜂丸長方形	5.12	3.76	0.72	65°-W	柱穴列	4本柱 (B)	中央奥壁寄り 右(奥・側・底)	焚口無	関山II式期	(古段階)。	
J-21 不整長方形	3.88	3.08	0.68	64°-W	柱穴列	4本柱 (B)	中央 右(奥・側), 土器片(右側)	焚口無	関山I式期	ビットの配列から建て替えが予想される。	
J-22 不整長方形	4.40	3.84	0.32	113°-E	溝	4本柱 (B)	中央奥壁寄り 右(奥・底)	焚口無	関山II式期	P-1は本道構に編成しない可能性の高い。	
J-23 不整長方形	4.12	3.44	0.48	11°-E	溝	4本柱 (B)	中央 右(奥・側・底), 土器片(下)	焚口無	関山II式期	壁脚間に堆積する工具層。南壁際に中央に出入り口ビット。	
J-24 方形	5.84	5.12	0.32	25°-E	溝+柱穴列	6本柱 (B)	中央奥壁寄り 右(奥・底)	なし	関山II式期	南北壁間に出入り口ビット。	
J-25 圓形	-	4.32	0.80	29°-W	柱穴列	不明	不明 右(奥・側・底)	焚口無	二ツ式~	関山II式期	
J-26 方形	5.20	4.64	0.60	22°-E	溝+柱穴列	6本柱 (B)	中央奥壁寄り 土器片(奥・前)	なし	関山II式期		
J-27 A 長方形	5.20	3.64	1.04	49°-E	溝+柱穴列	6本柱 (B)	中央奥壁寄り 右(側・底), 土器片(奥・側・前)	なし	関山II式期	J-27 Bと重複	
J-27 B 台形	6.52	4.40	0.92	55°-E	柱穴列	6本柱 (B)	-	-	-	関山II式期	南北壁間に廻廊面。
J-28 方形	4.32	4.08	0.64	90°-E	溝	4本柱 (B)	奥壁寄り 地床	不明	有尾式期	J-31・32と重複(本道構が新しい)。北東・北壁際間に見られる壁脚溝より、建て替えが予想される。	
J-29 A 長方形	7.44	4.72	0.48	3°-W	溝	4本柱 (B)	奥壁寄り 地床	不明	有尾式期	J-29 Bから建て替えが予想される。	
J-29 B 方形	5.20	4.72	0.48	3°-W	溝	4本柱 (B)	奥壁寄り 地床	不明	有尾式期	柱穴配置から2つの建て替えが予想される。さらに、柱穴配置から2つの建て替えが予想される。	
J-30 長方形	5.60	3.64	0.80	79°-E	溝+柱穴列	6本柱 (B)	中央奥壁寄り 右(奥・側)	焚口無	関山II式期	焼失仔作。床面や壁面に被熱層。床底上・壁面に炭化材が散在。	
J-31 方形	6.24	6.12	0.60	23°-W	溝+柱穴列	6本柱 (A1)	未検出	-	-	関山II式期	J-28・32と重複(本道構が古い)。南北壁間に廻廊面。
J-32 方形	3.12	2.88	0.64	12°-W	溝	4本柱 (B)	奥壁寄り 地床	なし	有尾式期	J-28・31と重複(本道構が古い)。J-31より新しく、J-28より古い。	

造構名	平面形態	規模(m)			主軸方向 (Nから)	壁周	七柱六 配置	柱			時期	備考
		主軸長	副軸長	深さ				位置	構造	Cビット		
J-33	長方形	5.20	3.84	0.72	17°-W	柱穴列	6本柱 (A 1)	やや奥壁寄り 右(奥・側・底)	梵口無	開山Ⅰ式期	J-33と重複(本造構が古い)、 J-33の柱穴列よりJ-34と重複する 部分において鍵孔。	
J-34	長方形	4.08	3.12	0.88	17°-W	柱穴列	4本柱 (B)	未検出	—	—	J-33と重複(本造構が古い)。	
J-35	隅丸方形	4.28	4.64	0.40	125°-W	溝+柱穴	4本柱 (B)	やや奥壁寄り 右(奥)	梵口無	開山Ⅱ式期	脇穴の側面は不明瞭。	
J-36	隅丸方形	5.44	[4.52]	0.64	26°-W	溝+一部に柱	4本柱 (B)	①:奥壁寄り ②:左壁寄り	地床	なし	諸議b式期	西壁寄り中央に正位の埋設土器(U-1)、 床面の段より低張が予想される。
J-37 A	隅丸方形	5.12	(5.28)	0.96	41°-W	柱穴列	4本柱 (B)	左壁寄り	地床	未検出	諸議b式期	J-37 Bから延長。
J-37 B	隅丸方形	—	—	0.96	39°-W	溝	4本柱 (B)	未検出	—	—	諸議b式期	J-37 Aに延長。
J-38	長方形	3.12	2.48	0.20	69°-E	溝	4本柱 (B)	やや奥壁寄り	地床	なし	開山Ⅱ式期	
J-39	隅丸方形	5.16	4.76	0.80	13°-W	柱穴列	4本柱 (B)	なし	—	—	諸議b式期	
J-40 A	長方形	4.88	3.76	0.72	132°-W	溝+柱穴列	4本柱 (B)	やや奥壁寄り	右(奥・側)	なし	開山Ⅱ式期	J-40 Bから延長。脇穴南東面に ヨーロムの振り残しによる小障。
J-40 B	方形	3.84	3.76	0.72	132°-W	溝+柱穴列	4本柱 (B)	中央	土器片(奥・側)	なし	開山Ⅱ式期	J-40 Aに延長。
J-41 A	不規形	3.92	3.56	0.48	5°-W	溝	2本柱 (B)	やや奥壁寄り	地床	梵口無	開山Ⅱ式期	壁面に工具痕。J-41 Bから延長。
J-41 B	隅丸方形	3.20	2.88	0.44	5°-W	溝	2本柱 (A 2)	—	—	—	開山Ⅱ式期	壁面に工具痕。J-41 Aに延長。
J-42	長方形 (奥壁丸)	4.48	3.28	0.32	153°-E	溝+柱穴列	4本柱 (B)	中央	右(奥・側)、土 器片(奥・前・底)	なし	開山Ⅱ式期	J-37-D-105と重複(本造構 が古い)。插入式ビット。南北側 の床面に被熱痕。
J-43	長方形	6.08	5.12	0.72	37°-E	溝+柱穴列	6本柱 (B)	やや奥壁寄り	右(奥・側)	なし	開山Ⅱ式期	豎壁側中央にロームの振り残し による小障。出入口ビット。
J-44 A	隅丸方形	7.68	8.00	0.88	136°-E	なし	8本柱 右壁寄り (印1)	—	地床	奥側	諸議b式期	J-41 Aから延長。主柱穴の側に 補助ビット。北東壁寄り中央に正 位の埋設土器(U-1)。
J-44 B	不明	—	—	—	135°-E	なし	4本柱 左壁寄り (印3)	—	地床	なし	諸議b式期	J-44 Aに延長。北東壁寄り中央 に正位の埋設土器(U-2)。
J-45	方形	6.56	6.00	1.04	10°-E	溝+柱穴列	6本柱 (A 1)	やや奥壁寄り	右(奥)	なし	開山Ⅱ式期	豎穴東面に炭化物。
J-46 A	隅丸方形	5.92	5.60	0.88	47°-E	溝	4本柱 (B)	なし	—	—	諸議b式期	J-46 Bから延長。SU-1と重 複(本造構が古い)。南西壁寄り中 央に正位の埋設土器(U-2)。
J-46 B	隅丸長方形	4.32	3.72	0.88	46°-E	なし	4本柱 (B)	なし	—	—	諸議b式期	J-46 Aに延長。南西壁寄り中央 に正位の埋設土器(U-1)。床面の 段が柱脚の痕跡か。
J-47	隅丸方形	5.60	5.76	0.76	103°-W 穴	溝+一部に柱	4本柱 (B)	奥壁寄り	地床	奥側	諸議b式期	SU-1と重複(本造構が古い)。D- 2はSU-1による現象。
J-48	隅丸方形	3.36	3.60	0.64	31°-W 穴	溝+一部に柱	4本柱 (B)	奥・左側壁寄り	地床	内側	諸議b式期	主柱穴が2対あり、建て替えが予 想される。
J-49	不規長方形	3.88	3.44	0.16	65°-E	部分的な柱穴 列	4本柱 (B)	中央	地床	内側	開山Ⅱ式期	奥・前壁中央で対となる大型ビット。 出入口ビット。主柱穴が2対あり、 建て替えが予想される。
J-50	隅丸方形	4.92	4.88	0.80	19°-E	溝+一部に柱 穴	4本柱 (B)	奥・左側壁寄り	地床	内側	諸議b式期	出入口ビット。かの上面に横位の 深溝が沿った状態で出土。
J-51	隅丸方形	3.60	3.52	0.40	34°-W	溝	なし	左側壁寄り	地床	内側	諸議b式期	

凡例 () : 推定値, [] : 残存値

主柱穴配置 A1: 柱が奥壁・前壁に接するもの A2: 柱が奥壁に接するもの A3: 柱が前壁に接するもの B: 柱が壁に接しないもの

第6表 三木本II遺跡 古代住居址観察表

遺構名	平面形態 主軸長 副軸長 深さ	規模(m) 主軸長 副軸長 深さ	主軸方向 (Nから) 壁面溝 窓縫穴	柱穴 ビット	カマド		床下土坑	時期	備考
					位置	構造			
H-6	中型長方形A	4.56 2.52 0.33	73°-E	なし	なし	なし	東壁中央 粘土	2基 (D-1+2)	不明

第7表 三木本III遺跡 古代住居址観察表

遺構名	平面形態 主軸長 副軸長 深さ	規模(m) 主軸長 副軸長 深さ	主軸方向 (Nから) 壁面溝 窓縫穴	柱穴 ビット	カマド		床下土坑	時期	備考
					位置	構造			
H-7	中型長方形B	3.40 4.12 0.52	94°-E	全周	なし	なし	南壁 東壁南寄り 安山岩+粘土	4基 (D-1~4)	9世紀 第3四半期
H-8	中型長方形A	5.68 4.56 0.64	89°-E	全周	D-1	なし	南壁 東壁や中南寄り 安山岩+粘土 縦道に土師器置	9基 (D-2~9)	8世紀 支那(安南宮)、床面上 から鰐跡車出土。
H-9	中型長方形A	5.52 4.00 0.72	91°-E	ほぼ全周	D-1	なし	南壁 東壁や中南寄り 粘土 縦道に土師器置	2基 (D-2+3)	8世紀 南壁埋溝から建て替え が予想される。
H-10	中型長方形A	4.00 3.20 0.32	84°-E	ほぼ全周	D-1	なし	南壁 東壁南寄り	—	8世紀 支那(安南宮)、カマド 縦に粘土塊。
H-11	小型方形	2.88 2.96 0.56	107°-E	ほぼ全周	なし	なし	南壁 東壁南寄り 安山岩	1基 (D-1)	8世紀 第1四半期
H-12	小型方形	2.96 2.80 0.48	86°-E	なし	D-1 D-2	なし	北壁 東壁中央	—	9世紀 第3四半期
H-13	小型長方形B	3.76 3.28 0.32	102°-E	ほぼ全周	なし	なし	西壁 東壁南寄り 凝灰岩+粘土	なし	9世紀 第3四半期
H-14A	小型方形	4.32 4.24 0.56	104°-E	ほぼ全周	D-1	なし	南壁 東壁南寄り 凝灰岩+粘土	3基 (D-2+4+5)	9世紀 第1四半期 上層に人為埋没土。D-3+6は本遺構に伴 わない大型ビットの可 能性がある。
H-14B	小型方形	3.80 3.96 0.56	104°-E	ほぼ全周	不明	なし	南壁 東壁南寄り	—	9世紀 第1四半期
H-15A	小型方形	3.72 3.60 0.72	101°-E	ほぼ全周	D-1	なし	南壁 東壁中央 安山岩+粘土 縦道に土師器置	5基 (D-2~6)	9世紀 第1四半期 遺構に附着。
H-15B	小型方形	2.60 2.72 0.72	101°-E	ほぼ全周	不明	なし	南壁 東壁中央 安山岩+粘土 縦道に土師器置	—	9世紀 第1四半期
H-16A	中型長方形A	4.56 3.20 0.40	91°-E	ほぼ全周	D-1	なし	南壁 東壁や中南寄り 安山岩+粘土 縦道に土師器置	1基 (D-4)	9世紀 第1四半期 H-16Bから扯張 M-9と重複(本遺構 が古い)。
H-16B	小型長方形A	3.52 2.72 0.56	93°-E	北・南・ 西壁の一部 突出	なし	なし	東壁中央 安山岩+凝灰岩 +粘土	2基 (D-2+3)	9世紀 第1四半期 H-16Aへ延張。
H-17	小型長方形A	2.72 2.24 0.32	92°-E	北・南・ 西壁の一部 突出	なし	なし	西壁 東壁南寄り 安山岩+凝灰岩 +粘土	なし	8世紀 第1四半期 支那(安南宮)、M-9と重複(本遺構が占 い)。
H-18	小型方形	3.44 3.44 0.60	90°-E	ほぼ全周	なし	なし	南壁 東壁南寄り 粘土	2基 (D-1+2)	8世紀 有茎頭頭の蓋、陶器 底、炭化材出土。
H-19	小型長方形A	3.96 2.88 0.36	98°-E	全周	なし	なし	南壁 東壁南寄り 凝灰岩	なし	9世紀前半 中に数点の大甕。
H-20	小型方形	3.92 3.72 0.76	93°-E	全周	D-1	なし	なし 東壁南寄り 安山岩+凝灰岩 +粘土 縦道に土師器置	—	8世紀 第3四半期 H-20の工具船が发现。
H-21	中型長方形B	3.44 4.08 0.56	99°-E	ほぼ全周	D-1	なし	南壁 東壁南寄り 粘土	4基 (D-2~5)	9世紀 第4四半期 破壊(炭化材)、東壁周 溝から猛獣が予想され る。H-22と重複。
H-22A	中型方形	5.44 4.96 1.08	89°-E	なし	D-1	4本柱	なし 東壁南寄り (縦1) 凝灰岩+粘土	30基(D-2 ~8+11~ 25+27~ 33)-部ビッ ト状を呈す る。	8世紀 第1四半期 破壊(炭化材)、H-21と重複。其製品、 防護剤出土。
H-22B	中型方形	4.72 5.20 1.08	6°-W の±	北・東壁 の±	D-9	不明	なし 北壁東寄り (縦2)	—	8世紀 第1四半期 H-21と重複。
H-23	中型長方形B	3.68 4.32 0.64	108°-E	ほぼ全周	D-1	なし	南壁 東壁南寄り 安山岩	1基(D-2)	8世紀 第3四半期 焼造が崩れずに残存、 東壁に稚獣の彫り込 み、壁面溝に工具船。 H-20と重複。

凡例 平面形：小形：4m未満 小型：4~6m 大型：6m以上 長方形A：主軸側が長い 長方形B：副軸側が長い
()：推定値。〔 〕：残存値

第8表 三木本II遺跡 他遺構観察表

遺構名	種別	平面形態	土軸長 (長さ m)	副軸長 (幅 m)	深さ (m)	土軸方向 (Nから)	時期	参考
T-3	柱穴状	圓丸方形	3.12	3.12	0.32	2°~E	関山I式期	D-54と重複。
T-4	柱穴状	—	—	—	—	—	—	矢森(1-38に変更)
S-3	土坑墓	長楕円形	2.16	1.28	1.28	10°~W	8世紀末	人骨の埋葬埋没。有着知頭壺の器。須恵器片出土。
S-4	集石遺構	不明瞭	2.08	1.84	0.10	—	縄文前期後半	振り込み不明瞭。
S-5	集石遺構	不明瞭	1.02	0.92	0.16	—	縄文前期前半	振り込み不明瞭。集石の北側に石面や少頭の土器片が散在。
S-6	集石遺構	不明瞭	0.72	0.48	0.12	—	縄文	振り込み不明瞭。縄文土器片微量出土。
S-7	集石土坑	楕円形	1.46	1.34	0.32	—	縄文前期後半	土坑断面形状。縄文土器片微量出土。
S-8	集石遺構	不明瞭	0.92	0.64	0.22	—	縄文	振り込み不明瞭。
S-9	集石土坑	楕円形	1.08	1.00	0.16	—	縄文	土坑断面形状。
S-10	集石土坑	楕円形	1.04	0.94	0.12	—	縄文	土坑断面弧形。縄文土器片微量出土。
S-11	集石土坑	楕円形	1.24	1.08	0.12	—	縄文前期前半	土坑断面弧化。縄文土器片微量出土。
S-12	配石墓	長方形	1.50	0.83	0.28	60°~E	古墳時代~古代	壁面に扁平磚、底面に扁平磚・小罐、縄文土器片微量出土。
U-1	理被	楕円形	0.38	0.32	0.08	—	加賀利E式期	ピット状の振り込みに縄文土器の深鉢形頭部が逆位で出土。
SU-1	竪穴	不定形	[13.52]	[11.60]	0.80	—	縄文前期後半	J-46・47と重複(本遺構が新しい)。複数条の縦延で、部分的に崩落。
M-4	溝	直行 断面弧状	[178.40]	0.95	0.26	73°~E	古代(7~8世紀)	J-41と重複(本遺構が新しい)。底面に連続するピット状の振り込み。道路の痕跡。土師器残。
M-5	溝	直行 断面弧状	[122.50]	0.88	0.22	73°~E	古代(7~8世紀)	D-51・52と重複(本遺構が新しい)。底面に連続するピット状の振り込み。道路の側面。
M-6	溝	直行 断面弧状	[4.08]	0.51	0.08	42°~E	中世以降	道路状遺構と重複。
P-1	ピット	円形	0.36	0.32	0.12	—	縄文前期後半	縄文土器の深鉢底部分が正位で出土。

第9表 三木本III遺跡 他遺構観察表

遺構名	種別	平面形態	土軸長 (長さ m)	副軸長 (幅 m)	深さ (m)	土軸方向 (Nから)	時期	参考
HT-2	掘立柱	2間×3間	4.92	3.92	0.40~0.60	—	古代(7~8世紀)	P-2・3は底面が方型。H-33と重複(本遺構が古い)。4基の柱穴から土師器(△), 須恵器(※)出土。
HT-3	掘立柱	2間×2間	5.16	4.64	0.48~0.64	88°~E	古代(7~8世紀)	P-2に接続。8基の柱穴から土師器(○), 須恵器(△)出土。
HT-4	掘立柱	2間×2間	4.80	4.16	0.36~0.64	90°~E	古代(7~8世紀)	D-147と重複。2基の柱穴から土師器(※)出土。
HT-5	掘立柱	2間	3.52	2.40	0.52~0.64	—	古代(7~8世紀)	調査区外の東側に位置する可能性もあるが、詳細不明。遺物なし。
HT-6	掘立柱	2間×3間	6.80	4.56	0.48~0.64	86°~W	古代(7~8世紀)	HT-7と重複。柱穴の平面が矩形。4基の柱穴から土師器(○), 須恵器(※)出土。
HT-7	掘立柱	2間×2間	4.96	4.96	0.44~0.68	85°~W	古代(7~8世紀)	HT-6と重複。柱穴の平面が矩形。5基の柱穴から土師器(△)出土。
HT-8	掘立柱	1間×1間	3.52	3.28	0.40~0.64	85°~W	古代(7~8世紀)	遺物なし。
HT-9	掘立柱	2間×3間	5.24	[5.92]	0.32~0.72	82°~E	古代(7~8世紀)	調査区外の東側に位置する。S.F-1と重複(本遺構が古い)。P-5に柱穴のあたり。6基の柱穴から土師器(△), 須恵器(△)出土。
T-5	柱穴状	圓丸方形	4.08	—	0.16	55°~E	古代(7~8世紀)	振り込みが浅く。平面形は不明瞭。土師器・須恵器片が散在。HT-8と重複。
SF-1	壙・如瓦遺構	不整形	[2.12]	[2.32]	0.16	2°~E	古代(8世紀第4四半期以前)	埴輪を作成した粘土が平面に字状に留置。輪に不定形な浅い振り込み。完形の須恵器片に加え、土師器・須恵器片が散在。HT-9と重複。土師器(△), 須恵器(△)出土。
M-7	溝	やや直行 断面平行形	[57.90]	1.22	0.48	10°~W ~75°~E	As-B段下以前	区画溝。底面の工具痕が明瞭。1区に土師器(※), 須恵器(※)出土。
M-8	溝	直行 断面弧状	[62.60]	1.20	0.09	6°~E	中世以降	区画溝。底面の工具痕が明瞭。1区に土師器(○), 須恵器(※)出土。
M-9	溝	直行 断面平行形	[38.76]	0.86	0.28	68°~W	中世以降	区画溝。目-16・17と重複(本遺構が新しい)。1、3、4区に土師器(○), 須恵器(△)出土。
M-10	溝	直行 断面逆行形	[4.10]	1.45	0.74	63°~E	中世以降	区画溝。底面の工具痕が明瞭。2区に須恵器(※)出土。

凡例 () : 推定値, | : 残存部

第10表 三木本II跡遺 士坑觀察表

遺構名	上端幅(㎝)	下端幅(㎝)	深さ(㎝)	平面形態	断面形態	土壠量	石器	備考	時期	
D-29	116	80	50	36	楕円形	逆台形		古代	ピット2基。黒褐色土埋没。	
D-30	96	76	48	8	楕円形	楕円-弧状		古代	黒褐色土埋没。	
D-31	128	128	104	100	16	楕丸形	逆台形	绳文△ 磨石1 SCB 1	加賀利王式期 D-142と重複。上層に中層の繩文土器片。	
D-32	164	152	128	112	32	楕円形	逆台形	绳文△ FLA 1 四1	中3 特大1 加賀利王式期 下層に人骨。	
D-33	224	184	192	156	44	楕円形	逆台形	绳文○ FLA 1	加賀利王式期 上層に多量の繩文土器片。	
D-34	240	204	68	36	128	楕円形	(深い)逆台形、有段	绳文△ 磨石1	鷹山式期 菊。	
D-35	168	164	148	85	40	楕円形	弧状	磨石1 磨1	中1 大1 錦文 底面に大型磚。	
D-36	152	144	120	116	32	円形	弧状		中1 大1 古墳ケ台式期	
D-37	152	98	112	72	44	楕丸長方形	逆台形	绳文○ 四1 直1	中4 加賀利王式期 菊六、底面青化。底面上で横位の隙縫・台石・円孔出土。	
D-38	80	[72]	64	[52]	28	円形	弧状	绳文○	加賀利王式期 理窓。	
D-39	112	106	72	60	24	円形	逆台形	绳文△	古墳ケ台式期	
D-40	136	120	112	80	32	楕円形	逆台形	绳文△	绳文	
D-41	124	104	92	84	40	不整形	逆台形	绳文△	绳文	
D-42 A	120	116	96	88	102	楕円形	袋狀	绳文△ 四1.2	FLB 1式期 前歴穴。	
D-42 B	[160]	144	[120]	112	36	楕円形	逆台形	绳文△	FLB 1 磨石1	小4 中12 加賀利王式期 菊穴。
D-43	112	112	60	56	24	円形	逆台形	绳文△	中1 加賀利王式期	
D-44	148	96	128	80	16	楕円形	逆台形		大1 古代	
D-45 A	168	[100]	144	[72]	24	不整形圓形	逆台形	土師串	FLA 1 小1 古代 D-45 Bと南側(本遺構が新しい)。黒褐色土理2。	
D-45 B	144	84	120	48	39	不整形圓形	逆台形		古代	
D-46	120	96	100	72	20	楕円形	不整形	绳文△	FLA 1 小1 中1 鷹山式期	
D-47	96	92	72	76	24	円形	逆台形	绳文△	FLA 1 鷹山式期	
D-48	188	168	160	140	28	楕丸形	逆台形	绳文△	FLB 1 小5 中4 鷹山I式期 上層に多量の磚。	
D-49	112	104	80	68	16	不整形圓形	逆台形		小1 大1 錦文	
D-50	168	144	144	116	24	楕円形	逆台形	土師串	小3 古代 黒褐色土理2。	
D-51	160	156	104	104	100	楕円形	袋狀	绳文○	FLA 6 SCB 1 FLB 1 FLE 1	FLB 1 小8 中2 鷹山I式期 前歴穴。上層に多量の出土。
D-52	180	144	56	64	72	楕円形	第2E.組	绳文△	FLB 1	中1 鷹山I式期 前歴穴。
D-53	—	—	—	—	—	楕円形	逆台形	绳文△		
D-54	104	80	68	56	16	楕円形	袋狀	绳文△	FLB 1 小5 中4 鷹山I式期 上層に多量の磚。	
D-55	(164)	144	(124)	120	40	楕円形	逆台形	绳文△	中1 鷹山II式期	
D-56	136	132	104	104	56	円形	袋狀	绳文○	FLA 2 桁 A 1 FLB 3 桁 B 1	FLB 1 小10 大1 鷹山I-II式期 ピット2基。劣候。繩文土器が壁位につぶされた状態で出土。
D-57	152	(144)	88	96	44	不整形圓形	逆台形		小2 中4 錦文	
D-58	224	190	84	48	64	楕円形	不整形圓形	绳文△	SCB 1	FLB 1 小8 中2 鷹山I式期 前歴穴。
D-59	112	104	96	88	—	楕円形	逆台形	绳文△		
D-60	156	[112]	88	[76]	76	楕円形	(深)逆台形	绳文△	FLA 2 中1 鷹山式期 前歴穴。	
D-61	212	192	76	44	96	楕円形	第2E.組		中1 鷹山式期 前歴穴。	
D-62	136	128	72	80	44	円形	袋狀		中1 鷹山式期 前歴穴。	
D-63	184	152	100	44	176	楕円形	(深)逆台形	FLB 1 磨石1	中1 鷹山式期 前歴穴。	
D-64	176	156	120	104	72	楕円形	長方形	绳文○	FLB 2 桁 B 4	FLB 1 小8 中2 鷹山I式期 中層から大型の繩文土器片・磨石がまとまつて出土。前歴穴。
D-65	152	136	128	112	72	楕円形	袋狀	绳文△	SCA 1 FLB 2	中1 大1 鷹山I式期 前歴穴。
D-66	156	136	112	104	16	楕円形	弧状	绳文△	FLA 1 SCB 3 FLB 1 直2	中1 鷹山式期 特大2
D-67	96	96	80	72	32	楕円形	逆台形	绳文△	FLA 3 磨石1	FLB 1 小5 中2 鷹山式期 上一下層で粗面出土。
D-68	168	160	136	136	64	楕円形	袋狀	绳文△	FLA 2 行溝1 SCB 1 桁 B 1	FLB 1 小5 中2 鷹山I式期 前歴穴。
D-69	152	120	108	76	24	楕円形	弧状	绳文△	小3 鷹山I式期	
D-70	136	104	120	96	40	不整形長方形	逆台形	SCB 1 四1	特大2 錦文	
D-71	160	136	108	109	36	不整形圓形	逆台形	绳文△	FLB 3 磨石1 月算Ⅱ式期	
D-72	128	128	112	104	16	楕丸形	弧状	四1 B 1	中1 鷹山式期	
D-73	184	140	120	56	56	不整形圓形	逆台形		中1 鷹山式期	
D-74	168	144	56	48	112	楕円形	(深)逆台形	绳文△	FLA 1 FBR 1	小1 中1 鷹山式期 前歴穴。
D-75	252	184	160	72	104	丘方形	直方形	土師串	SCB 1 四1	古代(8世紀) 中層から同一個体の小型豊岡片出土。兩穴状。
D-76	108	104	64	64	12	円形	深く弧状	绳文△	特大2 錦文	
D-77	256	200	236	176	28	不整形圓形	逆台形	RFAB 1	小1 中10 大2 FLB 2 行溝1	FLB 2 行溝1 ピット1基。多量の磚出土。
D-78	160	140	120	84	40	楕円形	弧状	绳文△	小1 鷹山I式期	
D-79	248	196	208	156	16	不整形圓形	逆台形	绳文△	小1 中4 台地・無柱式期 梱合可能な土器片が多量出土。	
D-80	224	132	184	88	32	楕円形	逆台形		小3 中2 錦文	
D-81	140	132	64	80	48	不整形圓形	不整形		中1 鷹山式期	
D-82	180	[116]	120	124	64	円形	逆台形		J-12 D-53と重複。	
D-83	(160)	148	(116)	112	44	楕円形	弧状	绳文△	FLA 1 台石1	鷹山式期
D-84	144	120	100	72	40	楕円形	弧状	绳文△	中2 特大2 鷹山I式期	
D-85	116	72	84	52	32	楕円形	長方形	绳文△	中1 鷹山I式期	
D-86	96	76	76	52	24	楕円形	逆台形	绳文△	大1 鷹山I式期	
D-87	128	120	96	88	28	楕円形	弧状	绳文△	中3 鷹山II式期	
D-88	144	96	132	64	28	楕丸形	不整形	绳文△	小2 中2 大2 鷹山I式期	
D-89	116	72	84	52	32	楕円形	直方形	绳文△	中1 鷹山II式期	
D-90	96	76	76	52	24	楕円形	逆台形	绳文△	大1 鷹山II式期	
D-91	132	108	104	96	64	楕円形	不整形	绳文△	中1 鷹山式期 D-86・91と重複。	
D-92	[152]	144	[120]	104	39	楕円形	逆台形	绳文△	中1 鷹山式期 D-86・91と重複。	

遺構名	上端幅(cm)	下端幅(cm)	深さ(cm)	平面形態	断面形態	土器重量	石器	時期	備考
	長軸	短軸	長軸	短軸					
D-93	184	168	160	152	24	楕円形	孤状	縄文△ 縄石1 縄石2	小2 中3 鶴山式期 上層で石器出土。
D-94	(248)	172	(192)	136	16	不整形	逆台形	縄文△ 縄石1 縄石2	小1 中2 大1 鶴磯b式期 多量の礫出土。
D-95	116	116	89	84	16	楕円形	逆台形	縄文△ 縄石1	中1 鶴山式期 底面で石器出土。
D-96	176	152	152	116	40	楕円形	逆台形	縄文△ 縄石1 縄石6	小4 中1 鶴山II式期 上層で石器出土。
D-97	132	120	112	104	8	楕円形	逆台形	縄文△	大1 鶴山式期 上層で大型礫出土。
D-98	149	112	88	80	28	楕円形	孤状	縄文△ SCB 1 FLA 1	小5 鶴山I式期 ピット1基。
D-99	168	144	—	—	40	楕円形	孤状	縄文△	中1 縄文 不明
D-100	168	168	108	120	64	不整形円形	逆台形	縄文△	縄文 ピット1基。筋窓。
D-101	—	—	—	—	—	不明	袋状	縄文△	羽石器レンガ調査の壁面断面でのみ確認。
D-102	88	88	76	(68)	12	円形	逆台形	縄文△	古代 黒褐色土層。
D-103	136	124	104	96	16	楕円形	逆台形	縄文△	縄文
D-104	112	112	76	68	32	楕円形	逆台形	SCB 1 四2	中1 縄文 中層で中型礫出土。
D-105	—	—	—	—	36	不明	逆台形	縄文○	縄磯b式期 J-42と重複(本遺構が新しい)。正位の周辺跡がつかれた状態で出土。
D-106	132	132	100	100	72	円形	袋状	縄文△ 縄石1 縄石2	中1 縄磯b式期 筋窓穴。
D-107	140	120	108	80	16	楕円形	逆台形	縄文△ FLB 2 厚1 FLB 2	中1 大2 鶴山II式期 小層で黒曜石(原石)出土。
D-108	128	116	89	84	24	楕円形	逆台形	縄文△ FLB 1	小1 中1 大1 鶴山II式期 ピット1基。
D-109	104	88	72	60	24	楕円形	孤状	縄文△	縄文 ピット1基。
D-110	96	96	64	60	16	円形	逆台形	縄文△	縄磯b式期 筋窓
D-111	96	96	72	68	12	円形	孤状	縄石1	小1 縄文 筋窓
D-112	124	120	36	28	64	内円形	集落系。柱	縄文△	縄文 筋窓 筋窓穴。
D-113	80	80	56	56	8	円形	逆台形	縄文△ 縄石1	大1 縄磯b式期 上層で大型礫出土。
D-114	160	128	128	80	40	不整形円形	逆台形	縄文○ 縄石1 縄石5	小1 中2 大1 縄磯b式期 J-44と重複(本遺構が新しい)。ピット2基。 ピットから正位(内円形)、上層で石器出土。筋窓。 筋窓穴。
D-115	—	—	—	—	72	楕円形	袋状	縄文△	縄文
D-116	120	100	92	84	8	楕円形	孤状	縄石1	底面で石器出土。
D-117	120	88	96	56	16	楕円形	不整形	縄文△	底面の凹凸が顯著。
D-118	192	140	160	96	20	楕円形	逆台形	縄文△ SCB 1 慈P 1	鶴山II式期 D-119と重複。石英岩石出土。
D-119	156	92	128	56	22	不整形円形	逆台形	縄文△	縄文 D-118と重複。
D-120	144	104	108	68	20	不整形円形	不整形	縄文△	縄文
D-121	152	88	132	56	16	不整形	逆台形	縄文△	縄文
D-122	124	104	72	68	16	円形	孤状	縄文△	縄文 ピット1基。
D-123	(88)	84	(680)	64	4	楕円形	袋状-孤状	縄文△	中1 古代 黒褐色土層。
D-124	184	164	144	136	36	楕円形	逆台形	縄文△	加曇利E田式期 筋窓
D-125	160	148	128	112	24	楕円形	逆台形	縄文△	縄磯b式期 雙肩溝。筋窓。
D-126	140	136	104	96	56	内円形	逆台形	縄文△	縄文
D-127	72	56	48	32	12	楕円形	袋状-孤状	縄文△	中2 縄磯b式期 ピット1基。土小片・繩が集中して出土。
D-128	152	128	80	28	104	楕円形	集落系。柱	縄文△	縄文 筋窓。筋磯b式土器付近。
D-129	136	120	52	28	96	楕円形	集落系。柱	縄文△	縄文 筋窓。
D-130	(92)	80	(72)	68	16	楕円形	逆台形	縄文△	縄文 ピット2基。
D-131	(84)	64	(72)	52	8	楕円形	孤状	縄文○ 縄石1 残核状1	加曇利E田式期 大型土器片出土。
D-132	72	56	(56)	44	8	楕円形	孤状	縄文△	縄文
D-133	96	48	40	32	8	楕円形	孤状	縄文△	縄文
D-134	64	60	40	40	16	内円形	孤状	縄文△	縄文
D-135	128	120	52	36	128	内円形	袋状-逆台形 有段	縄文△	縄文 筋窓。
D-136	76	72	48	56	24	楕円形	孤状	縄文△	縄文
D-137	—	—	—	—	48	不整形	不整形	縄文△	小3 縄磯b式期 SU-1の一派。
D-138	128	128	112	104	32	内円形	逆台形	縄文△ 縄石1	縄磯b式期 筋窓。筋窓穴。
D-139	68	—	56	—	17	内円形	逆台形	縄文△ FLA 1 FLB 2 縄石1	鶴山II式期
D-140	128	104	88	80	24	楕円形	逆台形	縄文△	小9 鶴山II式期
D-141	88	80	72	60	16	内円形	孤状	縄文△	縄文
D-142	122	88	104	64	19	楕円形	Nb-孤状	縄文○	J-6・D-31と重複。深鉢底部・大型土器片出土。

第11表 木本田遺跡 土坑観察表

遺構名	上端幅(cm)	下端幅(cm)	深さ(cm)	平面形態	断面形態	土器重量	石器	時期	備考
	長軸	短軸	長軸	短軸					
D-145	64	64	44	—	40	内円形	逆台形	十郎心 羽石器	古代
D-146	160	80	132	36	24	楕円形	孤状	—	H-13と重複。ピット1基。羽石器先出。
D-147	(192)	104	152	64	32	楕円形	孤状	—	H-16と重複。
D-148	56	40	36	28	8	不整形	不整形	大1	H-4と重複。
D-149	144	104	112	80	12	楕丸長方形	逆台形	古代	ピット1基。底面で大型礫出土。
D-150	192	184	140	144	80	内円形	逆台形	—	H-9と重複。

第12表 平塚遺跡 土坑観察表

遺構名	上端幅(cm)	下端幅(cm)	深さ(cm)	平面形態	断面形態	土器重量	石器	時期	備考
	長軸	短軸	長軸	短軸					
D-83	160	1155	139	128	54	長方形	逆台形	—	土器は重底。石器・繩は点数。 () : 検定値。 : 残存値

凡例 土器重底
 ▲ 100 g以上
 □ 100 - 500 g
 ○ 500 - 1,000 g
 ◎ 1,000 g以上

VI 出土遺物

1 繩文土器 (第154~225図)

本遺跡群では多量の縄文土器が検出され、その時期は早期前葉から後期中葉にまでおよぶ。集落を構成する遺構の量比を反映して、関山I式・関山II式・諸磯b式期のものが主体を占める。以下では時期ごとにその様相を概観する。

早期:早期前葉は撲糸紋系型式群の井草II式が少量検出されている。撲糸紋や条痕紋を施すもの他、関東地方西北部では少ない縄紋施文のものが認められた(351)。三本木II遺跡E区東側の平坦面に位置する土坑(D-71号土坑)とその周囲の南斜面に広がる後世の遺構内から検出されており、台地平坦面の縁辺において活動していたことが窺われる。早期中葉は沈線紋系型式群と押型紋系型式群種沢式、早期後葉は条痕紋系型式群が検出されている。いずれも碎片ばかりである。早期前葉と同じ南斜面の包含層や後世の遺構内から出土しているが、標高228m以下の斜面下位に限られることから、活動範囲が斜面地に移行している可能性がある(属性別土器分類表はデータ編に収録)。

前期前半:縄紋を横位帯状に施文する帶状縄紋型式群に相当する。多種多様な縄紋原体を使用し、胎土中に多量の纖維を混入する特徴をもつ。本遺跡群では前期初頭二ツ木式、前期前葉関山I式・関山II式、前期中葉有尾式・黒浜式が検出された。これらは主体を占めることから、庄野・下村(1978)、黒坂(1984)、谷藤(1988)、松本(2007)等を参照して型式の把握に努めた。その分類は以下のとおりである。なお、1A~C類が二ツ木式、1D類が関山I式、2類が関山II式、3A類が有尾式古段階、3B類が有尾式中段階、3C類が有尾式新段階に對比される。

- 1A: 口縁部文様帯に地紋が無く、文様要素に撲糸側面圧痕紋を用いた蔽手文等を主文様とするもの。
- 1B: 口縁部文様帯に地紋が無く、文様要素にキザミ付隆帯を用いた蔽手文等を主文様とするもの。
- 1C: 口縁部文様帯に地紋が無く、文様要素に併行沈線紋を用いた蔽手文・鋸齒紋等を主文様とするもの。
- 1D: 口縁部文様帯に地紋が無く、文様要素に平行沈線紋を用いた蔽手文・鋸齒紋等を主文様とするもの。キザミの有無や集合化および管内痕の存否によって細分される。
- 1E: 口縁部文様帯に地紋が無く、主文様要素にその他の施文法を用いた蔽手文・鋸齒紋等を主文様とするもの。
- 2A: 口縁部文様帯に地紋をもち、文様要素に平行沈線紋を用いた蔽手文・鋸齒紋等を主文様とするもの。キザミの有無および平行沈線の多重化によって細分される。
- 2B: 口縁部文様帯に地紋をもち、主文様要素にその他の施文法を用いた蔽手文・鋸齒等を主文様とするもの。
- 3A: 口縁部文様帯に地紋が無く、主文様要素に櫛歯状列点絞を用いた菱形文等を主文様とするもの。
- 3B: 口縁部文様帯に地紋が無く、主文様要素に爪形紋を用いた菱形文等を主文様とするもの。
- 3C: 口縁部文様帯に地紋が無く、主要素に平行沈線紋を用いた菱形文等を主文様とするもの。
- 3D: 口縁部文様帯に地紋が無く、主文様要素にその他の施文法を用いた菱形文等を主文様とするもの。

- 4A：刺切紋・刺突紋を主文様とするもの。
 4B：貼付紋を主文様とするもの。
 4C：コンバス文等の縦状紋を主文様とするもの。
 5：口縁部文様帯が無文のもの。
 6：地紋のみが施されるもの。

口縁部形態には波状線と平線が見られ、波状線には波頂部が双頭のものや小皿状を呈するものが認められる。関山II式には片口を付けるものが現れ、その末期や有尾式期古段階には注口状を呈する傾向がある。また、関山I式期から口縁部に鋸歯状突起が発達し、白歯状突起が派生する。関山II式期には粗大な鋸歯状突起・台形状突起・半円状突起などが加わる。

点状紋とは主文様の空白部に充填されるもので、二ツ木式から関山II式期古段階に盛行する。竹管による円文と瘤状の小突起が多く使用され、竹管が古い傾向にある。瘤状の小突起には円形や梢円形ないし棒状のものが認められ、突起上に丸棒状工具や細い竹管状工具による刺突ないしキザミを加えるものも存在する。新相には小突起が集合化するものも現れる。

関山式期に通有な縦状紋は、横帯状に施文される縞紋帯の間や口縁部に配されている。縦状紋に使用される工具は半截竹管状工具（半竹）や櫛齒状工具（櫛）で、支点を固定したコンバス紋（真正コンバス紋）・支点を上下にずらしたコンバス紋（上下コンバス紋）・波状紋・鋸歯紋・集合縦位短沈線紋が描かれる。このことから、半竹真正・半竹上下・半竹波状・半竹鋸歯・半竹集合縦位短沈線・櫛真正・櫛上下・櫛波状・櫛鋸歯・櫛集合縦位短沈線の組み合わせが導かれる。櫛齒状工具の使用やコンバス紋の起点をずらすことは新しい傾向であり、鋸歯紋や集合縦位短沈線紋は関山II式期に限られる。

当該期における地紋の繩紋には、無節繩紋・単節繩紋・複節繩紋・反燃繩紋・異条繩紋・異節繩紋・結節繩紋・附加条繩紋・組紐繩紋・組繩繩紋等が認められる。これらは1つの個体に複数の原体が使用される場合もある。結節繩紋は二ツ木式から関山I式期に多く、異条繩紋は関山I式の新相から見られるようになる。組紐繩紋・組繩繩紋は関山II式期に隆盛する。また、単節斜繩紋の横帯施文方法として、狭い幅から広い幅へ、等間隔から異間隔へ変化する方向性と繩の閉端に対する処理の違いから、A幅狭等間隔横帯施文・B閉端結束幅狭等間隔横帯施文・C閉端環付幅狭等間隔横帯施文・D多段の閉端環付幅広異間隔横帯施文・E閉端環付幅広異間隔横帯施文・F幅広異間隔横帯施文等に分類される。このうちA・Cは二ツ木式期に特有である。Dでは多段ループ紋が縦位区画や鋸歯紋の文様要素として使われる場合がある。

関山II式新段階から繩紋の条等の効果を沈線に置き換えた土器群が派生する（269・270）。加えて、関山II式期は横帯施文でないものが目に付き、追加成形による土器の製作技法（粘土帶の積み上げと繩紋施文を交互に繰り返す技法）に規制されてきた原則が崩れている。次時期の有尾式は同時期の黒浜式と異なり横帯施文が再び明瞭となることから、別系統の介在が推し量られる。関山II式期と併行する神ノ木式に結束繩紋が見られる（285）等、横帯構成が明瞭であることは示唆的である。なお、中部地方を主要分布圏とする有尾式は神ノ木式からの系統的変化によって形成されるが、関東地方北西部に分布する土器群には胎土中に纖維を含むような差異が見受けられ、独自の型式圏を形成する。

異系統土器として、関山式に伴う中越皿式・中越IV式・堂ノ上乙式・木島皿式・清水ノ上乙式・神ノ木式、有尾式・黒浜式に伴う上ノ坊式・糀迦堂乙式等、甲信地方・東海地方の多様な土器群が検出されている。とくに、J-18号住居址から出土した中越式（89）は残存状態が良好である。この土器は尖底で、

内面の指頭痕が著しい。口縁部から脚部に逆位の開端結節單節繩紋を下から上へ、左から右へ施文している。

前期後半：斜繩紋上に半截竹管で文様を施す竹管紋型式群に相当する。地紋は横位帶状施文ではなく單方向の斜繩文に代わり、胎土中の纖維が無くなる。本遺跡では前期後葉諸磯 a 式・諸磯 b 式・諸磯 c 式が検出されている。

諸磯 a 式・諸磯 c 式は微量の碎片が検出されている程度である。諸磯 a 式が J-9 号住居址の、諸磯 c 式が J-18 号住居址の 1 層から検出されており、関山 I 式期の住居址でも前期後葉まで上層が窪地化していたことが分かる。また、両住居址は南斜面の下位に位置することから、早期中葉から後葉と同様の活動範囲が連想される。

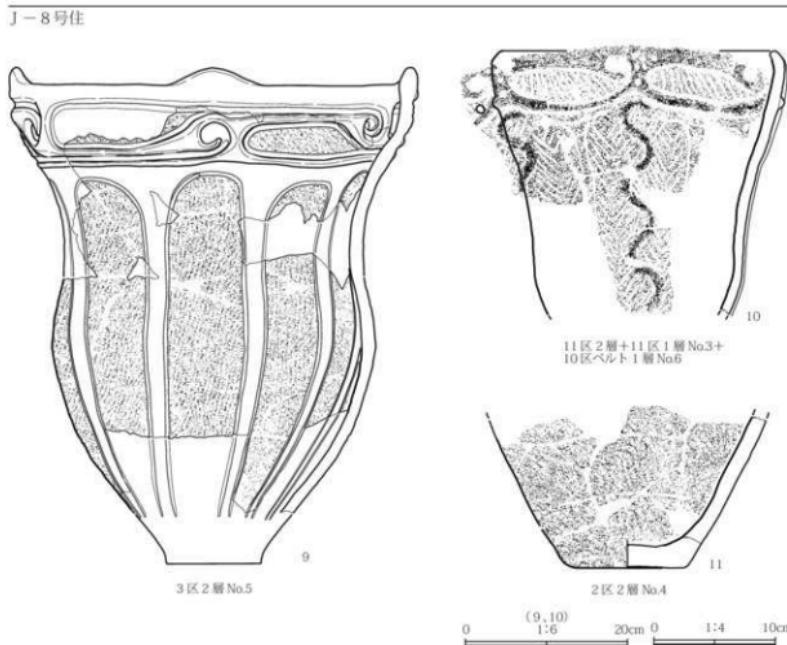
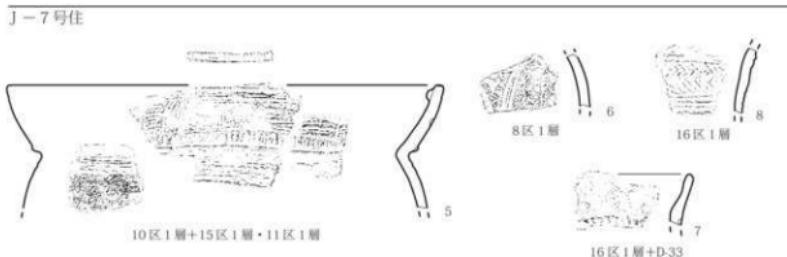
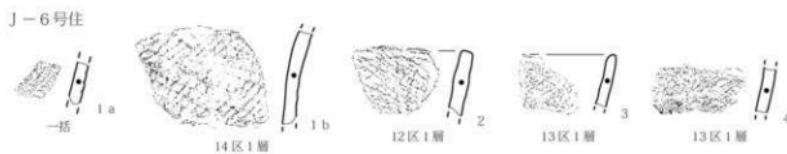
諸磯 b 式は三本木 II 遺跡の D 区北半に集中する住居址やその東側に広がる包含層からまとめて検出されている。半截竹管による幅広の平行沈線紋・爪形紋・浮線紋が盛行する。文様は変形木葉状入組文が横位区画線と癒着し、匂字文・弧線文・渦巻文等を形成する。また、文様帶が多段化する特徴をもつ。時期区分は 3 級別が一般的であり、本遺跡では中段階・新段階のものが認められる。中段階は J-51 号住居址に代表され、獸面突起を擁し、浮線紋で施文された大型の深鉢が床面上でたおれて出土した。新段階は J-44・47・48・50 号住居址、D-37・105 号土坑等で出土している。口縁部の屈曲が著しくなり、浮線紋が低平化する。繩文地紋のみ (291) や無文 (304) の深鉢も検出されている。また、有孔浅鉢 (225・339) やミニチュア土器 (311・312) も見受けられた。異系統土器として、破片資料であるが、関東地方東部の浮島 III 式ないし興津 I 式や西日本地域の北白川下層式が検出されている。

中期：中期初頭五領ヶ台 I 式、中期前葉阿玉台 I b 式、中期後葉加曾利 E III 式・加曾利 E IV 式が検出されている。五領ヶ台式は J-7 号住居址においてまとまって出土した。口縁部文様内に充填される細線紋をもつことから I 式に比定され、指標となる陰刻紋や閉端結節を伴う繩紋が縦位に施されている (5・6)。これら細線紋系とは別に集合沈線紋系の破片 (8) も併出している。加曾利 E III 式は J-7 号住居址で多量に出土した。磨消繩紋が発達し、口縁部文様体と体部文様体が癒合していく趨勢のなかで、本事例には口縁部の下端区画が残ることから古相に比定される。一方、U-1 号埋設土器は口縁部文様が略された新相に該当する。なお、J-7 号住居址では信州系の深鉢 (10)、当該期に特徴的な浅鉢 (12) や両耳鉢 (13) が出土している。

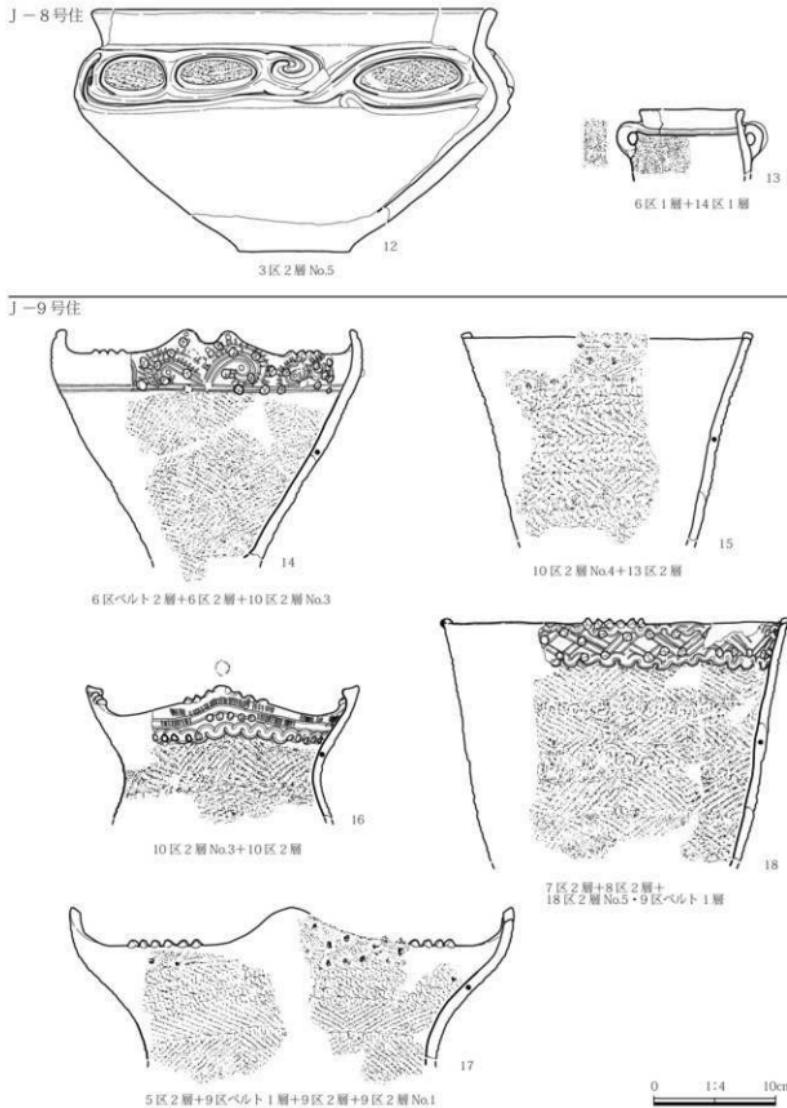
後期：後期前葉堀之内 2 式、後期中葉加曾利 B 3 式が検出されている。堀之内 2 式は口縁部の小突起を沈線で結ぶ口部装飾と懸垂文を主体とする体部文様を特徴とし、堀之内 1 式を継承する。遺跡群の中心部に位置する M-7 号溝 3 区の周囲でまとめて検出されており、谷の湧水点を活動拠点としていた状況が読み取れる。加曾利 B 3 式は 1 点の破片が見られるのみで、E 区の西側で出土した。 (高橋)

2 繩文時代の土製品 (第188図)

D-51 号土坑から土製耳飾が出土している。鼓状を呈し、表・裏面に刺突を加える中期的定形的事例である。D-51 号土坑は関山式期の貯蔵穴であり、混入が予想される。加曾利 E III 式期の J-8 号住居址からは棒状土製品が出土した。また、前期前半の土器小片を再利用した土製円盤が関山 II 式期の J-43 号住居址で検出されている。 (高橋)

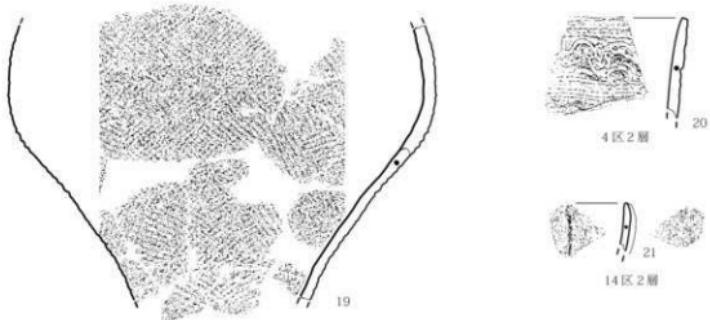


第154図 三本木II遺跡(縄文) J-6・7・8号住居址出土土器



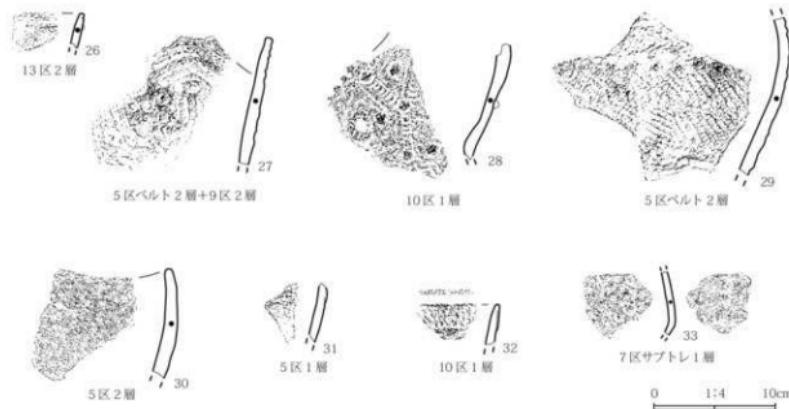
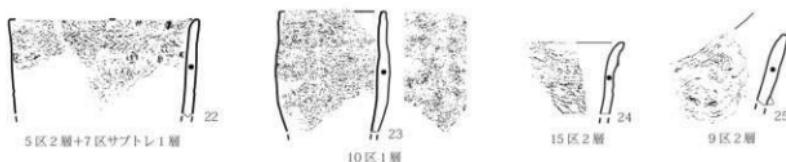
第155図 三本木II遺跡（縄文） J-8・9号住居址出土土器

J-9号住



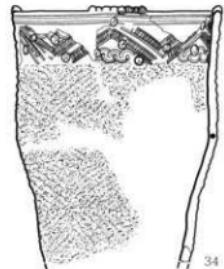
10区2層+10区2層+10区2層No.3+
10区ベルト2層No.3+9区2層No.1

J-10号住

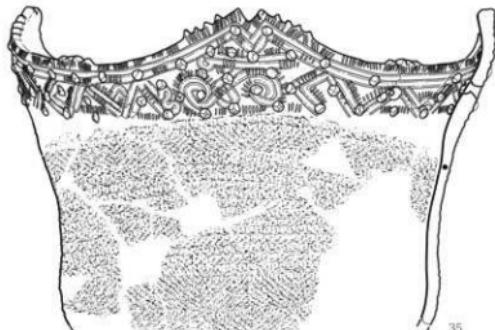


第156図 三本木II遺跡(縦文) J-9・10号住居址出土土器

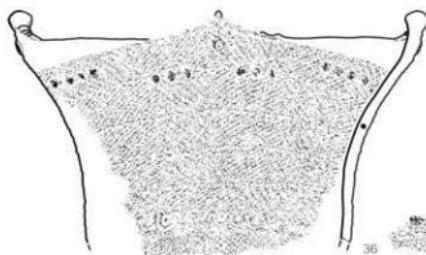
J-11号住



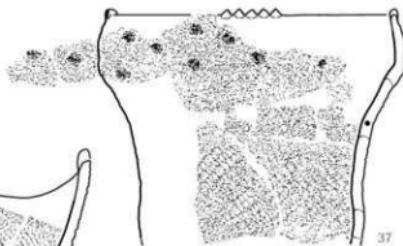
4区2層+11区3層+
11区ベルト3層・12区ベルト2層



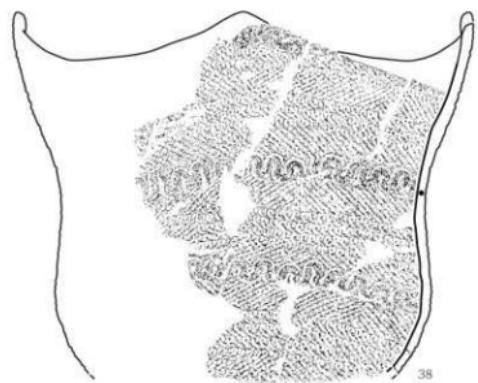
7区3層・11区3層No.1・
12区ベルト2層No.2・
12区ベルト3層No.3+
12区3層+12区ベルト2層



12区3層No.1+12区2層



12区2層+16区1層

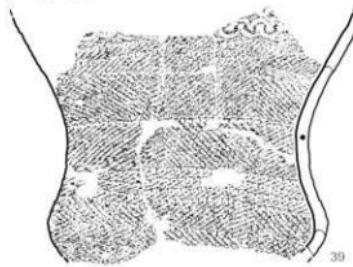


8区3層No.1+4区2層

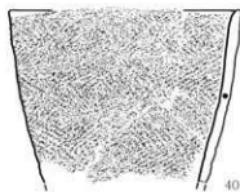
0 1:4 10cm

第157図 三本木II遺跡(縄文) J-11号住居址出土土器(1)

J-11号住



10区3層No.1



9区3層No.1



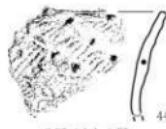
12区2層



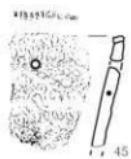
11区3層



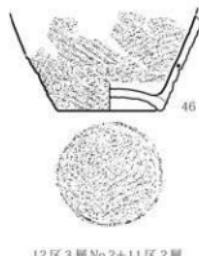
10区3層+
10区ベルト3層No.1



7区ベルト3層



6区2層



12区3層No.2+11区2層

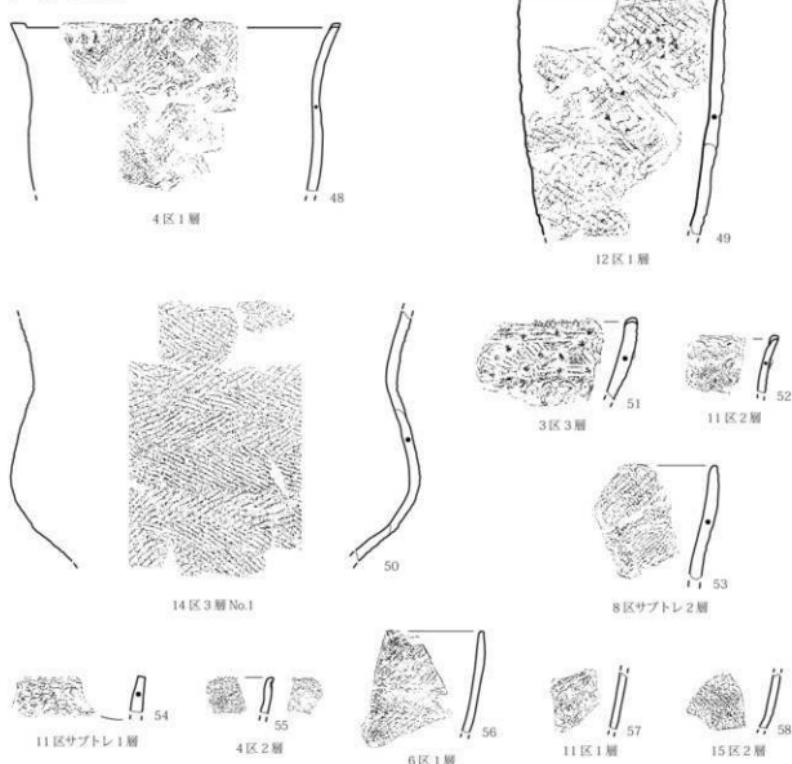


2区1層

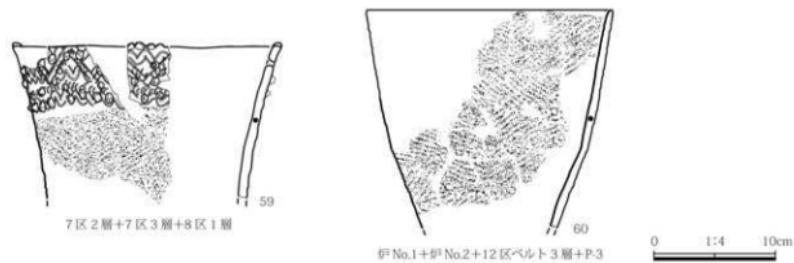
0 1:4 10cm

第158図 三本木II遺跡(縄文) J-11号住居址出土土器(2)

J-12・16号住

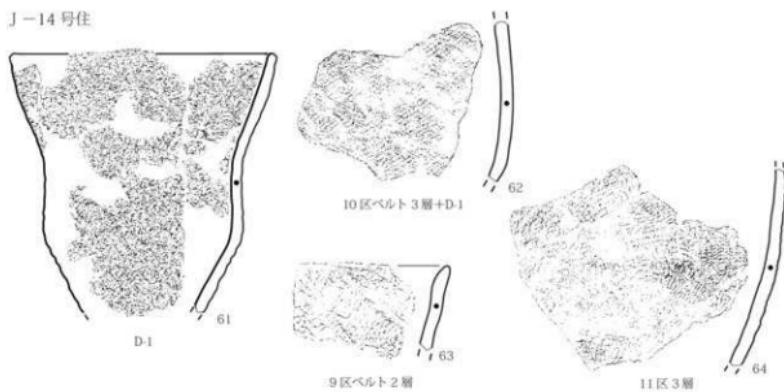


J-13号住

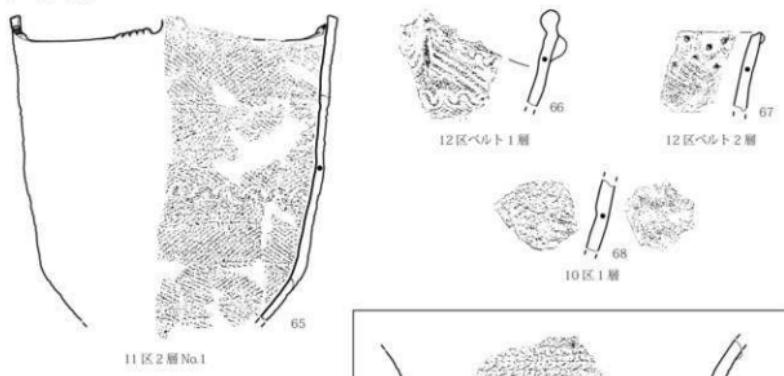


第159図 三本木II遺跡(縄文) J-12・13・16号住居址出土土器

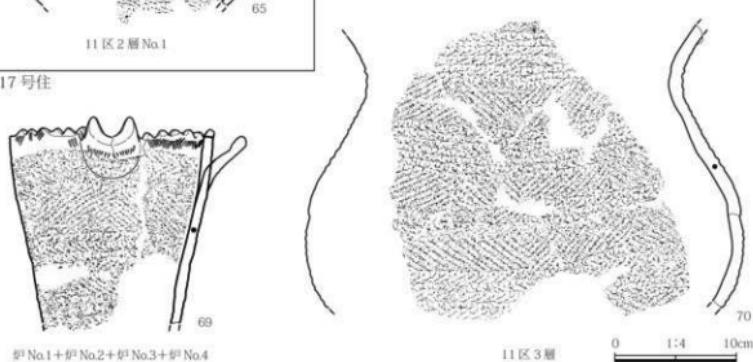
J-14号住



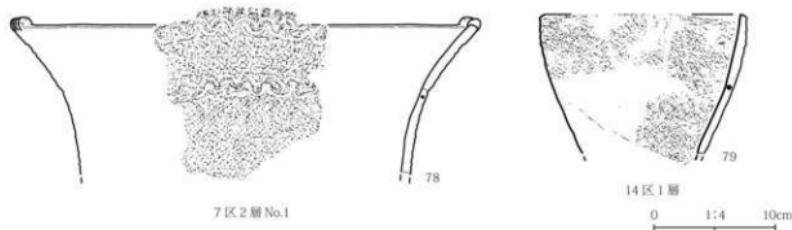
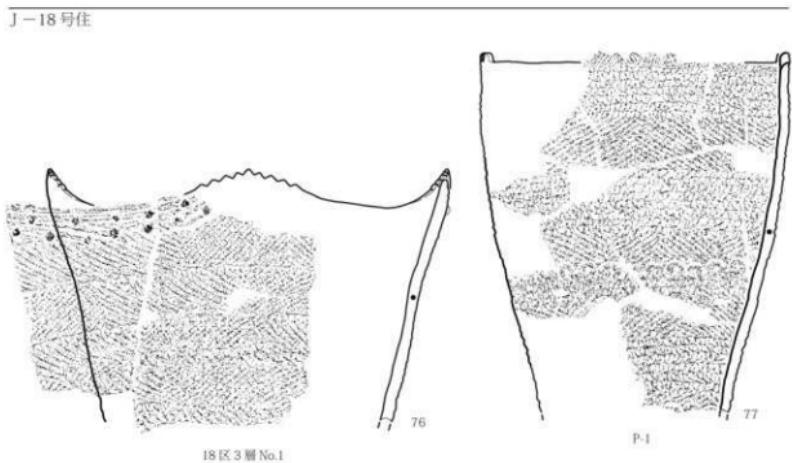
J-15号住



J-17号住

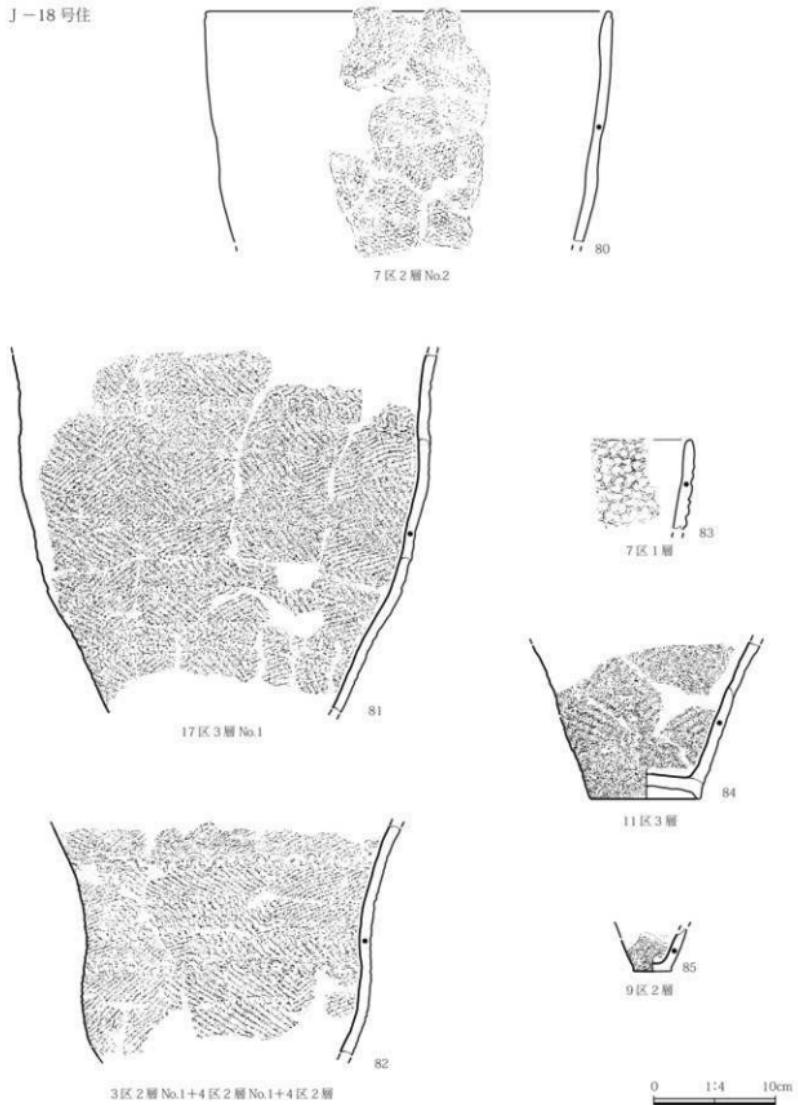


第160図 三本木II遺跡(縄文) J-14・15・17号住居址出土土器



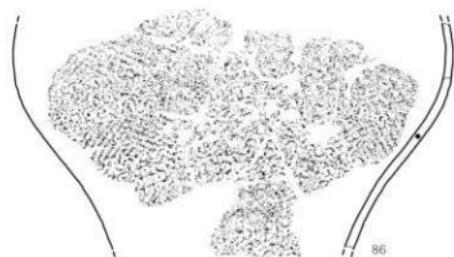
第161図 三本木II遺跡(縄文) J-17・18号住居址出土土器

J-18号住

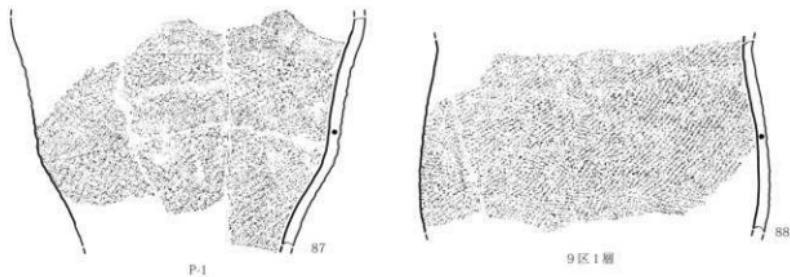


第162図 三本木II遺跡(縄文) J-18号住居址出土土器

J-18号住

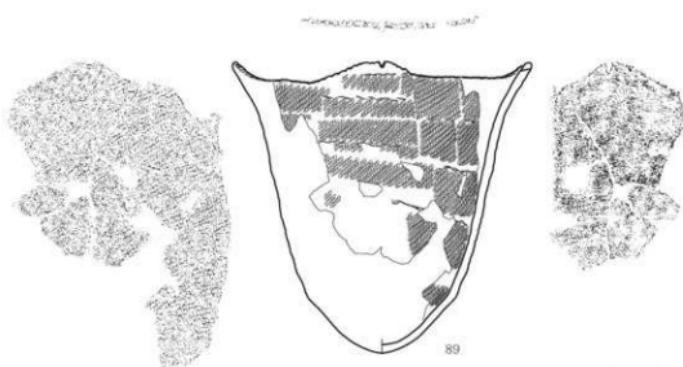


11区3層No.1



P.1

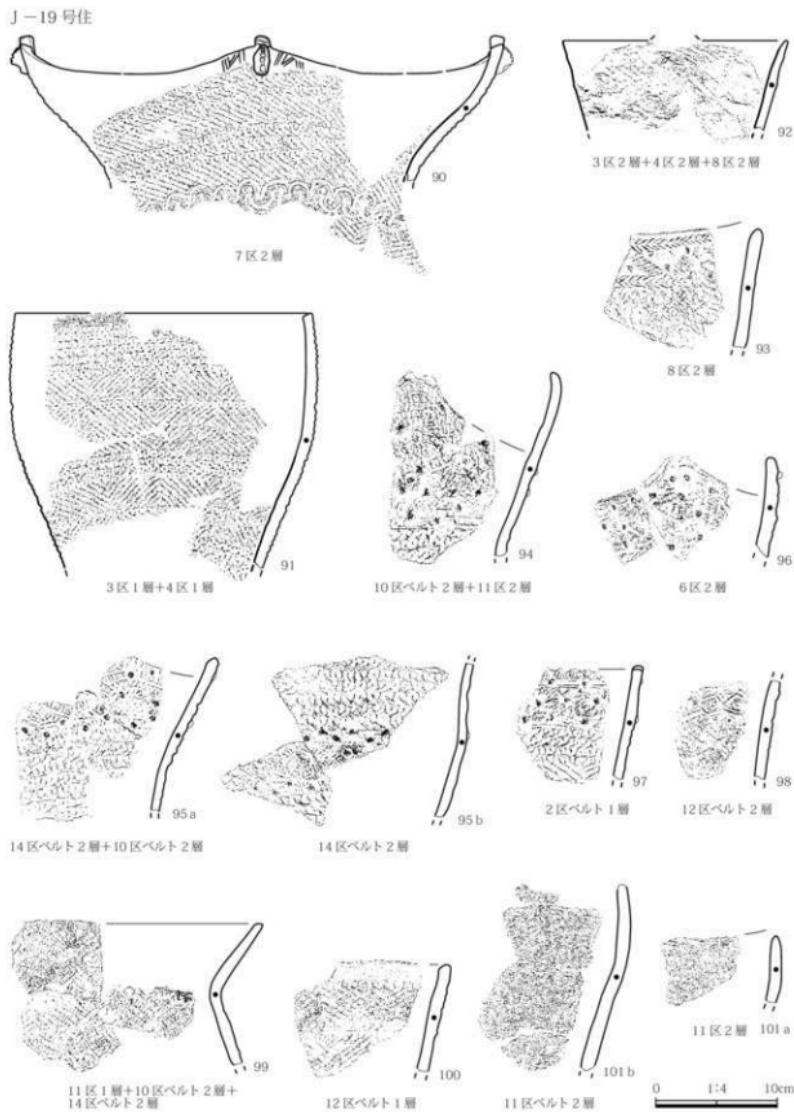
9区1層



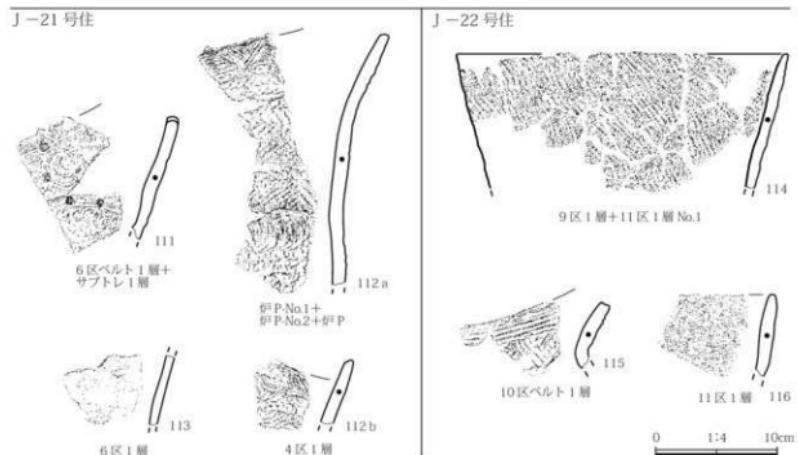
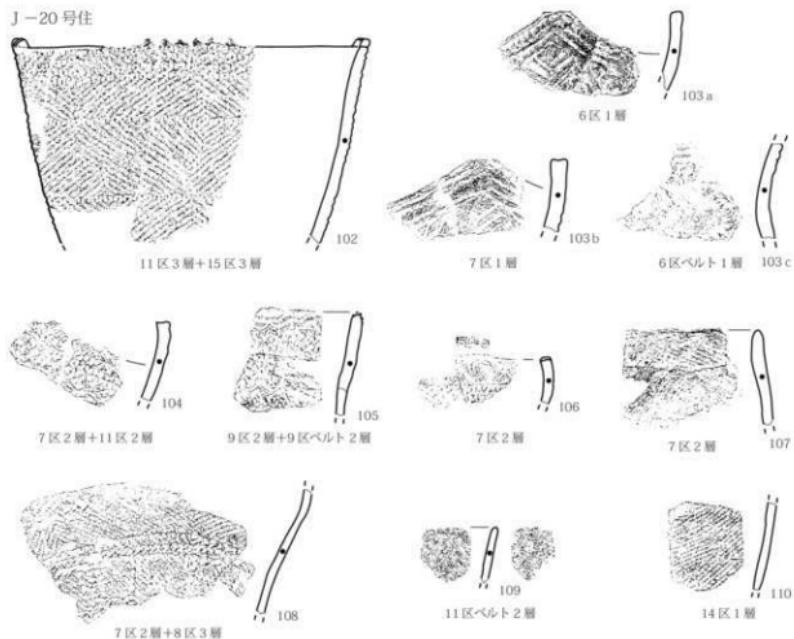
11区2層No.1+11区2層+11区2層No.1+10区1層

0 1:4 10cm

第163図 三本木II遺跡(縄文) J-18号住居址出土土器

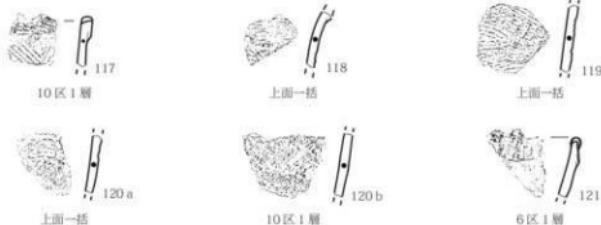


第164図 三本木II遺跡(縄文) J-19号住居址出土土器

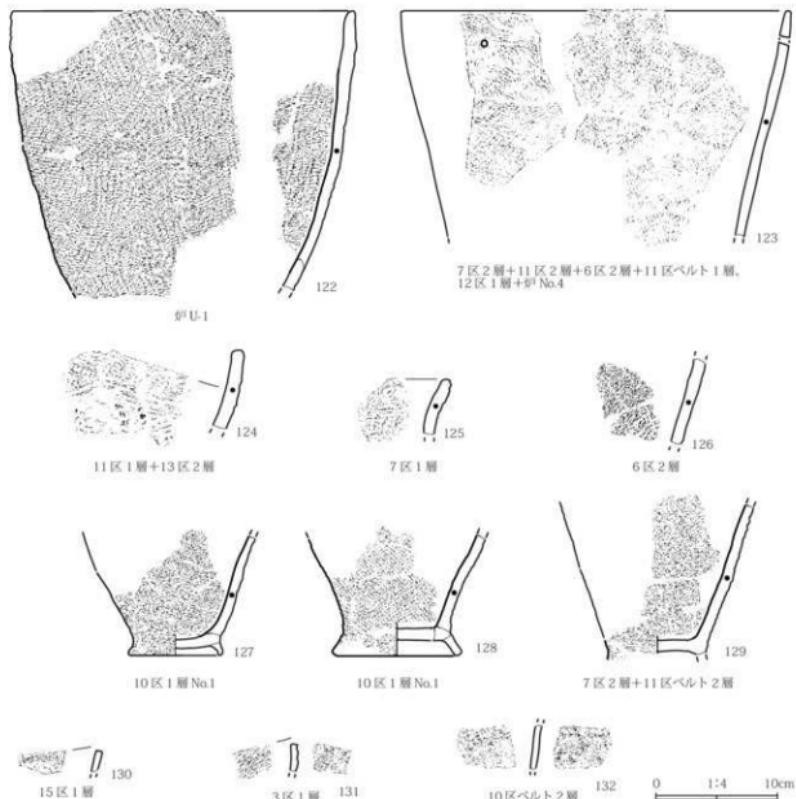


第165図 三本木II遺跡(縄文) J-20・21・22号居住址出土土器

J-22号住



J-23号住



第166図 三本木II遺跡(縄文) J-22・23号住居址出土土器

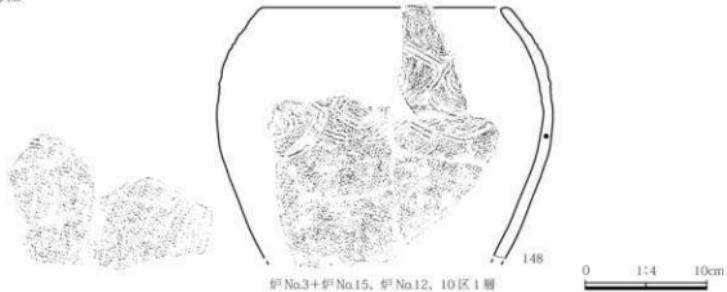
J-24号住



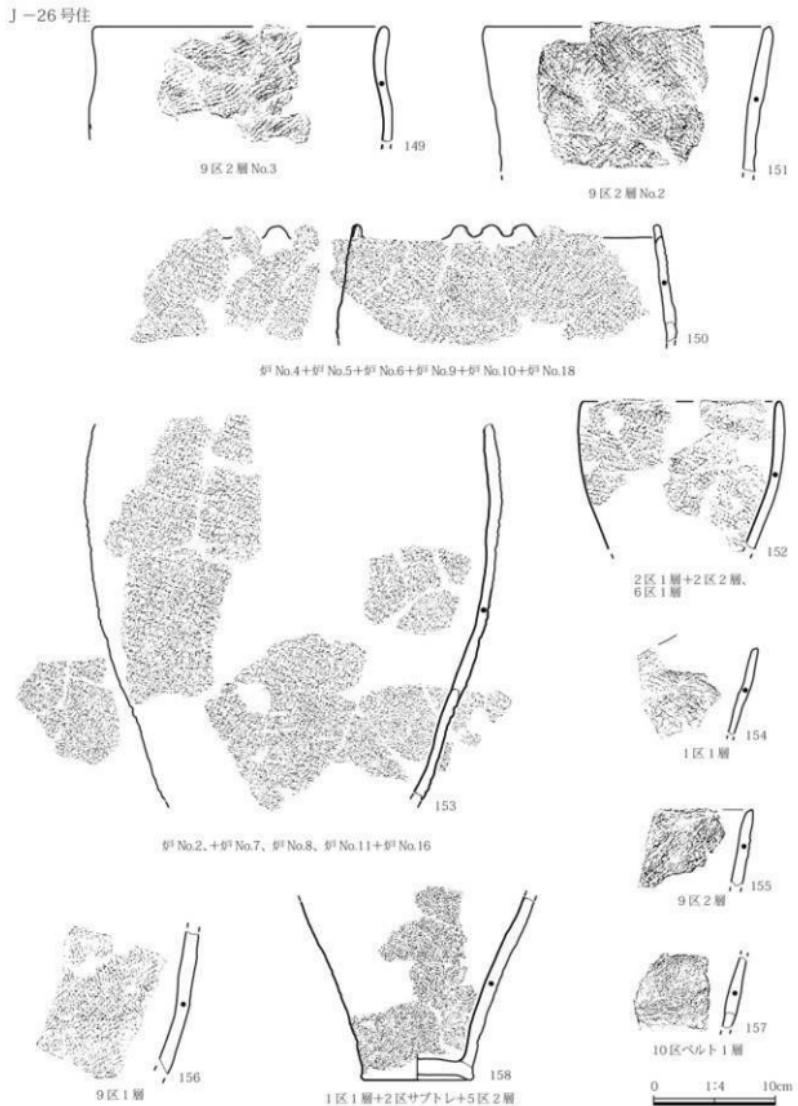
J-25号住



J-26号住

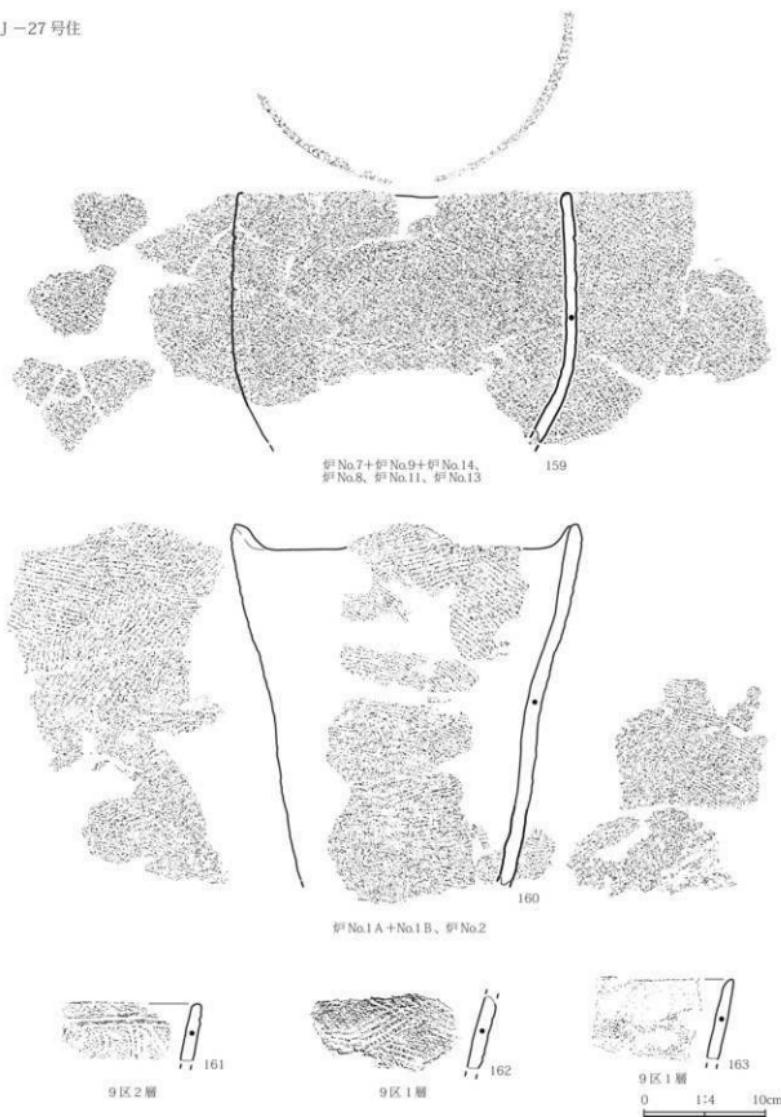


第167図 三本木II遺跡(縄文) J-24・25・26号住居址出土土器



第168図 三本木II遺跡(縄文) J-26号住居址出土土器

J-27号住

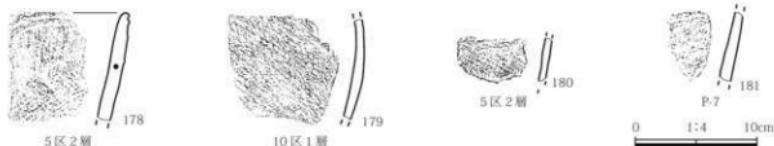
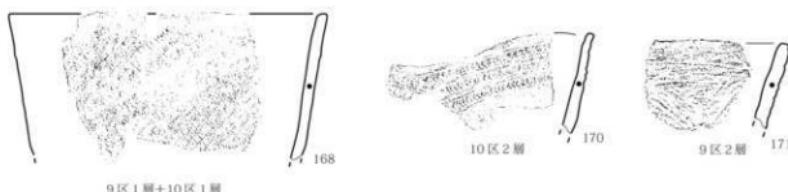


第169図 三木木II遺跡(縄文) J-27号住居址出土土器

J-27号住

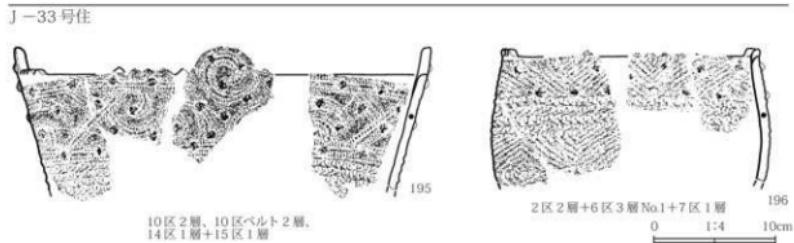
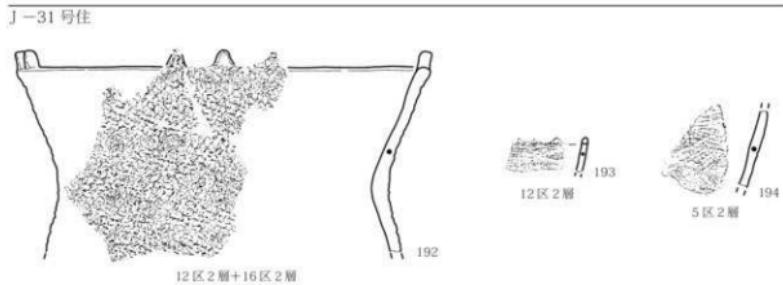
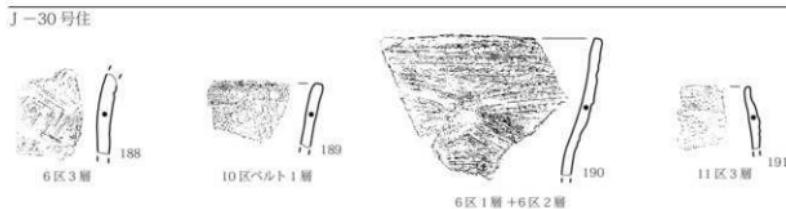
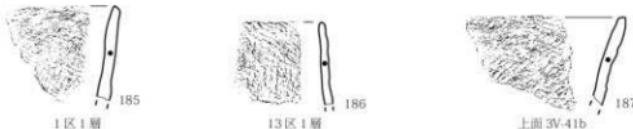


J-28号住



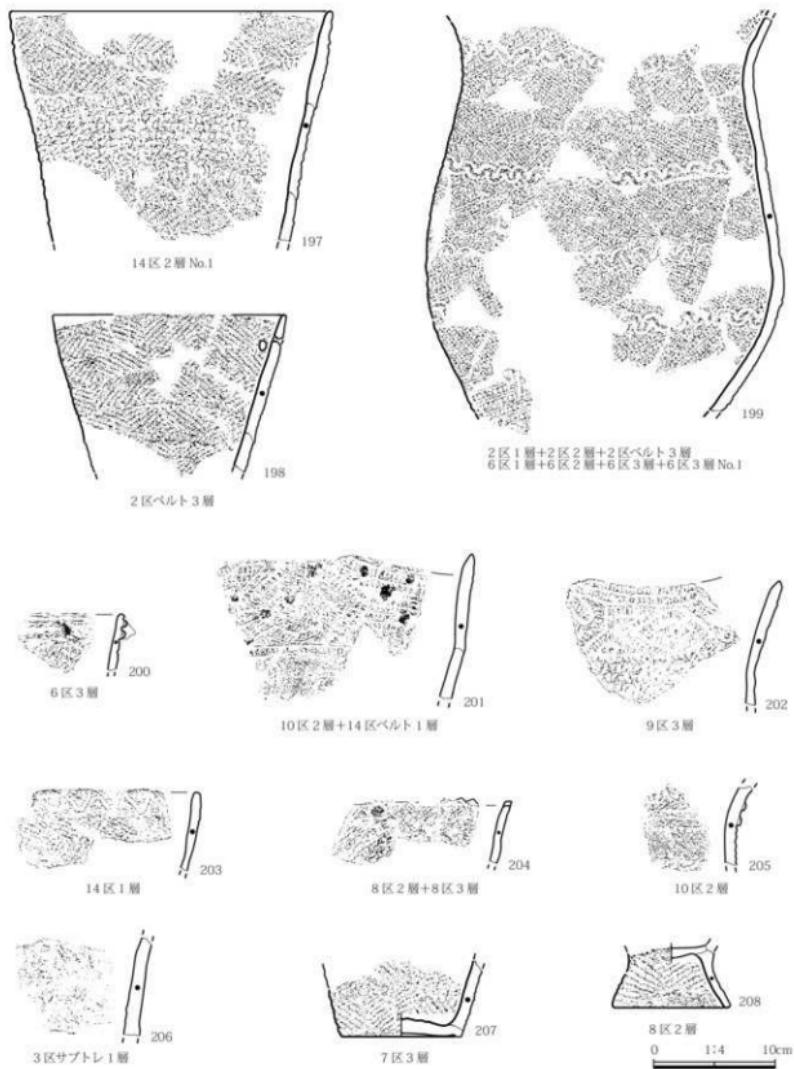
0 1:4 10cm

第170図 三本木II遺跡(縄文) J-27・28号住居址出土土器

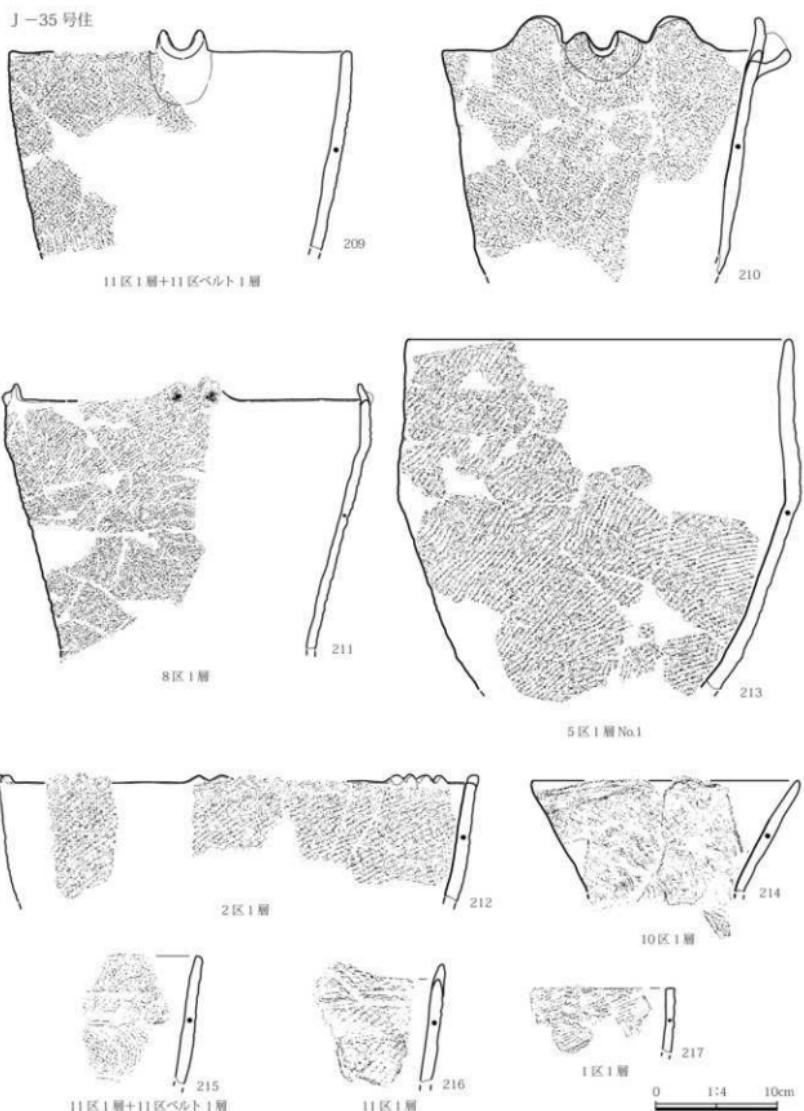


第171図 三本木II遺跡(縹文) J-29・30・31・33号住居址出土土器

J-33号住



第172図 三木木II遺跡(縄文) J-33号住居址出土土器

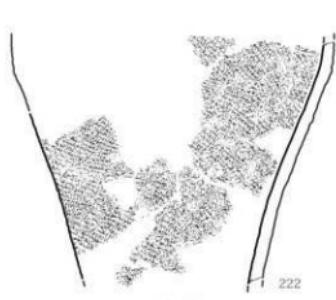


第173図 三本木II遺跡(縹文) J-35号住居址出土土器

J-35号住



J-36号住

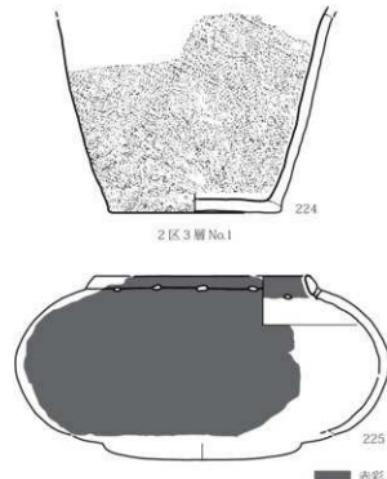


5区2層



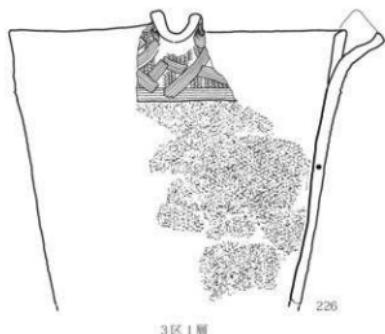
U-I

J-37号住

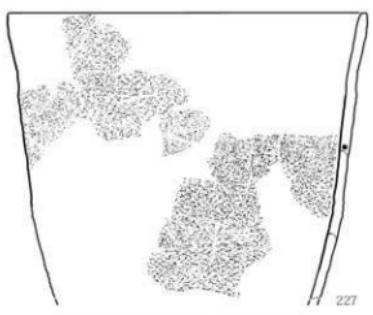


■ 赤影

J-38号住 (T-5)



3区1層

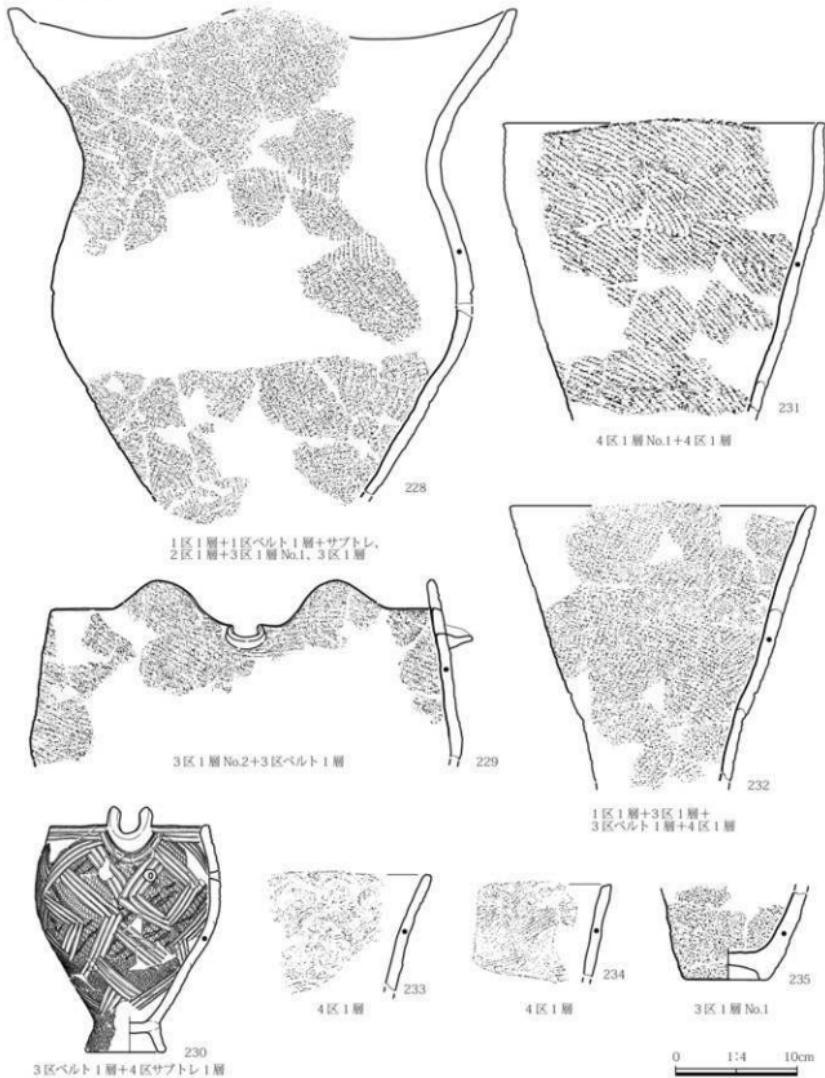


2区1層+4区1層No.1+4区1層+サブトレ

0 1:4 10cm

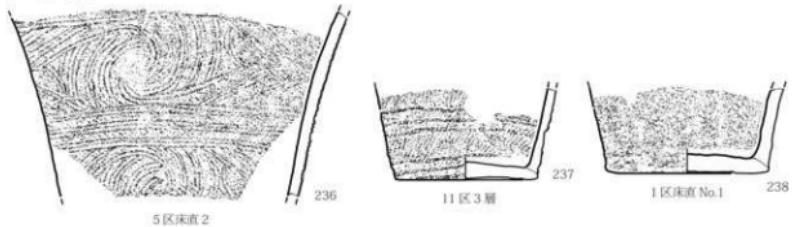
第174図 三本木II遺跡（縄文） J-35・36・37・38号住居址出土土器

J-38号住

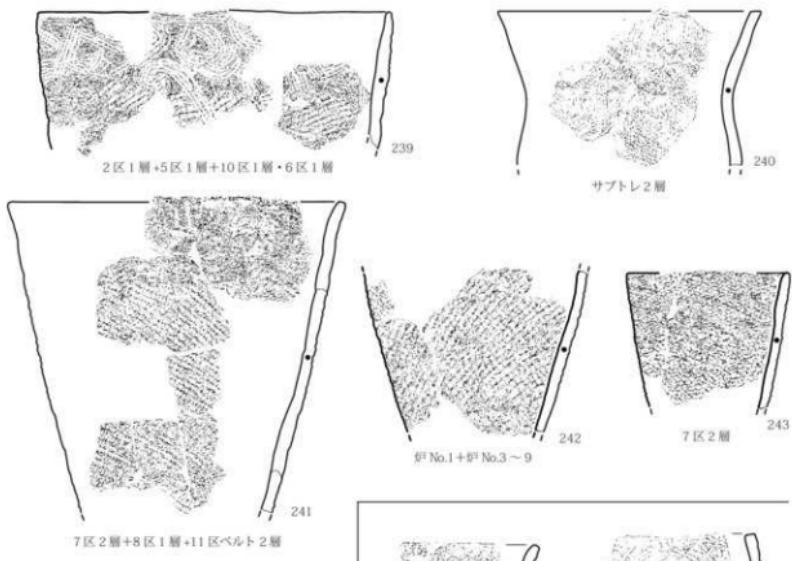


第175図 三本木II遺跡(縄文) J-38号住居址出土土器

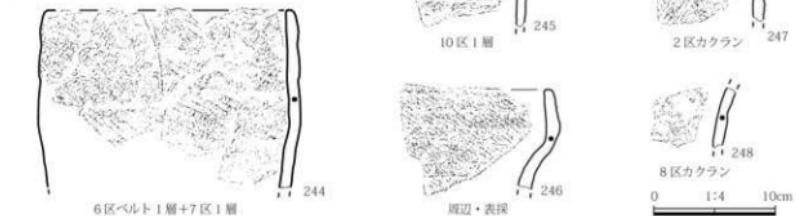
J-39号住



J-40号住

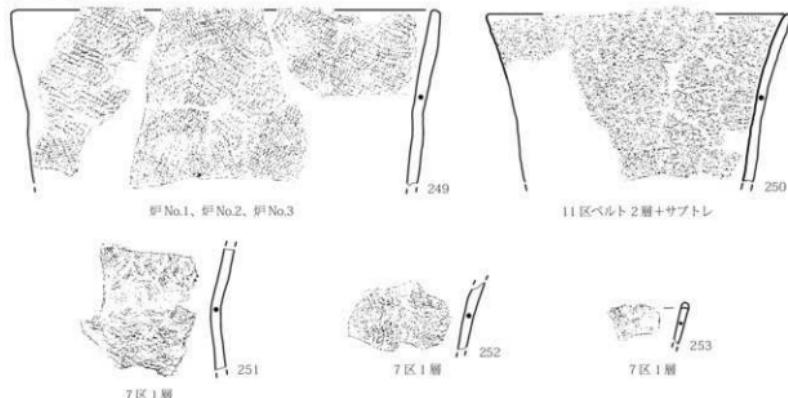


J-41号住

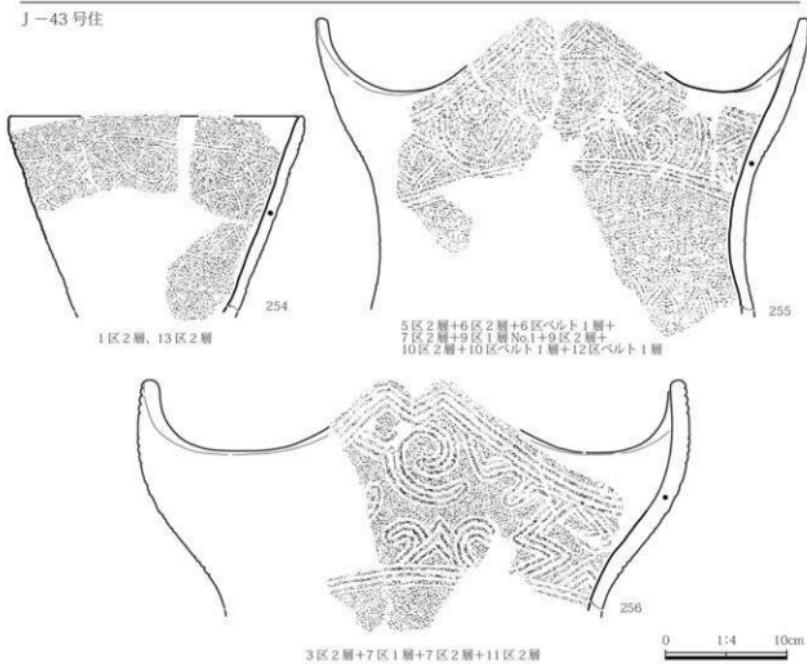


第176図 三本木II遺跡(縄文) J-39・40・41号住居址出土土器

J-42号住

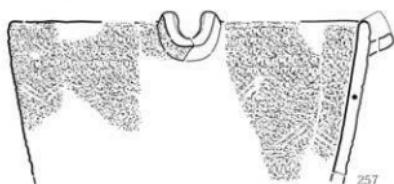


J-43号住



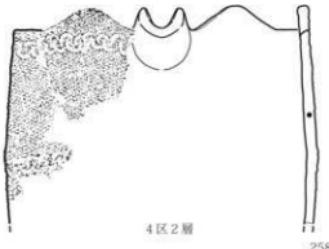
第177図 三本木II遺跡(縄文) J-42・43号住居址出土土器

J-43号住



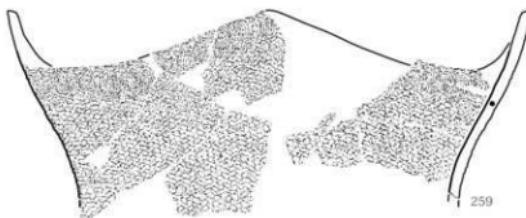
1区1層+5区2層+6区2層

257

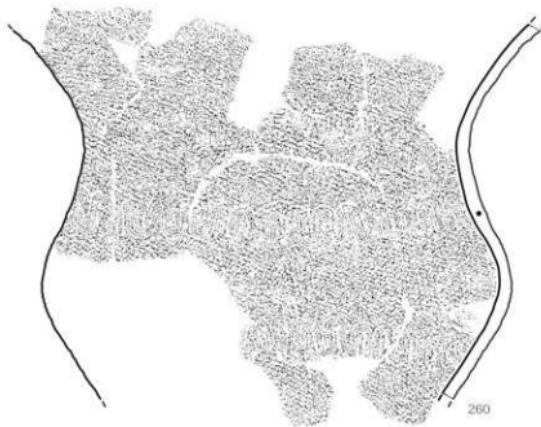


4区2層

258



5区2層No.1

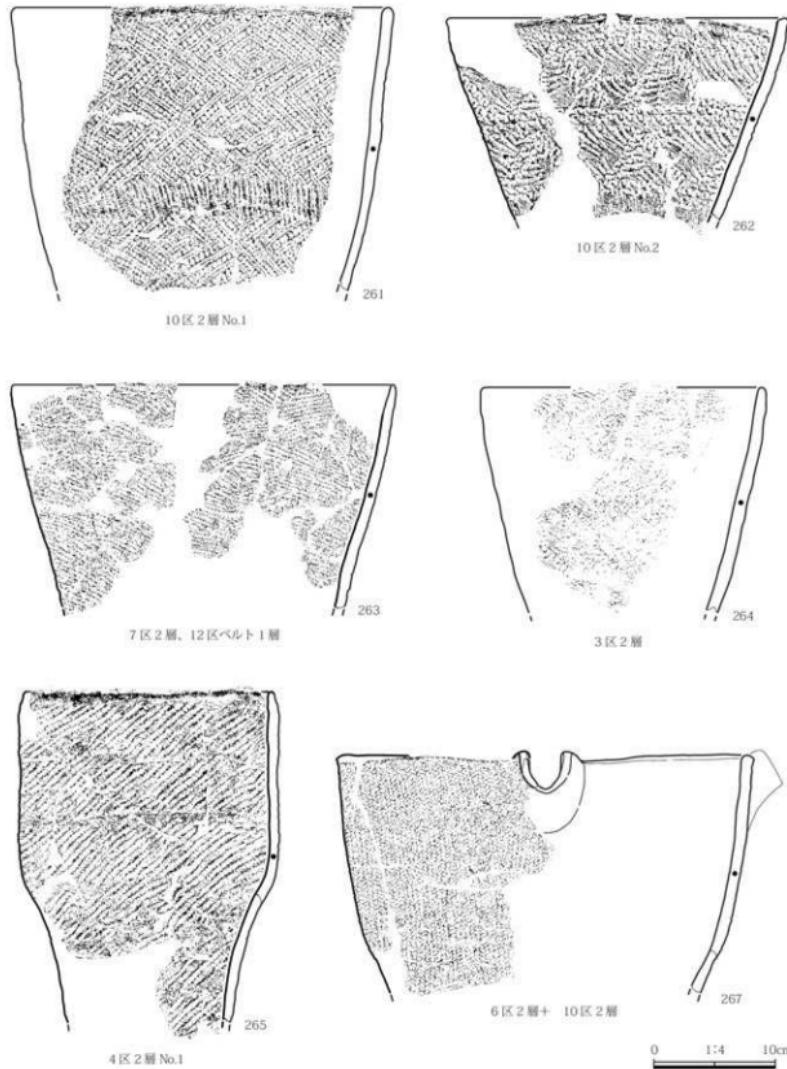


5区1層+5区2層No.1+6区2層+
7区1層+7区2層、10区ベット2層

0 1:4 10cm

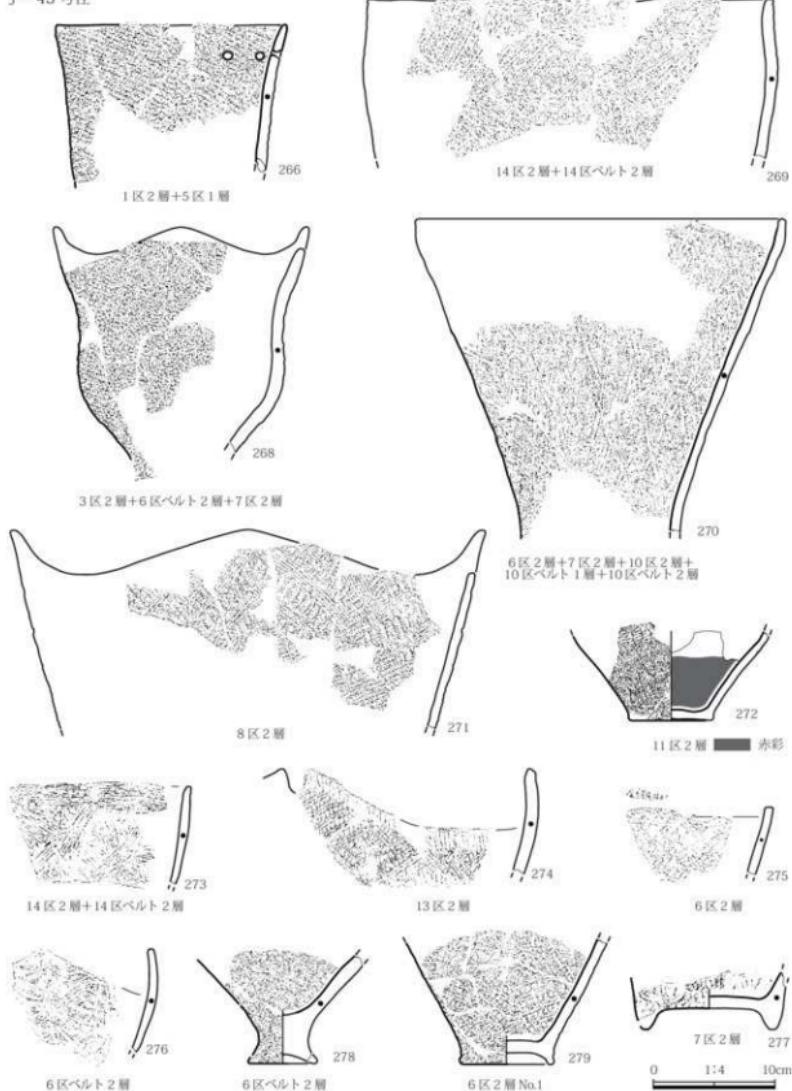
第178図 三本木II遺跡(縄文) J-43号住居址出土土器

J-43号住



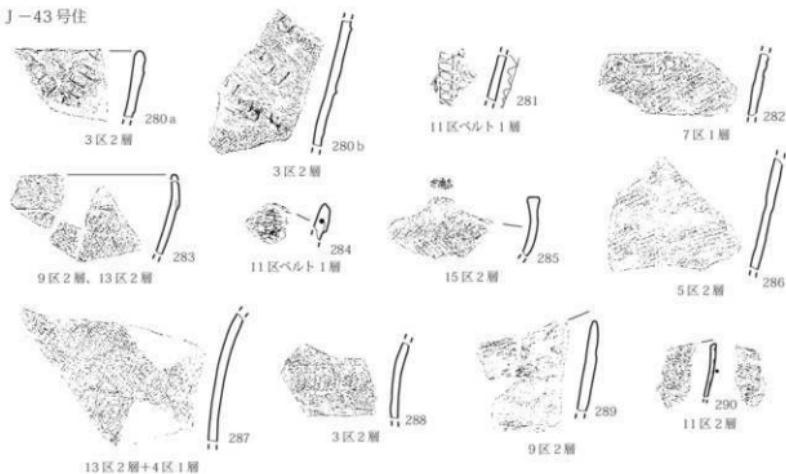
第179図 三本木II遺跡(縄文) J-43号住居址出土土器

J-43号住

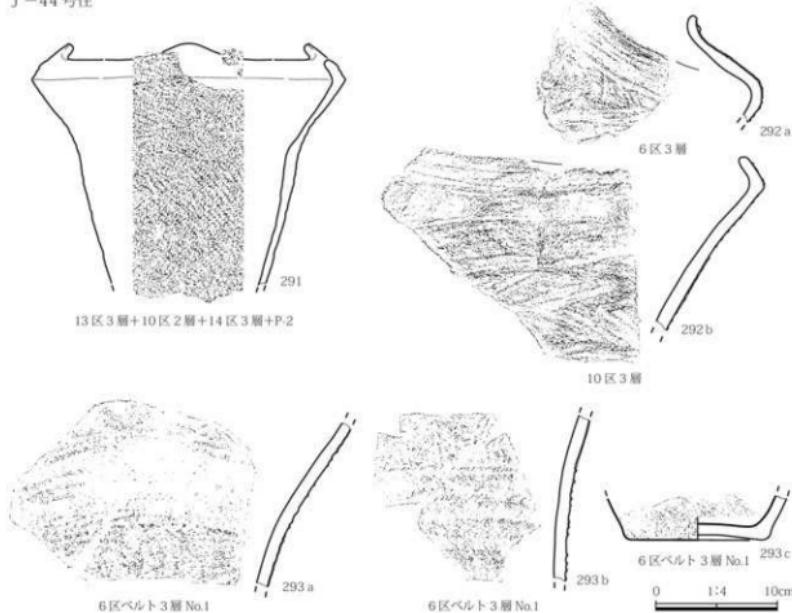


第180図 三本木II遺跡(縹文) J-43号住居址出土土器

J-43号住

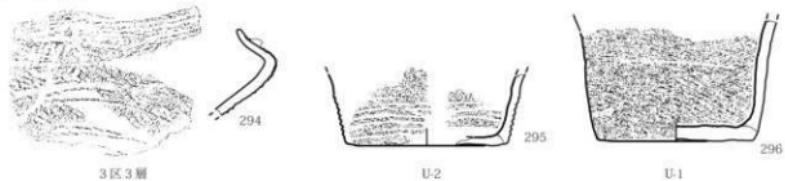


J-44号住

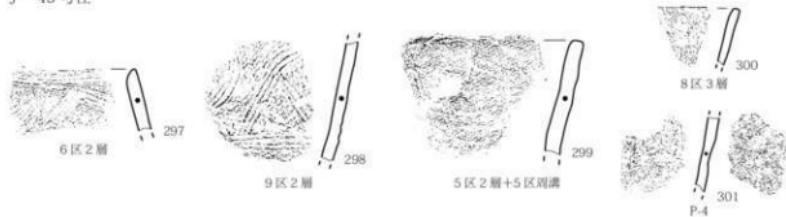


第181図 三本木II遺跡(縄文) J-43・44号住址出土土器

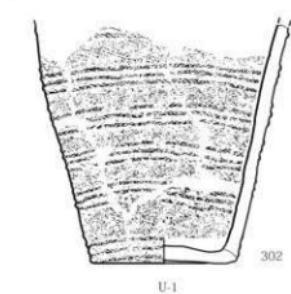
J-44号住



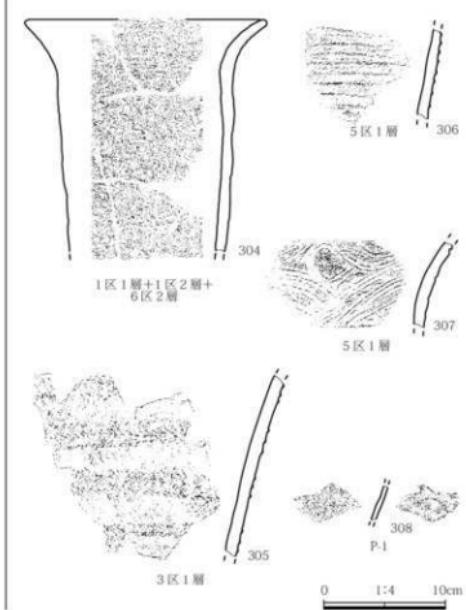
J-45号住



J-46号住

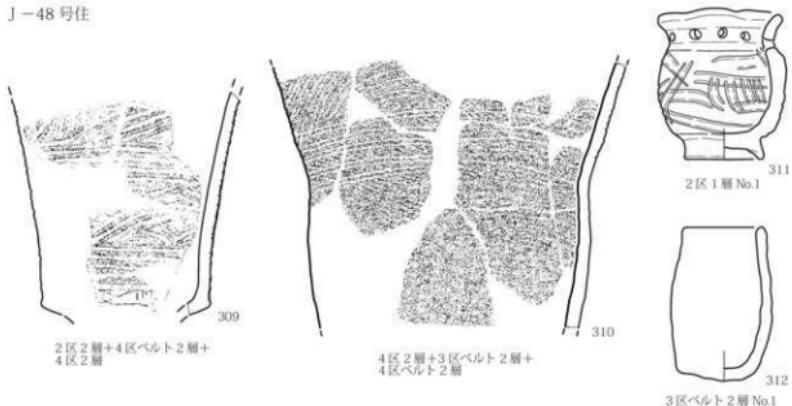


J-47住

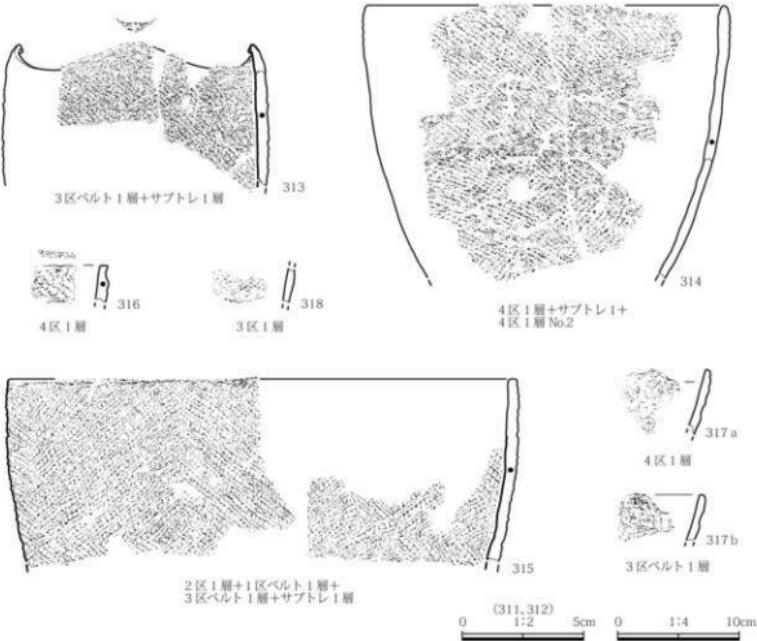


第182図 三本木II遺跡(縄文) J-44・45・46・47号住居址出土土器

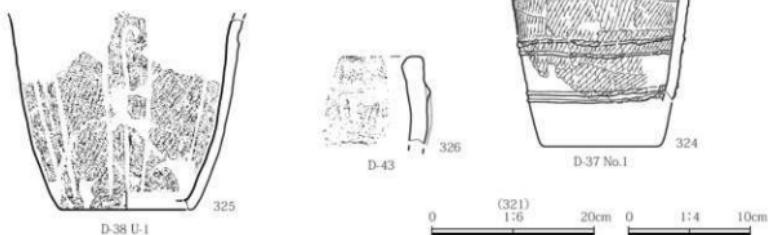
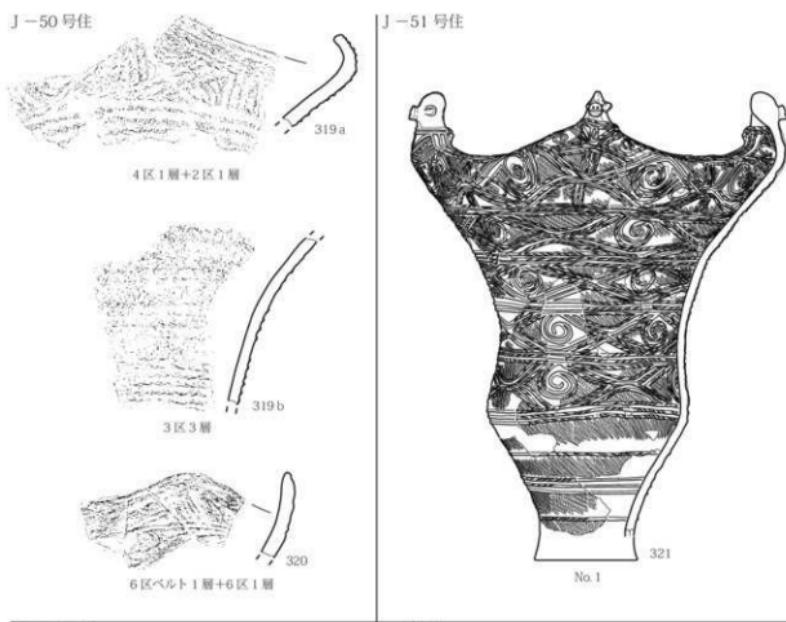
J-48号住



J-49号住

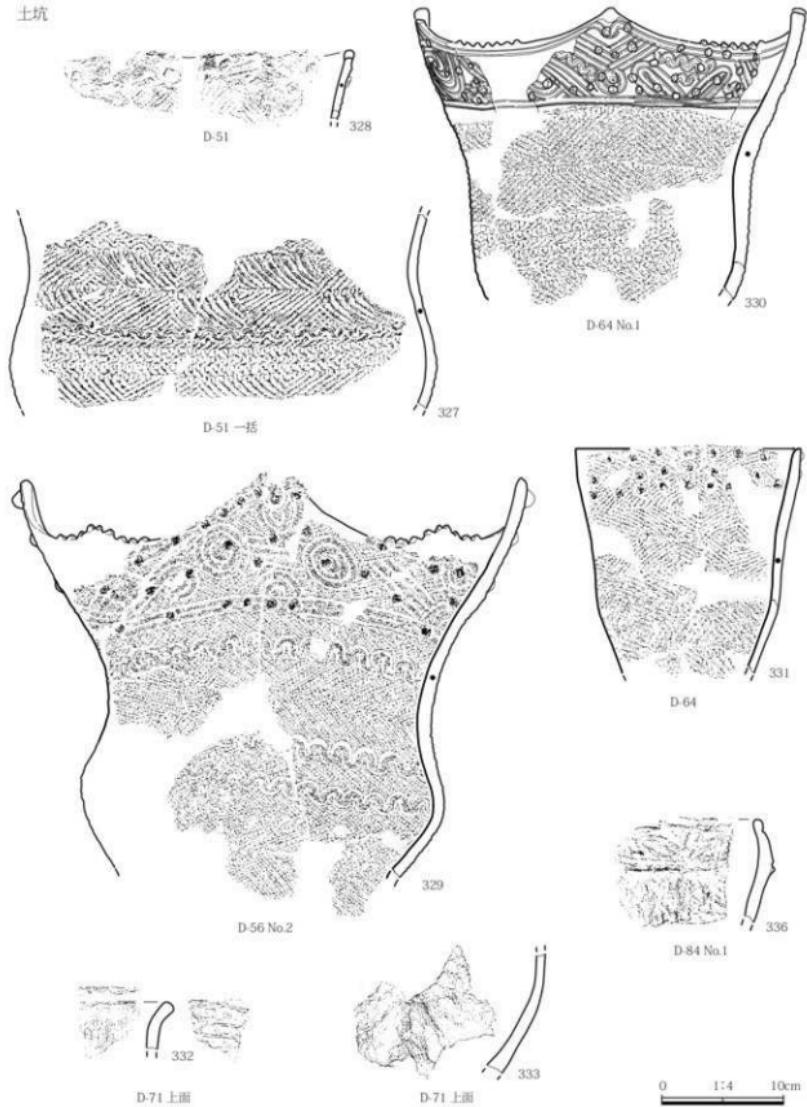


第183図 三本木II遺跡(縄文) J-48・49号住居址出土土器



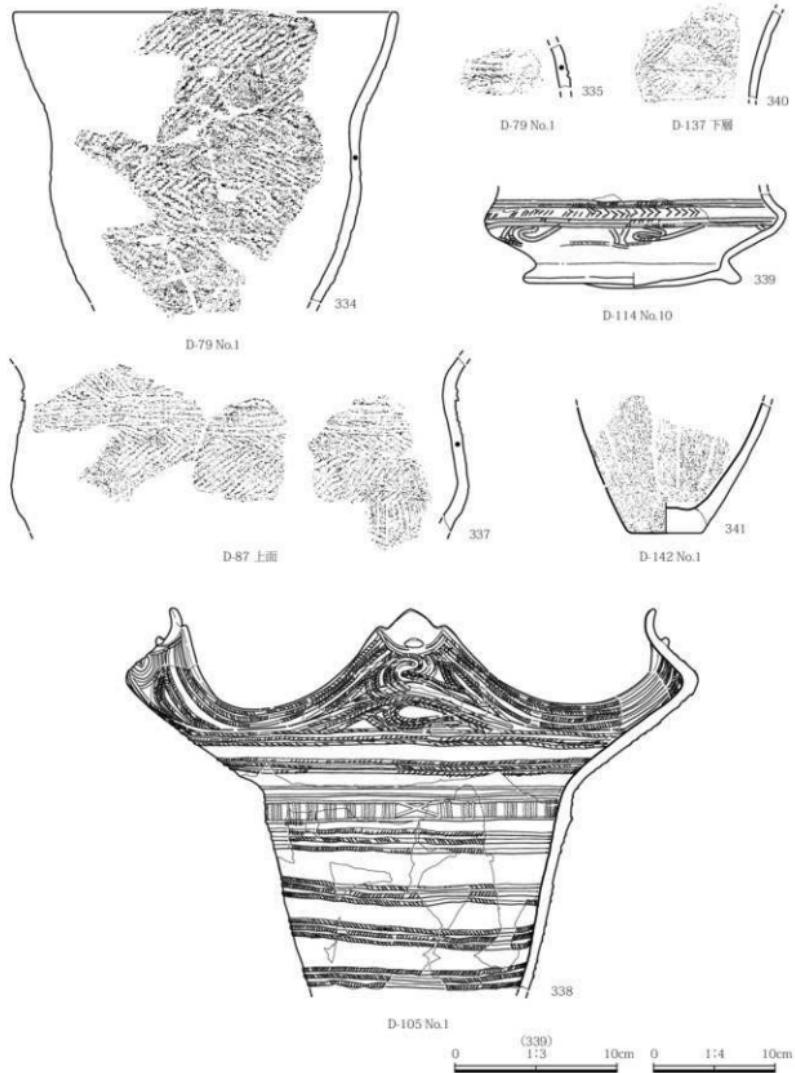
第184図 三本木II遺跡(縄文) J-50・51号住居址・竪穴状遺構・土坑出土土器

土坑

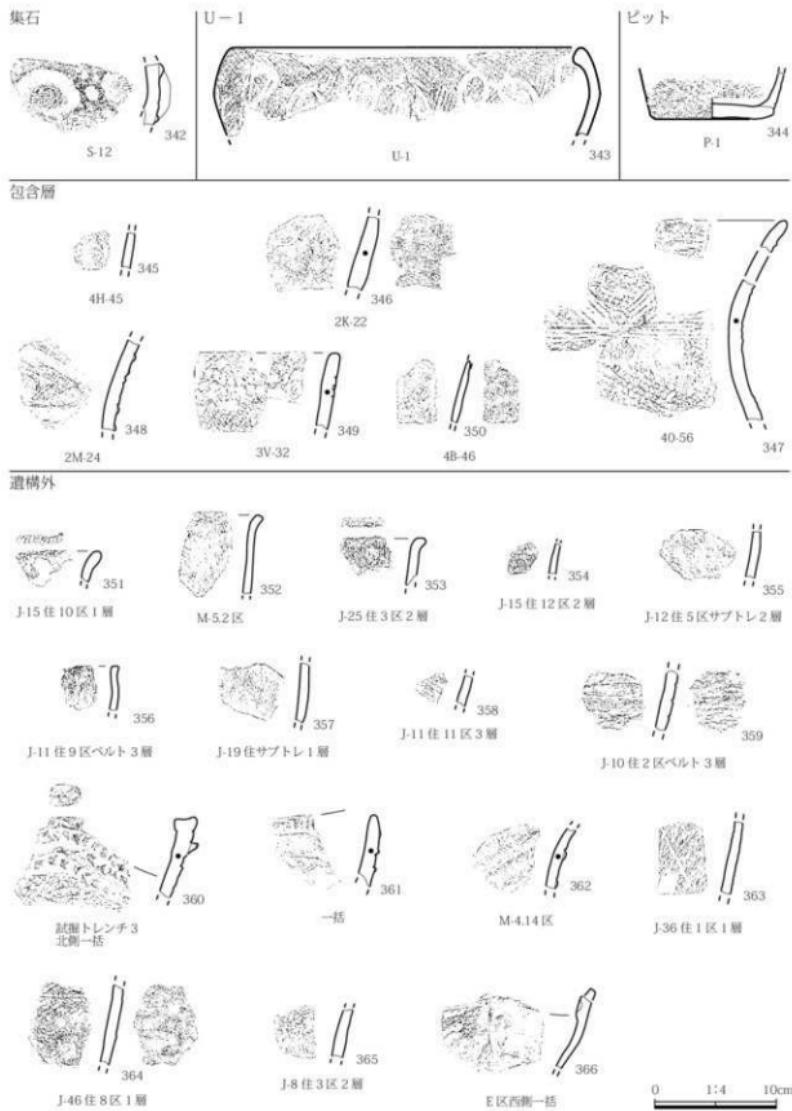


第185図 三本木II遺跡(縄文) 土坑出土土器

土坑

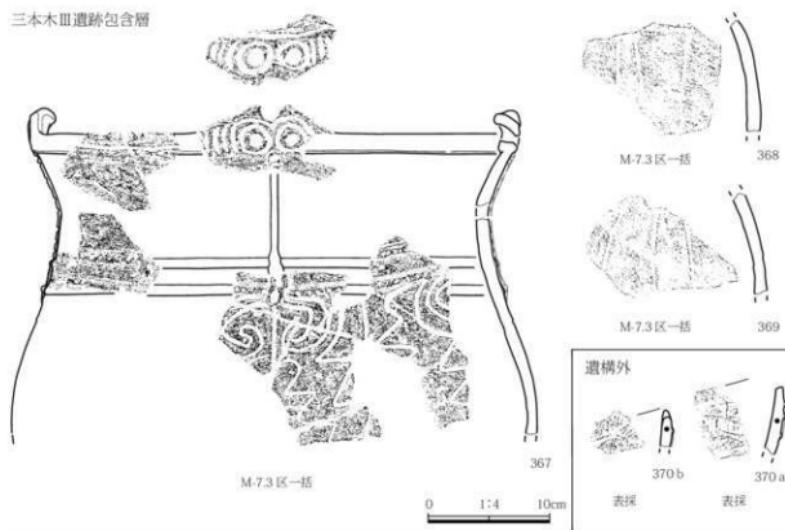


第186図 三本木II遺跡(縄文) 土坑出土土器

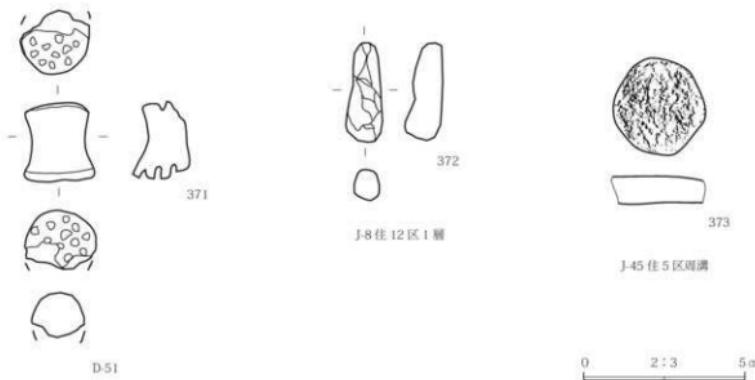


第187図 三本木II遺跡(縄文) 集石・他遺構・遺構外出土土器

三本木Ⅲ遺跡包含層



三本木Ⅱ遺跡 土製品



第188図 三本木Ⅲ遺跡(縄文) 遺構外・三本木Ⅱ遺跡(縄文) 出土土器・土製品

3. 繩文時代の石器

(1) 三本木Ⅱ遺跡出土の石器

<器種系列>

分類した石器は、4,068点である。石器の出土状況は、住居址出土が全体の88%（3,549点）を占める。住居以外（包含層を含む）では519点であり、住居覆土からの出土が圧倒的に多いため、石器が土器とともに住居内へ廃棄されたことを示している。

器種系列別にみるとA類では、石錐製作に関連する遺物（石錐59点・未成品56点、素材を含む剥片類1,356点、原石・石核141）が主体となり、その過程で作出される剥片が他の器種素材として使用されている。B類では、片刃の打製石斧、石匙B類を主体として、スクレイバーの製作に関連する石器類（素材となる剥片類、石核）が組成する。C類は、凹石・磨石類と両器種の中間で凹みが浅い凹石Bがある。石皿も住居数以上、一軒で複数出土することから、移動に適さない石皿が頻繁に持ち込まれ、廃棄されたものと考えられる。組成からは、植物加工への遺存が高い石器組成を示している。一方でC2類は、石器製作に伴う敲石や作業に伴う道具（台石、砥石）が組成するが、全ての住居覆土で出土していない。D類は石棒に類似する棒状礫が出土した。E類は磨製石斧のみだが、全点、搬入品であり製作遺物はない。F類も全て搬入によるものである。

なお、住居址と土坑について、共伴する土器群の時期とを対応させ、石器群の帰属時期を設定した。また、住居址出土石器の時期は、土器との共伴関係から7つの時期パターンに細分し、主体となる時期を中心と他時期の混入の可能性も含めた時期区分とした。

前期前半の器種組成：関山式期の石器組成は、関山Ⅱ式期まで同じ傾向にある。A類、B類とともに石器製作が活発に行われており、黒曜石を用いた石錐とその製作に係わる遺物（石匙A類、スクレイバー等）、片刃石斧（打製石斧I形態）、石匙B類スクレイバー、凹石・磨石類、石皿等が組成する。なお、打製石斧のII形態は全く組成しない。磨製石斧は若干組成する。石製品類もこの時期に組成する。石錐、打製石斧I形態（片刃石斧）、石匙B類、C1類を主体とした石器群である。

前期中葉の器種組成：関山式期の石器群が混入する可能性があるため、この時期の特徴と言えるか検討を要するが、器種組成みると前段階とほぼ変わらない状況である。黒曜石の利用が多く、打製石斧I形態、石匙B類が組成する。

前期後半の器種組成：諸葛b式期の石器群である。黒曜石を石材とした石器製作が多くなる時期であるが、本遺跡ではその傾向は低い。打製石斧のI形態はなくなり、II形態が占める。破片を含め中形の磨製石斧が多くなる傾向となる。

中期の器種組成：A類石器は少なく、B類石器（打製石斧、スクレイバー）、C類石器で構成される。黒曜石の利用がやや多い傾向である。

土坑出土の器種組成：概ね時期に対応した器種の出土と石材使用であるが、器種組成では関山式期以降、変化は小さい。定形石器は少なく、A、B類石器はスクレイバー、剥片類が多い。C類石器は、凹石に比べて磨石が多く組成する。石製品等の副葬品的な石器は少ない。

<石材組成>

本遺跡では、主要石材に黒曜石（A類）、頁岩（B類）が石器製作に利用されている。他にチャートが黒曜石を補完する石材となっている。安山岩、結晶片岩の両石材はC類の石材として主体を占め、砥石の石材では牛伏砂岩が利用されている。その他の石材では、A類では、硬質頁岩（東北地方原産と推定）、珪質頁岩（在地石材で緻密な石質）、黒色安山岩（鏡川流域・荒船山・八風山周辺地域に分布）、碧玉（東北地方原産）、鉄石英、メノウ等が組成する。B類では流紋岩、C・D類では、砂岩、凝灰岩、玢岩、礫岩が組成する。E類では、磨製石斧に適した緑色岩類、蛇紋岩が使用され、F類では滑石、石英が組成する。主要となる石材以外は点数、重量とも少ないので特徴である。

黒曜石の産地は、螢光X線分析法により、長野県和田エリア、諏訪エリア、蓼科エリアに大別された。この傾向は県内に分布する同時期の遺跡でも同じ傾向である。

前期前半の石材組成：非在地石材の黒曜石と在地のチャート、頁岩、安山岩の出土量が多い。他に珪質・硬質頁岩、黒色安山岩、碧玉等が少量組成する。在地の結晶片岩、緑色岩類、その他希少石材が組成する。石器石材は、関山式期を通して石材組成はほぼ同じ傾向で推移する。黒曜石の産地は、和田岬系、諏訪系、蓼科系の3地域で占められ、この時期の産地と一致する傾向である。

前期後半の石材組成：この時期は、黒曜石の利用が多いことが特徴だが、本遺跡では極端に少ない。本遺跡の西には、黒曜石の流通拠点となった中野谷松原遺跡が存在することが、本遺跡への流通量の違いを反映したものと考えられる。

中期の石材組成：前期と同様の石材組成を示す。遺構数に比して黒曜石の出土、利用量が多い。

<石器各説> (第191～239図1～662)

本遺跡の石器は、中原遺跡、中野谷松原遺跡等の安中市の石器分類（大工原1994）に準じ、必要に応じて細分を行った。報告は分類ごとに行うが、A類石器については、石器と石材との関係から黒曜石石器群と非黒曜石石器群に区別した。

A類石器（第191～206図）

黒曜石石器群（第191～201図）

石鎚（1～36） 49点出土した。I形態（凹基無茎式）が主体で、II形態（平基無形式）は少ない。I形態は、I a形態（基部の抉り浅く鋭角：1～7）、I b形態（基部の抉りが深く鋭角：8～11）、I c形態（小形で基部の抉りが浅い：12～17）、I d形態（細長く、先端から脚部付近が抉れる：12～20）、I e形態（中形で基部が抉れる：21、22）、I f形態（大形で基部の抉りが深く鋭角：24～29）、I g形態（大形で基部の抉りが浅い：30、31）である。II形態は、II a形態（小形）は無く、II b形態（大形：32～35）がある。基部の両側が抉れるIII形態（凸基有茎式：36）は1点のみ出土した。関山I・II式期に帰属するものがほとんどだが、時期による型式差はない。この時期は小形のものが多い。有尾・黒浜式期（10、28、33）、諸磯b式期（11、34）が含まれる。

石鎚未成品（37～82） 51点出土した。石鎚未成品は製作過程により四つに分類した。未成品Aは、両面調整により石鎚の形をしたもので完成品に近い状態（37～46）。未成品Bは、調整途中の段階で、石鎚の形状に近づけている状態（47～63）。未成品Cは素材剥片が調整によって、あるいは形状そのものが尖る状態で、縦長状（64～69）。未成品Dは石鎚の素材で調整が一部施された状態（70～82）のそ

それぞれに分類できる。なお、未成品Aについては、調整が完結せずとも、石器としての機能を持つ完成品とみられる形態が含まれる。46は基部が丸味をもつため円基式の可能性が考えられる。素材の形態は、三角形または矩形としたものが多く、大きさでは1.5~3.5cmの範囲に集中する。

石錐（83~85） 3点出土した。いずれもI b形態である。両面に押圧剥離調整を施す。端部には磨痕が残る。

楔形石器（86~104） 22点出土した。両極技法、使用による両端に潰れまたは微細剥離痕が連続して観察される器種である。石器素材に適した形状が多数含まれることから、素材獲得には、両極技法が用いられた可能性が考えられる。

石匙A類（105~110） 6点出土した。I形態（105~107）、II形態（108~110）である。押圧剥離で精緻に仕上げたものと摘み部分のみに調整を施したものがある。108は石核を素材として製作されたもので、器種の中では最も大きい。109はミニチュア状の小形品である。

スクレイパーA類（111~129） 29点出土した。精緻な調整を施すものは少なく、素材の形状に粗雑な調整を施し、使用されたものが多い。石器の鋭利な縁辺には微細剥離痕が観察される。112、121は両面加工を施す。129は翼状の小形横長剝片を素材とした中央両側に抉りが入る形態（抉入スクレイパー）である。

RFA（130~135） 23点出土した。素材をそのまま利用して縁辺に微細剥離痕が観察されるもので、スクレイパーのⅢ形態とは調整範囲の違い（1／2以下）で分けられる。

原石・石核A類（136~224） 原石14点、石核116点が出土した。原石は全面がほぼ自然面に覆われた状態。石核は二次的な剥離痕で覆われたもので、石器素材を作出するものと石核自体が素材となるものに分類される。石核Iは、自然面を有し、石器素材となる剝片類を一面ないし二面程度で作出しているもの。石核IIは、調整が施された多面体をするもので、大小複数の石器素材となる剝片を作出したもの。小形石核は寶子状の状態で作出が終了している。作業面の特徴から、小形貝殻状・小形矩形剝片を目的とした剥離が認められる。石核の大きさは、長さ平均3.2cm、幅平均2.5cmで重量20g以下の小形とされる形態が最も多く、20gを超えるものは少ない。石核の状態からは、原石と石核との大きさに差が小さいこと、自然面に覆われている割合が高いこと、小さな剥離面で覆われているものあるいは数回程度の剥離、分割であることから、小形の石核を大量に消費して素材を獲得すること目的とした可能性が考えられる。D-107号土坑では、112.5gの原石（本遺跡で最大）が出土した。

非黒曜石石器群（第201~206図）

石錐（225~233） 10点出土した。黒曜石製石錐を補完するものとして組成するが、遺跡内で製作されたものは少ない。搬入品が主体である。形態では黒曜石製のものと同一である。233は超大形で細長く、本遺跡でh最大の大きさである。チャートでは未成品のみが組成することから、素材を持ち込んで石錐に調整した可能性がある。233は長身のもので、前期には少ない形態である。

石錐未完成（234~237） 6点出土した。黒曜石の素材よりやや大きめである。237は両面調整を施した円形スクレイパーの可能性がある。

石錐（238~244） 7点出土した。尖端部のみに調整が施された大形素材なものが多い。

楔形石器（245~248） 5点出土した。断面が厚手レンズ状で、両端に潰れ状の微細剥離痕が観察される。

石匙A類（249~257） 10点出土した。I形態（249~254）、II形態（255~257）に分類される。黒

第13表 三本木II遺跡 繩文時代石器器種組成表

器種		遺跡												遺跡												調査 区		計	
		J-33	J-34	J-35	J-36	J-37	J-38	J-39	J-40	J-41	J-42	J-43	J-44	J-45	J-46	J-47	J-48	J-49	J-50	J-51	土坑	ヒット	壁段	集石	SU-1	%	件数		
A類	石器類																				1					5	2	59	
	石核	1	1																		3					1		1	
	石器未成品	3	1	1	1																1					1		10	
	石器調整																									1		16	
	石推																									1		10	
	石窓A類	1																								1		16	
	ScA	1	1	2		3																1	1			1	1	57	
	RFA	1	1	1	1																2					1	1	40	
	橢形石器																				1					1		27	
	破片類 FA	47	4	4	6	5	3	25	7	55	8	22	13	11	2	3	8	1	47		1	7	1	61		20	1356		
B類	石核類	5	2						4	4	17		1	3	1						2					1	2	3	26
	原石類								1												1					1		1	
	原石斧斧	1	1	2		2					1		5	1	2	3	1				2					16	2	76	
	打削石斧	1	2	2	1	1	1	1	1	10	1	3	2	1	1	1	1				1		1	1	3	74			
	石窓B類	1	3	9	2	7	5	3		2	12	8	2	6	9	4	18			3	18			1	43	8	34		
	ScB	1	1	4	5	1					5	5	2	1	5	1				2					1	7	86		
	RFB	2	34	21	6	8	6	3	8	2	50	12	5	16	15	4	1	8		22	1	2		3	4	65	20	948	
	石核類	2							1			1								4					4		4	30	
	石核B類																									13		249	
	凹石	3	4	4	2	4	1	3	1	2	16	9	9	3	4	2				3	11	2	2		1	1	57		
C1類	凹B	2	1	1	1	1	1	2	2	5		15	2	7	3	3	2	1	1	19		5	19	2	255				
	磨石	1	4	5	4	4	2	2	4	10	4	1	2	3	1	1	8			2	2	1	93		6				
	石器類	1	2	3	2	1	4	2	1	4	10	4	1	2	3	1	1	8			1				7	3			
	砾石																								1	1	17		
	砾石																								1	1	6		
	砾石	2	2	1	6							1									1				1	1	28		
	棒状器	2																							2		4		
	多孔石																								1	1	13		
	石器類	1																							2		2		
	磨片類 PLE																				2					3		3	
F類	破片類																									1		1	
	石製品																									2		2	
合計		11	119	62	25	34	39	17	50	25	204	57	55	56	65	20	6	26	7	155	4	10	3	20	6	260	61	408	

第14表 三本木遺跡 石器時代

通称 石材	J-18			J-19			J-20			J-21			J-22			J-23			J-24			J-25			J-26			J-27			
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
黒曜石	16	92.1	59	154.3	37	112.1	37	99.3	7	33.0	35	60.0	6	8.0	17	158.1	20	27.6	1	0.1	108	166.0									
チャート	3	189	3	261	1	9.3	1	162	2	53.1	6	35.3	5	22.3	6	313.6	1	1.6	1	2.5	14	57.3									
黒色安山岩	2	16.6		1	28.8	2	3.4									1	27.2	3	30.3												
純質頁岩	1	4.3							1	0.4	2	3.5			1	6.7	2	11.1			1	8.2									
珪質頁岩		1	9.6							1	26.0											1	0.6								
メノウ																															
碧玉																															
隕石英																															
白岩	50	2,475.6	68	2,898.4	25	918.0	19	842.1	16	307.5	21	638.2	8	183.4	21	873.9	32	987.0	9	378.8	41	1,311.8									
黒色頁岩																															
安山岩	49	89.146.0	31	28.033.5	17	17.250.3	10	51.933.7	6	5.038.6	13	18.557.7	7	8.143.4	14	27.505.6	18	5.992.0	10	44.713.2	22	6,311.9									
流紋岩			2	89.2											1	565.2															
玢岩																															
礫岩																															
牛伏砂岩			1	118.5			2	295.3							2	499.6														2	203.2
凝灰岩	1	73.7																													
結晶片岩	2	189.8	1	9,600.0	4	84.1	1	409.2		1	20.6	1	20.5																		
緑色片岩	1	526.2							1	15.3		1	41.8																2	559.0	
蛇紋岩																															
滑石																															
石英																															
石林不明	1	49.8																													
点数合計	126		166		85		73		32		80		30		60		78		22									193			
重量合計		92,593.0		40,839.6		18,402.6		5,536.14.5		5,432.6		19,383.1		9,442.4		28,895.1		7,152.5		49,514.6		8,940.3									

石材	J-28.31.32			J-29			J-30			J-31			J-32			J-33.34			J-35			J-36			J-37			J-38		
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
花崗石	2	5.4	30	125.7	10	21.8	19	29.1	40	106.0	51	140.1	4	10.5	5	12.2	5	12.5	5	20.2										
黒曜石	1	30	5	58.6	4	13.9		6	29.8	1	9.5	7	25.8	5	27.8	1	2.1	1	5.5	2	11.0									
黒色安山岩		1	7.1														1	10.2			4	98.9								
純質頁岩																														
珪質頁岩																														
メノウ		1	19.4																											
碧玉																														
鈍石英																														
白岩	2	4.7	30	628.8	12	651.8	12	184.9	56	2611.2	4	110.6	38	885.6	24	1.068.6	10	289.5	13	421.2	13	298.1								
黒色頁岩																														
安山岩	1	2.8	14	20.356.7	17	63.513.0	8	9.399.4	22	4.756.0	6	12.563.0	19	10.708.9	14	6.786.2	4	19.502.9	11	3.311.7	12	25.821.6								
流紋岩																														
玢岩																														
礫岩																														
牛糞砂岩																														
凝灰岩																														
結晶片岩	1	1.984.5	1	13.8	1	212.0	2	743.3	1	70.6	1	50.3	2	403.0																
綠色片麻	1	262.2		1	19.8	1	159.0				1	182.0																		
蛇紋岩					1	84.0																								
滑石																														
石英																														
石林不明																														
点数合計	7	83		46		43		131		11		119		62		25		34		39										
重量合計	2,000.4	21,472.3		64,542.3		10,379.5		8,264.6		12,683.1		20,915.2		8,592.5		24,102.9		4,650.6		4,650.6		26,387.9								

通称 石材	J-40			J-41			J-42			J-43			J-44			J-45			J-46			J-47			J-48			J-49			
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
黒曜石	3	7.1	20	35.8	7	20.5	74	340.7	6	7.9	20	41.0	11	14.1	13	71.4	1	19.7	3	3.3	1	5.2									
チャート		10	78.6		3	15.5	2		7.6	4	29.3	4	60.4	4	92.2	2	8.5	1	5.8	6	21.7										
黒色安山岩					1	0.7					1	23.1								1	16.0										
純質頁岩											1	3.8										1	22.8								
珪質頁岩	1	3.4					1	4.3																							
メノウ																															
碧玉																															
隕石英																															
白岩	6	114.1	7	59.6	6	132.6	70	1.913.3	30	1.105.9	14	980.0	25	1.295.6	33	1.319.3	10	352.7	1	4.0	11	252.9									
黒色頁岩																															
安山岩	7	4.971.0	6	1.056.2	11	28.976.3	45	16.253.9	15	6.324.0	14	6.516.0	9	41.802.2	10	12.741.2	6	6.426.9	1	451.1	5	2096.5									
流紋岩																															
玢岩																															
礫岩																															
牛糞砂岩																															
凝灰岩																															
結晶片岩	1	4.940.0	5	75.0	1	4.580.0	11	16.137.8		2	21.86.7	2	1.827.8	2	2.929.9																
緑色片麻										2	294.1		2	148.4	2	71.6													1	361.6	
蛇紋岩																															
滑石			1	8.5																											
石英																															
石林不明																															
点数合計	17		50		25		204		57		55		56		65		20		6									26			
重量合計	10.032.2		1.317.1		33.709.4		34.661.9		7.839.4		9.736.8		45.242.4		17.305.5		6.987.9		464.2		2.776.7										

地材	J-51			土坑			ビット			堅穴			測設土器			集石			SU-1			ダリット			調査区			合計						
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)						
石材	1	3.9	44	197.6	1	1.3	3	15.7	7	13.6	1	7.5	48	104.9	17	48.2	176	4.76	3954.5															
黒曜石																																		
チャート	1	27.0	8	371.1							2	8.9			23	287.3	5	24.0	198	1,093.8														
黒色安山岩			4	35.8												6	83.7	3	20.5	40	672.8													
純質頁岩			2	32.3												2	62.0			14	155.1													
珪質頁岩																1	4.9			14	102.2													
メノウ																							1	19.4										
碧玉		1	7.7														1	1.2			7	55.7												
鷺石英		1	14.9																				2	38.3										
頁岩	3	134.7	44	1,919.2	1	13.4	3	101.8	4	272.8	4	38.2	123	575.0	26	837.6	1341	50,803.8																
黒色頁岩																																		
安山岩	2	15,718.6	45	120,839.5	3	997.5	5	21,079.3	6	18,337.5	1	136.9	48	16,760.3	7	17,357.7	811	1,127,848.1																
流紋岩																							6	1,658.0										
砂岩																	1	61.6			1	61.6												
礫岩																							1	144.9										
牛伏砂岩		1	671.6		1	134.1										2	507.2					38	773.1											
凝灰岩																							4	321.7										
結晶片岩		2	4,565.3								1	1,340.1		3	196.3	3	223.0	75	98,027.1															
緑色片岩		2	147.1													2	233.0					30	3,884.5											
蛇紋岩																							3	274.4										
滑石																							2	14.8										
石英		1	10.9																				2	19.4										
石林不明																							1	49.8										
点数合計	7	155	4	10	3	21,316.5	15.7	20	6	260		19,972.9	182.6	24,061.4	61						1,297,768.8													
重量合計		15,884.2	128,473.0	1,010.9																				4,068										

第17表 三本木II遺跡 住居址時期別石構組成表

石材	A			B			C			D			F			G			H			I			合計			
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)		
黒曜石	523	1,410.1	274	720.4	253	714.1	44	145.1	26	110.4	169	348.0	21	54.7	45	62.9	45	62.9	45	62.9	45	62.9	45	62.9	45	1,355	3,565.7	
チャート	44	730.1	19	104.5	42	261.1	3	62.4	16	182.8	25	142.1	11	75.5													160	1,558.5
黒色安山岩	7	86.9	6	212.0	4	31.0	1	28.8	2	39.1	2	25.9	5	109.1													27	532.8
硬質頁岩	1	6.7	1	4.3	5	18.4	1	0.4	1	22.8	1	8.2														10	60.8	
珪質頁岩	5	27.3	1	18.2	3	36.4				2	3.6	1	4.3	1	7.5	13	7.5	13	7.5	13	7.5	13	7.5	13	97.3			
メノウ										1	19.4														1	19.4		
碧玉	1	4.1			2	26.5			1	9.9															1	46.8		
黄石英					1	23.4																			1	23.4		
頁岩	321	12,781.0	247	11,313.4	239	7,080.9	41	1,225.5	79	3,220.5	103	2,888.3	90	2,896.8	16	457.4	1,136	457.4	1,136	457.4	1,136	457.4	1,136	457.4	1,136	41,863.8		
黒色頁岩	1	13.8																								1	13.8	
安山岩	167	289,200.0	172	197,186.1	175	159,851.8	23	22,288.9	30	63,066.8	73	116,687.4	47	74,153.3	9	9,905.1	696	9,905.1	696	9,905.1	696	9,905.1	696	9,905.1	696	932,359.4		
流紋岩	2	89.2	3	1,003.6	1	505.2																			6	1,658.0		
礫岩	1	144.9																								1	144.9	
牛伏砂岩	10	1,646.1	8	2,016.7	6	1,544.2				3	320.9	3	249.0	3	498.6	1	148.7	34	148.7	34	148.7	34	148.7	34	148.7	34	6,424.2	
凝灰岩			2	82.8	1	182.0																			1	56.9	4	321.7
斜長晶片岩	5	11,504.5	12	16,409.9	26	50,341.3	4	84.1	4	4,757.7	7	3,275.9	4	4,317.0	4	1,012.0	66	1,012.0	66	1,012.0	66	1,012.0	66	1,012.0	66	91,702.4		
綠色岩類	2	33.2	6	1,271.4	2	121.3				5	581.6	4	841.0	7	655.9											26	3,504.4	
蛇紋岩			1	148.7							1	840	1	41.7										3	274.4			
滑石	1	6.3			1	8.5																			2	14.8		
石英			1	8.5																					1	8.5		
石林不明			1	49.8																					1	49.8		
点数合計	1,091		754		761		117		167		391		190		78										1	3,549		
重量合計		317,684.2		230,550.3		220,806.1		23,835.2		72,312.5		124,572.8		82,806.9		11,656.8		1084,224.8										

第18表 三本木II遺跡 土坑時期別石材組成表

石材	时期		1		2		3		4		5		6		7		8		合计 重量(g)
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
黒曜石		13	20.0	10	20.1	8	130.6	5	10.0	5	9.2	3	7.7	44	197.6				
チャート		1	5.3	1	5.2	6	20.6											8 31.1	
黒色安山岩		1	29.1	1	1.3	1	2.7	1	2.7									4 35.8	
硬質頁岩		2	32.3															2 32.3	
珪質頁岩																		0 0.0	
スノウ																		0 0.0	
碧玉																		1 7.7 1 7.7	
鑽石英		1	14.9															1 14.9	
頁岩	3	62.0	6	307.5	14	533.7	7	238.5	7	325.7								6 390.2 43 1,857.6	
黒色頁岩																		0 0.0	
安山岩	1	615.9	10	3,559.1	4	31,389.7	1	6,980.0	17	55,767.1	2	741.9	11	21,847.4	46	120,901.1			
流紋岩																		0 0.0	
礫岩																		0 0.0	
牛伏沙岩																		1 671.6	
凝灰岩																		0 0.0	
結晶片岩		1	5.3	1	4,560.0													2 4,565.3	
綠色岩類																			
蛇紋岩																		2 147.1 2 147.1	
滑石																		0 0.0	
石英																		0 0.0	
石材不明	4	35		32		24		30		7								1 10.9	
点數合計		677.9	3,973.5	37,181.6		7,383.3		56,105.5		751.1		23		155				0 0.0	
重量合計																		128,473.0	

曜石製同様、250、255等の調整が精緻なもの（精製）と253の摘みのみ調整あるいは256、257の粗雑なもの（粗製）、押圧剥離調整による刃部作出と鋭利な縁辺をそのまま刃部としたものが存在する。256、257を除き5cm前後的小形が主体である。

スクレイバーA類（258～283） 28点出土した。不定形剥片を素材とするものが多く、素材の形状に調整を施すものは少ない。刃部を調整によって作出するものと鋭利な縁辺をそのまま刃部とするものが存在する。270は剥離面に覆われた片面加工で尖頭状、271は直接打撃による両面加工で円盤状となる形態である。

RFA 17点出土した。不定形剥片を素材としたもので、縁辺に微細剥離痕が観察される。

原石・石核A類（284～291） 原石1点、石核10点が出土した。円礫、亜角礫、角礫を素材としたもので、石器素材に適した剥片を連続剥離しておらず、小形不定形剥片の作出を目的とした剥離痕で覆わされている。チャートの原石（円礫）は1点である（286）。

黒曜石器群の特徴

関山式期の石器は、1.0～2.5cm（小形）の大きさに集中し、石器素材である石器未成品と楔形石器は、2.0～3.5cmの大きさが選択されている。さらに原石・石核類は2.0～4.0の大きさに集中しており、原石・石核類と石器素材との大きさに差がないことが明らかとなった。原石・石核類の大きさは、10g以下が最も多く、40g以上のものは少数であることから、石器製作にはもともと小形の石材を利用する時期的傾向があることが明らかとなった。石器の製作は、小形の石材から石器サイズに適した素材を獲得し、素材の大きさをあまり変えずに調整を施すことによって大小の石器を製作する工程であったものと考えられる。つまり、この時期の石器製作は、「小形の原石・石核から石器素材を少数獲得し、石器製作に至る」ことから、石器製作に占める原石・石核類の割合が高い要因であった可能性が考えられる。また、石核・原石類、剥片類、石器未成品、石器を除く石器に至っては、自然面を残す割合が半数を超えていることから、一次剥離による剥片を素材に用いていたことを示している。石核類も自然面が9割以上となることから、石材として完全には消費されずに廃棄されたことを示している。石材の大きさから、大量の素材が獲得できないことの裏付けとなろう。なお、参考までに有尾式期の状況も関山式期と同様、大きさをグラフ化した結果、同一傾向であることが判明した。

B類石器（第207～227図）

石匙B類（292～351） 74点出土した。I形態（292～314）とII形態（315～351）に分類される。調整方法によってIa形態（無し）、Ib形態（292～308）、Ic形態（309～314）、IIa形態は1点のみ（315）、IIb形態（316～335）、IIc形態（336～351）に分類した。直接打撃で精緻に仕上げるもの（Ib、IIa、IIb）と摘み部のみを調整し、素材の縁辺をそのまま刃部とするもの（Ic、IIc）に細分される。石材は全て頁岩であり、器種による石材選択が認められる。大きさは、I形態は長さ3.0～9.0cm、幅2.0～5.0cm、II形態は長さ3.0～6.0cm、幅4.0～7.0cmのそれぞれの範囲内に集中する。I、II形態とも大きさには差は小さいため、素材の形状に合わせて形態が分かれた可能性が考えられる。打製石斧（352～399） 76点出土した。I形態は片刃石斧に分類され、中原遺跡では形態によって8分類している。Ia形態（無し）、Ib形態（352）、Ic形態（353～363）、Id形態（364～370）、Ie形態（371～379）、If形態（380）、Ig形態（381～383）、Ih形態（384、385）、Ii形態（大形で撥形：386）、Ij形態（短冊形：387）、未完成品（388、389）である。I形態は関山式期を主体

とするが、有尾・黒浜式期、諸磯b式期まで数は少ないが組成している。II形態（390～398）は、短冊形、撥形に分類され、諸磯b式期、加曾利E式期に帰属する。399は大形素材に調整が施された打製石斧の未成品と思われる。石材は、I形態は頁岩に限定され、II形態は頁岩、安山岩が少數含まれる。

大きさは、I形態が長さ5.0～7.0cmが最も集中し、最大では10cmを超えるものも存在する。また、長さと幅が2：1以上となるものが多いが、極端に縱長となるもの少ない。一方、II形態は8.0～12.0cmに最も集中することから、I形態とII形態では、大きさによる形態の差が認められる。

スクレイバーB類（400～503） 314点出土した。押圧あるいは直接打撃によって調整を施し、刃部とするものと素材の鋭利な線刃を刃部とするものがある。調整を施し、整形するものが多い。調整による分類をみると住居別では、関山式期では、Ia形態（無し）、Ib形態（400～418）、II形態（419～449）、III形態（450～470）である。有尾・黒浜式期では、III形態（471～476）である。諸磯b式期では、Ia形態（477）、Ib形態（478～482）、II形態（483～490）、III形態（491～494）である。土坑と他遺構のものは、II形態（495～501）に分類され、関山式期、諸磯b式期、加曾利E式期の各時期に帰属する。なお、477、478は両面加工による尖頭状となる形態で、磨り痕が観察される。石錐の可能性がある。502、503は頁岩の原石を打ち欠き、片面加工を施した片刃礫器に類似するため早期の可能性がある。

石核B類（504～507） 30点出土した。礫面を一部に残した円盤状で交互剥離（球心状剥離）によって小形不定形剥片を作出している。石材は頁岩が多い。

C 1類石器（第228～235図）

土器磨き石（508～517） 7点出土した。「部分研磨礫」とも呼ばれる器種である。棒状の小形礫を素材とし、礫面には研磨による線条痕、端部に敲打痕がある（508～512）。扁平な楕円礫の平坦面には使用痕と推定される磨痕がある（513～517）。石材は安山岩、流紋岩、頁岩である。

球石（518～520） 6点出土した。小形球状の円盤で礫面は滑らかである。石材は安山岩である。

磨石（521～548） 255点出土した。I形態（円形）は球状の礫（521～523）、扁平円盤（524～526）に細分される。球石とは大きさで区別できる。II形態（527～533）、III形態（534～541）は、平坦面を磨り面とし、一部では側面が平坦となる使用痕をもつものがある（533～535、539）。端部に敲打痕をもつものがある（540）。特殊形態として、小形扁平礫を素材に平滑面をもつもの（542～544）、スタンプ状（545～548）がある。細長い楕円礫を分割して、平坦な分割面を使用面とする。使用面には磨り痕があり、礫面にも使用痕がある。この形態は特殊磨石または「スタンプ形石器」として早期あるいは中期に帰属する器種として分類される。石材は安山岩である。

凹石B（549～554） 57点出土した。平坦な礫面に浅い細かい凹み（敲打痕に類似する使用痕）が単独または集中するのが特徴で、磨石と凹石の中間形態に分類される（549～554）。形状は両器種に準じ、安山岩が多く、流紋岩が少數認められる。

凹石（555～578） 249点出土した。磨石との機能をもつものがほとんどである。I形態（555～560）では、球状は少なく、扁平が主体である。560は、側面に磨り面をもつ。II形態（561～574）は、分類の中で最も主体を占める形態で、凹み→磨るの繰り返しによる使用痕と推定される。凹みのみをもつものは少ないため、敲打（叩く）と磨る行為を併せ持ち、複合的な動作によって使用痕がついた器種と推定される。III形態（575～578）は、細長く敲石の転用も含まれる（578）。結晶片岩が多い。磨石同

様、疊平坦面や側面には凹みあるいは磨る痕がある。

石皿（579～606） 93点出土した。円形または楕円形（579～585）、細長い楕円形（595、596）、四角形（597）あるいは隅丸方形（598～600）、大形不定形（601～603）がある。中央の作業面が凹んだ、定形的な形態（604～606）がある。炉の中央に敷くもの、炉石あるいは住居構築材として破碎して使用するものが存在する。時期による平面形態に大きな差はみられないが、前期前葉では、作業面が平坦となるものが多い。諸磯b式期では、作業面の凹みが明確となるもの（560）が含まれる。石皿の出土状況は、床面では完形が多いが、炉内あるいは土坑内では破碎したものが多くなる。石材は安山岩が主体で、他に結晶片岩が加わる。石皿は住居址床面に置かれた状態、あるいは炉に使用、土坑内から出土が多いことから、図示したもの以外に遺構との関連のあるものについて写真を掲載した。

C 2類石器（第236・237図）

敲石（607～617） 17点出土した。石器製作等、道具を作るために使用した石器である。結晶片岩、緑色岩類といった硬質な石材を選択する傾向があり、棒状あるいは不定形の素材の端部に連続する敲打痕が観察される（616、617）。敲打する作業のため、欠損したものが多い。

台石（618、619） 6点出土した。作業台の用途をもつ器種であるが、石皿と同じ機能をもつため、区別が難しい器種であるため、作業面の状態で判断した。細長い大形棒状礫を素材としたものには、大きな単孔がある（618）。平坦面に敲打による多数の剥落痕があるもの（619）がある。

砥石（620～636） 28点出土した。研磨面が平坦あるいは凹むものは主に磨製石斧の研磨に、細い筋状で有溝のものは石器以外にそれぞれ使用されたと考えられ、研磨対象物が異なる可能性がある（620～636）。

D 類石器（第238図）

棒状礫（637～642） 28点出土した。形状は石棒に類似するが、細長い礫を素材とした無加工のもので区別される。結晶片岩、緑色岩類など硬質の石材が選択されている。棒状（637～641）、板状（640）、小形棒状（642）に分類される。

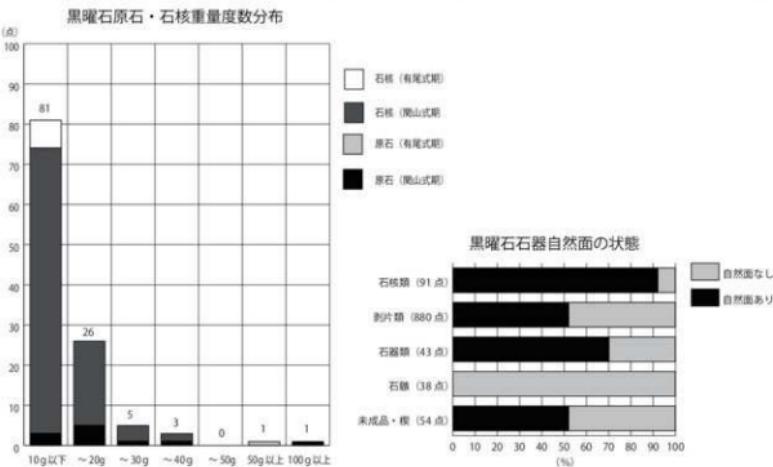
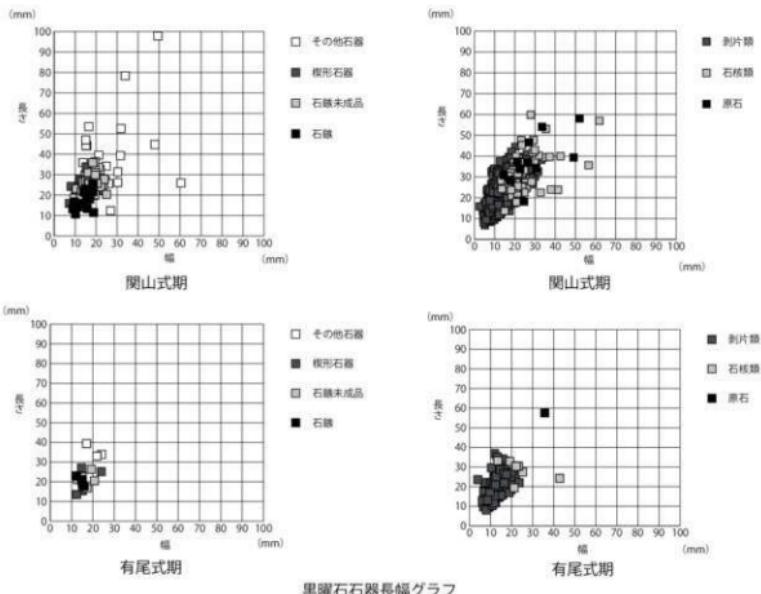
多孔石（643～645） 4点出土した。疊面に多数の凹みをもつ大形石器で、石皿、台石と形態が類似する（643～645）。石材は安山岩である。

E 類石器（第238図）

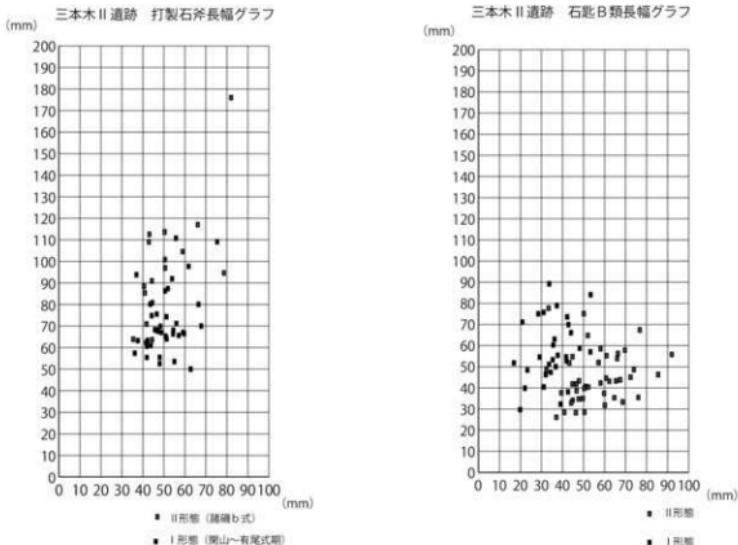
磨製石斧（646～657） 15点出土した（未成品を含む）。点出土した。関山式期は全て欠損するが、Ⅲa形態が主体で大形で、Ⅱb形態もある（646～649）。刃部破片には、潰れ状の剥離痕あるいは敲打痕が観察される（647）。有尾・黒浜式期はⅡa形態であり、敲石に転用されている（650、651）。諸磯b式期は、完形品を含むⅡa形態が主体で、欠損したものは敲石に転用されている（652～655）。655は磨斧破片をノミ状に再加工を施している。656は敲石への転用で敲打痕が残る。657は磨製石斧の石材で扁平楕円礫の一部に調整が施された未成品あるいは石製品である。

F 類石器（第239図）

块状耳飾（658） 1点出土した。半分に欠損するものが1点出土した（658）。円環状で断面は厚手、



第 189 図 三本木 II 遺跡 (縄文) 黒曜石石器長幅・重量グラフ



第190図 三本木II遺跡(縄文) 打製石斧・石匙B類長幅グラフ

丸味を帯びる。製作に伴う削り痕、研磨痕が観察される。石材は白色の滑石である。出土状況から関山式期に帰属する。

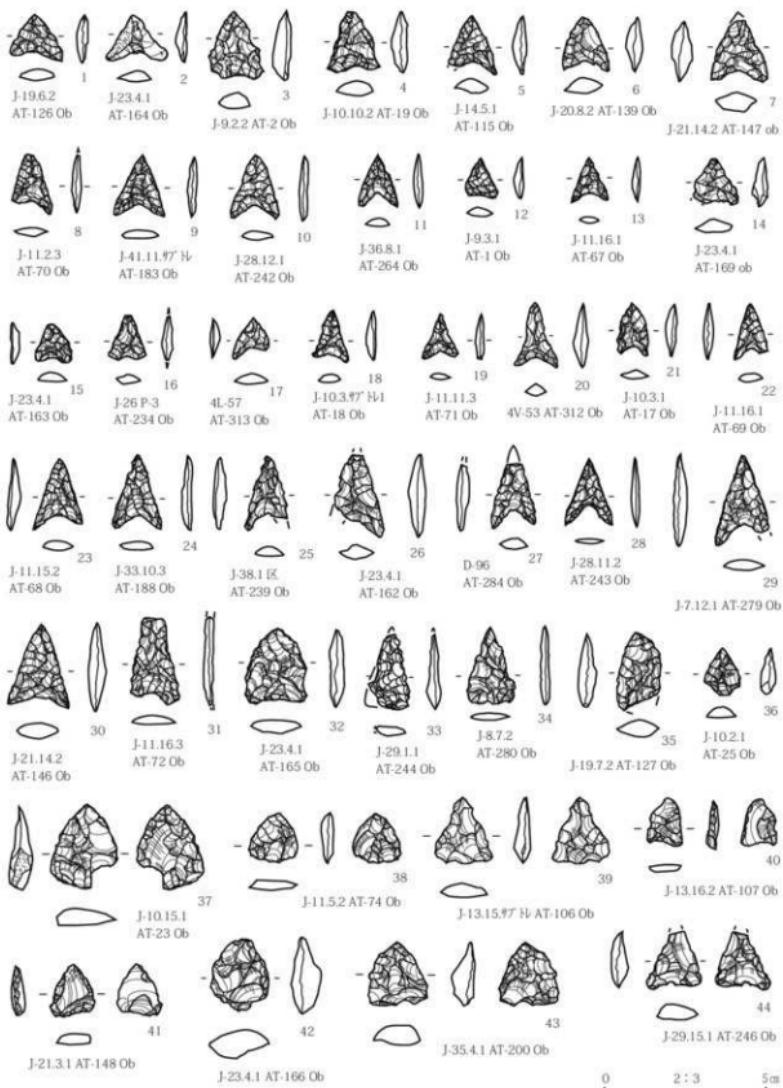
有孔石製品(659、661) 2点出土した。滑石製で両端が欠損する形状が三角形と推定される用途不明の石製品(659)、安山岩製で両面に円錐形の凹みをもち、両側から貫通する用途不明の石製品(661)がそれぞれ1点出土した。

石英原石(660) 3点出土した。自然面に剥離痕がある白色の石英が出土した(660)。同一石材は他にはない。

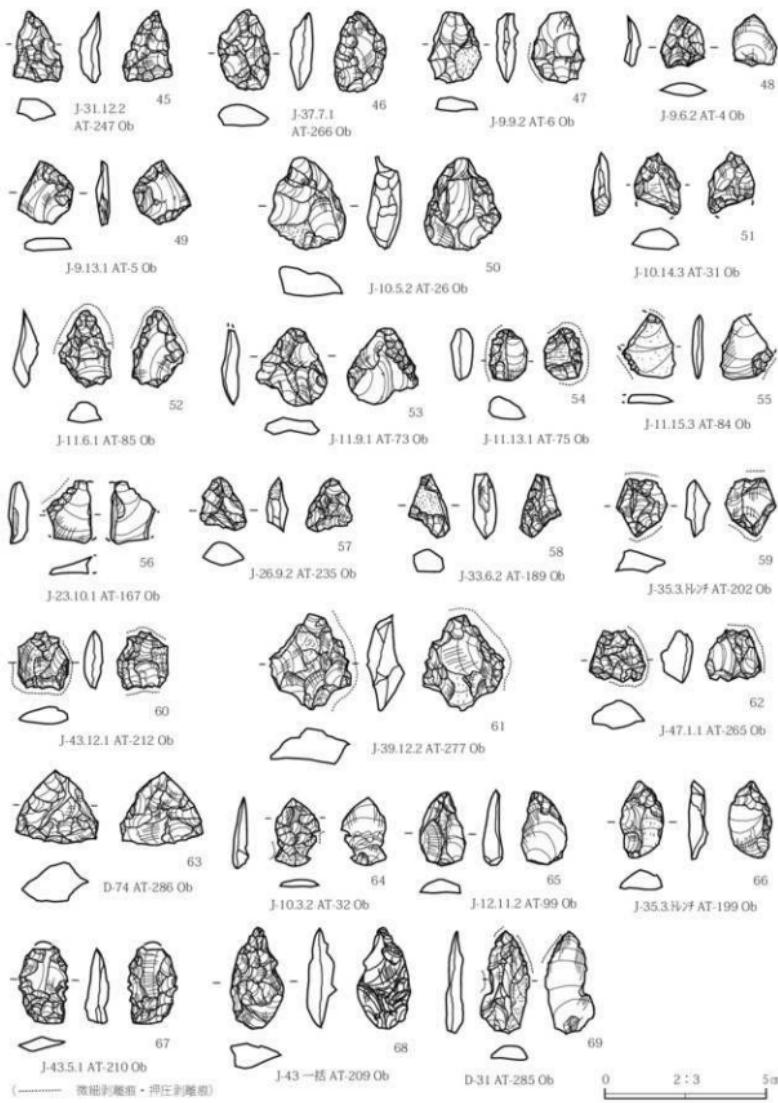
石製品(662) 1点出土した(集計は磨製石斧未成品に含む)。被然により変色した緑色岩類の扁平礫である。磨製石斧に使用される石材だが、調整は認められない。磨製石斧の未成品の可能性がある。

礫

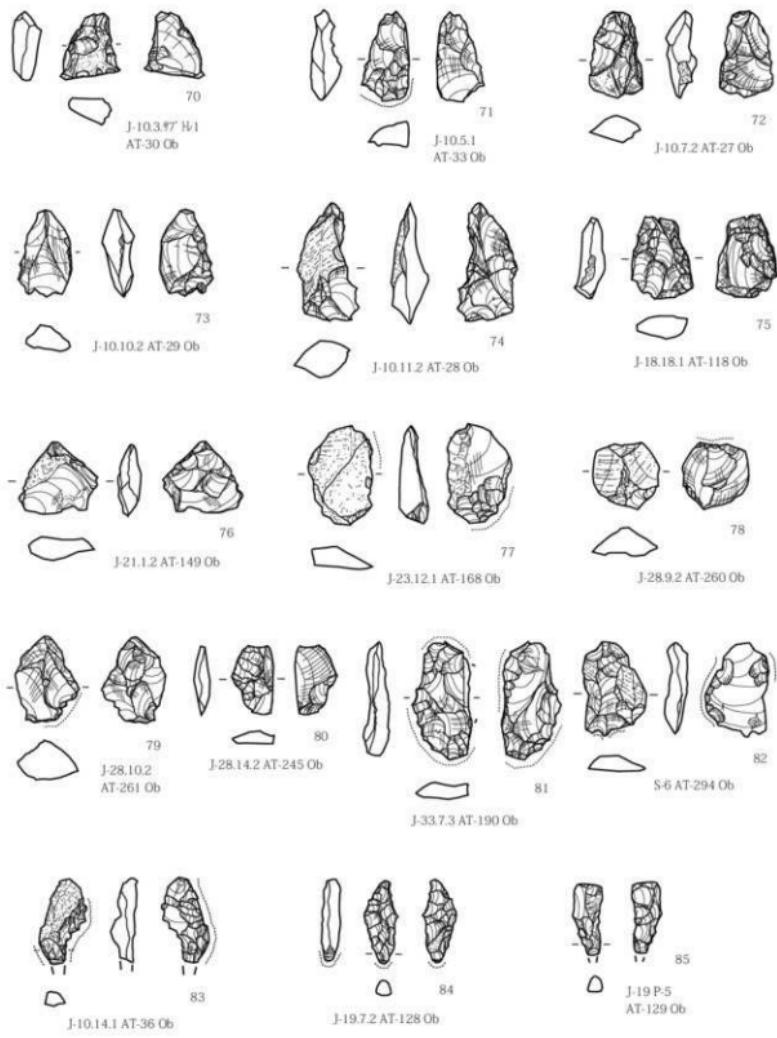
関山式期の住居址では、覆土中から他の遺物とともに廃棄された多数の小礫が出土した。礫の石材は、安山岩が主体で、結晶片岩、砂岩、頁岩が少數みられる。安山岩は、遺跡が存在する天神川に面した露頭、あるいは碓氷川または下位段丘を流れる柳瀬川の河床礫あるいは露頭で採取可能である(磯貝1996)。これら露頭の礫がC類を主体とした石器石材あるいは炉石等として選ばれたものと推定される。(井上)



第191図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(1) 石鉄(黒曜石)



第192図 三本木II遺跡(縄文) 出土石器(2) 石器未完成(黒曜石)

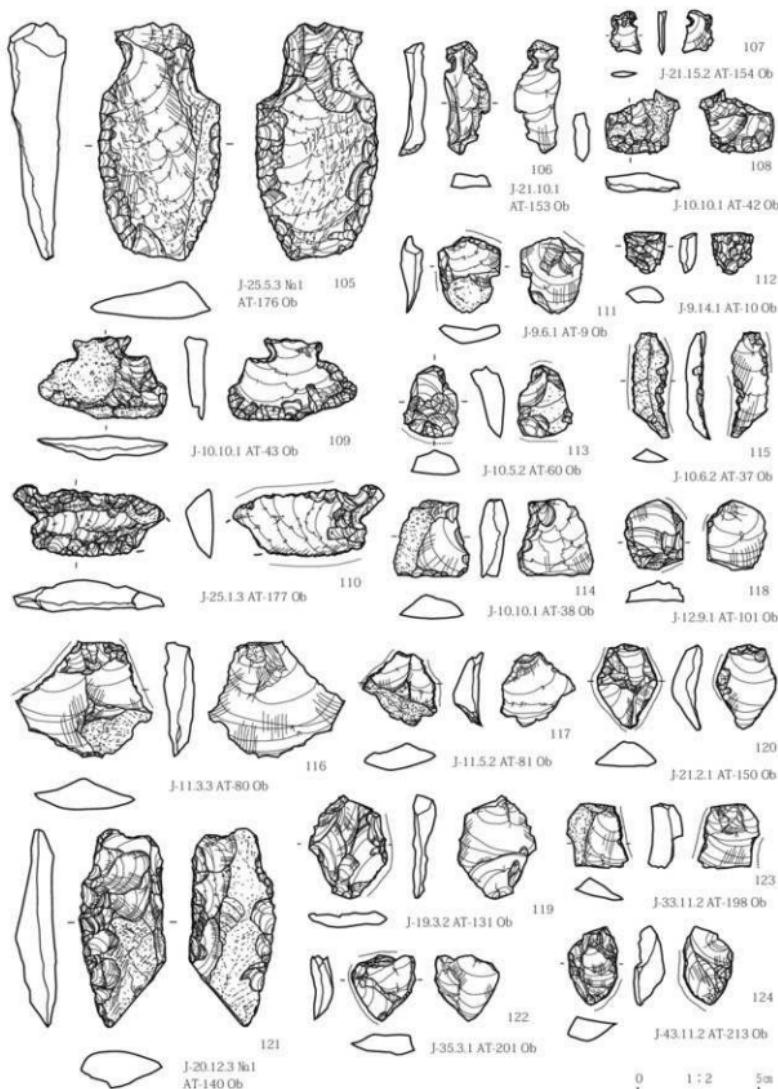


0 2 : 3 5m

第193図 三本木II遺跡(縄文) 出土石器(3) 石鎚未成品・石錐(黒曜石)



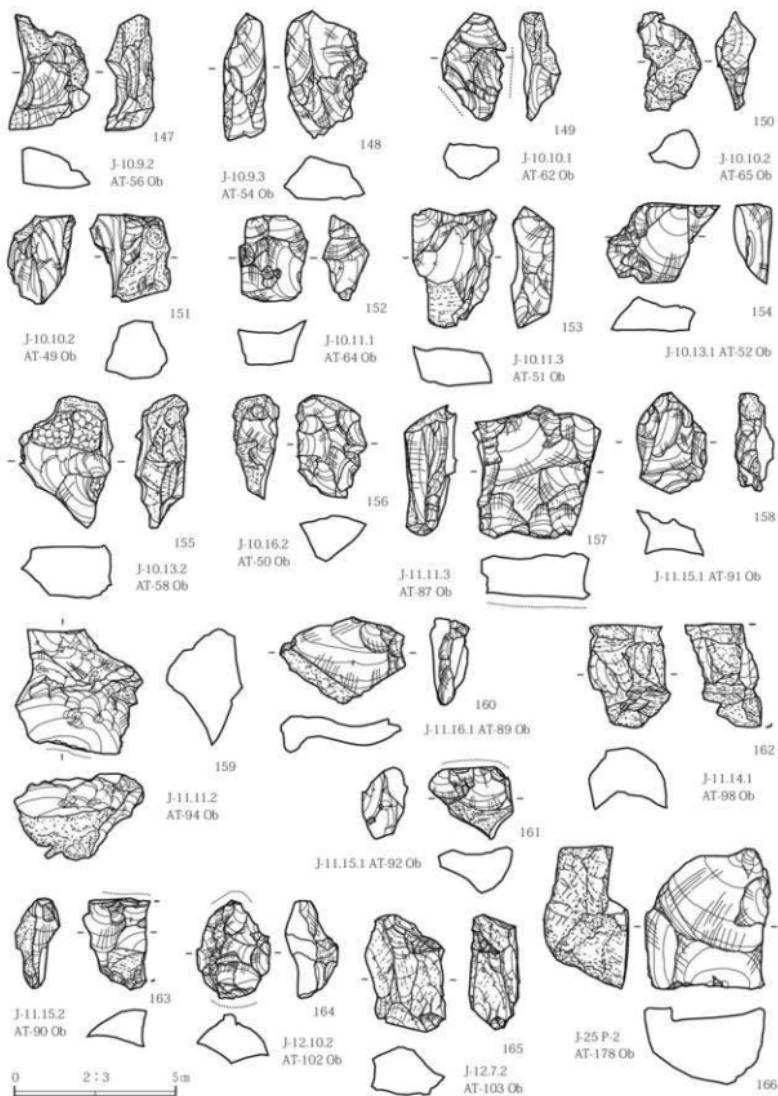
第194図 三本木II遺跡(縄文) 出土石器(4) 模形石器(黒曜石)



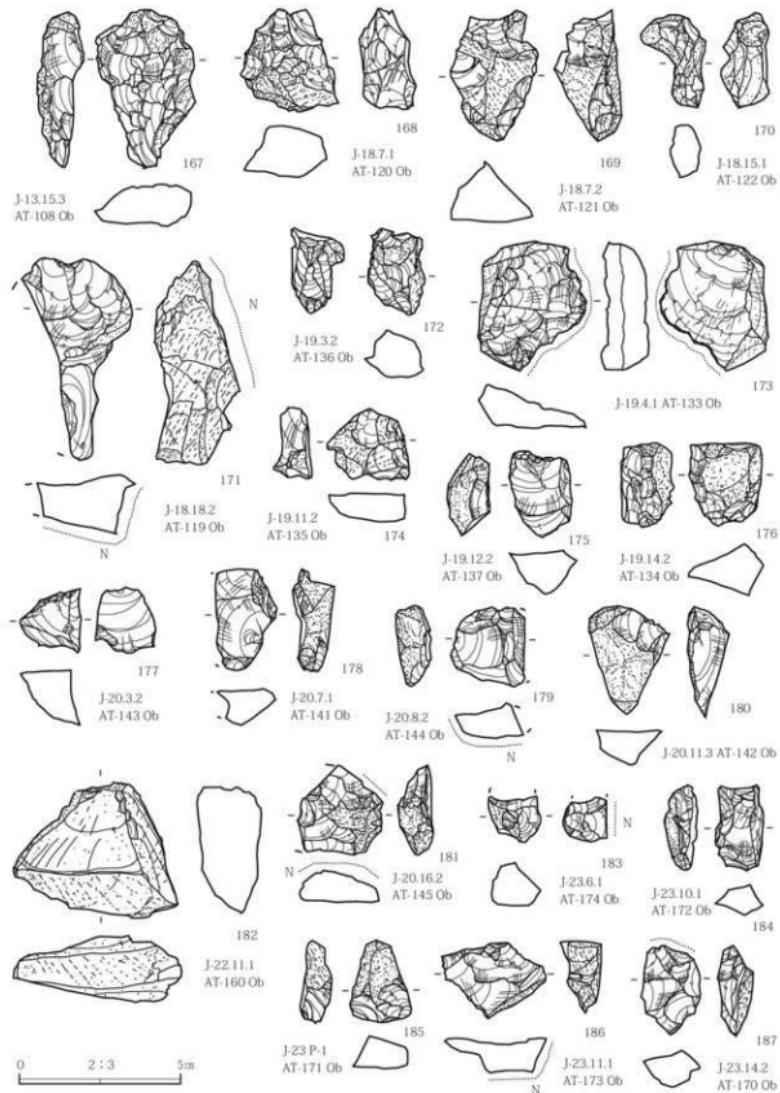
第195図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(5) 石匙A類・スクレイパーA類(黒曜石)



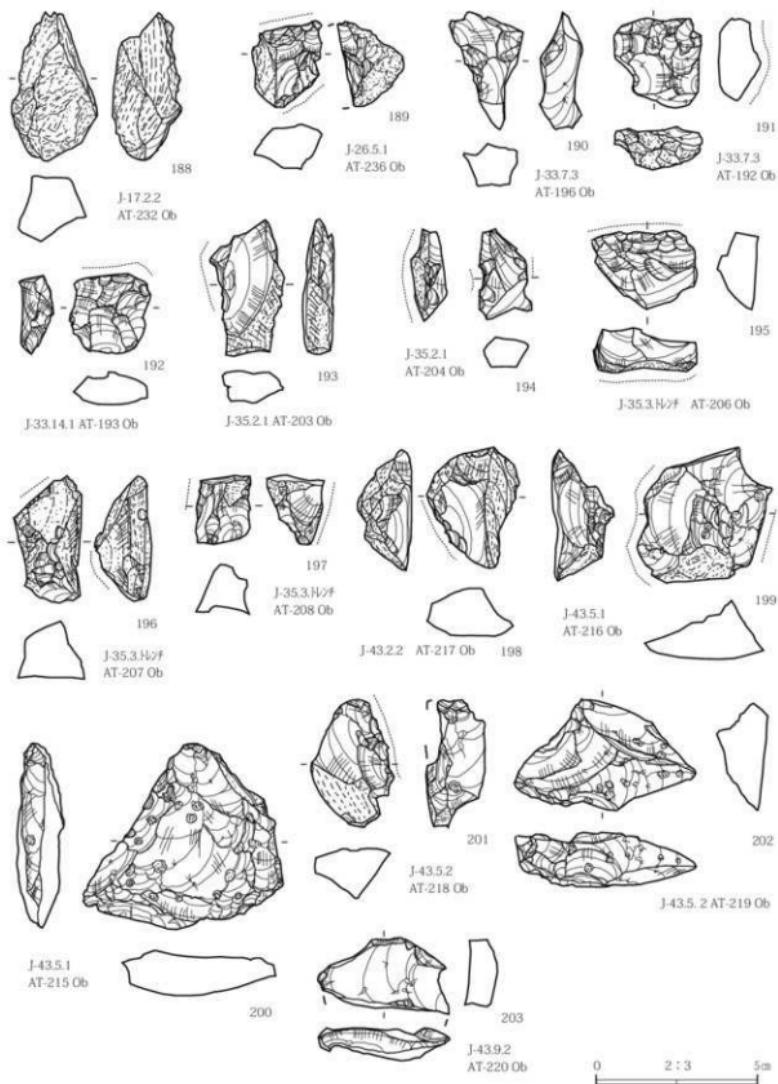
第196図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(6)スクライパーA類・RFA(黒曜石)



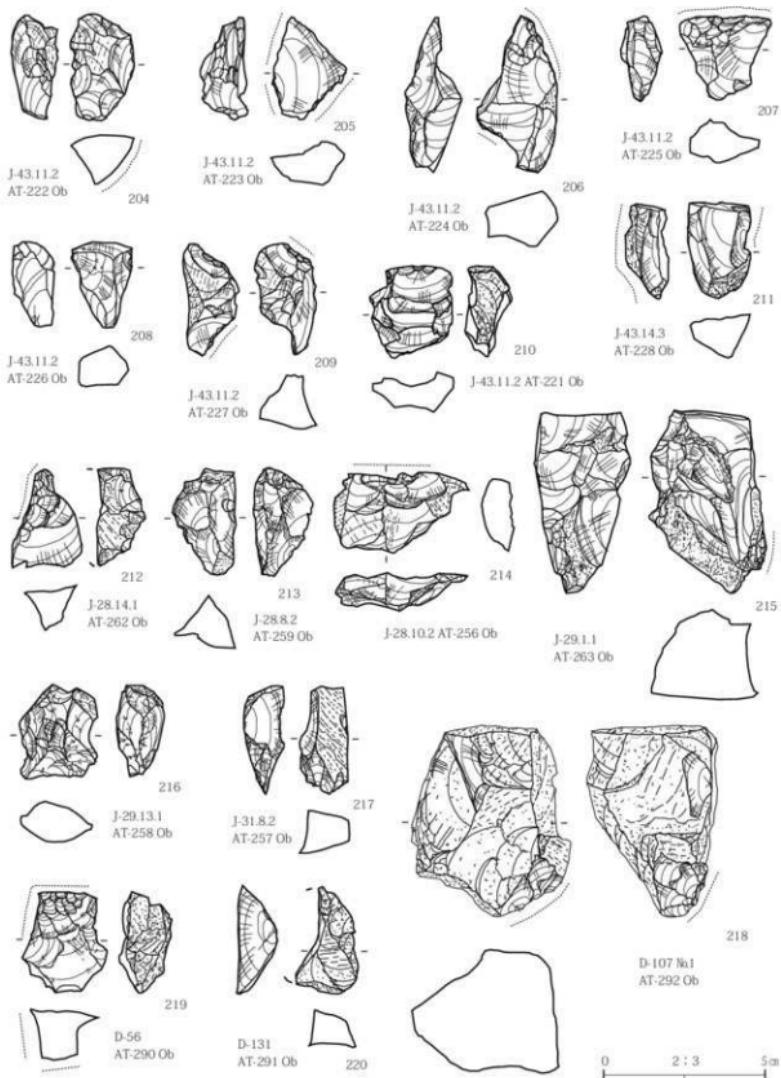
第197図 三本木II遺跡(縄文) 出土石器(7) 石核・原石類1(黒曜石)



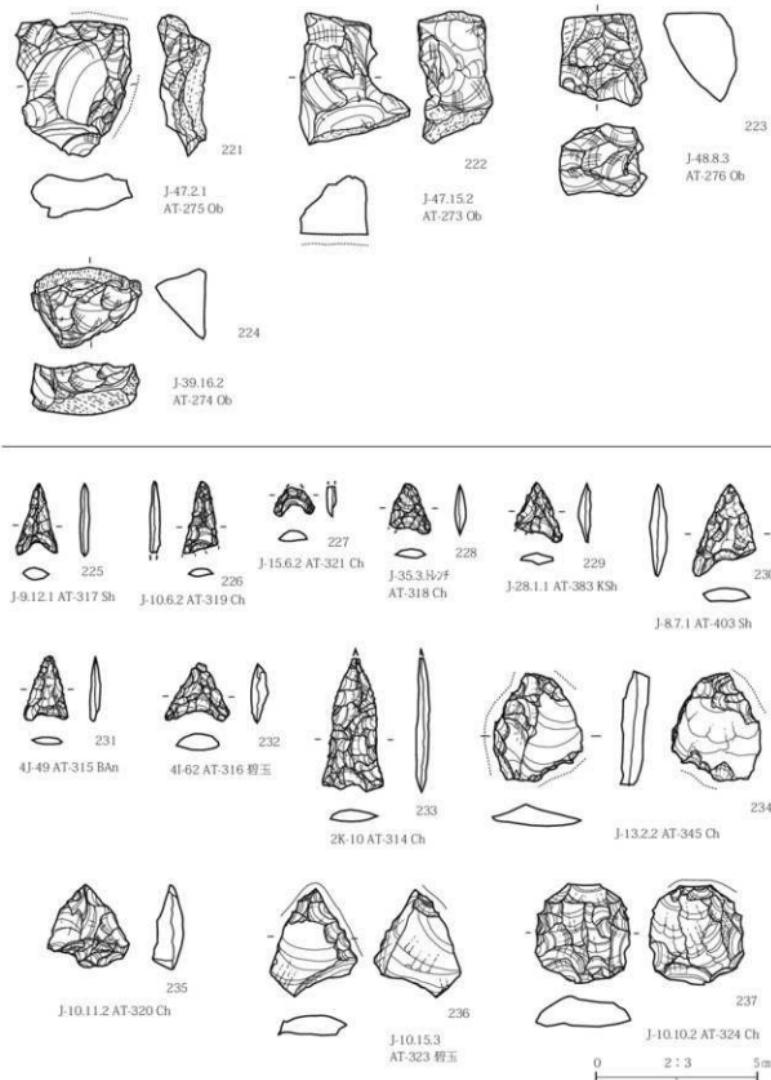
第198図 三本木II遺跡（縄文）出土石器（8）石核・原石類2（黒曜石）



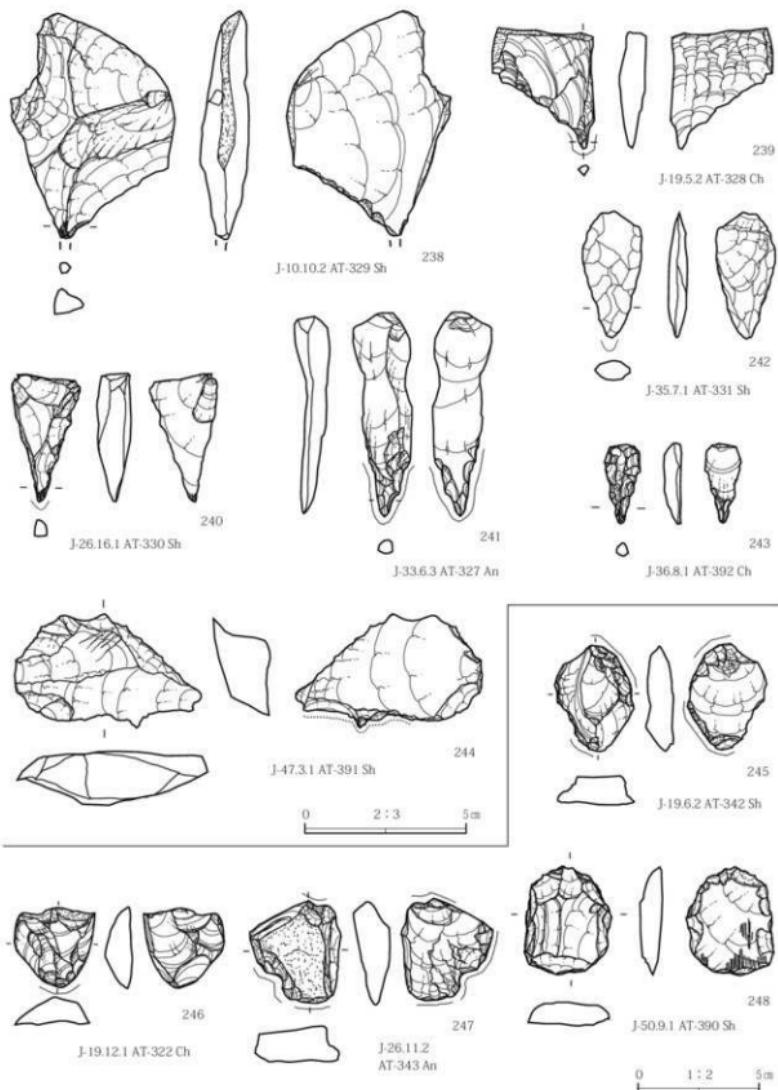
第199図 三本木II遺跡(縄文) 出土石器(9) 石核・原石類3(黒曜石)



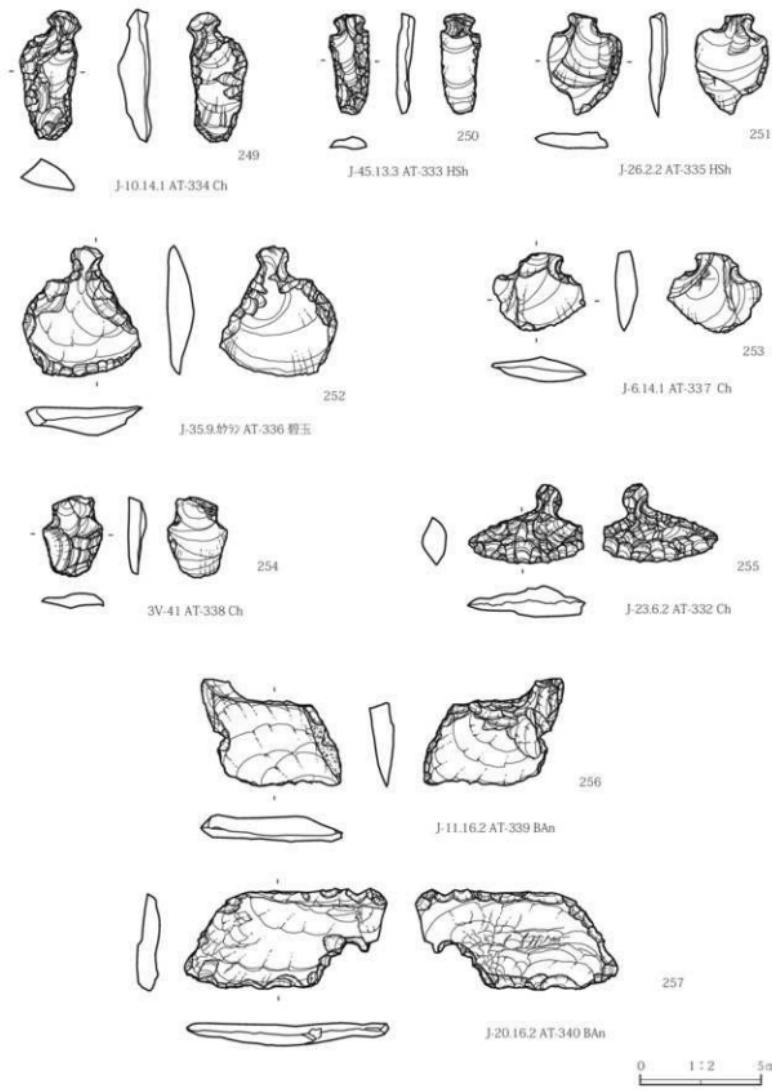
第200図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(10) 石核・原石類4(黒曜石)



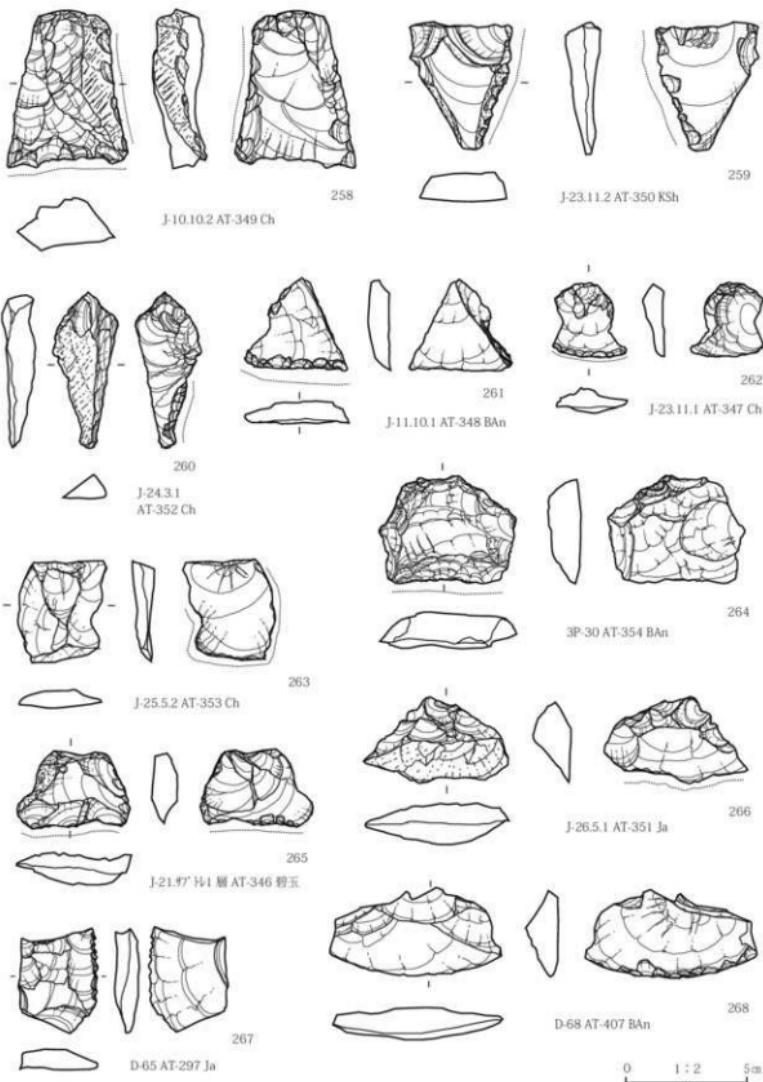
第201図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(11) 石核・原石類5(黒曜石) 石鏃・石鎌未成品



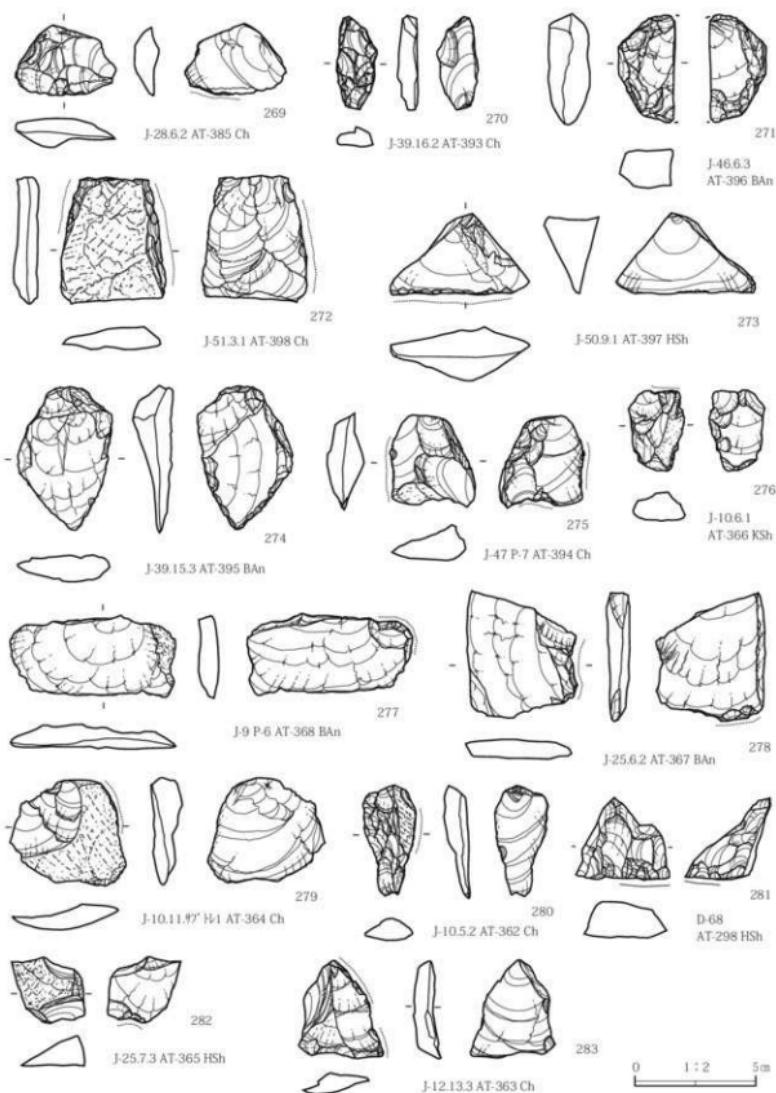
第202図 三本木II遺跡(縄文) 出土石器(12) 石錐・模形石器



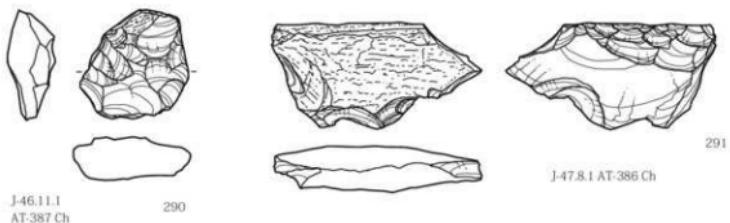
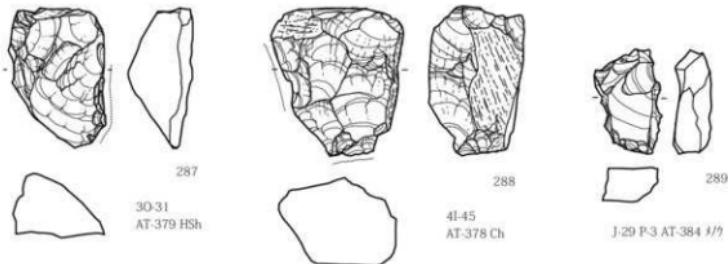
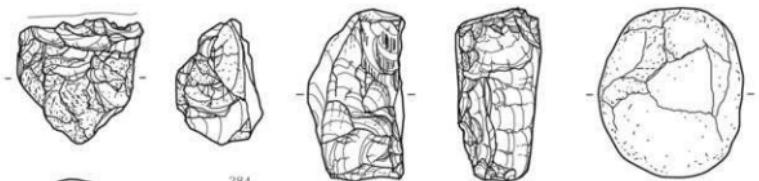
第203図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(13) 石匙A類



第204図 三本木II遺跡（縄文）出土石器（14）スクレイパーA類1

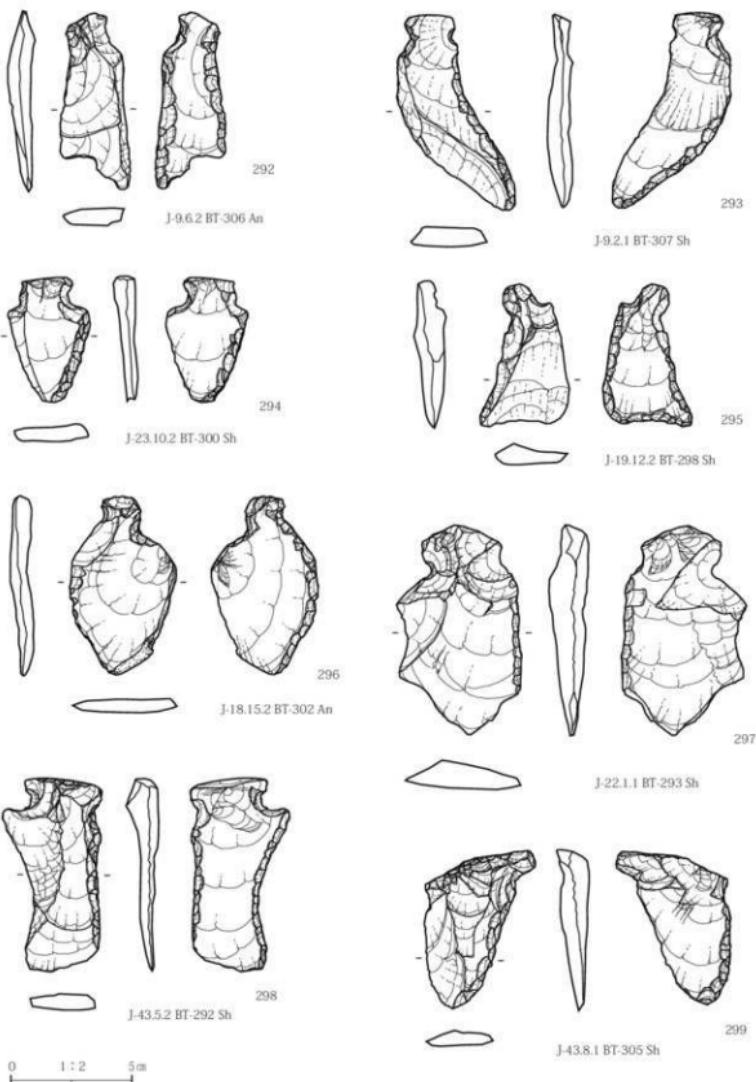


第205図 三本木II遺跡（縄文）出土石器（15）スクレイバーA類2

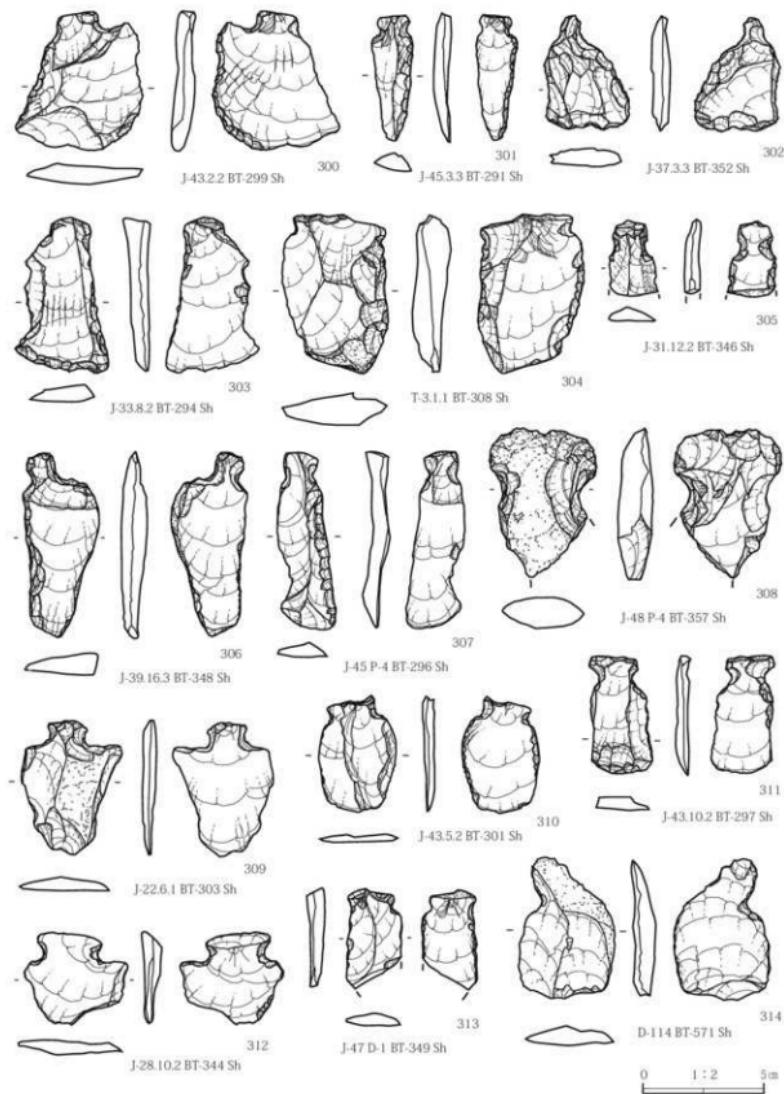


0 1 : 2 5mm

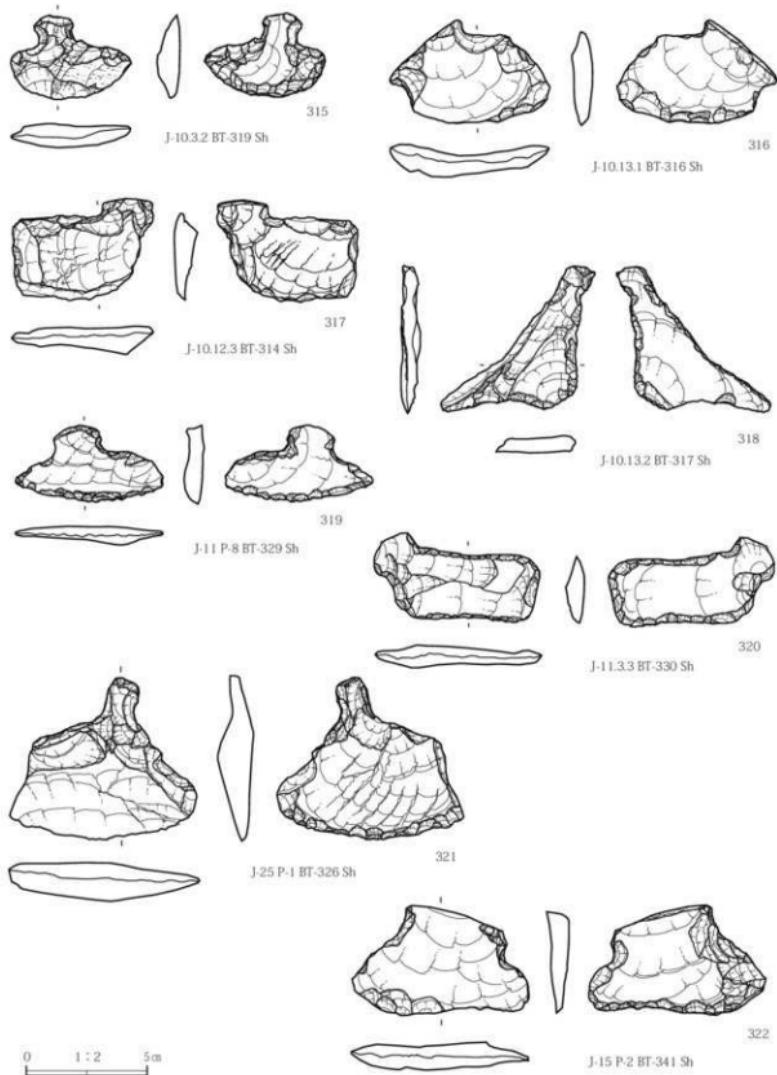
第206図 三本木II遺跡（縄文）出土石器（16）スクレイバーA類3



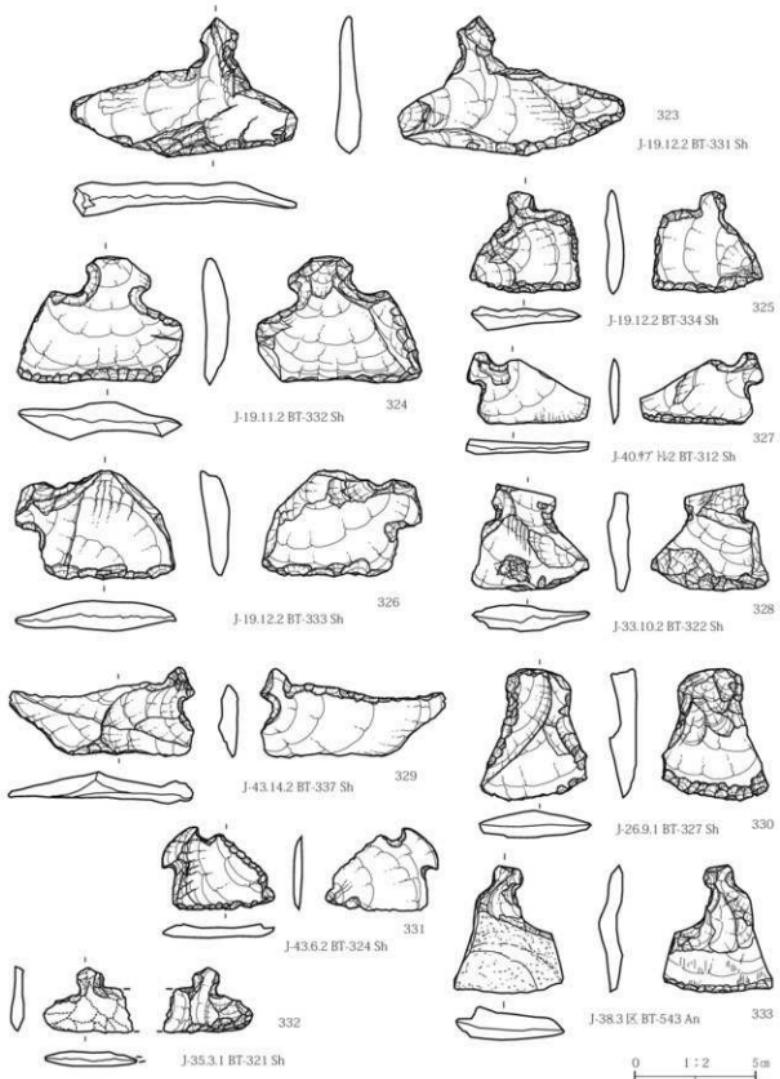
第207図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(17) 石匙B類1



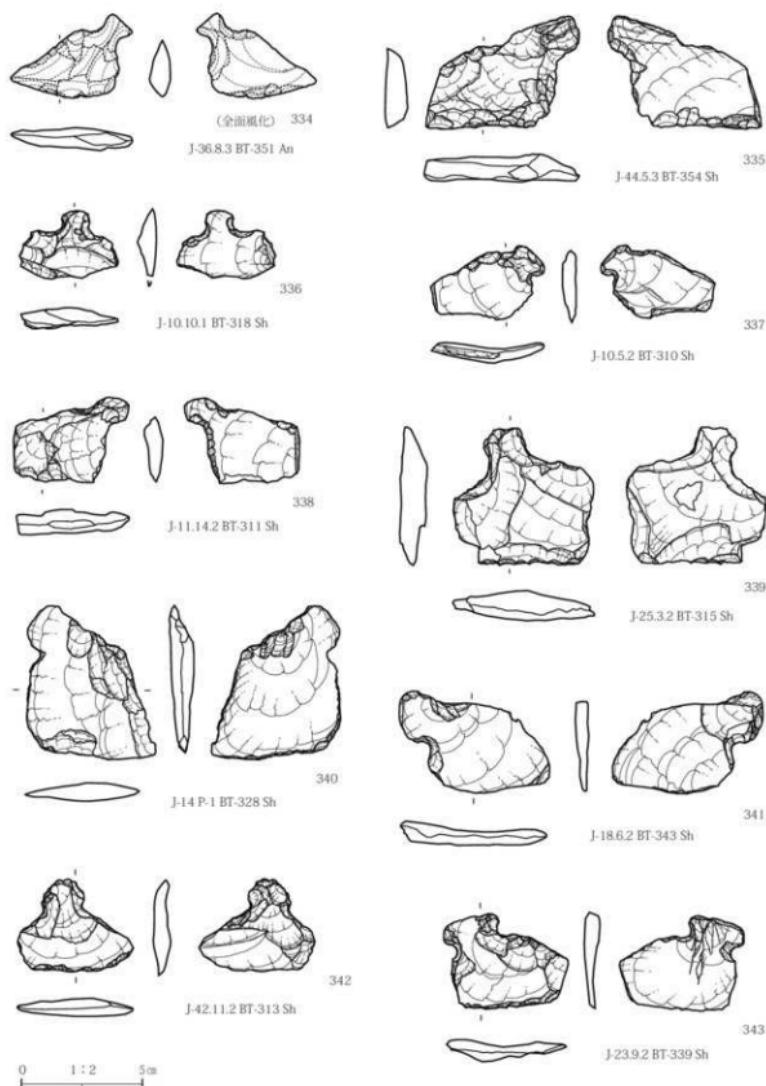
第208図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(18) 石匙B類2



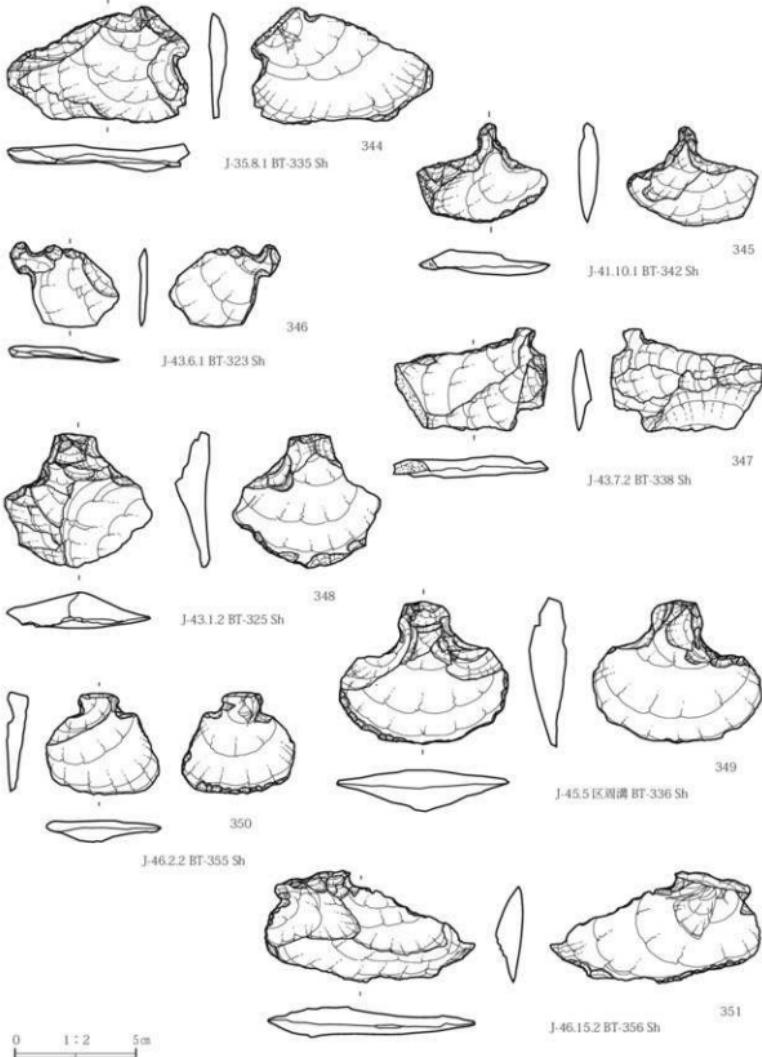
第209図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(19) 石匙B類3



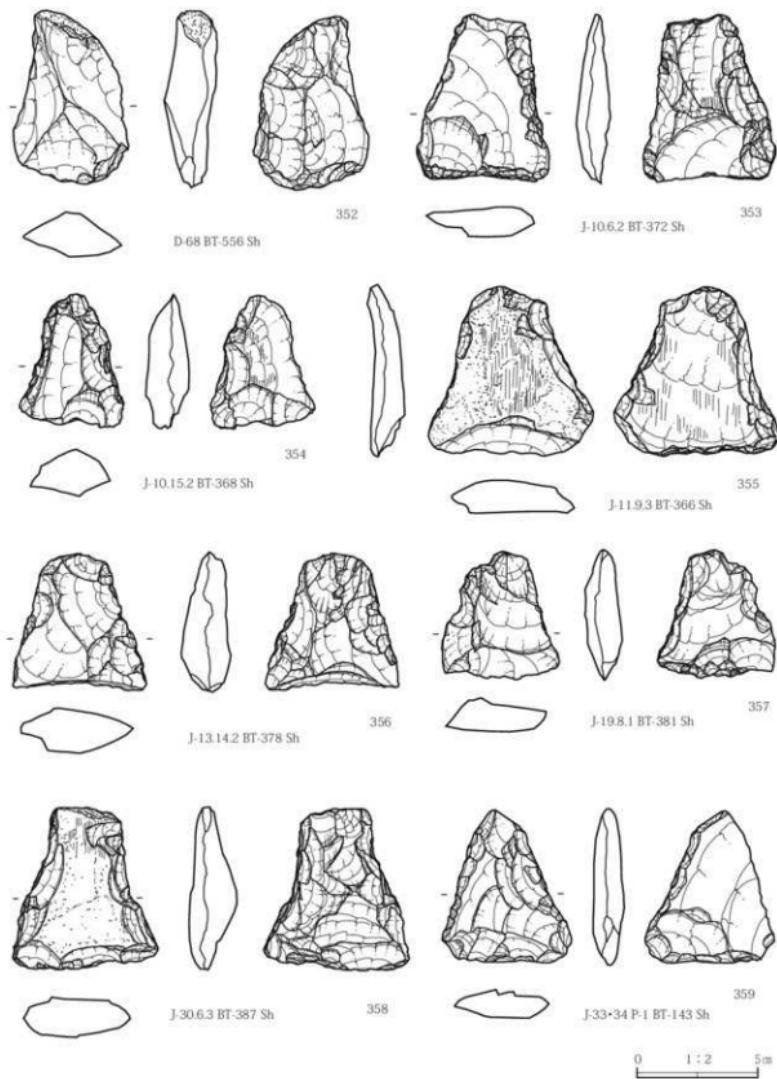
第210図 三本木II遺跡(縄文) 出土石器(20) 石匙B類4



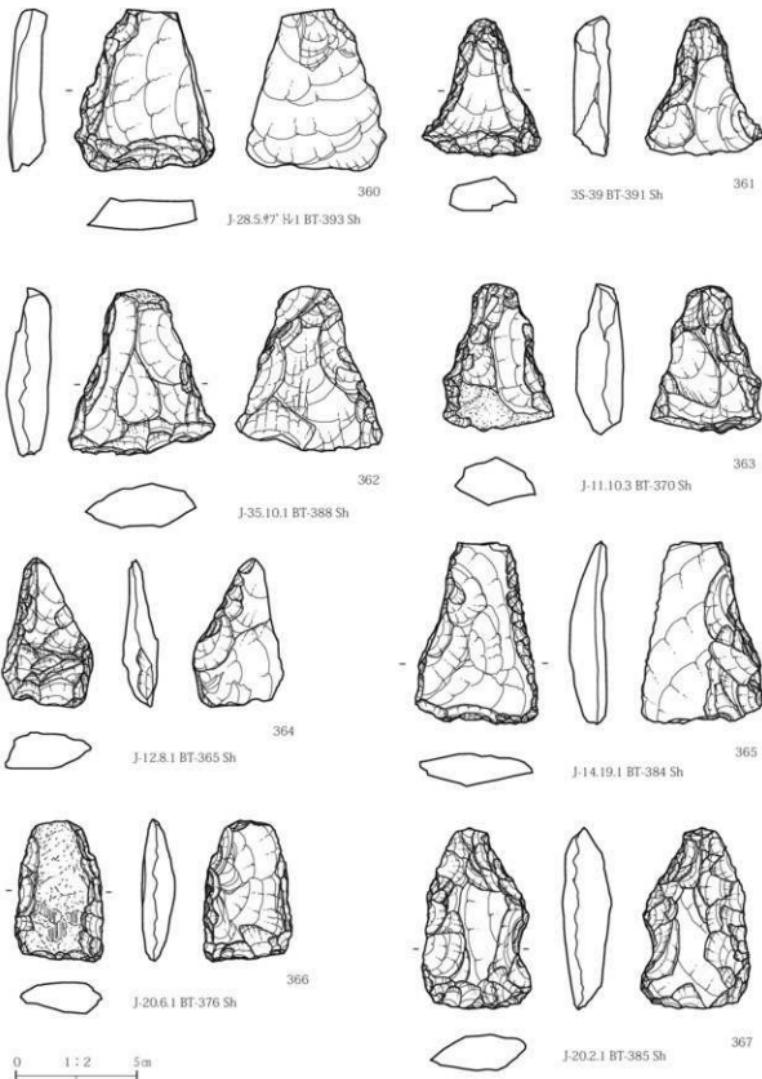
第211図 三本木II遺跡(縄文) 出土石器(21) 石匙B類5



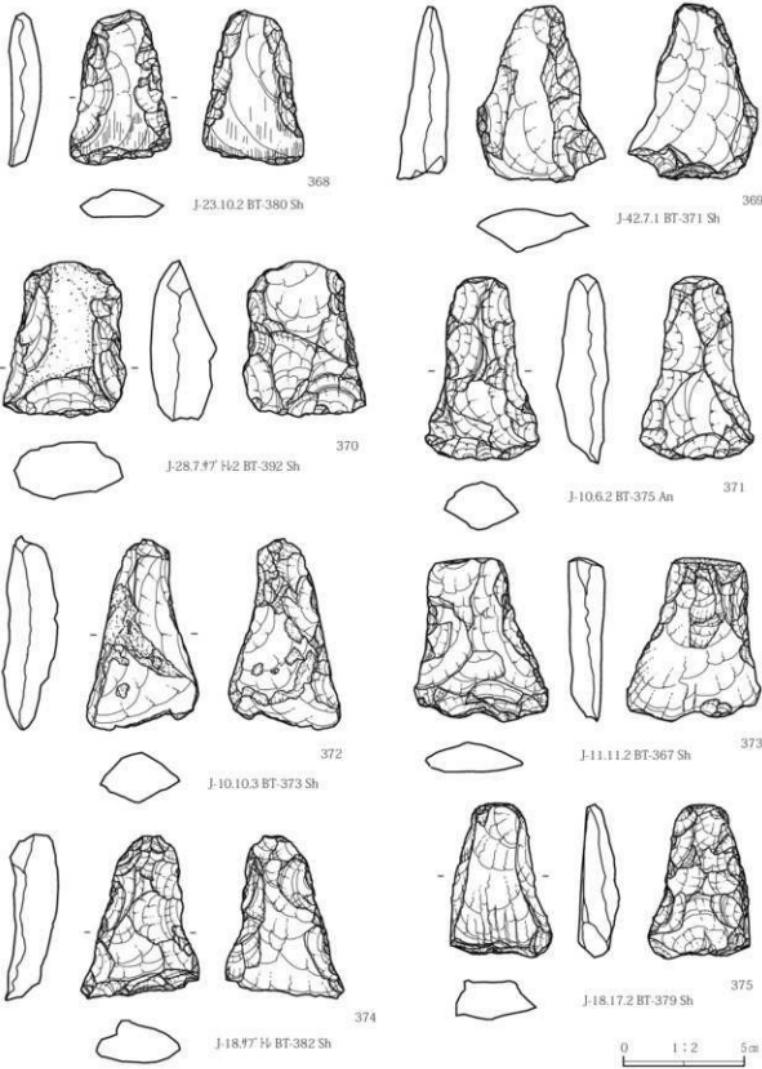
第212図 三本木II遺跡(縄文) 出土石器(22) 石匙B類6



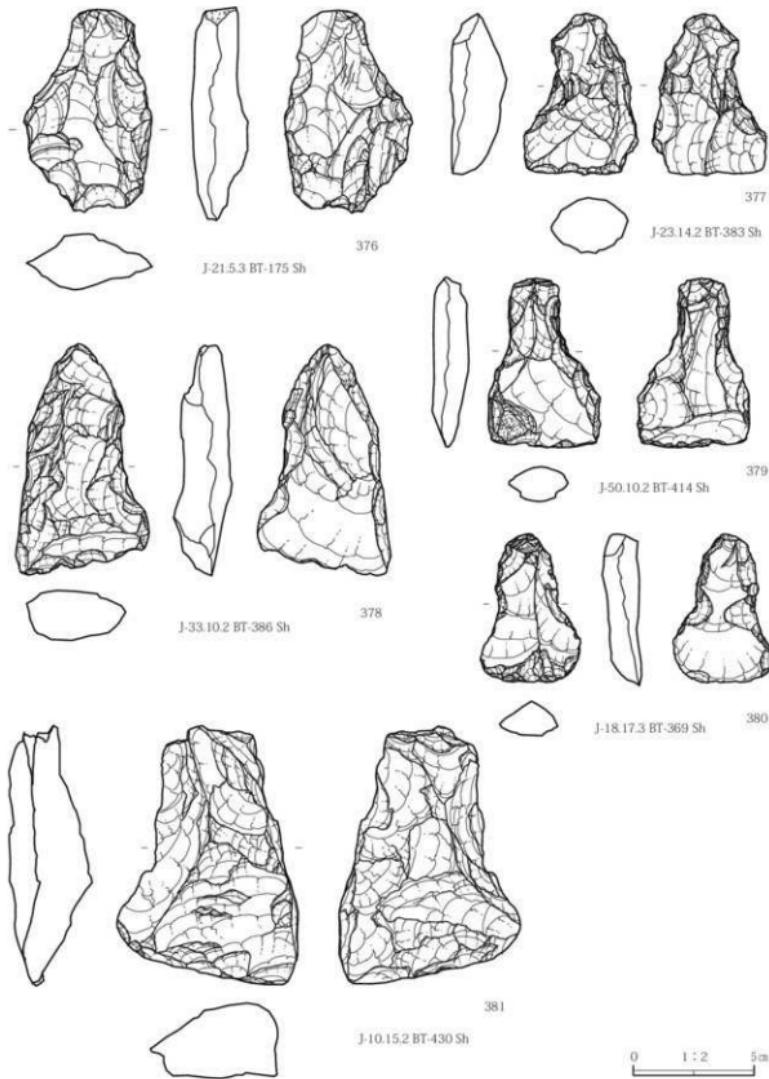
第213図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(23) 打製石斧1



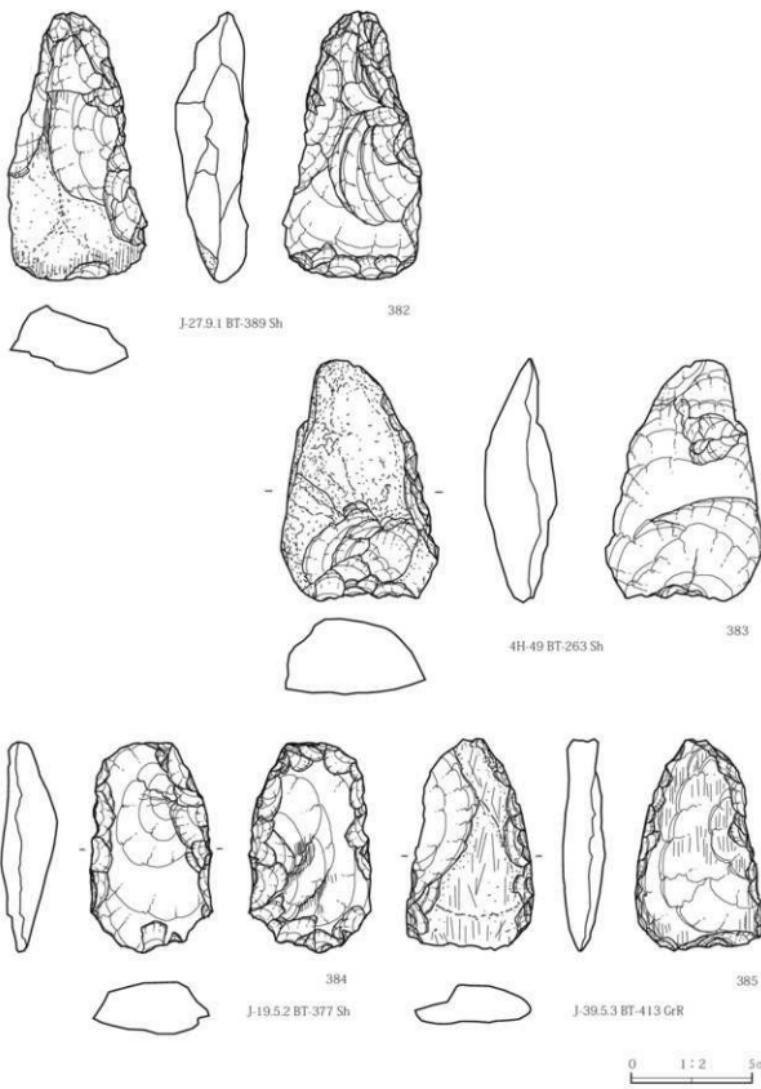
第214図 三本木II遺跡(縄文) 出土石器(24) 打製石斧2



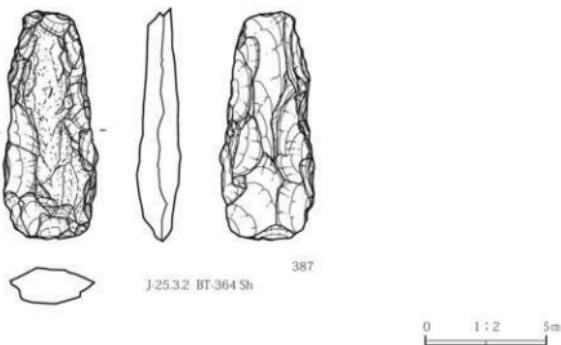
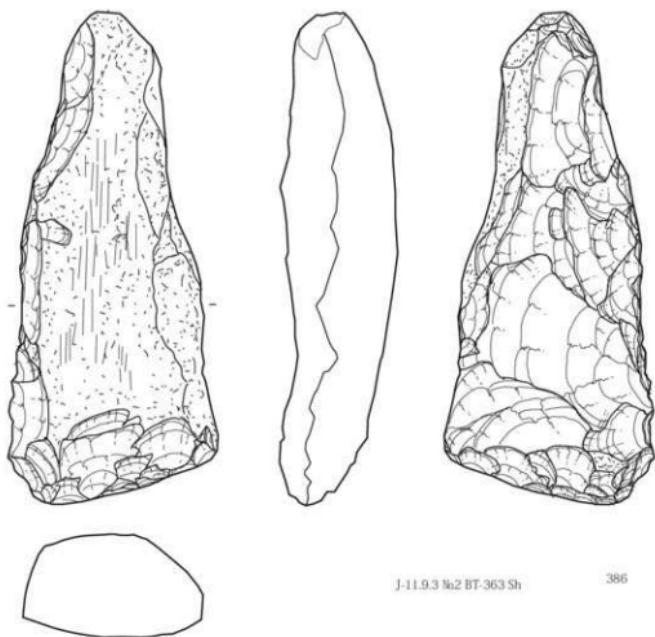
第215図 三本木II遺跡(縄文) 出土石器(25) 打製石斧3



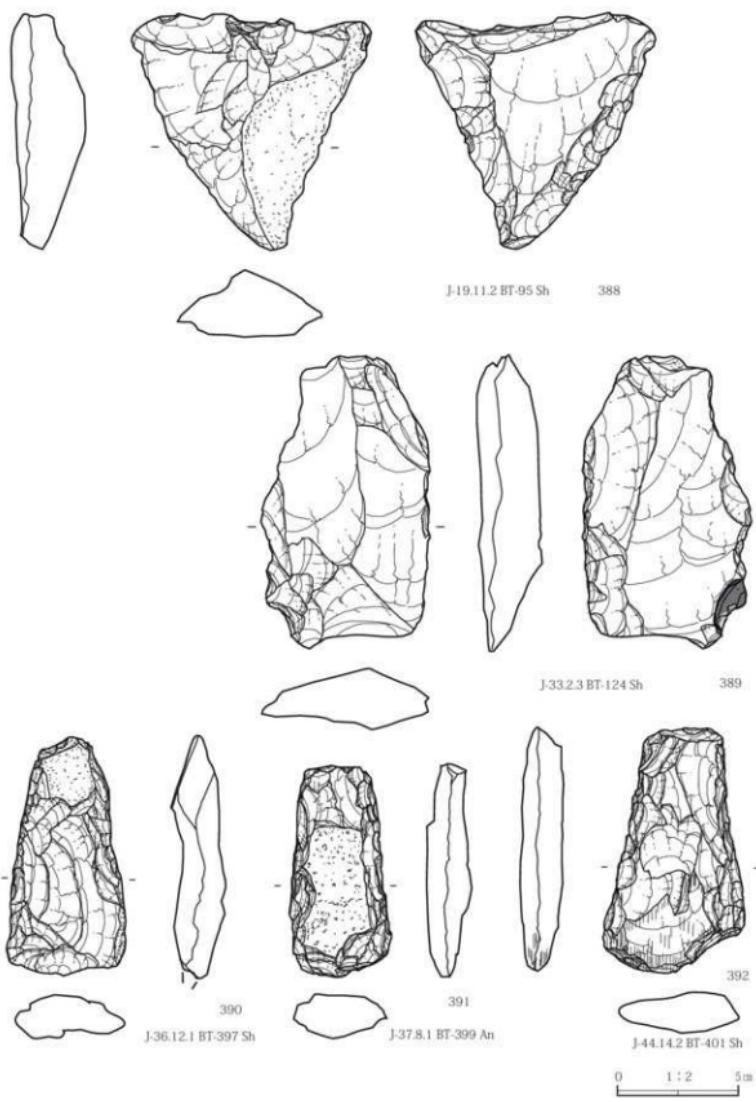
第216図 三本木II遺跡（縄文）出土石器（26）打製石斧4



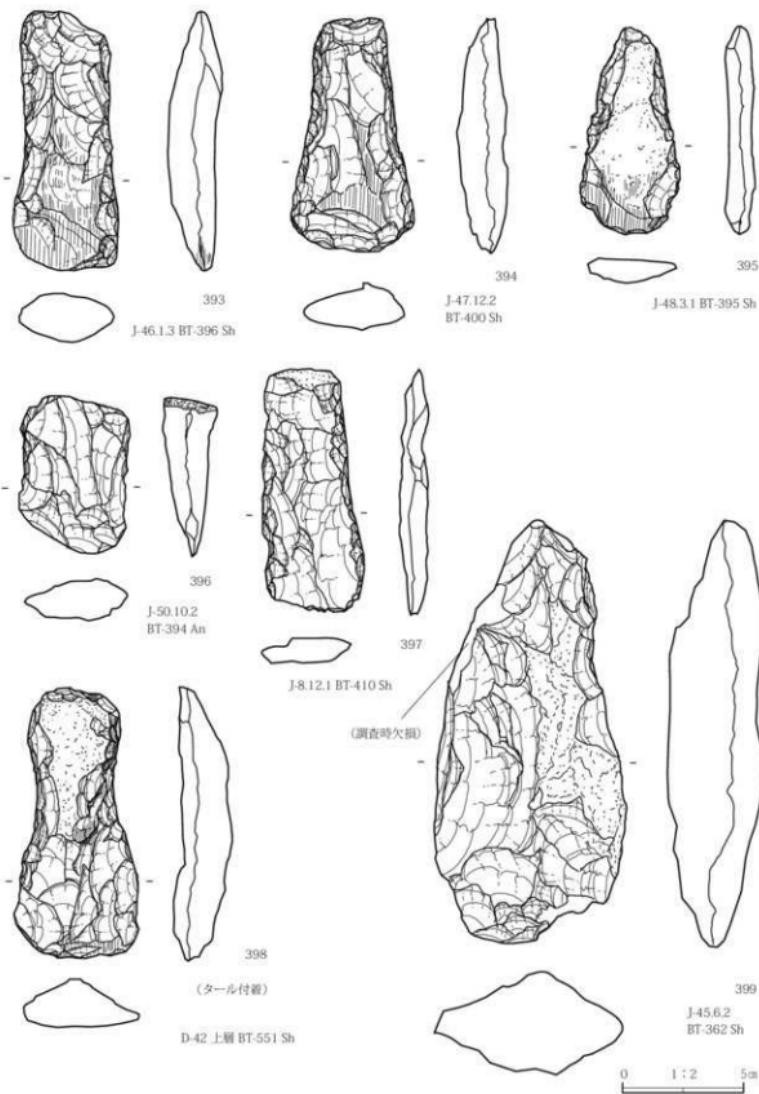
第217図 三本木II遺跡(縄文) 出土石器(27) 打製石斧5



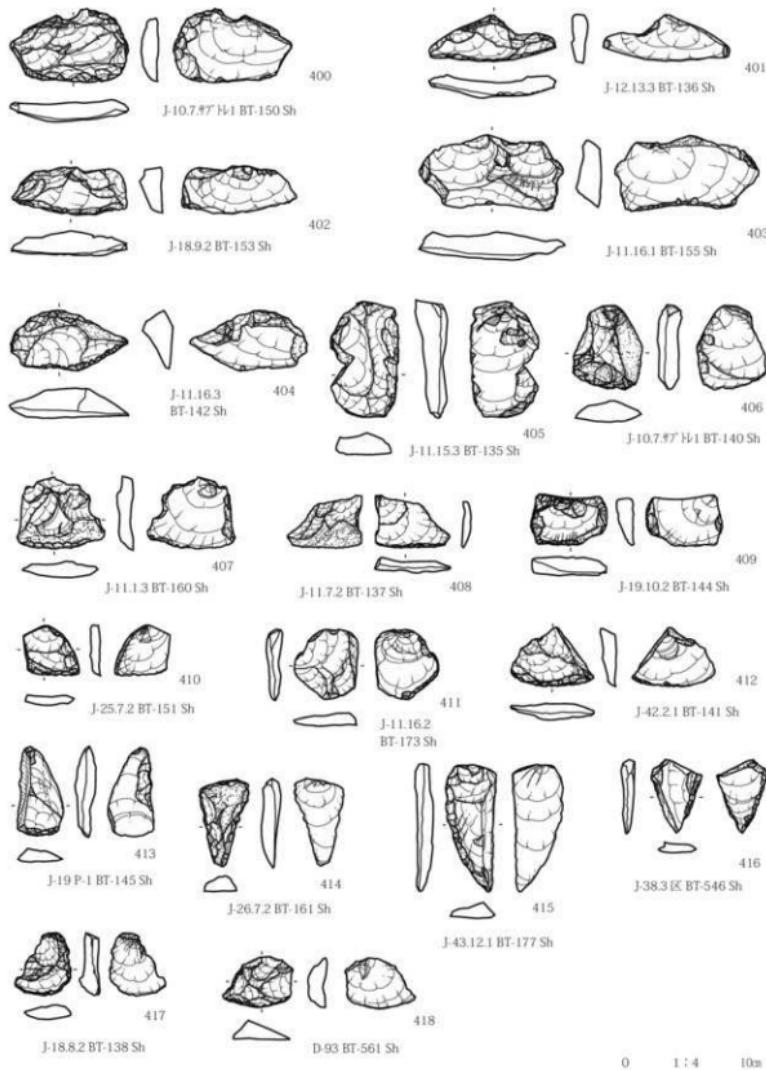
第218図 三本木II遺跡(縄文) 出土石器(28) 打製石斧6



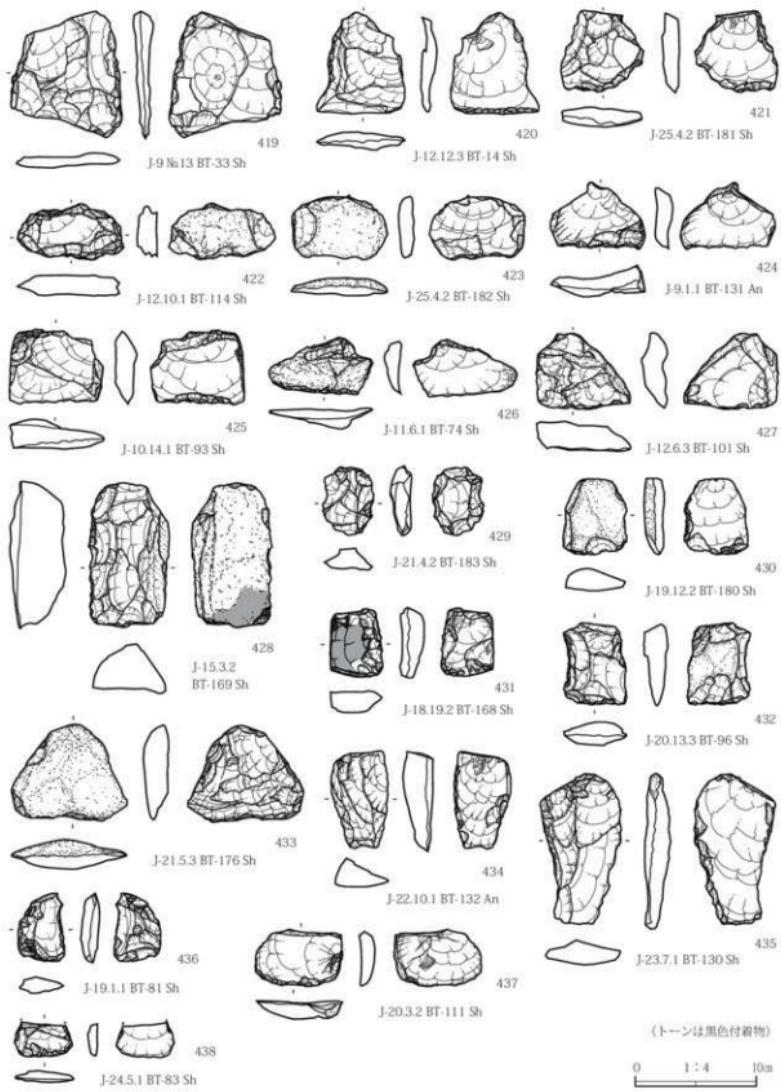
第219図 三本木II遺跡(縄文) 出土石器(29) 打製石斧7



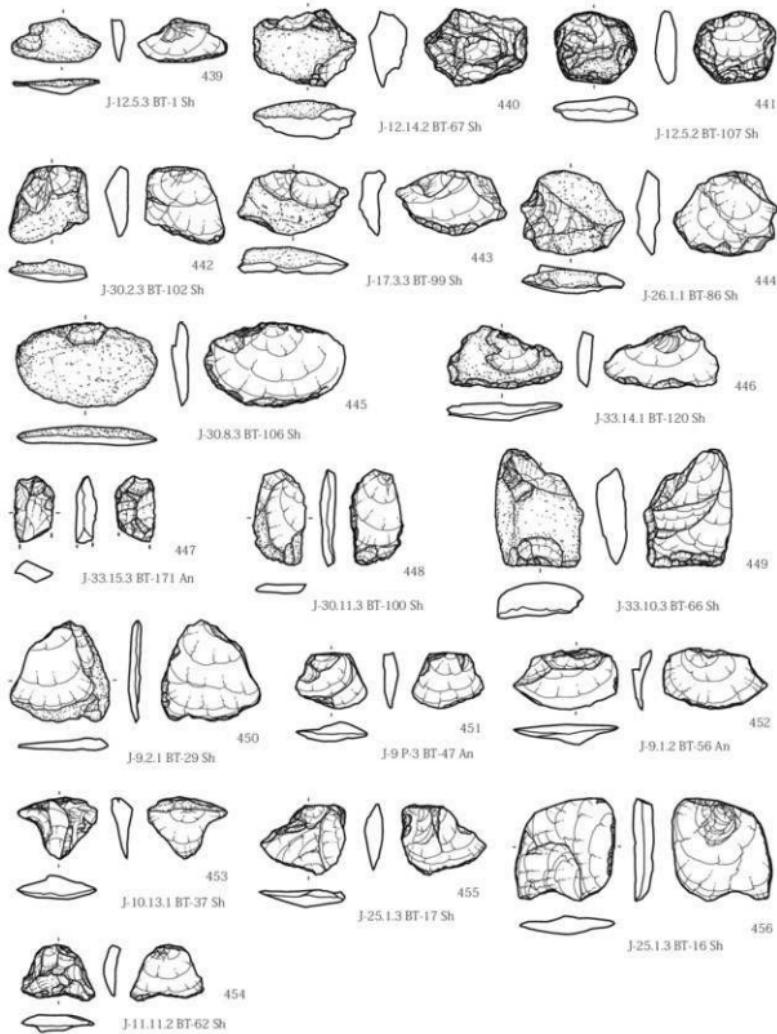
第220図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(30) 打製石斧8



第221図 三本木II遺跡（縄文）出土石器（31）スクレイバーB類1

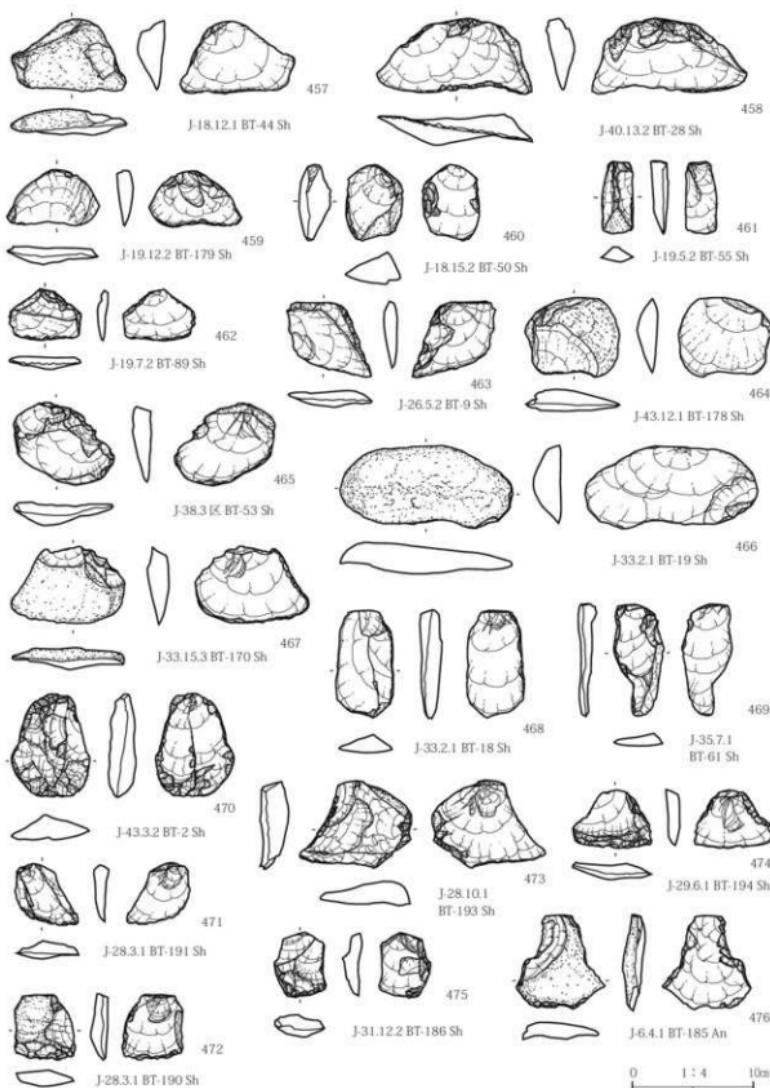


第222図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(32)スクリレイバーB類2

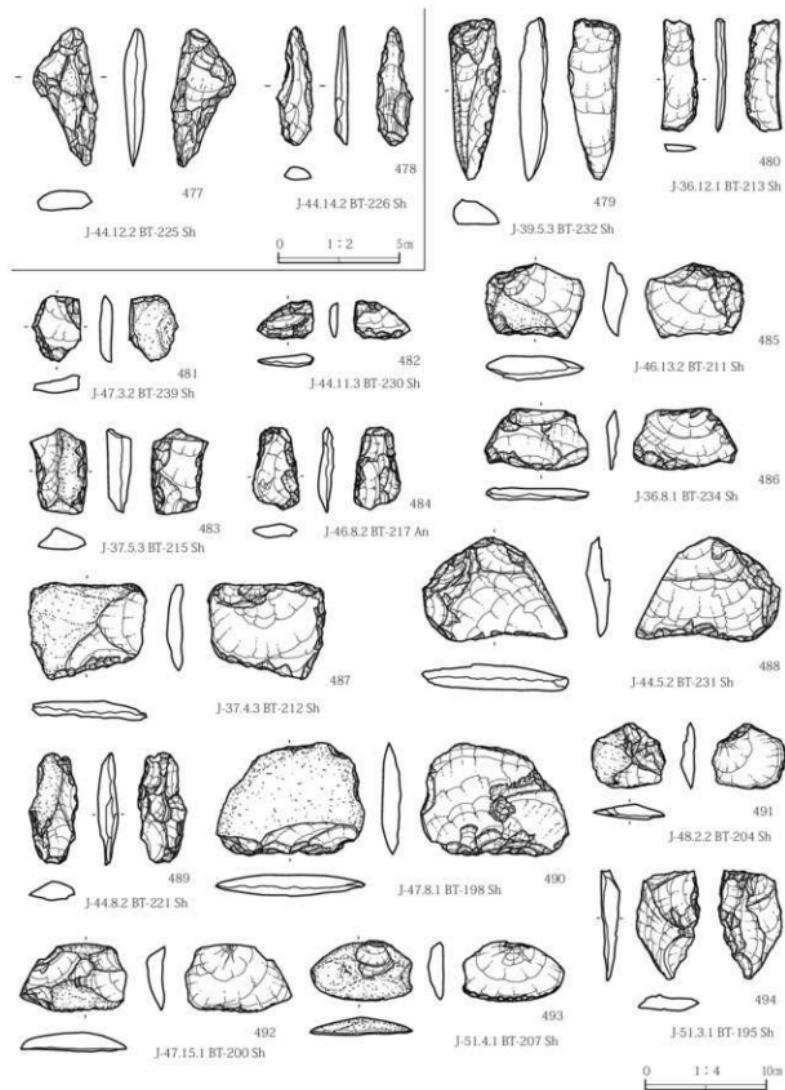


0 1:4 10mm

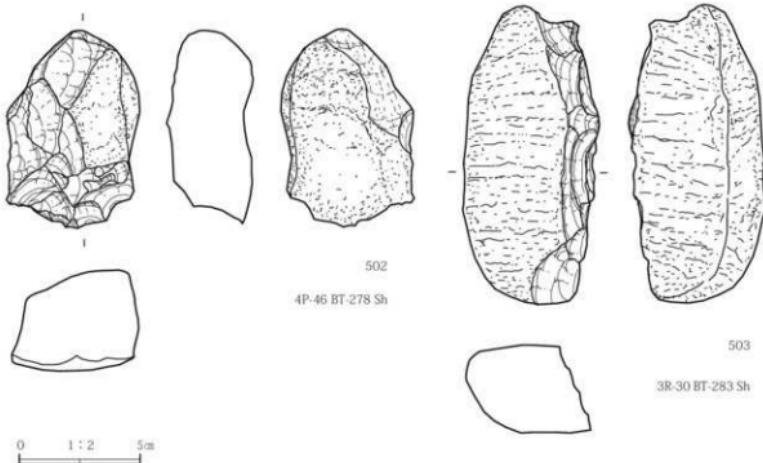
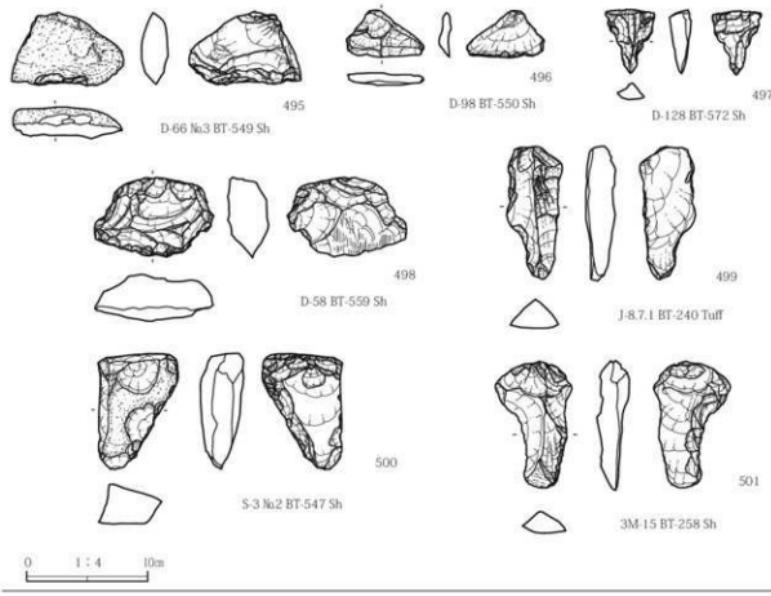
第223図 三本木II遺跡（縄文）出土石器（33）スクレイバーB類3



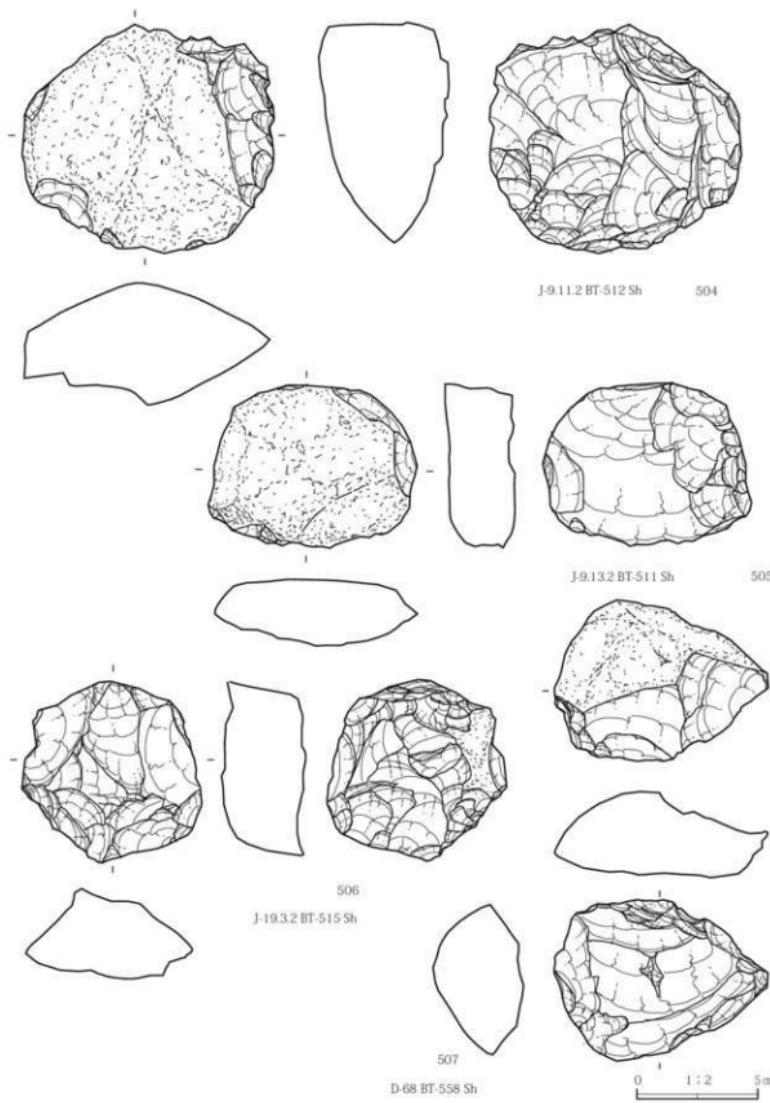
第224図 三本木II遺跡（縄文）出土石器（34）スクレイバーB類4



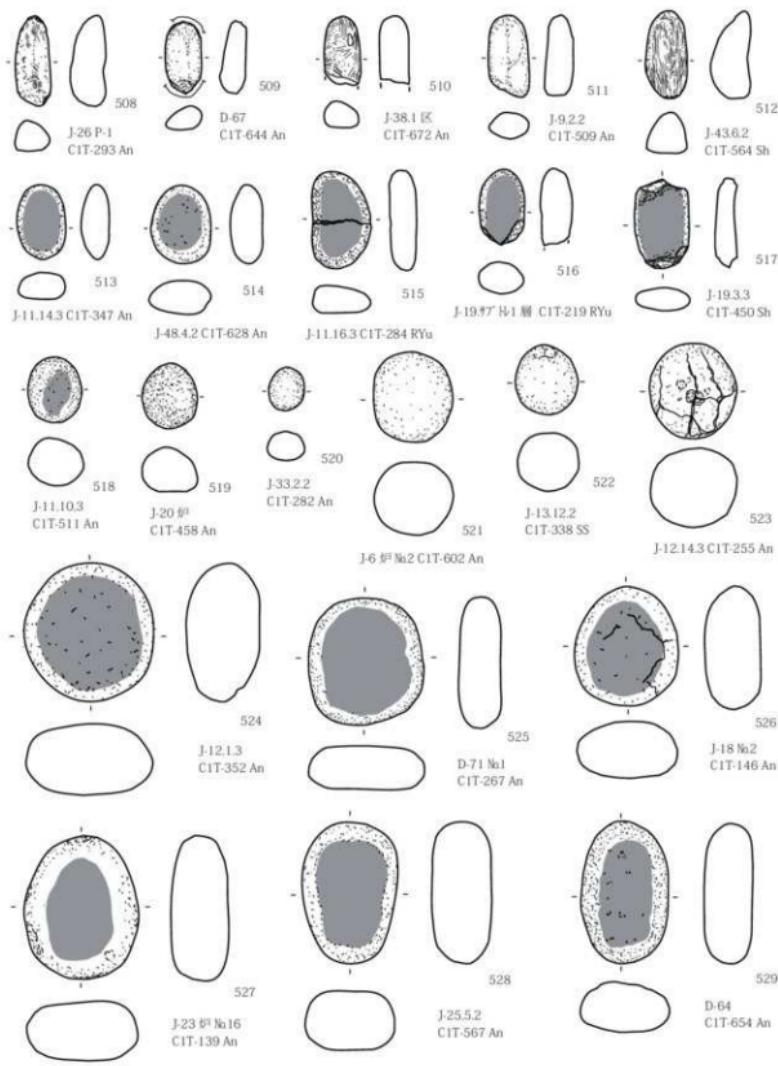
第225図 三本木II遺跡（縄文）出土石器（35）スクレイバーB類5



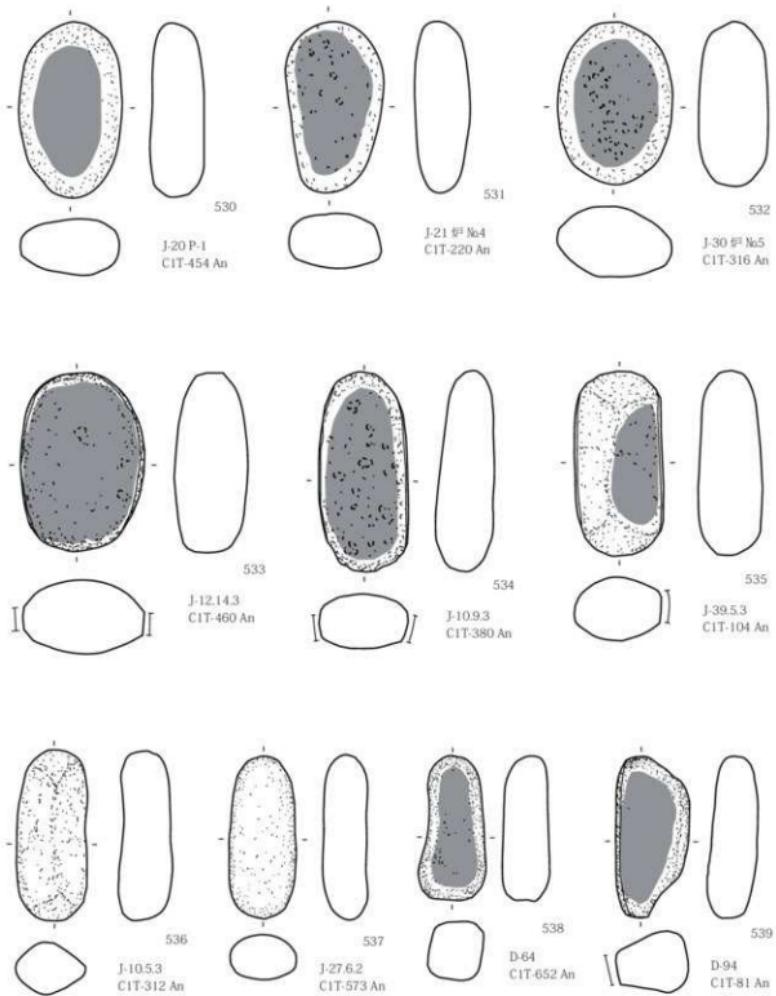
第226図 三本木II遺跡（縄文）出土石器（36）スクレイバーB類6



第227図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(37) 石核

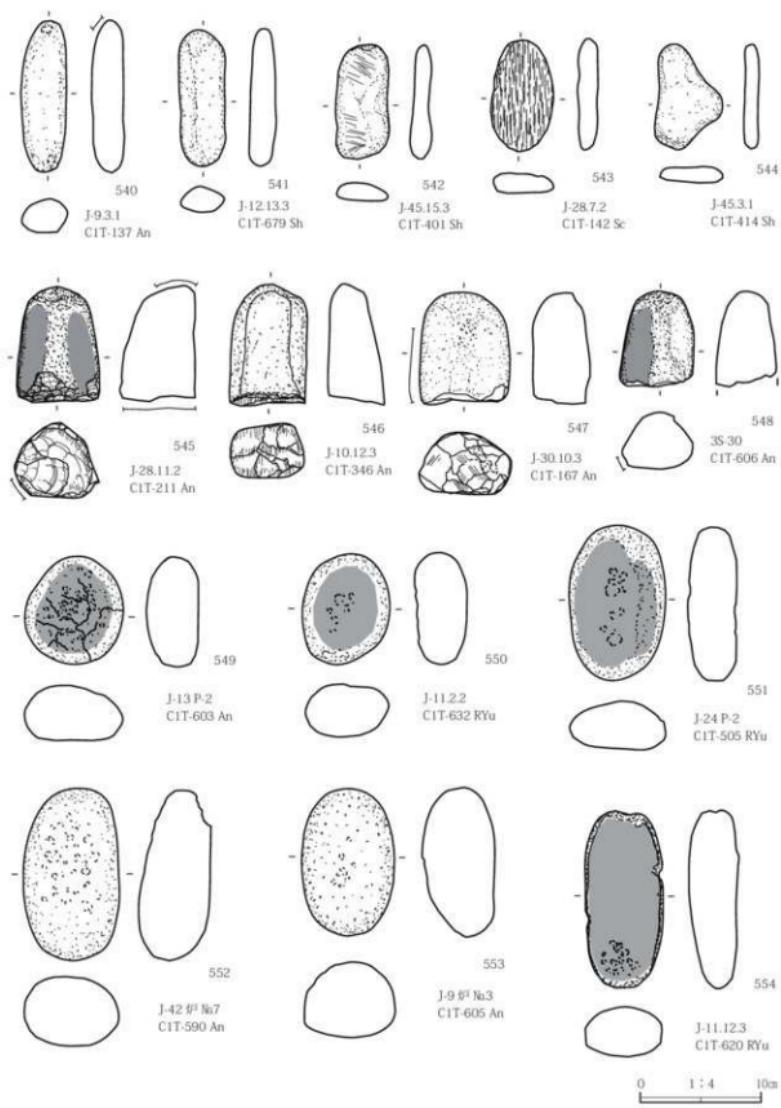


第228図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(38) 磨石類1

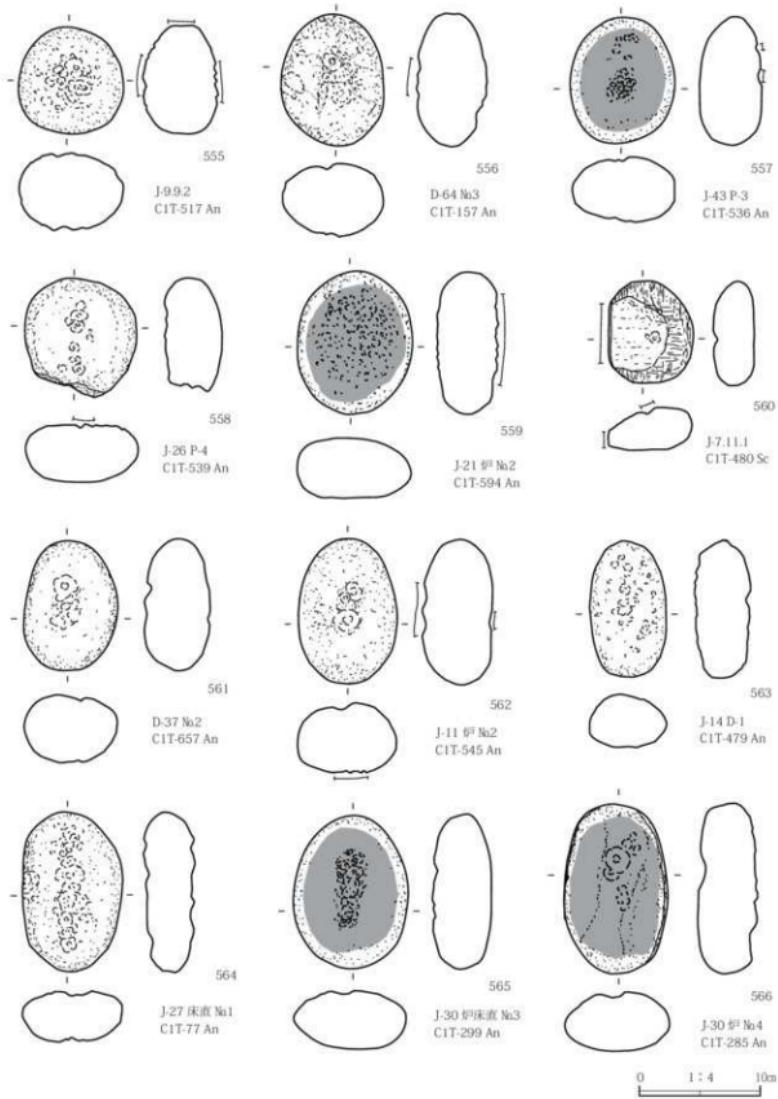


0 1:4 10cm

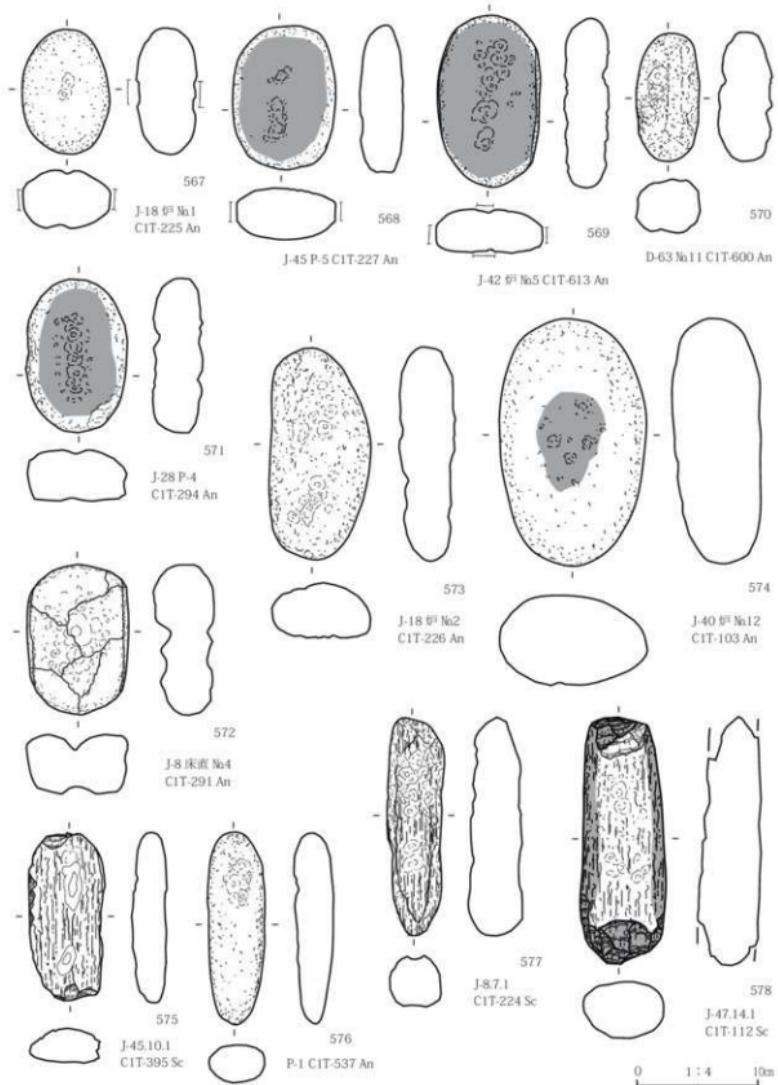
第229図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(39) 磨石類2



第230図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(40) 磨石類3・凹石B

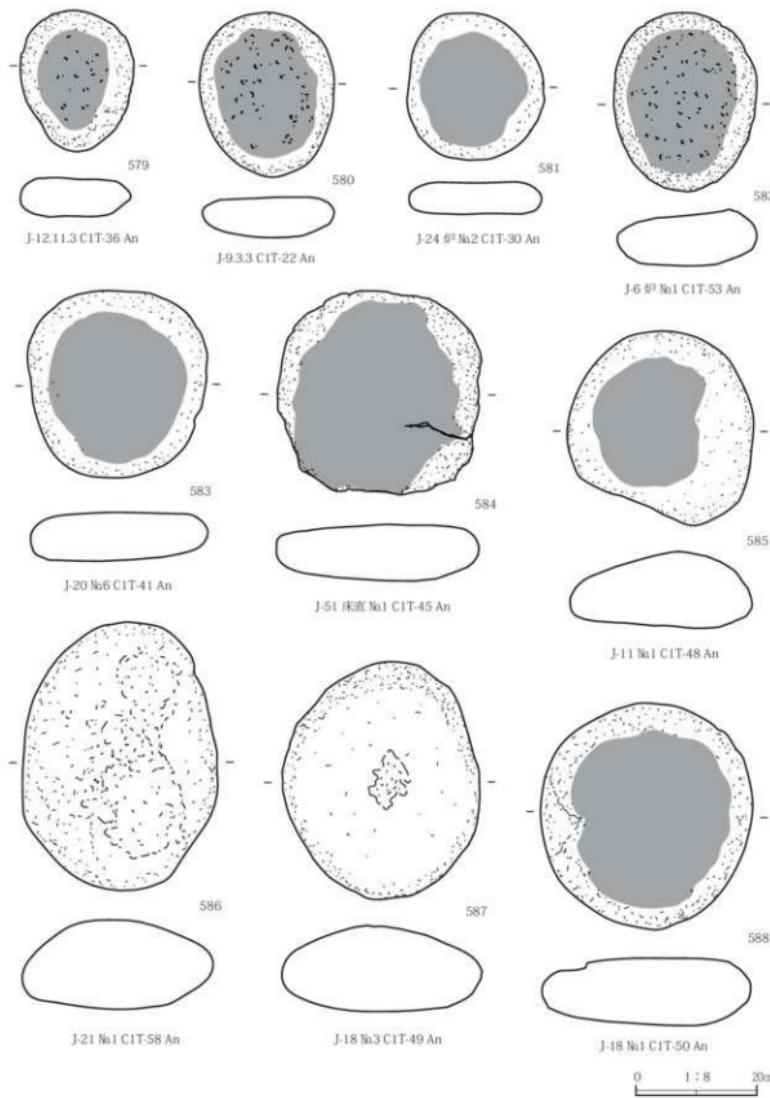


第231図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(41) 凹石1

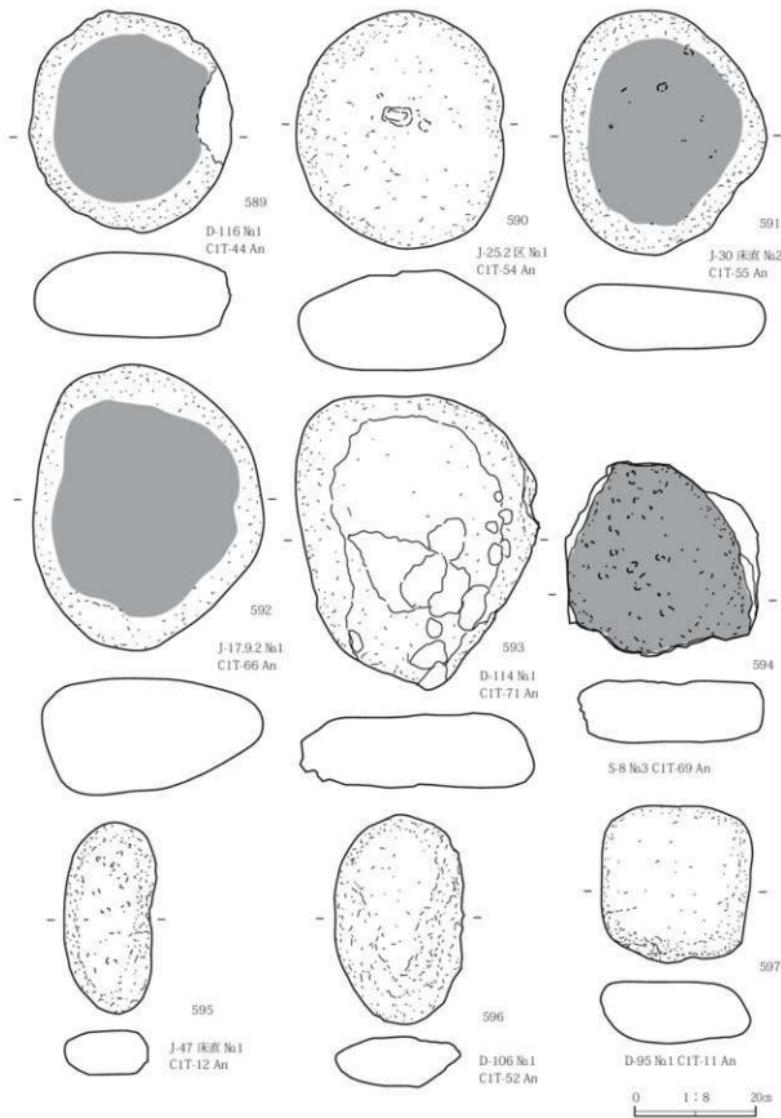


0 1 : 4 10m

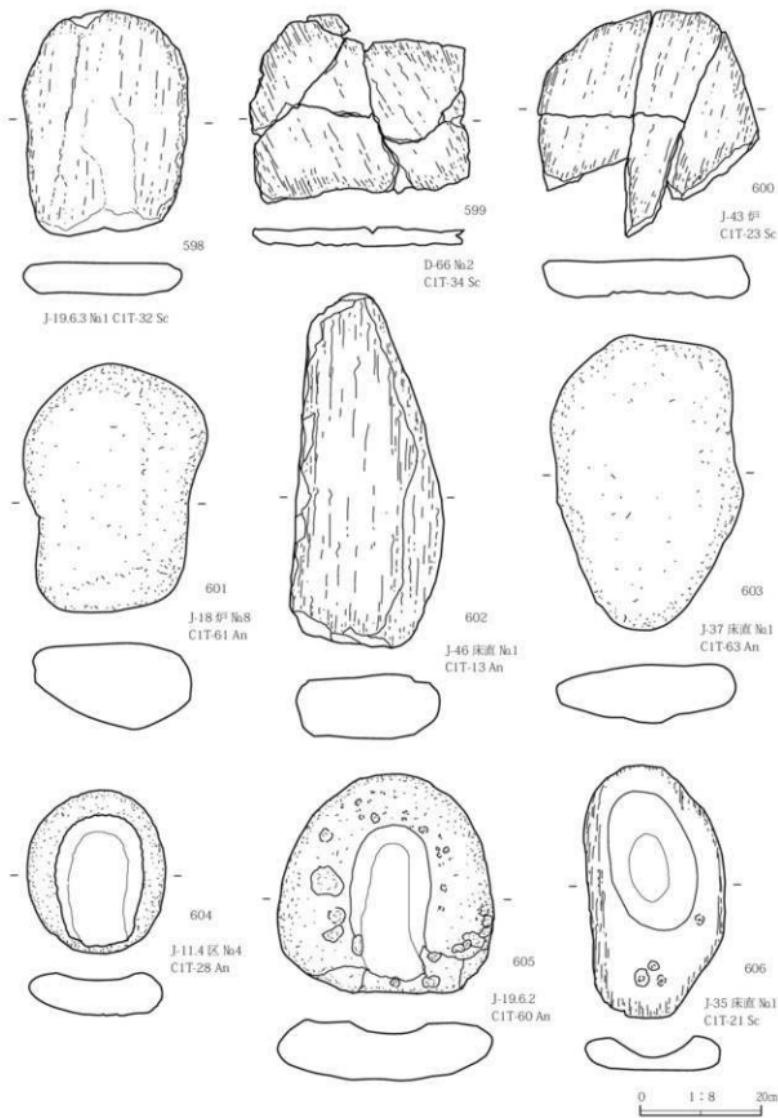
第232図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(42) 凹石2



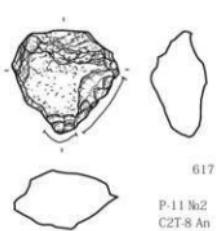
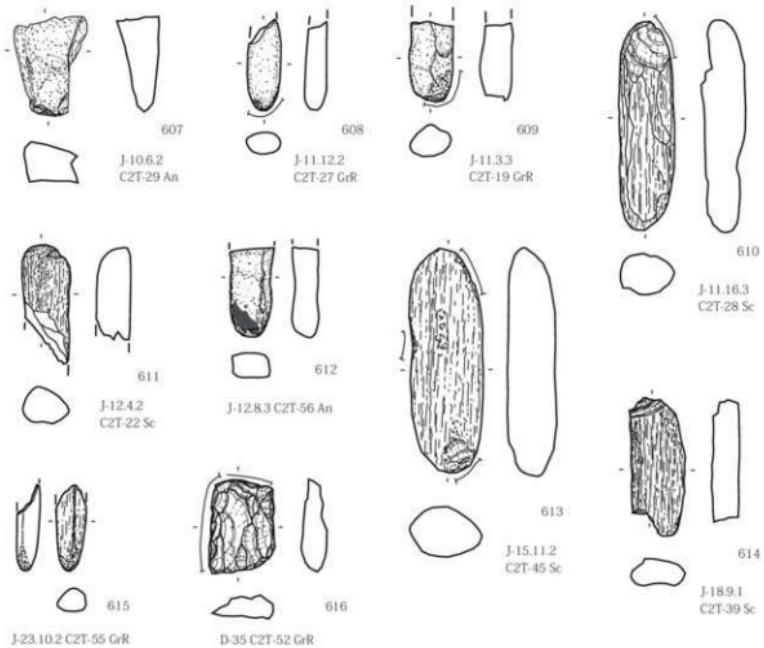
第233図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(43) 石皿1



第 234 図 三本木 II 遺跡（縄文）出土石器（44）石皿 2

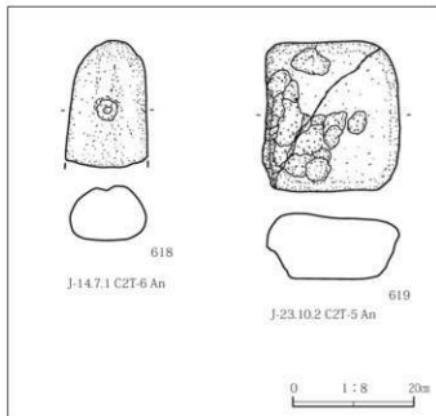


第235図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(45) 石皿3

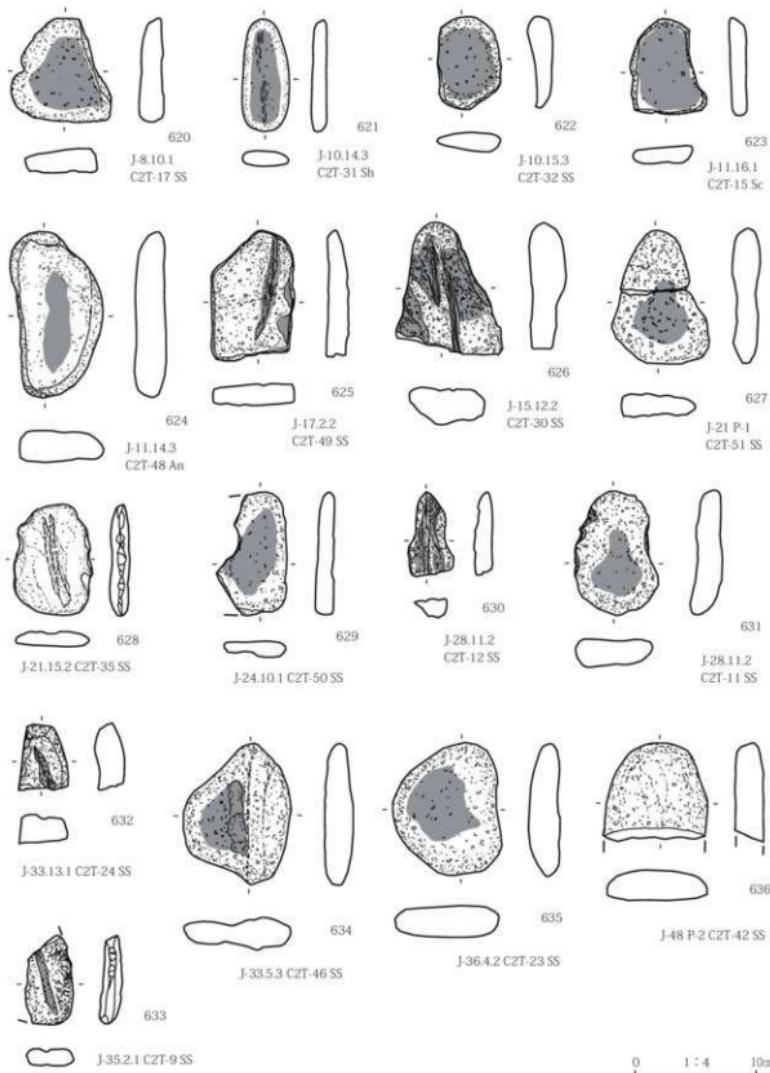


0 1 : 4 10mm

(—) 敲打範囲

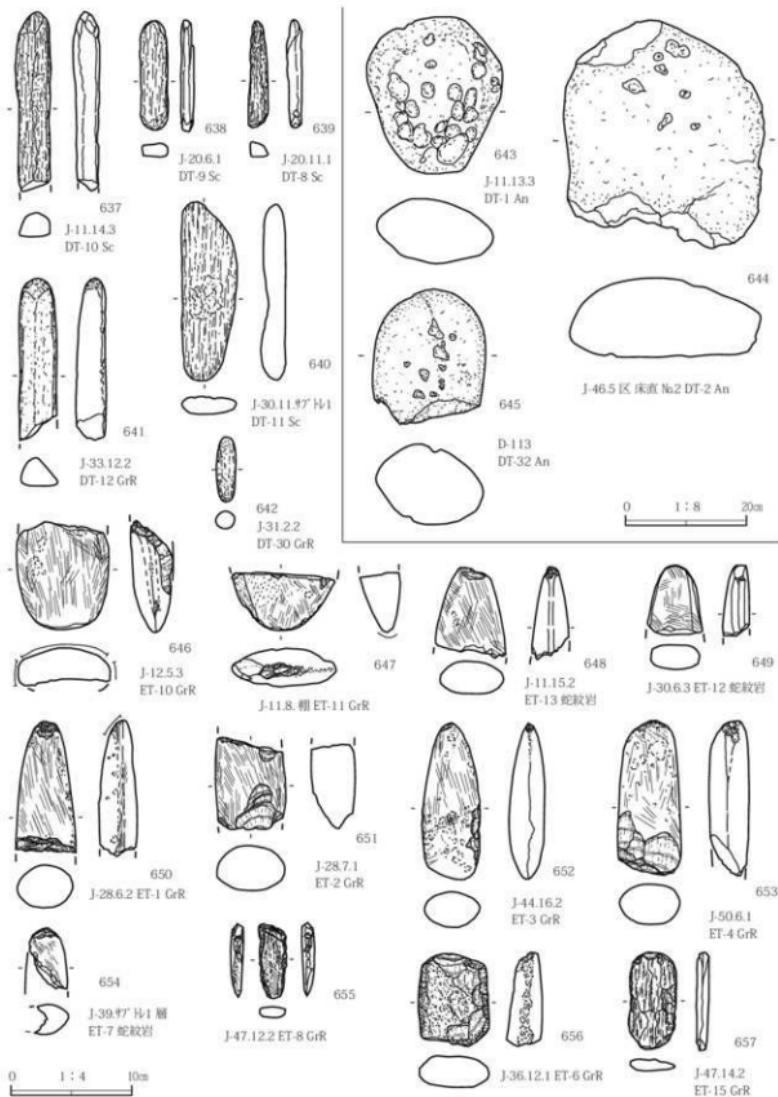


第236図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(46) 敲石・台石

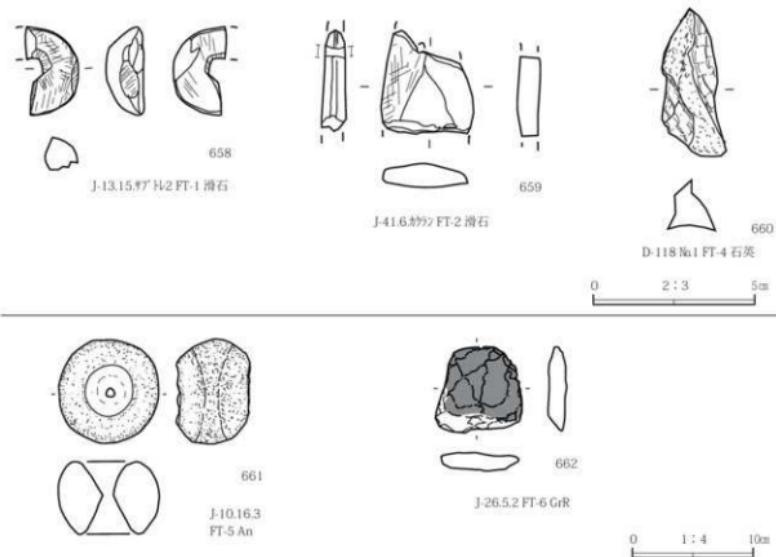


0 1 : 4 10mm

第237図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(47) 砥石



第238図 三本木II遺跡(縄文) 出土石器(48) 棒状礫・多孔石・磨製石斧



第239図 三本木II遺跡(縄文)出土石器(49) 石製品

(2) 三本木III遺跡出土の石器

古代の遺構覆土及び表土から38点出土した。器種別では、石鏃1点、石鏃未成品1点、RFA1点、石核A類1点、剥片A類9点、打製石斧2点、スクレイバーB類6点、RFB1点、石核B類1点、剥片B類11点、磨石1点、石皿1点、砥石1点、磨製石斧1点である。石材別では黒曜石12点、チャート1点、頁岩20点、安山岩2点、砂岩1点、結晶片岩1点、緑色岩類1点である。これらの石器は、遺構に伴う出土ではないが、石鏃、打製石斧等の製品を主体としていることから、この場所で何らかの生業活動に伴って使用、廃棄されたものと考えられる。石器の時期は、出土土器との関係から、三本木II遺跡と同時期(前期)、あるいは後期前半に帰属する可能性が考えられる。

なお、石器台帳(データ編に所収)は作成したが、図示はしていない。

(3) 平塚遺跡出土の石器

表土から石器が4点出土した。RFA1点(黒曜石)、スクレイバーB類1点(頁岩)、頁岩の剥片2点(剥片B類)である。石器の時期は、出土土器との関係から、前期前葉あるいは中期後半に帰属するものと考えられる。
(井上)

4. 土師器・須恵器、その他の土器

(1) 奈良・平安時代の土師器・須恵器 (第240~251図)

三本木II遺跡出土の土器 (第240図、第20表)

1は、土坑から分割されて出土した8世紀前半の小形甕（土師器）、2は8世紀後半の上野型有蓋短頸壺蓋（須恵器）の破片である。2と3はS-3号集石から出土した。

平塚遺跡出土の土器 (第240・241図、第20表)

古墳周溝及び石室から出土した。特にK-4号古墳では、前庭部周溝付近から須恵器を主体とした壺、蓋、長頸壺、甕の複数個体が意図的に破壊された状態でまとめて出土した。これらの土器群は、8世紀代を主体したもので、三本木III遺跡の土器群と一部同時期のものが含まれる。主な器種は、暗文をもつ暗文壺（5、6）、壺（7、8）、削り出しの高台付壺（9）、環状摘みをもち、カエリをもつものともたないものに分類される須恵器蓋（10、11）、環状摘みと蓋の肩に跨状の突起を付す特徴をもつ上野型有蓋短頸壺の被せ蓋（12）、小形短頸壺（13）、長頸壺（14~17）、須恵器大形甕（14）である。前回調査では、2基の古墳から8世紀前半の土器群（須恵器壺・蓋、短頸壺、長頸壺）が出土している。

三本木III遺跡の土器 (第242~251図、第20表)

住居址を中心に8世紀後半から9世紀後半にかけての土器群が出土した。ただし、8、9世紀ともに第2四半期に型式的な土器群の空白段階が存在する。

8世紀の土器群は、第1四半期（3軒）、第3四半期（1軒）、第4四半期（4軒）にそれぞれ区分される。前半では、環状摘みをもちカエリのある須恵器蓋、平塚遺跡K-4号古墳出土と類似する短頸壺類が組成する。後半では、内面渦巻き状の暗文をもつ暗文壺、底部切り離しが削り出しによる須恵器壺、須恵器盤、上野型有蓋短頸壺蓋、器体が薄く削られた口縁部がくの字に屈曲し、開く土師器甕、球胴の土師器壺が組成する。上野型有蓋短頸壺は、主に火葬墓（坪は骨銅器として使用し、蓋を被せる）からの出土が多いが、本遺跡群では蓋のみが住居址から出土した。市内では、二反田遺跡（窯跡）、五料山岸遺跡（土器集積？）等で出土している。

9世紀の土器群は、第1四半期（3軒）、第3四半期（4軒）、第4四半期（1軒）、前半（1軒）にそれぞれ区分される。前半では、須恵器付底面切り離しが回転糸切りで、高台がつくもの、環状摘みをもつカエリのない須恵器蓋、暗文のある土師器壺、口縁が屈曲し、器体が薄い土師器甕等が組成する。H-16号住居址では、市内では初出となる「中」と墨書きされた土師器壺（外側に墨書）と須恵器高台付盤（底部外側に墨書）が出土した。「中」は、人名あるいは位置・大小等に関連するものと考えられる。後半では、壺、高台付壺・皿等を含めて須恵器が主体となり、土師器ではこの時期に特徴的な「コ」の字状口縁の甕が組成する。前回調査では、4軒の住居址から9世紀代の土器が出土している。

(2) 中世の土器 (第240図)

三本木II遺跡のIa層から、瀬戸系陶器である織部焼の皿破片が1点（4）出土した。

(井上)

5. 金銅・鉄製品 (第252・253図)

1、2は三本木II遺跡の遺構外から出土した金銅製耳環である。2点とも本来、古墳の副葬品として出土すること多いことから、平塚遺跡の古墳のものが人為的に遺跡内に持ち込まれ、混入した可能性がある。断面楕円形で環状に曲げられた鉄軸に薄く金銅のメッキが施されている。3は先端が扁平となる鉄鍔欠損品である。4~18は平塚遺跡の各古墳石室内から出土した鉄釘である。鉄釘は前回調査した古墳から多数出土している。鉄釘は、完形品は無く、全て先端あるいは基部が欠損している。断面は方形である。19~30は三本木III遺跡から出土した鉄製品（19~29）、鉄滓（30）である。19はU字型鍔・鍔先であり、片側装着部が欠損する。20は細長く先端がやや湾曲する鉄鍔で、曲線刃に分類される。21~23は刀子の欠損品である。鉄板を断面が細長い三角形となるように折り返して製作されている。24は、先端が扁平で刃刃のノミ状鉄製品である。25~28は器種不明の鉄製品である。29は3分割された鉄軸で軸の一つに細いカギの手状（逆L字状）のフックが付く。紡錘車の軸と推定される。30は鉄滓である。表面には木質状（繊維状）の付着物がある。鍛冶に関連する遺物は、30のみである。古墳出土のものは、7世紀後半~8世紀前半、住居出土のものは、8~9世紀に帰属する。

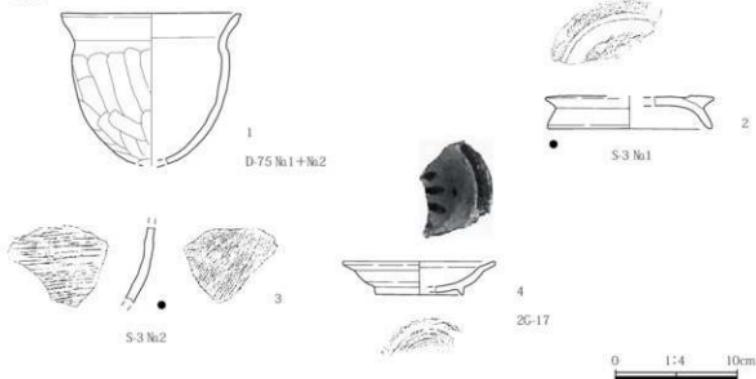
(井上)

6. 古代の石器・石製品 (第254~256図)

石器・石製品は、全て三本木III遺跡から出土した。1~5は石製紡錘車である。1~4はやや黒味がかった滑石製で、断面台形状となる。この4点とも形状、大きさに規格性がみられる。5は、黄白色の流紋岩製で、やや楕円形、断面扁平である。6~8は白色の石英剥片である。人為的な加工痕は観察されないが敲打による剥離があるため、火打ち石の可能性が考えられる。9は軽石製の石製品だが、加工痕はなく、器種・用途は不明である。10は、8世紀後半の住居址から出土した權衡（竿秤の鐘）である。形態は砥石に類似するが、吊り下げ用の紐通し孔があることで区別した。この資料は神谷・笹沢氏による分類（神谷・笹沢2008）のII・G形態（本体側面上位に横方向に紐を通すための穿孔があり、截頭四角錐状）に分類されるものである。權衡の出土は、県内で72例が確認されており、9世紀後半以降に出土例が増加する。この資料は、官衙工房、寺院、富豪層居宅等の特殊な遺跡で出土する傾向があり、本集落の特徴を考える上で貴重な発見である。11~18は砥沢石（流紋岩）を使用した砥石である。形態は角柱状タブレット状（板状）で側面全面を中心に研ぎ面としたものが多い。砥石は、研ぎ面はやや湾曲（凹み）し、一部には刃部研磨に伴う線条痕（筋状の溝）が観察される（10、14、16）。砥石の縁には敲打調整が残り、紐を通すための有孔も存在する（14）。なお、14については、權衡の可能性があるが、表面に研ぎ痕が多數あることから砥石に分類した。19は安山岩製の砥石で、研ぎ面には線条痕が観察される。20~22は磨石である。礫平坦面と礫側面には、敲打による使用痕が観察される。23~26は台石あるいは鍛冶に関係する金床石である。平坦な礫面を作業面として利用している。礫面には敲打痕が少數みられる。26には刃部研磨に伴う線条痕が観察され、砥石の機能を持った石器と考えられる。編目石は、24点出土し、大きさの平均は、長さ95.6mm、幅44.9mm、厚さ31.9mm、重量218.5gである。出土した石器・石製品は、8~9世紀に帰属する。

(井上)

G-23G



K-4・5号古墳

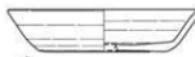


周溝交差部

K-4号古墳



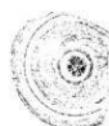
周溝4区 №10



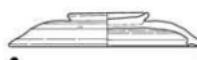
周溝4区 №23



周溝4区 №23



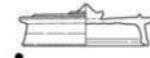
石室 №4



周溝1区 №4



周溝4区 №19+集中

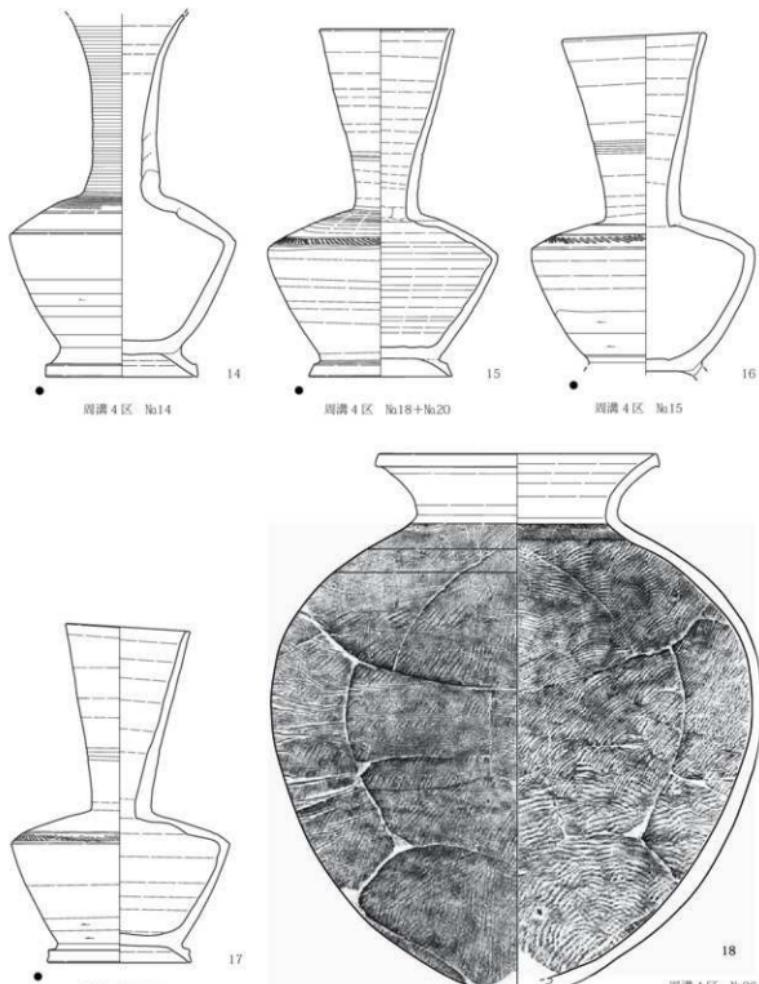


石室 №2

0 1:4 10cm

第240図 三木木II遺跡(古代) 出土土器・平塚遺跡(古代) 古墳出土土器(1)

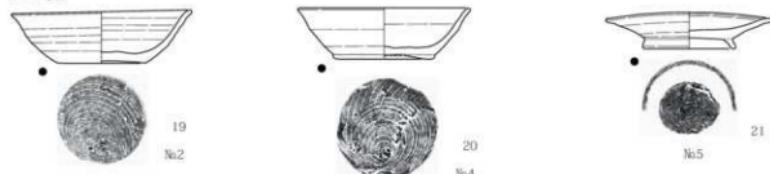
K—4号古墳



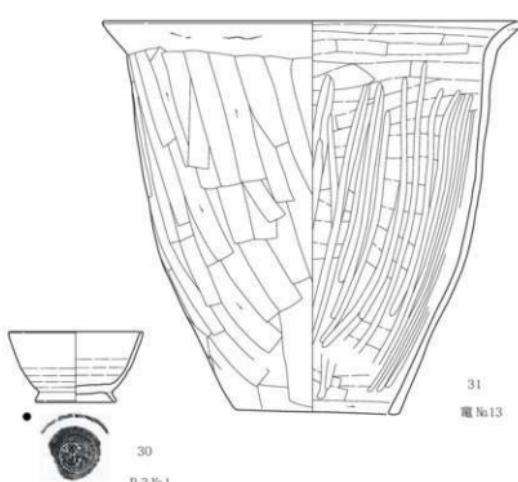
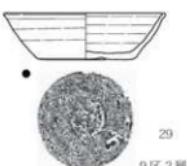
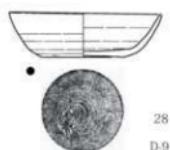
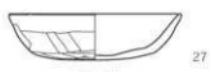
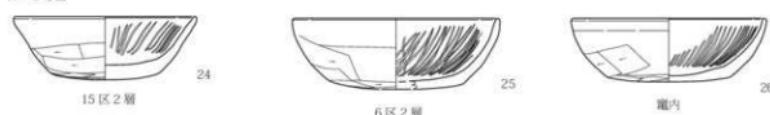
0 1:4 10cm

第241図 平塚遺跡(古代) 古墳出土土器(2)

H-7号住



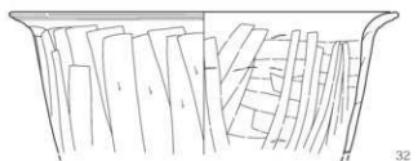
H-8号住



0 1:4 10cm

第242図 三本木III遺跡(古代) H-7・8号住居址出土土器

H-8号住



竈 No.8



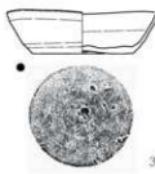
14区1層



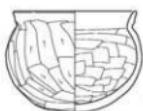
15区2層 No.3



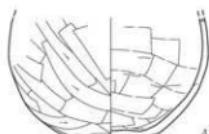
15区2層 No.2



8区2層 No.1



16区2層



15区2層 No.1

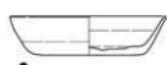
H-9号住



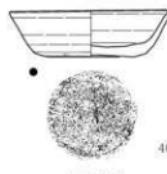
2区2層 No.1



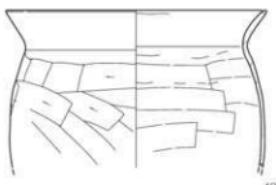
11区2層 No.2



14区2層

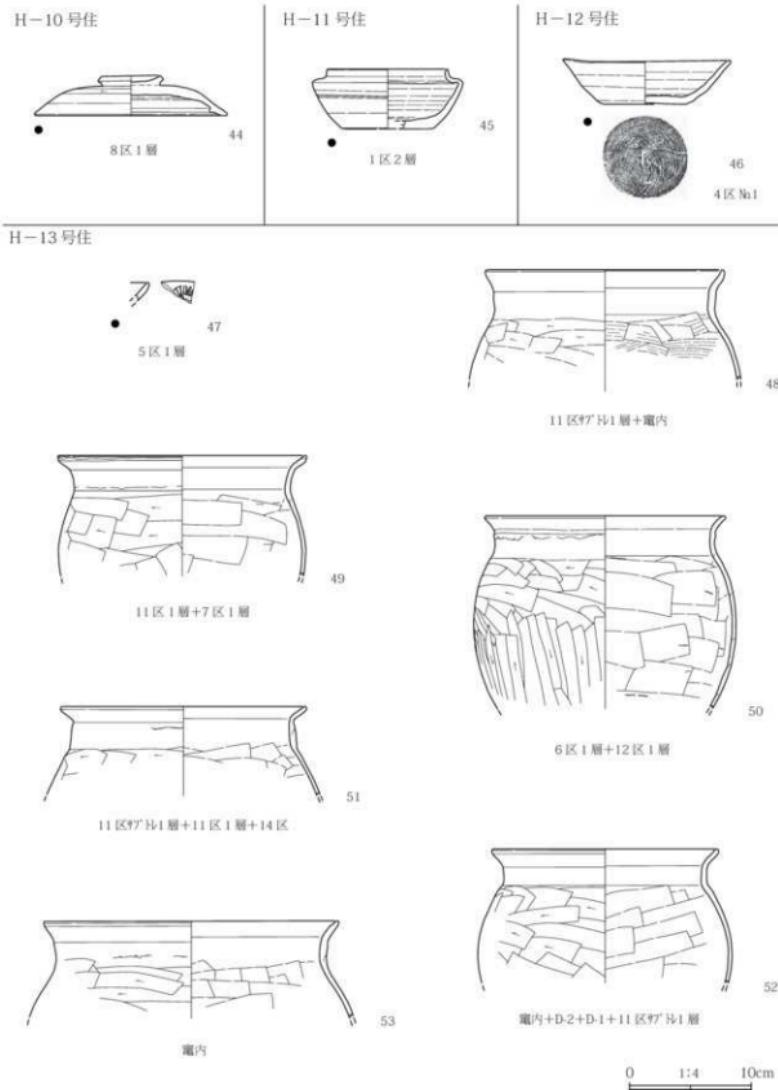


14区2層



0 1:4 10cm

第243図 三本木III遺跡(古代) H-8・9号住居址出土土器



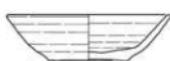
第244図 三本木III遺跡（古代） H-10・11・12・13号住居址出土土器

H-14号住



54

8区2層



55

電No.1



56

15区2層



57



10区1層



58



13区2層



59

4区1層



60



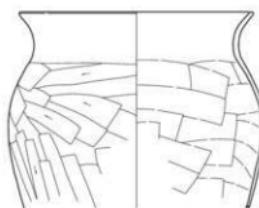
2区1層



61



11区1層



電No.4

62

H-15号住



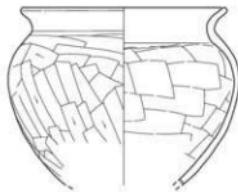
63

11区2層



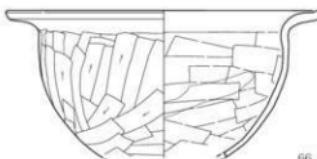
64

10区1層



65

D-1



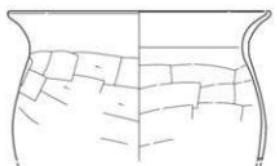
66

14区3層

0 1:4 10cm

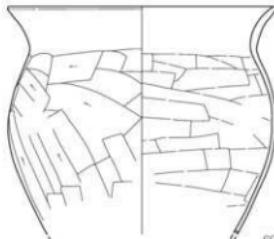
第245図 三本木III遺跡(古代) H-14・15号住居址出土土器

H-15号住

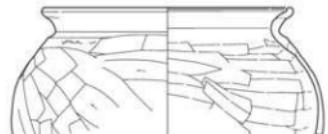


12区No1

67



69



15区No1

68

H-16号住



70



71

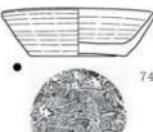


14区No6

72

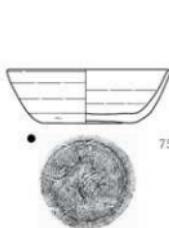


3区No1



10区No5

74

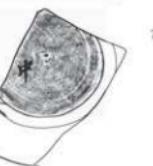


15区No8

75



16区No11



4区No2

77



0 1:4 10cm

第246図 三本木III遺跡(古代) H-15・16号住居址出土土器

H-16号住



78

7区 No4



79

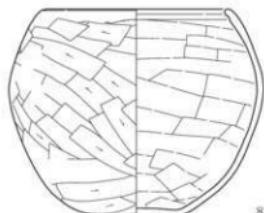


80

●

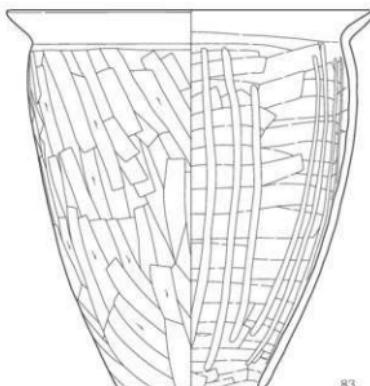
竈 No3

16区 No12



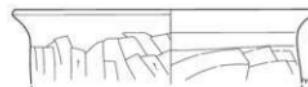
82

15区 No7



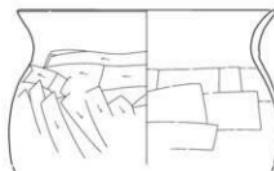
83

竈 No7+No11+No16



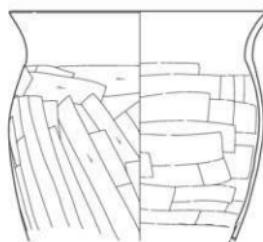
84

竈 No19



85

竈 No21+No15+竈内+竈上面



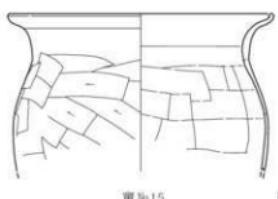
86

竈 No13+No18+No14+No16

0 1:4 10cm

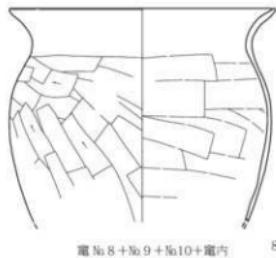
第247図 三本木III遺跡(古代) H-16号住居址出土土器

H-16号住



竈 №15

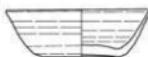
87



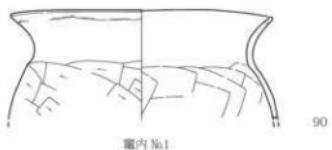
竈 №8 + №9 + №10 + 竈内

88

H-17号住



4区 №1



竈内 №1

90

H-18号住



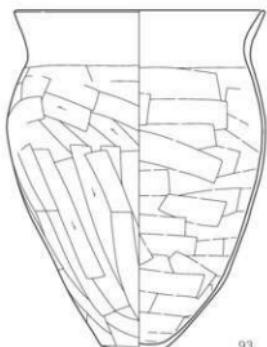
10区2層 №1

91



5区2層

92



93

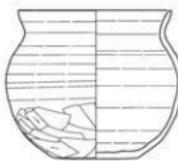
16区2層 №1+16区2層

H-19号住



14区1層

94



16区2層

95

H-20号住



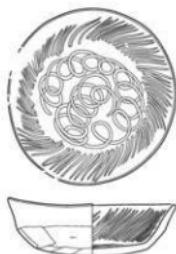
14区3層

96

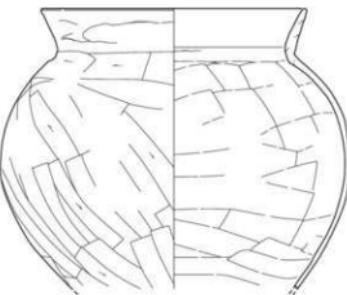
0 1:4 10cm

第248図 三本木III遺跡(古代) H-16・17・18・19・20号住居出土土器

H-20号住

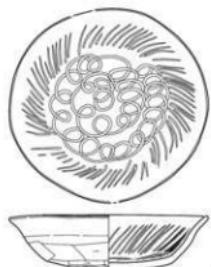


97



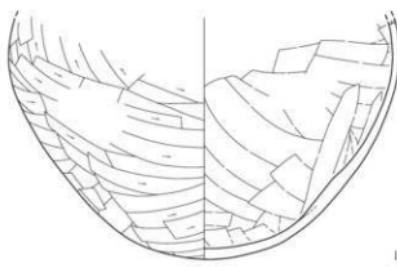
100

竈 No6+No9+No11+No12+No13+No3
+No8+竈内+14区2層+15区2層



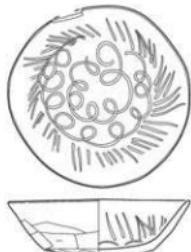
98

15区3層



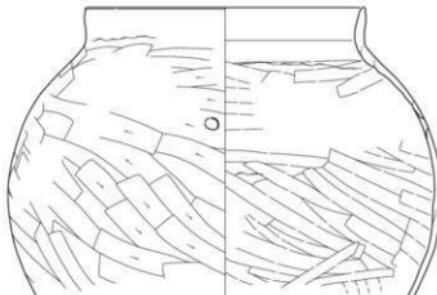
101

竈 No5+竈内+15区3層+15区2層
+16区1層+16区2層+11区3層



99

13区3層



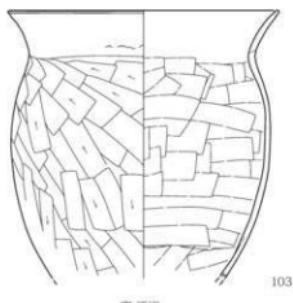
102

竈 No8+No13+No2+No4+No10+No11+竈内+14区2層+15区3層

0 1:4 10cm

第249図 三本木III遺跡(古代) H-20号住居址出土土器

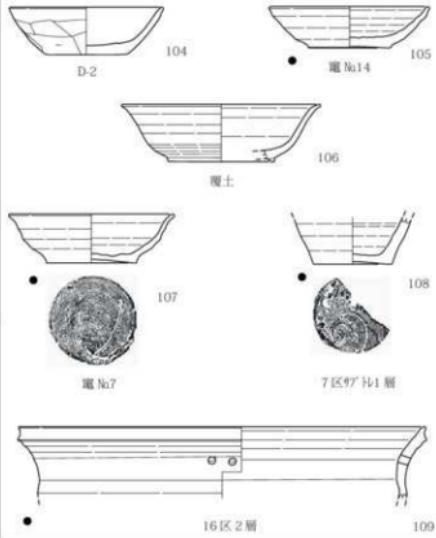
H-20号住



H-22号住

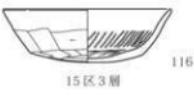


H-21号住

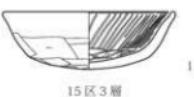


11区7号3層

15区3層



15区3層



15区3層

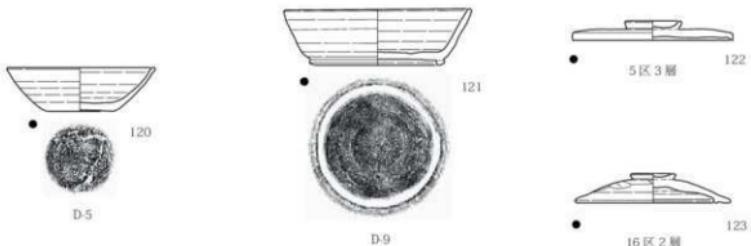
5区3層



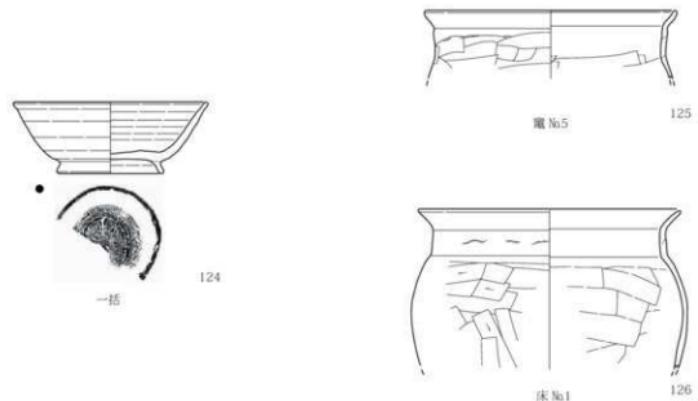
0 1:4 10cm

第250図 三本木III遺跡(古代) H-20・21・22号住居址出土土器

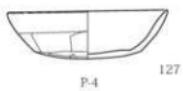
H-22号住



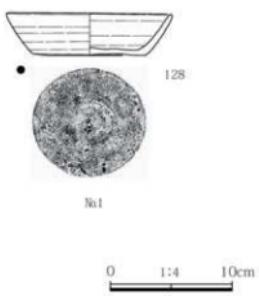
H-23号住



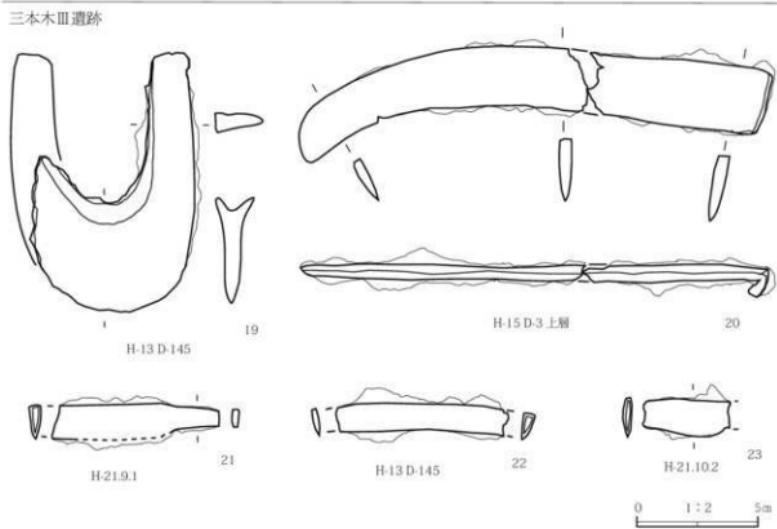
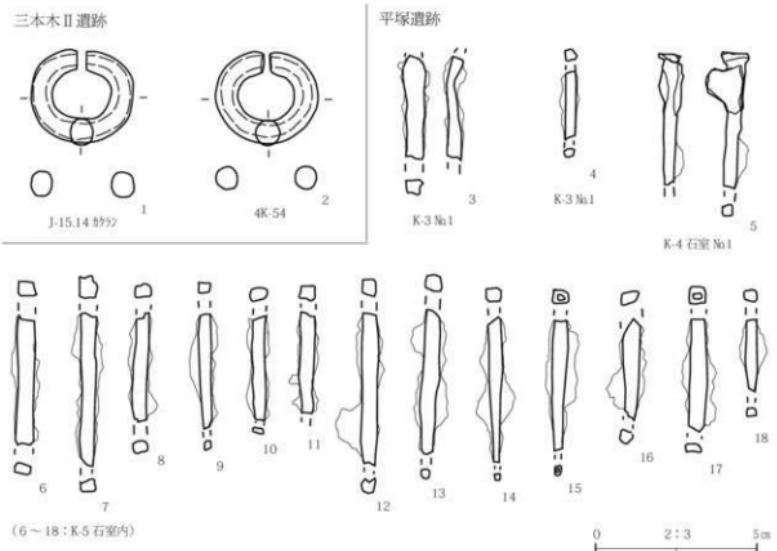
HT-3



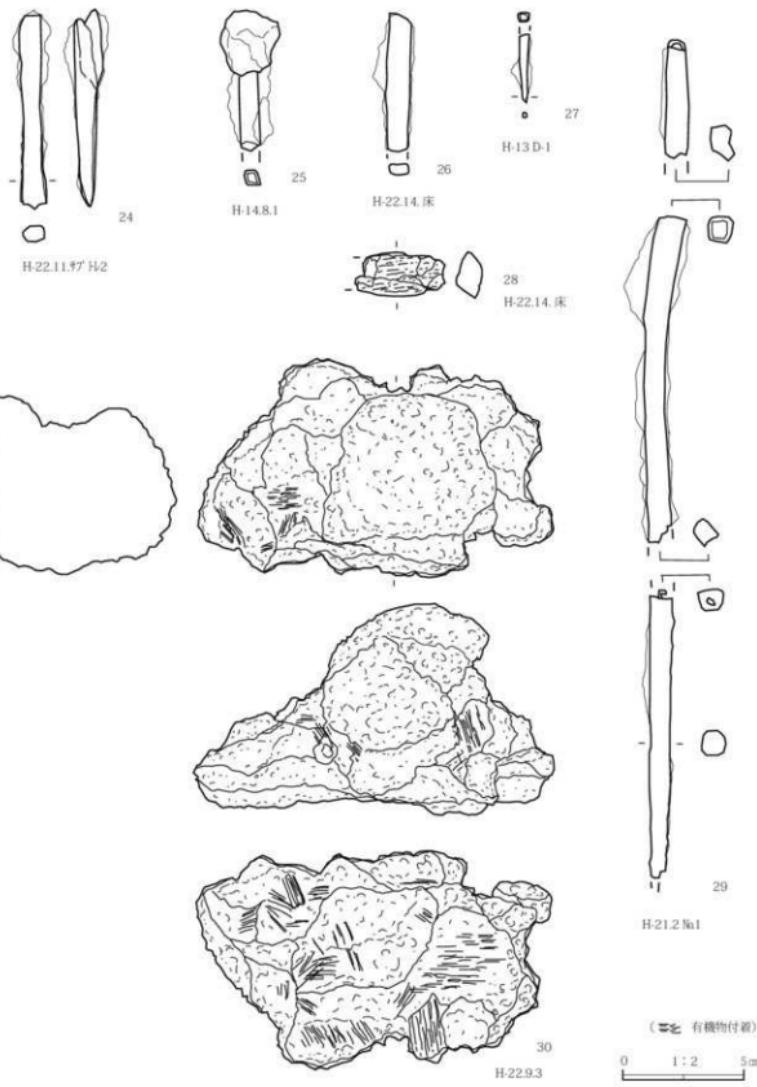
SF-1



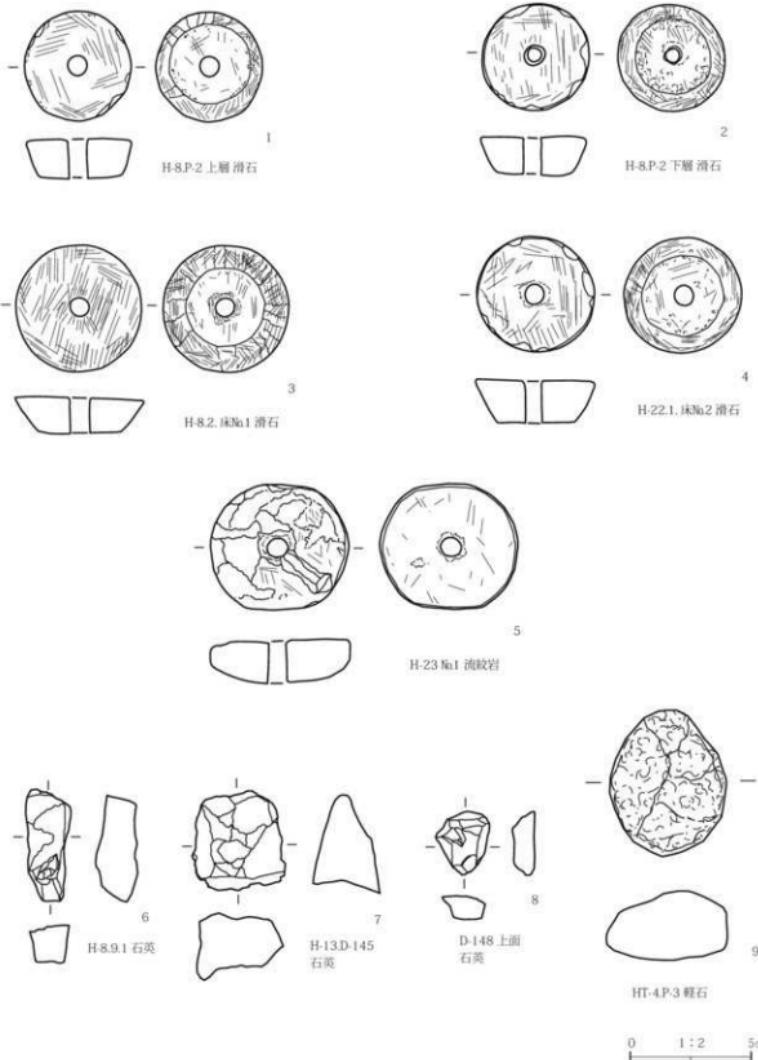
第251図 三本木III遺跡(古代) H-22・23号住居址・他遺構出土土器



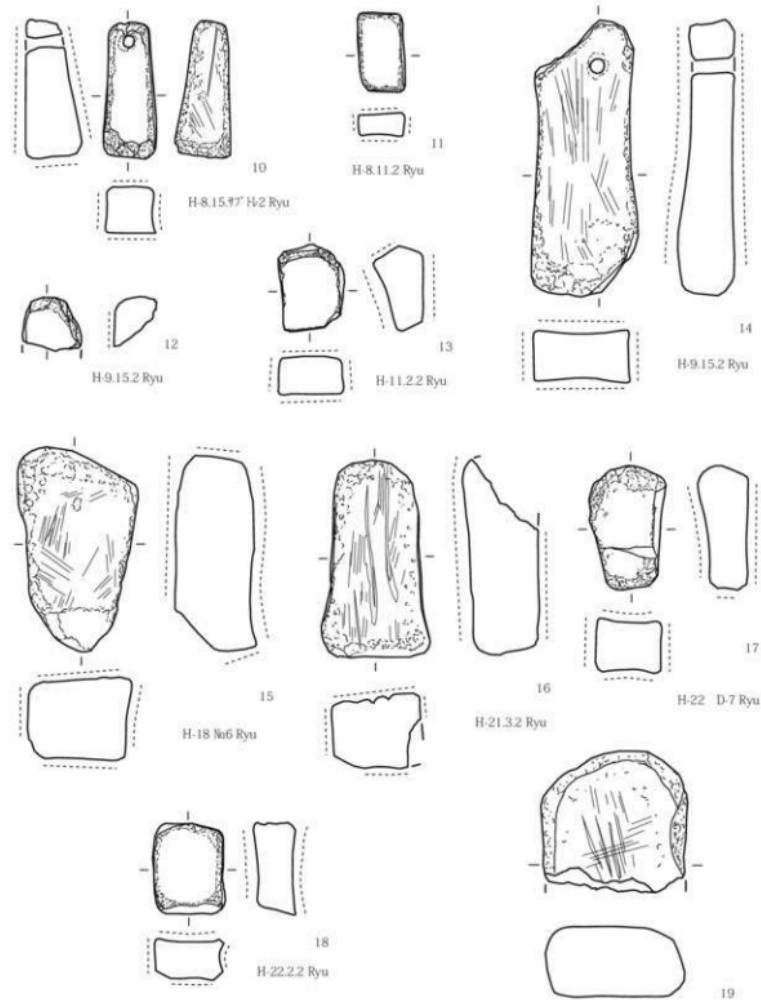
第252図 三本木II遺跡・三本木III遺跡・平塚遺跡(古代)出土鉄製品



第253図 三本木III遺跡(古代) 出土鉄製品



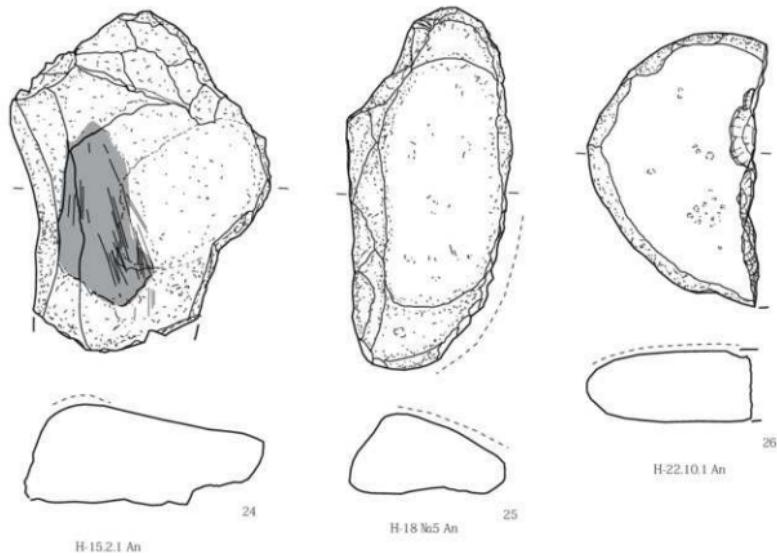
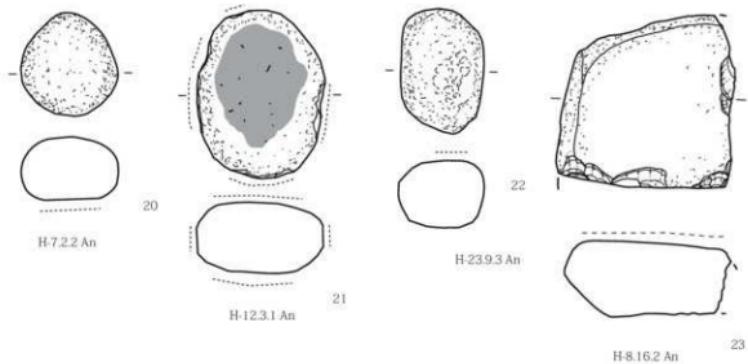
第 254 図 三本木III遺跡（古代）出土石器・石製品（1）



----- 使用痕 (研ぎ・磨り面) 観測

0 1 : 3 5 cm

第 255 図 三本木 III 遺跡 (古代) 出土石器・石製品 (2)



----- 使用痕範囲 ■ 使用痕(磨り面)範囲 0 1:4 10cm

第256図 三本木III遺跡(古代) 出土石器・石製品(3)

第19表 繩文土器・土製品観察表

持民番号	遺構	器種	部位	特徴	色調	胎土	備考 (型式(cm))
1	J-6	深鉢	口縁部・胴部	附加条(2種)鰐紋(RL+2R)→L縁部に平行沈線・押引紋(半截竹管状工具)。内面、L縁部ナデ、胴部タヌミガキ。	にぶい黄	織維。石英粗粒	関山式~有尾式
2	J-6	深鉢	口縁部	附加条(1種)鰐紋(RL+2L)。内面、ヨコミガキ。	赤褐	織維。多量の石英繊粒	関山式~有尾式
3	J-6	深鉢	口縁部	附加条(2種)鰐紋(RL+R)。内面、ナデ。	赤褐	織維。多量の石英繊粒	関山式~有尾式
4	J-6	深鉢	胴部	附加条(1・2種)鰐紋(R=3R、LR+3R)。内面、ヨコミガキ。	相	織維。多量の石英	関山式~有尾式
5	J-7	深鉢	口縁部・胴部	降帯→单沈線→印刻紋→キザミ。胴部、開端結節單節鰐紋(RL-Z)。L縁部、キザミ、内面、口脣下に降帯→ヨコミガキ。	相	青白。多量の石英	五頭ヶ台式
6	J-7	深鉢	胴部	開端結節單節鰐紋(RL-SLR-Z)→印別紋→单沈線・キザミ。内面、ヨコミガキ。	暗褐	多量の石英	五頭ヶ台式
7	J-7	深鉢	口縁部	刺突紋(角頭状工具)。内面、器面荒れ。	にぶい黄褐	多量の石英繊粒	五頭ヶ台式
8	J-7	深鉢	胴部	集合沈線。内面、ヨコミガキ。	赤褐	片岩・石英粗粒	五頭ヶ台式
9	J-8	深鉢	口縁部・胴部	平口縁。突起。口縁部に降帶で渦巻文・横円状区画一区画内に単節鰐紋(RL)→降帶筋に沈線。胴部に渦巻文・横円状区画一区画内に単節鰐紋(RL)。内面、口縁部→胴部上半ヨコミガキ、胴部下半タヌミガキ。	相	角閃石	知曾利E III式 口径(49.7)
10	J-8	深鉢	口縁部・胴部	平口縁。L縁部に降帶で渦巻文・横円状区画一区画交点に旋螺紋。区内に平行切線→降帯筋に沈線。胴部に降帶で蛇行文→沈線で逆U字状区画一区画内に矢羽状沈線。内面、ヨコミガキ。胴部下半のみタヌミガキ。焼成後穿孔。	にぶい黄褐	多量の角閃石	知曾利E III式 口径(33.5)
11	J-8	深鉢	底部	平底。單節鰐紋(LR)。内面、タヌミガキ。	相	角閃石	知曾利E III式 底径(8.8)
12	J-8	浅鉢	口縁部・胴部	降帶で渦巻文・横円状区画一区画内に複節鰐紋(RL)→降帶筋に沈線(一部断手状)。内面、ヨコミガキ。胴部下半のみタヌミガキ。	相	片岩	知曾利E III式 口径(33.2)
13	J-8	小型 浅鉢	口縁部・胴部	平口縁。1対の刺突紋。降帶でL縁部を横區画。胴部・把手に無節鰐紋(L)。内面、ヨコミガキ。	にぶい相	角閃石、多量の白色粒	知曾利E III式 口径(8.5)
14	J-9	深鉢	口縁部・胴部	双頭波状口縁。繼續状突起。胴部に単節鰐紋(RL-LR)→L縁部に併行沈線で手文→窓形・キザミ・点状紋(瘤状)。内面、L縁部ヨコミガキ。胴部タヌミガキ。追加成形技術。	相	白色粒・織維	関山式 口径(24.6)
15	J-9	深鉢	口縁部・胴部	平口縁。口縁部に平行沈線で区画・繼續紋・附加文→点状紋(瘤狀)→切削紋・キザミ。胴部に閉端横付単節鰐紋(0段多条、RL-LR、多段ループ紋)→複節鰐紋(半截竹管状工具)、真正コンパス紋。内面、L縁部ヨコミガキ、胴部タヌミガキ。追加成形技術。	相	織維。多量の石英	関山式 口径(23.6)
16	J-9	深鉢	口縁部・胴部	波状口縁。繼續状突起。波頭部に凹状突起。胴部に閉端横付単節鰐紋(0段多条、RL-LR、多段ループ紋)→L縁部に平行沈線で区画→真正コンパス紋(半截竹管状工具)→集合横付・点状紋(瘤狀)。内面、ヨコミガキ。	明黄褐	織維	関山式 口径(22.3)
17	J-9	深鉢	口縁部・胴部	波状口縁。繼續状突起。口縁部に平行沈線による区画・瘤状紋・半截竹管状工具、真正コンパス紋→点状紋(瘤狀)→切削紋・胴部に閉端横付単節鰐紋(0段多条、RL-LR、多段ループ紋)。内面、ヨコミガキ。	相	織維	関山式 口径(36.2)
18	J-9	深鉢	口縁部・胴部	平口縁。胴部に閉端横付単節鰐紋(0段多条、RL-LR)→L縁部に平行沈線で横紋・附加文→瘤状紋(半截竹管状工具、真正コンパス紋)→点状紋(瘤狀)。繼續状突起。内面、タヌミガキ、口脣下のみヨコミガキ。	相	織維	関山式 口径(28.2)
19	J-9	深鉢	胴部	閉端横付単節鰐紋(0段多条、RL-LR、多段ループ紋)。内面、胴部上半ヨコミガキ、胴部下半ヨコミガキ。追加成形技術。	黄相	織維	関山式
20	J-9	深鉢	口縁部	平口縁。L縁部に平行沈線で区画・コンパス文・小円文→キザミ(半截竹管状工具)。内面、ナギ。	灰黄	角閃石・白色粒・織維	関山式
21	J-9	深鉢	口縁部	履位陶帶・テナネ。内面、タヌミガキ。	相	角閃石・白色粒・織維	中越式
22	J-10	深鉢	口縁部・胴部	胴部に刺突紋(半截竹管状工具)→L縁部に刺突紋(半截竹管状工具)→点状紋(瘤狀)・刺突紋。内面、L縁部ヨコミガキ。胴部タヌミガキ。	明黄褐	織維	二ツ木式・関山式 口径(14.5)
23	J-10	深鉢	口縁部・胴部	平口縁。ヨコナデ。指頭面。内面、ヨコミガキ。指頭面。	赤褐	白色粒・織維	中越式 口径(8.8)
24	J-10	深鉢	口縁部	平口縁。口縁部に降帶→瘤状横付丘筋紋(2R-L)・点状紋(竹管)。内面、ヨコ・ナナメナデ。	灰黄	織維	二ツ木式
25	J-10	深鉢	口縁部	波状口縁。L縁部に平行沈線で区画・附加文等→キザミ・点状紋(竹管・廻り)。内面、タヌミガキで、口脣下のみヨコミガキ。	黄相	織維	二ツ木式・関山式
26	J-10	深鉢	口縁部	L縁部に平行沈線で区画等→キザミ→点状紋(瘤狀)。内面、ミガキ。浅黄	織維	二ツ木式・関山式	
27	J-10	深鉢	口縁部	瘤状波状口縁。胴部に閉端横付単節鰐紋(0段多条、RL-LR、多段ループ紋)→L縁部に平行沈線で横紋・附加文等→キザミ(半截竹管状工具)。真正コンパス紋(半截竹管状工具)→点状紋(瘤狀)。内面、ヨコミガキ。	にぶい相	織維・石英粗粒	関山式
28	J-10	深鉢	口縁部	波状口縁。繼續状突起。L縁部にキザミ付横付降帶→平行沈線→キザミ(半截竹管状工具)。真正コンパス紋(半截竹管状工具)→点状紋(瘤狀)。内面、ミガキ。	浅黄	織維	関山式
29	J-10	深鉢	胴部	閉端横付単節鰐紋(RL-LR、多段ループ紋)→平行沈線で波状文→点状紋(竹管)。内面、ヨコミガキ。	相	織維	関山式
30	J-10	深鉢	口縁部	波状口縁。ヨコナデ。指頭面。内面、ヨコナデ。	明黄	織維・石英粗粒	中越式
31	J-10	深鉢	口縁部	有段口縁。L縁部に覆面平行沈線。内面、ヨコナデ。	にぶい相	多量の石英繊粒	堂之上Z式
32	J-10	深鉢	口縁部	有段口縁。口脣下に刺突列(ヘラ状工具)。L縁部、キザミ。内面、ヨコナデ。	にぶい相	角閃石、多量の石英繊粒	上の坊式
33	J-10	深鉢	胴部	ナメナデ。指頭面。内面、ヨコナデ。指頭面。	にぶい黄褐	青白・織維・石英粗粒	本島式

捕获番号	道標	器種	部位	特徴	色調	胎土	備考 (型式(cm))
34	J-11	深跡	口縁部～胴部	平口縁。胸部に閉端環付單節繩紋(0段多条, RL+LR)→口縁部に平行沈継紋・條状紋(半截竹管状工具)、真正コンバス紋→点状紋(瘤狀)・瓣歯状突起→キザミ。内面、口縁部ヨコミガキ、胴部タテミガキ。	にぶい橙	織維	関山I式 口径(17.1)
35	J-11	深跡	口縁部～胴部	双頭波状口縁。瓣歯状突起。胸部に閉端環付單節繩紋(0段多条, RL+LR, 多段ループ紋)→口縁部に点状紋(瘤狀)、瓣歯状突起→キザミ。内面、口縁部ヨコミガキ、胴部タテミガキ。附加条、真正コンバス紋(半截竹管状工具)→点状紋(瘤狀)→集合キザミ。内面、ヨコミガキ。	黄柏	織維	関山I式 口径(40.2)
36	J-11	深跡	口縁部～胴部	波状口縁。瓣歯状突起。内面、口縁部ヨコミガキ、胴部タテミガキ。	褐	織維	関山式 口径(34.5)
37	J-11	深跡	口縁部～胴部	平口縁。閉端環付單節繩紋(0段多条, RL+LR)→點状紋(半截竹管状工具)、真正コンバス紋)、口縁部に点状紋(瘤狀)、瓣歯状突起→内面、ヨコミガキ。追加成形技法。	にぶい橙	織維	関山式 口径(23.6)
38	J-11	深跡	口縁部～胴部	波状口縁。閉端環付單節繩紋(0段多条, RL+LR, 多段ループ紋)→点状紋(半截竹管状工具)、和真正コンバス紋)、波頂部に小突起痕。内面、ヨコミガキ。胴部ヨコミガキ。	にぶい黄柏	織維	関山式 口径(37.6)
39	J-11	深跡	胴部	閉端環付單節繩紋(0段多条, RL+LR, 多段ループ紋)→條状紋(半截竹管状工具)、真正コンバス紋)、内面、ヨコミガキ。追加成形技法。	明褐色	織維	関山式
40	J-11	深跡	口縁部～胴部	平口縁。點状繩紋(0段多条, RL+LR)、内面、ヨコミガキ。胴部タテミガキ。	にぶい黄褐	織維	関山式 口径(19.0)
41	J-11	深跡	口縁部～胴部	平口縁。點状繩紋(0段多条, RL+LR)、内面、ヨコミガキ。胴部タテミガキ。追加成形技法。	浅黄	織維	関山式 口径(18.1)
42	J-11	深跡	口縁部～胴部	平口縁。閉端環付單節繩紋(0段多条, RL+LR)、逆位。内面、口縁部ヨコミガキ。胸部ナメミガキ。	暗褐	織維、多量の石英粒	関山式 口径(27.8)
43	J-11	深跡	口縁部～胴部	平口縁。點状繩紋(0段多条, RL+LR)、内面、口縁部～胴部上ヨコミガキ。胴部下タテミガキ。追加成形技法。	にぶい褐	白色粒・織維	関山式 口径(21.8)
44	J-11	深跡	口縁部	平口縁。瓣歯状突起。閉端環付單節繩紋(0段多条, RL)→口縁部に平行沈継紋・瘤狀(瘤狀)。瘤狀紋(半截竹管状工具、コンバスク紋)。内面、ヨコミガキ。	にぶい黄褐	織維	関山I式～関山式
45	J-11	深跡	口縁部	平口縁。瓣歯状突起。閉端環付單節繩紋(0段多条, RL+LR, 多段ループ紋)。内面、ヨコミガキ。底部穿孔空洞。	灰黃褐	角閃石・織維	関山式
46	J-11	深跡	底部	上底、削油環付單節繩紋(0段多条, RL+LR, 多段ループ紋)。内面、タテミガキ。底部、閉端環付單節繩紋(0段多条, RL+LR)。	にぶい黄柏	織維	関山式 底径8.6
47	J-11	深跡	口縁部	平口縁。ヨコナミ。内面、ナナミガキ。	柏	織維	中極式
48	J-12	深跡	口縁部～胴部	平口縁。瓣歯状突起。異条 繩紋(RLR+RL+RL+RR, LRL+RR+LR+LL)→点状繩紋(半截竹管状工具、真正コンバス紋)。内面、口縁部～胴部上ヨコミガキ。胴部下タテミガキ。	真正黄柏	織維	関山式 口径(26.8)
49	J-12	深跡	口縁部～胴部	平口縁。點状繩紋(0段多条, RL+LR)。内面、口縁部ヨコミガキ。胴部タテミガキ。追加成形技法。	褐	織維、多量の石英	関山式 口径(16.7)
50	J-12	深跡	胴部	無節繩紋(R)。内面、軽いヨコナミ。追加成形技法。	浅黄	織維	関山式
51	J-12	深跡	口縁部	平口縁。瓣歯状突起。閉端環付單節繩紋(0段多条, RL)→口縁部に真正コンバス紋(半截竹管状工具)、多段ループ紋)→口縁部に平行沈継紋→点状紋(瘤狀・竹管削突)。内面、ヨコミガキ。	柏	織維	関山I式
52	J-12	深跡	口縁部	瓣歯状突起。單節繩紋(0段多条, RL)→口縁部に真正コンバス紋(半截竹管状工具)区画→平行沈継紋→点状紋(瘤狀・竹管削突)。内面、ヨコミガキ。	浅黄	織維	関山I式
53	J-12	深跡	口縁部	附加条(1種) 繩紋(RL+LR+RL)。内面、ヨコミガキ。	赤褐	織維	関山式
54	J-12	深跡	口縁部	板状突起。胴部(瘤狀)。内面、ミガキ。	にぶい黄褐	織維	関山式
55	J-12	深跡	口縁部	刺剝穴(爪)。内面、ナデ。	明黄色	角閃石、多量の石英粒	濟州島ノ上II式
56	J-12	深跡	口縁部	結束繩紋(0段多条, RL+LR)。内面、ヨコナデ。	褐	多量の石英粒	神ノ木式
57	J-12	深跡	胴部	結束繩紋(RL+LR)。内面、ヨコナデ。	黄柏	角閃石・白色粒、多量の石英粒	神ノ木式
58	J-12	深跡	胴部	結束繩紋(RL+LR)。内面、ヨコナデ。	黄柏	多量の石英粒	神ノ木式
59	J-13	深跡	口縁部～胴部	平口縁。瓣歯状突起。胸部に閉端環付單節繩紋(0段多条, RL+LR)→點状繩紋(半截竹管状工具)、真正コンバス紋)→点状繩紋(瘤狀・竹管削突)。内面、ヨコミガキ。胴部タテミガキ。	浅黄	織維	関山I式 口径(22.0)
60	J-13	深跡	口縁部～胴部	平口縁。閉端環付單節繩紋(0段多条, RL+LR)。内面、口縁部ヨコミガキ。胴部タテミガキ。	にぶい黄柏	織維	関山式 口径(20.2) 修理設土器
61	J-14	深跡	口縁部～胴部	平口縁。閉端環付單節繩紋(0段多条, RL)。内面、タテミガキ。口縫下のヨコミガキ。	にぶい黄柏	織維	二ツ木式～関山式 口径(21.8)
62	J-14	深跡	口縁部～胴部	平行沈継・瘤狀繩紋(R)。内面、胴部上ヨコミガキ。胴部下タテミガキ。	黄柏	角閃石・白色粒状物・織維、多量の石英	関山式
63	J-14	深跡	口縁部	平口縁。單節繩紋(RL)。内面、角頭状工具による軽いヨコナデ。	明黄色	白色粒状物・織維	関山式
64	J-14	深跡	胴部	單節繩紋(RL)。内面、角頭状工具による軽いヨコナデ。	黄柏	白色粒・織維	関山式
65	J-15	深跡	口縁部～胴部	波状口縁。白瘤状突起。波頂部小板状突起。閉端環付單節繩紋(0段多条, RL+LR, 多段ループ紋)→點状繩紋(半截竹管状工具)、真正コンバス紋)。内面、ヨコミガキ。胴部タテミガキ。追加成形技法。	浅黄	織維	関山式 口径(26.8)
66	J-15	深跡	口縁部	单頭或2頭口縁。瓣歯状突起。波面部に縦発小突起。異条繩紋(0段多条, RLR+2RL+LRL+2LR)→口縁部に平行沈継・瓣歯状突起。真正コンバス紋)。内面、ヨコミガキ。	黄柏	織維	関山I式

持因 番号	遺構	器種	部 位	特 徴	色 調	胎 土	備 考 (型式/cm)
67	J-15	深鉢	口縁部	附加条(1種) 錫鉄(RL+R+RL+L)→施状鉄(半截竹管状工具、上下コンバス鉄)→L部に点状鉄(瘤状)。内面、ヨコミガキ。	黄褐	織維。多量の石英細粒	開山式
68	J-15	深鉢	胴部	タテナデ。指頭痕。内面、タテミガキ。輪筋痕。	褐	織維	中越式
69	J-17	深鉢	口縁部～胴部	半口縁。片口。鋸齒状突起。閉端環付單節錫鉄(RL+R、多段ループ鉄)→L部下側切紋。内面、ヨコミガキ。	褐	織維	開山式 口径(16.6) 鉄埋設土器
70	J-17	深鉢	口縁部～胴部	口縁部に平行沈線→点状鉄(瘤状)。閉端環付單節錫鉄(0段多条、RL+R、多段ループ鉄)。内面、ヨコミガキ。	褐	織維。多量の石英	開山式
71	J-17	深鉢	口縁部	押引鉄(半截竹管状工具)。点状鉄(行貫)。内面、タテミガキ。	黄褐	織維	開山式
72	J-17	深鉢	口縁部	胴部に錫鉄(1種)。剥離(剥離)。内面、ヨコミガキ。	灰黄	白色粒・織維	開山式
73	J-17	深鉢	口縁部	半口縁。鋸齒状突起。閉端環付單節錫鉄(0段多条、RL+R、多段ループ鉄)→点状鉄(瘤状)。施状鉄(半截竹管状工具。真正コンバス鉄)。内面、ヨコミガキ。	黄褐	織維	開山式
74	J-17	深鉢	口縁部	半口縁。鋸齒状突起。真正コンバス鉄(0段多条、RL+R、多段ループ鉄)→施状鉄(半截竹管状工具。真正コンバス鉄)。内面、ヨコミガキ。	黄褐	織維	開山式
75	J-17	深鉢	胴部	黒いナナデ。内面、ナナミガキ。	赤褐	織維。多量の石英	中越式
76	J-18	深鉢	口縁部～胴部	或成口部。鋸齒状突起。剥離(剥離)。内面、口縁部ヨコミガキ。褐 胴部タテミガキ。	褐	織維	開山式 口径(33.0)
77	J-18	深鉢	口縁部～胴部	半口縁。鋸齒状突起。閉端環付單節錫鉄(0段多条、RL+R、多段ループ鉄)→L部下側切紋。施状鉄(半截竹管状工具。真正コンバス鉄)。明褐 内面、ヨコミガキ。	明褐	織維	開山式 口径25.2
78	J-18	深鉢	口縁部～胴部	半口縁。白斑状突起。裏柔錫鉄(0段多条、RL+R+2RL+LRL+2LL+R)→施状鉄(半截竹管状工具。真正コンバス鉄)。内面、褐 ヨコミガキ。追加成形技術。	褐	織維	開山式 口径(38.4)
79	J-18	深鉢	口縁部～胴部	半口縁。附加条(1種)。錫鉄(RL+L)。内面、口縁部ナナデ。胴部タテミガキ。	赤褐	白色粒・織維	開山式 口径(17.1)
80	J-18	深鉢	口縁部～胴部	半口縁。組織錫鉄(LLRR)。内面、口縁部ヨコミガキ。胴部タテミガキ。	黄褐	織維。多量の石英細粒	開山式 口径(33.4) 鉄埋設土器
81	J-18	深鉢	胴部	閉端環付單節錫鉄(0段多条、RL+R、多段ループ鉄)→施状鉄(半截竹管状工具、上下コンバス鉄)。内面、ナナデ。追加成形技術。	明黄褐	織維	開山式
82	J-18	深鉢	胴部	閉端環付單節錫鉄(0段多条、RL+R、多段ループ鉄)→施状鉄(半截竹管状工具。真正コンバス鉄)。内面、ヨコミガキ。	明褐	織維	開山式
83	J-18	深鉢	口縁部	刺突鉄(竹管)。内面、ヨコミガキ。	褐	織維。多量の石英細粒	開山式
84	J-18	深鉢	底部	上底。閉端環付單節錫鉄(0段多条、RL+R)。内面、タテミガキ。底面ナナデ。	褐	織維	或成口2
85	J-18	深鉢	底部	半底。ヨコナデ。内面、ナナメナデ。底面。ナナデ。	浅黄	角閃石・織維	信州系 或成口3.2
86	J-18	深鉢	胴部	閉端環付單節錫鉄(0段多条、RL+R、多段ループ鉄)→施状鉄(半截竹管状工具、上下コンバス鉄)。内面、ナナデ。胴部ナナデ。刺突鉄(竹管)。内面、ヨコミガキ。	明黄褐	織維。大径の安山岩粒	開山式
87	J-18	深鉢	胴部	閉端環付單節錫鉄(0段多条、RL+R、多段ループ鉄)。内面、ヨコナデ。	灰黄褐	織維	開山式
88	J-18	深鉢	胴部	單節錫鉄(RL+L)。内面、ヨコミガキ。	明赤褐	織維	開山式
89	J-18	深鉢	口縁部～底部	焼造波状J縁。尖底。單節錫鉄(RL+L)。口縁部、ヨコミガキ。内面、ヨコナデ。剥離痕。	褐	石英	中越式 口径(24.6) 高さ23.8
90	J-19	深鉢	口縁部～胴部	或成口。波長部(1種)。下小突起。閉端環付單節錫鉄(0段多条、RL+R、多段ループ鉄)→施状鉄(半截竹管状工具、上下コンバス鉄)。底面。ナナデ。	灰黄褐	織維	開山式 口径(39.6)
91	J-19	深鉢	口縁部～胴部	半口縁。閉端環付單節錫鉄(0段多条、RL+R、多段ループ鉄)→L部下側切紋。内面、ヨコナデ。	明褐	角閃石・織維。多量の石英	開山式 或成口2.3
92	J-19	深鉢	口縁部～胴部	半口縁。突起。無錫鉄(R)。内面、ヨコミガキ。脂痕斑。	黄褐	織維	開山式 口径(18.5)
93	J-19	深鉢	口縁部	或成口。胴部に刺突鉄(RL+L-Z)→口縁部にヨサミ付隣接部で区画。剥離痕→点状鉄(竹管)。内面、ヨコミガキ。	明黄褐	織維	二ツ木式
94	J-19	深鉢	口縁部	双頭波状J縁。胴部に閉端環付單節錫鉄(0段多条、RL+R、多段ループ鉄)→L部下側切紋。内面、ヨコミガキ。	明黄褐	織維。多量の石英	二ツ木式～開 山式
95	J-19	深鉢	口縁部～胴部	波状口縁。胴部に閉端環付單節錫鉄(0段多条、RL+R、多段ループ鉄)→L部下側切紋(沈線)→口縁部にヨサミ付隣接部で区画。剥離痕→点状鉄(竹管)。内面、ヨコミガキ。	黄褐	白色粒・織維。多量の石英	二ツ木式～開 山式
96	J-19	深鉢	口縁部	双頭波状J縁。胴部に刺突鉄(RL+L-Z)→口縁部にヨサミ付隣接部で区画。附加文→点状鉄(竹管)。内面、ヨコミガキ。	黑褐	織維	開山式
97	J-19	深鉢	口縁部	半口縁。鋸齒状突起。胴部に閉端環付單節錫鉄(0段多条、RL+R、多段ループ鉄)→L部下側切紋(沈線)→口縁部にヨサミ付隣接部→刺突鉄→点状鉄(竹管)。内面、ヨコミガキ。	にぶい黄	織維。多量の石英細粒	開山式
98	J-19	深鉢	胴部	刺突鉄(0段多条、RL+R)→平行沈線で施鉄(点状鉄(竹管))。内面、ヨコミガキ。	黄褐	織維	開山式
99	J-19	深鉢	口縁部	半口縁。單節錫鉄(RL+L)→一様状鉄(半截竹管状工具。粗真正コン バス鉄)。内面、ヨコミガキ。	にぶい褐	織維	開山式
100	J-19	深鉢	口縁部	半口縁。閉端環付單節錫鉄(0段多条、RL+R)。内面、ヨコミガキ。褐	褐	織維	開山式
101	J-19	深鉢	口縁部	波状J縁。黒いヨコナデ。内面、ヨコミガキ。胴部ナナデ。	赤褐	織維。多量の石英粗粒	中越式

持因 番号	遺構	器種	部 位	特 徴	色 調	胎 土	備 考 (型式cm)
102	J-20	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。断面状突起。閉端縫付單節縫紋(0段多条, RL+LR, 多段ループ紋)。内面、上縁部ナミミガキ。胴部タテミガキ。	にぶい黄相	織維	開山式 口径(29.0)
103	J-20	深鉢	口縁部	或頂部が分かれた車輪形或口縁。附加条(2種)縫紋(RL+2LR→LR)。内面、明相	白色粒・織維、多量の石英	織維	開山Ⅱ式
104	J-20	深鉢	口縁部	或頂部が分かれた車輪形或口縁。附加条(2種)縫紋(RL+2LR→LR)。内面、明相	白色粒・織維、多量の石英	織維	開山Ⅱ式
105	J-20	深鉢	口縁部	或頂部が分かれた車輪形或口縁。附加条(2種)縫紋(RL+2RL+2LR)。内面、明相	白色粒・織維	織維	開山式
106	J-20	深鉢	口縁部	平口縁。断面状突起。異条縫紋(0段多条, RL+2RL+2LR+2LLR)。内面、ヨコミガキ。浅黄	白色粒・織維	織維	開山式
107	J-20	深鉢	口縁部	平口縁。断面状突起。異条縫紋(0段多条, RL+2RL+2LR+2LLR)。内面、ヨコミガキ。浅黄	白色粒・織維	織維	開山式
108	J-20	深鉢	胴部	平口縁。断面状突起。異条縫紋(0段多条, RL+2RL+2LR+2LLR)。内面、ヨコミガキ。相	白色粒・織維	織維	開山式
109	J-20	深鉢	口縁部	内面、ナデ。指痕。	にぶい黄相	角閃石・織維	中越式
110	J-20	深鉢	胴部	单節縫紋(RL)。内面、ヨコナデ。	浅黄	角閃石・白色粒	信州系
111	J-21	深鉢	口縁部	波状口縁。断面状突起。剥片(附加条(1種)縫紋(0段多条, RLB+2R)→複数条(半截竹管状工具、真正コンバス紋))。内面、区画。真加文→ヨコミガキ→点状紋(瘤)。内面、ヨコミガキ。	黄相	織維	開山Ⅰ式
112	J-21	深鉢	口縁部～胴部	波状口縁。断面状突起。剥片(附加条(1種)縫紋(0段多条, RLB+2R)→複数条(半截竹管状工具、真正コンバス紋))。内面、区画。真加文→ヨコミガキ→点状紋(瘤)。内面、ヨコミガキ。	浅黄	織維	開山Ⅰ式 伊埋設土器
113	J-21	深鉢	胴部	ナデ。内面、ヨコナデ。	黄相	多量の石英織維	中越式
114	J-22	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。單節縫紋(RL)。内面、口縁部ナデ。胴部タテミガキ。	相	織維。多量の石英織維	開山式 口径(27.2)
115	J-22	深鉢	口縁部	波状口縁。異条縫紋(0段多条, LR+2LL)→平行スリットで区画等。内面、相ナデ、工具痕。	相	織維	開山Ⅱ式
116	J-22	深鉢	口縁部	平口縁。蔓状織紋による組紐状。内面、ヨコナデ。	浅黄	織維	開山Ⅱ式
117	J-22	深鉢	口縁部	有段口縁。断面状突起。剥片紋(櫛齒状工具)。茶線(櫛齒状工具)。内面、ヨコミガキ。	にぶい褐	織維	神ノ木式
118	J-22	深鉢	口縁部～胴部	有段口縁。剥片紋(櫛齒状工具)。内面、ヨコ・ナナメミガキ。	相	織維。多量の石英	神ノ木式
119	J-22	深鉢	口縁部	剥片紋(櫛齒状工具)。条線(櫛齒状工具)。内面、ヨコナナメミガキ。	相	織維	神ノ木式
120	J-22	深鉢	口縁部～胴部	剥片(粗面縫紋(RL+RR)→剥引紋(櫛齒状工具)。条線(櫛齒状工具))。内面、タテミガキ。	相	織維	神ノ木式
121	J-22	深鉢	口縁部	有段口縁。神祇印(L)を持つ複突起。口付下に刻突起(ヘラ状工具)。口縁部に茶線(櫛齒状工具)。内面、相ナデ。	にぶい黄	白色粒	神ノ木式
122	J-23	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。單節縫紋(RL)。内面、タテミガキ。追加成形技法。	明赤褐	織維	開山式 口径(28.0) 伊埋設土器
123	J-23	深鉢	口縁部～胴部	胴部に粗面縫紋(IG)。内面、口縁部ヨコミガキ。胴部タテミガキ。浅黄	角閃石・織維	開山Ⅱ式 口径(32.0)	
124	J-23	深鉢	口縁部	波状口縁。附加条(2種)縫紋(RL+2LR, LR+2R)→口縁部に平行スリットで区画。真加文等→ヨコミガキ(半截竹管状工具)。区画内を磨かず。内面、黄相	織維。多量の石英織維	開山Ⅱ式	
125	J-23	深鉢	口縁部	縫紋→口縁部に平行スリットで区画。真加文等。内面、ヨコミガキ。	赤褐	織維	開山Ⅱ式
126	J-23	深鉢	胴部	附加条(3種)縫紋(L+rr)。内面、ヨコミガキ・タテミガキ。	相	白色粒・織維	開山Ⅱ式
127	J-23	深鉢	底部	上底。單節縫紋(RL)。内面、タテミガキ。底面、ヨコミガキ。	にぶい黄相	織維。多量の石英	開山式 底径(17)
128	J-23	深鉢	底部	上底。異面縫紋(0段多条, RLR+2RL+RL+2LLR)。内面、ナデ。	相	織維	開山式 底径(10.6)
129	J-23	深鉢	底部	上底。粗面縫紋(RL+LL)。内面、ナナメミガキ。底面、ナデ。	相	織維	開山Ⅱ式
130	J-23	深鉢	口縁部	波状口縁。單節縫紋(RL)。内面、ナデ。	浅黄	白色粒	信州系
131	J-23	深鉢	口縁部	波状口縁。剥突起(ヘラ状工具)。指痕底。内面、ヨコナデ。指痕底。	にぶい黄相	多量の石英	清水ノ上Ⅱ式
132	J-23	深鉢	胴部	剥突起(ヘラ状工具)。指痕底。内面、ヨコナデ。指痕底。	相	多量の石英	清水ノ上Ⅱ式
133	J-24	深鉢	口縁部	調紋→剥引紋(半截竹管状工具)。内面、ヨコミガキ。	黄相	織維	開山Ⅱ式
134	J-24	深鉢	口縁部	单節縫紋(0段多条, RL)→平行スリット。内面、相ナデ。	浅黄	織維	開山Ⅱ式
135	J-24	深鉢	口縁部	平口縁。胴部に結果束縫紋(RL+LR)→口縁部に剥突起(竹管状工具)。内面、相ナデ。	黄相	織維	開山Ⅱ式
136	J-24	深鉢	口縁部	剥片縫紋(LRRR)。内面、ヨコミガキ。	黄相	織維	開山Ⅱ式
137	J-25	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。胴部に結果束縫紋(RL+LR)→口縁部に剥突起(竹管状工具)で区画。剥突起→点状紋(竹管)。内面、タテミガキ。	相	織維	開山Ⅱ式 口径(12.8)
138	J-25	深鉢	口縁部	波状口縁。口縁部に平行スリットで区画。断面状突起→ヨコミガキ。内面、ヨコミガキ。	黄相	織維	二ツ木式～開山Ⅰ式
139	J-25	深鉢	口縁部	平口縁。断面状突起。口縁部に平行スリットで区画。断面状突起→ヨコミガキ。内面、タテミガキで、口付下のみヨコミガキ。	白色粒・織維	織維	開山Ⅰ式
140	J-25	深鉢	口縁部	平口縁。断面状突起。口縁部に平行スリットで区画。断面状突起→ヨコミガキ。内面、ナデ。	相	織維。多量の石英織維	開山Ⅰ式

持回 番号	遺構	器種	部 位	特 徴	色 調	胎 土	備 考 (型式/cm)	
141	J-25	深鉢	口縁部	L縁部に平行沈線で区画・縦歯紋→点状紋(長発形)→キザミ。内面、ヨコミガキ。	にぶい黄	織維	関山式	
142	J-25	深鉢	口縁部	双頭波状紋。L縁部に平行沈線で区画・縦歯紋・附加文→刺切紋→点状紋(発形)。内面、ヨコミガキ。	浅黄	織維	関山式	
143	J-25	深鉢	口縁部	平口縁。縦歴状突起。側部に閉閉環付單脚綱紋(2段多条、LR)→L縁部に平行沈線で区画・横手文・附加文→点状紋(発形)。内面、ヨコミガキ。	黄相	織維	関山式	
144	J-25	深鉢	口縁部	閉閉環付單脚綱紋(2段多条、RL+LR、一部逆位)→L縁部に点状紋(発形)。ナメナダ。追加成形技法。	黄褐	織維	多量の石英織	関山式
145	J-25	深鉢	口縁部	平口縁。結合綱紋(RL+LR)。内面、口縁部ヨコミガキ、胴部タテミガキ。	浅黄	織維	関山式	
146	J-25	深鉢	底部	上底。結合綱紋(RL+LR)。内面、ヨコナデ。底面。結合綱紋(RL+LR)	褐	織維	関山式 底径7.9	
147	J-25	深鉢	底部	上底。結合綱紋(RL+Z)。内面、タテミガキ。底面、結節綱紋(RL+Z)。相	織維	関山式 底径11.0		
148	J-26	深鉢	口縁部～胴部	粗筋綱紋(LLRR)→口縁部に平行沈線で横手文等。複数紋(柳条状工具、上下コバパス文)。内面、口縁部～胴部上半ヨコミガキ、胴部下半タテミガキ。	黄褐	織維	関山式 口径(20.6) 伊理設土器	
149	J-26	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。無筋綱紋(L)。内面、相いヨコミガキ。	浅黄	織維	関山式 口径(24.4)	
150	J-26	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。大型鋸歴状突起。単筋綱紋(2段多条、RL+LR)。内面、ヨコナダ。追加整形技法。	明黄褐	織維	多量の石英 口径(25.5) 伊理設土器	
151	J-26	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。突起。單筋綱紋(RL+LR)。内面、相いナメミガキ。	黄褐	角閃石・白色粒・織維	関山式 口径(23.9)	
152	J-26	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。相間綱紋(RL+RL)。内面、口縁部ヨコミガキ、胴部タテミガキ。	にぶい褐	織維	多量の石英織 口径(16.2)	
153	J-26	深鉢	口縁部～胴部	附加条(2種)綱紋(RL+2L)。内面、タテミガキ。	にぶい黄	織維	多量の白色粒 伊理設土器	
154	J-26	深鉢	口縁部～胴部	波状口縁。單筋綱紋(RL+L)→L縁部に条線で区画・縦歯紋。内面、相いヨコミガキ→タテミガキ。	浅黄	織維	関山式	
155	J-26	深鉢	口縁部	平口縁。附加条(3種)綱紋(RL+2L+R)。内面、タテミガキで、口唇下のみヨコミガキ。	にぶい褐	織維	関山式	
156	J-26	深鉢	胴部	粗筋綱紋(LLRR)・結節綱紋から。内面、ヨコミガキ。	相	角閃石・織維	関山式	
157	J-26	深鉢	胴部	粗筋綱紋(Irr)。内面、タテミガキ。追加成形技法。	相	織維	関山式	
158	J-26	深鉢	胴部～底部	上底。粗筋綱紋(LL+L)。内面、相いタテナデ。底面、ナデ。	相	織維・石英粒	伊理設土器	
159	J-27	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。口唇部に刺突紋(半竹管状工具)。附加条(2種)綱紋(RL+2L)。内面、相いヨコナデ。	暗褐	織維	関山式 口径(27.3) 伊理設土器	
160	J-27	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。板状突起。無筋綱紋(L)。内面、口縁部ヨコミガキ、胴部タテミガキ。	浅黄	織維	関山式 口径(28.2) 伊理設土器	
161	J-27	深鉢	口縁部	平口縁。粗筋綱紋(LLRR)→口縁部に平行沈線で区画・横手文等。内面、ヨコミガキ。	浅黄	織維	多量の石英織 関山式	
162	J-27	深鉢	口縁部	粗筋綱紋(LLRR)→押付(半竹管状工具)。内面、ミガキ。	相	白色粒・織維	関山式	
163	J-27	深鉢	口縁部	平口縁。單筋綱紋(RL+LR)→L縁部ナデ。内面、ヨコミガキ。	黄褐	織維	関山式	
164	J-27	深鉢	口縁部	平口縁。纏紋。内面、ミガキ。	暗褐	織維	多量の石英織 関山式	
165	J-27	深鉢	口縁部	平口縁。口縁部ヨコミガキ、胴部タテミガキ。内面、ケズリ→胴部タテナデ。指痕痕。	にぶい黄	白色粒・織維	中尾式	
166	J-28	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。突起孔。單筋綱紋(RL)→平行沈線。内面、相いヨコミガキ。燒成後穿孔。	浅黄	織維	関山式 口径(14.0)	
167	J-28	深鉢	口縁部～胴部	胴部に單筋綱紋(RL+LR)→L縁部を爪形紋で区画。内面、ヨコ・タテミガキ。	相	織維	有尾式	
168	J-28	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。單筋綱紋(LR)。内面、ヨコナデ。	浅黄	織維	関山式～有尾式 口径(26.2)	
169	J-28	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。單筋綱紋(RL+LR)。内面、口縁部ヨコナデ、胴部タテナデ。	黄褐	織維	関山式～有尾式 口径(16.7)	
170	J-28	深鉢	口縁部	波状口縁。口縁部に爪形紋。内面、相いヨコミガキ。	褐	織維	有尾式	
171	J-28	深鉢	口縁部	L縁部に平行沈線で区画・縦歯紋。内面、相いヨコナデ。	にぶい黄	白色粒・纏織・多量の石英織	有尾式	
172	J-28	深鉢	口縁部	平口縁。小突起。L縁部に平行沈線で区画・波状文。内面、ヨコナデ。	浅黄	織維	有尾式	
173	J-28	深鉢	口縁部～胴部	刺突部に單筋綱紋(LR)→L縁部に区画・横位文。内面、ヨコナデ。	相	白色粒・織維	有尾式	
174	J-28	深鉢	口縁部	平口縁。複筋綱紋(RL+RL)。内面、ヨコミガキ。	赤褐	織維	関山式	
175	J-28	深鉢	口縁部	波状口縁。附加条(2種)綱紋(RL+2L)。内面、ヨコミガキ。	褐	織維	関山式	
176	J-28	深鉢	口縁部	角筋状突起。列点状刺突紋。内面、ヨコナデ。	相	白色粒	神ノ木式	
177	J-28	深鉢	口縁部	押紋(繩歴状工具)。内面、ヨコナデ。	黄褐	白色粒	神ノ木式	
178	J-28	深鉢	口縁部	L縁部の列点状刺突紋→平行沈線。胴部に單筋綱紋(RL+LR)。内面、タテミガキで、口唇下のみヨコミガキ。	相	白色粒・織維	神ノ木式	
179	J-28	深鉢	胴部	複筋綱紋(RLRL)。内面、ヨコナデ。	浅黄	角閃石・白色粒、多量の石英	信州系	
180	J-28	深鉢	胴部	單筋綱紋(RL)。内面、ヨコナデ。	黄褐	青母	多量の石英	
181	J-28	深鉢	胴部	相いヨコナデ。内面、ヨコナデ。	褐相	青母	多量の石英	

持因番号	遺構	器種	部位	特徴	色調	胎土	備考 (型式/cm)
182	J-29	深鉢	口縁部	平口縁。口縁部に平行沈線で区画・菱形文。内面、ヨコナデ。	にぶい黄	白色粒・織維	有尾式
183	J-29	深鉢	口縁部	口縁部に平行沈線で区画・菱形文。内面、ヨコナデ。	にぶい黄	青母・織維。多量の石英	有尾式
184	J-29	深鉢	口縁部	平口縁。小突起。口縁部に平行沈線で区画・波状文。内面、ヨコナデ。浅黄	黄柏	白色粒・織維	有尾式
185	J-29	深鉢	口縁部	平口縁。無筋綱紋(R)。内面、ヨコミガキ。	黄柏	白色粒・織維	開山式～有尾式
186	J-29	深鉢	口縁部	平口縁。單筋綱紋(RL)。内面、タテミガキで、口凹下のみヨコミガキ。にぶい黄柏	白色粒・織維	開山式～有尾式	
187	J-29	深鉢	口縁部	平口縁。附加条(2種)綱紋(LR+2L)。内面、ヨコミガキ。	柏	白色粒・織維	開山式～有尾式
188	J-30	深鉢	口縁部	綱紋→平行沈線。内面、ヨコミガキ。	赤褐	白色粒・織維	開山Ⅱ式
189	J-30	深鉢	口縁部	平口縁。附筋綱紋(RRLLL)→扇状紋(櫛齒状工具、上下コンバス紋)。内面、ヨコナデ。	黄柏	白色粒・織維	開山Ⅱ式
190	J-30	深鉢	口縁部	平口縁。口縁部に平行沈線で区画・菱形文。内面、ヨコナデ。	にぶい黄	織維	有尾式
191	J-30	深鉢	口縁部	反筋綱紋(LL)。内面、ヨコミガキ。	柏	織維	開山式～有尾式
192	J-31	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。大型副陶突起。粗筋綱紋(RLJLL)。内面、削いヨコミガキ。赤褐	織維	開山Ⅱ式 口径(33.8)	
193	J-31	深鉢	口縁部	平口縁。鋸歯状突起。単筋綱紋(LR)→LJL縁部に茎縁で区画等。内面、ヨコナデ。	闇	織維	開山Ⅱ式
194	J-31	深鉢	胴部	茎縁で区画・鋸歯紋→単筋綱紋(LL)。内面、タテナデ。	柏	織維	開山Ⅱ式
195	J-33	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。半円凸・副陶突起。胴部に凹端窪付单筋綱紋(O段多条、RL+LR、多段ループ紋)→口縁部に平行沈線で区画・菱形文・附加文→点状紋(底面)→ヨコミガキ。内面、ヨコミガキ。	明黄	織維。多量の石英繊維	開山Ⅰ式 口径(33.5)
196	J-33	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。鋸歯状突起。凹端窪付单筋綱紋(O段多条、RL+LR、多段ループ紋)→LJL縁部に点状紋(底面)。内面、ヨコミガキ。	にぶい黄柏	織維。多量の石英	開山式 口径(21.0)
197	J-33	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。凹端窪付单筋綱紋(O段多条、RL+LR、多段ループ紋)→扇状紋(半截竹管状工具、上下コンバス紋)。内面、口縁部ヨコミガキ。胴部タテミガキ。追加成形法。	にぶい褐	織維。多量の石英繊維	開山式 口径(26.4)
198	J-33	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。凹端窪付单筋綱紋(O段多条、RL+LR)。内面、口縁部ヨコミガキ。胴部タテミガキ。追加成形法。	浅黄	織維	開山式 口径(19.1)
199	J-33	深鉢	胴部	異条綱紋(RLR+2RL+RLR+2LR)→扇状紋(半截竹管状工具、真正ゴンバス紋)。内面、口縁部・胴部下手タテミガキ。胴部上手ヨコミガキ。	黄柏	織維	開山式
200	J-33	深鉢	口縁部	平口縁。隆带・突起→キザミ・刺突。結節綱紋(2L-Z)。内面、ヨ	闇	織維	二ツ木式
201	J-33	深鉢	口縁部	波状口縁。胴部に結節綱紋(2L-Z, ZR-S)→口縁部に併行沈線で区画・菱形文・充填物→点状紋(底面)→キザミ。内面、ヨコミガキ。闇	白色粒・織維	二ツ木式～開山Ⅰ式	
202	J-33	深鉢	口縁部	波状口縁。胴部に凹端窪付单筋綱紋(O段多条、RL+LR、多段ループ紋)→LJL縁部に併行沈線で区画・菱形文・附加文→キザミ→点状紋(竹管)。内面、削いヨコミガキ。	黄柏	白色粒・織維。多量の石英繊維	二ツ木式～開山Ⅰ式
203	J-33	深鉢	口縁部	平口縁。單筋綱紋(RL+LR)→LJL縁部に单筋縫で鋸歯紋。内面、タテヨコミガキで、口縁部の内ヨコミガキ。	黒褐	白色粒・織維	二ツ木式～開山Ⅰ式
204	J-33	深鉢	口縁部	平口縁。鋸歯状突起。附加条(2種)綱紋(LL+2L+RL+2R)→LJL凹下に点状紋(底面)→LJL凹下切削紋。内面、タテミガキで、口縁部ヨコミガキ。	赤褐	白色粒・織維	開山式
205	J-33	深鉢	胴部	LJL縁部を隆帶で区画・下手コンバス紋(半截竹管状工具)。胴部・隆帶上に凹端窪付单筋綱紋(O段多条、RL+LR)。内面、口縁部ヨコミガキ。胴部タテミガキ。	黄柏	織維	開山式
206	J-33	深鉢	胴部	単筋綱紋(RL)→格子状沈線(尖頭状工具)。内面、タテミガキ。	柏	白色粒・織維	開山式
207	J-33	深鉢	底部	平底。凹端窪付单筋綱紋(O段多条、RL+LR)。内面、削いヨコナデ。明黄褐	織維	明黄 武径9.8	
208	J-33	深鉢	底部	高台。單筋綱紋(O段多条、RL+LR)。内面、ヨコナデ。底面、ナデ。にぶい黄柏	織維。多量の白色粒	開山式 武径9.6	
209	J-35	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。片口、異条綱紋(O段多条、RLR+2RL+RL+2LR)→扇状紋(半截竹管状工具、集合體狀知細胞)。内面、口縁部ヨコミガキ。胴部タテミガキ。	黄柏	織維	開山Ⅱ式 口径(28.0)
210	J-35	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。片口、半円凸突起。粗筋綱紋(RLJLL)。内面、口縁部ヨコミガキ。胴部ナテミガキ。	明黄褐	角閃石・織維。多量の石英繊維	開山Ⅱ式 口径(26.0)
211	J-35	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。点状紋(底面)を持つ突起突起。無筋綱紋(LL)。内面、口縁部ヨコミガキ。胴部タテミガキ。	柏	織維。多量の石英	開山式 口径(29.6)
212	J-35	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。大型副陶突起。無筋綱紋(L)。内面、タテ・ナナメナデ。浅黄	織維	開山式 口径(39.2)	
213	J-35	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。無筋綱紋(L)。内面、削いタテミガキ。	黄柏	織維	開山式 口径(31.3)
214	J-35	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。複筋綱紋(RLR)→LJL凹下ヨコナデ。内面、口縁部ヨコミガキ。胴部タテミガキ。	柏	白色粒・織維	開山式 口径(22.0)
215	J-35	深鉢	口縁部	平口縁。凹端窪付单筋綱紋(RL、多段ループ紋)→粗筋綱紋(rfl)→平行沈線で区画・断手。内面、ナデ。	浅黄	織維	開山Ⅱ式
216	J-35	深鉢	口縁部	平口縁。突起。單筋綱紋(O段多条、LR)→LJL凹下・突起に平行沈線。内面、口縁部ヨコミガキ。胴部タテミガキ。	暗褐	白色粒・織維	開山Ⅱ式
217	J-35	深鉢	口縁部	平口縁。開端窪付無筋綱紋(L-Z)。内面、LJL縁部ナデ→ヨコミガキ。にぶい黄	白色粒・織維	開山式	
218	J-35	深鉢	口縁部	波状口縁。胴部に穴の網綱(RL+L)→LJL縁部に押印(櫛齒状工具)。内面、ヨコナデ。	闇	白色粒。多量の石英繊維	神ノ木式

持因番号	遺構	器種	部位	特徴	色調	胎土	備考 (型式/cm)
219	J-35	深鉢	口縁部	有段口縁。口縁部に列点状刻文。側部に單節縄紋(RL)。内面、ヨコナデ。	黄褐	多量の石英繊粒	神ノ木式
220	J-35	深鉢	側部	束の縛紋(RL+L+L)。内面、ヨコナデ。	相	白色粒、多量の石英繊粒	神ノ木式
221	J-35	深鉢	口縁部	平口縁。内外面、無いヨコナデ。	相	白色粒、多量の石英繊粒	中根式
222	J-36	深鉢	側部	單節縄紋(RL)。内面、ヨコミガキ。	浅黄	多量の黒色鉻物・石英	前期後葉
223	J-36	深鉢	底部	平底。單節縄紋(RL)。内面、ナナメミガキ。ヨコナデ。	浅黄	角閃石	前期後葉 直径7.8
224	J-37	深鉢	側部～底部	平底。單節縄紋(RL)。内面、ヨコケズリ→ナナメミガキ。底面、ナデ。にぶい黄。	角閃石		前期後葉 直径14.2
225	J-37	有孔 浅鉢	口縁部～側部	平口縁。口縁下傾斜部に孔。内面、ヨコミガキ→赤彩。内面、ヨコケズリ→ヨコナデ。口縁下赤彩。	にぶい黄褐	云母	諸説b式 口径(17.6)
226	J-38	深鉢	口縁部～側部	片口。粗筋縄紋(RRLL)→L1縫部に櫛溝状工具による区画・撇手紋・粗筋縄紋・附加文。内面、口縁部ヨコミガキ。側部タテミガキ。	相	繊維。多量の白色粒	開山Ⅱ式 口径(27.6)
227	J-38	深鉢	口縁部～側部	平口縁。單筋縄紋(RL+L)→縫状紋多截竹管状工具、集合縦位知合縫紋(RL)。内面、タテミガキ。追加成形技法。	浅黄	白色粒・繊維	開山Ⅱ式 口径(29.3)
228	J-38	深鉢	口縁部～側部	直口縁。開縫部付單筋縄紋(0段多条、RL+三段L+一つL)・異規則(0段多条、RL+2RL+1RL+2RL)→棒状竿(半截竹管状工具、集合縦位近縫縫紋)。内面、ヨコミガキ。追加成形技法。	にぶい黄	繊維、多量の石英繊粒	開山Ⅱ式 口径(41.7)
229	J-38	深鉢	口縁部～側部	平口縁。片口。半円盤状突起。無筋縄紋(R)。内面、無いヨコ・ナナデ。内面、ヨコミガキ。	にぶい黄褐	繊維。多量の石英	開山Ⅱ式 口径(32.0)
230	J-38	深鉢	口縁部～底部	平口縁。片口痕。上底。附加条(1+2種)・縄紋(RL+2L+RL+2r)。粗筋縄紋(RL+RL)→L1縫部に平行沈線で区画・撇手紋・附加文等。内面、口縁部ヨコミガキ。側部タテミガキ。底面、ナデ。	赤褐	繊維	開山Ⅱ式 口径(13.1) 直径6.4 容器16.6
231	J-38	深鉢	口縁部～側部	平口縁。單筋縄紋(RL)。内面、口縁部ヨコナデ。側部下平タテミガキ。追加成形技法。	相	白色粒・繊維。多量の石英	開山Ⅱ式 口径(26.4)
232	J-38	深鉢	口縁部～側部	平口縁。單筋縄紋(RL)・粗筋縄紋(RL+RL)。内面、口縁部ヨコナデ。側部タテミガキ。追加成形技法。	黄褐	繊維。多量の石英繊粒	開山Ⅱ式 口径25.0
233	J-38	深鉢	内面	平口縁。粗筋縄紋(RRRL)→L1縫部に平行沈線で区画・撇手紋・上下コンバスク等。内面、口縁部ヨコミガキ。側部タテミガキ。	相	繊維	開山Ⅱ式
234	J-38	深鉢	口縁部	平口縁。單筋縄紋(0段多条、RL+L)→稚状紋(櫛溝状工具。コンバス紋)→撇手紋。内面、ヨコミガキ。	黄褐	角閃石・繊維	開山Ⅱ式
235	J-38	深鉢	底部	直口縁。無筋縄紋(RL+RL)。内面、ナデ。底面、ナデ。	暗赤褐	繊維。多量の石英	開山Ⅱ式 直径6.8
236	J-39	深鉢	側部	單筋縄紋(RL)→低浮游紋→浮游紋上にキザミ。内面、ヨコミガキ。	明褐	角閃石	諸説b式
237	J-39	深鉢	底部	平底。無筋縄紋(L)→低い浮游紋→浮游紋上に無筋縄紋(L)。内面、ヨコケズリ→ナデ。底面、ミガキ。	明赤褐	微量の角閃石	諸説b式 直径11.7
238	J-39	深鉢	底部	平底。無筋縄紋(R)。内面、ヨコナデ。底面、ナデ。	にぶい黄	微量の角閃石	前期後葉 直径13.4
239	J-40	深鉢	口縁部～側部	不整な平口縁。側部に無筋縄紋(L)→L縫部に条縫(櫛溝状工具)で区画・撇手紋・撇手紋・附加文等。内面、ナナメミガキ。	黄褐	角閃石・白色粒・繊維	開山Ⅱ式 口径(29.0)
240	J-40	深鉢	口縁部～側部	平口縁。異条縄紋(0段多条、RL+2RL)・粗筋縄紋(LLRR)→無筋状(櫛溝状工具。上下コンバスク)。内面、口縁部ヨコミガキ。側部タテミガキ。	黄褐	繊維	開山Ⅱ式 口径(21.6)
241	J-40	深鉢	口縁部～側部	平口縁。單筋縄紋(RL)→L縫部ヨコナデ。内面、口縁部ヨコナデ。側部タテミガキ。追加成形技法。	浅黄褐	云母・繊維	開山Ⅱ式 口径(27.6)
242	J-40	深鉢	側部	複節縄紋(RRL)。内面、タテミガキ。	明褐	白色粒・繊維	伊豫翌土器
243	J-40	深鉢	口縁部～側部	平口縁。粗筋縄紋(RRLL)。内面、口縁部ヨコミガキ。側部タテミガキ。	浅黄	繊維・石英粗粒	開山Ⅱ式 口径(13.4)
244	J-41	深鉢	口縁部～側部	平口縁。單筋縄紋(RL)。内面、口縁部ヨコミガキ。側部タテミガキ。	黄褐	白色粒・繊維	開山Ⅱ式 口径(20.4)
245	J-41	深鉢	口縁部	平口縁。單筋縄紋(RL)→L縫部を平行沈線で区画。内面、口縁部ヨコナデ。側部タテミガキ。	明褐	繊維。多量の石英	開山Ⅱ式
246	J-41	深鉢	口縁部	平口縁。端縫付單筋縄紋(RL)。内面、口縁部ヨコミガキ。側部タテミガキ。	黄褐	繊維。多量の石英繊粒	開山Ⅱ式
247	J-41	深鉢	口縁部	平口縁。附加条(3種)縄紋(RL+2L+2R)。内面、ヨコミガキ。	にぶい黄	白色粒・繊維	開山Ⅱ式
248	J-41	深鉢	側部	竜骨条縫(小口状工具)。内面、タテミガキ。	浅黄	繊維	開山Ⅱ式
249	J-42	深鉢	口縁部～側部	平口縁。單筋縄紋(RL)。内面、口縁部ヨコミガキ。側部タテミガキ。	黄褐	白色粒・繊維	開山Ⅱ式 口径(35.3) 伊豫翌土器
250	J-42	深鉢	口縁部～側部	平口縁。縄紋。内面、口縁部ヨコナデ、側部タテナデ。	にぶい黄	繊維。多量の石英繊粒	開山Ⅱ式 口径(25.0)
251	J-42	深鉢	側部	粗筋縄紋(RRLL)→稚状紋(櫛溝状工具。上下コンバスク)。内面、タテミガキ。	黄褐	繊維。多量の石英	開山Ⅱ式
252	J-42	深鉢	側部	束の縛紋(R+L)。内面、ヨコナデ。	黄褐	白色粒・繊維	神ノ木式
253	J-42	深鉢	口縁部	竜骨条縫。タテミガキ。内面、ミガキ。	にぶい黄	云母・繊維	中根式
254	J-43	深鉢	口縁部～側部	平口縁。單筋縄紋(RL)→L縫部に平行沈線で区画・撇手紋・曲線文・附加文等。内面、口縁部ヨコナデ。側部ナメメダ。	黄褐	繊維。多量の石英繊粒	開山Ⅱ式 口径(24.2)
255	J-43	深鉢	口縁部～側部	双頭波状口縁。粗筋縄紋(RRLL)→口縫部に平行沈線で区画・撇手紋・附加文。内面、ヨコミガキ。	相	繊維	開山Ⅱ式 口径(40.4)
256	J-43	深鉢	口縁部～側部	双頭波状口縁。粗筋縄紋(RRLL)→口縫部に平行沈線で区画・撇手紋・附加文。内面、ヨコミガキ。	相	繊維。多量の石英繊粒	開山Ⅱ式 口径(44.6)

持回 番号	遺構	器種	部 位	特 徴	色 調	胎 土	備 考 (型式(cm))
257	J-43	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。片口。閉端付单節縫紋(0段多条。RL、多段ループ紋で断面紋)～平行沈線。内面、ヨコナデ。	暗褐	織維。多量の石英繊粒	関山Ⅱ式 口径(29.4)
258	J-43	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。片口。半円盤状突起。閉端縫紋(LLRL)～施紋状(竹管状工具。真正コンバス紋)。	黄褐	吉母・織維	関山Ⅱ式 口径(24.2)
259	J-43	深鉢	口縁部～胴部	菱状工具。閉端縫紋(LLLL)～施紋状(織維状工具。上・下コンバス紋)。	相	織維。多量の石英繊粒	関山Ⅱ式 口径(42.8)
260	J-43	深鉢	胴部	組紐縫紋(LLRR)～施紋状(藤歯状工具。上下コンバス紋)。	黄褐	織維。多量の石英繊粒	関山Ⅱ式
261	J-43	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。裏条縫紋(0段多条。RLR+2RR+LRL+2LLR)～施紋状(半截竹管状工具。集合纏状切込沈線)。内面、口縁部ヨコミガキ、胴部タテミガキ。	にぶい・黄褐	織維。多量の石英繊粒	関山Ⅱ式 口径(31.3)
262	J-43	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。閉端付单節縫紋(0段多条。RL、多段ループ紋で断面紋)～施紋状(半截竹管状工具。集合纏状切込沈線)。内面、ヨコナデ。	にぶい・褐	織維	関山Ⅱ式 口径(28.0)
263	J-43	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。無縫縫紋(0)。内面、口縁部ヨコミガキ、胴部タテミガキ。	暗褐	雲母・白色粒・織維。多量の石英繊粒	関山Ⅱ式 口径(31.4)
264	J-43	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。結束縫紋(RL+LR)。	赤褐	霞模様の織維。多量の石英	関山Ⅱ式 口径(23.3)
265	J-43	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。里筋縫紋(0)。内面、口縁部ヨコミガキ、胴部タテミガキ。	褐	織維	関山Ⅱ式 口径(20.4)
266	J-43	深鉢	口縁部～胴部	不整な平口縁。單節縫紋(RL)。内面、口縁部ヨコナデ、胴部タテミガキ。追加成形法。焼成後穿孔。	にぶい・赤褐	織維。多量の石英繊粒	関山Ⅱ式 口径18.9
267	J-43	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。片口。組紐縫紋(0)。内面、口縁部～胴部上半ヨコナデ、胴部下半タテナデ。追加成形法。	褐	織維	関山Ⅱ式 口径(34.2)
268	J-43	深鉢	口縁部～胴部	或折口縁。組紐縫紋(RLLRL)。	相	雲母・白色粒・織維	関山Ⅱ式 口径(21.0)
269	J-43	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。施紋状(半截竹管状工具。上下コンバス紋)～格子状(竹管状工具)。	にぶい・黄	白色粒・織維。多量の石英繊粒	関山Ⅱ式 口径(33.2)
270	J-43	深鉢	口縁部～胴部	平口縁。格子状(半截竹管状工具)。内面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナメダス。工具痕が頗る。	相	白色粒・織維	関山Ⅱ式 口径(30.2)
271	J-43	深鉢	口縁部～胴部	或折口縁。閉端付单節縫紋(LR)～L口縁部に条縫で区画・施縫歯・阳文。内面、タテミガキ。	にぶい・褐	多量の石英繊粒・白色粒	神ノ木式 口径(39.0)
272	J-43	鉢	底部	平底。押引縫(藤歯状工具)。内面、ヨコナデ～赤色。底面、ナデ。粘土仔骨。	明赤褐	多量の石英繊粒	神ノ木式 底径7.0
273	J-43	深鉢	口縁部	平口縁。里筋縫紋(RL+LR)～L口縁部に条縫で区画・施縫歯・阳文。内面、タテミガキで、口糸下のみヨコミガキ。焼成後穿孔。	褐	織維	関山Ⅱ式
274	J-43	深鉢	口縁部	双頭波状口縁。裏条縫紋(0段多条。RLR+2RR+LRL+2LLR)～施紋状(半截竹管状工具。集合纏状切込沈線)。内面、ヨコナメミガキ。	相	織維	関山Ⅱ式
275	J-43	深鉢	口縁部	板状突起。單節縫紋(LR)。突起にキサギ(ヘラ状工具)。	黄褐	白色粒・織維	関山式
276	J-43	深鉢	口縁部	单頭波状口縁。口縁部に平行沈線で区画等。内面、タテミガキで、口糸下のみナメミガキ。	褐	白色粒・織維	関山Ⅱ式
277	J-43	深鉢	底部	上底。施縫歯(藤歯状工具。上下コンバス紋)。	相	織維	関山Ⅱ式 底径(11.0)
278	J-43	深鉢	底部	上底。單節縫紋(RL)。	相	織維。多量の石英繊粒	関山Ⅱ式 底径(5.6)
279	J-43	深鉢	底部	上底。裏条縫紋(0段多条。RLR+2RR+LRL+2LLR)。	相	織維	関山式 底径7.7
280	J-43	深鉢	口縁部	平口縁。胴部に束縫縫(0)～L口縁部に条縫(小口状工具)・押引(小口状工具)で施縫歯。内面、ヨコナデ。	黄褐	多量の石英繊粒	神ノ木式
281	J-43	深鉢	口縁部	降附～サザミ(小口状工具)。押引(小口状工具)。	黄褐	特になし	神ノ木式
282	J-43	深鉢	胴部	胴部に閉端付单節縫紋(LR)～L口縁部に条縫(藤歯状工具)・押引(藤歯状工具)。	黄褐	多量の石英繊粒	神ノ木式
283	J-43	深鉢	口縁部	有段口縁。口縁部に列点状突起突、胴部に單節縫紋(RL+LR)。	黄褐	白色粒、多量の石英繊粒	神ノ木式
284	J-43	深鉢	口縁部	半周造口縁。有段口縁。L口縁部に列点状突起突。	暗褐	白色粒・織維	神ノ木式
285	J-43	深鉢	口縁部	半口縁。皿状突起。束縫縫(RL+LR)。	黄褐	白色粒、多量の石英繊粒	吉州系
286	J-43	深鉢	胴部	单節縫紋(LR)。	黄褐	白色粒、多量の石英繊粒	吉州系
287	J-43	深鉢	胴部	单節縫紋(RL+LR)。	黄褐	白色粒、多量の石英繊粒	吉州系
288	J-43	深鉢	胴部	束の縫紋(R+L)。	黄褐	白色粒、多量の石英繊粒	神ノ木式
289	J-43	深鉢	口縁部	波状口縁。ヨコナデ。	相	織維	中横式
290	J-43	深鉢	口縁部	波状口縁。刺突列(半截竹管状工具)。	相	多量の石英繊粒	清瀬上口式
291	J-44	深鉢	口縁部～胴部	單節縫紋(RL)。	相	片岩。大径の石英	諸磯ち式 口径(23.0)
292	J-44	深鉢	口縁部～胴部	波状口縁。小突起。浮縫紋で区画・入組文・矢羽状文等～浮縫紋上にキサギ。	明黄褐	多量の石英	諸磯ち式
293	J-44	深鉢	胴部～底部	平底。浮縫紋で区画・入組文～浮縫紋上にキサギ。無施縫紋(L)。	浅黄	多量の石英	諸磯ち式 底径11.1
294	J-44	深鉢	口縁部	波状口縁。單節縫紋(RL)～浮縫紋で区画・入組文～浮縫紋上に单節縫紋(RL)。	黄褐	角閃石。多量の石英	諸磯ち式
295	J-44	深鉢	底部	平底。单節縫紋(RL)。	浅黄	多量の白色粒	諸磯ち式 底径(13.2)
296	J-44	深鉢	底部	平底。单節縫紋(RL)。	にぶい・黄褐	角閃石	前後葉 底径12.9

持因 番号	遺構	器種	部 位	特 徴	色 調	胎 土	備 考 (型式/cm)
297	J-45	深鉢	口縁部	平口縁。刷毛綱紋(LLRR)→口縁部に平行沈線で区画・網面紋・附加文・小内文等。内面、ヨコミガキ。	黄柏	織維	開山Ⅱ式
298	J-45	深鉢	口縁部	刷毛綱紋(LLRR)→口縁部に平行沈線で区画・紙手文・附加文等。内面、ヨコナデ。	黄柏	織維	開山Ⅱ式
299	J-45	深鉢	口縁部	平口縁。刷毛綱紋(RRLL)。内面、ヨコナデ。	赤褐	白色粒・織維、多量の石英	開山Ⅱ式
300	J-45	深鉢	口縁部	渠の綱紋(R+L)。内面、ヨコナデ。	柏	多量の石英	神ノ木式
301	J-45	深鉢	胸部	外側面、タテミガキ。指頭痕。	黒褐	織維	中高式
302	J-46	深鉢	胸部～底部	平底。單刷毛綱紋(RL)→浮線紋→浮線紋上にキザミ。内面、ナナメミガキ。底面、ナデ。	明赤褐	角閃石、大径の安山岩	諸磯b式 底径12.0
303	J-46	深鉢	胸部	單刷毛綱紋(RL)。内面、胸部上半ヨコケズリ、胸部下半タテケズリ→ナデ。	黄柏	特になし	前期後葉
304	J-47	深鉢	口縁部～胸部	平口縁。口縁部ヨコナデ、胸部タテケズリ。内面、ヨコナデ。	にぶい柏	角閃石、多量の石英、白	前期後葉 口径19.8
305	J-47	深鉢	胸部	單刷毛綱紋(RL)→浮線紋で区画→浮線紋上にキザミ。内面、ヨコケズリ→ヨコミガキ。	浅黄	多量の石英	諸磯b式
306	J-47	深鉢	胸部	浮紋→浮線紋→浮線紋上に斜突(平截竹管状工具)。内面、ヨコナデ→ヨコ・タテミガキ。	黄褐	多量の石英	諸磯b式
307	J-47	深鉢	胸部	平行沈線・弧線文・紙手文。内面、ヨコケズリ→タテミガキ。	浅黄	多量の石英	諸磯b式
308	J-47	浅鉢	胸部	ナデ、内面、ヨコナデ。指頭痕。	浅黄	特になし	北山川下層式
309	J-48	深鉢	胸部	浮線紋→浮線紋・矢羽状文・X字状文等→浮線紋上にキザミ→浮線紋上に斜突(平截竹管状工具)。内面、タテケズリ→ヨコミガキ。	浅黄	角閃石、多量の石英	諸磯b式
310	J-48	深鉢	口縁部～胸部	單刷毛綱紋(RL)→集合沈線(単竹管状工具)で横位区画・弧線文。内面、胸部上半ヨコミガキ、胸部下半タミミガキ。	浅黄	角閃石、多量の石英、白	諸磯b式
311	J-48	ミニ チュア アーティ スラ	口縁部～底部	平口縁。底面に孔列。平行沈線文。内面、ヨコナデ。	黄灰	雲母・多量の石英	諸磯b式 口径5.1 底径3.0 器高6.3
312	J-48	ミニ チュア アーティ スラ	口縁部～底部	平口縁。口縁部ヨコナデ、胸部タテナデ。底面、ナデ。	明黄褐	角閃石	諸磯b式 口径3.2 底径3.0 器高6.3
313	J-49	深鉢	口縁部～胸部	波状口縁。波頭部にキザミ。口縁下無文。閉端付單刷毛綱紋(O波多条, RL)。内面、長いヨコナデ。	暗褐	角閃石・織維	開山Ⅳ式 口径19.2
314	J-49	深鉢	口縁部～胸部	平口縁。單刷毛綱(RL+RL)。内面、口縁部ナナメミガキ。胸部タテミガキ。	柏	織維・石英粗粒	開山Ⅳ式 (29.8)
315	J-49	深鉢	口縁部～胸部	平口縁。異刷毛綱(0波多条, RLR+2RRL+RL+2LLR)→縦状紋(織維)。内面、ヨコナデ。	柏	多量の石英細粒	開山Ⅳ式 (41.8)
316	J-49	深鉢	口縁部	單刷毛綱(RL)→口縁下削切紋。口縫部。單刷毛綱(RL)。内面、長いヨコミガキ。	にぶい黄	織維	開山Ⅳ式
317	J-49	深鉢	口縁部	波状口縁。口縁部に押印紋(織維状工具)。内面、ヨコナデ。	浅黄	多量の石英細粒	神ノ木式
318	J-49	深鉢	胸部	單刷毛綱(RL)。内面、ヨコナデ。	浅黄	多量の石英細粒	初期系
319	J-50	深鉢	口縁部～胸部	波状口縁。單刷毛綱(RL)→浮線紋で区画・入組文等→浮線紋上にナダミガキ。口縁部に押印紋(RL)。内面、ヨコミガキ。	浅黄	多量の石英	諸磯b式
320	J-50	深鉢	口縁部	波状口縁。刷毛把手。單刷毛綱(RL)→浮線紋で区画・弧線文・紙手文等。内面、ヨコミガキ。	黄柏	多量の石英	諸磯b式
321	J-51	深鉢	口縁部～胸部	波状口縁。刷毛把手。單刷毛綱(RL)→浮線紋で区画・弧線文等。内面、ヨコミガキ。	浅黄	白色粒	開山Ⅳ式 口径46.5
322	T-3	深鉢	口縁部～胸部	平口縁。前頭窓状突起。前部に閉端付單刷毛綱紋(0波多条, RL+LR)→口縁部に平行沈線で区画・紙手文・小内文→点状紋(離散)。異刷毛綱(0波多条, RL+LR)→口縁部に平行沈線で区画・複合横窓・点状紋(離散)。前部に單刷毛綱(0波多条, RL+LR)→口縁部に平行沈線で区画・複合横窓・点状紋(離散)。波状口縁。異刷毛綱(L)→浮線紋で区画・入組文等→浮線紋上に無節紋(RL)。内面、ヨコミガキ。	柏	織維	開山Ⅰ式
323	T-3	深鉢	口縁部～胸部	波状口縁。單刷毛綱(0波多条, RL+LR)→口縁部に平行沈線で区画・複合横窓・点状紋(離散)。前部に單刷毛綱(0波多条, RL+LR)→口縁部に平行沈線で区画・複合横窓・点状紋(離散)。波状口縁。異刷毛綱(L)→浮線紋で区画・入組文等→浮線紋上に無節紋(RL)。内面、ヨコミガキ。	柏	白色粒・織維	開山Ⅰ式
324	D-37	深鉢	口縁部～胸部	波状口縁。無節紋(RL)→浮線紋で区画・入組文等→浮線紋上に無節紋(RL)。内面、ヨコミガキ。	柏	片岩	諸磯b式 口径19.8
325	D-38	深鉢	胸部～底部	沈線で縱位区画・網文→区画内に單刷毛綱(RL)。内面、離位ミガキ。底面は工具痕。	明黄褐	角閃石	加曾利EⅢ式 底径11.0
326	D-43	深鉢	口縁部	離位帶と離位・離位区画→單刷毛綱(RL)。内面、ヨコミガキ。	柏	多量の石英	加曾利EⅣ式
327	D-51	深鉢	胸部	閉端付單刷毛綱(0波多条, RL+LR, 多段ループ紋)→縦状紋(平截竹管状工具、真正コンバース紋)。内面、タテナデ。	にぶい柏	織維。多量の石英細粒	開山Ⅰ式
328	D-51	深鉢	口縁部	波状口縁。前頭窓状突起。前部に閉端付單刷毛綱(0波多条, RL+LR)→口縫部に平行沈線で断面形・真正コンバース紋→充填焼(爪)→点状紋(離散・竹管)。内面、ヨコミガキ。追加成形技法。	柏	織維	開山Ⅰ式
329	D-56	深鉢	口縁部～胸部	双頭波状口縁。前頭状突起。異刷毛綱(0波多条, RL+2RRL+RL+2LLR)→口縫部に平行沈線で区画・紙手文(文内文)・附加文→点状紋(離散)。離状紋(平截竹管状工具、真正コンバース紋)。内面、ヨコミガキ。	褐	織維。多量の石英	開山Ⅱ式 口径41.6
330	D-64	深鉢	口縁部～胸部	波状口縁。前頭状突起。前部に閉端付單刷毛綱(0波多条, RL+LR, 多段ループ紋)→口縫部に平行沈線で区画・離手文・附加文・真正コンバース紋→充填焼(爪)。内面、口縫部→胸部・半ヨコミガキ。追加成形技法。	黄褐	織維・石英粗粒	開山Ⅰ式 口径32.0
331	D-64	深鉢	口縁部～胸部	平口縁。閉端付單刷毛綱(0波多条, RL+LR, 逆邊)→口縫部に点状紋(離散)。内面、口縫部ヨコミガキ。胸部タテミガキ。追加成形技法。	柏	織維	開山Ⅰ式 口径18.4
332	D-71	深鉢	口縁部	平口縁。口縫部・胸部→胸部に標系紋(R)。内面、条筋(燃系原形体)。	褐	角閃石安山岩	井草Ⅱ式
333	D-71	深鉢	胸部	標系紋(L)。内面、ヨコナデ。	柏	角閃石安山岩	井草Ⅱ式

持国民番号	遺構	器種	部位	特徴	色調	胎土	備考 (型式/cm)
334 D-79	深鉢	口縁部	側部	平口縁。單節綱紋(RL)・無節綱紋(L)。内面、ヨコナデ。	明褐	織維。多量の石英細粒	開山山式
335 D-79	深鉢	胴部		押引紋(半截竹管状工具)。内面。タテミガキ。	褐	織維・石英粗粒	黒沢式
336 D-84	深鉢	口縁部	側部	平口縁。口縁部を飾る横円状区帯一部に交互キザミ・窓文。側面に攝状状綱。内面、ヨコミガキ。	雲母	阿永台1b式	
337 D-87	深鉢	口縁部	側部	閉鎖端に単節綱紋(RL)・(RL)→口縁部に平行沈線(多截竹管状工具)で区画。内面、ヨコナデ。	浅黄	白色粒・織維	開山山式
338 D-105	深鉢	口縁部	側部	渡込工具。小突起。浮綱紋で区画・入筋状窓文・X字状文等→浮綱紋上にキザミ。内面、ヨコミガキ。	浅黄	角閃石	諸磯b式 口径(40.0)
339 D-114	浅鉢	胴部	底部	丸底。平行沈線で区画・入筋文・H文字(一部縦書き消し)→キザミ。内面、ヨコナデ。底面、指頭痕。	浅黄	石英粗粒	諸磯b式
340 D-137	深鉢	口縁部	側部	口縁部に押引紋(櫛柄状工具)。側面に閉鎖端単節綱(RL)。内面、ヨコナデ。	浅黄	多量の石英	神ノ木式
341 D-142	深鉢	胴部	底部	平底。底面で窓位区画一区画内に条綱紋(櫛柄状工具)。内面。タテミガキ。下端のみヨコミガキ。底面、ミガキ。	にじ・黄褐	多量の角閃石・石英	加賀利EⅢ式 底径6.2
342 S-12	深鉢	口縁部		窓帶・凹縁で横内底・溝状区画一単節綱(RL)。窓紋。内面。ヨコナデ。	浅黄	多量の白色粒・石英	加賀利EⅢ式
343 U-1	深鉢	口縁部		平口縁。沈線で横円状区画一区画外に単節綱(RL)→浅縫で燕子文。内面、ヨコナデ。	にじ・黄褐	多量の白色粒・石英	加賀利EⅢ式 口径(28.8)
344 P-1	深鉢	底部		平底。単節綱紋(RL)。内面、ヨコナデ。底面、磨痕。	相	角閃石・多量の石英細粒	前期後半 口径10.1
345 包含層	深鉢	胴部		山形押型紋。内面、ナメナデ。	浅黄	多量の石英	押型紋系
346 包含層	深鉢	口縁部		条綱紋・格子状綱(尖底状工具)。内面、条綱紋。	相	織維・多量の石英細粒	条綱紋系
347 包含層	深鉢	口縁部	側部	軸綱紋(RL)→口縁部に平行沈線で区画・円文等。内面、ヨコミガキ。	浅黄	織維	開山山式
348 包含層	深鉢	口縁部	側部	口縁部に階帶→列点状突起。内面、ヨコナデ。	相	織維	有尾式
349 包含層	深鉢	口縁部		単節綱(RL)→口縁部(手截竹管状工具)。内面、ヨコミガキ。	相	織維	黒沢式
350 包含層	深鉢	胴部		単節綱(RL)。内面、ヨコナデ。指頭痕。	相	多量の石英細粒	北白川下層式
351 遺構外	深鉢	口縁部	側部	口縁部に単節綱(RL)。内面、ヨコナデ。	相	角閃石	櫛柄系統
352 遺構外	深鉢	口縁部	側部	口縁部・口縁部に横条紋(RL)。内面、ヨコナデ。	相	片岩	井草山Ⅱ式
353 遺構外	深鉢	口縁部	側部	口縁部・口縁部に横条紋(RL)。内面、ヨコナデ。	相	片岩	井草山Ⅱ式
354 遺構外	深鉢	胴部		口縁部に横条紋(RL)。側面に施条件(重巻)。内面、ヨコナデ。	相	角閃石安山岩	井草山Ⅱ式
355 遺構外	深鉢	胴部		無条紋(RL)。内面、ヨコナデ。	相	片岩・多量の石英	櫛柄系統
356 遺構外	深鉢	口縁部		口縁部・側部に条綱紋。内面、ヨコナデ。	黄相	多量の石英細粒	櫛柄系統
357 遺構外	深鉢	胴部		条綱紋。内面、タテナデ。	相	角閃石	櫛柄系統
358 遺構外	深鉢	胴部		口沿腹側に条綱紋。内面、ナデ。	浅黄	特になし	沈縫文系
359 遺構外	深鉢	口縁部		条綱紋・次縫(細い角消状工具)。内面、条綱紋。	赤褐	片岩・多量の石英	条綱紋系
360 遺構外	深鉢	口縁部		平面或直口。長径に直線状突起。階帶一部平行沈線→キザミ(半截竹管状工具)。側面に単節綱(RL)・(LR)。内面、斜じょうヨコミガキ。	相	織維	開山山式
361 遺構外	深鉢	口縁部		渡込工具。口縁部に階帶→列点状突起。内面、ヨコナデ。	相	織維	有尾式
362 遺構外	深鉢	口縁部		口縁部に階帶→列点状突起。内面、ヨコミガキ。	にじ・黄	織維・多量の石英	
363 遺構外	深鉢	胴部		格子状沈線。内面、タテナデ。	浅黄	織維・多量の白色粒・石英	開山山式
364 遺構外	深鉢	胴部		閉鎖端単節綱(RL)。内面、ヨコナデ。	黄相	多量の石英	信州系
365 遺構外	深鉢	口縁部		爪形紋・変形爪形紋。内面、ナデ。	黄相	特になし	興津I式
366 遺構外	深鉢	口縁部		平口縁。空突起。口縁部に窓紋。底部に沈線(尖底状工具)。内面、ヨコミガキ。突起部分に窓紋。	相	多量の石英	加賀利B3式
367 包含層	深鉢	口縁部	側部	平口縁。有孔突起。口縁部に单節綱(丸頭へラ状工具)で内文・重弧文・横位横窓文。側面を縦帶で縦・横條区画一区画交点に8字状貼付紋→階帶上にキザミ。側面に単次縫で窓位車下文・蛇形重下文・弧状文。内面、ヨコミガキ。	浅黄	角閃石・黑色漆物	關之内2式 口径(40.0)
368 包含層	深鉢	胴部		単沈線(丸頭へラ状工具)。内面、ヨコナデ。	浅黄	角閃石・多量の石英	關之内2式
369 包含層	深鉢	胴部		単沈線(丸頭へラ状工具)。内面、ヨコナデ。	にじ・相	角閃石・多量の石英	關之内2式
370 遺構外	深鉢	口縁部		渡込工具。口縁部に階帶→列点状突起。内面、ヨコナデ。	相	織維	有尾式
371 D-51	耳飾	-		1/2楕円。長さ2.3cm・幅2.1cm・重さ6g。表面・裏面に不整な尖頭状工具による刻痕。側面、ナデ。	浅黄	角閃石	中期
372 J-8	棒状土製品	-		長さ3.1cm・幅1.2cm・厚さ1.1cm・重さ3g。ナデ・指頭痕。一部截痕。	浅黄	角閃石	
373 J-45	円盤	-		長さ2.9cm・幅2.8cm・厚さ0.9cm・重さ7g。表面・单節綱紋(RL)。裏面、ミガキ。底面、一部磨出。	浅黄	織維	周溝出土

第20表 古代土器観察表

鉢 番号	個体 番号	遺構名	種類	高さ	法量(cm)			成・整形技術の特徴				備考 (g)		
					口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	残存			
1	-	D-75	土師器	小型實	14.8	-	-	普通	赤褐色	石英・片岩	口縁部破損、 体部削り	口縁部破損で、 体部削り	上野型有蓋短 筒型	
2	-	5-3	須恵器	蓋	(13.5)	-	2.7	還元	灰褐色	石英	体部1/4	燒成整形、天井 部回転削り、自然 輪	燒成整形	上野型有蓋短 筒型
3	-	5-3	須恵器	蓋	-	-	-	還元	灰色	黑色粒	体部片	平行文目	当貝塚上に鄭状 工具による鋸削 で	
4	-	2G-17	胸器	小皿	(12.6)	(7.2)	2.7	還元	浅黃	白色粒・赤色 粒	口縁部～体部 1/4	燒成整形、輪輪	中里瀬戸・矢 通型（須 器部）	
5	21	K-3-4	土師器	环	(13.2)	(8.8)	4.1	普通	表面：灰 いわゆる 内面：暗 褐色	白色粒・黑色 粒	1/3残	口縁部破損で、 体部～底部削 り	口縁部～底部残 1万円	90g
6	18	K-4	稻文土器	环	14.5	9.2	3.9	普通	橙色	白色粒・褐色 ・青白	2/3残	口縁部破損で、 体部～底部削 り	口縁部～体部削 り状態、底部 削取状態	160g
7	4	K-4	須恵器	环	13.6	10.8	3.5	還元	灰色	白色粒・黑色 粒	4/5残	燒成整形、体部 下位～近底部切 り後右回転削 り	燒成整形	190g
8	22	K-4	須恵器	环	(15.6)	10.7	3.5	還元	灰色	白色粒・黑色 粒	1/3残	燒成整形、底部 斜切後右回転 削り	燒成整形	220g
9	5	K-4	須恵器	高行付环	14.5	9.4	3.8	還元	表面：灰 白色～灰 色。 内面：灰 黄色	白色粒・黑色 粒	4/5残	燒成整形、底部 左側斜切削り	燒成整形、高行 付時斜辺削り	230g
10	15	K-4	須恵器	蓋	(16.0)	6.7 (盛み)	2.8	還元	表面：灰 黄褐色、 内面：灰 色	白色粒・黑色 粒	1/2残	盛み付時斜辺 削り削り、天井 部有底斜削り り、体部～口縁 部削取整形	盛み付時斜辺 削り、天井部～口 縁部削取整形	170g
11	6	K-4	須恵器	蓋	13.8	4.8 (盛み)	2.1	還元	表面：灰 黄色、 内面：灰 色	白色粒・黑色 粒	7/8残	盛み付時斜辺 削り削り、天井 部有底斜削り り、体部～口縁 部削取整形	盛み付時斜辺 削り、天井部～口 縁部削取整形	外面全面自然 剥着170g
12	1	K-4	須恵器	蓋	(10.1)	(盛み) 2.8	3.4	還元	灰色	白色粒・褐色 ・青白	2/3	燒成整形、天井 部右回転削り	燒成整形	9.2と対、上 野型有蓋圓 筒100g
13	2	K-4	須恵器	短脚盤	8.8	8.5	4.3	還元	灰色	白色粒・黑色 粒・鐵	は底完形	燒成整形、底部 右回転削り後 右回転削り	燒成整形	9.1と対240g
14	10	K-4	須恵器	長脚盤	-	12.3	-	還元	黄灰色	白色粒・黑色 粒・鐵	口縁部欠損、 高行部一部欠 損	焼成整形、底部 切削後右回転 削り、体部下半 右側斜切削り	焼成整形	頭部～体部上 半身舟半身、体 部上位沈没文 2000g
15	11+ 3	K-4	須恵器	長脚盤	(10.8)	11.5	28.5	還元	灰色	白色粒・黑色 粒	3/5	燒成整形、底部 切削後盤で	燒成整形	頭部沈没文、 体部上位沈没 文間に刺文 1300g
16	9	K-4	須恵器	長脚盤	11.5	-	-	還元	灰白色	白色粒・黑色 粒	口縁部～体部 4/5、高行部 欠損	燒成整形、底部 切削、体部下位 右側斜切削り	頭部沈没文、体 部上位沈没文 間に刺文 1850g	
17	12	K-4	須恵器	長脚盤	10.0	11.6	22.8	還元	黄灰色	白色粒・黑色 粒・鐵	7/8	燒成整形、底部 切削後盤で、 体部下位右側斜 削り	燒成整形	頭部沈没文、体 部上位沈没文 間に刺文 1560g
18	14	K-4	須恵器	蓋	22.6	-	(44.0)	還元	灰黄色	白色粒・黑色 粒・青白・鐵 ・青白	4/5	燒成整形、胴部 青白波文交織、 上部有底斜削り 平行文行条削 り削り	燒成整形、胴部 無文、青白波文 上部有底斜削り 工具5件出土 上部有底斜削 り	8700g
19	10	H-7	須恵器	环	14.6	7.2	4.4	酸化	浅い黄 褐色	白色粒・黑色 粒	4/5	燒成整形、底部 右側斜切削り	燒成整形	180g
20	40	H-7	須恵器	环	13.8	(8.1)	4.2	酸化	浅い黄 褐色	白色粒・黑色 粒・圓閃石	2/3	燒成整形、右側 斜切削りの底盤 に、下面に切削 し位置の異なる 右側斜切削り前 のいた黏土板 が剥離	燒成整形、底部 右側斜切削り	円筒作り麻、 底盤を削り直し た粘土板1/4圓 には、底部 右側斜切削り前 のいた粘土板 が剥離1/40g
21	19	H-7	須恵器	蓋	13.3	7.3	3.0	還元	灰色	白色粒・黑色 粒	2/3	燒成整形、底部 右側斜切削り	燒成整形	140g
22	11	H-7	須恵器	環	15.4	7.4	5.5	還元	灰黄色	白色粒・黑色 粒・圓閃石	燒成整形、底部 右側斜切削り	燒成整形	250g	

種別 番号	個体 番号	遺物名	種類	高さ	法線(cm)			成・整形技術の特徴				備考/重量 (g)			
					口径	底径	器高	①焼成	②色調	③施土	残存				
23	52	H-7	須恵器	桜	15.4	7.4	6.0	還元	灰白色～ 灰色	白色釉・黑色 粉	3/4	破壊整形、底部 右斜板系切り、 体部右斜板削除 り	破壊整形 180g		
24	162	H-8	昭文土器	坪	(14.8)	(9.0)	5.2	普通	深い褐色	白色釉・黑色 粉・褐色釉・青 母	2/5	口縁部模様で、 体部一部底部削除 り	口縁部・体部削 除で後段付加文、 底部削除で 140g		
25	170	H-8	昭文土器	坪	(16.6)	11.0	5.8	普通	深い黄褐色	黑色釉・青母・ 鐵	1/2	口縁部模様で、 体部一部底部削除 り	口縁部・体部削 除で後段付加文、 底部削除で 210g		
26	163	H-8	昭文土器	坪	(15.6)	(10.0)	5.2	普通	桜色	白色釉・褐色 粉・鉄閃石・鐵	2/5	口縁部模様で、 体部一部底部削除 り	口縁部・体部削 除で後段付加文、 底部削除で 100g		
27	53	H-8	土師器	坪	13.9	10.1	3.8	普通	深い褐色	白色釉・褐色 粉・青母	3/4	口縁部模様で、 体部一部底部削除 り	口縁部・体部削 除で、底部削除 150g		
28	24	H-8	須恵器	坪	12.4	6.8	3.7	還元	灰色	白色釉・黑色 粉	3/4	破壊整形、底部 右斜板系切り後 周辺部右斜板削除 り	破壊整形 140g		
29	157	H-8	須恵器	坪	13.0	8.0	3.8	還元	灰白色	白色釉・黑色 粉	2/3	破壊整形、底部 右斜板系切り後 周辺部右斜板削除 り	破壊整形 135g		
30	21	H-8	須恵器	桜	(10.8)	(6.4)	5.8	還元	灰色	白色釉・黑色 粉	1/3	破壊整形、底部 右斜板系切り	破壊整形 80g		
31	49	H-8	土師器	壺	34.0	13.3	32.2	普通	桜色	白色釉・黑色 粉・鐵	7/8	口縁部模様で、 体部底部削除	口縁部・胴部削 除で後段付加文、 底部削除で 2990g		
32	161	H-8	土師器	壺	(31.6)	—	—	普通	桜色	白色釉・青母・ 鐵	中位1/5	口縁部模様で、 胴部底部削除	口縁部・胴部削 除で 310g		
33	2	H-9	昭文土器	坪	13.0	7.5	3.9	普通	深い褐色	白色釉・褐色 粉・青母	該注完形	口縁部・体部模 様で後段付加文、 底部削除で	口縁部・体部削 除で後段付加文、 底部削除で 190g		
34	3	H-9	昭文土器	坪	13.4	7.6	5.1	普通	桜色	白色釉・褐色 粉・青母・鐵	該注	口縁部模様で、 体部一部欠損部 り	口縁部・体部削 除で後段付加文、 底部削除で 200g		
35	7	H-9	昭文土器	坪	12.5	7.6	3.7	普通	明褐色	白色釉・黑色 粉・褐色釉・青 母	口縁部一部欠 損	口縁部模様で、 体部一部底部削除 り	口縁部・体部削 除で後段付加文、 底部削除で 170g		
36	159	H-9	昭文土器	坪	(14.8)	(10.0)	4.2	普通	桜色	白色釉・褐色 粉・鐵	1/4	口縁部模様で、 体部一部底部削除 り	口縁部・体部削 除で後段付加文、 底部削除で 55g		
37	33	H-9	須恵器	坪	12.6	9.0	3.2	還元	灰色	白色釉・黑色 粉・鐵	3/4	破壊整形、底部 右斜板系切り後 周辺部右斜板削除 り	破壊整形 110g		
38	14	H-9	須恵器	坪	14.7	9.5	3.2	還元	灰白色	白色釉・黑色 粉・褐色釉・鐵	2/3	破壊整形、底部 切入人・後右斜板 削除	破壊整形 150g		
39	20	H-9	須恵器	坪	12.2	8.3	3.6	還元	灰色	白色釉・黑色 粉	7/8	破壊整形、底部 右斜板系切り後削 除	破壊整形 130g		
40	35	H-9	須恵器	坪	13.1	7.0	3.9	還元	黄灰色	白色粉	4/5残	破壊整形、底部 右斜板系切り後 周辺部右斜板削除 り	破壊整形 190g		
41	36	H-9	土師器	小形壺	9.9	—	8.3	普通	桜～ 深い褐色	褐色釉・青母	完形	口縁部模様で、 胴部底部削除	口縁部・胴部削 除で 240g		
42	12	H-9	土師器	壺	—	7.8	—	普通	深い赤褐色	白色釉・青母・ 鐵	該注	胴部・底部削除	胴部・底部削除 で 280g		
43	68	H-9	土師器	壺	21.1	—	—	普通	桜色	白色釉・褐色 粉・鉄閃石	中位3/5	口縁部模様で、 胴部底部削除	口縁部・体部削 除で、胴部削除 で 420g		
44	194	H-10	須恵器	壺	15.8	5.3(第 5)	3.3	還元	表面：青 い・黃褐色。 裏面：暗 い・黃褐色。	白色釉・黑色 粉	該注完形	施み部分削除 で、天井 部左回転削除 り、体部一部口縁 部破壊	施み部分削除 で、天井 部左回転削除 り、体部一部口縁 部破壊	施み部分削除 で、天井 部左回転削除 り、体部一部口縁 部破壊	280g
45	156	H-11	須恵器	短瓶	9.8	7.6	4.9	還元	表面灰 色。裏面: 青面・ 深い褐色。	白色釉・黑色 粉・鐵	1/3	破壊整形、底部 自然剥離により 剥離不分明	破壊整形 90g		
46	64	H-12	須恵器	坪	13.7	6.8	3.7	焼成	深い黄褐色	白色釉・褐色 粉・褐色釉	2/3	破壊整形、底部 右斜板系切り	破壊整形 120g		
47	72	H-13	須恵器	坪	—	—	—	還元	灰色	白色釉・黑色 粉	口縁部破片	口縁部模様で、 胴部削除	外面燒成前花 卉狀裝飾?/2g		
48	172	H-13	土師器	壺	19.3	—	—	普通	深い褐色	白色釉・青母・ 鐵	該注	口縁部模様で、 胴部削除	口縁部模様で、 胴部削除 300g		
49	174	H-13	土師器	壺	20.2	—	—	普通	深い赤褐色	白色釉・青母・ 鐵	該注	口縁部模様で、 胴部削除	口縁部模様で、 胴部削除 160g		
50	171	H-13	土師器	壺	(19.5)	—	—	普通	深い赤褐色	白色釉・青母・ 鐵	該注	口縁部模様で、 胴部削除	口縁部模様で、 胴部削除 250g		

種別 番号	個体 番号	道場名	種類	高さ	法華(cm)		成・整形技の特徴				備考/重量 (g)			
					口径	底径	基高	①被成	②色調	③筋走				
51	173	H-13	土師器	甕	20.0	—	—	普通	褐色	白色粒・角 間 石	口縁部～脚部 上位5/6	口縁部～脚部横 擦で、脚部斜擦 り	口縁部～颈部横 擦で、颈部斜擦 り	190g
52	175	H-13	土師器	甕	18.4	—	—	普通	明赤褐色	白色粒・黒色 粒	口縁部～脚部 中位1/3	口縁部～脚部横 擦で、脚部斜擦 り	口縁部～颈部横 擦で、颈部斜擦 り	160g
53	177	H-13	土師器	甕	(24.0)	—	—	普通	明赤褐色	白色粒・黒色 粒	口縁部～脚部 上位1/5	口縁部横擦で、 脚部斜擦	口縁部横擦で、 脚部斜擦	90g
54	25	H-14	土師器	甕	12.4	8.6	4.1	普通	橙色	白色粒・黒色 粒	7/8	口縁部横擦で、 体部～底部斜擦 り	口縁部～体部横 擦で、底部無擦	210g
55	124	H-14	須恵器	甕	(13.2)	(6.2)	3.8	熟化	棕色	白色粒・雲母	1/3	被織整形、成部 切削し後斜擦で	被織整形	60g
56	27	H-14	須恵器	甕	14.3	8.4	3.3	還元	黄灰色	白色粒	9/10残	被織整形、成部 右斜系切り	被織整形	150g
57	129	H-14	須恵器	甕	(11.7)	7.0	3.2	還元	灰白色	白色粒	1/3残	被織整形、成部 右斜系切り	被織整形	60g
58	131	H-14	須恵器	甕	(12.0)	7.0	3.4	還元	灰色	白色粒	1/3残	被織整形、成部 右斜系切り	被織整形	80g
59	140	H-14	須恵器	甕	(12.6)	(7.8)	3.5	還元	灰白色	白色粒・黒色 粒	1/4残	被織整形、底部 回転切り	被織整形	60g
60	60	H-14	須恵器	甕	—	9.6	—	還元	黄灰色	白色粒	1/2	被織整形、成部 右斜系切り	高台 貼付時邊部斜 擦で	140g
61	139	H-14	須恵器	甕	—	(6.2)	—	還元	灰色	白色粒・黒色 粒	底部下位～高 台部1/2	被織整形、成部 右斜系切り	高台 貼付時邊部斜 擦で	45g
62	169	H-14	土師器	甕	(10.0)	—	—	普通	明赤褐色	白色粒・黒色 粒・角閃石	13縫合～脚部 中位1/4	口縁部横擦で、 脚部斜擦	口縁部横擦で、 脚部斜擦	150g
63	135	H-15	須恵器	甕	(15.2)	(4.6) (26)	3.1	還元	灰色	白色粒・黒色 粒	1/3残	瓶内付物時邊部 右斜系切りで、天井 部有肩部斜擦 り、体部～口縁 部被織整形	瓶内付物回転 で、天井部～口 縁部被織整形	140g
64	137	H-15	須恵器	甕	—	7.0	—	還元	灰黃褐色	白色粒・黒色 粒	体部下位～底 部残	被織整形、体部 下位斜削り、底 部右斜系切り後 斜擦で	被織整形	90g
65	150	H-15	土師器	甕	16.6	—	—	普通	暗褐色	白色粒・黒色 粒	口縁部～脚部 下位1/3	口縁部横擦で、 脚部斜擦	口縁部横擦で、 脚部斜擦	360g
66	158	H-15	土師器	甕	(25.6)	—	—	普通	深い黄褐色	白色粒・黒色 粒・通れ粒	口縁部～脚部 下位1/3	口縁部横擦で、 脚部斜擦	口縁部横擦で、 内面脚部汚付 付着410g	410g
67	191	H-15	土師器	甕	(21.2)	—	—	普通	深い赤褐色	白色粒・雲母	13縫合～脚部 中位1/3	口縁部横擦で、 脚部斜擦	口縁部横擦で、 脚部斜擦	200g
68	190	H-15	土師器	甕	(20.2)	—	—	普通	深い赤褐色	白色粒・黒色 粒・褐色・雲母・ 母・礫	13縫合～脚部 中位2/5	口縁部横擦で、 脚部斜擦	口縁部横擦で、 脚部斜擦	220g
69	48	H-15	土師器	甕	21.8	—	—	普通	赤褐色	白色粒・黒色 粒・角閃石	13縫合～脚部 下位2/3	口縁部横擦で、 脚部斜擦	口縁部横擦で、 脚部斜擦	880g
70	56	H-16	土師器	甕	13.5	8.1	4.6	普通	浅黃褐色	細粒粉	ほぼ完形	口縁部横擦で、 体部～底部斜擦 り	口縁部～体部横 擦で、底部斜擦	150g
71	57	H-16	昭文土器	甕	12.8	8.1	4.3	普通	褐色	白色粒・角 閃石・礫	2/3	口縁部～体部擦 で底部前面横 擦不規則、底部 斜擦	口縁部～体部擦 で後斜射状横 擦、底部斜擦	40g
72	5	H-16	昭文土器	甕	11.8	7.1	4.1	普通	明赤褐色	白色粒・黒色 粒・雲母・礫	13縫合～脚部 残	口縁部～体部擦 で底部斜擦	口縁部～体部擦 で後斜射状横 擦、底部斜擦	130g
73	4	H-16	昭文土器	甕	12.8	8.3	4.5	普通	明褐色	白色粒・黒色 粒・雲母・礫	7/8	口縁部横擦で、 体部～底部斜擦 り	口縁部～体部擦 で後斜射状横 擦、底部斜擦	外表面墨書き 印/200g
74	23	H-16	須恵器	甕	(12.0)	7.8	3.9	還元	灰色	白色粒・黒色 粒	3/4残	被織整形、成部 右斜系切り	被織整形	200g
75	26	H-16	須恵器	甕	13.3	7.2	4.4	還元	灰白色	白色粒・黒色 粒	2/3残	被織整形、成部 斜系切右斜系 斜削り	被織整形	160g
76	39	H-16	須恵器	甕	12.3	6.9	4.0	還元	表面：灰 色。内面： 暗褐色	白色粒・黒色 粒	3/4残	被織整形、成部 左斜系切り	被織整形	120g
77	6	H-16	須恵器	甕	(17.5)	(11.0)	3.8	還元	灰色	白色粒・黒色 粒	1/3	被織整形、成部 切削・後右斜 擦で	被織整形	外表面墨書き 印/140g
78	22	H-16	須恵器	甕	11.1	7.0	4.9	還元	暗灰黄色	白色粒・黒色 粒	7/8残	被織整形、成部 右斜系斜削り	被織整形、高台 貼付時邊部斜 擦で	内表面自然輪 付着、高台部 焼成時の付着 物あり/150g
79	45	H-16	須恵器	甕	16.6	10.2	8.1	還元	灰色	白色粒・黒色 粒	9/10残	被織整形、体部 下位右斜系斜 削り、底部斜系 斜削り	被織整形、高台 貼付時邊部斜 擦で	510g

種別 番号	個体 番号	道場名	種類	高さ	法華(cm)			成・整形投げの特徴				備考/重量 (g)			
					口径	底径	基高	①被成	芯色	③崩土	残存				
80	41	H-16	頭患器	桜	17.2	10.2	9.2	還元	白色系、灰白色	白色粒・黑色 粒	2/3残	被壊整形、底部 右斜面削り後 削て	被壊整形、高台 貼付時側面削 て	340g	
81	18	H-16	頭患器	轟	18.2	3.9(横 み)	4.6	還元	灰白色	白色粒・黑色 粒	口縁部1/10欠 損	被壊整形、天井部 側面削り、底部削 り、底部・口縁部 被壊整形	被壊整形、天井部 側面削り	重ね被壊あり /300g	
82	42	H-16	土師器	無輪底	(14.6)	—	17.3	普通	鈎い褐色	白色粒・黑色 粒、角閃石	3/4残	口縁部被削て、 底部～底部削削 り	口縁部被削て、 底部～底部削削 り	860g	
83	66+ 67	H-16	土師器	轟	29.9	12.0	31.0	普通	明闇色	白色粒・黑色 粒、褐色・深 褐色	1/2残	口縁部被削て、 底部削削して後 方3ガリ	口縁部被削て、 底部削削して後 方3ガリ	1450g	
84	69	H-16	土師器	轟	(25.6)	—	—	普通	鈎い褐色	白色粒・黑色 粒、褐色・深 褐色	口縁部～脚部 上位	口縁部被削て、 底部削削して	口縁部被削て、 底部削削して	340g	
85	185	H-16	土師器	轟	20.9	—	—	普通	鈎・明赤 褐色	白色粒・黑色 粒、白英 石・角閃石	口縁部～脚部 上位4/5	口縁部被削て、 底部削削して	口縁部被削て、 底部削削して	330g	
86	183	H-16	土師器	轟	21.0	—	—	普通	褐色	白色粒・黑色 粒、雲母	口縁部～脚部 中位3/4	口縁部被削て、 底部削削して	口縁部被削て、 底部削削して	630g	
87	186	H-16	土師器	轟	(21.5)	—	—	普通	鈎い赤褐色	白色粒・黑色 粒、褐色・角 閃石	中位2/5	口縁部被削て、 底部削削して	口縁部被削て、 底部削削して	220g	
88	184	H-16	土師器	轟	21.6	—	—	普通	明闇色	白色粒・角 閃石	口縁部～脚部 中位2/3	口縁部被削て、 底部削削して	口縁部被削て、 底部削削して	470g	
89	15	H-17	頭患器	环	11.8	6.4	3.9	還元	灰白色	白色粒・黑色 粒、角閃石	口縁部1/4欠 損	被壊整形、底部 右斜面削り	被壊整形	130g	
90	193	H-17	土師器	轟	21.3	—	—	普通	鈎い褐色 ～鈎い赤褐色	白色粒・褐色 粒、雲母	口縁部～脚部 上位4/5	口縁部被削て、 底部削削して	口縁部被削て、 底部削削して	290g	
91	34	H-18	昭文土器	环	12.0	9.3	3.7	普通	褐色	白色粒・褐色 粒	往逆平行	口縁部被削て、 底部～底部削削 り	口縁部被削て、 底部～底部削削 り、武藏摩打 筋不明	170g	
92	17	H-18	頭患器	轟	13.4	4.1(横 み)	4.9	還元	灰白色	白色粒・黑色 粒	3/4残	被壊整形後逆 回転削て、天井 部右斜面削削 り、底部削削 して	被壊整形後逆 回転削て、天井 部右斜面削削 り、底部削削 して	上野型短腹壺 蓋/260g	
93	70+ 71	H-18	土師器	轟	20.3	5.2	27.8	普通	鈎・黄褐色 ・角閃石	白色粒・黑色 粒、角閃石	7/8	口縁部被削て、 底部～底部削削 り	口縁部被削て、 底部～底部削削 り	890g	
94	118	H-19	土師器	环	(13.1)	(6.6)	4.3	普通	褐色	白色粒	1/4	口縁部被削て、 底部～底部削削 り	口縁部被削て、 底部～底部削削 り	50g	
95	58	H-19	土師器	小形壺	(12.4)	6.8	12.2	普通	鈎・褐色	白色粒・黑色 粒、褐色・深 褐色	1/3	被壊整形、脚部 下位～底部削削 り	被壊整形	190g	
96	61	H-20	昭文土器	环	14.4	8.5	4.5	普通	褐色	白色粒・角 閃石	1/2	口縁部被削て、 底部～底部削削 り	口縁部～体盤 被削て後放射状 紋、底盤變形	110g	
97	1	H-20	昭文土器	环	13.5	9.2	4.8	普通	褐色	白色粒・褐色 粒、雲母	口縁部一部欠 損	口縁部被削て、 底部～底部削削 り	口縁部～体盤 被削て後放射状 紋、底盤變形	190g	
98	31	H-20	昭文土器	环	10.1	10.2	4.5	普通	鈎・褐色	黑色粒・褐色 粒	口縁部一部欠 損	口縁部被削て、 底部～底部削削 り	口縁部～体盤 被削て後放射状 紋、底盤變形	250g	
99	32	H-20	昭文土器	环	14.8	9.0	4.7	普通	明闇色	白色粒・黑色 粒、角閃石・褐 色	口縁部一部欠 損	口縁部被削て、 底部～底部削削 り	口縁部～体盤 被削て後放射状 紋、底盤變形	外面部燒成 度、底盤變形	
100	180	H-20	土師器	轟	21.4	—	—	普通	鈎い赤褐色	白色粒・黑色 粒、褐色・深 褐色	口縁部～脚部 下位5/5	口縁部被削て、 底部削削して	口縁部被削て、 底部削削して	1150g	
101	181 a	H-20	土師器	轟	—	—	—	普通	鈎～鈎い 褐色	白色粒・褐色 粒、雲母	脚部下位～底 部2/3	脚部～底部削削 り	脚部～底部削削 り	1150g	
102	181 b,c,d	H-20	土師器	轟	(22.6)	—	—	普通	鈎い褐色	白色粒・褐色 粒、雲母、片 白石	中位2/5	口縁部被削て、 底部削削して	脚部～底部削削 り	脚部～底部削削 り	脚部～底部削削 り
103	47	H-20	土師器	轟	22.0	—	—	普通	褐色	白色粒・褐色 粒、雲母	下位3/5	口縁部被削て、 底部～底部削削 り	口縁部被削て、 底部～底部削削 り	990g	
104	37	H-21	土師器	环	(12.4)	6.8	3.9	普通	鈎・褐色	白色粒・黑色 粒、褐色・深 褐色	2/3	口縁部被削て、 底部～底部削削 り	口縁部被削て、 底部～底部削削 り	130g	
105	44	H-21	頭患器	环	12.9	(7.0)	3.4	微化気味	灰・黃褐色 ～鈎い褐色	褐色粒・褐色 粒	3/4	被壊整形、底部 右斜面削り	被壊整形	100g	
106	62	H-21	瓦理陶器	桜	(16.2)	(8.7)	4.7	普通	灰・灰 褐色・灰 オーライ ー・褐色	白色粒	1/5残	被壊整形、高台 貼付時側面削 削して	被壊整形、高台 貼付時側面削 削して	内外全面焼付 度、底盤變形	
107	8	H-21	頭患器	环	(13.4)	7.3	4.0	還元	灰白色	黑色粒	1/3残	被壊整形、底部 右斜面削り	被壊整形	80g	

捕獲番号	個体番号	道標名	種類	高種	法幅(cm)			成・整形技法の特徴				備考/重量(g)		
					口径	底径	器高	①被成	②色調	③歯土	残存			
108	114	H-21	頭蓋器	唐	—	6.4	—	還元	黄灰色	白色粉	脚部下位～底 右斜板斜切り 2/5	被成整形、底部 右斜板斜切り	被成整形	90g
109	110	H-21	頭蓋器	唐	(33.2)	—	—	還元	灰白色	白色粉・黑色 粉・褐色粉・角 閃石	口縫部2/5	被成整形	被成整形	口縫部第2側の 穿孔/200g
110	100	H-22	船文土器	环	(14.7)	—	3.0	普通	橙色	白色粉・露母・ 鐵	1/3	口縫部横撫で、 底部斜切り	口縫部横撫で、 底部斜切り	100g
111	91	H-22	船文土器	环	—	9.8	—	普通	鈍い褐色	白色粉・褐色 粉	体部～底部 2/3	体部～底部斜削 り	体部～底部斜削 り	140g
112	84	H-22	船文土器	环	(15.8)	11.0	5.8	普通	鈍い黄褐色	白色粉・露母・ 鐵	1/2	口縫部横撫で、 体部～底部斜削 り	口縫部横撫で、 体部～底部斜削 り	200g
113	95	H-22	船文土器	环	(14.8)	(10.2)	5.4	普通	橙色	白色粉・露母・ 鐵	1/3	口縫部横撫で、 体部～底部斜削 り	口縫部横撫で、 体部～底部斜削 り	100g
114	97	H-22	船文土器	环	(18.4)	—	—	普通	橙色	白色粉・褐色 粉・鐵	口縫部～底部 1/4、底面欠 損	口縫部横撫で、 体部～底部斜削 り	口縫部横撫で、 体部～底部斜削 り	100g
115	43	H-22	船文土器	环	14.0	11.0	4.2	普通	橙色～鈍 い褐色	褐色粉・鐵	口縫部完全	口縫部横撫で、 体部～底部斜削 り	口縫部～体部横 撫で後斜射状切 り、底部擦	内外黒色斑 青/220g
116	85	H-22	船文土器	环	13.6	9.2	4.4	普通	橙色	白色粉・褐色 粉	2/3	口縫部横撫で、 体部～底部斜削 り	口縫部～体部横 撫で後斜射状切 り、底部擦	120g
117	86	H-22	船文土器	环	(13.8)	(9.9)	4.7	普通	橙色～鈍 い黃褐色	白色粉・褐色 粉	2/5	口縫部横撫で、 体部～底部斜削 り	口縫部～体部横 撫で後斜射状切 り、底部擦	110g
118	94	H-22	船文土器	环	(13.8)	(7.6)	4.0	普通	橙色	白色粉・褐色 粉	2/5	口縫部横撫で、 体部～底部斜削 り	口縫部～体部横 撫で後斜射状切 り、底部擦	95g
119	96	H-22	土師器	环	13.5	—	3.7	普通	鈍い褐色	白色粉・角閃 石	7/8	口縫部横撫で、 体部斜削で、底部 斜削り	口縫部～体部横 撫で後斜射状切 り、底部擦	110g
120	13	H-22	頭蓋器	环	12.0	5.6	3.6	還元	黄灰色	白色粉・黑色 粉	4/5残	被成整形、底部 右斜板斜切り	被成整形	100g
121	28	H-22	頭蓋器	高台付环	15.2	9.9	4.6	還元	灰色	白色粉	口縫部完全	被成整形、底部 右斜板斜切り	高台部～底部斜削 り	あり/200g
122	51	H-22	頭蓋器	轟	13.1	4.6(摘 み)	1.6	還元	灰色	白色粉・黑色 粉	9/10残	被成整形で、天井 部斜削り、斜面 1/2斜削り	被成整形で、天井 部斜削り	内外黒色斑 青/200g
123	90	H-22	頭蓋器	轟	(12.6)	3.8(摘 み)	2.4	還元	灰色	白色粉・黑色 粉	1/4残	被成整形で、天井 部斜削り、斜面 1/2斜削り	被成整形で、天井 部斜削り	60g
124	75	H-23	頭蓋器	轟	(15.8)	8.4	5.9	還元	底白色～ 灰色	白色粉・黑色 粉	1/4残	被成整形、底部 右斜板斜切り	被成整形、底部 右斜板斜切り	110g
125	81	H-23	土師器	轟	(20.4)	—	—	普通	橙色	白色粉・褐色 粉・角閃石・鐵	口縫部～脚部 上位1/4	口縫部横撫で、 脚部斜削り	口縫部横撫で、 脚部斜削り	150g
126	82	H-23	土師器	轟	(21.4)	—	—	普通	赤褐色	白色粉・黑色 粉・角閃石	口縫部横撫で、 脚部斜削り	口縫部横撫で、 脚部斜削り	100g	
127	65	HT-3	土師器	环	13.0	8.8	4.0	普通	橙色	白色粉	2/3残	口縫部横撫で、 体部～底部斜削 り	口縫部横撫で、 体部～底部斜削 り	140g
128	9	SF-1	頭蓋器	环	13.4	9.2	3.5	還元	黄灰色	白色粉・鐵	口縫部1/2欠 損	被成整形、底部 右斜板斜切り後 斜板斜削り	被成整形	170g

凡例 () : 推定値

VII 成果と問題点

1 縄文時代前期前葉の住居址について

(1) 住居址の変遷について

三本木II遺跡では連続的に営まれてきた縄文時代前期前葉の集落址が充実している。この集落では各時期の住居址がまとまりを保ちながら細尾根上を遷移していく様相が捉えられた(第257図)。

集落は二ツ木式期にE区南側で始まる。この場所は南東方向へ延びる台地の尾根が湾曲して東西方向になる部分の南側斜面に位置し、早期からの活動痕跡が見受けられた区域である。住居址の分布は閑山I式期を経て、閑山II式古段階までこの区域に限られていた。閑山II式の新段階になると標高の高いE区西側・D区中央へ拡大し、南西側斜面や尾根の平坦面に進出するようになる。これらはD区中央・C区周辺・E区西側にまとまりが見られ、個々の住居がすべて同時期に存立していたわけではないであろうが、住居址の主軸線がC区周辺では同一方向に、D区中央では弧状に並ぶ。なお、D区中央のJ-35・40号住居址は、弧状に並ぶJ-30・38・43・45号住居址等と対向しており、空白地を挟んで出入り口が対峙する格好である。有尾式期になると住居件数は減り、閑山II式期末～有尾式期古段階はD区北端に、有尾式期中段階はC区周辺の平坦面に集約する。なお、諸磯b式期の住居址はD区北側から中央に限られ、平坦面・南西斜面・北東斜面にわたって構築される。中期の五領ヶ台式I期・加曾利E III式期はより標高の高い平坦面を嗜好するようになる。

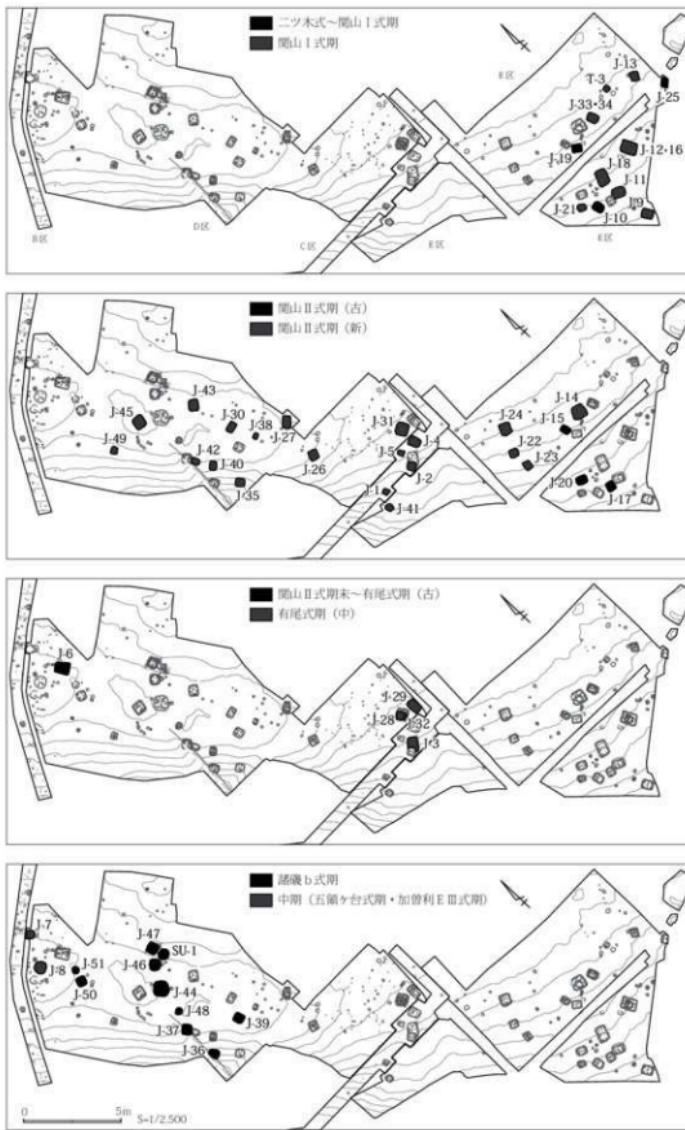
(2) 前期前葉の住居構造について

ここでは豊富な資料が得られた前期前葉の住居址について、平面形・主柱穴・壁周施設・軒の形態を中心に総括する(第258・259図)。

平面形態は長方形を基本とし、二ツ木式から有尾式まで採用され続ける。とくに、二ツ木式・閑山I式期は主体を占めていた。方形は閑山II式期新段階以降に多くなる。台形は閑山II式期以降から散見された。

閑山式期の主柱穴配置は4本・6本主柱穴が両立する。また、主柱穴は壁面に接しないことが一般的だが(B形態)、閑山式期では桁行が壁際の壁周溝や壁柱穴列に沿った位置に設けられるもの(A形態)も目に付く(40%)。A形態には桁が奥壁・前壁に接するもの(A1)、奥壁だけに接するもの(A2)が確認された。閑山I式期は6本主柱穴が多くを占める(70%)。A1形態とB形態が拮抗していた。閑山II式期になると4本主柱穴が若干多くなり(55%)、小型住居には梁行1列で構成される2本主柱穴が見られる(J-41A B号住居址)。B形態が多くなり(70%)、B形態が一般化する有尾式期以降への過渡的な様相を示す。なお、A形態にはA2形態が加わっていた。J-24・26・30号住居址は6本主柱穴だが、中央の2ピットが梁行の外側にはみ出し、主柱穴間を結ぶ縫が六角形となる。

壁周施設として閑山I式期から閑山II式古段階にはすべて壁柱穴列が使用されていた。閑山II式期新



第257図 三本木II遺跡 繩文時代の遺構変遷図

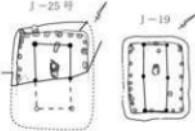
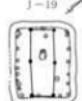
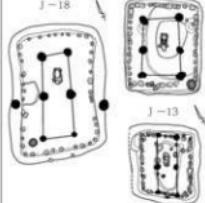
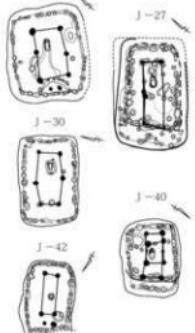
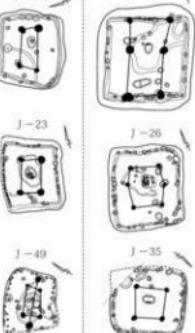
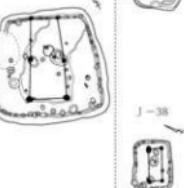
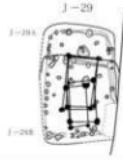
段階になると壁柱穴列を伴う壁周溝が隆盛する（60%）。J-22・23・38・41号住居址など壁周溝だけのものも散見され、壁周溝で占められていた有尾式期への過渡的な様相が垣間見られる。壁周施設が不明確なものも組成し、J-49号住居址には部分的に華奢なピット列が施され、J-15号住居址には意図的な壁周施設が認められなかった。

前期前葉の炉は、礫などの構築材で燃焼部の三方（奥辺・側辺）を囲むもの（I形態）、四方を囲繞するもの（II形態）、一方にのみ配するもの（III形態）、周囲への配置が無いもの（IV形態）に大別される。I形態は群馬県を中心とする関東地方北西部を主体とするもので、花積下層式期古段階から派生することが知られている。II形態は中部地方に散見されるものである。III・IV形態は「地床炉」に相当し、III形態に使用される石は「枕石」と通称されるものである。これらには、燃焼部に扁平な構築材を敷くもの（a）と敷かないもの（b）の差が認められる。燃焼部に扁平礫を敷く行為は関東地方北西部の特徴であり花積下層式の新段階に普及する。I形態は当該地方において一般的なコの字形石敷炉（コの字状石圓炉）の典型である。II～IV形態の燃焼部に敷物を配するものは、各系統が関東地方北西部の影響を受けたものと推測される。また、経過とともに、構築材に礫ないし礫石器を使用するもの（1）から土器が用いられるもの（2）が派生する。構築材としての土器片は、個体を破碎・分割して使用しており、同じ炉内で接合する事例が多い。他に、炉体土器と住居址覆土や壁柱穴から出土した土器片が接合しており（J-13号住居址2層・P-3、J-21号住居址4区1層）、住居内で素材が加工される構築過程が窺われる。なお、炉の被熱痕跡は一概に不明瞭であるが、J-6・14・19号住居址では確認できた。J-23・26号住居址では炉の範囲外が、J-11・23号住居址では敷石下が被熱しており、炉の作り替えを視野に入れる必要がある。J-10号住居址の奥辺・右側辺に見られるように、構築材の抜き取り行為も想定され、炉の掘り方に注意するとともに、類例による検証が必須となる。

関山I式期の炉はI a 1形態が多く、古段階ではI a 1形態のみで構成されている。敷石は大型扁平礫の手前に複数の小型礫が整列して並べられている。簡素な敷石もあり（J-19号住居址）、敷石を省いたI b 1形態も見受けられる。土器片を使用したものが少量認められ、I a 2形態のJ-13号住居址では右側辺の一部、I b 2形態のJ-21号住居址では奥石の下に敷かれていた。

典型的なコの字形石敷炉であるI a形態は関山II式古段階でなくなる。I a 2形態のJ-17号住居址例は形骸化しており、敷石の大型礫と小型礫の配置が逆となっていた。I b 1・I b 2形態は関山II式にも継続する。ただし、I b 2形態では土器の使用頻度が増え、J-40B号住居址では土器のみで三方を囲む。II a 2・II b 2・III a 1・III b 1形態は関山II式期から組成するもののが多様化することが分かる。J-23号住居址は礫や石器とともに深鉢の上端によって敷石を囲繞する特異な事例である。平成6年度調査のJ-1号住居址に似るが、これはCピットに埋設土器を使用する事例に帰属する。II形態は中部地方・III形態は関東地方南部の影響が予想されるものの、敷石の併存から関東地方北西部の系統下で造られていることが分かる。なお、地床炉のIV形態が増加することも当該期の特徴にあげられる。

以上を要約すると、関山I式期は平面長方形で6本主柱穴・壁柱穴・コの字形石敷炉をもつものが主体を占め、関山II式期は平面長方形・方形・台形で、壁周溝・壁柱穴・コの字形石敷炉・地床炉など多様な要素で構成される。関東地方南部では、平面台形で柱穴配置A形態を主体とし、炉II b形態が組成する強い伝統をもつが、本遺跡では関山II式期古段階からその影響が見られ、他系統の許容が察せられる。中部地方では平面隅丸方形・隅丸長方形（関東地方のものより長軸方向が短い）で4本主柱穴・壁周溝を主体とし、炉II b形態が組成するタイプが普及しており、関山II式期新段階に加わった要素を彷

長方形	不整長方形	方形	台形	小型
 二木式 関山式前	 J-19			
 関山式前	 J-21			 T-3
 関山式前(2)	 J-15		 J-17	
 関山式前(3)	 J-22 J-23 J-45 J-25 J-49	 J-35	 J-14 J-38	 J-41
 関山式前末～有田式前		 J-28	 J-6	 J-32

第 258 図 三本木 II 遺跡 縄文時代前期前葉～中葉の住居址変遷図



第259図 三本木II遺跡 縄文時代前期前葉～中葉の住居址炉変遷図

佛させる。他系統の受容は関山II式期新段階になると中部地方からの影響が強くなるようで、神ノ木式が安定して共存する時期であることは示唆的である。ただし、この字形石敷かの堅持などで明白なように、関東地方北西部の独自性が固持されていることが特徴といえる。このような動態は次時期において中部地方とは異なる有尾式を形成した社会的交渉関係が反映していると考えられる。

(高橋)

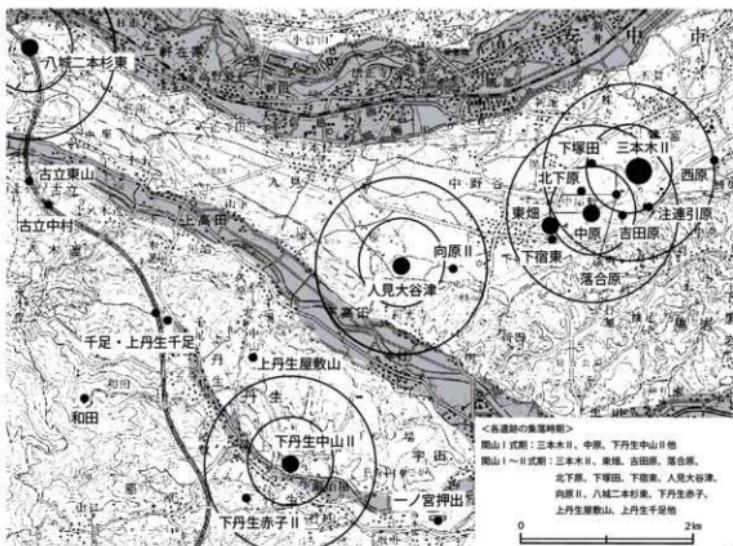
2 横野台地における関山式期の集落について

三本木II遺跡では、関山I・II式期の集落を主体として、関山式期から有尾・黒浜式期への移行段階の集落、断続期を経て諸磕b式期の集落、さらに中期の集落といった時期の異なる集落が、遺跡内で東から西へと移動していく特徴が確認された。特に関山式期の集落は、谷を挟んで立地する中原遺跡、東畠遺跡等の集落との関連が強く、同一地域における集落構造を把握する上で注目される。

ここでは、本遺跡と横野台地に分布する同時期の遺跡から、関山式期の集落構造を検討する。

関山式期の集落構造は、中原遺跡（住居址関山I式期13軒、関山II式期1軒、有尾式期2軒、合計16軒検出）と東畠遺跡（住居址は関山II式期6軒、諸磕b式期1軒、合計7軒検出）の分析によって、その特徴が明らかとなっている（大工原1994、2001）。

住居址は、広い範囲に3~4軒を単位とした列状集落が、二群に分かれて形成される。住居址は重複せず、住居間の間隔は広い。また、住居址以外の遺構（土坑、墓坑）は少なく、長期にわたる拠点的要



第260図 横野台地とその周辺の関山式期集落分布

素はみられない。二群に分かれる集落は、それぞれ住居構造、遺物量、石器組成等に多くの差異が認められることから、居住季節の差として考えられ、頻繁に移動を繰り返す単位集団の存在が指摘されている（大工原1994、2001）。

三本木II遺跡では、広範囲の発掘調査によって、関山式期の集落のほぼ全体が明らかとなった。東西方向約300mの範囲で列状集落が分布し、東から西へと移動をしている。三本木II遺跡とその周辺における関山式期の集落構造は、関山I式期では、三本木II遺跡と中原遺跡が並存し、関山II式期に至って三本木II遺跡では、居住域を移動して集落の継続が認められる。一方、中原遺跡の集落は、東畠遺跡あるいは三本木II遺跡への移動が想定できる。三本木II遺跡と中原遺跡、東畠遺跡は谷を挟んで立地することから、2つの大きな集団の存在とそれぞれの集団が頻繁に季節移動をした結果と考えられる。これは仮説にすぎないが、周辺地域で関山式期の集落がほとんど確認されていないことを考えると、この地域が集団の居住域、活動域に適した場所として選択されたものと思われる。本遺跡周辺で関山II式期を主体とする住居址1～2軒程度の小規模集落が確認されているのは、下塚田遺跡、北下原遺跡、落合原遺跡、注連引原遺跡、吉田原遺跡、西原遺跡等で確認されている（市教委1986、1990、1993、1994、2010）。このように関山I式期に形成された三本木II遺跡、中原遺跡の集落を中心として、その周辺には関山II式期も含め小規模集落が点在することから、この範囲が、集団の一つの領域としてとらえられ、関山式期の居住域及び生業等活動域として選ばれた場所であったものと考えられる。また、小規模であるが関山II式期と神ノ木・有尾式期の土器群が混在する集落も現れ、中野谷松原遺跡、大下原遺跡等の前期中葉における大規模集落への展開に繋がっていくものと思われる。

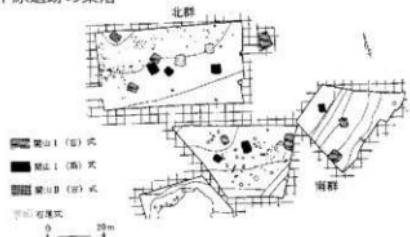
本遺跡群とは別に横野台地では、本遺跡群の西に入見大谷津遺跡、向原II遺跡等で関山II式期を中心とした集落が確認されており、この地域において別の活動領域が想定できる。さらに、その西に存在する八城二本杉東遺跡（住居址は関山II式期25軒、諸磯a式期2軒等32軒検出）では、関山II式期を中心とした2基の円形柱穴列を囲うように住居址が分布する東西二群の大規模な列状集落が確認されている（松井田町遺跡調査会1997）。また、横野台地の南にある富岡市丹生地区の丘陵地では、下丹生中山II遺跡、下丹生赤子II遺跡等で小規模集落の点在が確認され、この地域にも活動領域が形成されている（富岡市教委2009）。妙義山の麓近くにある諸戸日影遺跡においても関山II式期を主体とする集落が確認されている（富岡市教委2011）。一方で、横野台地の北方にあたる秋間丘陵に立地する野村遺跡では、関山II式期の大規模集落が確認されている。本遺跡の集落の特徴は、横野台地に分布する中原遺跡等の2～3軒の住居址を単位とした列状集落とは異なり、24軒の住居址が南北両群に分かれて環状集落を形成する点である。ただし、住居址以外の遺構、墓と推定される土坑は存在せず、住居の重複も少なく、南北両群の土器群に差はあるものの、時期が限定される単純な構造である（千田他2001、市教委2003）。

関山II式期の集落では、関山I式期からの居住形態を引き継ぐ単位集団が季節によって頻繁に移動を繰り返して形成される列状集落と短期間に異なる集団が同一場所に集まって形成される環状集落といった集落構造が並存することが、今回の調査や周辺遺跡との関係で改めて確認するに至った。

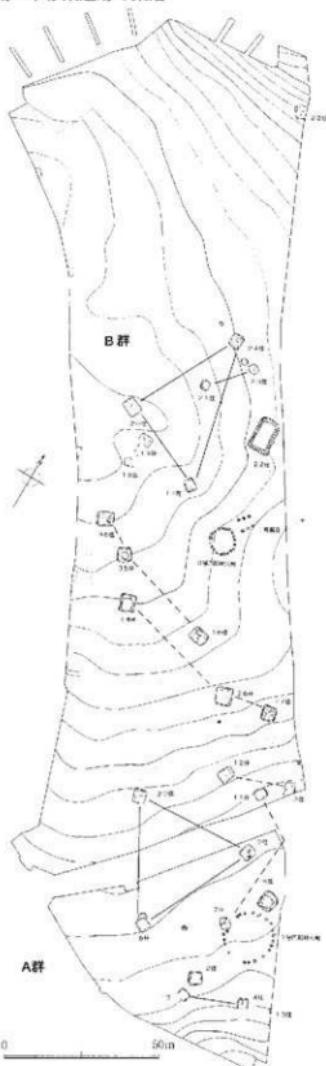
群馬県内では、横野台地と同じく関山式期の集落が集中する地域は、赤城山東麓及び南麓の丘陵地（旧勢多郡地域）、櫻名山東麓及び子持山南麓（旧渋川市・子持村地域）等で確認されている。今後は、関山式期の集落構造を明らかにするために、こうした地域の遺跡群と遺構、遺物を単位として比較していくこと必要である。

（井上）

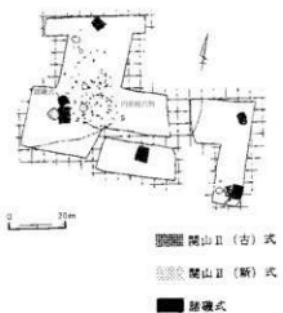
中原遺跡の集落



八城二本杉東遺跡の集落



東畠遺跡の集落



野村遺跡の集落



第261図 三本木II遺跡周辺の関山式期集落

3 三本木Ⅲ遺跡の古代土器について

三本木Ⅲ遺跡では奈良・平安時代の住居址が17軒検出された。時期的には8世紀前半から9世紀後半までのものが見られる。資料は少ないが、土師器壺・甕を基準に分類しⅠ～Ⅵ期に分けて記述したい。

Ⅰ期

H-10・11・22号住の3軒であるが、H-10・11号住は出土遺物は少なく須恵器が1点ずつであり、この期に入れる根拠は弱い。H-22号住は暗文土器壺、土師器壺、須恵器蓋や壺が出土しているが土師器甕は見られない。暗文土器の壺は体部の直線的に開くものと口縁部の内彎する二種類が存在し。前者は口径16cm前後と14cm前後の二つに分かれ。底部の形状は平底だがやや丸みを持つ。調整は体部が一段もしくは二段に笠削りされ、暗文は丁寧であり、底部の螺旋状暗文も細かく丁寧に施されている。その他、皿状で底部に螺旋状暗文の施されるものが見られる。土師器壺は薄手、丸底で口縁部の内彎するものが一点出土している。須恵器蓋は、返りのあるものと無いものが見られ、後者は非常に扁平なものである。高台付壺は口径15cm以上の大形で体部は直線的に開き、角型の高台が貼付される。底部は回転笠削りが施される。

Ⅱ期

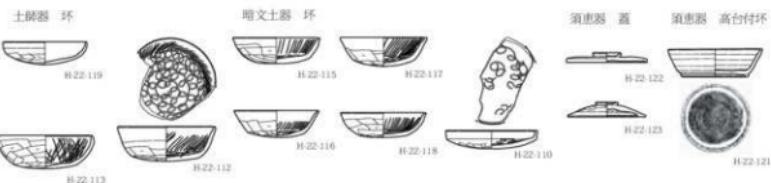
H-20号住の1軒のみである。遺物は暗文土器壺、土師器甕が出土している。暗文土器壺は口径16cm前後と14cm前後の二つに分かれ。Ⅰ期と大きさは殆ど変わらないが器高が低く、器肉も薄くなる傾向が見られる。土師器甕は薄手の甕であり、口縁部がぐの字状に外反するがⅢ期の甕に比べて口縁部はやや長く厚みもある。大形の胴部の球状に張る甕も見られ、口縁部の形状が外傾する甕と、口縁部が短く直立する短頸甕と言えるものとある。底部は丸底を呈すと思われる。

Ⅲ期

H-8・9・17・18号住の4軒が該当する。遺物は暗文土器壺、須恵器蓋・壺・椀、土師器甕・甌などが出土している。暗文土器壺は口径16cm前後で大形で深い器形と、口径14cm前後の浅いものが見られる。須恵器壺は、体部から口縁部まで直線的に開き、口径に比して底径が大きいものが多い。底部の切離しは、回転糸切りと笠切りが混在し、全面か周辺部を回転笠削りしている。その他、小形の椀、短頸甕の蓋などが見られる。短頸甕の蓋はいわゆる上野型のものであるが、天井部が扁平ではなく盛り上がるやや特異な形状である。土師器甕は薄手の甕で、Ⅱ期と比べて口縁部がやや薄くなり短く「く」の字状に開くものとなる。土師器甕は県央部ではこの時期にあまり見られないが、富岡市下丹生屋敷山遺跡など西毛では出土例がある。厚手で大きいため薄手の甕では組合せに疑問があり、西毛型の甕に組み合わせられるものと思われる。

Ⅳ期

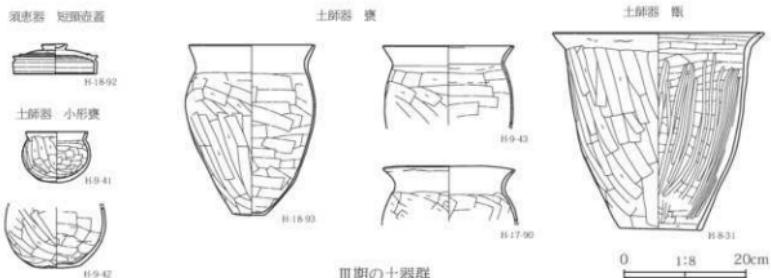
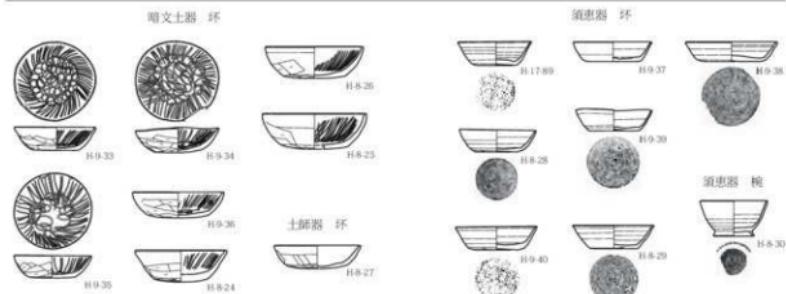
H-14・15・16号住の3件が該当する。遺物は暗文土器壺、土師器壺・小形甕・甕・鍋・無頸甕・甌、須恵器蓋・壺・椀・皿などが出土している。暗文土器壺は口径12cm前後のものが中心であり、前代よりも小さくなる傾向にある。放射状・螺旋状暗文が施されるが粗略なものが多い。暗文の施されない土師器壺もあるが、県央部で見られる丸底から変化したタイプではなく暗文土器と器形・胎土の類似するものである。須恵器壺は体部から口縁部まで直線的に開くものが主であり、口径に比して底径は1/2程度と小さくなっている。底部の切り離しは殆ど回転糸切りとなる。他に体部の深い高台付きの椀の大小



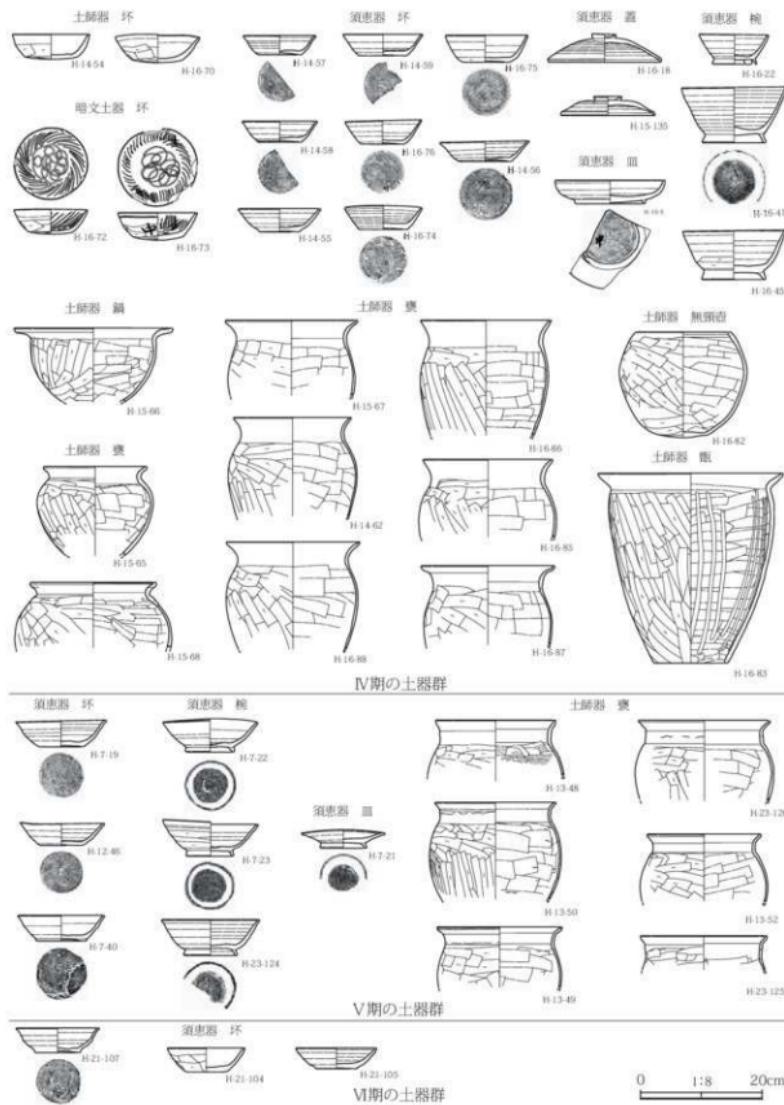
I期の土器群



II期の土器群



第 262 図 三本木 III 遺跡 古代土器編年図 (1)



第 263 図 三本木 III 遺跡 古代土器編年図 (2)

や大形の皿が見られる。土師器表は薄手のものであり、口縁部は一旦立ち上がり気味に緩やかに外反する。西毛に多いやや厚手の胸張りの表が出土しており、大小の二種類が存在する。その他、浅く口縁部の大きく聞く鍋型のものや口縁部を丸く納める無頸壺などが存在する。鍋型の出土は少ないが、やはり西毛の方に多く見られるようである。壺もこの時期位まであるが、調整・器形などにあまり変化が見られない。

V期

H-7・12・13・23号住の4軒が該当する。遺物は須恵器坏・椀・皿、土師器表が出土している。須恵器坏は口縁部が外反する形状のものが主となる。底形はIV期よりさらに小さく、口径の1/2より小さいものもある。椀は器高が低く、高台も低くなり器形・胎土も粗雑なものが多い。土師器表は口縁部が「コの字」状を呈すものが主体である。

VI期

H-21号住の一軒のみである。遺物は土師器坏、須恵器坏が出土している。土師器坏は暗文土器坏と類似する器形であるが暗文は施されていない。須恵器坏は酸化焰焼成氣味のものが多く、轆轤目が顕著なものが多い。

その他、平塚古墳では、暗文土器の坏、須恵器の蓋・坏・高台付坏、短頸壺蓋・短頸壺・長頸壺・表などが出土している。須恵器蓋は大形で返りの付くものがある。坏は口径16cm近い大形品であり、底部は回転削りされる。長頸壺は肩部が強く張り脣部が直線的で、脣部に縁帯が巡り低く聞く高台が付く。これらの様相から、当遺跡のI期に相当するものと思われる。

以上、当遺跡の土器様相であるが、いくつかの特徴が見られる。まず、土師器の表であるがいわゆる武藏型の薄手の表が圧倒的であり、西毛で多く出土する脣部を縱方向に削るやや厚手の表がほとんどない。当遺跡の位置する横野台地上の中野谷地区遺跡群から鷺宮地区遺跡群では、同時期の資料は少ないものの西毛型の方がやや多い傾向を示していたが⁽¹⁾、今回の資料では圧倒的に薄手の表のほうが多い結果となった。土師器の坏に関しては県央部で見られるタイプのものが、各時期を通して極端に少なく暗文土器が主流となっている傾向が見られた。また、I～VI期に分けたが、連続していない部分もある。I期は表が出土していないが、あるとすればまだ脣部のやや長い表が考えられ、II期の表とは連続していないと思われる。IV期とV期の間も、土師器表の口縁部が「コの字」への中間的な形状の時期が見られないことから断絶があると思われる。

さて、実年代についてであるが、編年の基準となる土師器の表が県央部のものと同じため、中尾遺跡の編年⁽²⁾を参考にしたい。当遺跡のI期は中尾III段階、II期はV段階、III期はVI段階、IV期はVII段階、V期はIX段階、VI期はX段階に相当する。I期は8世紀第1四半期、II期は8世紀第3四半期、III期は8世紀第4四半期、IV期は9世紀第1四半期、V期は9世紀第3四半期、VI期は9世紀第4四半期の年代観が与えられる。

(三浦京子)

注

(1) 三浦京子 2007「V-1. 奈良時代の土器について」『向原Ⅲ遺跡』安中市教育委員会

(2) 坂口一・三浦京子 1986「奈良・平安時代の土器の編年」『群馬県史研究』第24号 群馬県史編さん委員会

4 古代の集落と道路について

(1) 鷺宮地区における古代集落の特徴

本遺跡群（落合・落合Ⅱ、三本木Ⅱ、三本木Ⅲ、平塚遺跡）における古代の様相について周辺地域の遺跡と関連させてその特徴と課題を整理したい。

本遺跡群では、古墳時代終末期の古墳が、平塚遺跡（5基）、落合Ⅱ遺跡（1基）、三本木Ⅱ遺跡西方付近（現存するのは2基）で分布し、古墳群が形成され、8世紀初頭まで古墳祭祀の継続が認められる。古代では、三本木Ⅱ遺跡において住居址2軒、三本木Ⅲ遺跡において住居址21軒、掘立柱建物址7棟以上、土坑、溝等が検出された。集落は、古墳群とほぼ同時期が重なる8世紀前半から形成されはじめ、8世紀第2四半期に遺物の空白時期が認められるものの、8世紀後半以降に集落が拡大し、9世紀後半まで存続することが明らかとなった。三本木Ⅱ遺跡の2軒の住居址は、単独での分布であることから、工房址的な遺構と考えられる。三本木Ⅲ遺跡では、住居址の重複が少なく、時期によって住居が移動して集落が形成されている。また、集落には、堅穴住居址とは別に公的施設の可能性がある大形柱穴及び縦柱をもつ掘立柱建物址が併存する。これらの掘立柱建物址は、主軸方向が一致することから同時期に存在したと考えられる。時期は出土遺物と遺構の重複関係により、8世紀前半あるいはそれ以前（律令期）であったと推定される。集落の初期段階に、掘立柱建物址群が存在することは、この集落が一般的な集落とは別の性格をもっていたことを示している。また、落合遺跡では、低地部で人為的掘削による湧水坑が數カ所確認されており、谷地部分における農業開発行為を目的とした溜井が発見されている。

なお、三本木Ⅲ遺跡では、文字資料として「中」と墨書きされた9世紀第1半期の土器が出土した。この文字資料は、市内では初出であるが、意味については、現在、解明中である。また、8世紀後半から9世紀前半にかけて暗文土器、上野型有蓋短頸壺の蓋が出土しており、集落の性格を反映する資料として注目される。

本遺跡群の北東に位置する鷺宮地区の咲前神社周辺では、上ノ久保遺跡、荒神平・吹上遺跡等において大規模な集落が分布し、この地域の拠点的存在となっている（大工原1998）。これらの集落は、古墳時代中期後半以降、集落の拡大がみられ、6～7世紀に大規模集落が継続的に形成される。8世紀前半以降、集落の規模は次第に縮小し、9世紀前半で激減する。10世紀前半には、上ノ久保遺跡、桜林遺跡、五ヶ遺跡周辺に再び小規模集落が形成されるが、それ以降の集落の状況は不明となってしまう（市教委1998）。これらの地域に分布する集落と三本木Ⅲ遺跡の集落を比較すると、最初に形成された集落が8世紀になると三本木Ⅲ遺跡周辺へ移動あるいは分散していったことがわかる。9世紀後半には集落は衰退するが、10世紀以降は、再びものとの集落へと戻って形成される。そこで、8世紀以降に集落が拡大する要因として、横野台地全域で確認された古代牧の存在が大きくかかわっていたと考えられる。

（井上）

(2) 横野台地における古代集落と牧・道路との関係

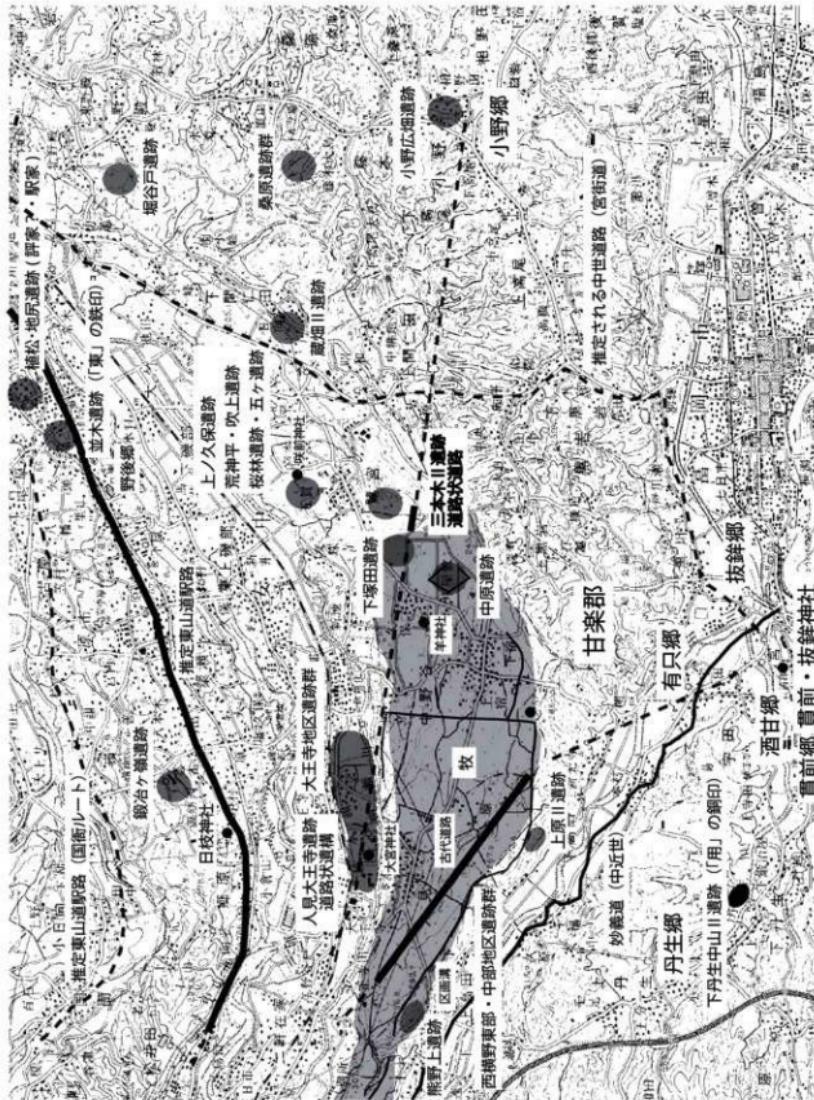
本遺跡群の西方には、横野台地のほぼ全域で確認されている古代牧と推定される放牧地が存在する。

この遺構は、考古学的調査によって発見されたもので、古代の記録等はない。古代牧について記載のある『延喜式』(平安後期)には、上野国には9か所の御牧(官営の牧)が存在したとされるが、その推定地にはしづれも該当しない。この牧については、他の目的で設置された別の牧(私牧、官牧以外の牧相当施設等)あるいは『延喜式』編纂以前に存在した牧などが考えられているが結論には至っていない。確認された遺構は、台地の縁辺あるいは台地を横切る幅3~4mの溝による区画施設が特徴であり、区画外には関連する集落が分布する。牧の時期については、これまでの調査によって7世紀後半以降、8世紀になって本格的な掘削と推定されている(市教委1994、2014他、富岡市教委2012他)。注連引原II遺跡、下塚田遺跡では、区画の西限が確認されており、本遺跡群は、その区画の外側に相当する。また、中原遺跡では、別の方形区画が確認されている。7世紀後半以降の集落は、区画の外側となる場所に存在するが、本地域では小規模で鍛冶工房址や住居址以外の遺構で構成されている。三本木III遺跡の集落と牧は同時期に存在したが、両者を直接結びつける証拠はない。しかし、掘立柱建物址群の存在からも、本遺跡が一般の集落とは異なり牧に関連する集団によって營まれたものと考えられる。

本遺跡群の古代の特徴として、最後に挙げられるのが、三本木II遺跡で発見された律令期から奈良時代初頭にかけて建設されたと推定される道路状遺構である。この道路の構造は、道路面が2本の側溝で区画されたもので、両側側溝の間隔は約10mにおよぶ。道路は真っ直ぐ延びているのが特徴で、こうした遺構は古代官道に匹敵することから、計画的に作られた構造物であった可能性がある。ところが、碓氷郡には東山道駅跡が通過するものの、発見された道路はそのルートとは異なる場所に存在する。横野台地では、人見地区に所在する西横野東部地区遺跡群において同様の道路状の遺構が2.5km以上にわたって確認された。この道路については、調査の結果、側溝の埋没状況、出土遺物の時期から、8世紀初頭には、本来の目的を失っていたことが考えられている(井上2014)。横野台地を斜めに横切る大規模な遺構であるにもかかわらず、存続時期が極めて短い遺構であるのが特徴である。人見地区で発見された道路は、古代東山道駅跡から分岐して、古代甘楽郡へと向かう、郡と郡を結ぶ道(「伝路」あるいは「郡の道」と推定されている(井上2014他))。ところが、三本木II遺跡で発見された道路は、横野台地にある遺構とは、向かう方向が一致していないため、別の遺構とみられる。道路の延長線上には、人見大王寺遺跡で確認された道路地割(道路状遺構と推定)とは、方向が一致する。東方は丘陵地を超えると古代甘楽郡小野郷となり、その先は多胡郡へと向いている。小野郷推定地では古代集落が確認されており、丘陵地には瓦が採集され、良質な粘土が分布することから窯業跡の存在と南北に通じる道路の存在が指摘されている(富岡市1987、富岡市教委2014)。このように横野台地には、異なる主軸をもった直線道路が2本存在したことになる。

こうした道路を建設する要因となった全国規模にわたる交通網の整備は、地方を支配するために必要な国家的プロジェクトに基づいて行われた事業であり、国家による関与の強さと膨大異な費用を必要とする経済力、そして、道路建設に係わる高い技術力等を兼ね備えたものでなければ成し遂げることは不可能と考えられる。横野台地は、道路と牧の両者の設置を可能とする条件が社会的、地理的に整った場所であったと考えられ、古代國家が推し進めた地方支配体制の中で、交通網の整備に果たした役割は大きい。今後の古代碓氷郡の実態を明らかにしていくためにも、道路、牧、集落の三者を一体的に捉えていくことが必要である。

(井上)



第264図 横野台西部（磐宮・中野谷・人見地区周辺）の古代集落と道路（1/50000）

- 主要参考文献（遺跡のみで使用した発掘調査報告書については一部割愛した）
- 安中市教育委員会 1996『落合Ⅱ遺跡・平塚遺跡・三本木Ⅱ遺跡・三本木Ⅲ遺跡』
- 安中市教育委員会 1998『上ノ久保遺跡・桜林遺跡・五ヶ遺跡』
- 安中市教育委員会 2003『野村遺跡』『東上秋間遺跡群発掘調査報告書』
- 安中市教育委員会 2007『向原Ⅲ遺跡』
- 安中市教育委員会 2014『西横野東部地区遺跡群』
- 井上慎也 2011「群馬県安中市西横野地区における古代道路の調査とその周辺」『古代交通史研究会第16回大会資料集 山国の中古交通』古代交通研究会
- 神谷佳明・笹澤泰史 2008『出土度量衡遺物について』『研究紀要』第26号 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 櫛原功一 2013「中越式期の竪穴住居と集落」『縄文前期前葉の甲信地域』山梨県考古学協会
- 黒坂禎二 1984『深作東部遺跡群』大宮市遺跡調査会
- 笹森健一 1981～1982『縄文時代前期の住居と集落（I～III）』『土曜考古』第3～5号
- 庄野靖寿・下村克彦 1978『貝崎貝塚第三次発掘調査報告』大宮市教育委員会
- 鈴木徳雄 2013「関東」「調座」日本の考古学3 縄文時代上』青木書店
- 千田茂雄・閔根慎二 2001「野村遺跡」『安中市史』第4巻原始古代中世資料編 安中市
- 大工原 豊 1994「中原遺跡、東畠遺跡」『中野野地区遺跡群』安中市教育委員会
- 大工原 豊・閔根慎二 2001「中原遺跡、東畠遺跡」『安中市史』第4巻原始古代中世資料編 安中市
- 高島英之 2008「上野国の牧」『牧の考古学』高志書院
- 谷藤保彦 1988「北関東における有尾式土器の変遷」『考古学叢考』吉川弘文館
- 谷藤保彦・高橋清文・伊藤順一 2014「縄文時代前期前葉の「コの字形石敷」』『研究紀要』第32号 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 富岡市 1987『富岡市史 自然編、原始・古代・中世編』
- 富岡市教育委員会 2009『丹生地区遺跡群』
- 富岡市教育委員会 2011『諸戸菅原地区遺跡群』
- 富岡市教育委員会 2011『下高田上原遺跡・下高田原IV遺跡（松義東部地区遺跡群Ⅰ）』
- 富岡市教育委員会・山下工業株式会社 2014『小野広畑遺跡Ⅱ』
- 松井田町遺跡調査会・群馬県教育委員会 1997『八城二本杉東遺跡・行田大道北遺跡』
- 松本美佐子 2007『馬場裏遺跡Ⅲ』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

VIII 自然科学分析

1 三本木Ⅱ・Ⅲ遺跡出土の炭化材樹種同定

1.はじめに

安中市鷺宮に所在する三本木Ⅱ遺跡は縄文時代前期～中期の集落址、三本木Ⅲ遺跡は奈良・平安時代の集落址が検出されている。周辺の環境を推定する目的で、住居址から出土した炭化材について樹種同定を行った。なお、同一試料の一部を用いて放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2.試料と方法

三本木Ⅱ遺跡の試料は、いずれも住居址の構築材で、J-11号住居址から4点、J-30号住居址から11点、J-45号住居址から3点の計19点である。考古学的な所見から、時期は縄文時代前期前葉（関山Ⅰ・Ⅱ式期）と推定されている。

三本木Ⅲ遺跡の試料は、H-21号住居址から出土した住居の構築材と燃料材が7点と、H-22号住居址から出土した住居の構築材と土器内の炭化材14点の、計21点である。なお、同一袋内に複数樹種がみられた試料は、試料番号の後に細分番号を付した。考古学的な所見から、時代は奈良・平安時代で、H-22号住居址は8世紀前半、H-21号住居跡は9世紀後半と推定されている。

樹種同定は、目視と実体顕微鏡を用いて、木取りの確認と径および年輪数の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製 VE-9800）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3.結果

同定の結果、広葉樹のクリとヌルデ、エゴノキ属、分類群不明の広葉樹が4分類群、その他に単子葉類のタケア科、計5分類群が確認された。遺構別の結果を表1、結果一覧を付表1に示す。

三本木Ⅱ遺跡では、J-11号住居址の炭化材は、タケア科が1点みられた他はすべてクリであった。J-30号住居址とJ-45号住居址の炭化材はすべてクリであった。形状はほとんどが破片だったが、J-11号住居址のクリで直径1.2cmの芯持丸木が1点みられた。

表1 遺構別の樹種同定結果

分類群	縄文時代前期前葉			奈良・平安時代		
	三本木Ⅱ			三本木Ⅲ		計
	J-11	J-30	J-45	H-21	H-22	
クリ	4	11	3	7	15	40
ヌルデ					1	1
エゴノキ属					1	1
広葉樹（枝材）					4	4
タケア科	1				2	3
計	5	11	3	7	23	49

三本木Ⅲ遺跡では、H-21号住居址はすべてクリであった。H-22号住居址から出土した炭化材は、クリが15点で最も多く、広葉樹が4点、タケ亜科が2点の他は、ヌルデとエゴノキ属が各1点確認された。形状は、クリは芯持丸木とみかん割り状、破片がみられた。ヌルデはみかん割り状、エゴノキ属は芯去削出？であった。広葉樹は直径1cm以下の芯持丸木、タケ亜科は破片であった。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

- (1) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版1 1a-1c (H21: No.1), 2a (J 11: 12区3層)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

- (2) ヌルデ *Rhus chinensis* Mill. ウルシ科 図版1 3a-3c, ヌルデ (H22: No.11-2)

大型の道管が、年輪のはじめに単独もしくは数個複合して配列する半環孔材である。晩材部では道管の大きさは徐々に減じ、年輪の終わりでは小道管が集団をなして接線状～斜線状に配列する。道管の穿孔は単一である。放射組織は平伏細胞と直立細胞が混在する異性で、1～3列幅である。

ヌルデは温帯から熱帯に分布する落葉高木である。材は切削および加工が容易だが、耐朽性および保存性はあまり高くない。

- (3) エゴノキ属 *Styrax* エゴノキ科 図版1 4a-4c (H22: No.12-2)

小型の道管が、放射方向に数個複合して分布する散孔材で、晩材部で道管が小型になり数も減る。軸方向柔組織は短接線状となる。道管の穿孔は10段程度の階段状である。放射組織は1～4列幅で、異性である。

エゴノキ属は温帯から熱帯にかけて分布する落葉小高木で、エゴノキとハクウンボク、コハクウンボクの3種がある。材はやや重硬で、緻密である。

- (4) 広葉樹 Broadleaf wood 図版1 5a-5c (H22: 杯内-2), 6a (H22: No.11-4)

道管と放射組織、木部纖維で構成される広葉樹である。1年輪未満の枝材で、木材組織の配列が未熟で識別できず、広葉樹までの同定となった。

- (5) タケ亜科 Subfam. Bambusoideae イネ科 図版1 7a (J 11: 10区3層-2), 8a (H22: No.10-3)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類である。維管束が柔細胞中に散在する不齊中心柱で、維管束を囲む維管束鞘は外側ほど厚くなる。

タケやササの仲間で日本では12属が含まれるが、稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。

4. 考察

同定の結果、縄文時代前期前葉の三本木Ⅱ遺跡と奈良・平安時代の三本木Ⅲ遺跡は、どちらも住居址構築材としてクリが優勢であった。クリは重硬だが加工はそれほど困難ではなく、耐朽性や保存性の高い材である（平井, 1996）。三本木Ⅲ遺跡で確認されたヌルデは、比較的軽軟な材で、加工は容易である。林縁や開けた土地など日当たりの場所に生育する陽樹である。また、エゴノキ属は比較的重硬で緻密な材である。試料は0.5cm幅ほどで芯去削出と思われるため、建築材ではなく器具材などの可能性も

ある。広葉樹は直径1cm以下であり、枝材と思われる。タケ亜科は、H-22号住居跡のNo.3-2では折り重なってた状態で検出されており、壁材や床材の可能性がある。

近隣の中野谷地区遺跡群では、中原遺跡と東畠遺跡、細田遺跡で縄文時代前期の住居跡から出土した炭化材はクリとカバノキ属、細田遺跡と中原遺跡の奈良・平安時代の住居跡から出土した炭化材はコナラ属クヌギ節やコナラ属コナラ節、原遺跡では奈良時代の住居址出土炭化材はクリとクヌギ節であった(金原, 1994: 古環境研究所, 2004)。また、三本木II遺跡の縄文時代前期前葉の住居構築材では、クリを多用する点で周辺地域の中野谷地区遺跡群の用材傾向と一致する。奈良・平安時代の三本木III遺跡では、中野谷地区遺跡群で確認されたコナラ属はみられなかった。

北関東における建築材の用材傾向は、縄文時代草創期～前期はクリ、コナラ属コナラ節、オニグルミ、カエデ属などの落葉広葉樹が利用され、中期～後期はクリの利用が顕著になる。弥生～古墳時代はコナラ属クヌギ節やコナラ属コナラ節の利用が主体となるが、古墳時代末期～平安時代初期になるとクリが増加し、平安時代ではコナラ属クヌギ節とコナラ属コナラ節が主体でクリは減少する(高橋, 2012)。したがって、今回の分析結果は北関東における建築材の用材傾向と一致すると考えられる。

両遺跡で多用されていたクリは、温帯に分布する落葉広葉樹であり、縄文時代前期と奈良～平安時代はどちらの時代も遺跡周辺に生育していたと推測される。安中市に所在する中野谷遺跡群で行われた花粉分析から、縄文時代前期から中期にかけては、コナラ亜属を主体としてクルミ属やクマシデ属ーアサダ属、ニレ属ーケヤキ属などの落葉広葉樹林が成立していたと推測されている。また、浅間Bテフラ降下直前ではコナラ亜属を主体とした落葉広葉樹林やアカガシ亜属を主体とした照葉樹林、スギ属などの温帯性針葉樹林が成立していたと推測されている(古環境研究所, 1994)。したがって、三本木II遺跡、三本木III遺跡とともに、周辺に生育していた樹木からクリを住居構築材として選択して利用していたと思われる。

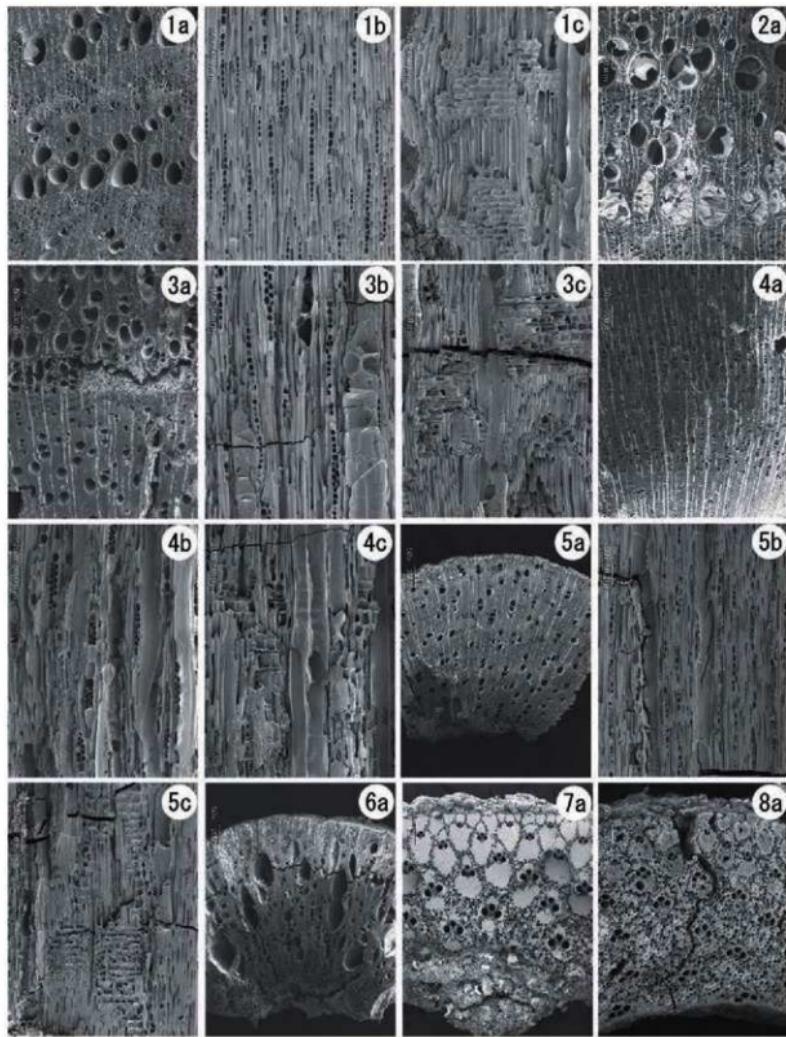
(黒沼保子)

引用文献

- 金原 明 (1994)炭化材の分析. 安中市教育委員会編「中野谷地区遺跡群」:79-84, 安中市教育委員会.
〔他〕古環境研究所 (1994) 花粉分析2—天神原遺跡周辺の花粉化石分析一. 安中市教育委員会編「中野谷地区遺跡群」: 62-70, 安中市教育委員会.
〔他〕古環境研究所 (2004) 中野谷地遺跡群の自然科学分析. 安中市教育委員会編「中野谷地区遺跡群2」: 146-151, 安中市教育委員会.
平井信二 (1996) 木の大百科. 394p, 朝倉書店.
高橋 敦 (2012) 北関東・甲信. 伊東隆夫・山田昌久編「木の考古学—出土木製品用材データベースー」: 157-178, 海青社.

付表1 樹種同定結果一覧

道路	遺構	地区	No.	器種	樹種	形状	残存径(cm)	年輪数	時代	年代測定番号
三本木Ⅱ	J-30	住居構築材	- 1	クリ	破片	2.5×1.5	10		PLD-25844	
			- 2	クリ	破片	3.0×1.3	7			
			- 3	クリ	破片	3.7×3.0	14		PLD-25845	
			- 4	クリ	破片	1.0×1.0	5?			
			- 5	クリ	破片	3.0×2.2	5			
			- 6	クリ	破片	1.8×1.2	5			
			- 7	クリ	破片	0.6×0.3	3			
			- 8	クリ	破片	0.7×0.5	3			
			- 9	クリ	破片	0.5×1.0	1			
			- 10	クリ	破片	3.7×2.5	5		PLD-25846	
			- 11	クリ	破片	0.3×0.3	5			
J-11	J-45	住居構築材	8区 3層	クリ	破片	0.8×1	2			
			10区 3層	タケ垂科	破片	0.6×0.2	-			
			11区 2	クリ	破片	0.8×0.2	1	縄文時代前期前葉		
			3	クリ	芯持丸木	直径1.2	6			
			3層	クリ	破片	0.8×0.8	3			
			12区 2層	クリ	破片	1.5×1.0	6			
			3層	クリ	破片	1.7×1.0	5	縄文時代前期前葉	PLD-25848	
			住居コーナー	クリ	破片	1.2×0.6	3			
			- 1	クリ	芯持丸木	直径7.0	8			
			- 2	クリ	芯持丸木	直径5.5	10			
三本木Ⅲ	H-21	住居構築材	- 3	クリ	芯持丸木	直径6.5	8	奈良・平安時代 (8世紀後半?)		
			- 4	クリ	ミカン割り状	半径4.0	5			
			- 5	クリ	破片	2.5×3.0	7			
			- カマドNo.1	燃料材	クリ	ミカン割り状	半直3.0			
			- カマドNo.2	燃料材	クリ	破片、ミカン割り状	半直2.5			
			- 1	クリ	ミカン割り状	4.0×3.5	6			
			- 2	クリ	芯持丸木?	5.0×2.5	5?			
			- 3-1	クリ	板目	8.0×3.0	7			
			- 3-2(壁材?)	タケ垂科	破片	0.8×0.2	-			
			- 4	クリ	芯持丸木?	6.0×3.3	6?			
三本木Ⅳ	H-22	住居構築材	- 5	クリ	ミカン割り状	半径4.0	6	奈良・平安時代 (8世紀前半)		
			- 6	クリ	ミカン割り状	半径6.5	19			
			- 7-1	クリ	芯持丸木	直径6.5	7?			
			- 7-2	広葉樹	芯持丸木(枝)	直径0.3~0.5	1			
			- 8	クリ	芯持丸木	直径14.0	16?			
			- 9	クリ	芯持丸木?	直径10	15			
			- 10-1	クリ	破片(2方向)	2.0×4.5	8			
			- 10-2	クリ		5.0×1.5	9			
			- 10-3	タケ垂科	破片	0.8×0.2	-			
			- 11-1	クリ	半削?	直径5.5	7			
			- 11-2	ヌルデ	ミカン割り状	1.2×0.2	3			
			- 11-3	クリ	破片	1×0.3	-			
			- 11-4	広葉樹	芯持丸木(枝)	直径0.7	1			
			- 12-1	広葉樹	芯持丸木(枝)	直径0.5	1			
			- 12-2	エゴノキ属	芯去削出?	0.5×0.3	4			
			- 13	クリ	芯持丸木	7.0×3.0	6			
			- 杯内-1	クリ	破片	2.0~3.0	4			
			- 杯内-2	不明	広葉樹	芯持丸木(枝)	0.5~0.7	1		



図版1 三木木II遺跡、三木木III遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. クリ (H-21: No.1)、2a. クリ (J-11: 12区3層)、3a-3c. ヌルデ (H-22: No.11-2)、4a-4c. エゴノキ属 (H-22: No.12-2)、5a-5c. 広葉樹 (H-22: 杯内-2)、6a. 広葉樹 (H-22: No.11-4)、7a. タケア科 (J-11: 10区3層-2)、8a. タケア科 (H-22: No.10-3)

a : 横断面、b : 接線断面、c : 放射断面

2 三本木Ⅱ遺跡出土の炭化材放射性炭素年代測定

1.はじめに

三本木Ⅱ遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2.試料と方法

試料は、J-30号住居址から出土した炭化材が3点（PLD-25844～25846）と、J-11号住居址から出土したオニグルミの炭化種実が1点（PLD-25847）、J-45号住居址から出土した炭化材が1点（PLD-25848）の、合計5点である。炭化材の樹種はすべてクリで、いずれも最終形成年輪が残存しておらず部位不明であった。なお、考古学的な所見によれば、住居址の時期はいずれも縄文時代前期前葉（関山I・II式期）と推定されている。

測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（バレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

表1 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-25844	遺構：J-30号住居址 試料No.1	種類：炭化材（クリ） 試料の性状：不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）
PLD-25845	遺構：J-30号住居址 試料No.3	種類：炭化材（クリ） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）
PLD-25846	遺構：J-30号住居址 試料No.10	種類：炭化材（クリ） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）
PLD-25847	遺構：J-11号住居址 試料No.1	種類：炭化種実（オニグルミ） 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）
PLD-25848	遺構：J-45号住居址 調査区：12区 層位：3層	種類：炭化材（クリ） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）

3.結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ¹³C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C年代を、図1に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代（yrBP）の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.2%で

あることを示す。

なお、曆年較正の詳細は以下のとおりである。

曆年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い（¹⁴Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の曆年較正にはOxCal4.1（較正曲線データ:IntCal13）を使用した。なお、1σ曆年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の曆年代範囲であり、同様に2σ曆年代範囲は95.4%信頼限界の曆年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に曆年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は曆年較正曲線を示す。

表2 放射性炭素年代測定および曆年較正の結果

測定番号	$\delta^{14}\text{C}$ (‰)	曆年較正用年代 (yrBP±1σ)	¹⁴ C年代 (yrBP±1σ)	¹⁴ C年代を財年代に較正した年代範囲	
				1σ曆年代範囲	2σ曆年代範囲
PLD-25844 (J-30号住居址 No.1)	-26.63±0.26	5714±24	5715±25	4581BC (68.2%) 4502BC 4617BC (92.3%) 4484BC 4479BC (1.7%) 4465BC	
PLD-25845 (J-30号住居址 No.3)	-27.60±0.22	5726±26	5725±25	4607BC (68.2%) 4522BC 4681BC (11.2%) 4635BC 4621BC (84.2%) 4495BC	
PLD-25846 (J-30号住居址 No.10)	-28.06±0.20	5756±25	5755±25	4667BC (3.2%) 4662BC 4654BC (11.1%) 4639BC 4617BC (53.9%) 4550BC	4689BC (95.4%) 4541BC
PLD-25847 (J-11号住居址 No.1)	-28.54±0.20	5788±24	5790±25	4690BC (68.2%) 4608BC	4709BC (95.4%) 4556BC
PLD-25848 (J-45号住居址 12区3層)	-26.03±0.25	5659±24	5660±25	4516BC (68.2%) 4459BC	4544BC (95.4%) 4452BC

4. 考察

以下、各試料の曆年較正結果のうち2σ曆年代範囲（確率95.4%）に着目して、遺構ごとに結果を整理する。縄文時代の土器編年と曆年代の対応関係については工藤（2012）を参照した。

J-30号住居址から出土した炭化材No.1 (PLD-25844) は、4652–4641 cal BC (1.5%)、4617–4484 cal BC (92.3%)、4479–4465 cal BC (1.7%) であった。炭化材No.3 (PLD-25845) は、4681–4635 cal BC (11.2%) および4621–4495 cal BC (84.2%) であった。炭化材No.10 (PLD-25846) は、4689–4541 cal BC (95.4%) であった。これらの年代は、いずれも縄文時代前期前半に相当する。

J-11号住居跡から出土した炭化種実No.1 (PLD-25847) は、4709–4556 cal BC (95.4%) であった。これは、縄文時代前期前半に相当する。

J-45号住居跡から出土した炭化材 (PLD-25848) は、4544–4452 cal BC (95.4%) であった。これは、縄文時代前期前半に相当する。

今回、年代測定を行った試料は、いずれも縄文時代前期前半の曆年代範囲を示しており、考古学的な所見による遺構の推定時期である関山I・II式期とも一致する。ただし、木材は最終形成年輪部分を測

定すると枯死・伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の試料では、J-30号住居址の炭化材（PLD-25844～25846）と、J-45号住居址の炭化材（PLD-25848）が最終形成年輪を欠く部位不明の炭化材であり、年代測定の結果が古木効果の影響を受け、木材が枯死・伐採された年代よりもやや古い年代を示している可能性がある。

（パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ：伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一・Zaur Lomtadidze・Ineza Jorjoliani・黒沼保子）

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51 (1), 337–360.
工藤雄一郎 (2012) 後水期の考古編年と¹⁴C 年代。旧石器・縄文時代の環境文化史, 212–229, 新泉社。
中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C 年代編集委員会編「日本先史時代の¹⁴C 年代」: 3–20, 日本第四紀学会。
Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Sounthor, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55 (4), 1869–1887.

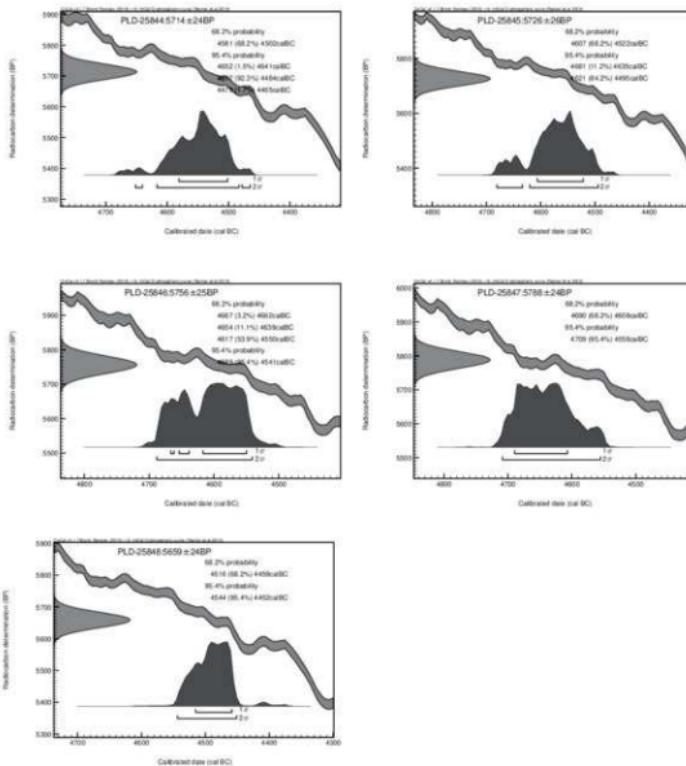


図1 歴年較正結果

3 三本木Ⅱ遺跡出土の黒曜石産地分析

1.はじめに

安中市鷹宮に所在する三本木Ⅱ遺跡より出土した黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2.試料と方法

分析対象は、縄文時代前期の黒曜石製石器40点（No.1～40）である（表1）。試料は、測定前にメラミンフォーム製スポンジを用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム（Rh）、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流1000μA、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた（望月、1999など）。本方法では、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム（K）、マンガン（Mn）、鉄（Fe）、ルビジウム（Rb）、ストロンチウム（Sr）、イットリウム（Y）、ジルコニウム（Zr）の合計7元素のX線強



図1 黒曜石産地分布図(東日本)

度（cps：count per second）について、以下に示す指標値を計算する。

- 1) Rb分率=Rb強度×100/（Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度）
- 2) Sr分率=Sr強度×100/（Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度）
- 3) Mn強度×100/Fe強度 \log （Fe強度/K強度）
- 4) \log （Fe強度/K強度）

そして、これらの指標値を用いた2つの判別図（横軸Rb分率-縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率-縦軸 \log （Fe強度/K強度）の判別図）を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光X線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析

表1 分析対象

分析No.	登録番号	出土遺構	区	層	その他	器種	時期
1	AT-001	J-9	3	I		石器	
2	AT-012	J-9	13	I		石核 A	
3	AT-017	J-10	3	I		石器	
4	AT-018	J-10	3	サブ I		石器	
5	AT-048	J-10	7	2		原石 A	
6	AT-067	J-11	16	I		石器	
7	AT-068	J-11	15	2		石器	
8	AT-080	J-11	3	3		SCA	
9	AT-087	J-11	11	3		石核 A	
10	AT-088	J-11	11	2		石核 A	
11	AT-093	J-11	14	I		石核 A	
12	AT-103	J-12	7	2		石核 A	
13	AT-106	J-13	15	サブ		石器未成品	
14	AT-115	J-14	5	I		石器	
15	AT-119	J-18	18	2	剥離	石核 A	
16	AT-121	J-18	7	2		原石 A	
17	AT-126	J-19	6	ベルト 2		石器	
18	AT-133	J-19	4	I		石核 A	
19	AT-139	J-20	8	2		石器	
20	AT-140	J-20	12	3	No.1	SCA	
21	AT-146	J-21	14	ベルト 2		石器	
22	AT-155	J-21	2	I		石核 A	
23	AT-159	J-21	6	ベルト 1		原石 A	
24	AT-160	J-22	11	ベルト 1		原石 A	
25	AT-163	J-23	4	I		石器	
26	AT-176	J-25	5	3	No.1	石器 A	
27	AT-177	J-25	1	3		石器 A	
28	AT-178	J-25		P.2		石核 A	
29	AT-183	J-41	11	サブ		石器	閑山 II
30	AT-188	J-33	10	ベルト 3		石器	閑山 I
31	AT-200	J-35	4	I		石器未成品	
32	AT-207	J-35	3		トレンチ	原石 A	
33	AT-215	J-43	5	I		石核 A	
34	AT-232	J-17	2	ベルト 2		原石 A	
35	AT-263	J-29	1	I		原石 A	有尾
36	AT-264	J-36	8	1		石器	
37	AT-273	J-47	15	2		石核 A	諸磯 b
38	AT-276	J-48	8	3		石核 A	
39	AT-292	D-107			No.1	原石 A	閑山 II
40	AT-295	S-7				SCA	諸磯 b

表2 東日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地
北海道	白糠	赤石山脈群(43)・八号山露頭 白糠(15)	赤石山脈群・八号山露頭 白糠林床(36)
	白糠	740号山(23)・2号露頭(10)・勝手山露頭下(46)(11)・ア ジヤイの山露頭(10)	
	赤井川	赤井川・土川河(24)	
	上士幌	上士幌	十勝・霞(4)・タウシュベツ川毛厚(42)・タウシュベツ川左岸 (10)・二ノ沢(32)
	羅臼	羅臼山	羅臼山(5)
		羅臼	羅臼山(5)
	豊浦	豊浦	豊浦(10)
	留萌	留萌	追文川(8)・南町台(2)
	名寄	名寄	空知川(19)
	秋田	秋田川	
秋牧	秋牧	秋牧(66)	
秋牧	秋牧	秋牧(66)	
道東	道東	社名湖川河床(2)	
牛田郡	牛田郡	牛田郡川河床(10)	
留萌郡	留萌郡	ケショウマツ川河床(9)	
網走	網走	網走駅前スキー場(2)・阿寒川右岸(2)・阿寒川左岸(6)	
木造	曲来島	曲来島海岸(15)・鶴取川(10)	
深浦	八幡山	岡崎川(7)・八幡山公園(8)	
古森	古森	天田川河(6)	
男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎駿谷(10)	
	駿馬	駿馬海岸(4)	
岩手	北上川	北上折原(2)・北上川(9)・真城(33)	
	北上川	北上折原(2)	
	宮崎	高ノ倉・深ノ谷(40)	
	色麻	利平・船坪(40)	
	秋津	秋津(1)	
	旅竹	土蔵(18)	
	新野	新野(2)	
	山形	鳴鶴(40)	
	羽黒	月山・月山山頂(24)・大越峰(10)	
	藤引	たらしき(19)	
	新潟	船山・船山山頂(10)	
	御津	金津(7)	
	高根	日向郡(22)	
	高根郡	七尋郡(3)・真川(3)・桂井郡(3)	
	西照原	美和(1)・イト・妙集団場(30)	
	鹿島	鹿島(1)・東鹿島(54)	
	小安原	小安原(42)	
	土屋橋	土屋橋(10)	
	足利橋	新和田トネル北(20)・土屋橋北西(58)・土屋橋西(1)	
	吉村	和田山トネル北(28)・吉村(38)・和田山スキーリー(28)	
	ブリクル	ブリクル(20)	
	牧之原	牧之原下(20)	
	高松郡	高松郡(19)	
	星ヶ丘	星ヶ丘(35)・星ヶ原(20)	
	蓼科	渋山(19)・麦分町(20)・麦草町(20)	
	芦ノ湖	芦ノ湖(20)	
	御殿	御殿(51)	
	御石原	御石原(20)	
	上多賀	上多賀(20)	
	天城	利根(12)	
	東京	御崎(2)	
	神奈川	御殿島・御殿崎(27)	
	久見	久見(1)・モリ(6)・久見揖斐湖(5)	
	島根	宍道湖(3)・加茂(4)・宍道(3)	

が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合、 $\log(\text{Fe強度}/\text{K強度})$ の値が減少する(望月、1999)。試料の測定面にはなるべく奇麗で平坦な面を選んだ。

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、产地推定対象試料と同様の条件で測定した。表2に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、図1に各原石の採取地の分布図を示す。

3. 分析結果

表3に石器の測定値および算出した指標値を、図2と図3に黒曜石原石の判別群に石器の指標値をプロットした図を示す。なお、視覚的にわかりやすくするため、図では各判別群を楕円で取り囲んである。

表3 測定値および产地推定結果

No.	K強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rb分率	Mn*100 Fe	Sr分率	$\log_{10} \frac{Fe}{K}$	判別群	エリア	時期	No.
1	83.3	33.0	384.0	317.4	56.8	130.7	243.3	42.42	8.61	7.60	0.66	土屋橋I	和田	鷲山I	1
2	288.3	97.3	1683.3	589.8	766.8	297.4	1075.9	21.60	5.78	28.09	0.77	治山	蓼科	鷲山I	2
3	301.1	127.5	1389.9	1148.9	168.2	456.4	776.2	45.06	9.18	6.60	0.66	土屋橋II	和田	鷲山I	3
4	240.1	91.1	1184.0	815.2	226.2	339.0	730.6	38.62	7.69	10.71	0.69	土屋橋I	和田	鷲山I	4
5	252.5	98.4	1168.4	842.5	185.8	344.5	672.4	41.19	8.42	9.09	0.67	土屋橋I	和田	鷲山I	5
6	161.9	75.7	668.6	715.1	69.6	298.9	401.8	48.14	11.32	4.68	0.62	小深沢	和田	鷲山I	6
7	261.8	127.6	1043.4	1294.4	82.5	548.3	708.8	49.14	12.23	3.13	0.60	鷲山or小深沢	和田	鷲山I	7
8	236.3	92.5	1047.8	872.2	158.0	362.9	666.7	42.34	8.83	7.67	0.65	土屋橋I	和田	鷲山I	8
9	247.5	97.9	1078.5	906.7	167.2	377.8	682.4	42.49	9.07	7.84	0.64	土屋橋I	和田	鷲山I	9
10	235.4	115.3	988.5	1072.6	113.6	447.3	624.8	47.50	11.67	5.03	0.62	小深沢	和田	鷲山I	10
11	146.0	52.0	720.9	334.0	196.3	155.1	453.5	29.32	7.21	17.24	0.69	ブドウ沢	和田	鷲山I	11
12	267.8	90.9	1606.7	557.8	752.3	288.5	1045.8	21.09	5.66	28.45	0.78	治山	蓼科	鷲山I	12
13	313.8	154.9	1252.5	1543.7	118.7	644.7	847.5	48.94	12.37	3.76	0.60	鷲山or小深沢	和田	鷲山I	13
14	298.9	118.8	1135.1	760.3	288.4	378.7	736.1	35.14	10.47	13.33	0.58	星ヶ台	諏訪	鷲山II	14
15	169.3	69.0	771.8	631.0	113.4	263.2	476.4	42.52	8.94	7.64	0.66	土屋橋I	和田	鷲山II	15
16	169.6	60.1	779.4	495.1	184.9	217.5	544.3	34.34	7.71	12.83	0.66	高松沢	和田	鷲山II	16
17	100.8	42.0	472.3	374.0	67.7	153.2	274.8	43.00	8.88	7.78	0.67	土屋橋I	和田	鷲山I	17
18	146.7	52.7	921.4	286.0	428.9	160.8	587.7	19.55	5.72	29.31	0.80	治山	蓼科	鷲山I	18
19	231.1	80.0	1467.9	472.5	695.5	246.4	913.8	20.29	5.45	29.87	0.80	治山	蓼科	鷲山II	19
20	131.6	53.9	570.4	480.4	92.5	210.3	385.8	41.10	9.45	7.92	0.64	土屋橋I	和田	鷲山II	20
21	293.2	118.5	1104.6	759.6	286.6	377.1	734.6	35.20	10.73	13.28	0.58	星ヶ台	諏訪	鷲山I	21
22	338.0	127.7	1595.2	1136.4	311.5	474.7	1010.6	38.74	8.01	10.62	0.67	土屋橋I	和田	鷲山I	22
23	261.6	131.5	1034.3	1268.7	81.3	532.4	704.0	49.05	12.72	3.14	0.60	鷲山	和田	鷲山I	23
24	288.2	113.9	1086.0	721.3	278.1	360.3	704.2	34.95	10.49	13.47	0.58	星ヶ台	諏訪	鷲山II	24
25	199.9	76.2	752.4	483.0	183.1	237.9	455.2	35.54	10.12	13.47	0.58	星ヶ台	諏訪	鷲山II	25
26	250.7	82.9	1449.3	501.5	651.9	255.5	916.7	21.56	5.72	28.03	0.76	治山	蓼科	鷲山I	26
27	264.7	88.7	1568.4	530.8	704.5	268.5	957.7	21.56	5.65	28.62	0.77	治山	蓼科	鷲山I	27
28	207.6	105.2	823.0	1016.3	71.0	433.6	568.0	48.65	12.78	3.40	0.60	鷲山	和田	鷲山I	28
29	343.2	120.5	1159.9	769.2	285.9	378.6	724.8	35.64	10.39	13.24	0.53	星ヶ台	諏訪	鷲山II	29
30	258.3	98.8	1196.5	949.2	208.1	398.2	774.7	40.73	8.26	8.93	0.67	土屋橋I	和田	鷲山I	30
31	352.8	164.3	1427.9	1521.9	1529.9	633.2	879.0	48.16	11.51	3.98	0.61	小深沢	和田	鷲山II	31
32	250.2	97.0	918.4	616.2	231.4	310.6	611.8	34.81	10.56	13.07	0.56	星ヶ台	諏訪	鷲山II	32
33	291.1	143.6	1163.7	1446.3	92.4	601.6	782.6	49.48	12.34	3.16	0.60	鷲山or小深沢	和田	鷲山II	33
34	389.6	117.1	1122.6	794.0	2745.3	381.6	727.0	36.47	10.43	12.61	0.46	星ヶ台?	諏訪?	鷲山II	34
35	340.9	136.6	1268.9	831.2	318.3	411.5	805.1	35.13	10.76	13.45	0.57	星ヶ台	有尾		35
36	261.0	133.0	1083.3	1318.6	81.0	548.7	724.7	49.33	12.27	3.03	0.62	鷲山or小深沢	和田	諏訪b	36
37	339.1	165.4	1340.4	1542.4	104.2	641.3	831.5	49.45	12.34	3.34	0.60	鷲山or小深沢	和田	諏訪b	37
38	342.2	131.8	1239.4	833.8	314.9	417.5	839.8	34.66	10.63	13.09	0.56	星ヶ台	諏訪	鷲山II	38
39	295.8	113.1	1403.0	935.4	209.6	382.8	745.7	41.14	8.06	9.22	0.68	土屋橋I	和田	鷲山I	39
40	258.3	127.7	1031.0	1213.9	87.6	509.2	676.1	48.82	12.39	3.52	0.60	鷲山or小深沢	和田	諏訪b	40

分析の結果、2点が鷲山群（長野県、和田エリア）、3点が小深沢群（長野県、和田エリア）、6点が鷲山群と小深沢群の重複域、11点が土屋橋I群（長野県、和田エリア）、1点が土屋橋II群（長野県、和田エリア）、1点がブドウ沢群（長野県、和田エリア）、1点が高松沢群（長野県、和田エリア）、8点が星ヶ台群（長野県、諏訪エリア）、6点が冷山群（長野県、蓼科エリア）の範囲にそれぞれプロットされた。No.34は、図2では星ヶ台群の範囲にプロットされたが、図3では星ヶ台群の下方にプロットされた。これは先述したように遺物の風化による影響と考えられ（望月、1999）、星ヶ台群に属する可能性が高い。

表3に、判別群名とエリア名を示す。

表4に、時期別の产地推定結果を示す。関山Iでは和田エリア、蓼科エリア産が多いが、関山II以降は試料点数が少ないものの、諏訪エリア産が増える傾向がみられた。

表4 時期別の产地推定結果

時期	和田	諏訪	蓼科	計
関山I	16	1	6	23
関山II	5	6	1	12
有尾	—	1	—	1
諸磯b	3	1	—	4
計	24	9	7	40

4.おわりに

三本木II遺跡より出土した縄文時代前期の黒曜石製石器計40点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、25点が和田エリア、9点が諏訪エリア、6点が蓼科エリア産と推定された。

(竹原弘展)

引用文献

望月明彦（1999）上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定、大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2—上和田城山遺跡篇一」：172—179、大和市教育委員会。

＜関山式期の黒曜石産地分析の結果について＞

三本木II遺跡では、多数の黒曜石の原石・石核類、石器類が出土した。そこで、本遺跡で利用された黒曜石の産地を明らかにするために蛍光X線分析を行った。

黒曜石の産地分析では、最初に出土した全石器を肉眼観察し、同質の石材分類（個体別分類）と器種による分類（石器成品と原石・石核類）により分析資料を選別した。本遺跡での黒曜石の特徴は、黒色で透明度が高く不純物が少ないと黑色～灰黒色で透明度がやや低く不純物（球粒）を含むものに分かれ、さらに、蛍光X線分析法による産地分析では、信州系の産地を中心にして細かく分類されることが判明した。本遺跡における産地の特徴をみると関山I式期は、和田岬系が主体を占め、諏訪エリアと蓼科エリアが少数となる傾向に変わりはないが、冷山系は関山I式期のみにみられ、関山II式期以降は、星ヶ台系がやや多くなるといった同一遺跡内で時期による産地の違いが存在することが認められた。また、分析は、関山式期を中心としているが、比較資料として同一遺跡内の諸磯b式期の資料を少数分析したところ、関山式期と同一産地である結果となった。

次に市内3遺跡の関山式期の黒曜石産地をみると、注連引原遺跡で星ヶ塔系（諏訪エリア）、中原遺跡、中原遺跡で和田岬系（和田エリア）が主体で、男女倉系（和田エリア）、星ヶ塔系（諏訪エリア）、その他の順となる。八城二本杉東遺跡も同じく、和田岬系（和田エリア）が主体となり、星ヶ塔系（諏訪エリア）となり、男女倉系が含まれるのがこの段階の特徴である（大工原2003）。三本木III遺跡の黒曜石産地にも男女倉系が含まれている。この地域の黒曜石産地は、和田岬系が主体を占め、それに星ヶ塔系が加わる傾向となった。この傾向は前期後半になると変容し、星ヶ塔系が主体を占めるようになる。県内における関山式期の黒曜石産地を比較すると、下箱田向原遺跡（渋川市）、上白井西伊熊遺跡（渋川市）、見立十三塚遺跡（渋川市）においても市内地域と同様な傾向が認められた。なお、上白井西伊熊遺跡（渋川市）では、高原山産が1点含まれているが、旧石器時代の黒曜石に高原山系が存在することから、混在とみるべきであろう。

(井上)

18

2.2

2.0

16

14

1.8

12

1.6

10

1.4

8

1.2

 $Mn^{+} \cdot 100 / Fe$

1.0

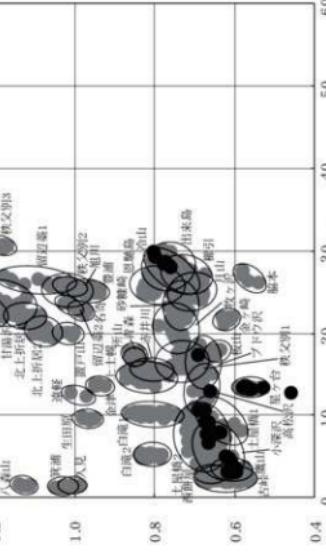
 $\Sigma O / Fe / K$ 

图 2 黑曜石产地推定判别图(1)

图 3 黑曜石产地推定判别图(2)

写 真 図 版



縄文時代前期の獣面把手付深鉢 (J-51号住)



三本木 II 遺跡 全景写真（合成）

図版2



三本木II遺跡 関山I・II式期の住居址群（J-10・11・17号住居址）



三本木II遺跡 J-9号住居址（関山I式期）



三本木II遺跡 J-9号住居址炉



三本木II遺跡 J-11号住居址炉



三本木II遺跡 J-13号住居址炉



三本木 II 遺跡 J-43 号住居址（関山 II 式期）



三本木 II 遺跡 J-43 号住居址炉



三本木 II 遺跡 J-43 号住居址出入り口施設



三本木 II 遺跡 J-23 号住居址炉



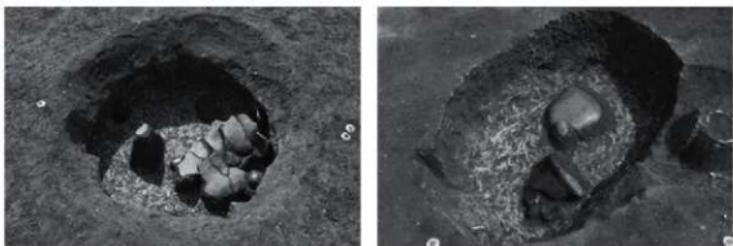
三本木 II 遺跡 J-27 号住居址炉

図版 4



三本木 II 遺跡 J-44 号住居址（諸磯 b 式期）

三本木 II 遺跡 J-46 号住居址埋設土器



三本木 II 遺跡 D-56 号土坑（関山式期）

三本木 II 遺跡 D-37 号土坑（諸磯 b 式期）



三本木 II 遺跡 S U-1号巢穴状遺構（諸磯 b 式期）



三本木Ⅱ遺跡 古代道路状遺構（西側）



三本木Ⅱ遺跡 古代道路状遺構（東側）

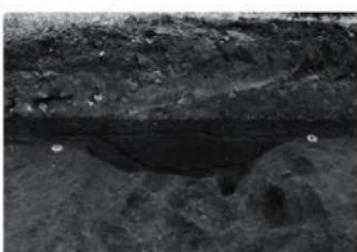
図版6



三本木II遺跡 古代道路状遺構確認状況（東側）



三本木III遺跡 古代道路状遺構M-4号溝



三本木II遺跡 側溝断面（M-4号溝1区）



三本木II遺跡 側溝断面（M-4号溝12区）



三本木II遺跡 S-12号配石



三木木III遺跡 H-7~9号住居址



三木木III遺跡 H-8号住居址竈



三木木III遺跡 H-13・14号住居址



三木木III遺跡 H-14号住居址竈



三木木III遺跡 H-15・16号住居址



三木木III遺跡 H-15号住居址竈



三木木III遺跡 H-21・22号住居址



三木木III遺跡 H-23号住居址竈

図版8



三本木III遺跡 HT-6・7号掘立柱建物址



三本木III遺跡 SF-1号遺構



平塚遺跡 K-3号古墳



平塚古墳 K-3号古墳主体部D-83号土坑



平塚古墳 K-4・5号古墳



J-11号住 繩文土器 (35)



J-14号住 繩文土器 (61)



J-17号住 炉体土器 (60)



J-18号住 繩文土器 (77)



J-18号住 繩文土器 (86)



J-20号住 繩文土器 (102)



J-23号住 炉体土器 (122)



J-25号住
繩文土器 (137)



J-27号住 繩文土器 (159)



J-33号住 繩文土器 (199)



J-35号住 繩文土器 (210)

図版 10



J-38号住 織文土器 (230)



J-38号住 織文土器 (232)



J-43号住
織文土器 (271・272)



J-43号住 織文土器 (255)



J-43号住 織文土器 (270)



D-56号土坑 織文土器 (329)



D-64号土坑 縄文土器 (330)



D-64号土坑 縄文土器 (331)



J-51号住 縄文土器 (321)



D-37号土坑 縄文土器 (324)



D-105号土坑 縄文土器 (338)



D-114号土坑 縄文土器 (339)



D-71号土坑 縄文土器 (332・333)



J-48号住 ミニチュア土器 (311・312)

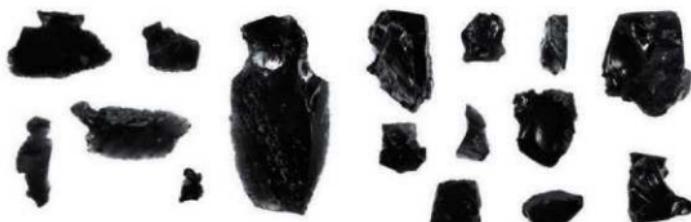


縄文土製品 (371～373)

図版 12



縄文時代 石鏃（黒曜石）



縄文時代 石盆 A類（黒曜石）

縄文時代 石核・原石（黒曜石）



縄文時代 石盆 B類（I類）



縄文時代 石盆 B類（II類）



縄文時代 打製石斧（I類）



縄文時代 石製品



古代 8世紀後半の土器群（三本木Ⅲ遺跡 H-9号住）



古代 9世紀前半の土器群（三本木Ⅲ遺跡 H-16号住）

図版 14



土師器坏外面の「中」の墨書（三本木Ⅲ遺跡H-16号住）



須恵器盤底部の「中」の墨書（三本木Ⅲ遺跡 H-16号住）



古代石製紡錘車（三本木Ⅲ遺跡）



古代陶製品（三本木Ⅲ遺跡）



上野型有蓋短頸壺蓋（平塚遺跡）



K-4号古墳出土の土器群（平塚遺跡）

発掘調査報告書 抄録

ふりがな	おちあいにいせき・ひらつかいせき・さんぽんぎにいせき・さんぽんぎさんいせき
書名	落合Ⅱ遺跡2・平塚遺跡2・三木本Ⅱ遺跡2・三木本Ⅲ遺跡2
副書名	鷺宮文物団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	2
シリーズ番号	
編著者名	井上慎也・高橋清文・三浦京子・株式会社パレオ・ラボ
編集機関	安中市教育委員会
編集機関所在地	379-0292 群馬県安中市松井田町新堀245 TEL 027-382-1111
発行年	西暦2016年(平成28年)3月18日

所轄遺跡名	所在地	コード		北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
三木本Ⅱ	安中市鷺宮字三木本	102113	G 2 3 G	36°29'14" 138°87'29"	20130311~20130329 20130401~20130927	21,200m ²	鷺宮文物団地造成事業
三木本Ⅲ	安中市鷺宮字三木本	102113	G 2 3 H	36°29'27" 138°87'36"	20130311~20130329 20130724~20130927	4,500m ²	
平塚	安中市鷺宮字平塚	102113	G 2 3 I	36°29'14" 138°87'61"	20130311~20130329 20130822~20130927	1,300m ²	
落合Ⅱ	安中市鷺宮字落合	102113	G 2 3 A	36°29'13" 138°87'12"	20130214~20130220	48m ²	市道改良工事

所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三木本Ⅱ	集落	縄文前・中期	縄文住居47軒、土坑106基、集石土坑4基、集石4基、理設土器1基、窓穴状遺構1か所、ピット多数	縄文土器(早期、中期、後期)、諸磯b式、五頭ケ台式、加曾利E III式、彌之内2式土器等)。	縄文時代では、関山式期併行期の信州、東海地域等の異系統土器(草之堂U式・上の坊式・中越式他)が出士。
	交通	奈良・平安	古代住居1軒、土坑9基、集石2基、古代道路1か所	磨製石斧、石鎚、打製石斧、スクレイバー等の剥片石器、磨製石斧、磨石・凹石類、石皿、砥石、石製品。	関山I~II式期、有尾・黒浜式の居住単位を把握できる良好な集落を検出。集落は時期ごとに東から西へと居住区域が変遷する様子が認められた。
	その他	中世	溝1条他	8~9世紀代の土師器・須恵器(暗文土器、「中」と墨書きされた土師器、上野型有蓋短頸壺蓋、小形短頸壺、長頸壺等)。	石器を主体とした黒曜石製器(石器製作関連遺物、原石、石核多数)、石器、片刃の打製石斧を中心とする石器群。黒曜石は産地分分析によつて信州系が主体を占めていることが判明した。
三木本Ⅲ	集落	奈良・平安	奈良・平安住居17軒、掘立柱建物址8棟、竈、灶状遺構1基、窓穴状遺構1基、土坑7基・溝2条他	古代鉄製品(鎌、刀子、U字型鎧・鎧先等)。	古代の道路状遺構は、両側側溝をもつ幅約10mで直線直角に延びるもので官道に匹敵する規模をもつ。横野台地での検出は、西横野地区に次ぐ2例目であり、伝路の可能性を含めその性格が注目される。
		中世	溝3条他	古墳時代金銅製耳環。	古代の集石では、検出例が少ない石碑状で、墓の可能性が考えられる。
平塚	古墳	古墳終末期	古墳3、土坑1基	古代の椎衡(竿秤の跡)。	平塚遺跡では、古墳時代終末期の古墳が新たに3基検出され、5基以上の古墳群を形成することが判明した。
落合Ⅱ	古墳	古墳終末期	古墳1		

調査組織（平成 24～27 年度）

安中市教育委員会事務局

教育長 中澤四郎（平成 24 年 4 月～平成 26 年 5 月） 桑原幸正（平成 26 年 5 月～）

教育部長 佐保信之（平成 24 年 4 月～平成 26 年 10 月） 田村昌俊（平成 26 年 10 月～）

学習の森所長 佐藤房之（平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）

文化財保護課長 須藤 朗（平成 26 年 4 月～）

文化財係（平成 24 年度）・文化財活用係（平成 25 年度～）

係長 藤巻正勝（事務総括：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）

主査 原 久子（経理担当：平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月兼任）

主任 佐野亨介（経理担当：平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月兼任）

発掘調査係（平成 25 年度）・埋蔵文化財係（平成 26 年度～）

係長 千田茂雄（事務総括）

主査（文化財保護主事）井上慎也（平成 24～27 年度調査・整理担当）

主査 瀧川伸男（経理担当）

主事（文化財保護主事）菅原龍彦

行政事務嘱託 壇 伸明（平成 24 年 4 月～平成 27 年 7 月）

調査参加者

生駒 朝男 今井 保美 岩坂 康男 上原 美淑 大沢早知子 大月 圭子 大手 啓子

小野田勝実 金井美由紀 坂井 茂 阪西 武 佐保三代吉 沢田かずえ 清水 昭代

清水 正 成願八千代 須賀ユミ子 須藤 四郎 高澤はつ江 高橋 文男 田川 真知

竹井 五郎 多胡 茂子 多胡 静 多胡 荣夫 多胡わぐり 田島せい子 遠間 宰吉

富沢佐知江 櫛島 太郎 根岸紀和代 野口 義則 林 知曠 広瀬 洋子 町田 千明

黛 正和 宮口 知三 村瀬希久雄 村椿 健 山内 厚 和田テル子 吉岡 正夫

吉川ひろ子

落合 II 遺跡 2・平塚遺跡 2 三本木 II 遺跡 2・三本木 III 遺跡 2

－鷺宮物流団地造成工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書－

発行日 平成28年3月18日

編集・発行 安中市教育委員会
群馬県安中市松井田町新堀245

印 刷 朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町67